

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

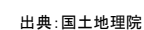
設 計 図

令和 7 年 7 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目次

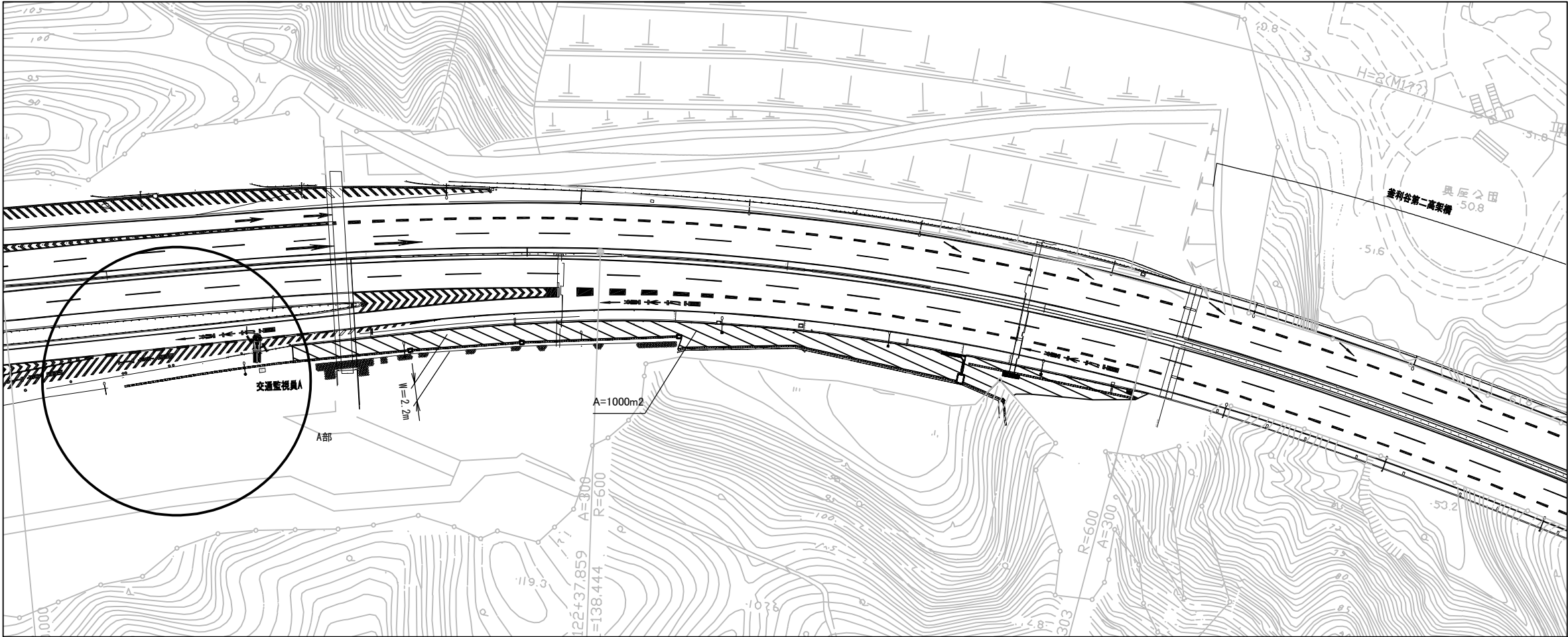
[illegible][illegible]



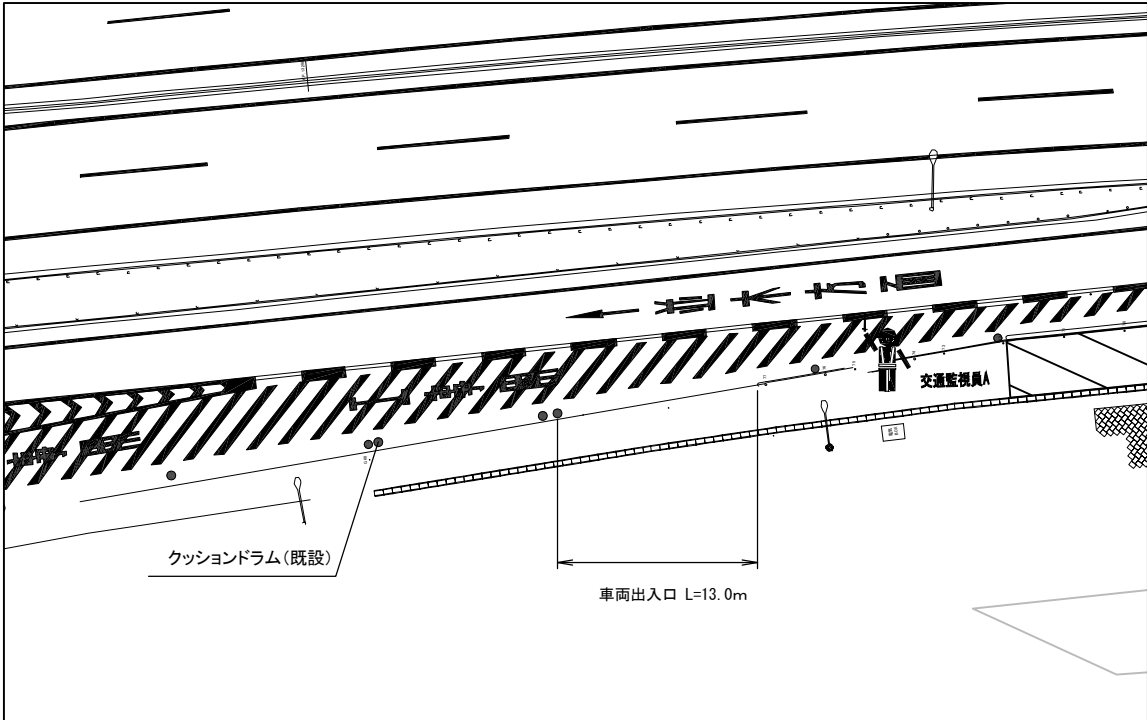
<p align="center">横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	位置図 (1)		
縮 尺	—	図面番号	1 / 10
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

位置図 (2)

釜利谷第二高架橋A1ヤード 平面図 縮尺 1:500



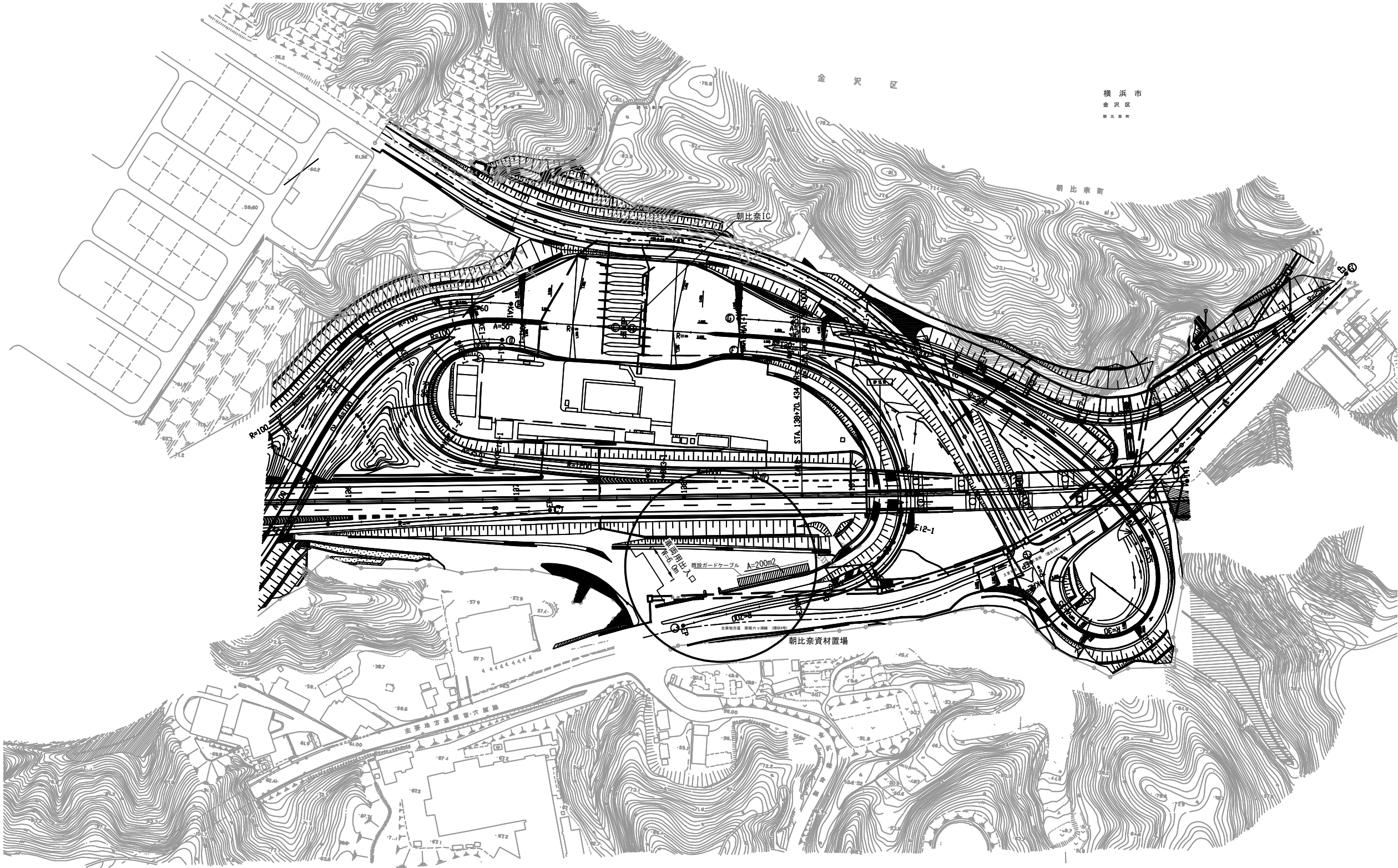
A部詳細図 縮尺 1:200



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	位置図 (2)		
縮 尺	図面番号	2	/ 10
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京浜管理事務所		

位置図 (3)

朝比奈資材置場 平面図 縮尺 1:2500

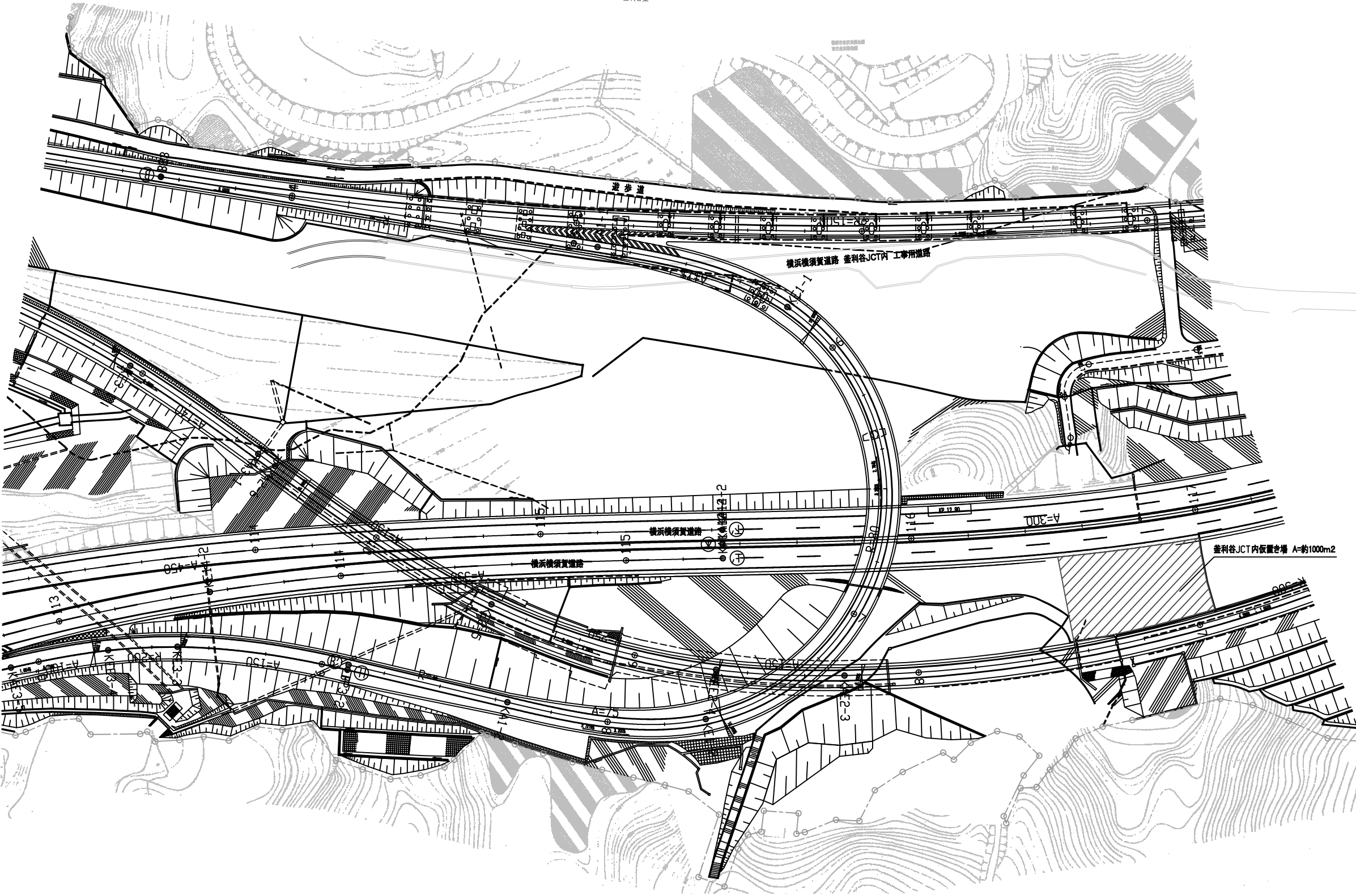


横浜横須賀道路 金谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		位置図 (3)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 10	
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

位置図 (4)

釜利谷JCT内仮置き場 平面図 縮尺 1:1500

横浜市
金沢区
釜利谷東



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	位置図 (4)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 10
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

数量総括表(1)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	2-(6)						8-(1)			8-(2)		8-(3)			17-(9)
			構造物掘削						コンクリート			型わく		鉄筋			縁端拡幅工 B
			普通部A	特殊部A	特殊部B	特殊部C	特殊部D	特殊部E	A1－5	B2－2	D1－1	D	TH	T	T1	T2	コンクリート
			m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m3	m2	m2	t	t	t
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1	68.6						52.2				153.2	8.698	7.972		
		P2	93.6						53.3				181.8	8.526	4.694		
		P3	249.9						60.8				206.9	6.349	1.666		
		P4															
		P5	174.0						50.3				215.2	14.942			
		P9	131.8						52.0				222.3	29.063			
		P10															
		P12	83.6						48.7				208.2	8.279			
		P13	58.8						47.0				201.1	7.998			
		P14	53.2						45.4				194.1	7.717			
		P15															
		P16															
		A2															3.7
釜利谷JCT第二橋		BP4	56.7						48.1				199.3	13.870			
		BP5		732.4					192.5				388.5	11.895			
		BP6	900.0						48.8				203.8	12.537			
		A2															
釜利谷第二高架橋	上り	A1															
		P1			262.8												
		P2				226.4			89.5				371.0	16.258			
		A2	299.0						70.1	23.4	1.9	1.6	92.6	2.840	4.101	0.696	
	下り	A1															0.5
		P1					400.6										
		P2						169.5	84.6				350.7	15.526			
		A2	169.1						70.7	23.4	1.9	1.6	93.3	2.840	4.100	0.696	0.4
合計			2,338.3	732.4	262.8	226.4	400.6	169.5	1,014.0	46.8	3.8	3.2	3,282.0	167.338	22.533	1.392	4.6

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(1)		
縮 尺		図面番号	5 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(2)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(9)					17-(11)									
			縁端拡幅工B					落橋防止構造									
			型わく	鉄筋	アンカー工 φ32・340 (水平方向)	アンカー工 φ32・380 (水平方向)	アンカー工 φ32・740 (水平方向)	P1-1276 (300)	P1-2109 (300)	P3-618 (250)	P3-889 (250)	P3-921 (300)	P3-962 (250)	P3-965 (500)	P3-991 (500)	アンカー工 φ39・445 (上方向)	アンカー工 φ42・490 (上方向)
			m2	t	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1															
		P2															
		P3															
		P4															
		P5															
		P9															
		P10															
		P12															
		P13															
		P14															
		P15															
		P16															
		A2	18.5	0.811	48		48							3			24
釜利谷JCT第二橋		BP4						2									
		BP5															
		BP6															
		A2							2								
釜利谷第二高架橋	上り	A1															
		P1															
		P2															
		A2															
	下り	A1	3.0	0.098	14												
		P1															
		P2															
		A2	2.3	0.083		10											
合計			23.8	0.992	62	10	48	2	2	4	4	3	3	2	2	32	112

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(2)		
縮 尺		図面番号	6 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(3)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(11)			17-(12)					17-(13)			17-(18)	17-(25)	17-(26)	17-(27)
			落橋防止構造			段差防止構造M					横変位拘束構造M			耐震補強用 コンクリート表 面処理工	炭素繊維巻 立て 下地処理工	炭素繊維巻 立て工	炭素繊維 巻立て表面 仕上工
			アンカー工 φ42・490 (水平方向)	アンカー工 φ48・580 (水平方向)	アンカー工 φ61・775(水 平方向)	鋼製ブラケッ ト	アンカー工 φ32・280(下 方向)	アンカー工 φ32・300(下 方向)	アンカー工 φ32・330(下 方向)	アンカー工 φ32・390(下 方向)	鋼製ブラケッ トA	鋼製ブラケッ トB	アンカー工 φ51・625(下 方向)			A	A
			本	本	本	t	本	本	本	本	t	t	本	m2	m2	m2	m2
釜利谷JCT第一橋		A1		18									m2	m2	m2	m2	
		P1											135.9				
		P2											164.2				
		P3											187.8				
		P4	24	12													
		P5											192.4				
		P9											198.6				
		P10															
		P12											186.2				
		P13											180.0				
		P14											173.8				
		P15		36										65.5	65.5	65.5	
		P16															
釜利谷JCT第二橋		A2		18													
		BP4			12					0.225	0.828	21	188.0				
		BP5											319.8				
		BP6											188.9				
釜利谷第二高架橋	上り	A2			18					0.449	0.866	26					
		A1															
		P1															
		P2											350.5				
	下り	A2				0.698		12	14				97.4				
		A1															
		P1															
		P2											329.0				
合計			24	84	30	1.360	12	12	14	12	0.674	1.694	47	2,990.5	65.5	65.5	65.5

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(3)		
縮 尺		図面番号	7 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(4)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(30)	17-(31)		17-(34)											
			コンクリート表 面処理工	はく落防止対策工		支承受替工											
				A	B1	E-1070 (673)	E-1090 (673)	E-1090 (1582)	E-1100 (1582)	E-2780 (4089)	E-2830 (1598)	E-2900 (4089)	E-3070 (1598)	仮設鋼製ブ ラケット	アンカー工 φ26(下方 向)	アンカー工 φ42(下方 向)	アンカー工 φ65(下方 向)
			m2	m2	m2	基	基	基	基	基	基	基	基	t	本	本	本
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1															
		P2															
		P3															
		P4															
		P5															
		P9															
		P10															
		P12															
		P13															
		P14															
		P15															
		P16															
釜利谷JCT第二橋		A2															
		BP4															
		BP5	75.5	44.9	75.5												
		BP6															
		A2															
釜利谷第二高架橋	上り	A1						6									
		P1									6			48			
		P2								6	6			9.048	122		96
	下り	A2				6									104	24	
		A1							6								
		P1											6		48		
		P2										6		9.048	100		96
A2					6						6		96	24			
合計			75.5	44.9	75.5	6	6	6	6	6	6	6	18.096	518	48	192	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(4)		
縮 尺		図面番号	8 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(5)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	17-(34)			19-(1)		19-(2)			特-(1)	特-(2)				特-(3)	特-(4)
			支承取替工			交通規制工		交通保安要員			アラミド繊維 巻立て 下地処理工	アラミド繊維 巻立て工				アラミド繊維 巻立て 表面仕上工	中間貫通鋼 材工
			アンカー工 φ70(下方 向) 本	アンカー工 φ75(下方 向) 本	アンカー工 φ61(水平方 向) 本	ランプ車線 規制 I ×1 回	車線規制 I ×1×0× 1・A1(夜) 回	交通監視員 A 人・日	交通監視員 A(夜) 人・日	交通誘導 警備員 B 人・日		A	B	C	D	A	φ52・1600 (水平方向)A 本
											m2	m2	m2	m2	m2	m2	
釜利谷JCT第一橋		A1															
		P1														16	
		P2															
		P3															
		P4															
		P5															
		P9															
		P10								48.5	48.5				48.5		
		P12															
		P13															
		P14															
		P15							7								
		P16							3	93.7		93.7			93.7		
		A2							5								
釜利谷JCT第二橋		BP4															
		BP5															
		BP6															
		A2					3		3								
釜利谷第二高架橋	上り	A1		24		6		139		12							
		P1	24						108	712.0			358.4	353.6	712.0		
		P2			188	19		19		5.4			5.4		5.4		
	下り	A2				18		18									
		A1		24		6		6									
		P1	24						40	720.8			272.0	448.8	720.8		
		P2			188	19		19		29.7			29.7		29.7		
A2				6		6											
合計			48	48	376	74	3	207	3	175	1,610.1	48.5	93.7	665.5	802.4	1,610.1	16

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(5)		
縮 尺		図面番号	9 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

数量総括表(6)

橋梁名	上下線 区分	橋脚	特-(4)		特-(5)		特-(6)				特-(7)		特-(8)	特-(9)	備考
			中間貫通鋼材工		制震構造		上部工補強工				塗膜除去工		コンクリートは つり工	率計上工事 に関する事 項	
			φ52・1600 (水平方向)B	φ70・2200 (水平方向)	制震ダン パー 1500(±150)	アンカー工 φ61・775 (水平方向)	A	B	C	D	A	B	A		
			本	本	基	本	t	t	t	t	m2	m2	m3	式	
釜利谷JCT第一橋		A1												契 約 参 考 図 書 参 照	
		P1													
		P2	24												
		P3	24												
		P4													
		P5													
		P9													
		P10													
		P12													
		P13													
		P14													
		P15													
		P16													
釜利谷JCT第二橋		A2													
		BP4					1.689		0.164		1.5	2.3			
		BP5													
		BP6													
		A2					3.204		0.151		1.9	3.2			
釜利谷第二高架橋	上り	A1			6	132		1.029		0.360			1.275		
		P1						1.862							
		P2		80				2.114							
		A2			4	96		0.915		0.240			1.085		
	下り	A1			6	132		1.070		0.360			1.270		
		P1						1.950							
		P2		80				2.202							
		A2			4	96		0.944		0.240			0.706		
合計			48	160	20	456	4.893	12.086	0.315	1.200	3.4	5.5	4.336	1	

契
約
参
考
図
書
参
照

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(6)		
縮 尺		図面番号	10 / 10
設計会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷 J C T 第一橋】

令和 7 年 7 月

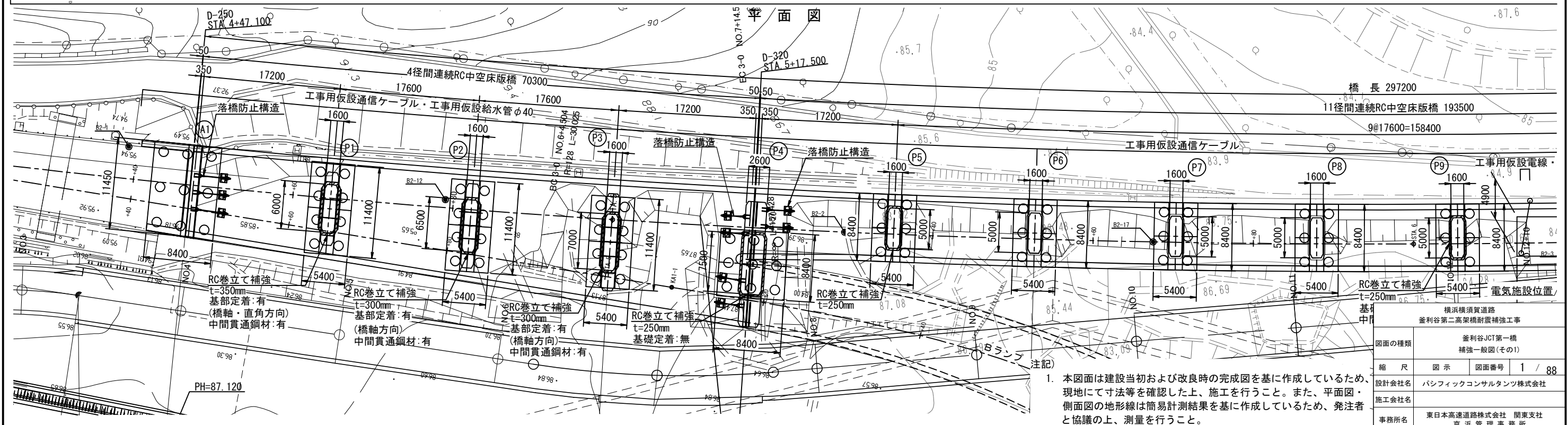
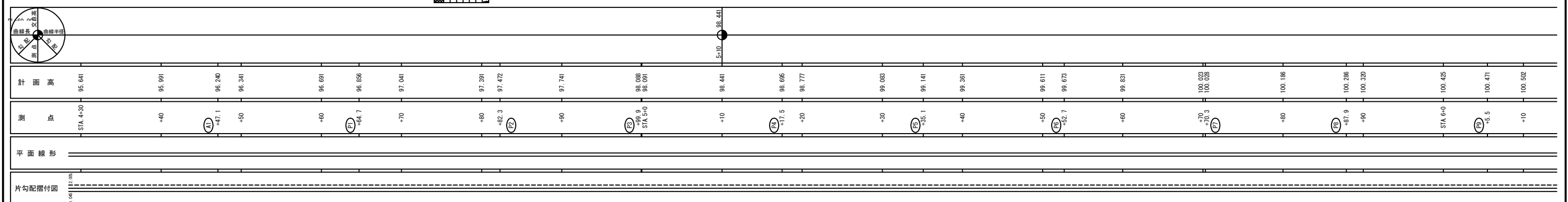
東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目 次

番号	設計図名称
1～5	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その1)～(その5)
6～13	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その1)～(その8)
14	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強構造一般図
15～16	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
17	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強構造一般図
18～19	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
20	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強構造一般図
21～22	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
23	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強構造一般図
24～25	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
26	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強構造一般図
27～28	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
29	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚耐震補強詳細図
30	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強構造一般図
31～32	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
33	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強構造一般図
34～35	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
36	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強構造一般図
37～38	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
39	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚耐震補強詳細図
40	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚耐震補強詳細図

番号	設計図名称
41	釜利谷JCT第一橋 A1橋台耐震補強配置図
42～44	釜利谷JCT第一橋 A1橋台落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
45	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(起点側)耐震補強配置図
46～48	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(起点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
49	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(終点側)耐震補強配置図
50～52	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚(終点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
53	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(起点側)耐震補強配置図
54～56	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(起点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
57	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(終点側)耐震補強配置図
58～60	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚(終点側)落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
61	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 耐震補強配置図
62～64	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その1)～(その3)
65	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 縁端拡幅工B詳細図
66	釜利谷JCT第一橋 交通保安要員配置図
67～70	釜利谷JCT第一橋 施工計画(その1)～(その4)(参考図)
71～81	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その1)～(その11)(参考図)
82～86	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その1)～(その5)(参考図)
87	釜利谷JCT第一橋 支保工(参考図)
88	釜利谷JCT第一橋 ヤード整備工(参考図)

S=1 : 500



1.	本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、 現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・ 側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者 と協議の上、測量を行うこと。	幅	尺	図示	図面番号	I / 88
		設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
		施工会社名				
		事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 近畿管理事務所			

橋 長 297200
11径間連続RC中空床版橋 193500
9@17600=158400

工事用仮設通信ケーブル
工事用仮設電線・電柱

RC巻立て補強
t=250mm
基礎定着:無
中間貫通貫通鋼棒:無

電気施設位置

アラミド繊維巻立て工
(段落とし部)
軸方向 415目付1層
周方向 280目付1層

RC巻立て補強
t=250mm
基礎定着:無
中間貫通貫通鋼棒:無

RC巻立て補強
t=250mm
基礎定着:無
中間貫通貫通鋼棒:無

RC巻立て補強
t=250mm
基礎定着:無
中間貫通貫通鋼棒:無

炭素繊維巻立て工
(段落とし部)
軸方向 200目付1層
周方向 200目付1層

アラミド繊維巻立て工
(段落とし部)
軸方向 623目付1層
周方向 280目付1層

場所打ち杭 φ1200(増杭)
n=16本

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・
側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者
と協議の上、測量を行うこと。

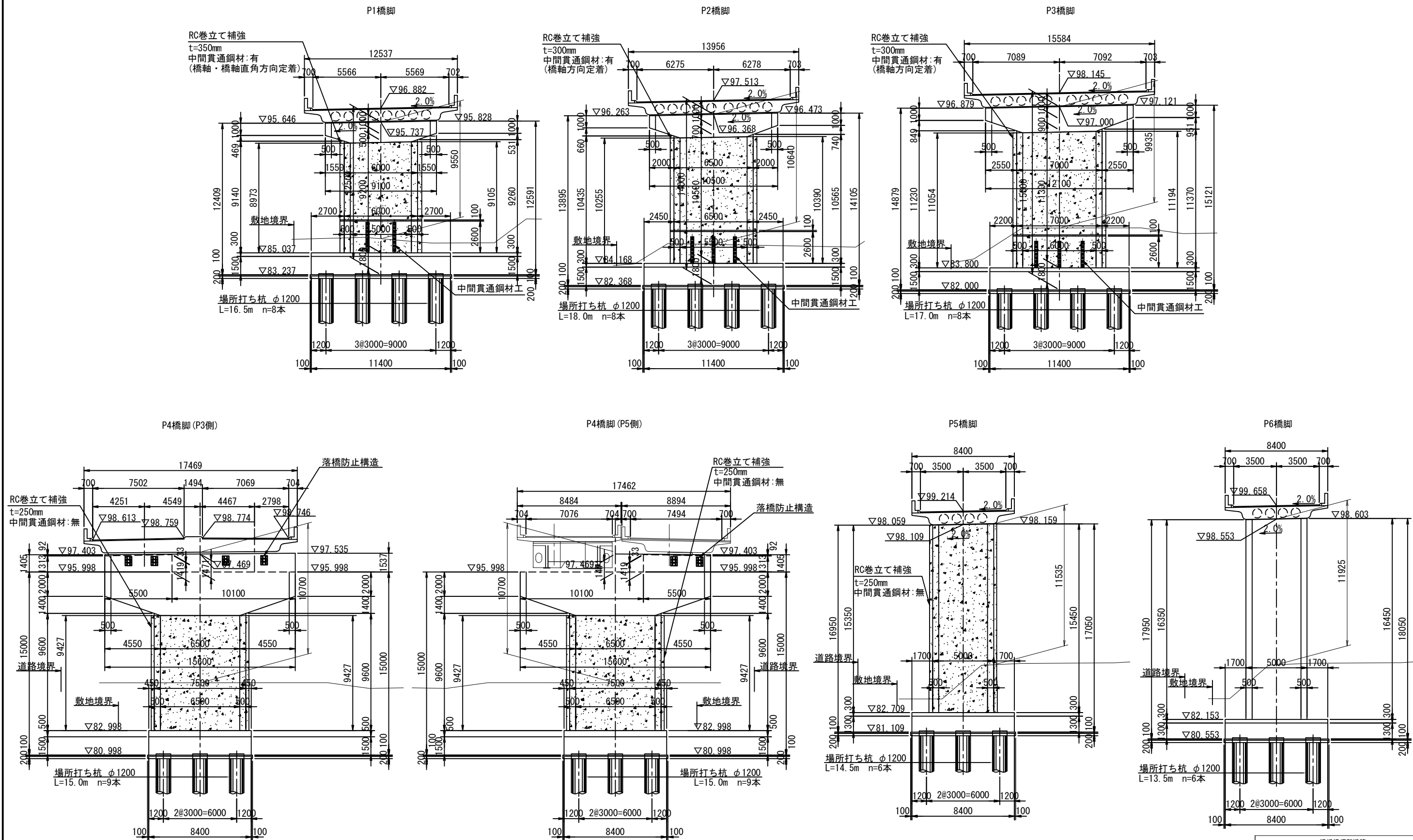
図面の種類	図示	図面番号	2 / 88
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		
事務所名			

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所

横浜横須賀道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷JCT第一橋 補強一般図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部工断面図

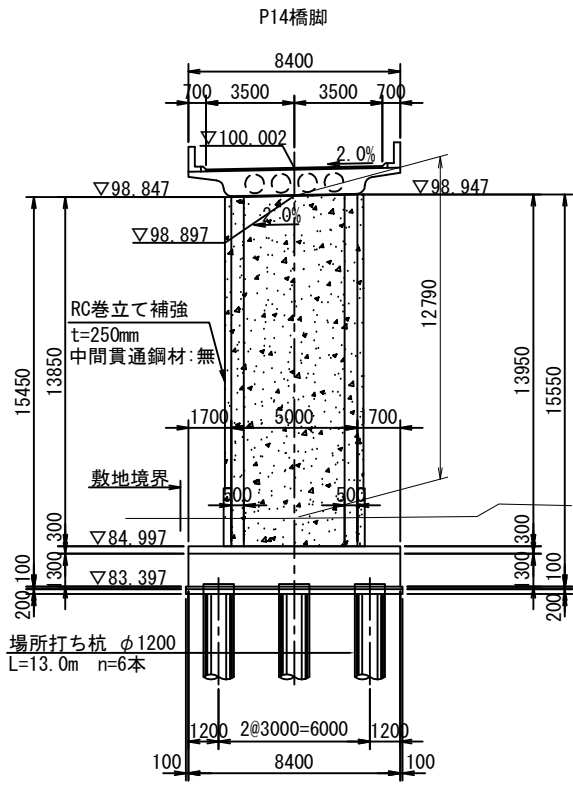
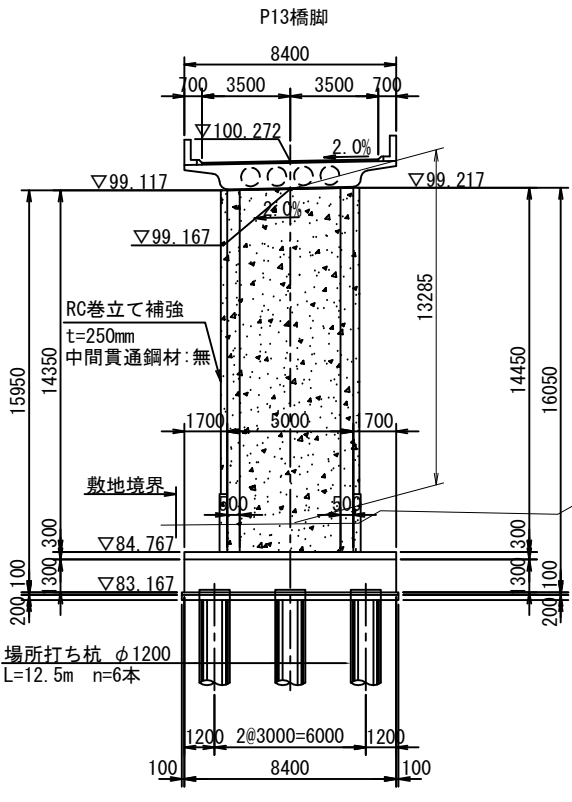
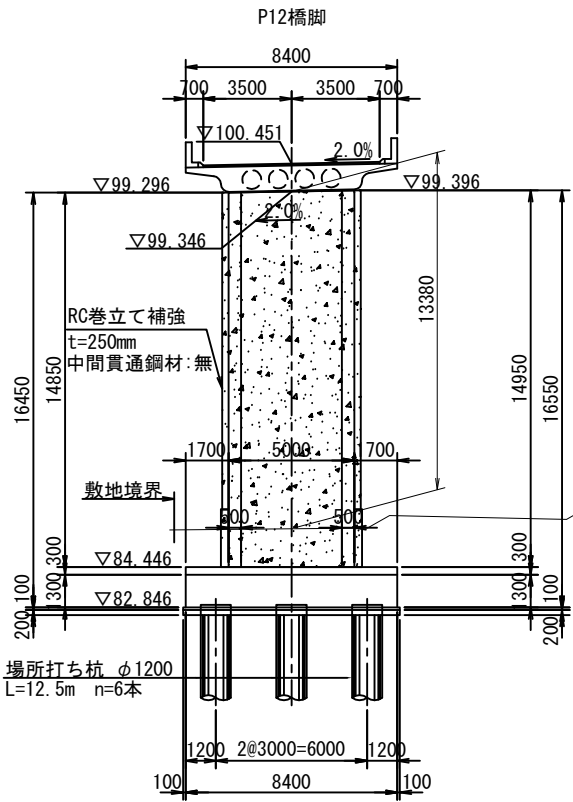
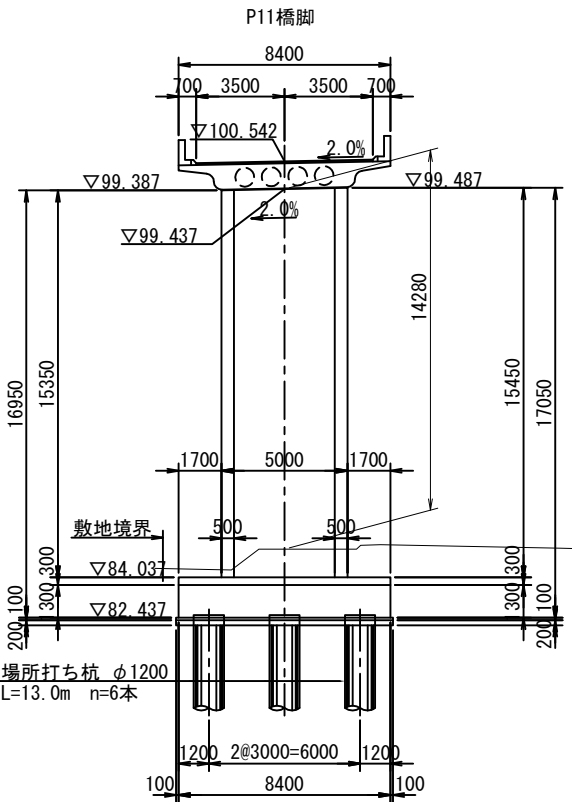
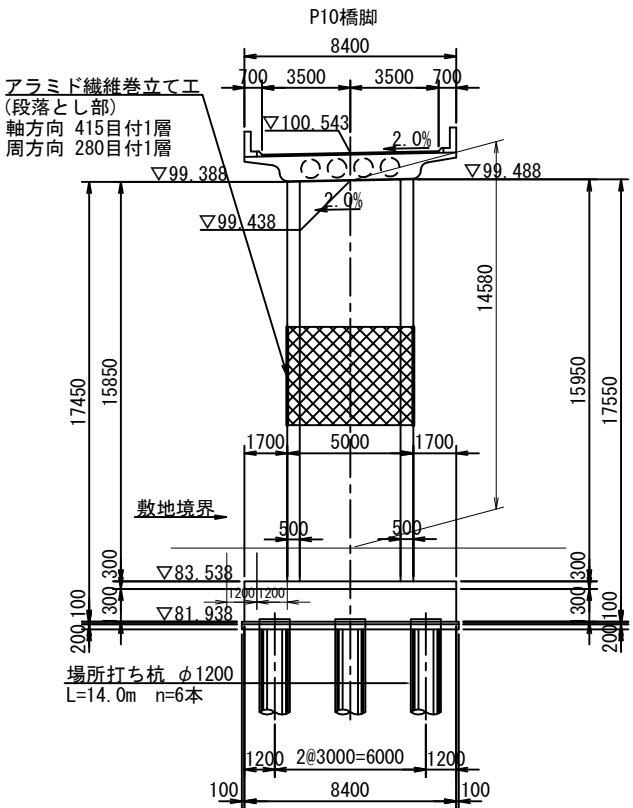
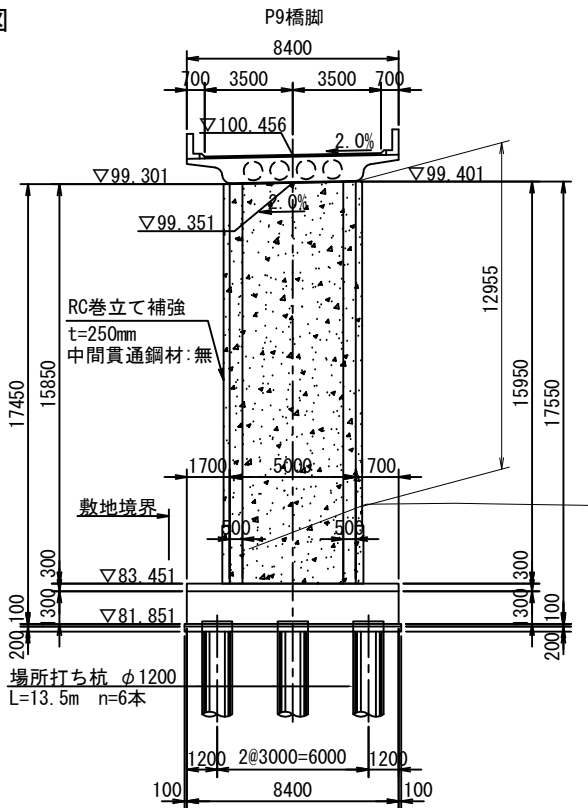
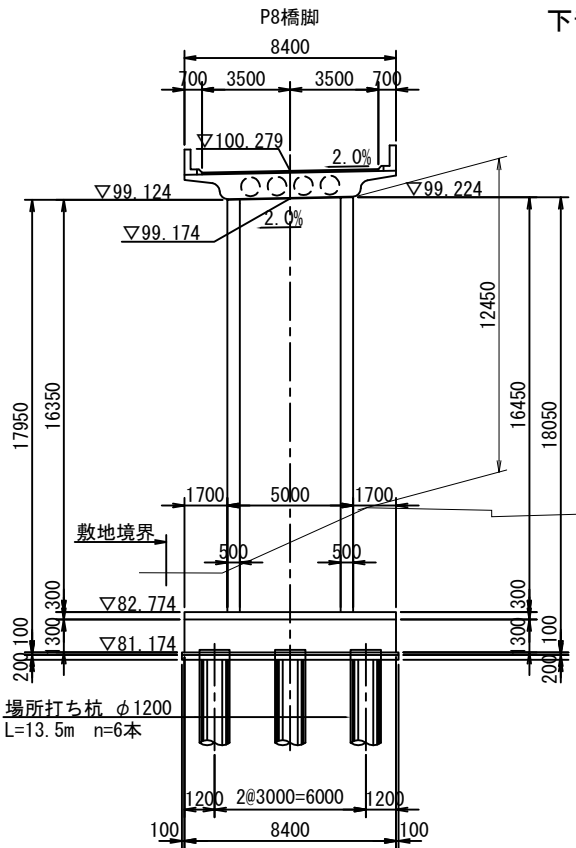
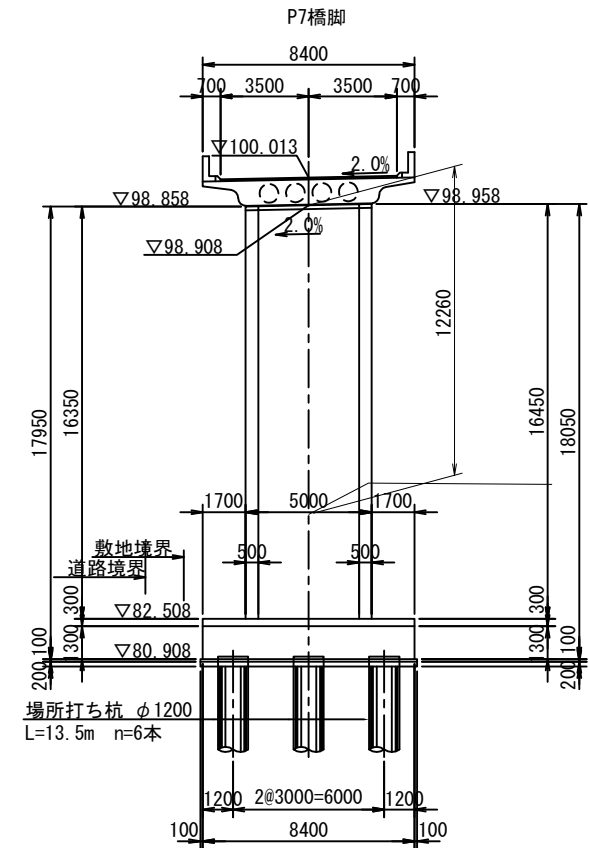


注記)

本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、下部工正面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部工断面図

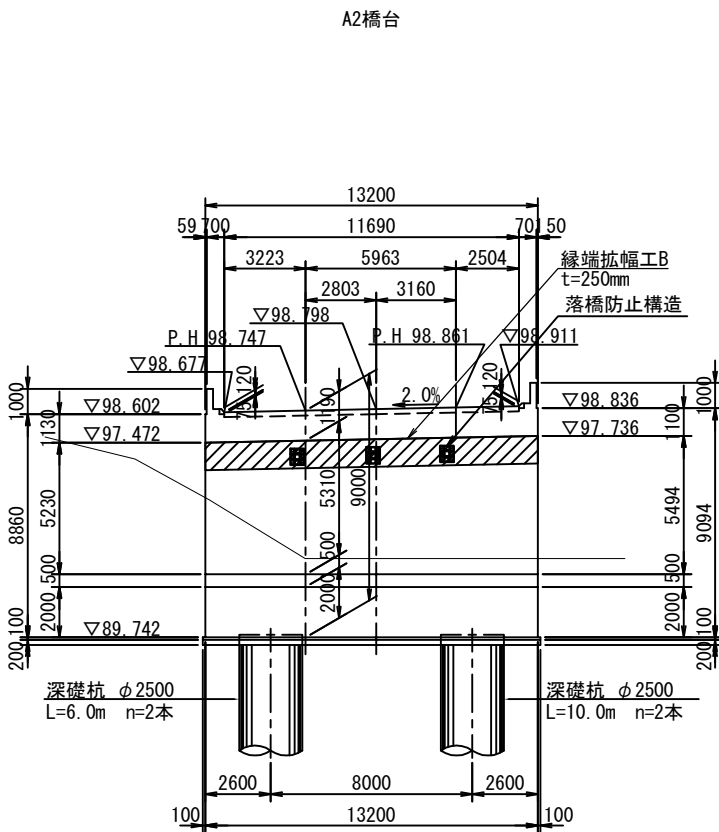
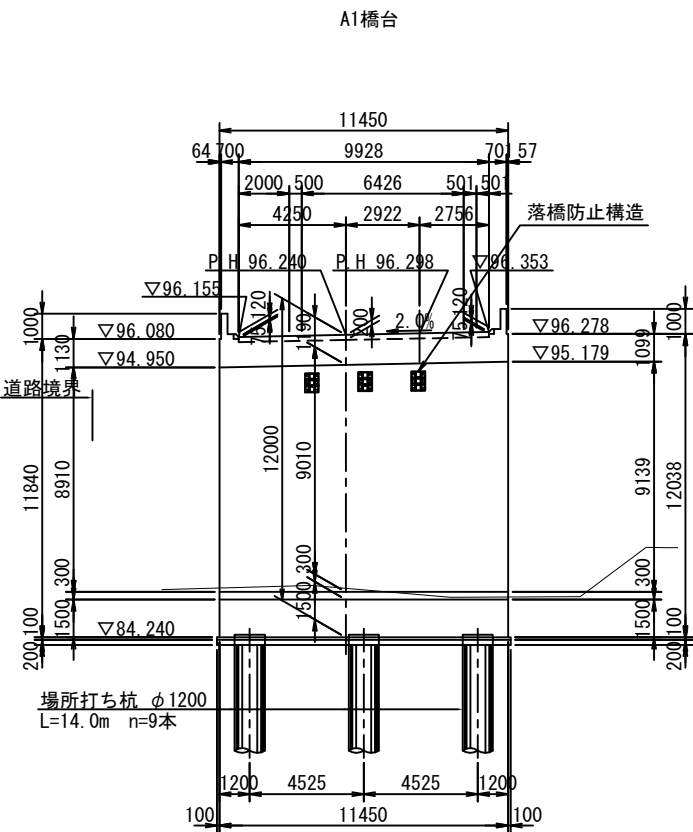
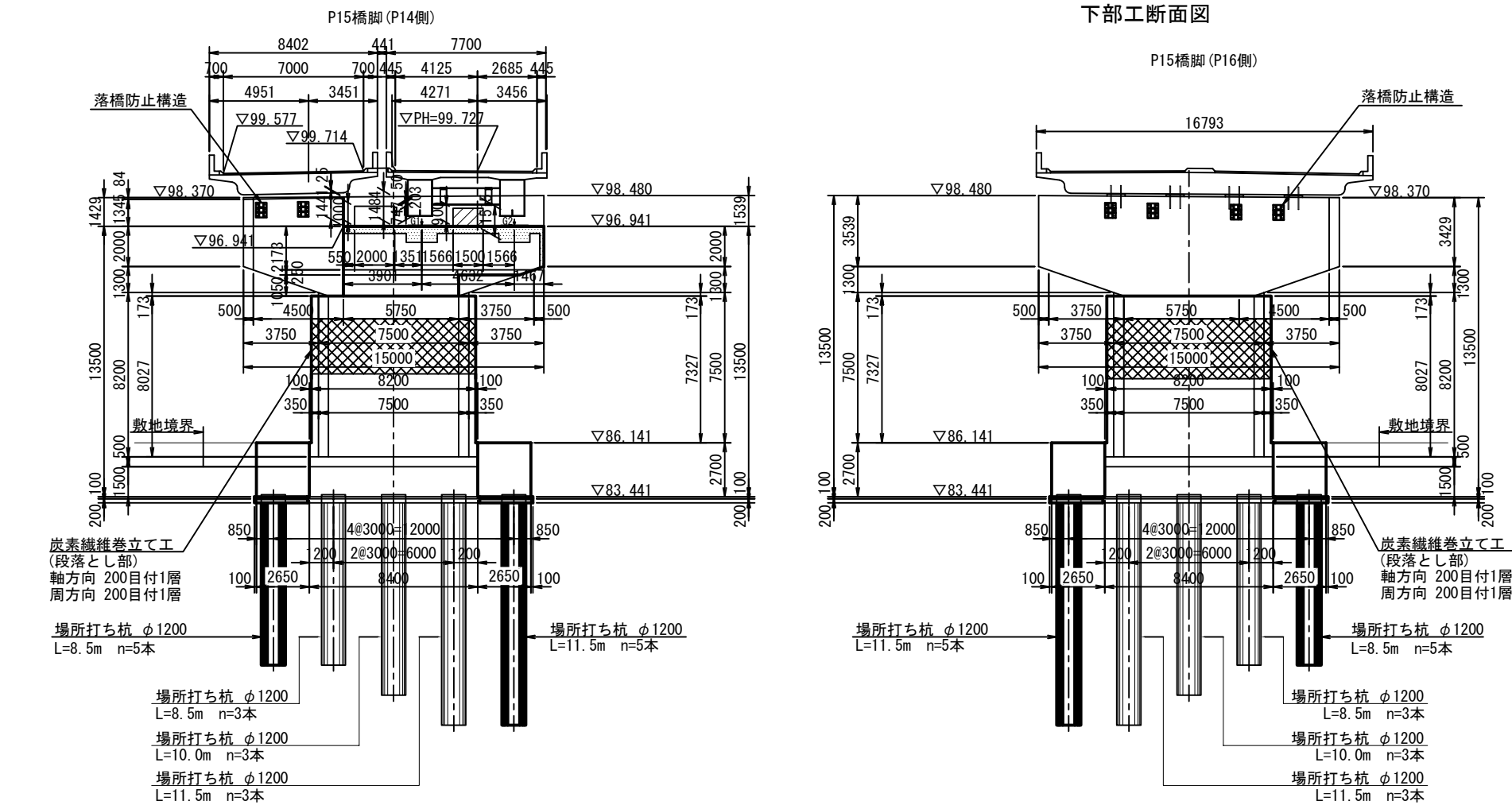


注記)

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下部工断面図



【竣工時】設計条件表（昭和62年2月[1987年]）

路 線 名	横浜横須賀道路 金沢支線		橋 名	釜利谷JCT第一橋
重要度区分	第1種2級B規格		活 荷 重	TL-20, TT-43
橋 長	297.200m		交差条件	遊歩道
上部構造	上 部 工 形 式		桁 長	支 間 長
	A1～P4	4径間連続RC中空床版橋	70.300m	17.200m+2@17.600m+17.200m
	P4～P15	11径間連続RC中空床版橋	193.500m	17.200m+9@17.600m+17.200m
	P15～A2	2径間連続RC中空床版橋	33.100m	2@16.200m
幅員構成	総 幅 員 8.400m		有効幅員	7.000m+7.000m+7.000m
線形条件	平面線形 R=∞		縦断線形	i=3.500% 〃 ～ 3.983%
	横断線形 i=2.0%		斜 角	P4 88° 59' 44"、P15 91° 05' 48"
床版・舗装	RC床版、アスファルト舗装 t=75mm			
支承形式	パット支承+アンカーバー、メナーゼヒンジ支承			
下部構造	張出式橋脚（P1～P4・15）、壁式橋脚（P5～P14・P16）			
	場所打ちコンクリート杭（A1～P15）、深礎杭（P16・A2）			
	コンクリートσ _{ck} =24.0N/mm ² 、鉄筋SD345			
適用示方書	道路橋示方書・同解説（昭和53年・55年、日本道路協会） 設計要領第二集（昭和55年）			
地盤種別	Ⅱ種地盤			
設計水平震度	K _h =0.25			

【耐震補強設計時】設計条件表（令和6年12月[2024年]）

注記）

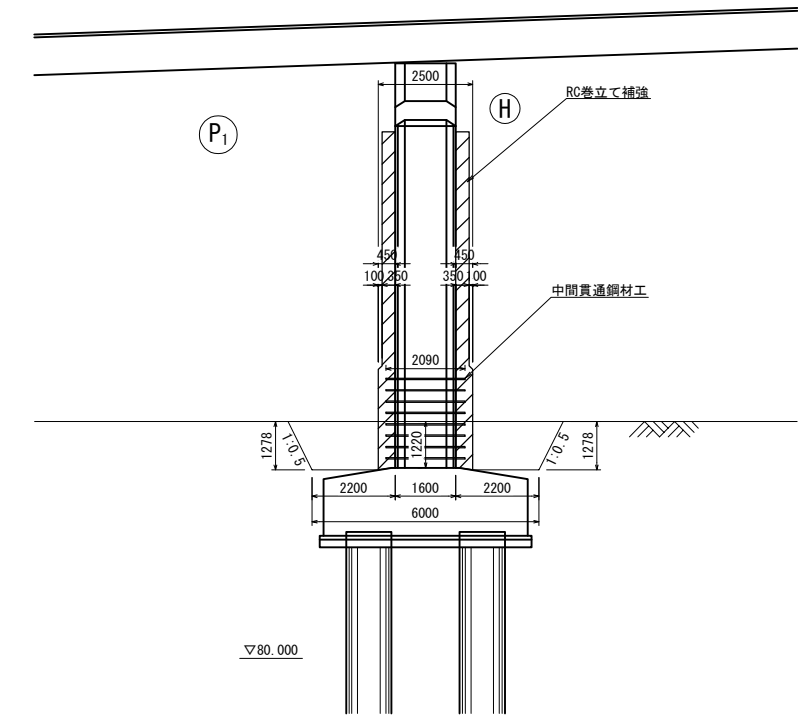
上部構造 耐震補強	橋座部補強	RC縁端拡幅	使用材料	SM400A、SD345
	落橋防止構造	PCケーブル		設計基準強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
下部構造 耐震補強	RC巻立て補強（P1～P5、P9、P12～14） 中間貫通鋼材（P1～P3）			
	連続繊維シート補強（P10、P15、P16）			
	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30.0\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD345			
適用示方書	道路橋示方書・同解説（平成24年、日本道路協会） 設計要領第二集（令和2年）			
重要度区分	B種の橋		活 荷 重	B活荷重
地 盤 種 別	Ⅱ種地盤（A1～P14）、Ⅰ種地盤（P15～A2）			
地域別補正係数	地域区分A1： $c_z=1.0$ 、 $c_{Iz}=1.2$ 、 $c_{IIz}=1.0$			
目標耐震性能	橋脚	耐震性能2(a)および2(b)混合を許容する。		
	支承	補強は実施しない。		
	落橋防止システム	支承部の耐震性能が2を満足しないため、省略条件を適用しない。		

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

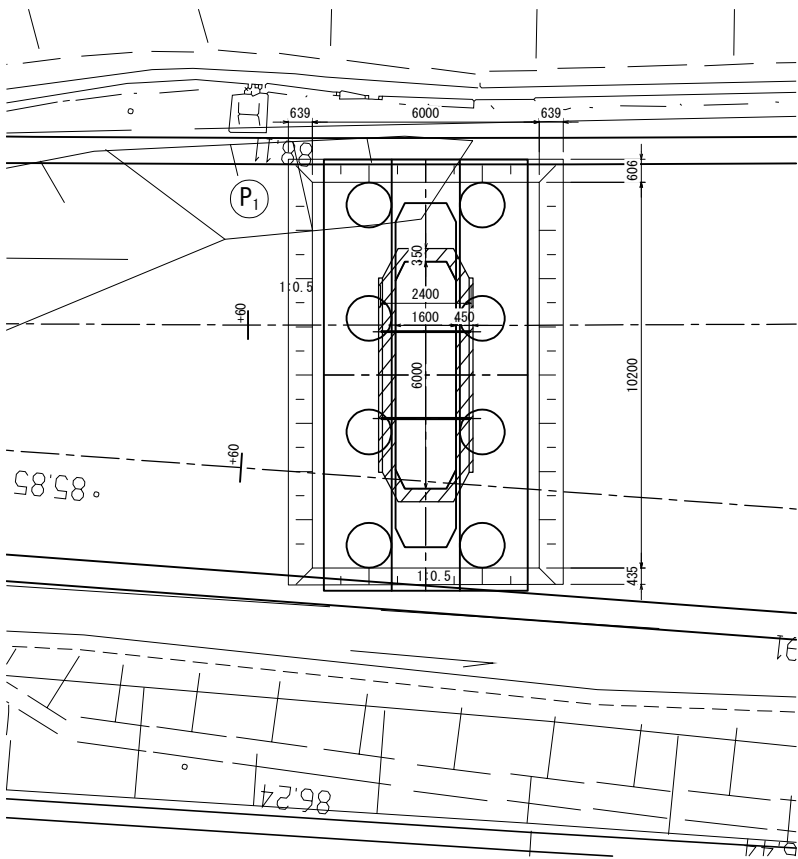
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 補強一般図(その5)			
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 88	
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 普通部A

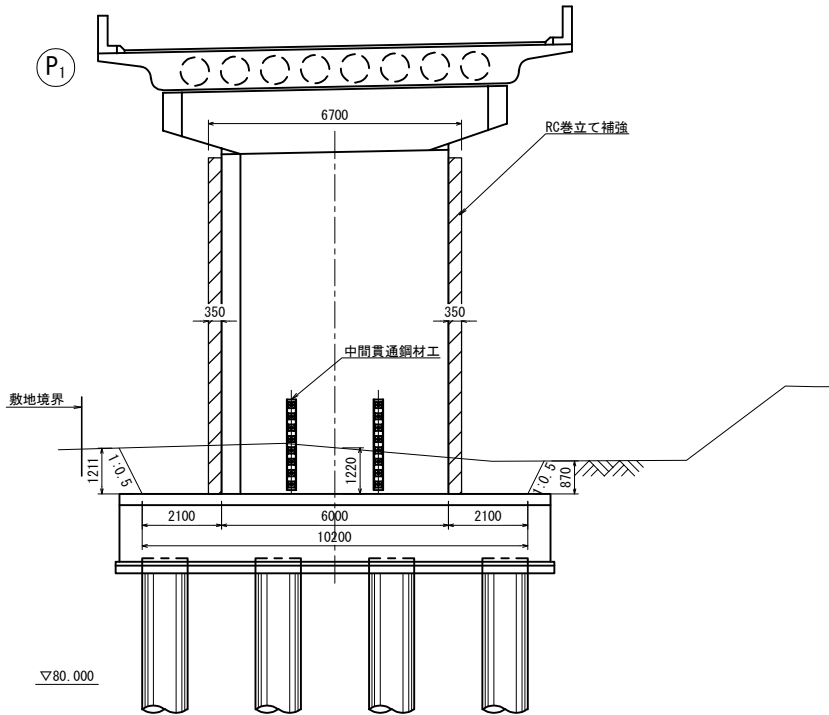
側面図



平面図



正面図

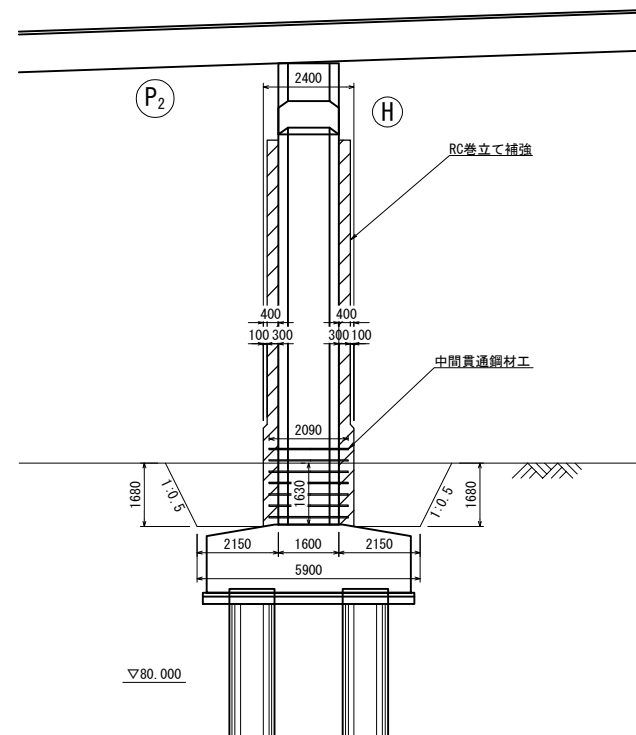


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

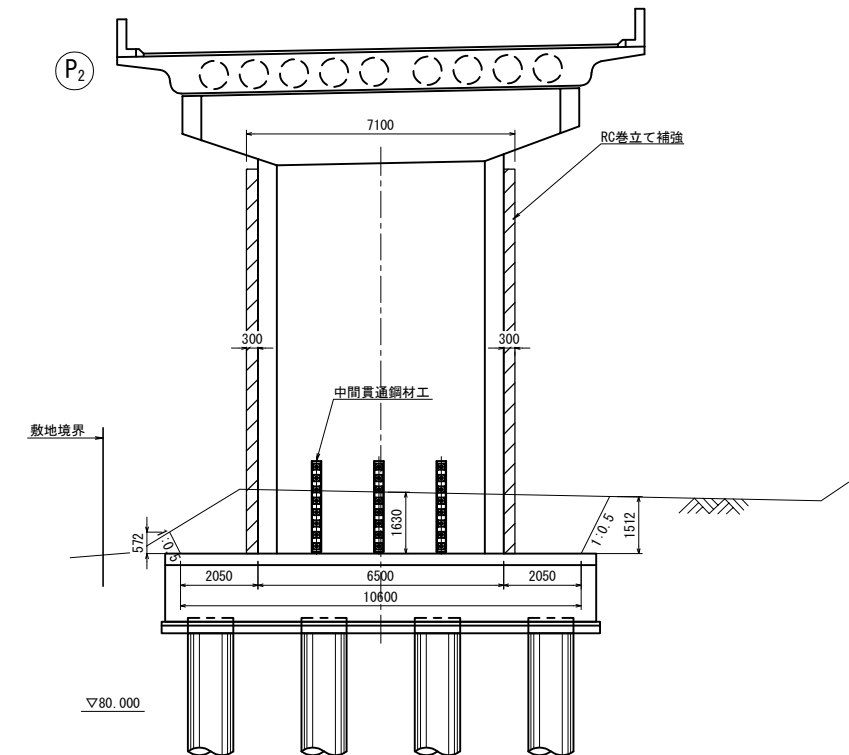
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その1)			
縮 尺	図 示	図面番号	6	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

構造物掘削 普通部A

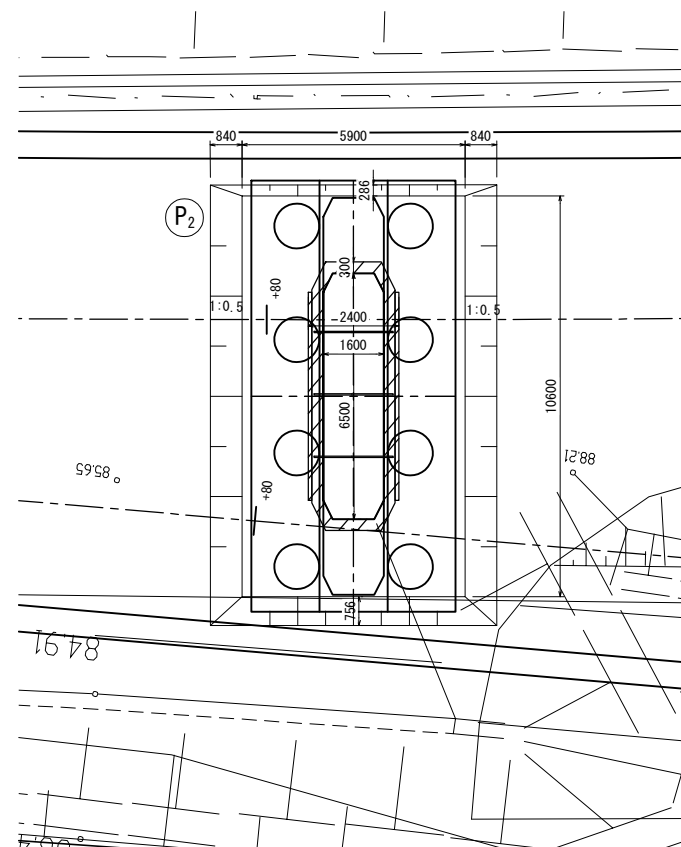
側 面 図



正 面 图



平面图

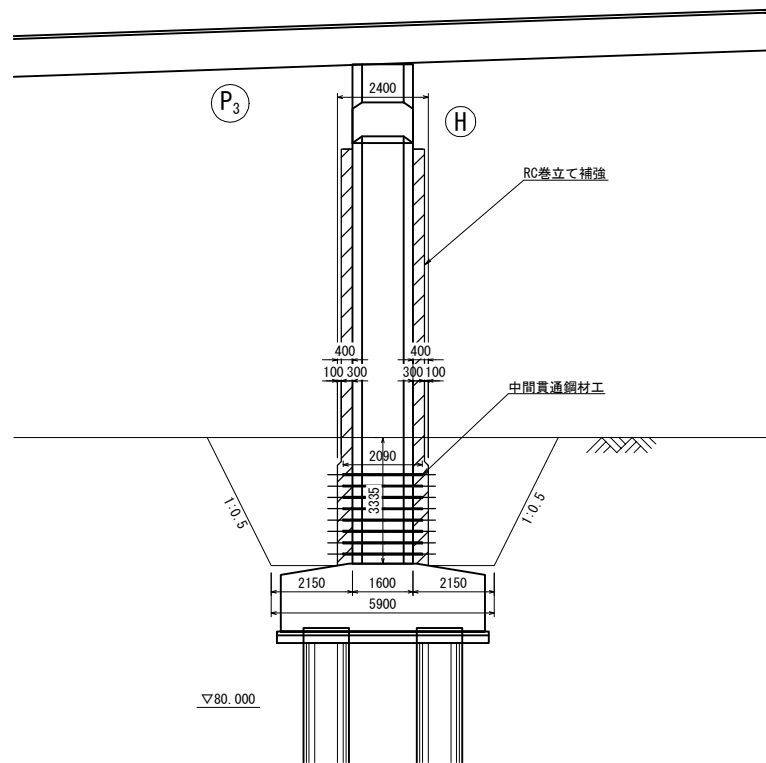


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

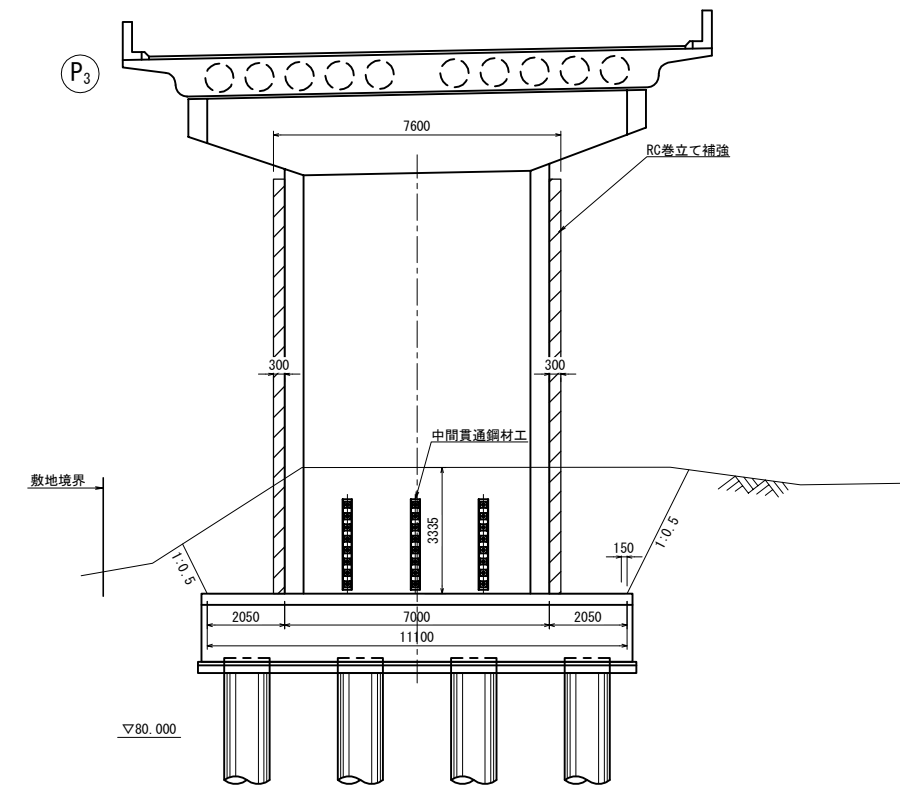
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その2)	
	図 示	図面番号 7 / 88
設計会社名		
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所	

構造物掘削 普通部A

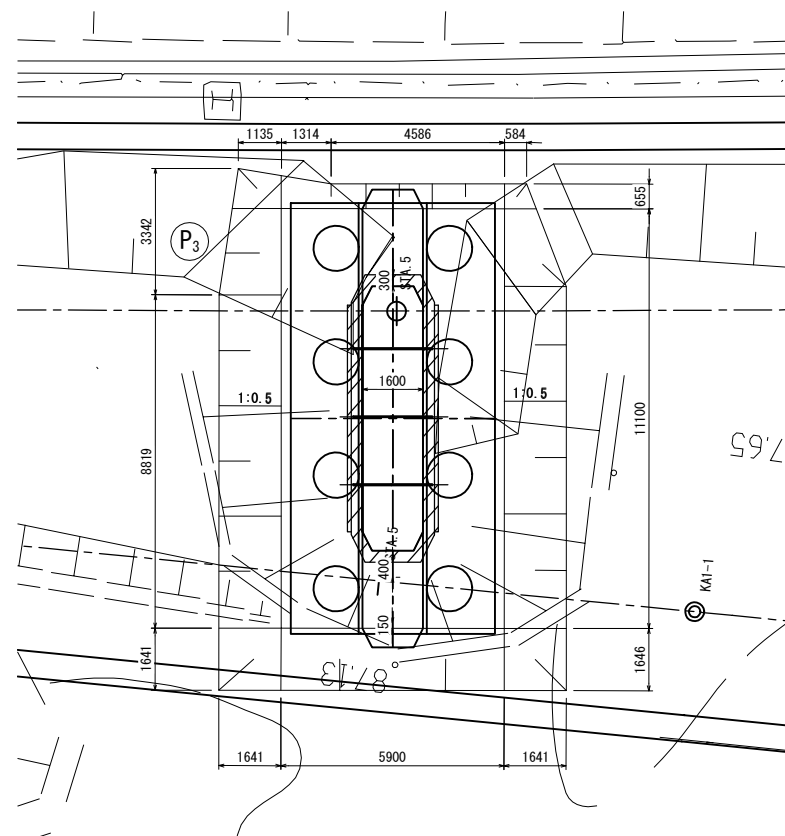
側 面 図



正 面 圖



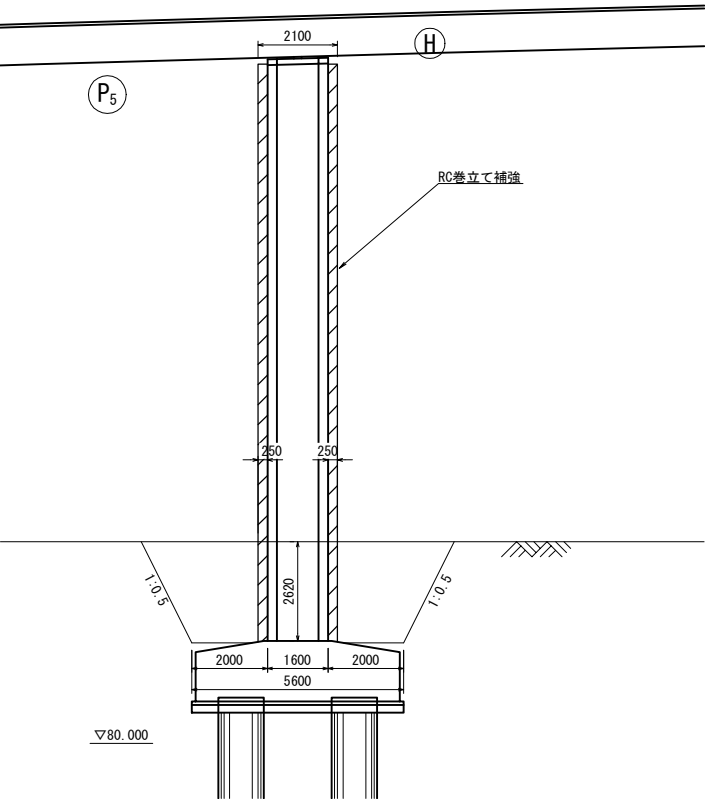
平面图



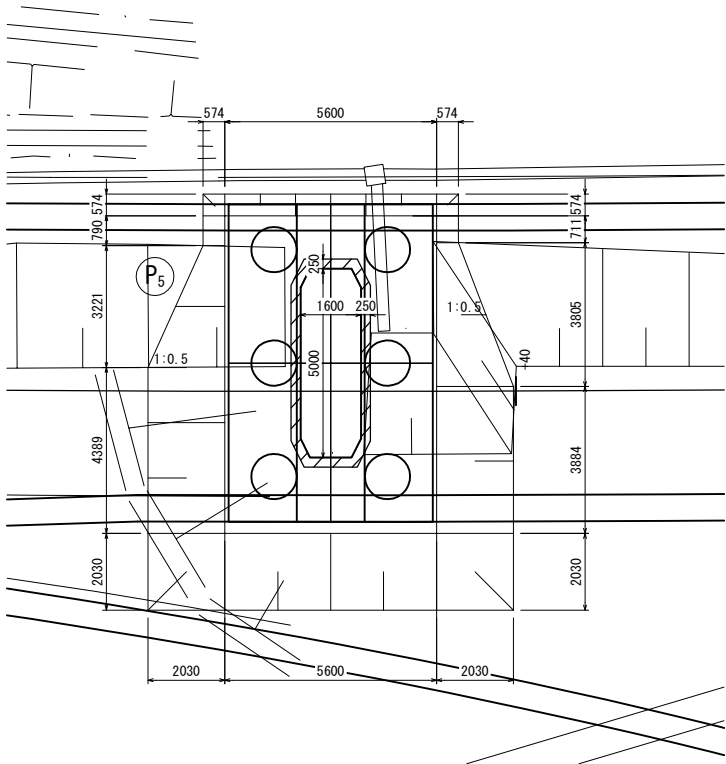
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物図則(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

側面図

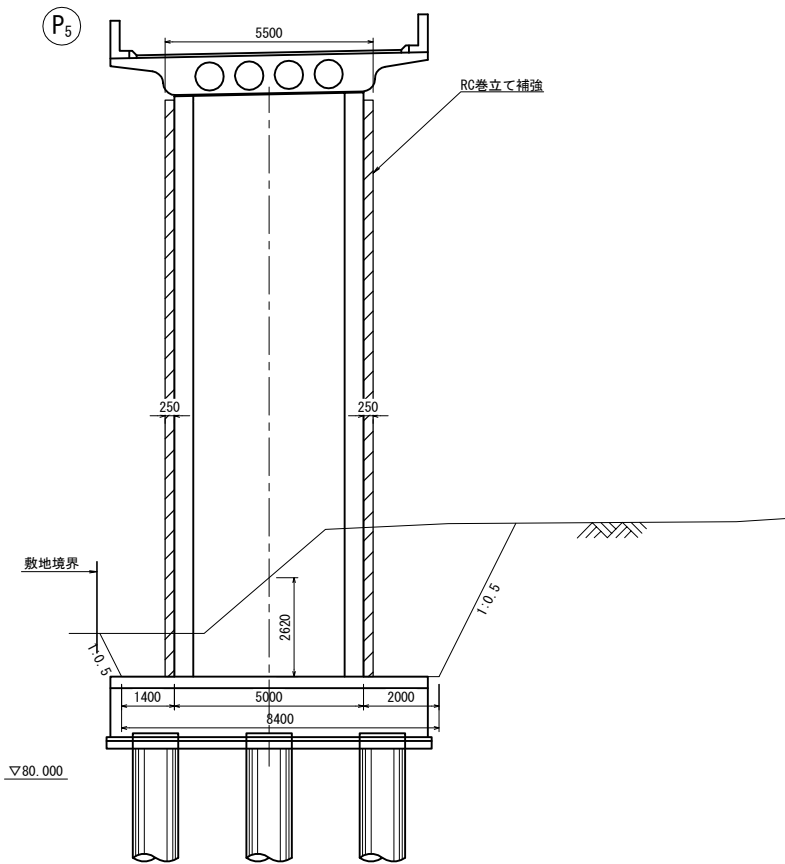


平面図



構造物掘削 普通部A

正面図

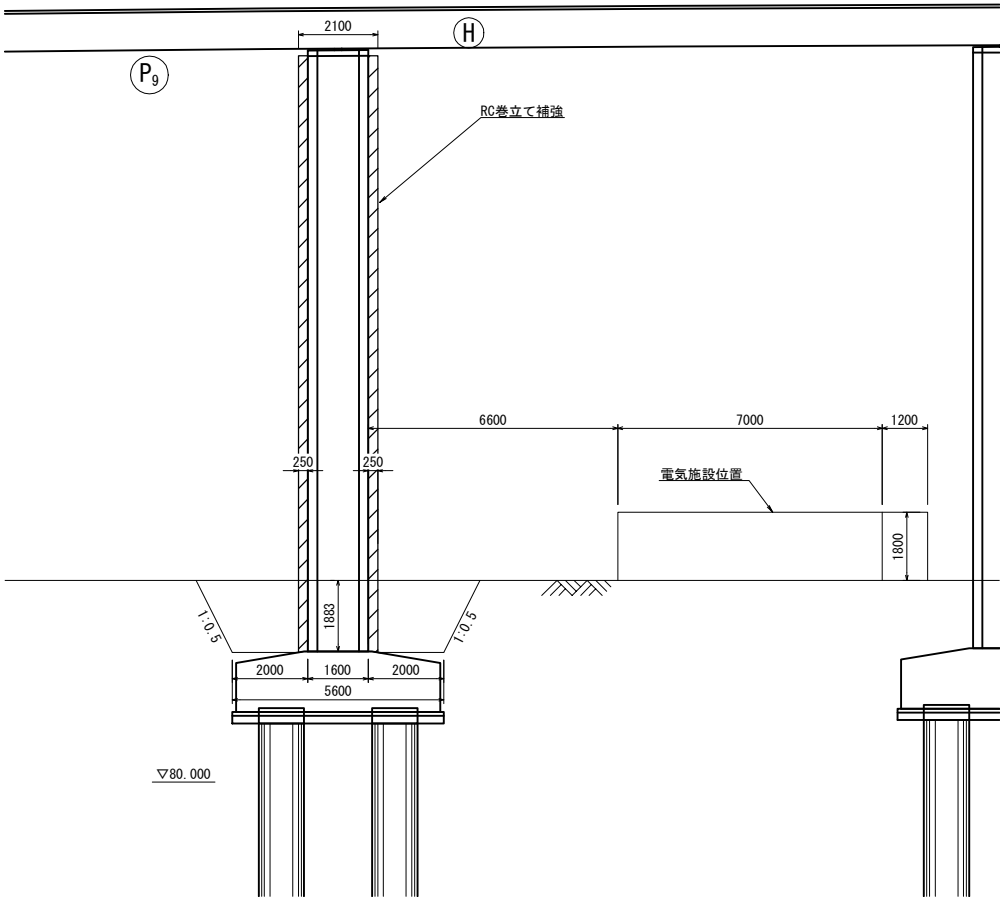


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

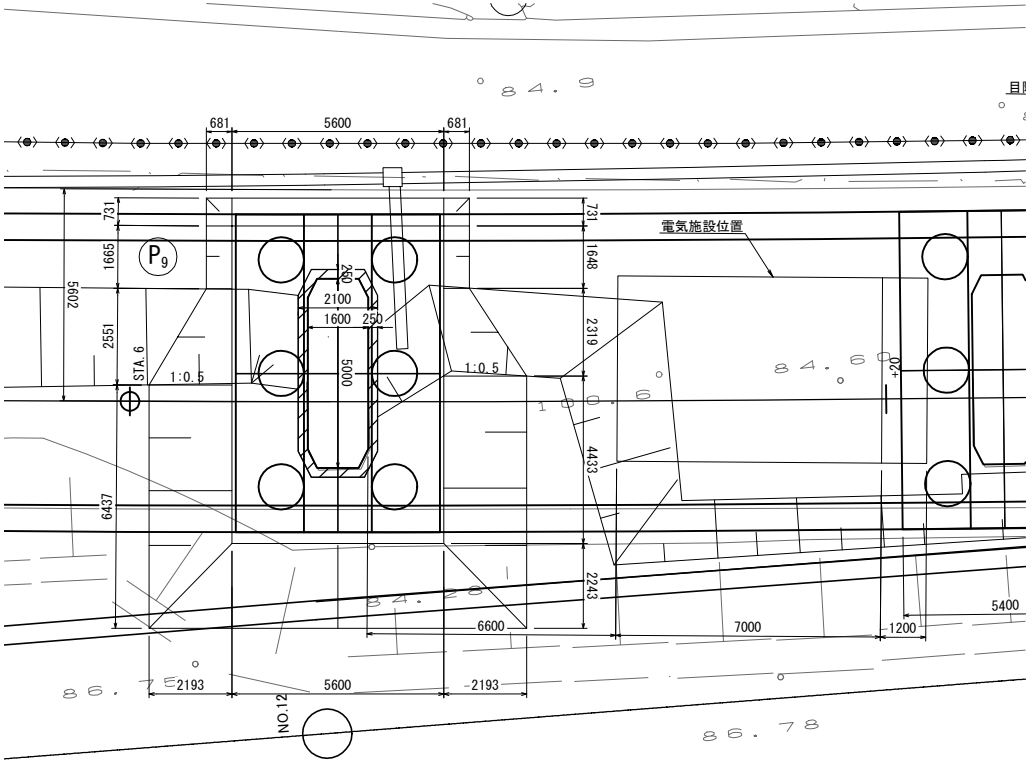
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その4)			
縮 尺	図 示	図面番号	9	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

側 面 図

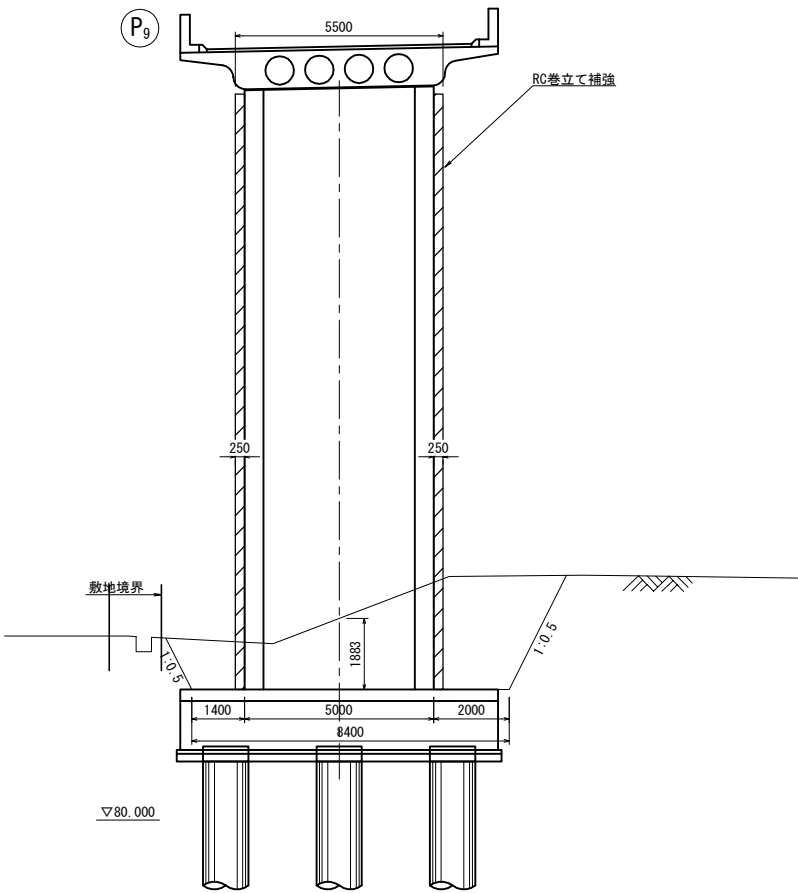
構造物掘削 普通部A



平 面 図



正 面 図

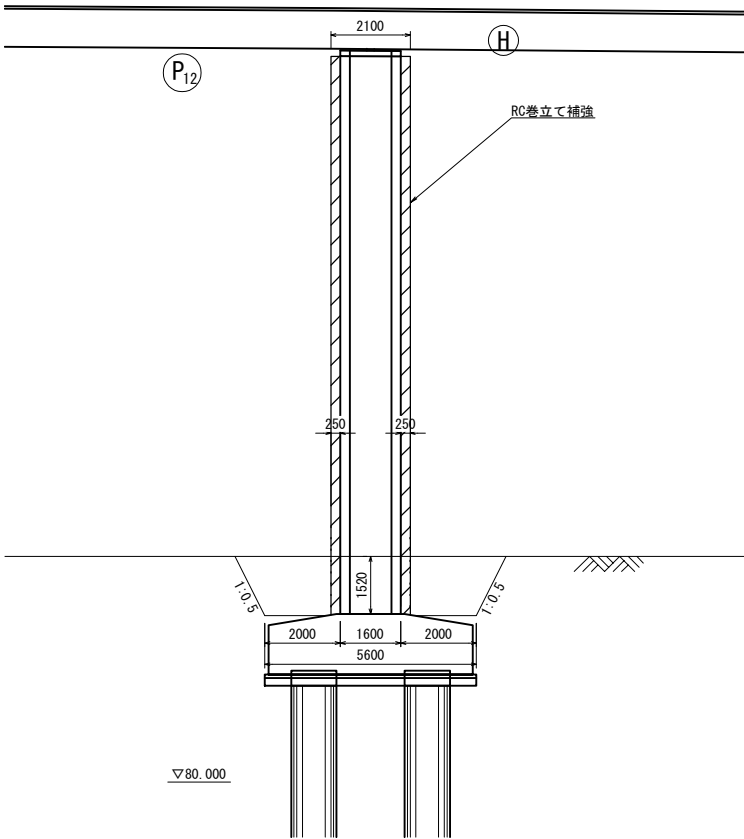


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

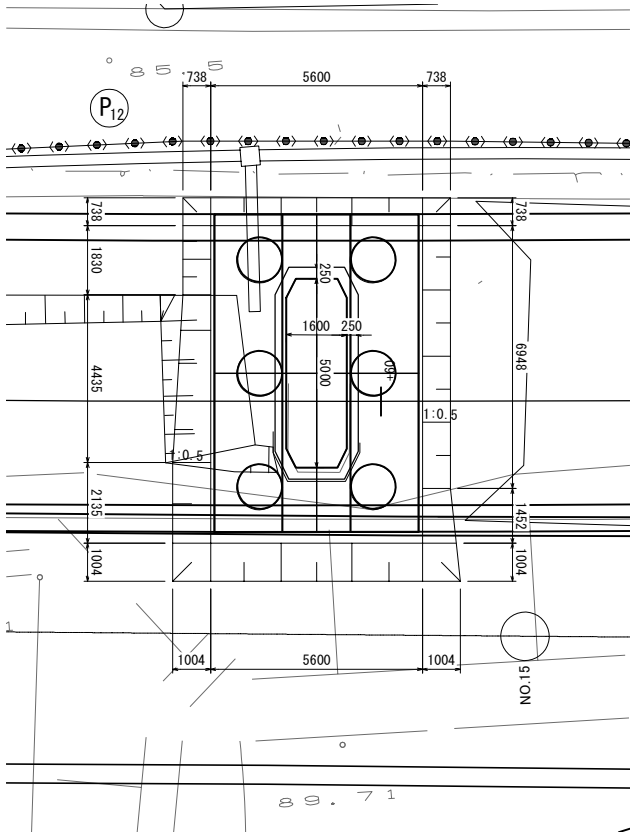
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	10 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 普通部A

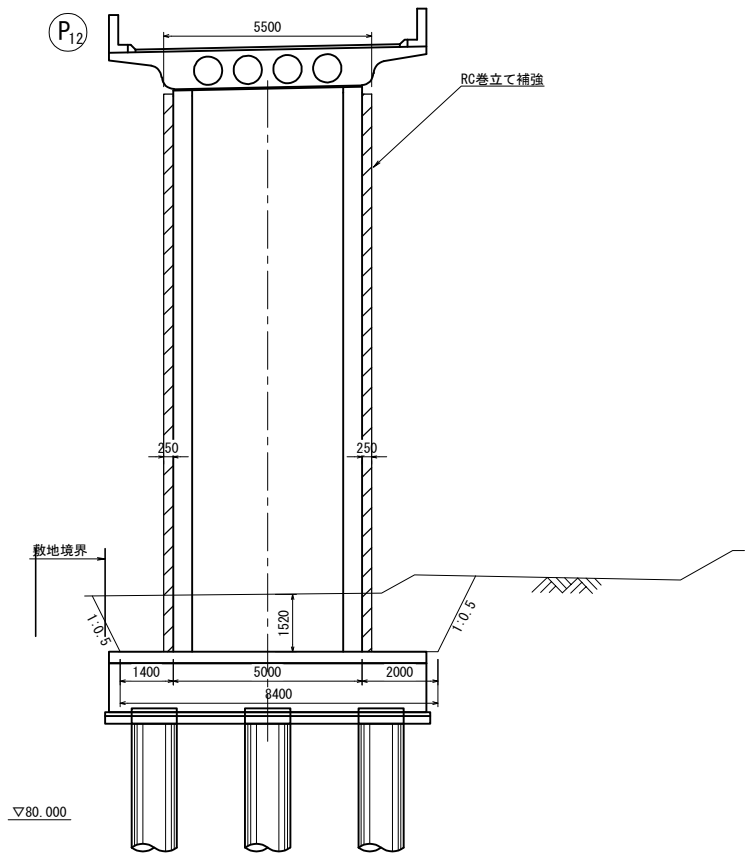
側面図



平面図



正面図

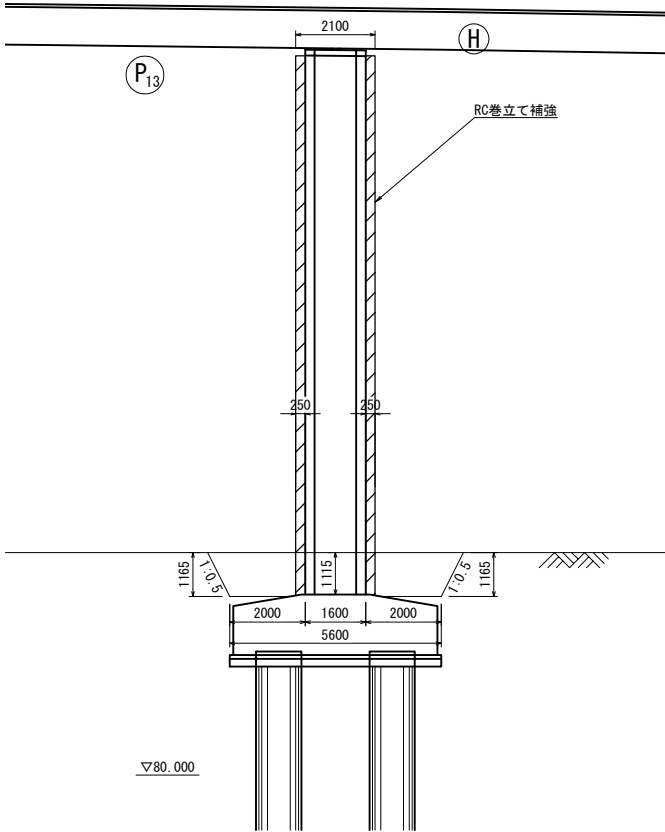


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

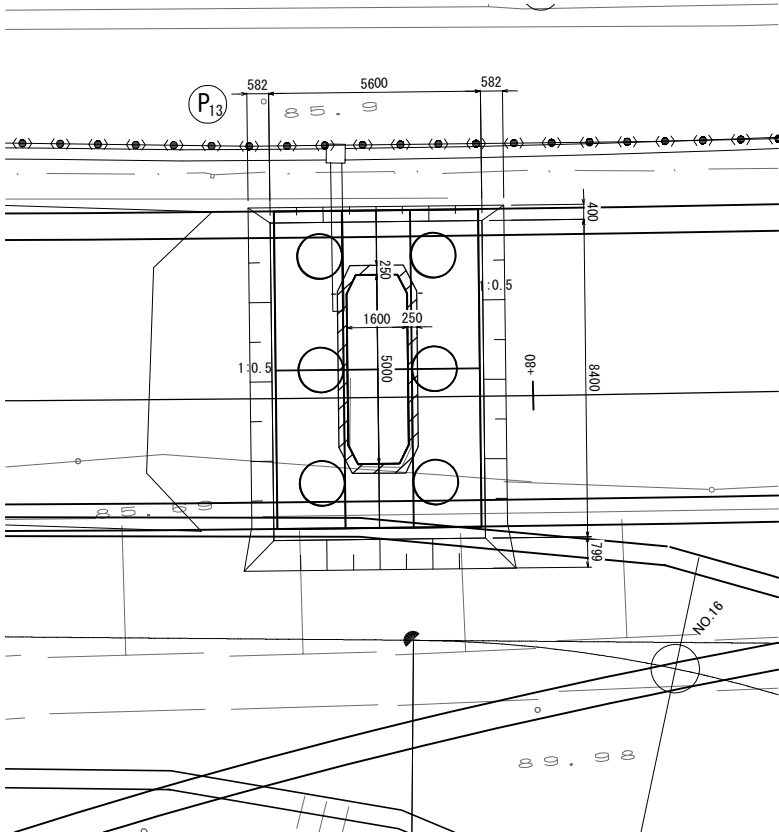
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	11 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 普通部A

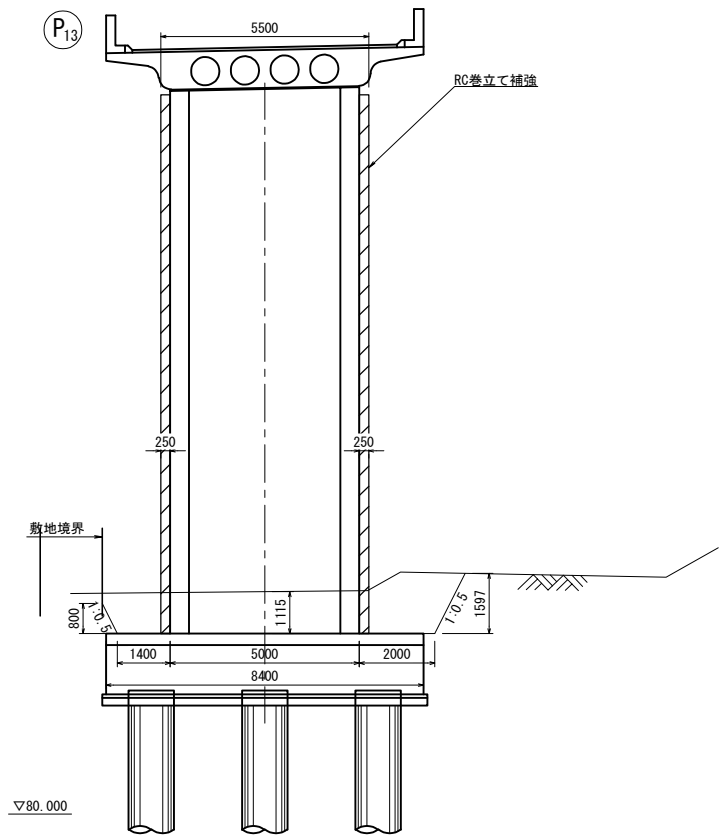
側面図



平面図



正面図

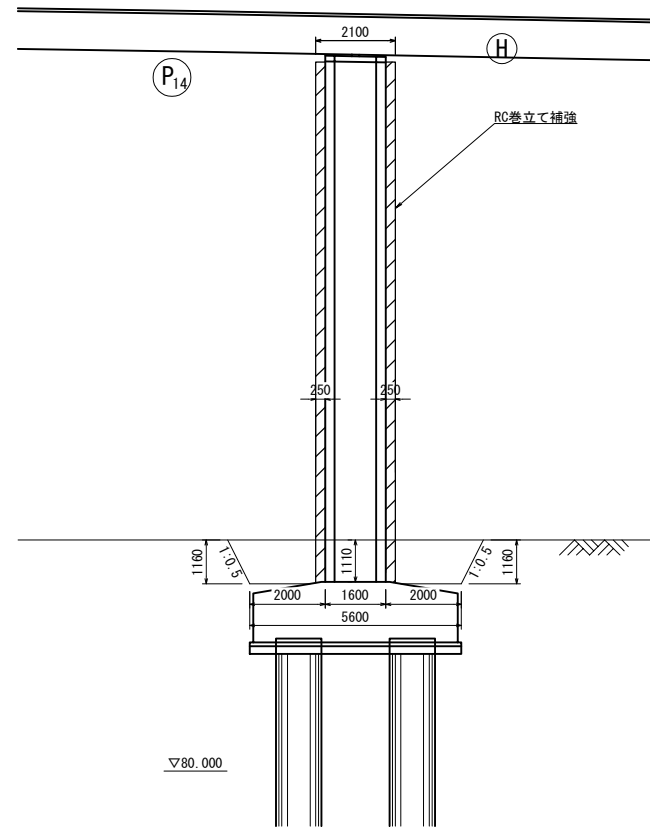


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

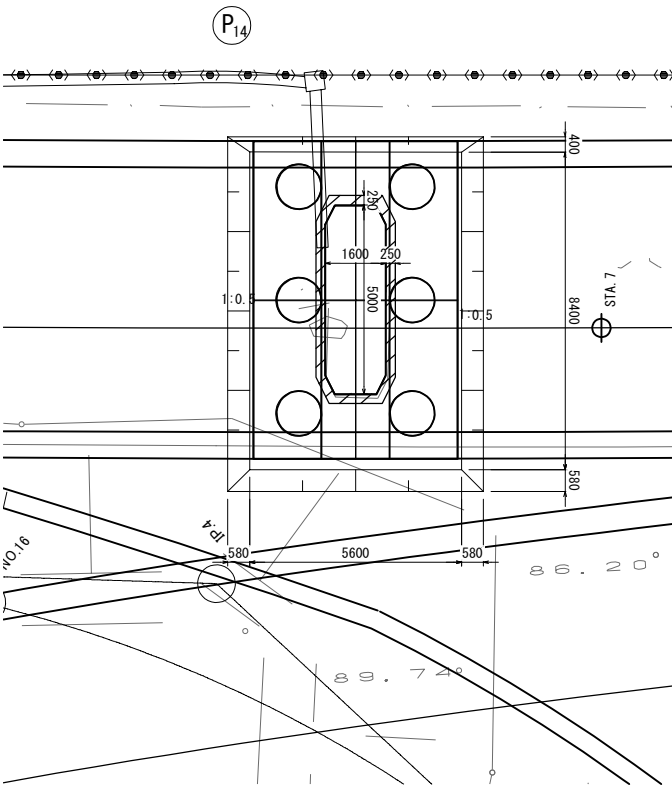
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	12 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 普通部A

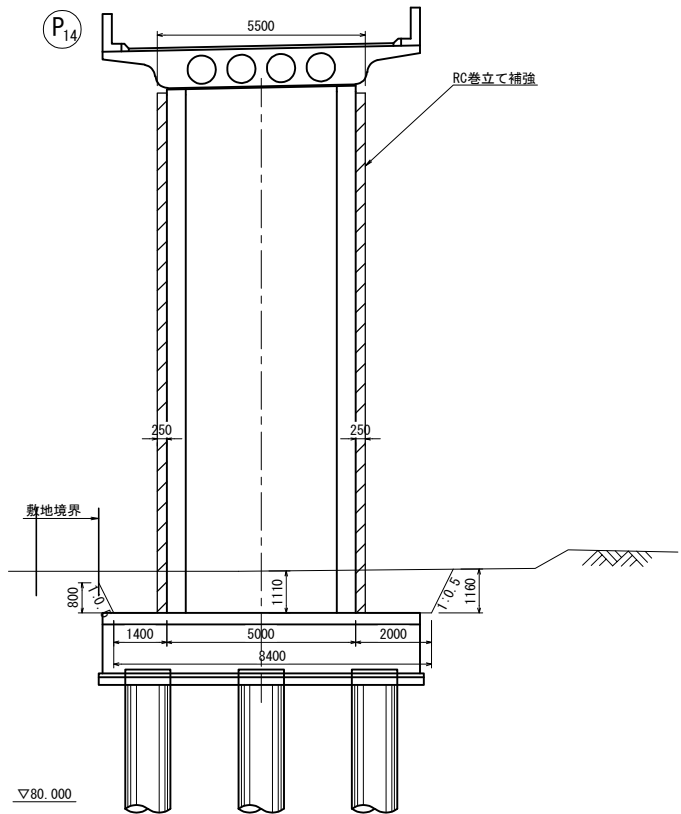
側面図



平面図

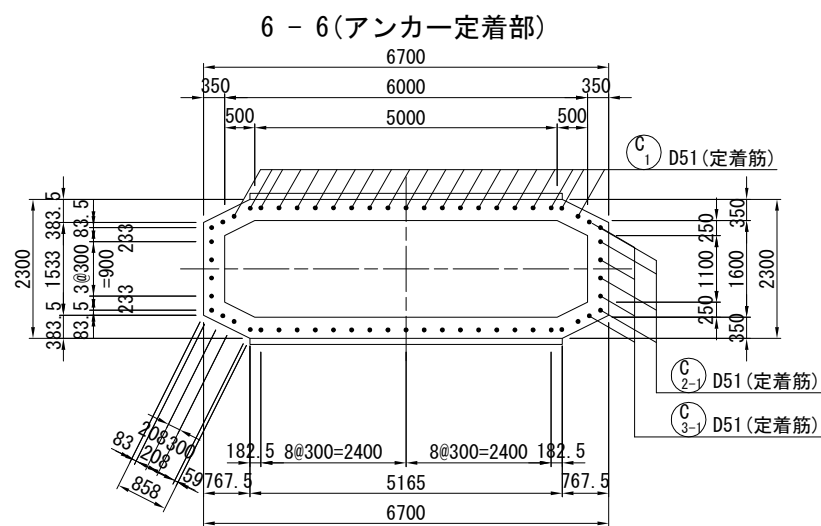
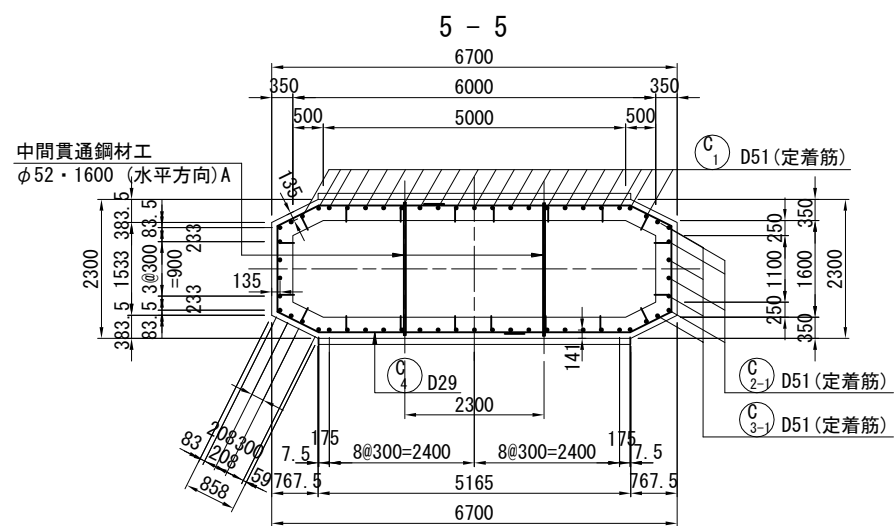
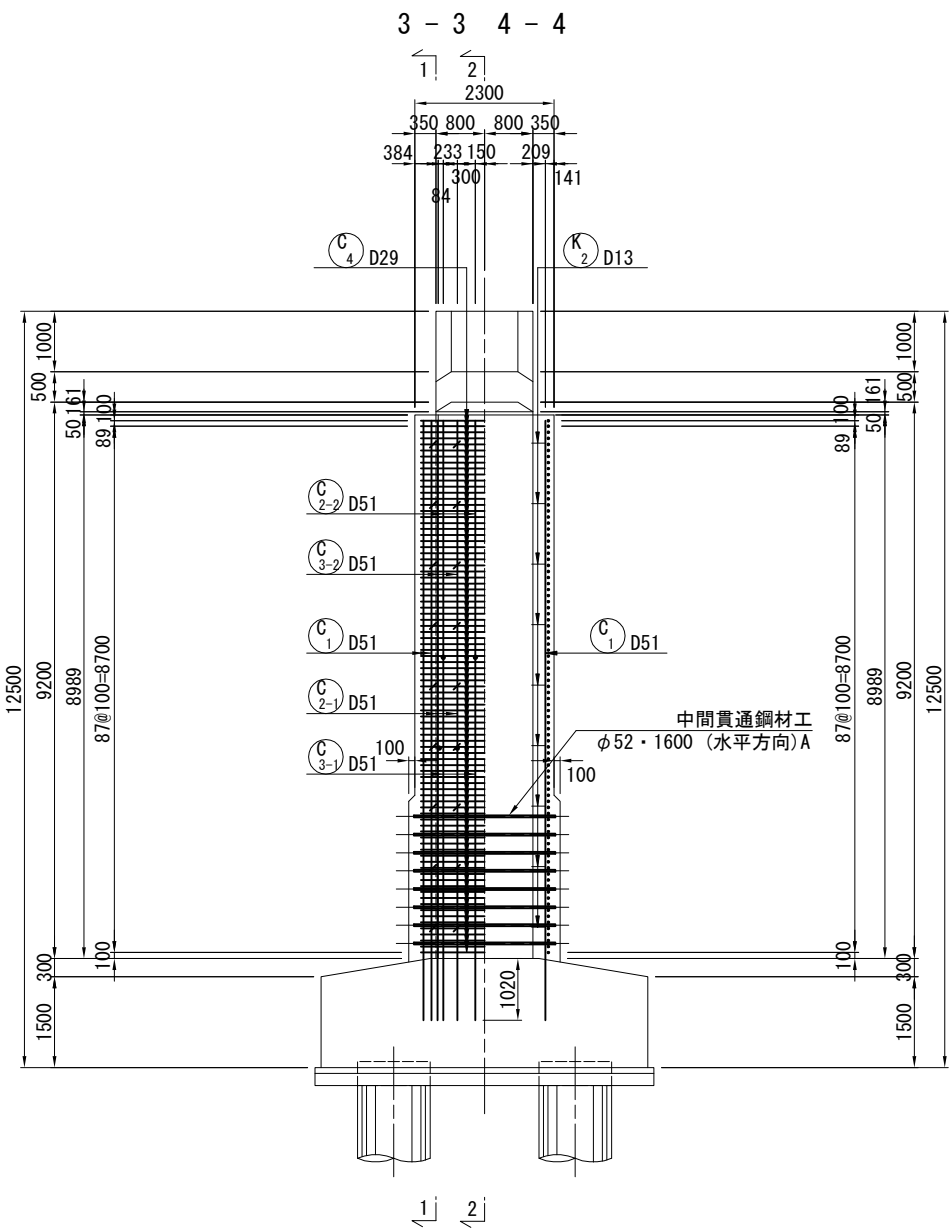
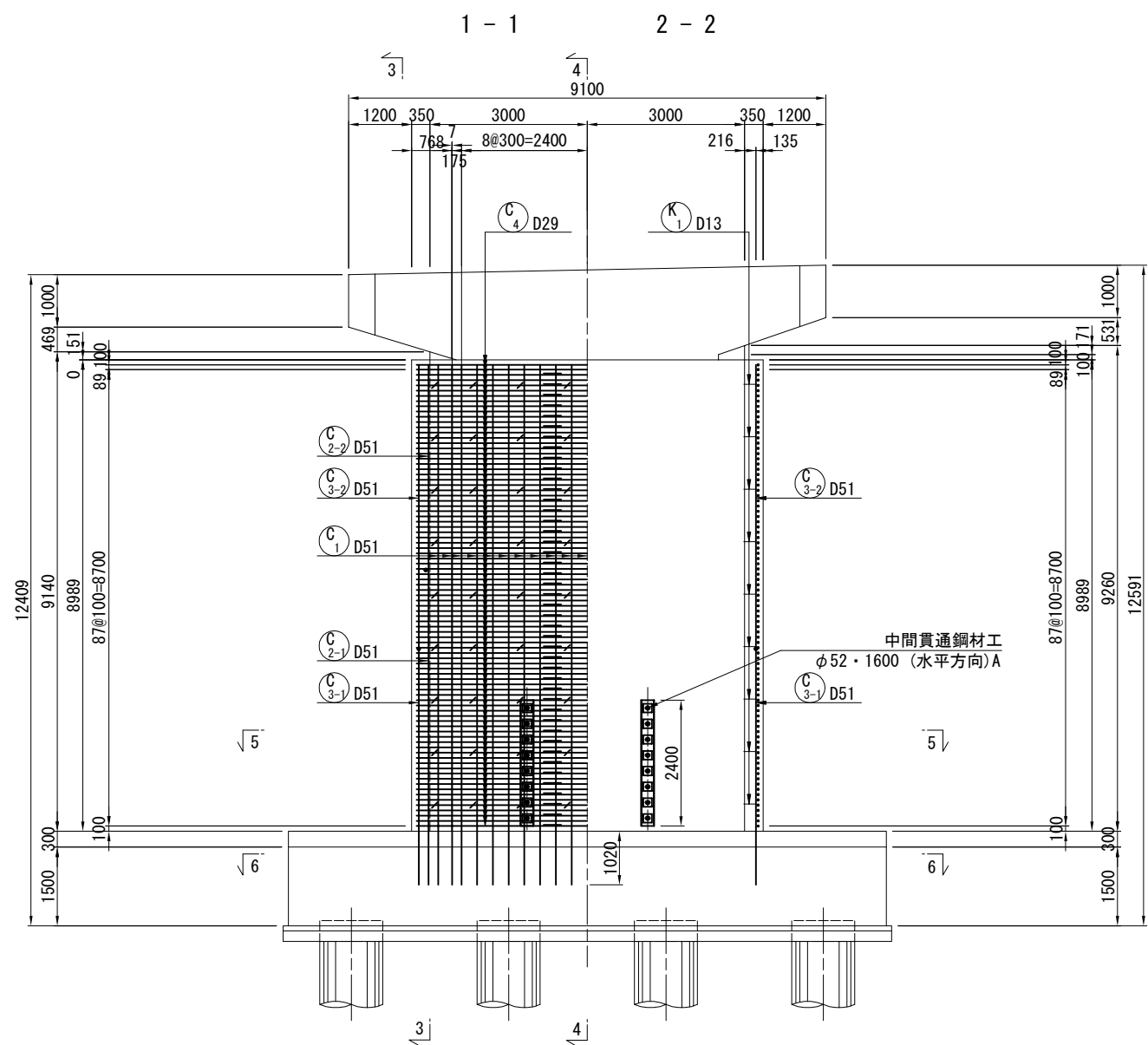


正面図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 構造物掘削(その8)			
縮尺	図示	図面番号	13	/ 88
設計会社名				
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

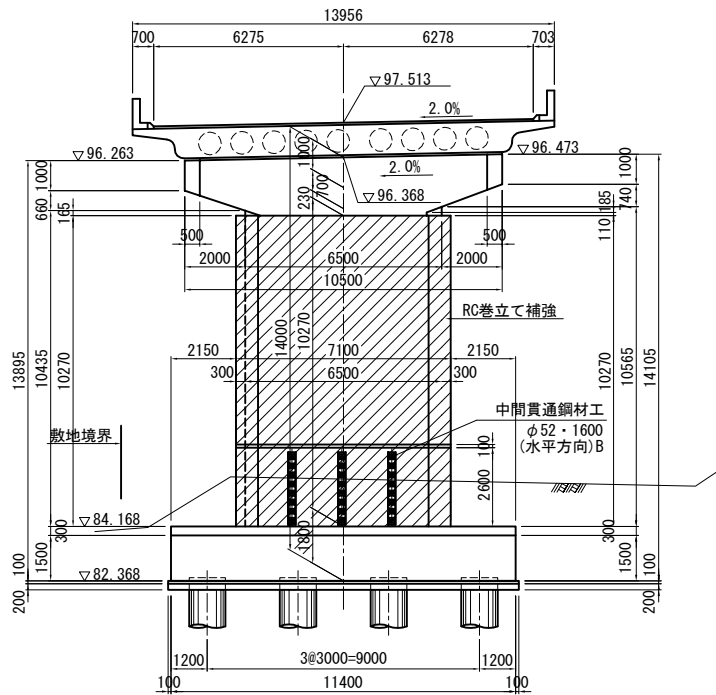


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

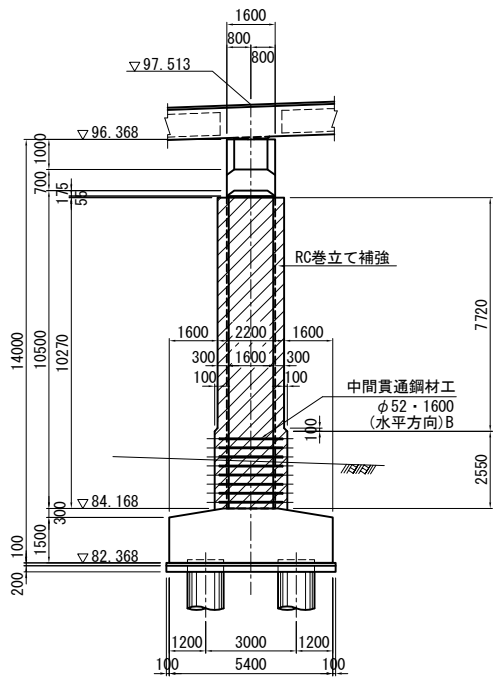
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横浜横浜賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷JCT第一橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	16 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京 浜 管 理 事 務 所		関東支社

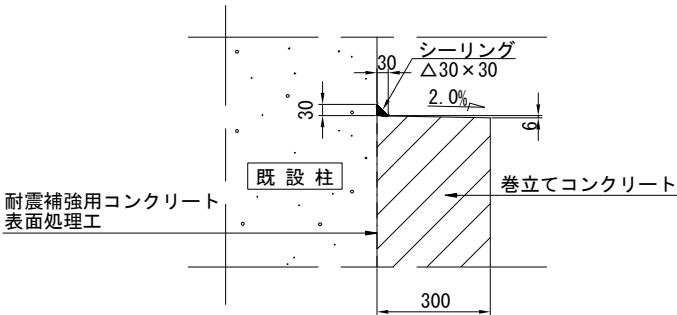
正面図 S=1:250



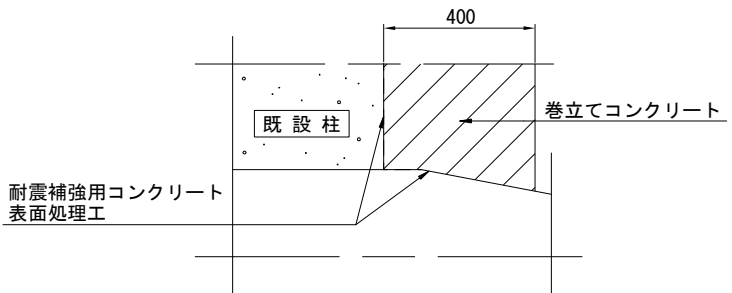
側面図 S=1:250



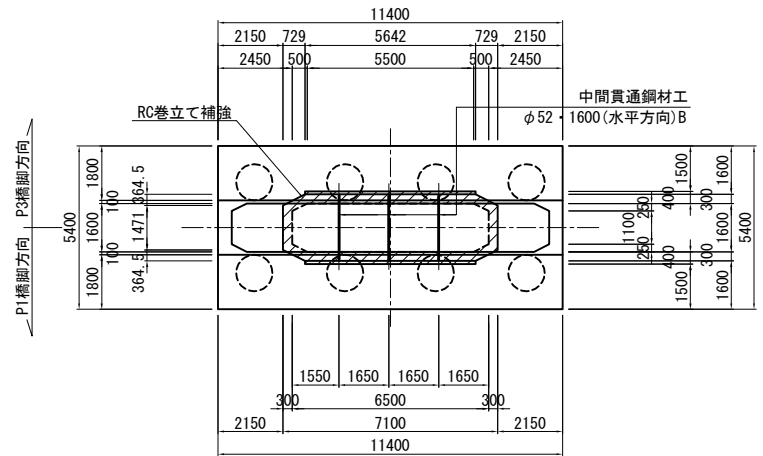
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



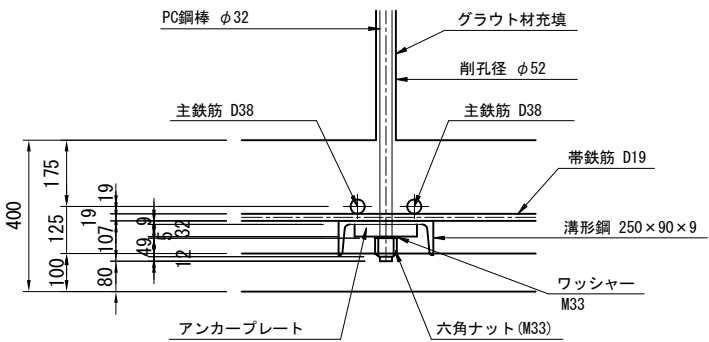
巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



平面図 S=1:250

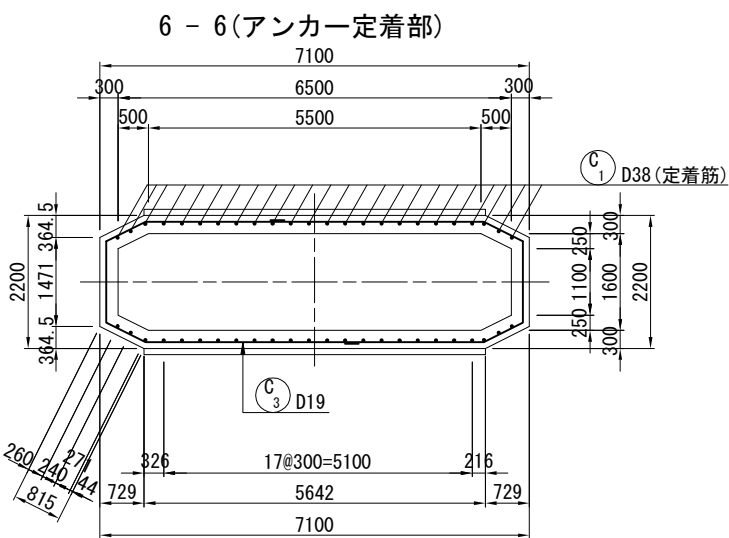
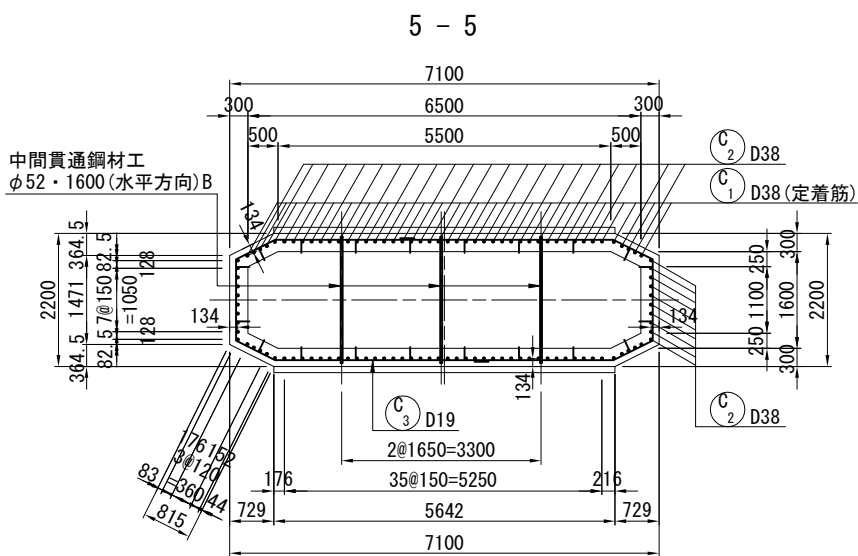
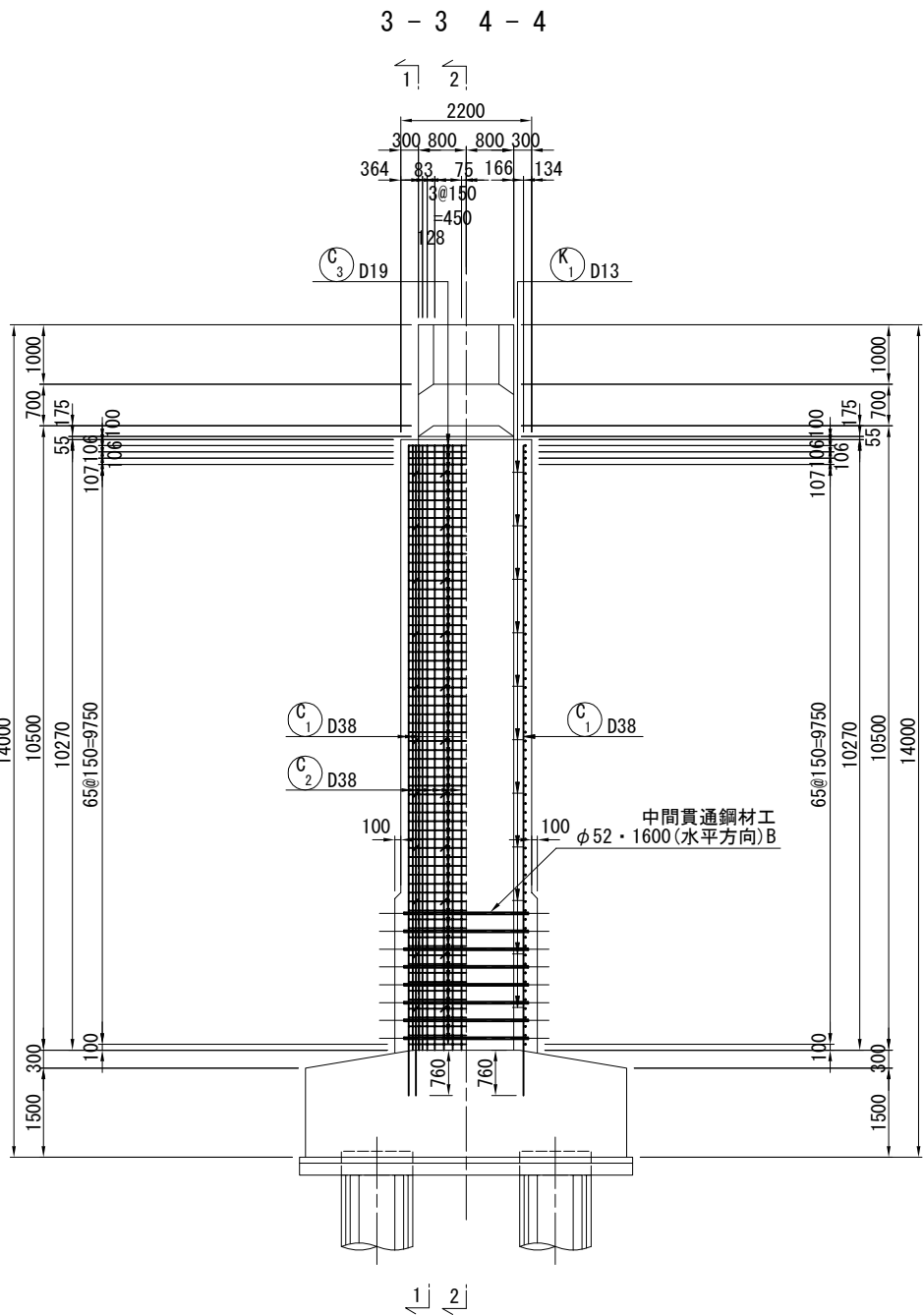
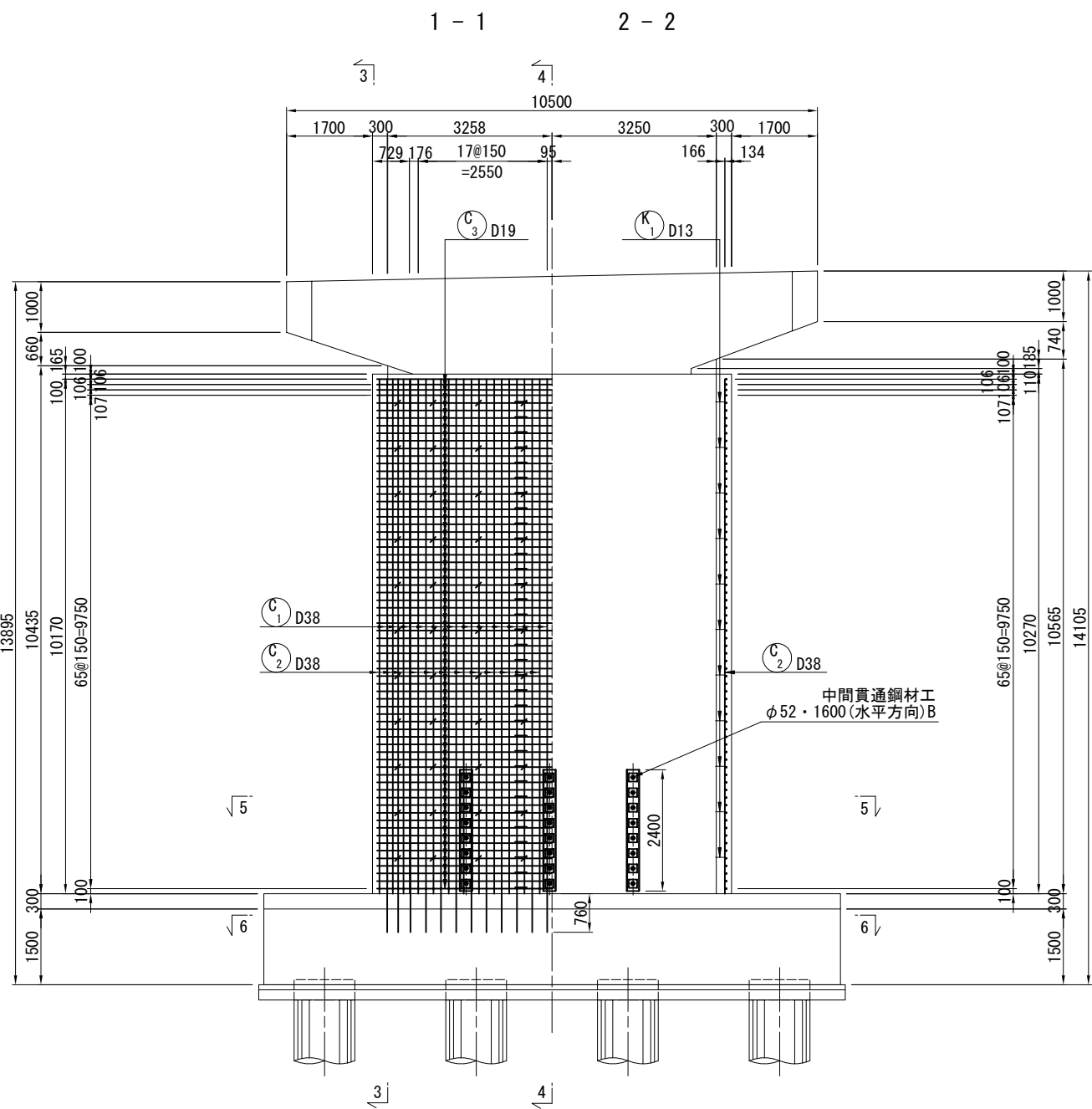


中間貫通鋼材工詳細図 S=1:20
φ52・1600(水平方向)B



- 注記)
- 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 - 柱の巻立て長さ(高さ)は、低い部分を抑えて水平に構築すること。
(ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。)
 - 補強部分(既設面)は、コンクリート下地処理を行う。
 - コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 - 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	17 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

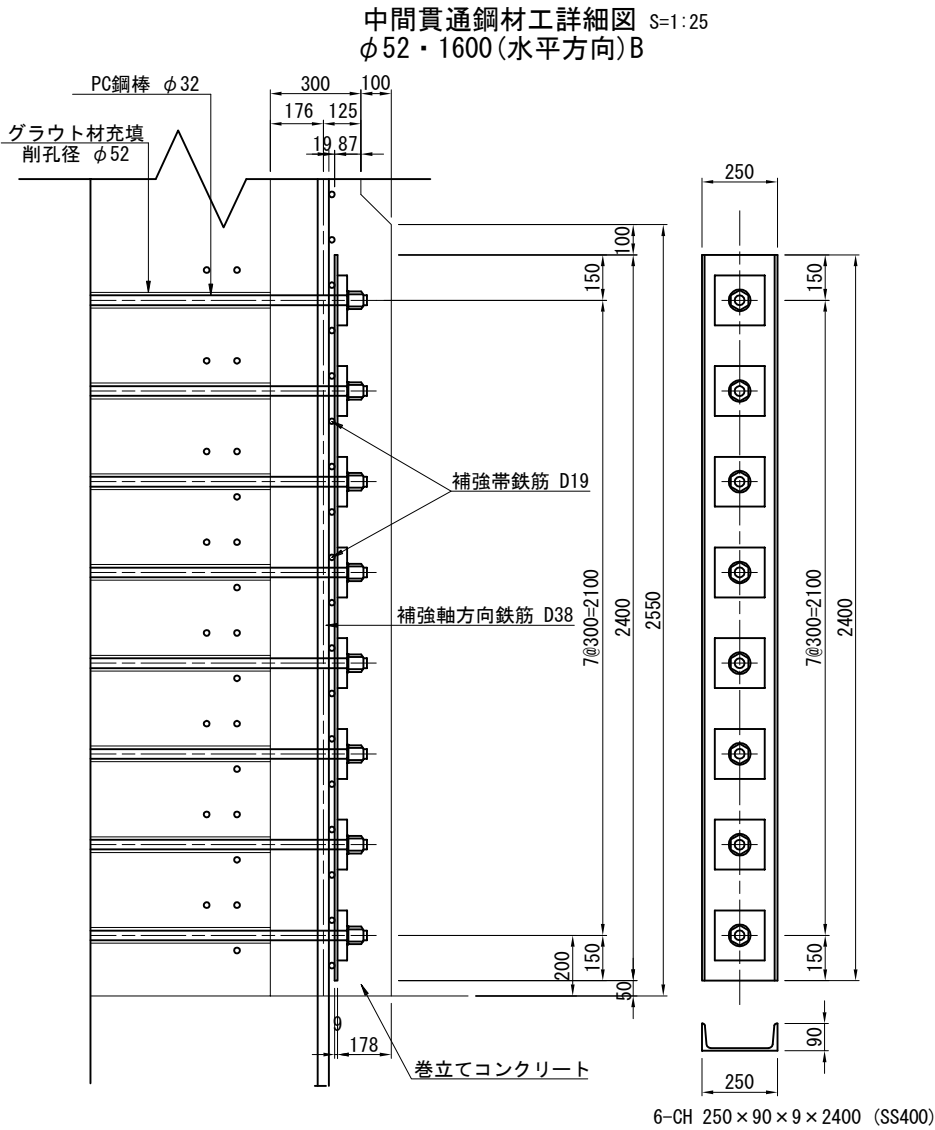
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

鉄筋表

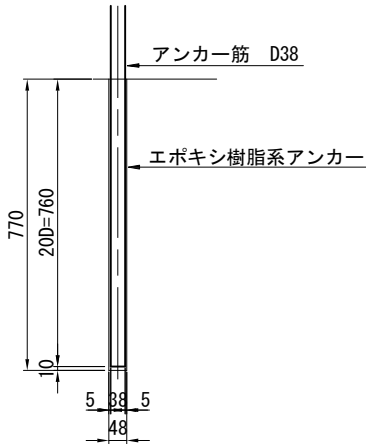
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D38	10930	48	8.95	97.8	4694	I
C ₂	D38	10170	64	8.95	91.0	5824	I
C ₃	D19	8590	140	2.25	19.3	2702	┐
SD345 小計						13220	kg
集 計 表							
D38					10518	kg	
D19					2702	kg	
(SD345) 合計					13220	kg	
フレア溶接の箇所数				D19 + D19	140	箇所	
鉄筋T1 定着鉄筋				D38	4694	kg	(C1)
鉄筋T その他					8526	kg	(C2, C3)
K ₁	D13	270	220	0.995	0.269	59	┐
D13					59	kg	

鉄筋加工寸法表

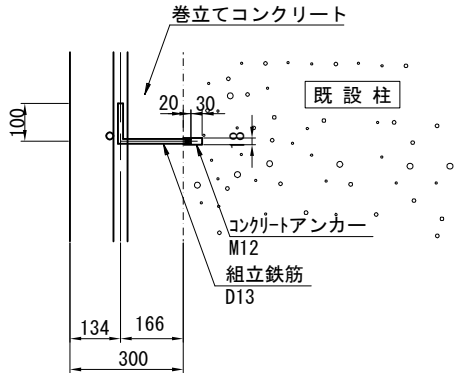
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 90^\circ$		
	a	b	a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66



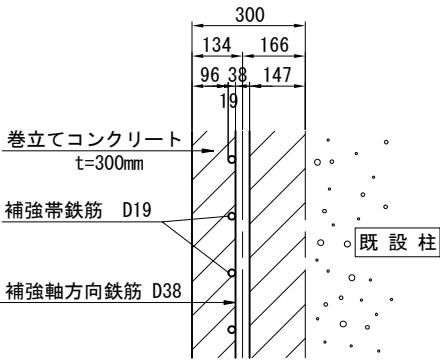
アンカー詳細図 S=1:20



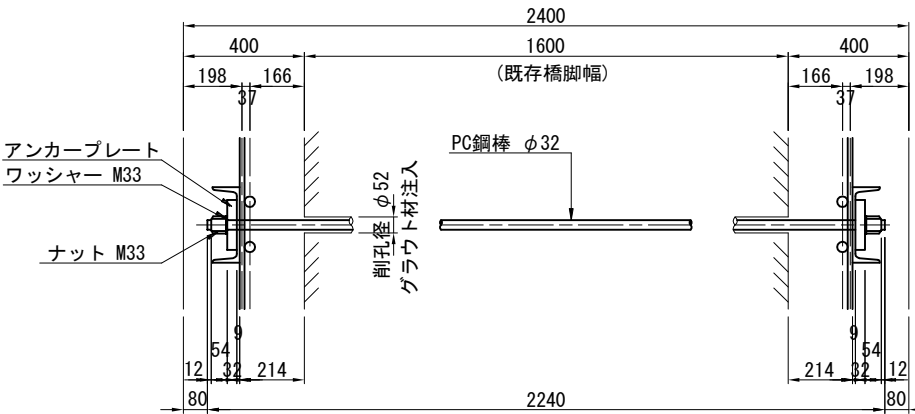
組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



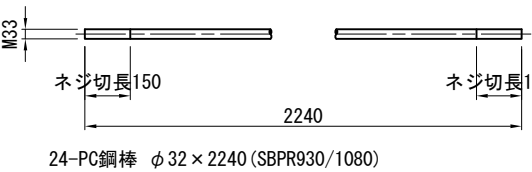
かぶり詳細図 S=1:20



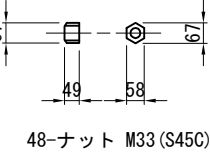
PC鋼棒(中間拘束具)詳細図 S=1:25



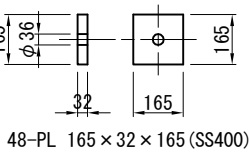
PC鋼棒詳細図 S=1:25



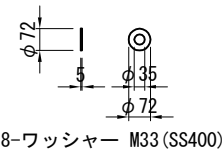
ナット詳細図 S=1:25



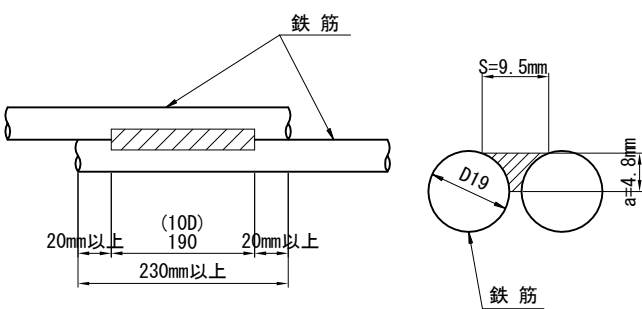
アンカープレート詳細図 S=1:25



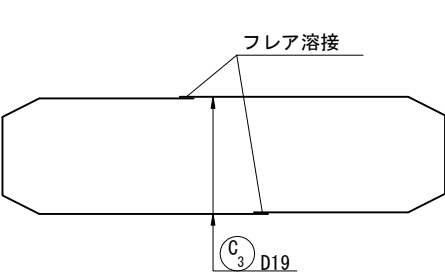
ワッシャー詳細図 S=1:25



フレア溶接詳細図 S=1:10



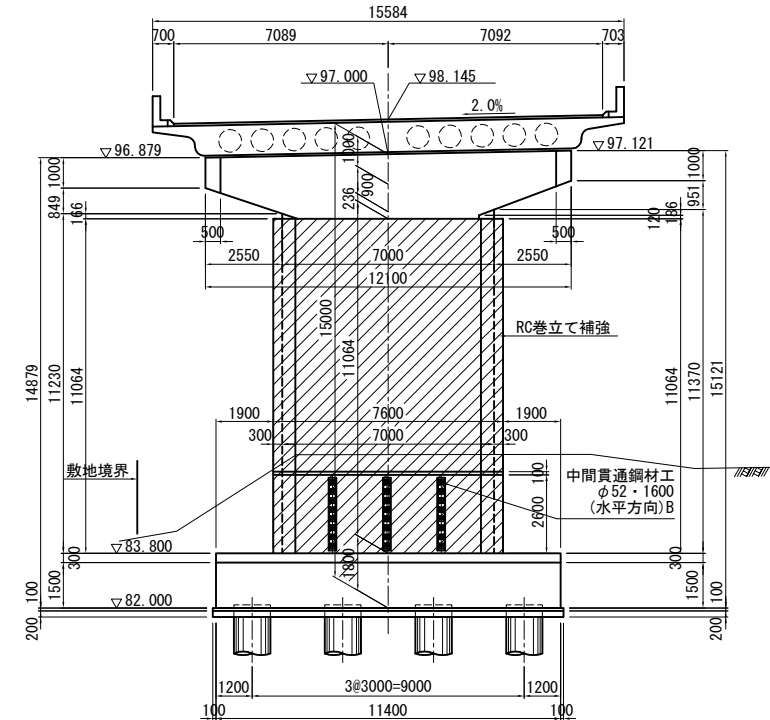
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



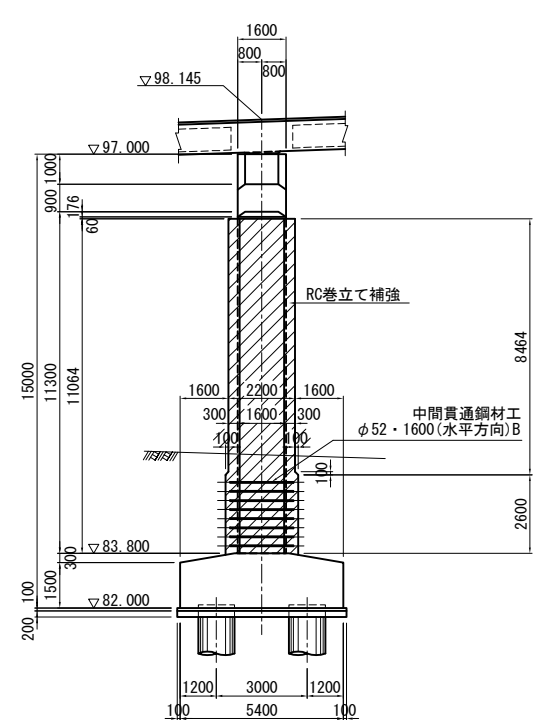
注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P2橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	19 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

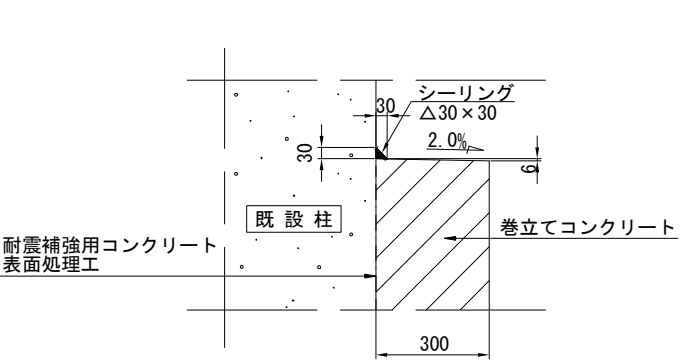
正面図 S=1:250



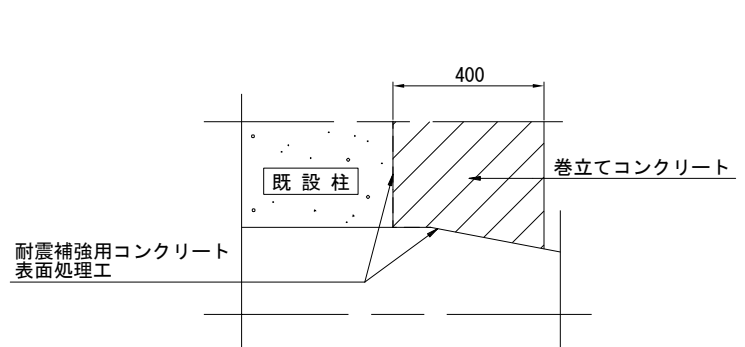
側面図 S=1:250



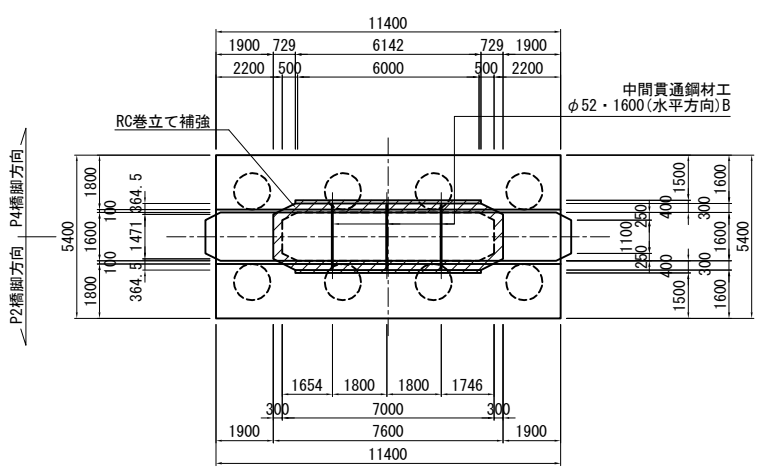
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



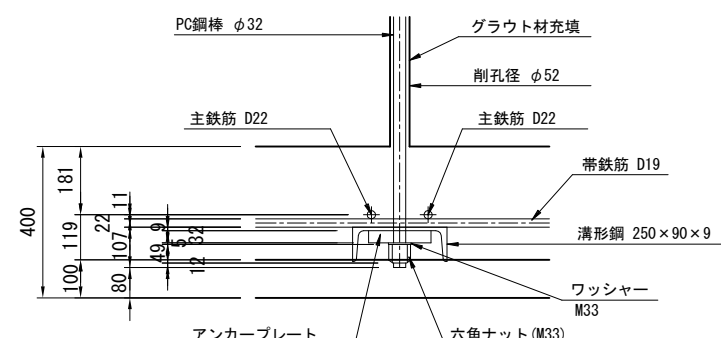
巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



平面図 S=1:250

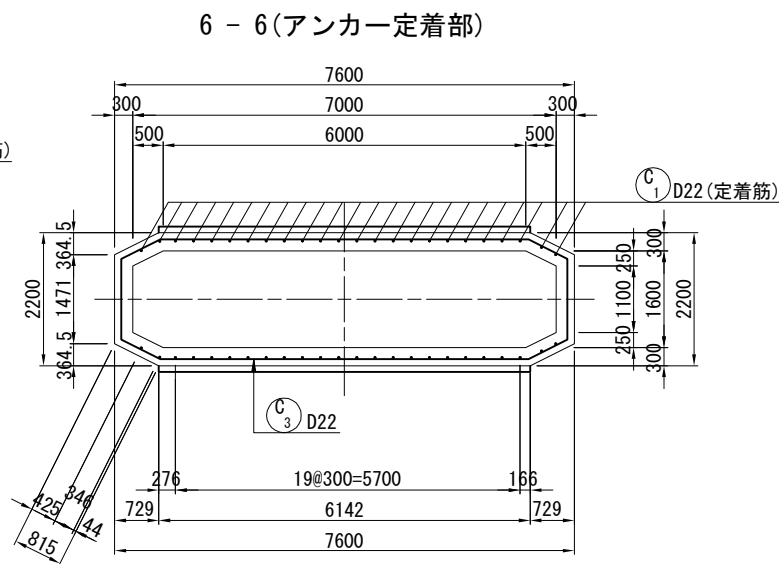
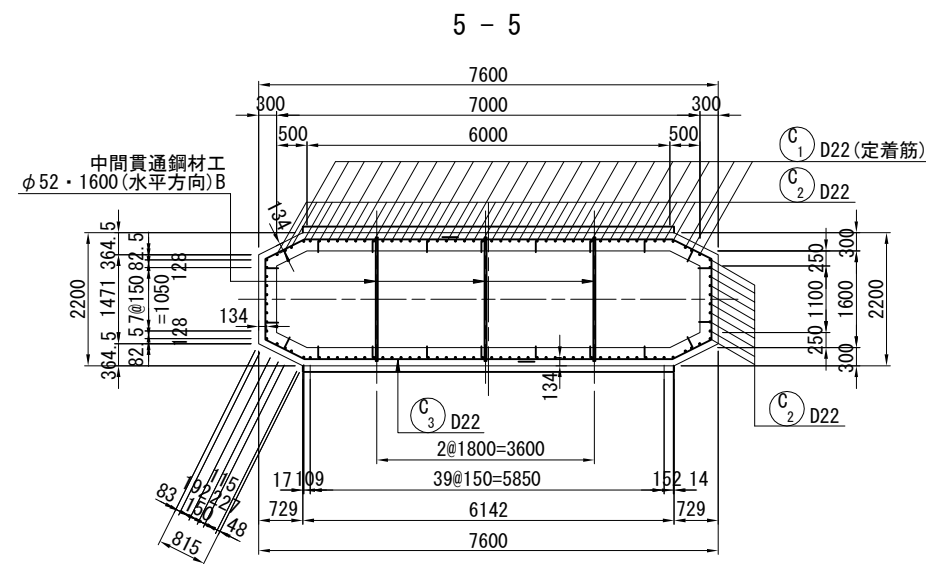
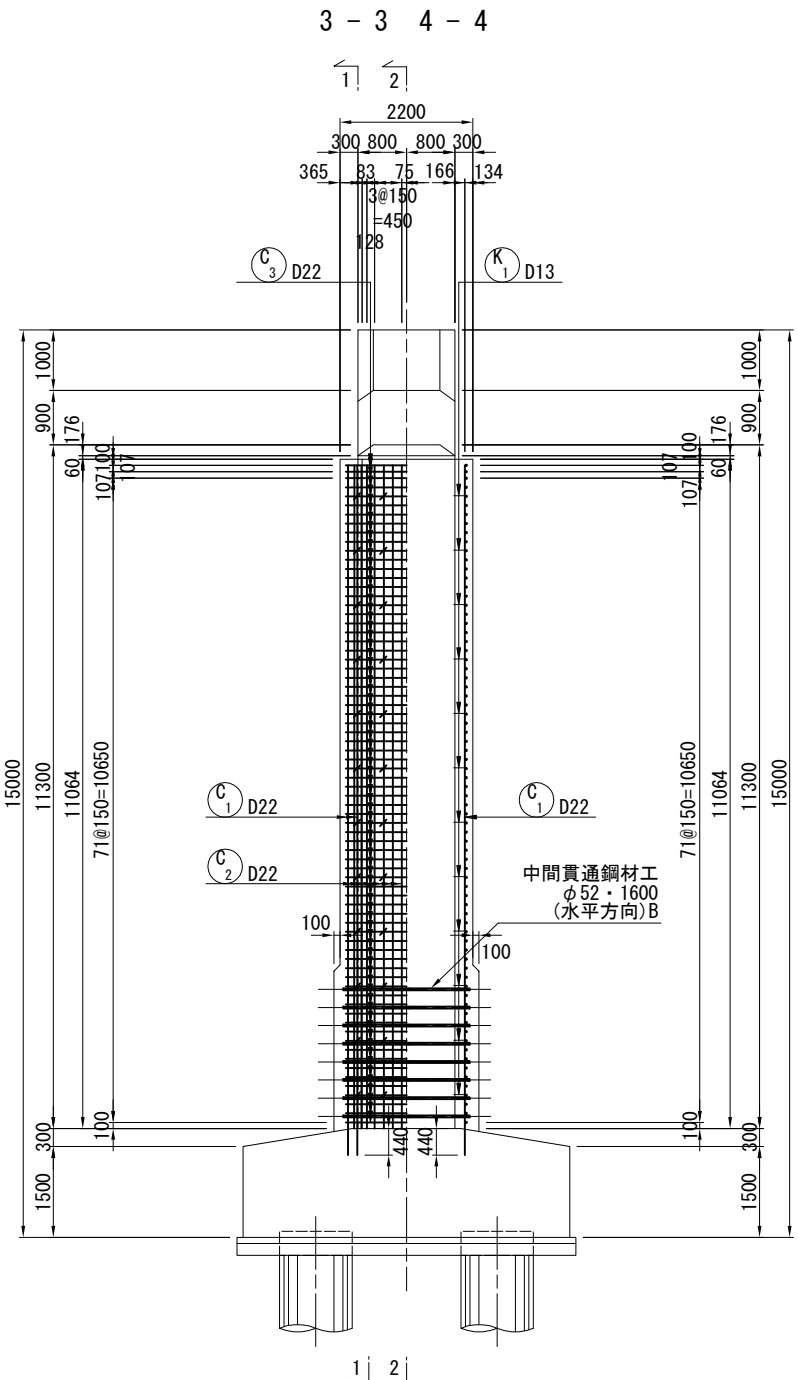
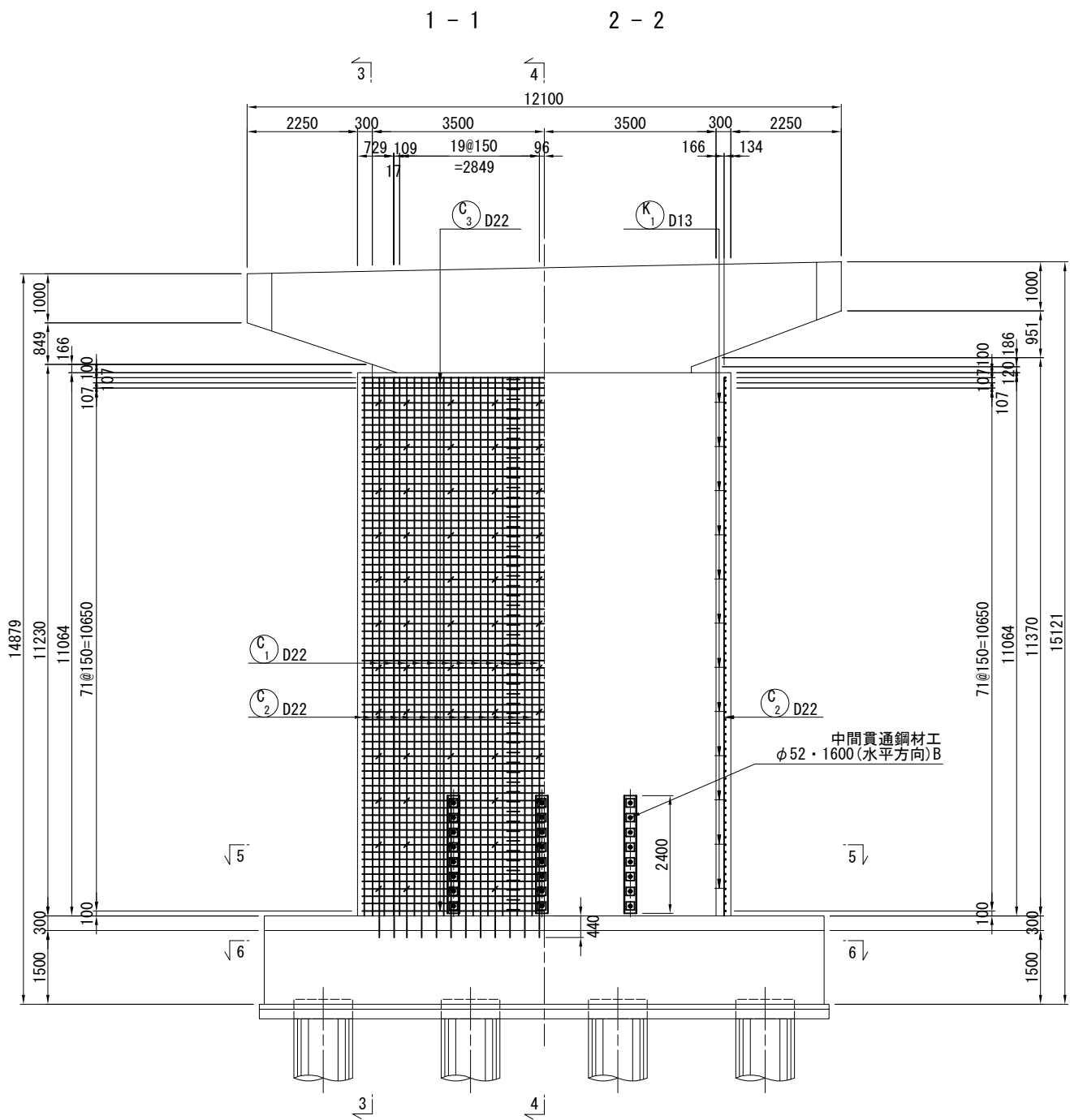


中間貫通鋼材工詳細図 S=1:20
φ52・1600(水平方向)B



- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	20 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	21 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C ₁	D22	11410	48	3.04	34.7	1666	Ⅰ
C ₂	D22	10970	68	3.04	33.3	2264	Ⅰ
C ₃	D22	9090	148	3.04	27.6	4085	Ⅱ
SD345 小計						8015	kg
集 計 表							
D22					8015	kg	
(SD345) 合計					8015	kg	
フレア溶接の箇所数			D22 + D22		148	箇所	
鉄筋T1 定着鉄筋			D22		1666	kg	(C1)
鉄筋T その他					6349	kg	(C2, C3)
K ₁	D13	270	264	0.995	0.269	71	Ⅲ
D13					71	kg	

**曲げ加工
〈直角フック〉**

減長=2L-a

径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

Technical drawing showing the cross-section and reinforcement details of a reinforced concrete wall. The drawing includes dimensions and labels for various components.

Labels and Dimensions:

- Top Section:**
 - PC鋼棒 $\phi 32$ (PC Steel Bar $\phi 32$)
 - グラウト材充填 削孔径 $\phi 52$ (Grout material filling, hole diameter $\phi 52$)
 - Dimensions: 300, 181, 120, 100, 2287
- Reinforcement Details:**
 - 補強帯鉄筋 D22 (Reinforcement band steel D22)
 - 補強軸方向鉄筋 D22 (Reinforcement axial direction steel D22)
 - 7@300=2150 (7 bars at 300mm spacing = 2150mm)
 - 2400 (Total length of reinforcement band)
 - 2600 (Total length of reinforcement axial direction)
 - 150 (Offset dimension)
 - 100 (Offset dimension)
 - 250 (Width of reinforcement band)
 - 150 (Offset dimension)
 - 7@300=2100 (7 bars at 300mm spacing = 2100mm)
 - 2400 (Total length of reinforcement band)
 - 150 (Offset dimension)
 - 40 (Thickness of reinforcement band)
 - 250 (Width of reinforcement band)
- Bottom Section:**
 - 巻立てコンクリート (Cast-in-place concrete)
 - 9 (Thickness of reinforcement band)
 - 178 (Width of reinforcement band)

6-CH 250 \times 90 \times 9 \times 2400 (SS400)

Technical drawing of a bridge deck cross-section showing the reinforcement layout. The drawing includes dimensions for the deck width (2400mm), reinforcement spacing (400mm), and specific reinforcement details like anchor plates, washers, nuts, and PC steel bars. Labels indicate "アンカープレート ワッシャー M33", "ナット M33", "削孔径 φ52 グラウト材注入", and "PC鋼棒 φ32".

Technical drawing of a reinforcement bar (鉄筋) showing a side view and a cross-section.

Side View Dimensions:

- Central section length: 260mm以上
- End section lengths: 20mm以上
- Central section label: (10D) 220

Cross-section Dimensions:

- Bar diameter: $\phi 22$ (D22)
- Spacing: $S = 11.0\text{mm}$
- Distance from center to edge: $a = 5.6\text{mm}$

Technical drawing of a flange (フレア溶接) showing a dimension line indicating a distance of C_3 D22.

Figure 1: Reinforcement layout of the bridge deck. The diagram shows a cross-section of the deck with a total width of 300mm. The reinforcement layout includes a top layer of concrete (巻立てコンクリート) with a thickness of $t=300\text{mm}$. The reinforcement consists of D22 bars, including top reinforcement (補強帯鉄筋) and longitudinal reinforcement (補強軸方向鉄筋). The dimensions are: 134mm for the top reinforcement, 166mm for the longitudinal reinforcement, and 101mm for the top reinforcement. The distance between the top reinforcement bars is 22mm. The diagram also shows the existing structure (既設) and the new structure (新設).

Technical drawing of a 24-PC steel rod (φ32 x 2240) with a 150mm thread length and M33 thread specification.

48-ナット M33 (S45C)

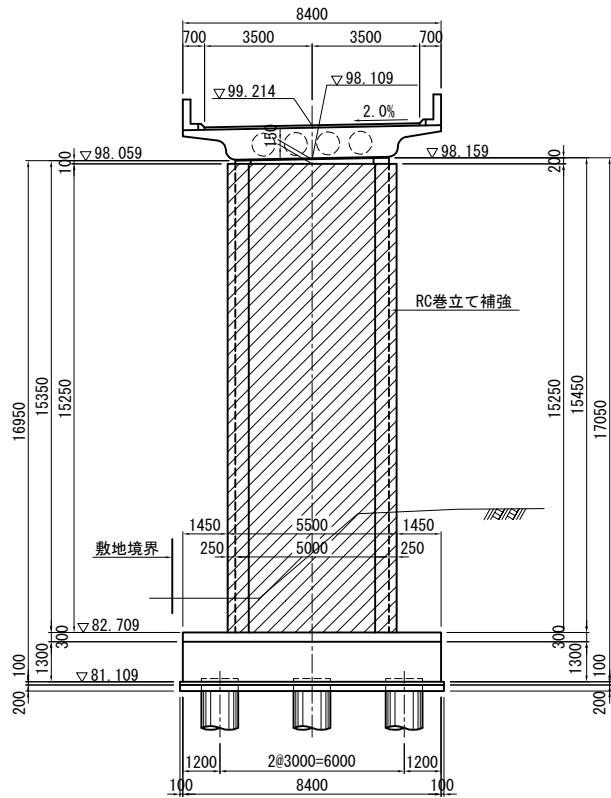
48-PL 165 × 32 × 165 (SS400)

48-ワッシャー M33(SS400)

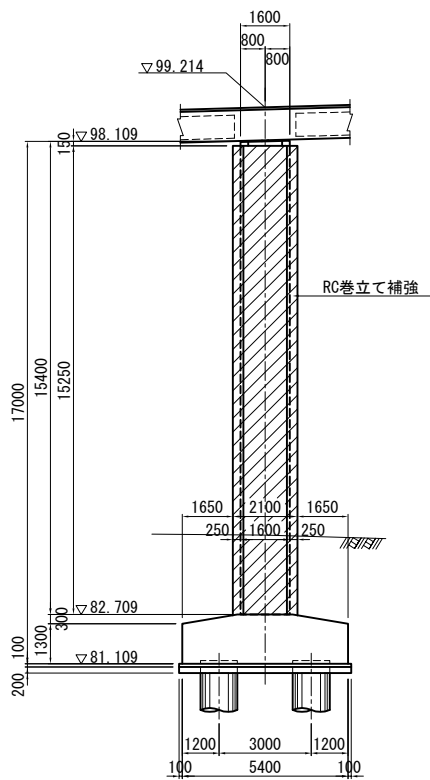
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定定着の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利谷JCT第一橋 P3橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

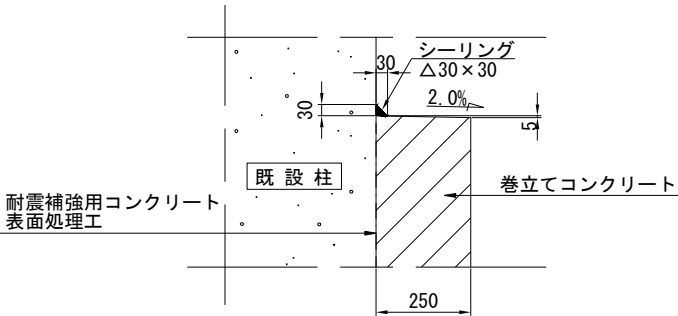
正面図 S=1:250



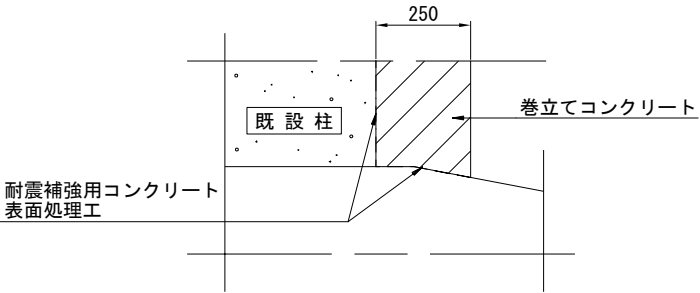
側面図 S=1:250



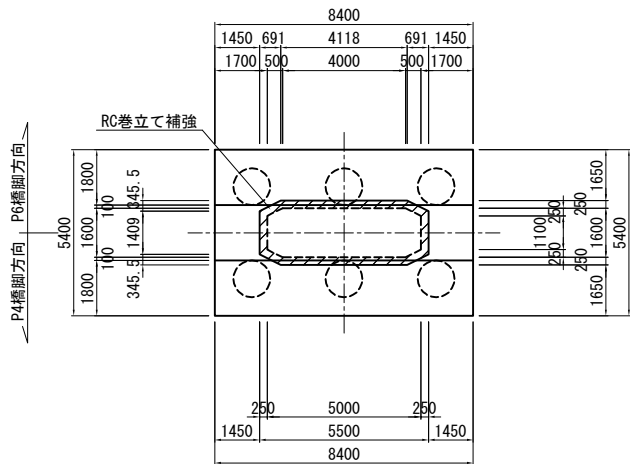
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

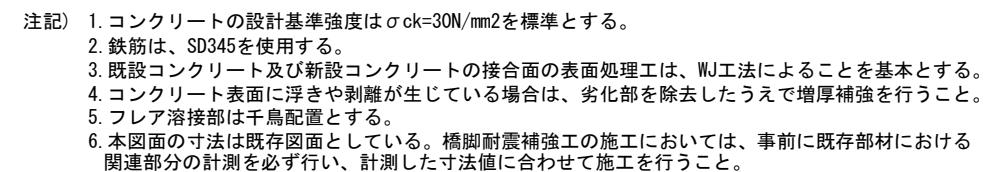
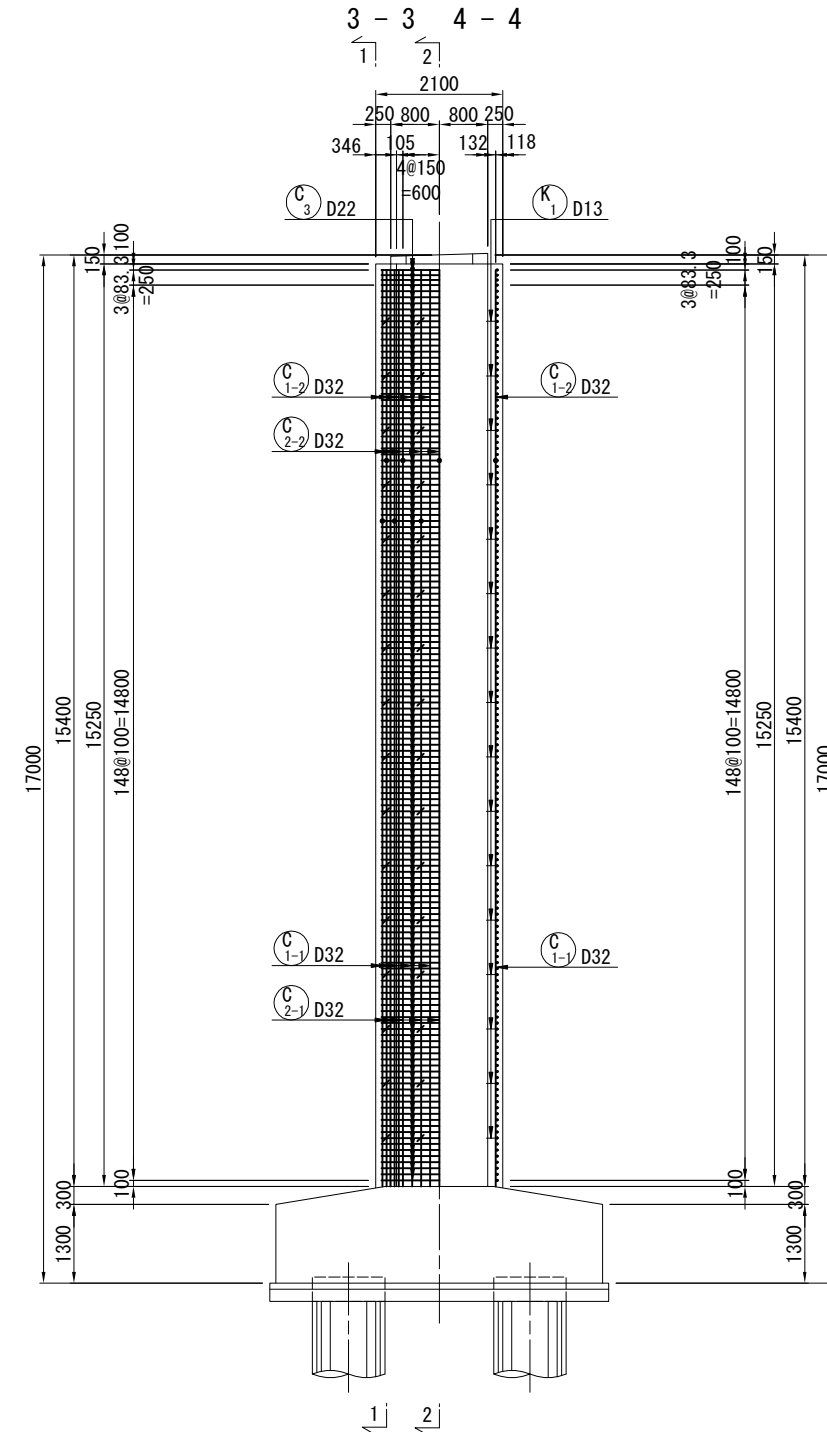


平面図 S=1:250

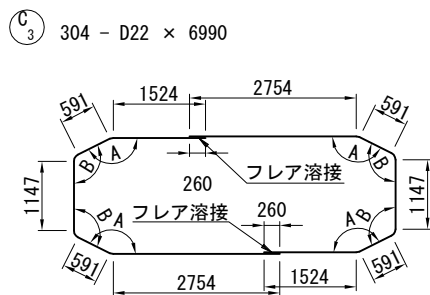
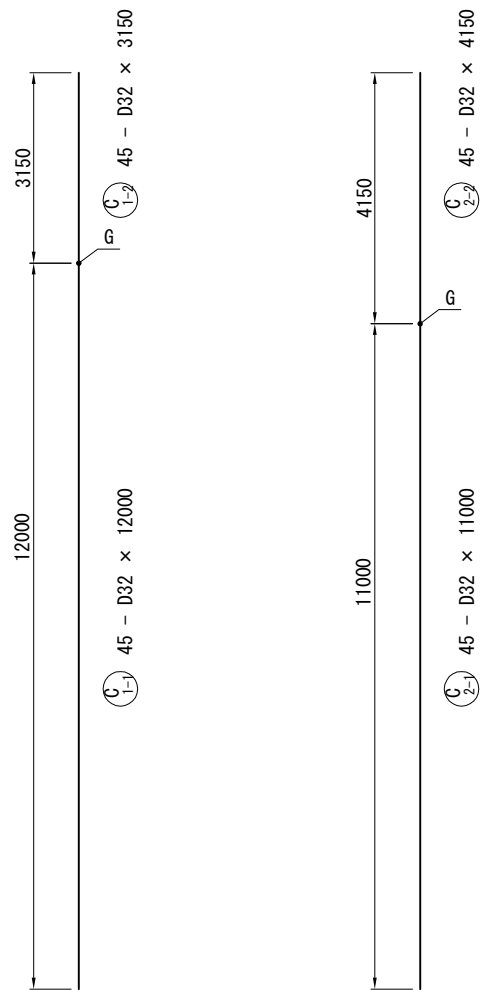


- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

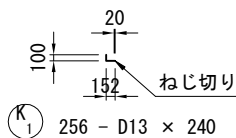
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強構造一般図		
	縮 尺	図 示	図面番号 23 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	24 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜管理事務所		



	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



鉄筋表

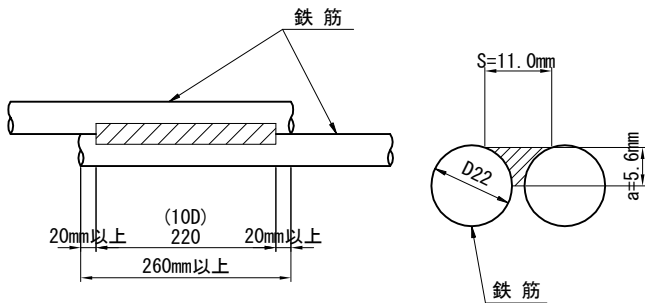
種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1 本当質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	12000	45	6. 23	74. 8	3366	↑ (45)
C 1-2	D32	3150	45	6. 23	19. 6	882	↓
C 2-1	D32	11000	45	6. 23	68. 5	3083	↑ (45)
C 2-2	D32	4150	45	6. 23	25. 9	1166	↓
C 3	D22	6990	304	3. 04	21. 2	6445	└
SD345 小計						14942	kg
集 計 表							
D32					8497	kg	(90)
D22					6445	kg	
鉄筋T (SD345) 合計					14942	kg	(90)
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	304	箇所	
ガス圧接の箇所数				D32 + D32	90	箇所	
K 1	D13	240	256	0. 995	0. 239	61	└
D13					61	kg	

鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

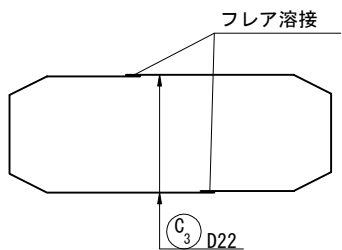
フレア溶接詳細図

S=1:10



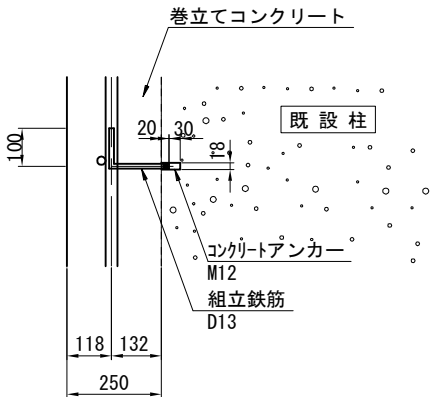
補強帯鉄筋組立図

S=1:20



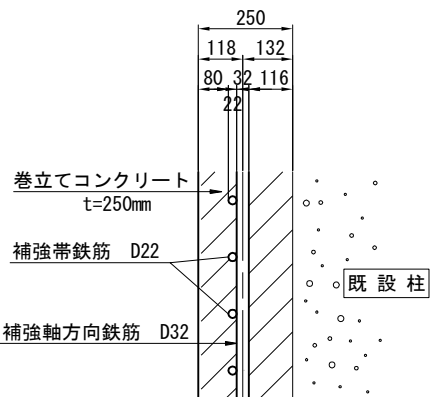
組立て筋詳細図(参考図)

S=1:20



かぶり詳細図

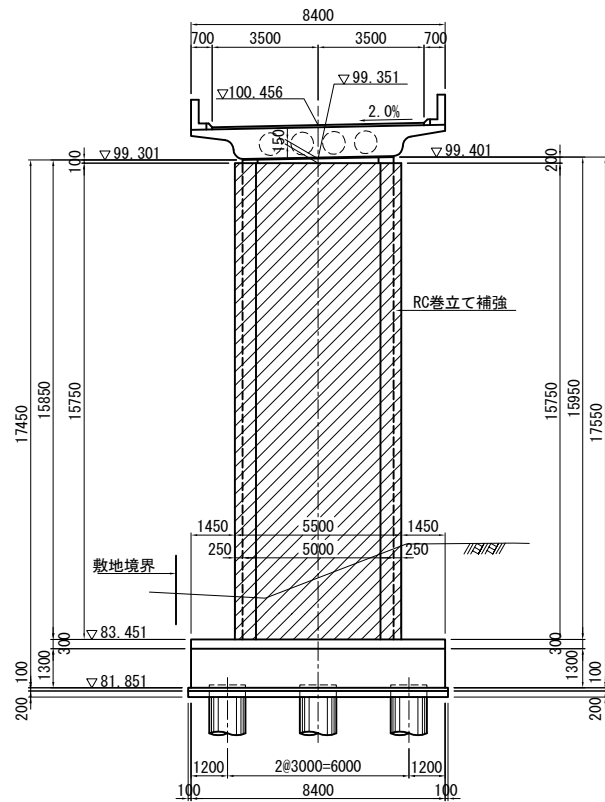
S=1:20



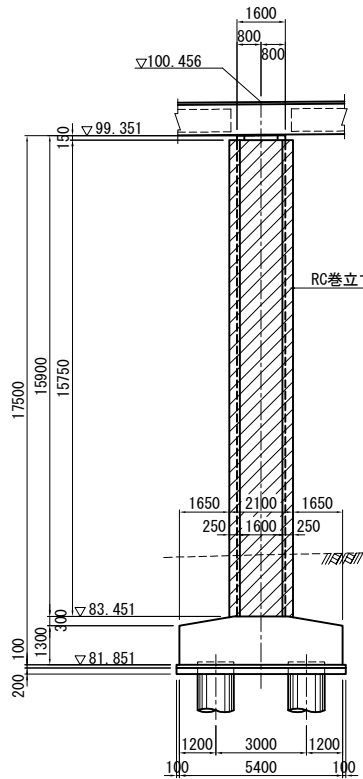
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面は、全てWJによる表面処理を行う。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P5橋脚耐震補強詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 25 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

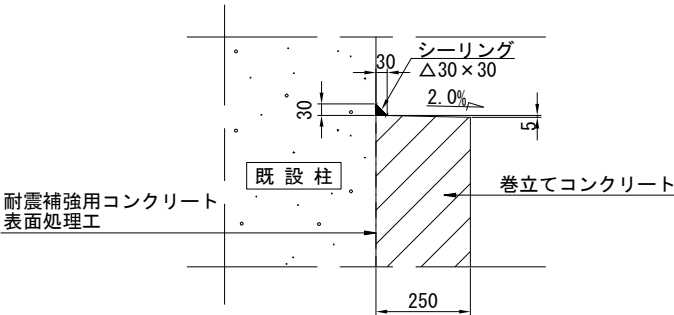
正面図 S=1:250



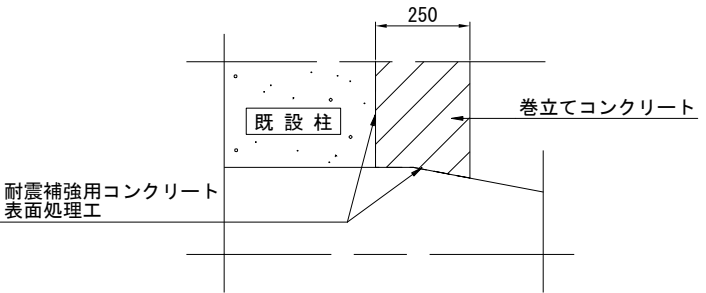
側面図 S=1:250



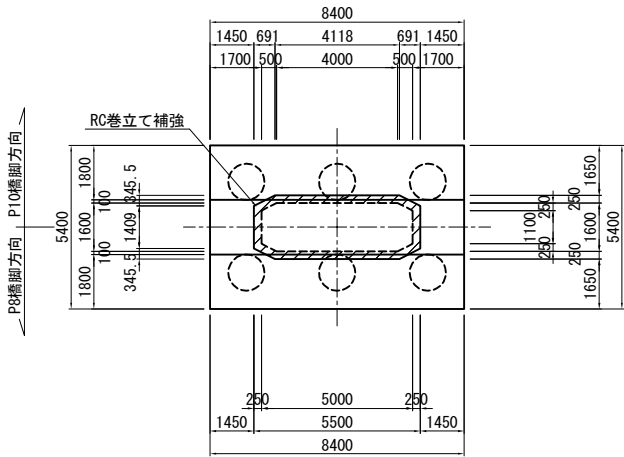
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

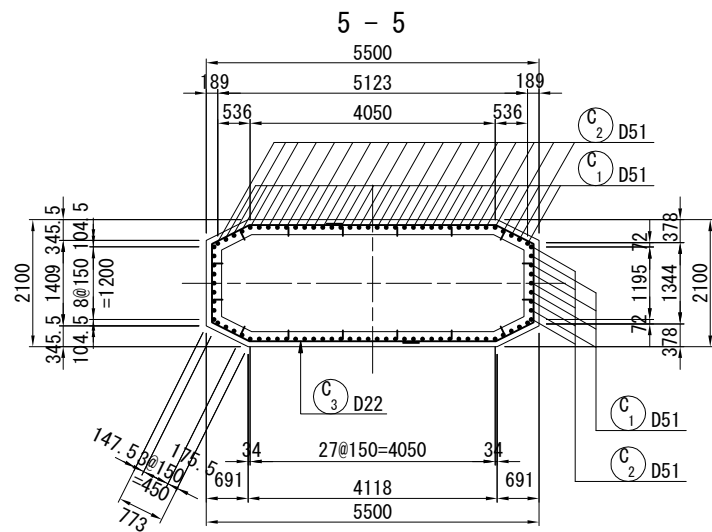
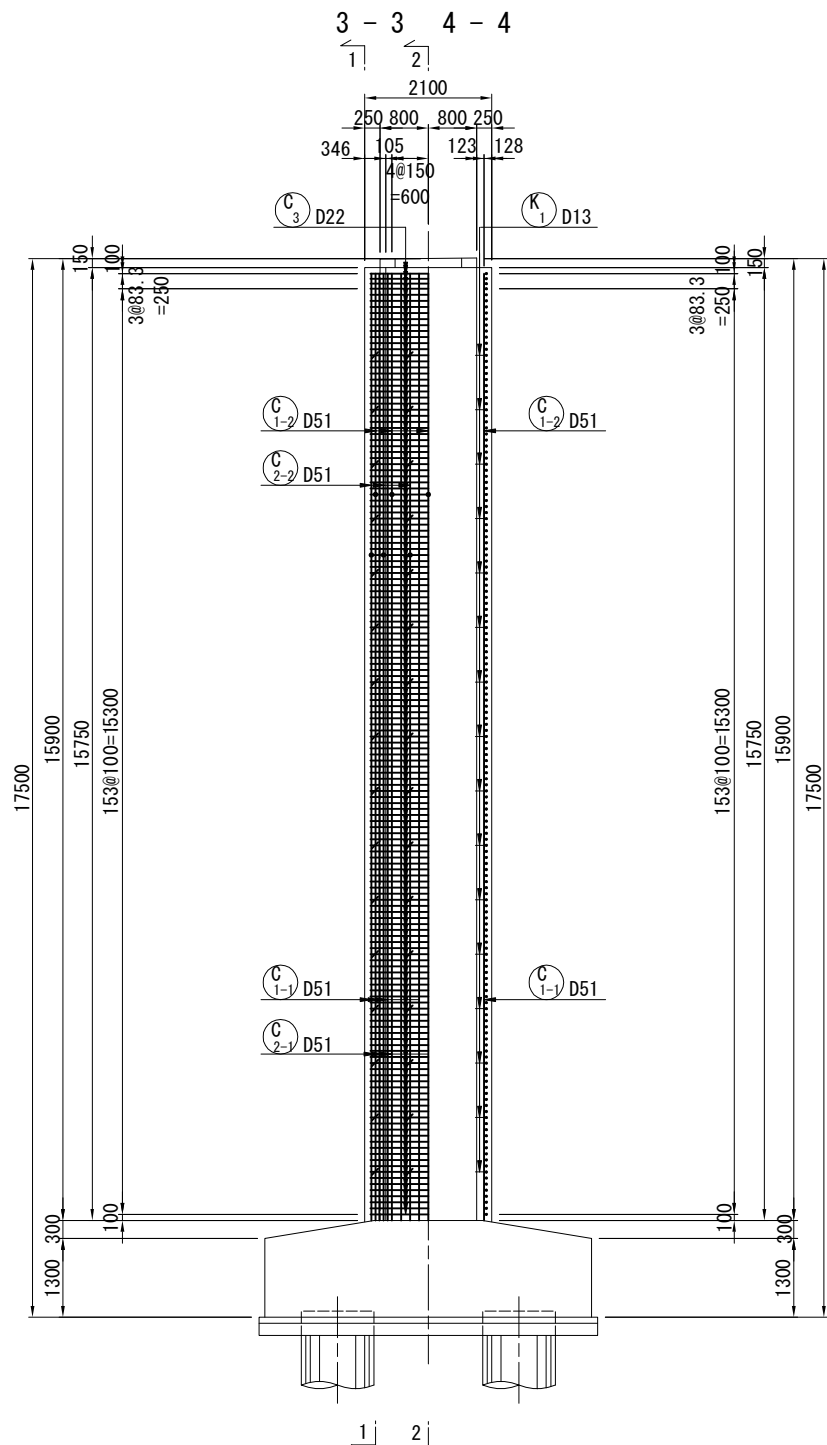
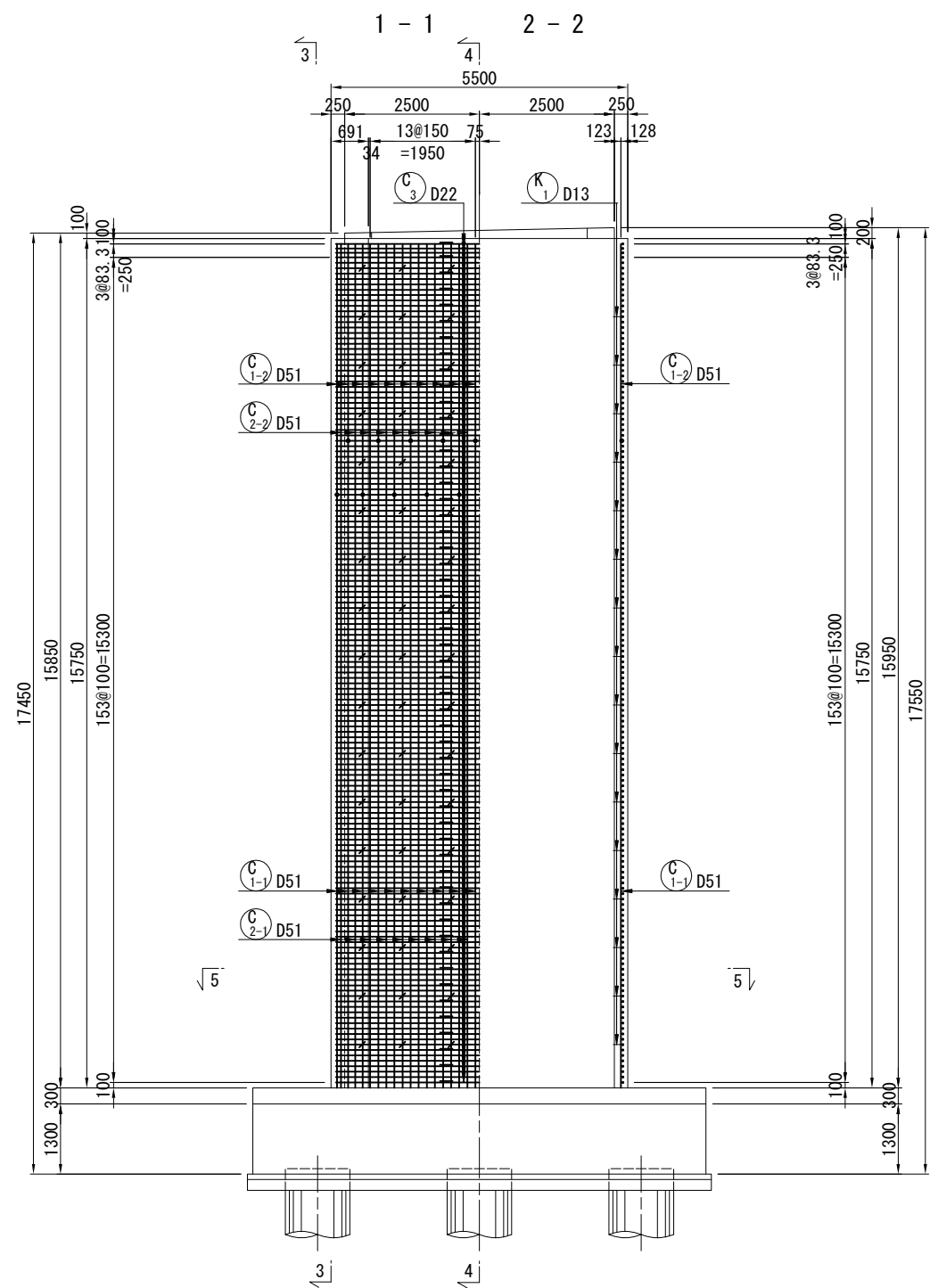


平面図 S=1:250



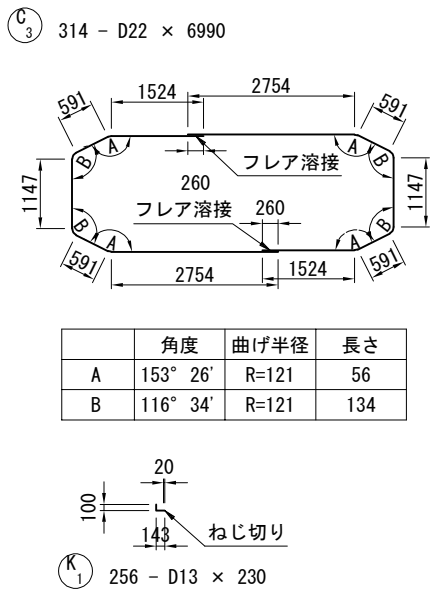
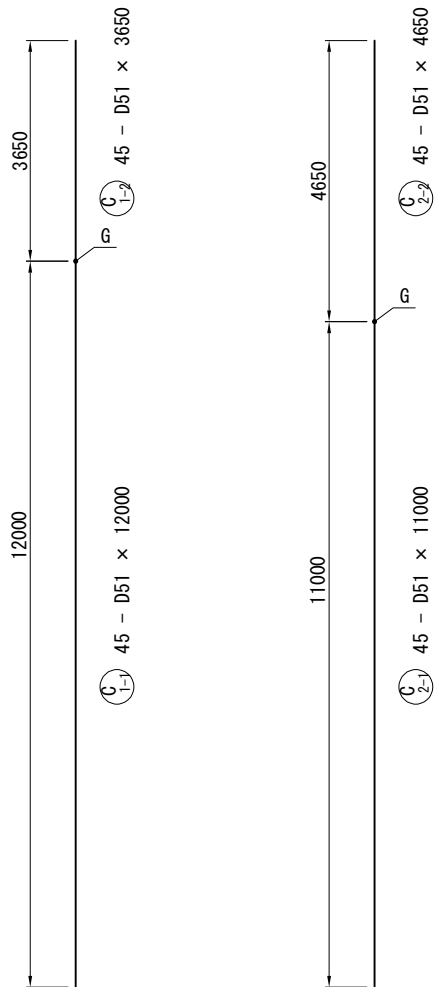
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易測量結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	26 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N}/\text{mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P9橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	27 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



鉄筋表

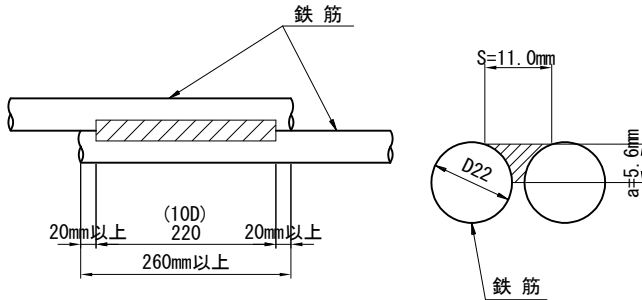
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D51	12000	45	15.9	191	8595	↑ (45)
C 1-2	D51	3650	45	15.9	58.0	2610	↓
C 2-1	D51	11000	45	15.9	175	7875	↑ (45)
C 2-2	D51	4650	45	15.9	73.9	3326	↓
C 3	D22	6990	314	3.04	21.2	6657	⌋
SD345 小計							29063 kg
集 計 表							
D51					22406	kg	(90)
D22					6657	kg	
鉄筋T (SD345) 合計					29063	kg	(90)
フレア溶接の箇所数							
D22 + D22					314	箇所	
ガス圧接の箇所数					90	箇所	
K 1							
D13		230	256	0.995	0.229	59	⌋
D13					59	kg	

鉄筋加工寸法表

SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

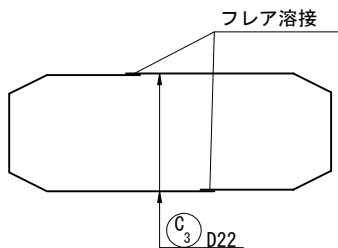
フレア溶接詳細図

S=1:10



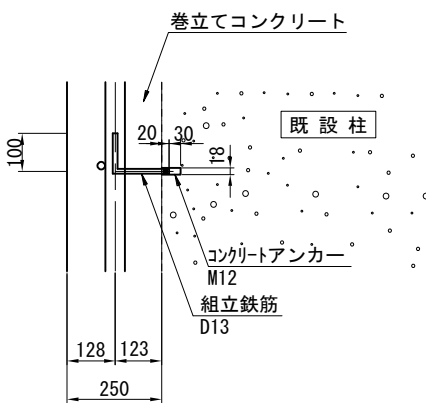
補強帯鉄筋組立図

S=1:20



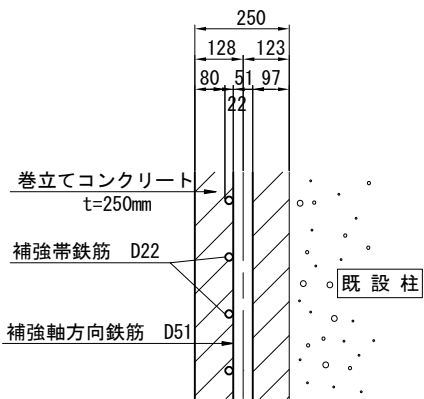
組立て筋詳細図(参考図)

S=1:20

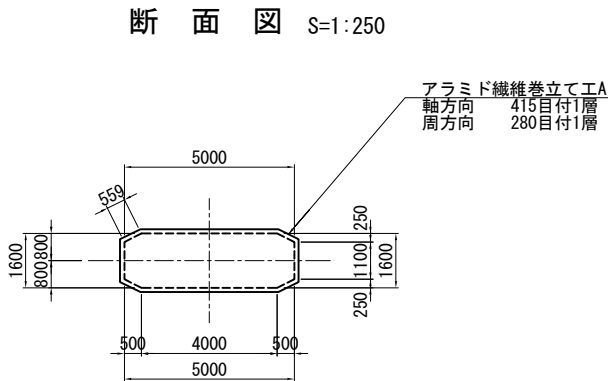
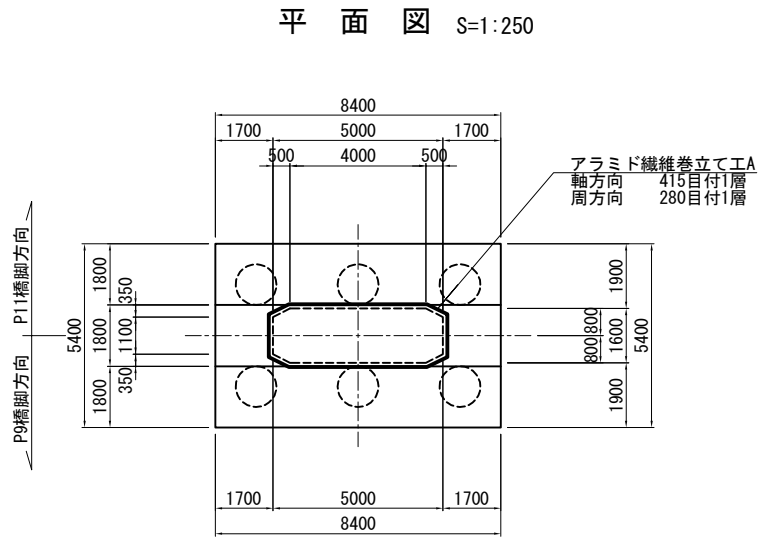
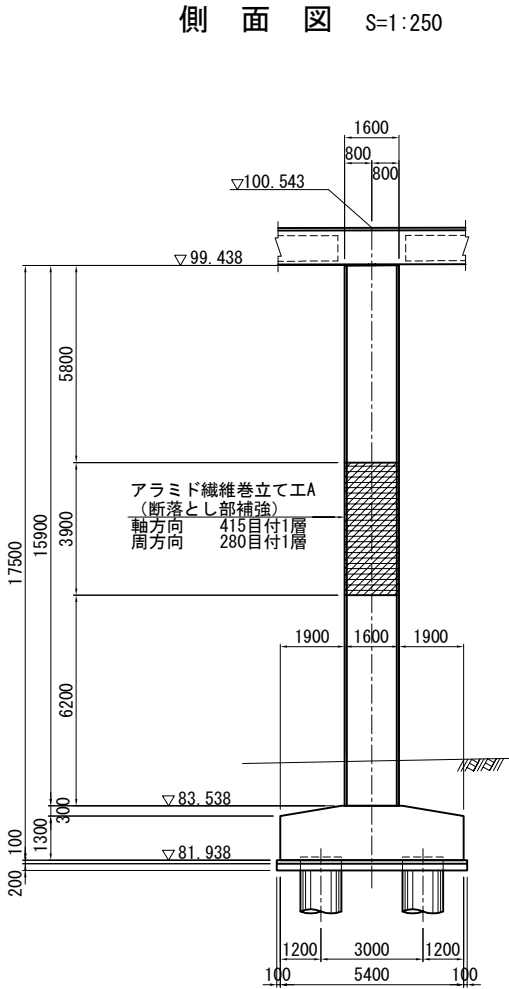
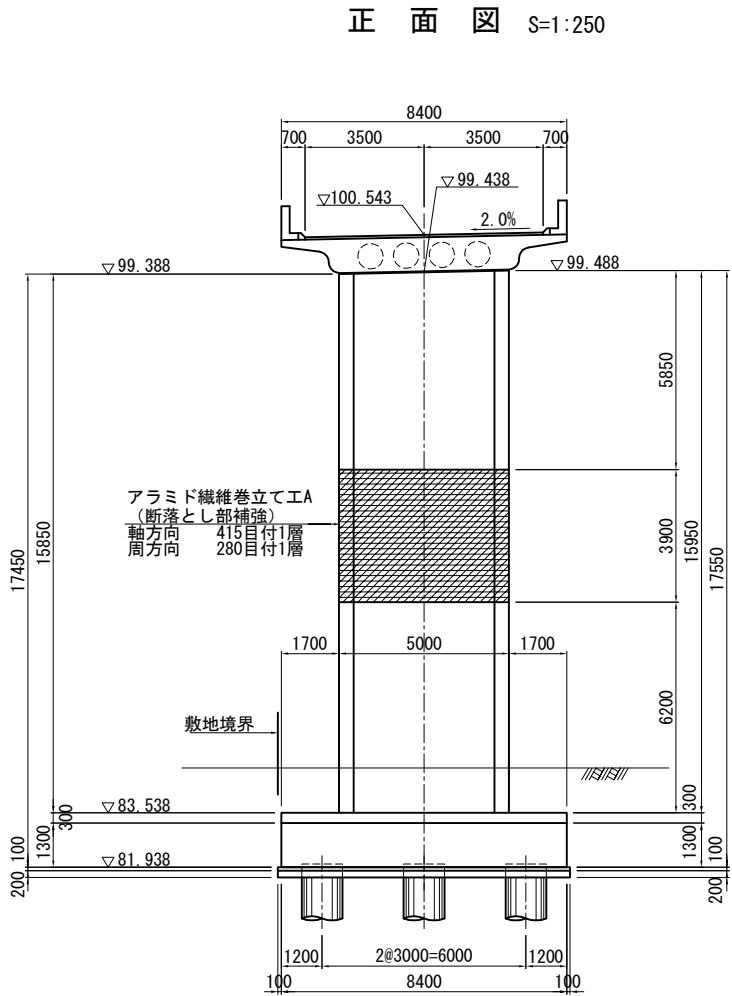


かぶり詳細図

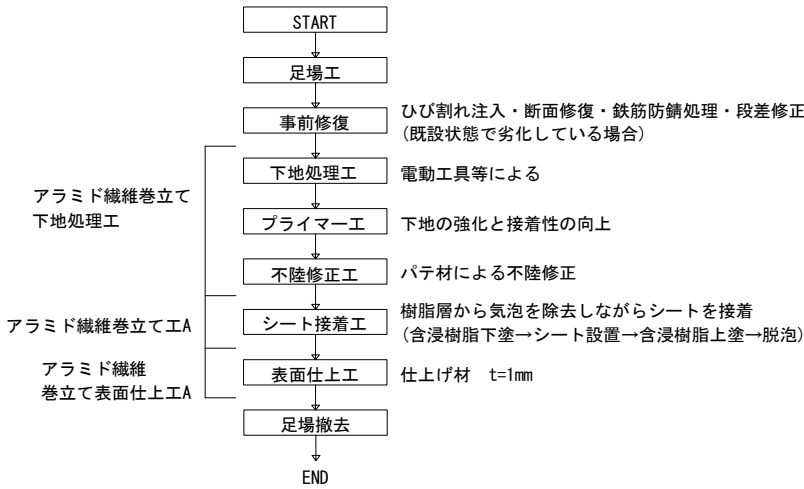
S=1:20



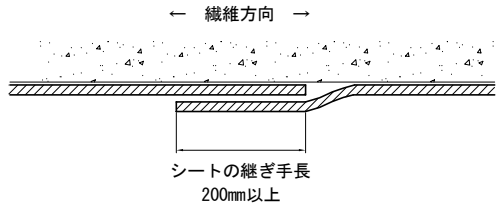
注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。



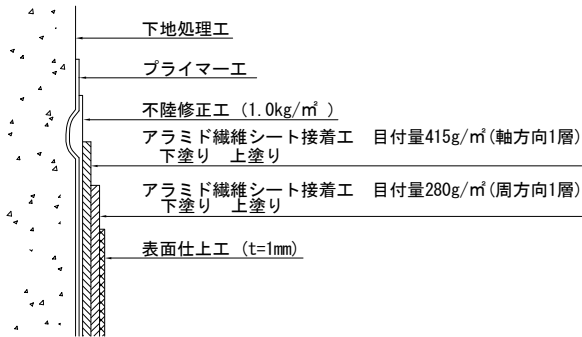
施工工程 (参考)



継ぎ手部



シート貼付け施工要領図



アラミド繊維シート性能表

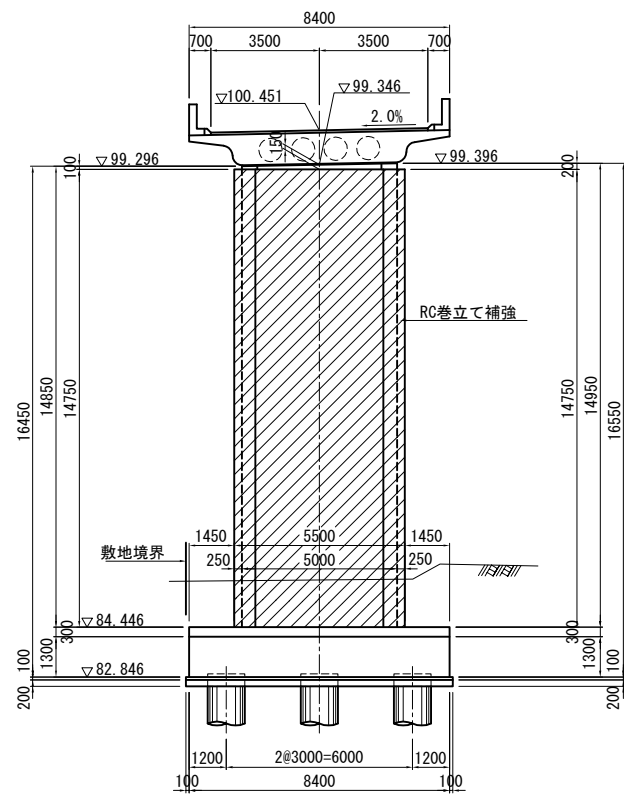
繊維目付 (g/m2)	引張強度 (N/mm2)	設計厚さ (mm/枚)
280	2,060	0.193
415	2,060	0.286

注 記)

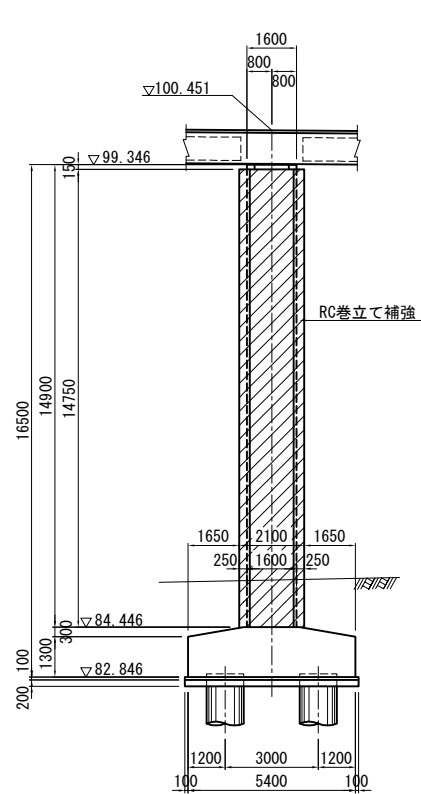
- 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上、施工を行うこと。
また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
- 不陸修正材（エポキシパテ）の使用量は、下地状況確認後決定する。
- エポキシ樹脂は、施工時の気温5℃以下・雨天等湿度85%以上の場合は、施工してはならない。
施工時には、水気を嫌うので十分注意する。
- シートの施工順序は、軸方向の後に周方向を施工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P10橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

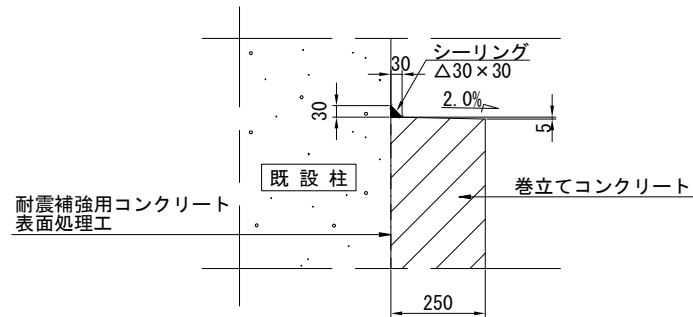
正面図 S=1:250



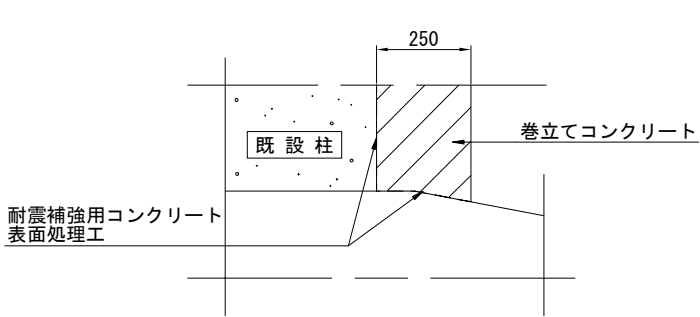
側面図 S=1:250



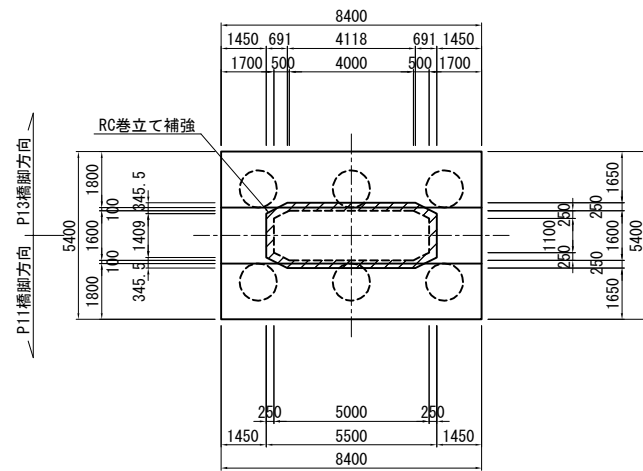
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

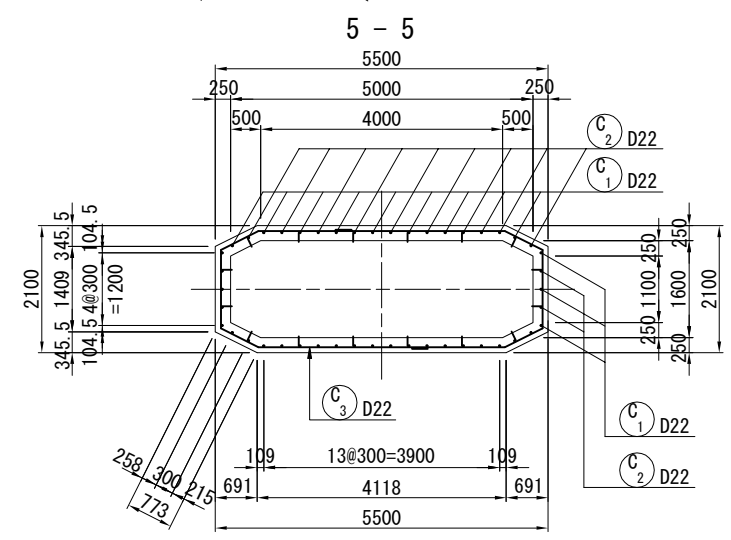
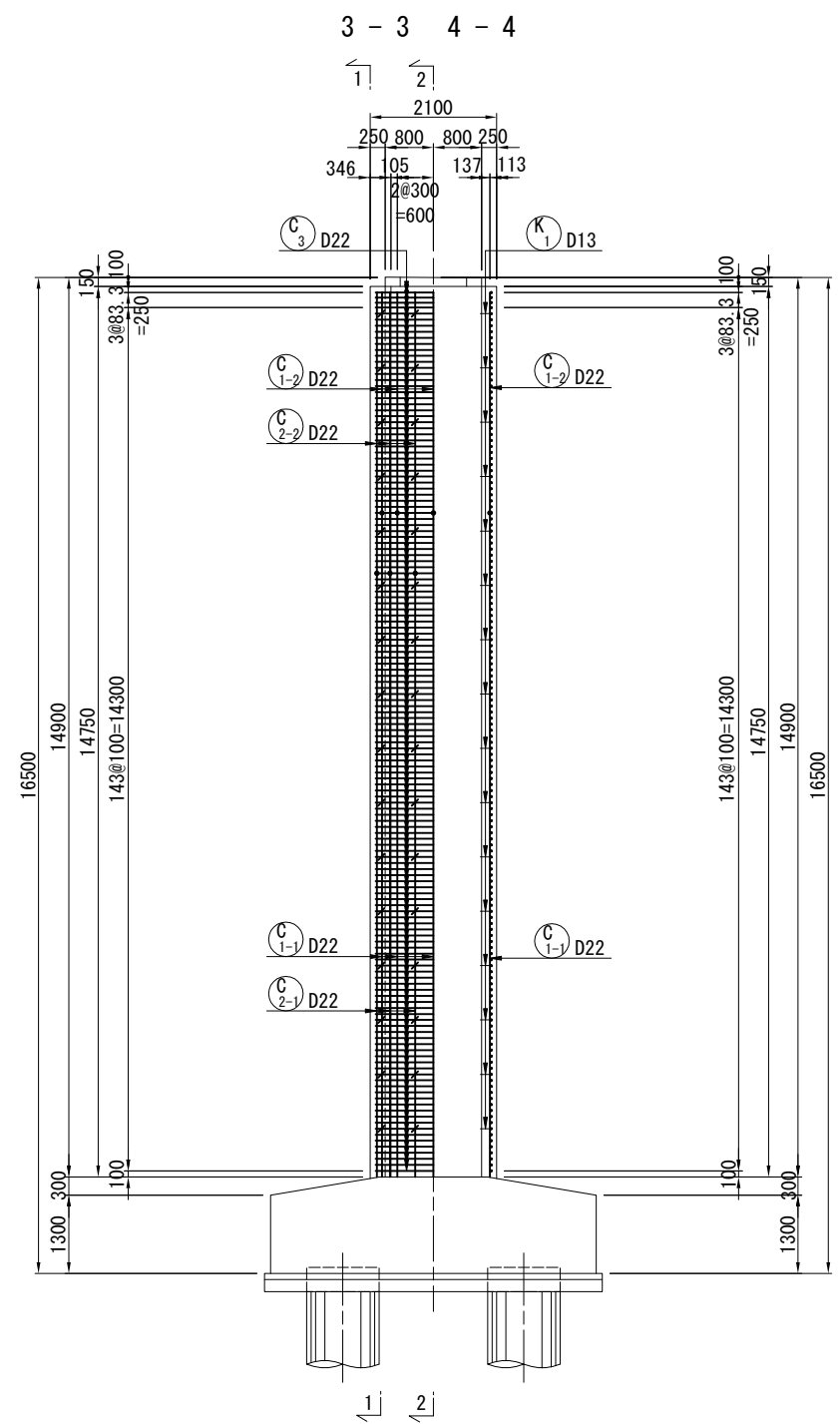
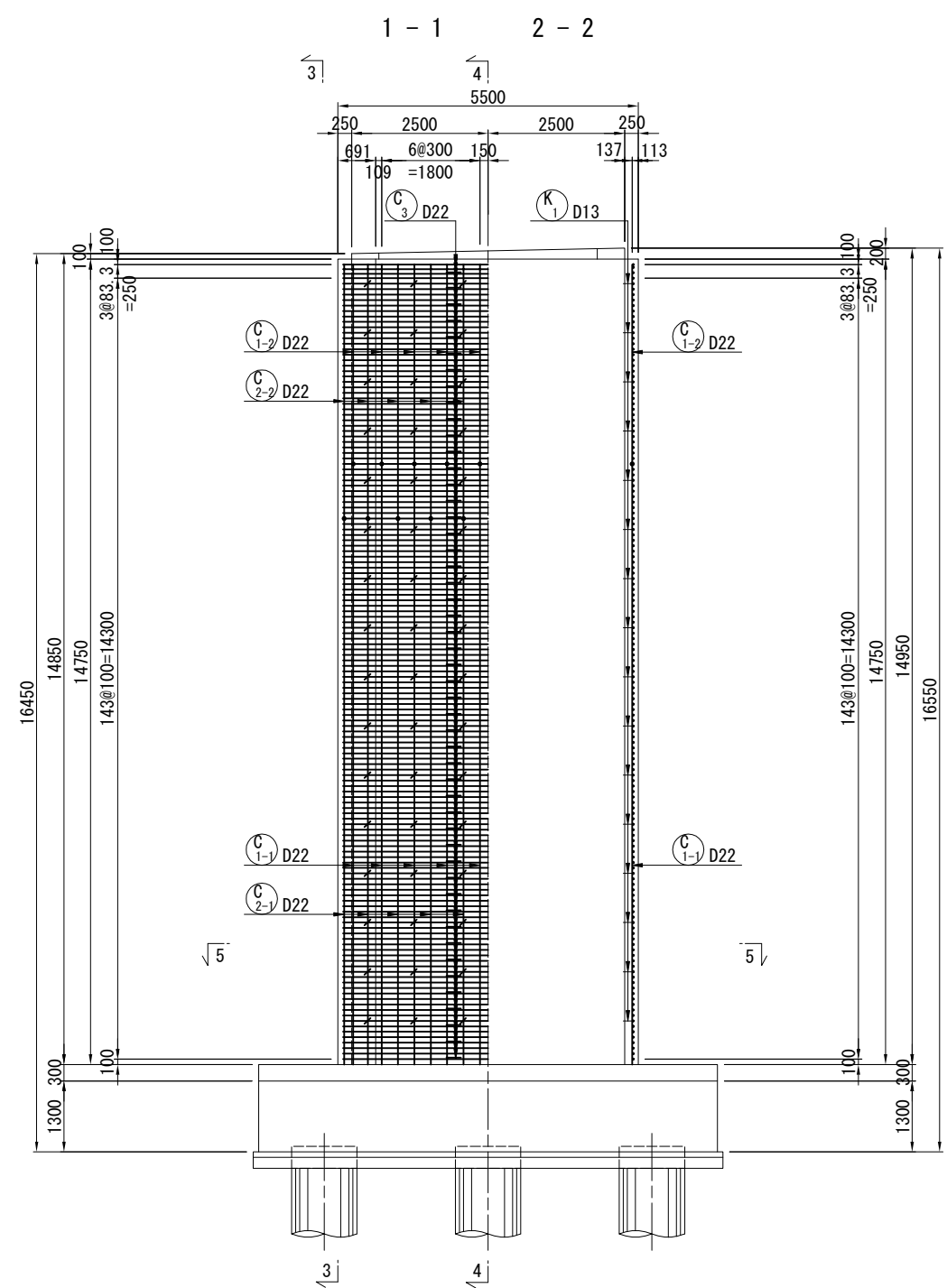


平面図 S=1:250



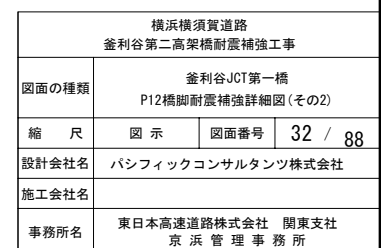
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	30 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

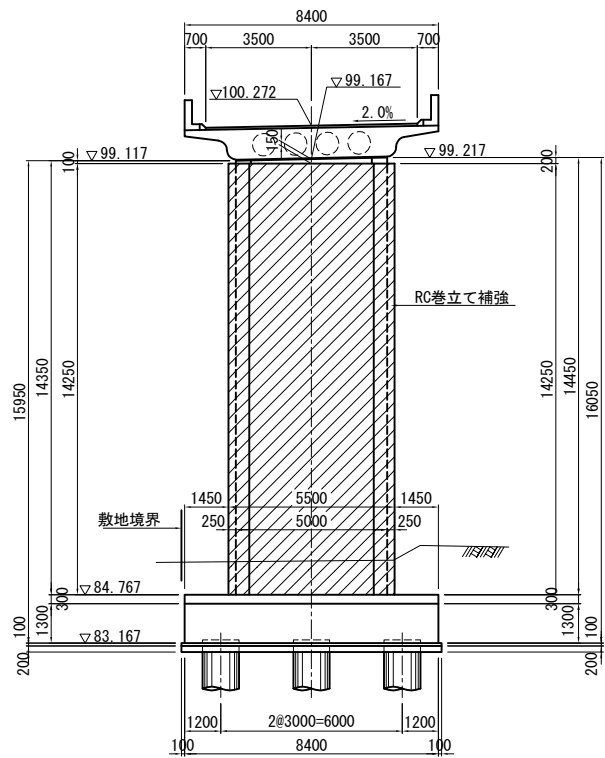


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

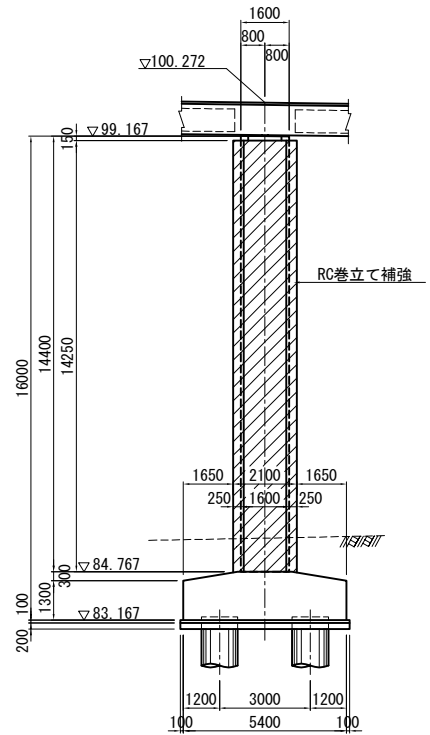
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P12橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 31 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



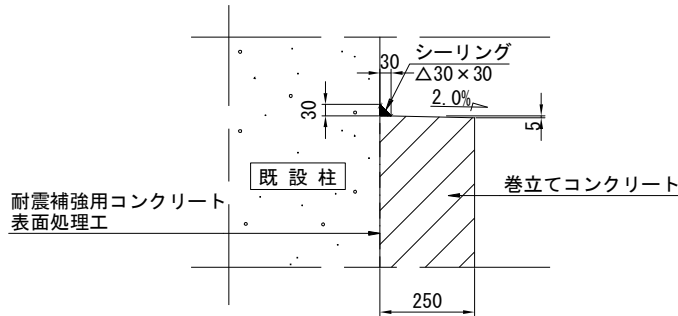
正面図 S=1:250



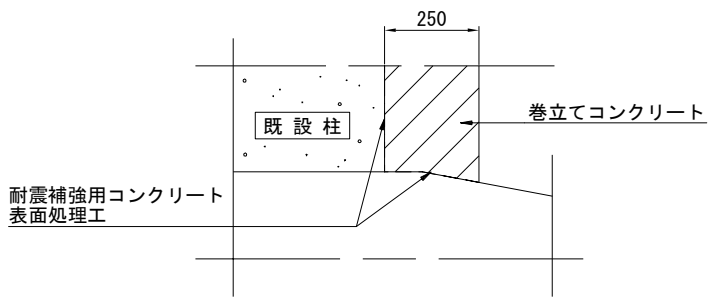
側面図 S=1:250



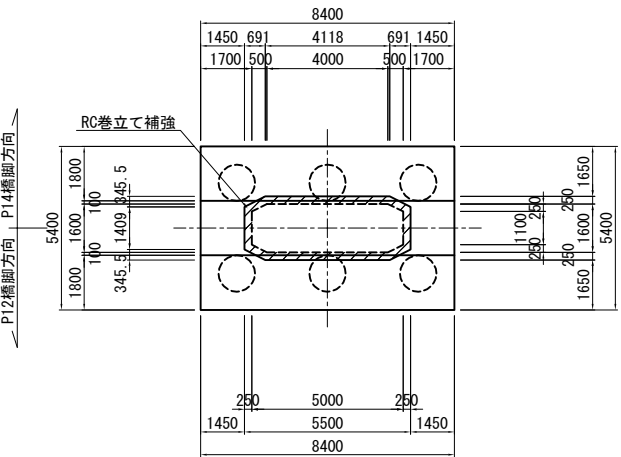
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

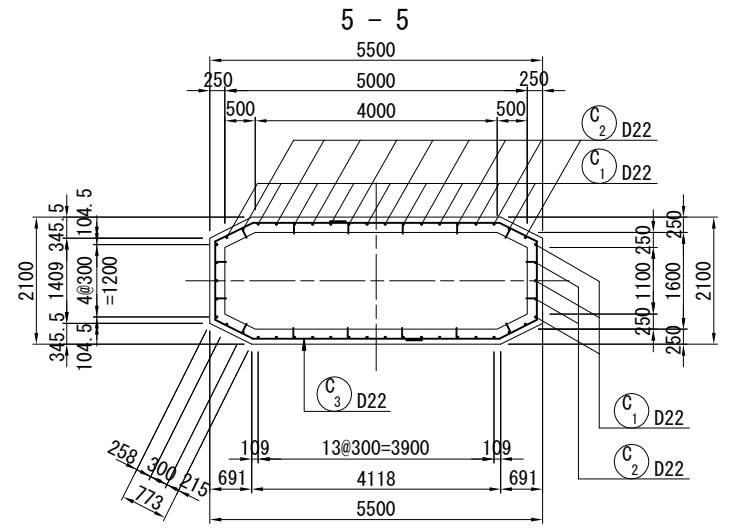
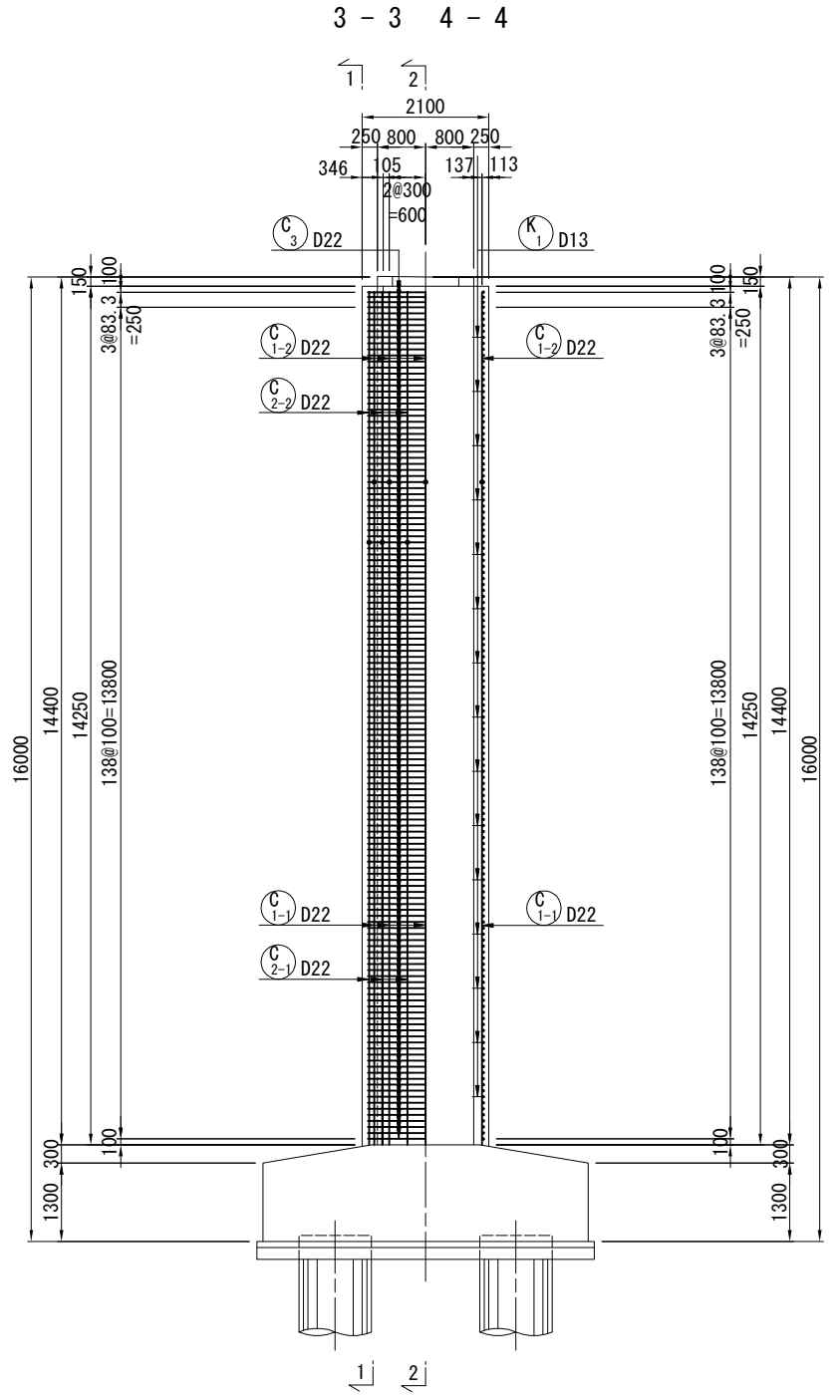
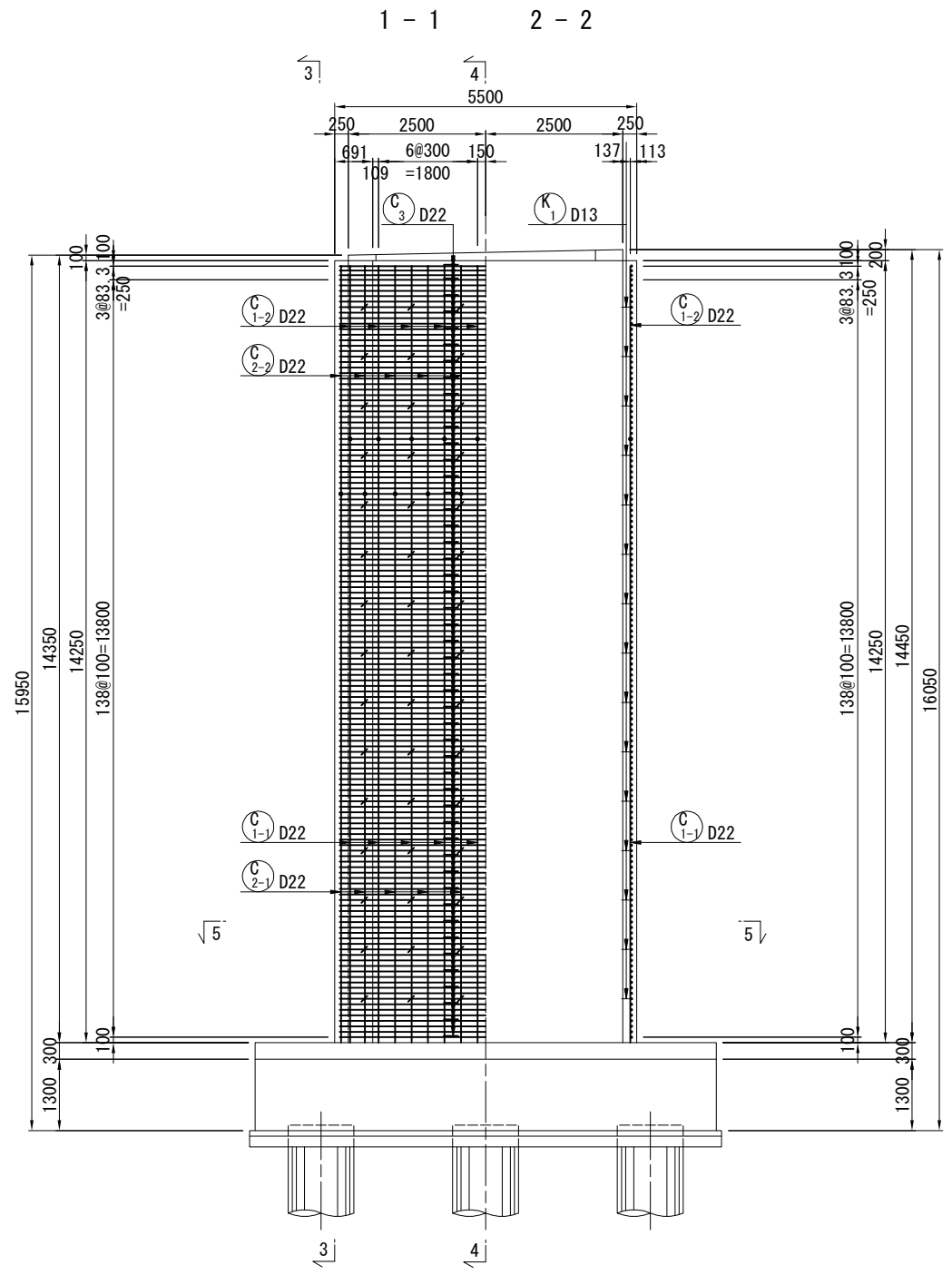


平面図 S=1:250



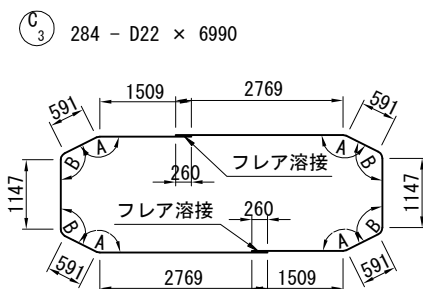
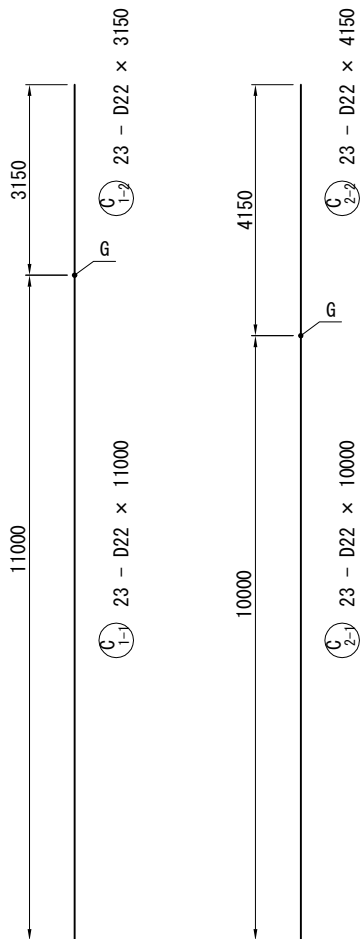
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	33 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

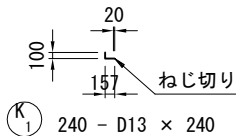


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

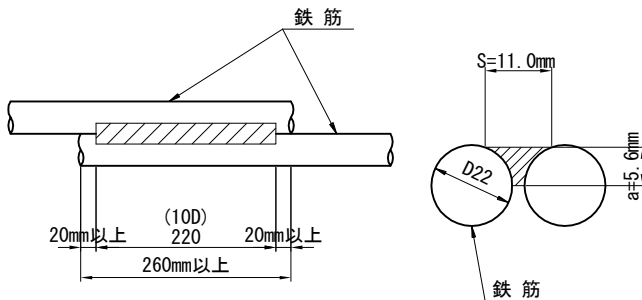
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



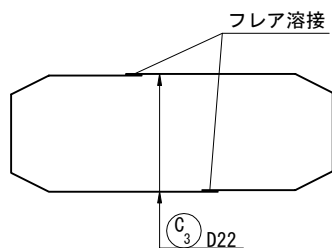
	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134



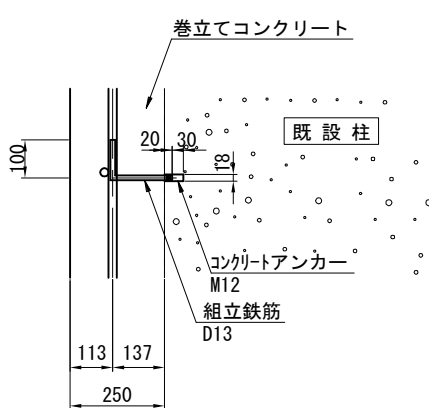
フレア溶接詳細図 S=1:10



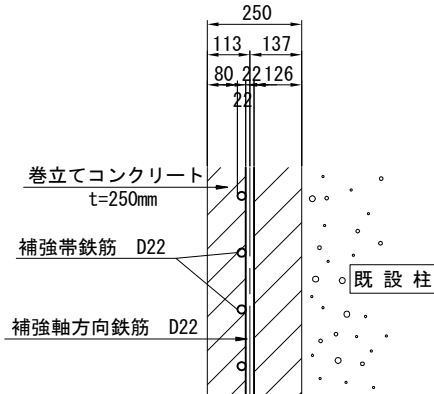
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



かぶり詳細図 S=1:20



鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	11000	23	3.04	33.4	768	↑ (23)
C 1-2	D22	3150	23	3.04	9.58	220	↓
C 2-1	D22	10000	23	3.04	30.4	699	↑ (23)
C 2-2	D22	4150	23	3.04	12.6	290	↓
C 3	D22	6990	284	3.04	21.2	6021	└
SD345 小計						7998 kg	
集計表							
D22						7998 kg	(46)
鉄筋T (SD345) 合計						7998 kg	(46)
フレア溶接の箇所数							D22 + D22 284 箇所
ガス圧接の箇所数							D22 + D22 46 箇所
K 1							D13 240 240 0.995 0.239 57 └
D13						57 kg	

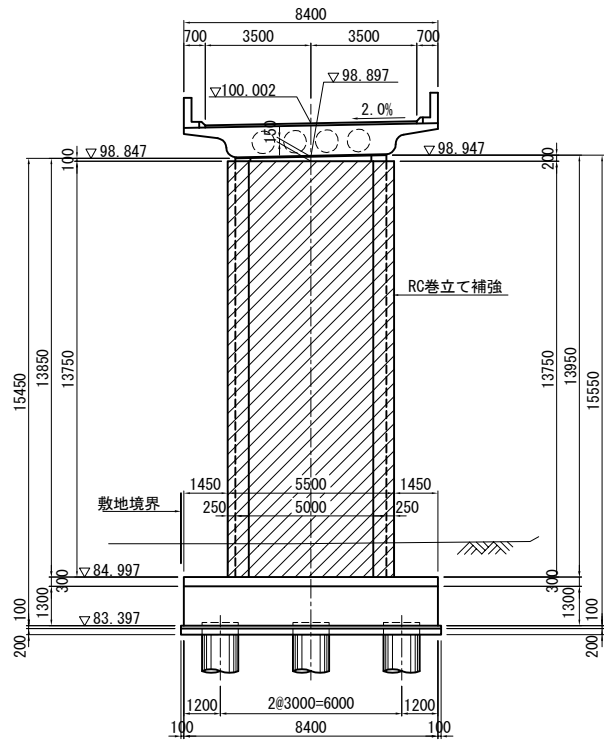
鉄筋加工寸法表

SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

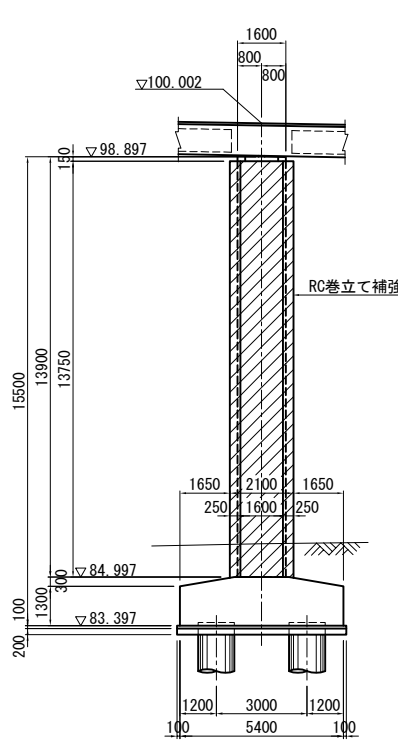
- 注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P13橋脚耐震補強詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	35 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

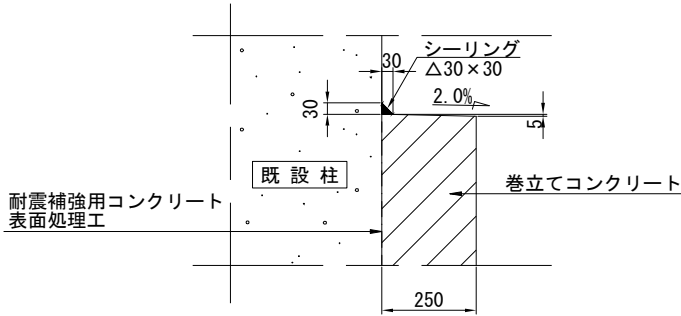
正面図 S=1:250



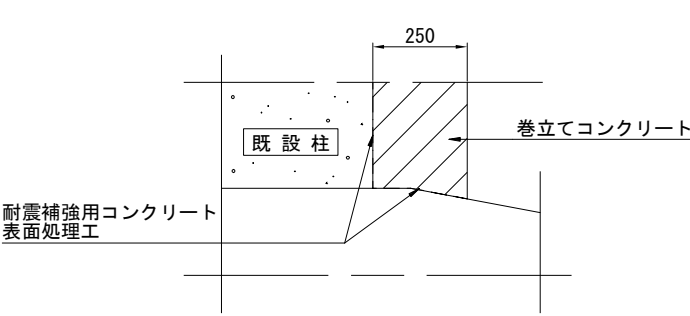
側面図 S=1:250



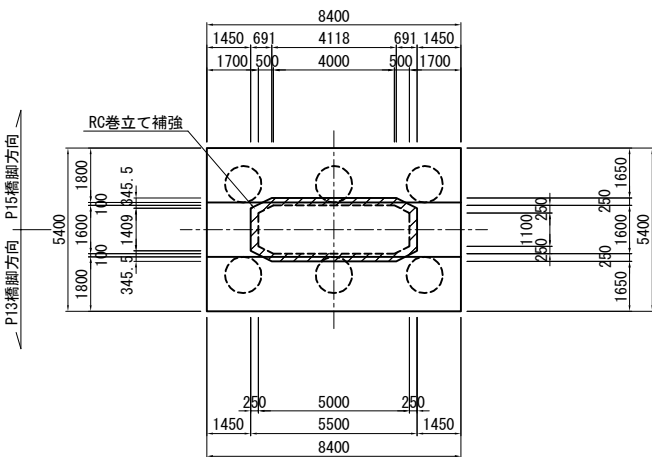
巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20



巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20

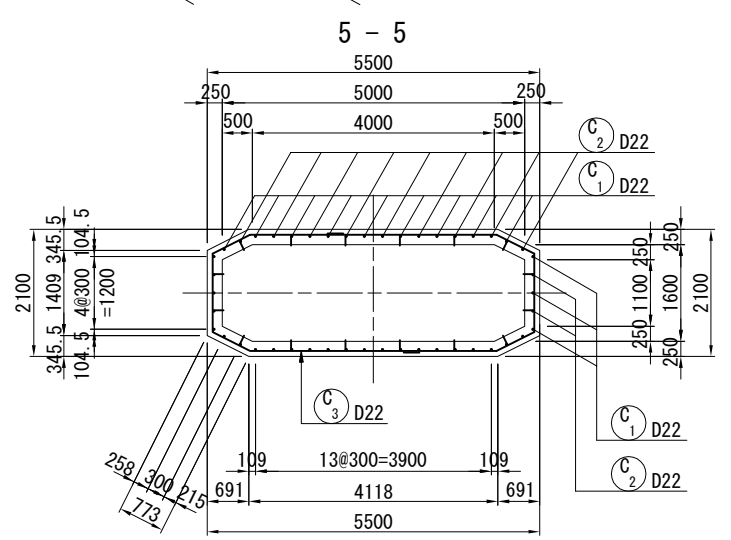
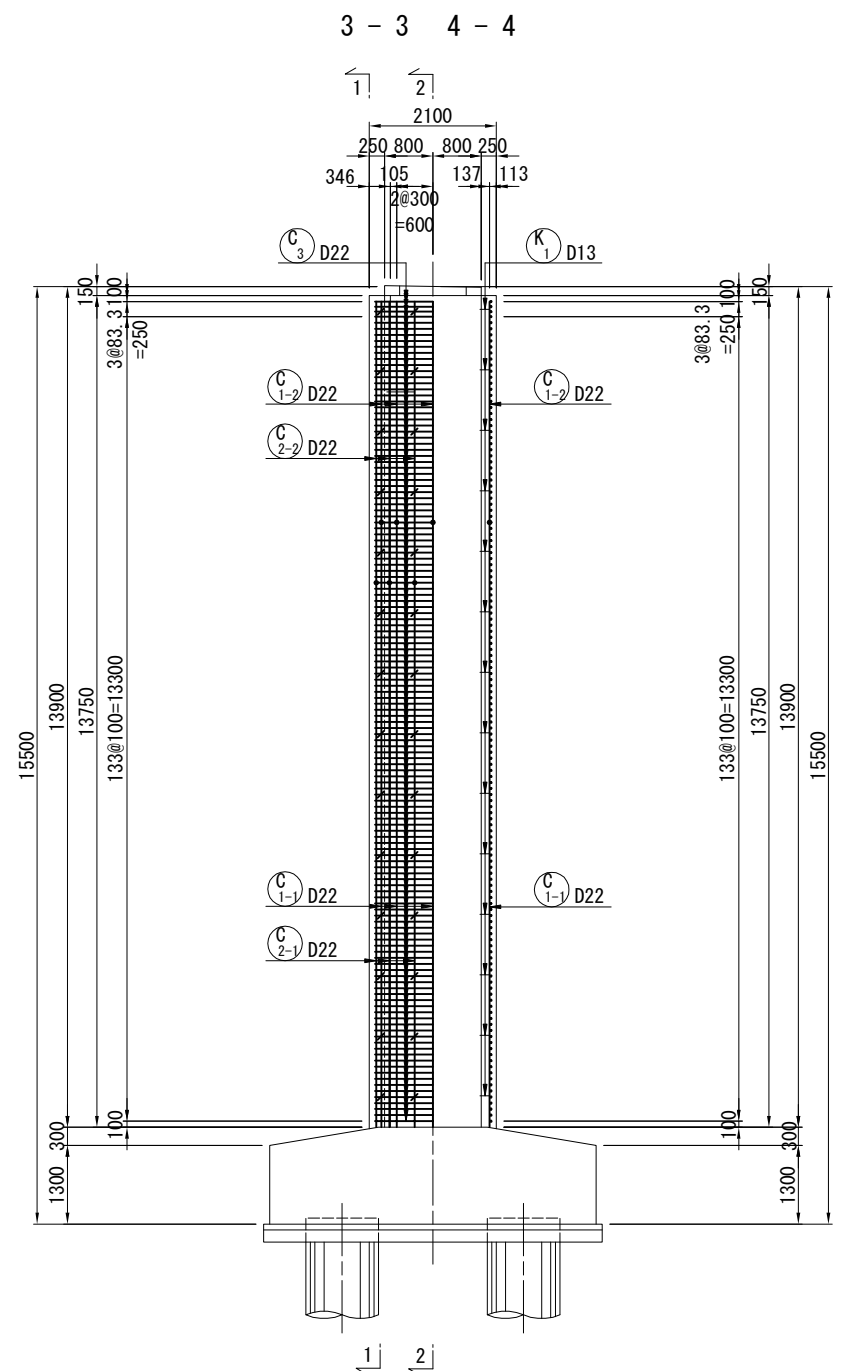
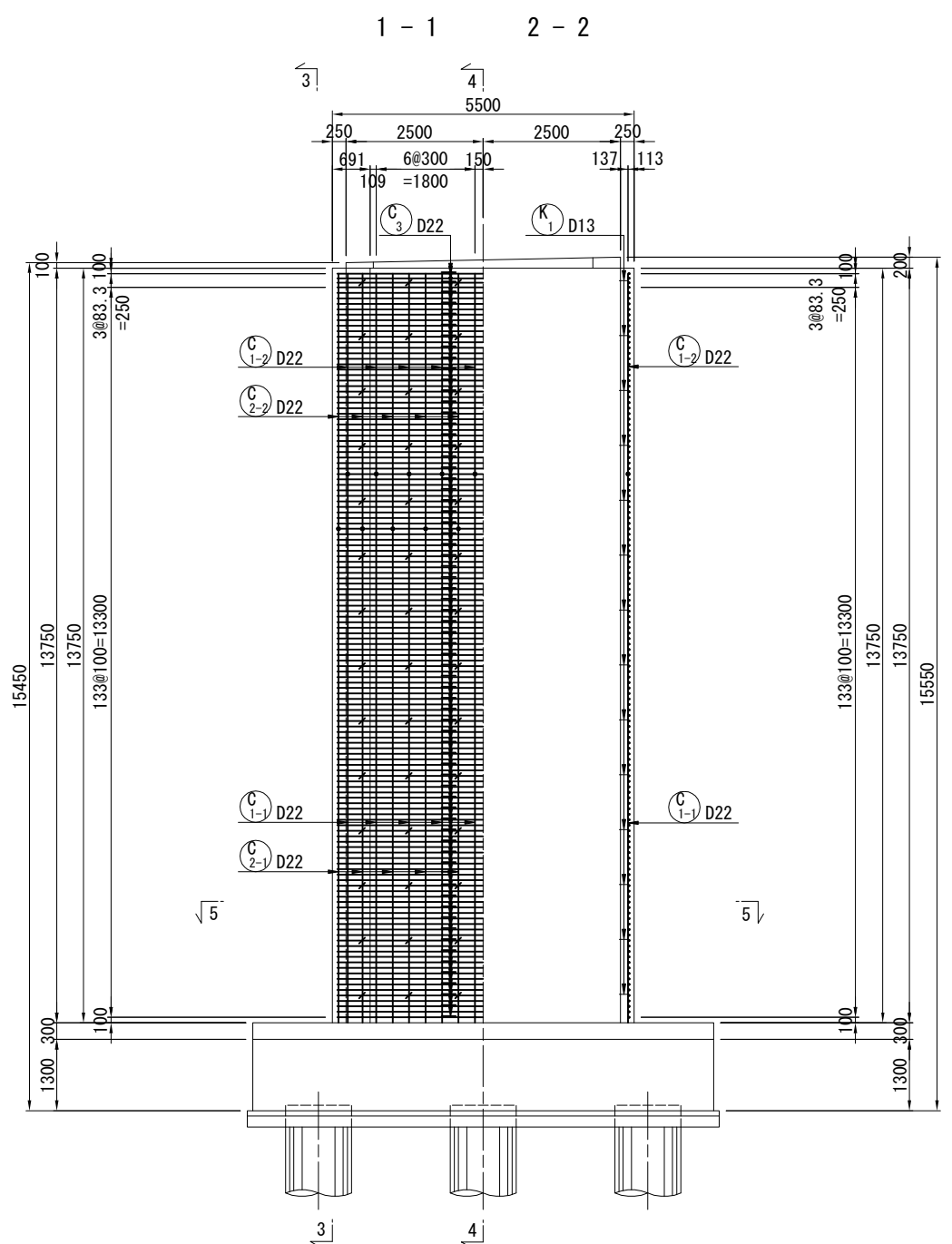


平面図 S=1:250



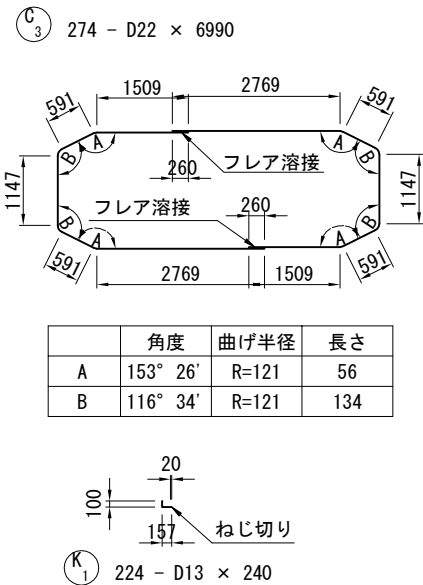
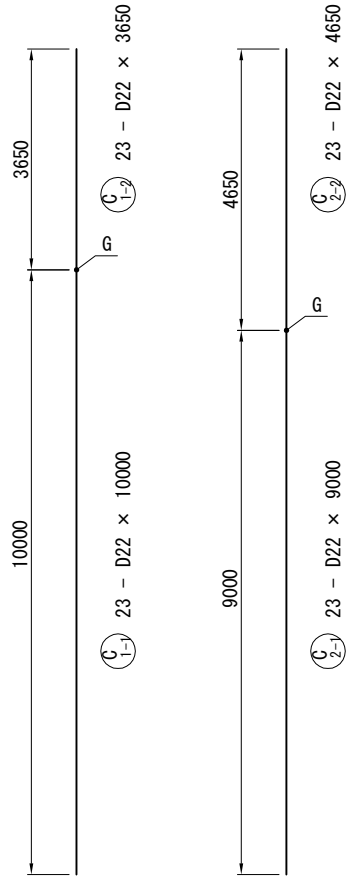
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強構造一般図		
	縮 尺	図 示	図面番号 36 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



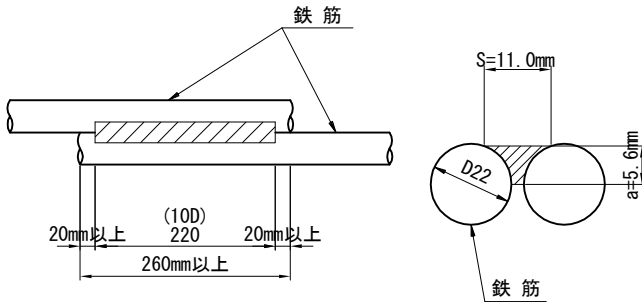
注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P14橋脚耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

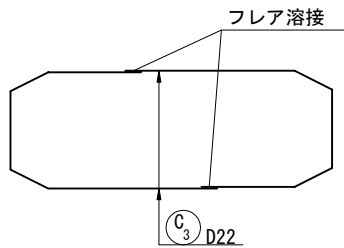


	角度	曲げ半径	長さ
A	153° 26'	R=121	56
B	116° 34'	R=121	134

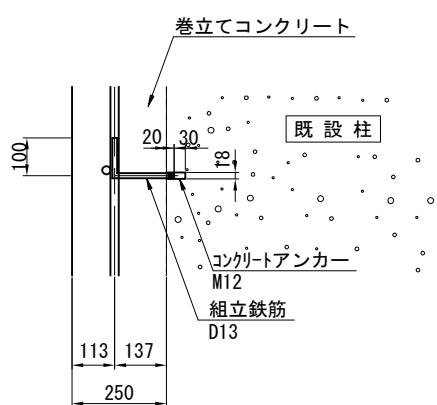
フレア溶接詳細図 S=1:10



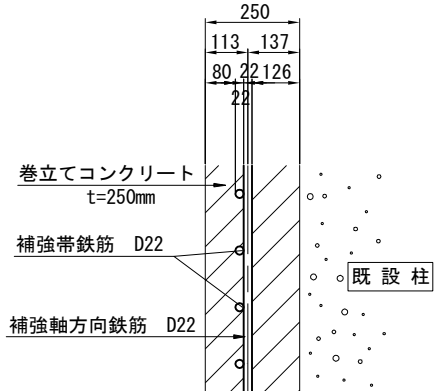
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20



かぶり詳細図 S=1:20



鉄筋表

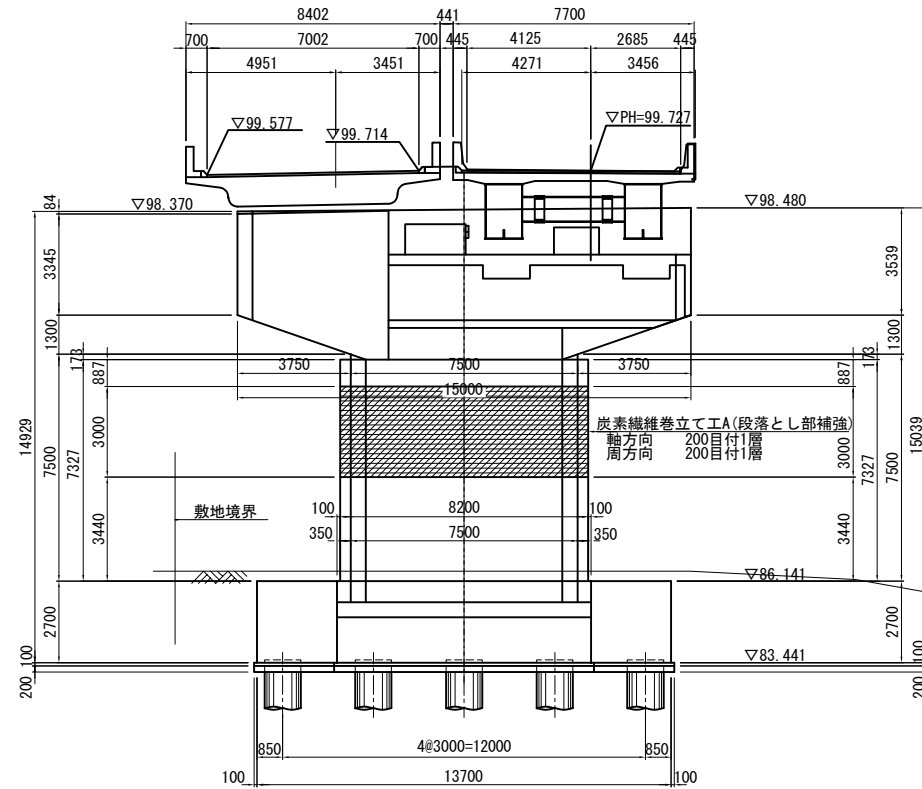
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D22	10000	23	3.04	30.4	699	↑ (23)
C 1-2	D22	3650	23	3.04	11.1	255	↓
C 2-1	D22	9000	23	3.04	27.4	630	↑ (23)
C 2-2	D22	4650	23	3.04	14.1	324	↓
C 3	D22	6990	274	3.04	21.2	5809	⌋
SD345 小計							7717 kg
集計表							
D22					7717 kg	(46)	
鉄筋T (SD345) 合計					7717 kg	(46)	
フレア溶接の箇所数				D22 + D22	274	箇所	
ガス圧接の箇所数				D22 + D22	46	箇所	
K 1	D13	240	224	0.995	0.239	54	⌋
D13					54 kg		

鉄筋加工寸法表

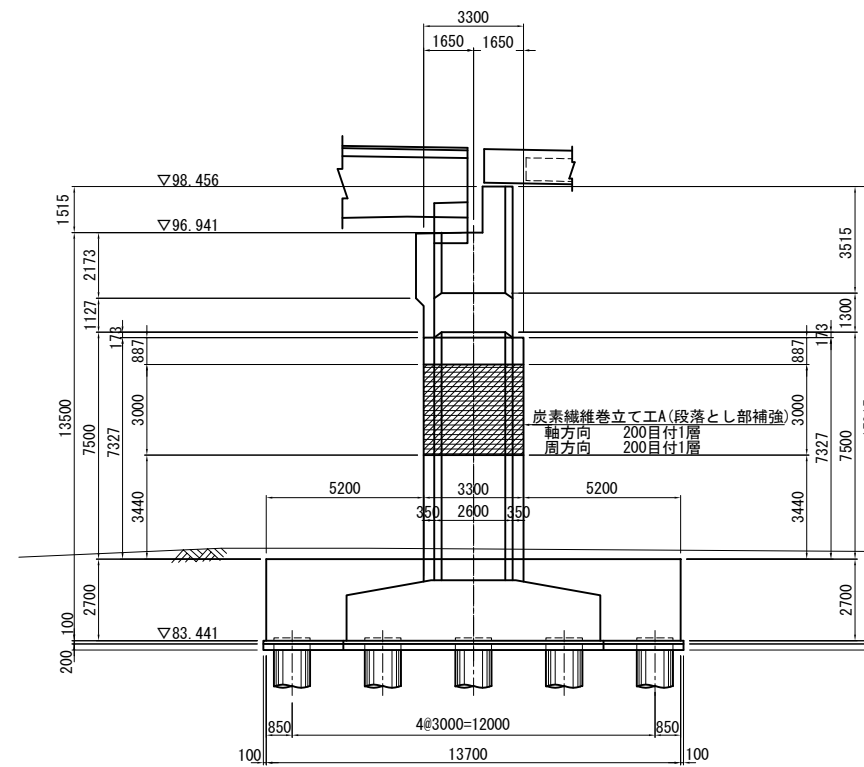
曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理工は、WJ工法によることを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

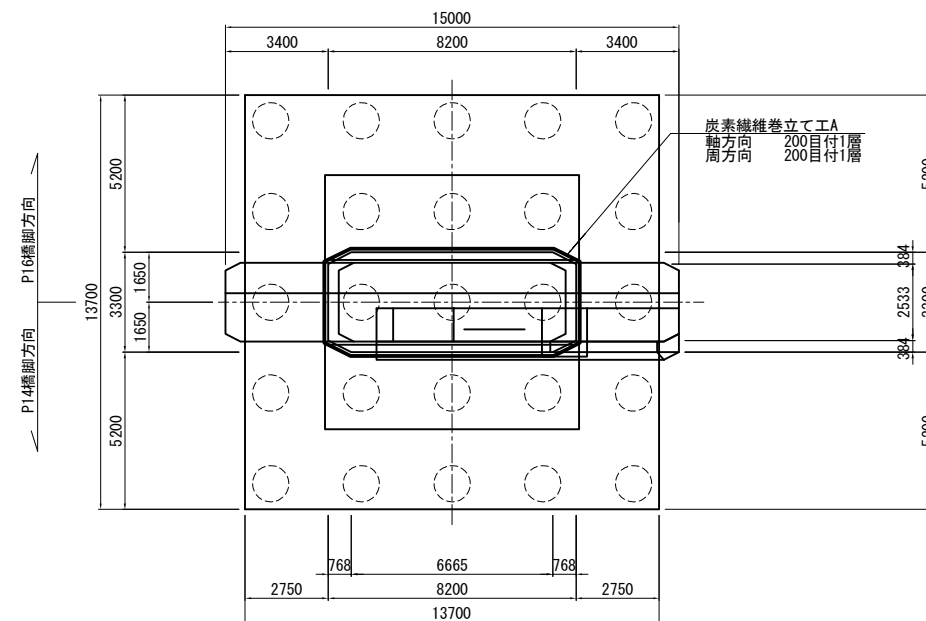
正 面 図



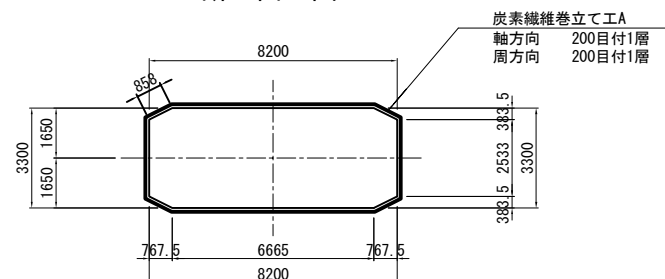
側 面 図



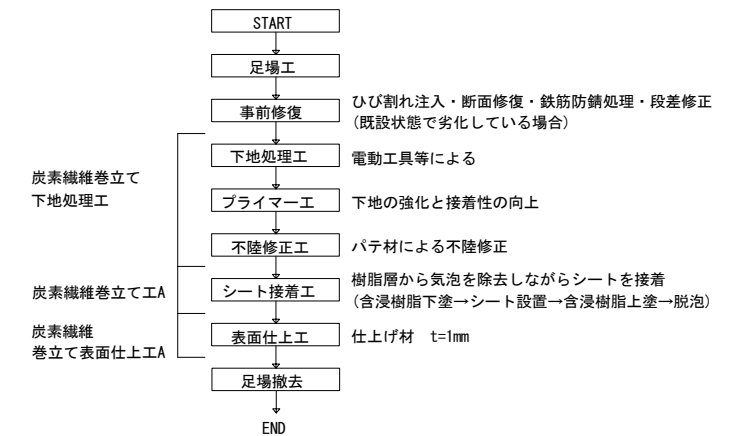
平面图



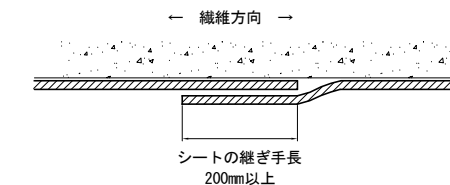
断面図



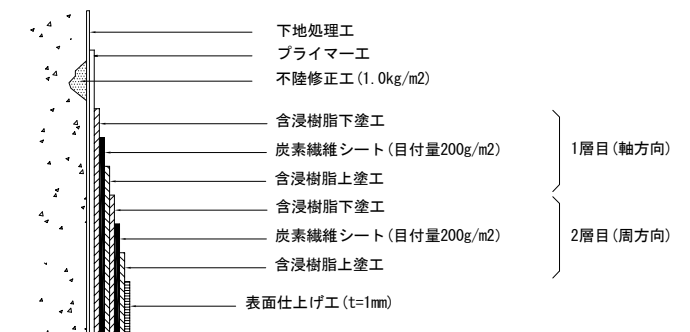
施工工程(参考)



継ぎ手部



シート貼付け施工要領図



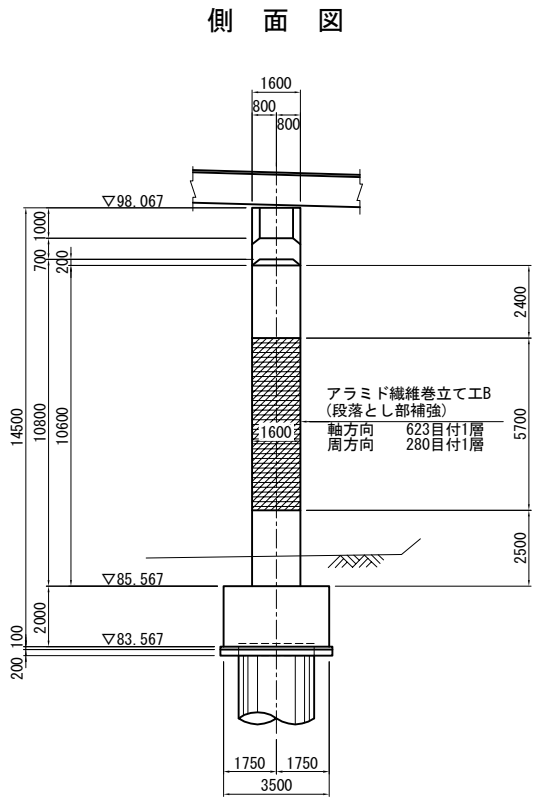
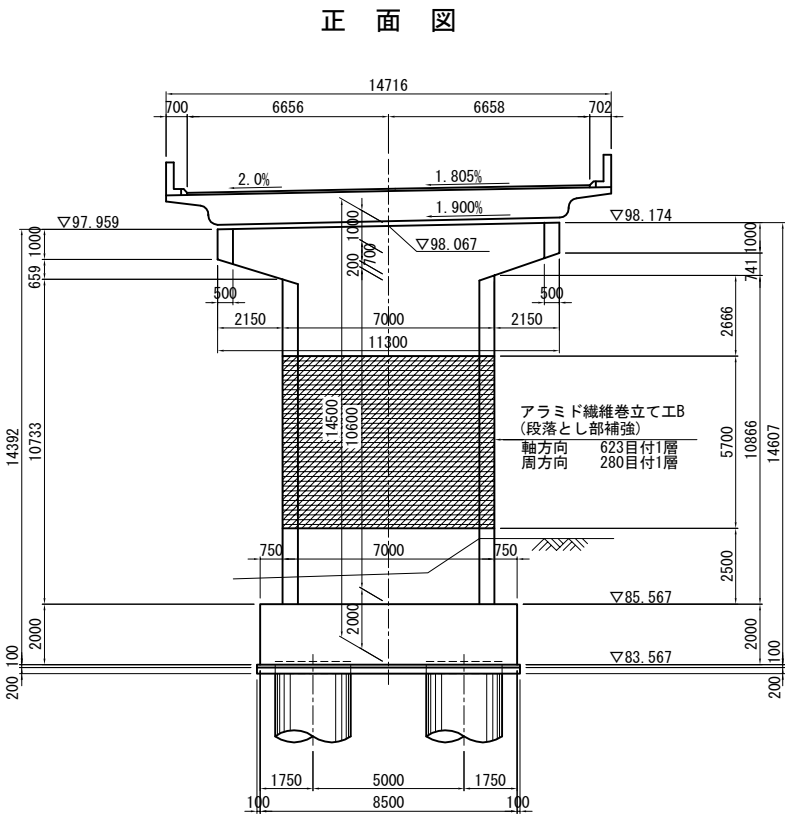
炭素繊維シート性能表

繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
200	3,400	0.111

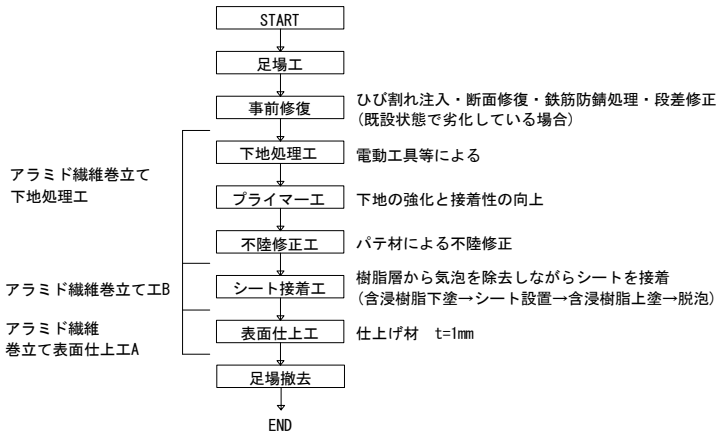
注記)

1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法を確認した上、施工を行うこと。
また、地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者との協議の上、測量を行うこと。
2. 不陸修正材（エポキシシマテ）の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. エポキシ樹脂は、施工時の気温5℃以下・雨天等湿度85%以上の場合は、施工してはならない。施工時には、水気を嫌うので十分注意する。
4. シートの施工順序は、軸方向の後に周方向を施工すること。

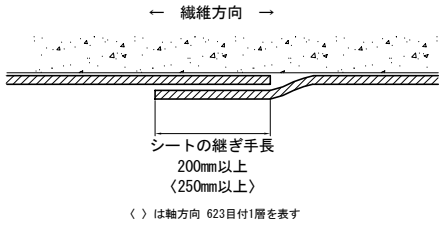
横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷JCT第一橋 P15橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	39 / 88
設計会社名	バシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



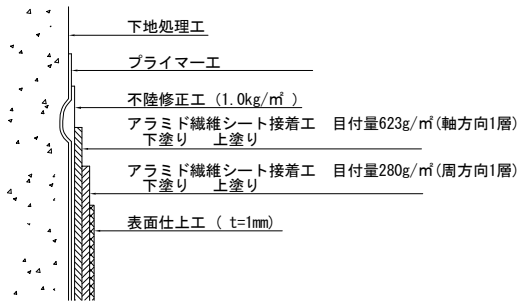
施工工程(参考)



継ぎ手部



シート貼付け施工要領図

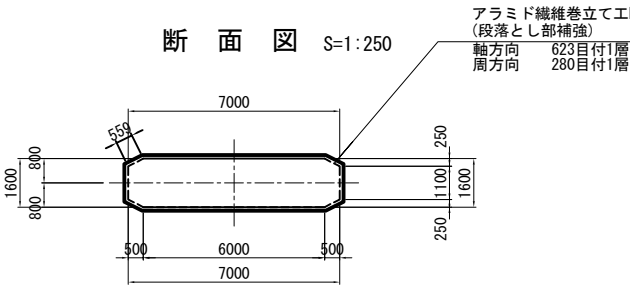
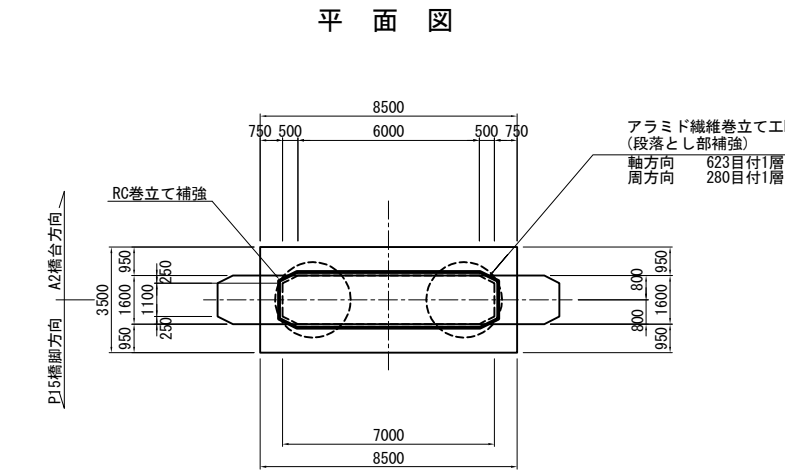


アラミド繊維シート性能表

繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
280	2.060	0.193
623	2.060	0.430

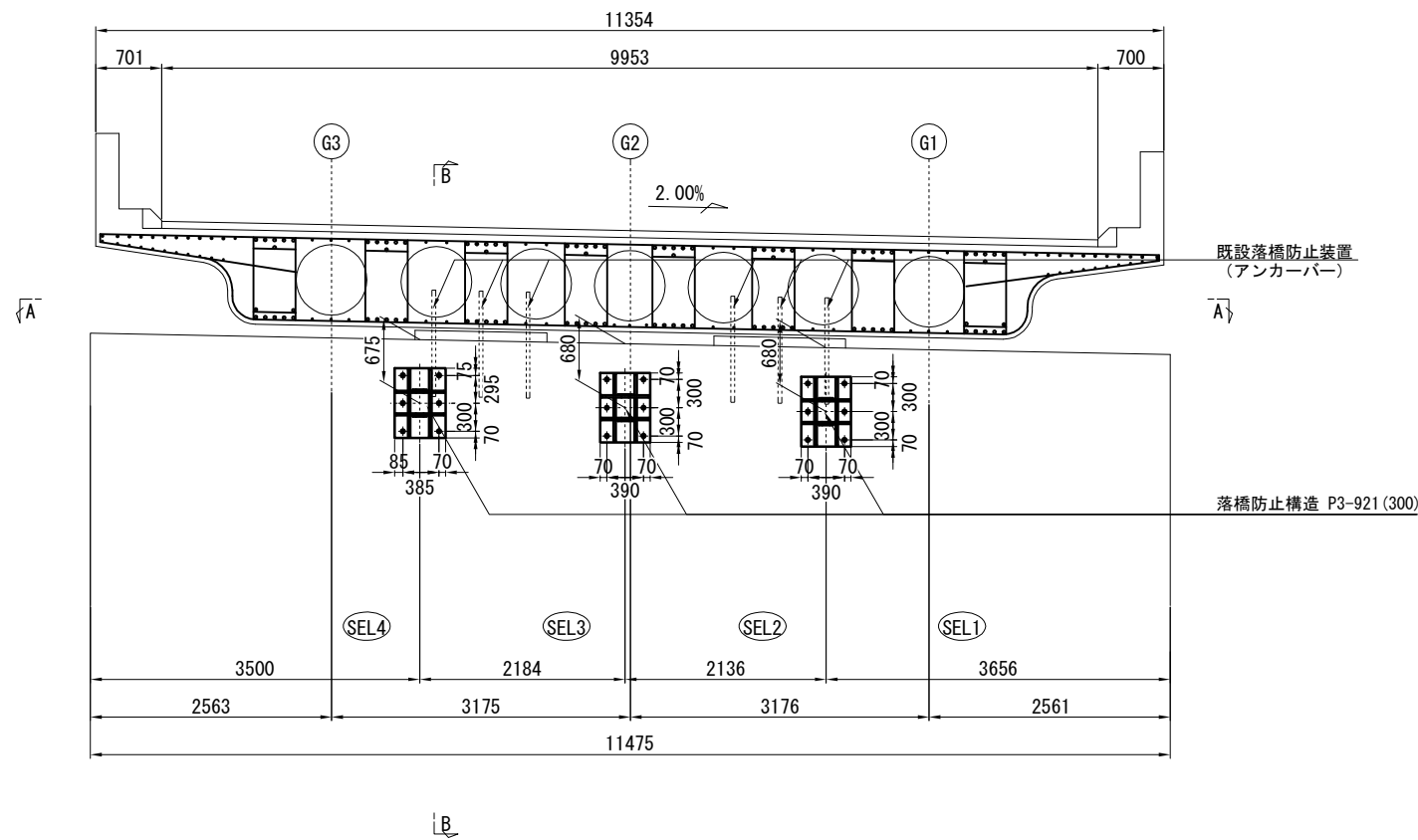
注 記

- 施工にあたっては既設構造物の現地計測を行い、本図との相違について確認すること。
また、必要に応じて適宜変更を行うこと。
- 施工の際、既設構造物に損傷・変状が確認された場合は、協議の上適宜補修を行うこと。

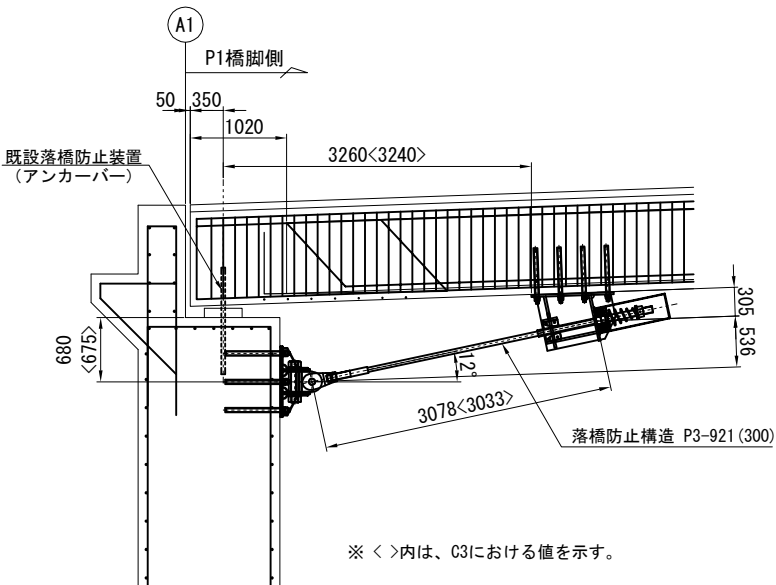


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P16橋脚耐震補強詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	40 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

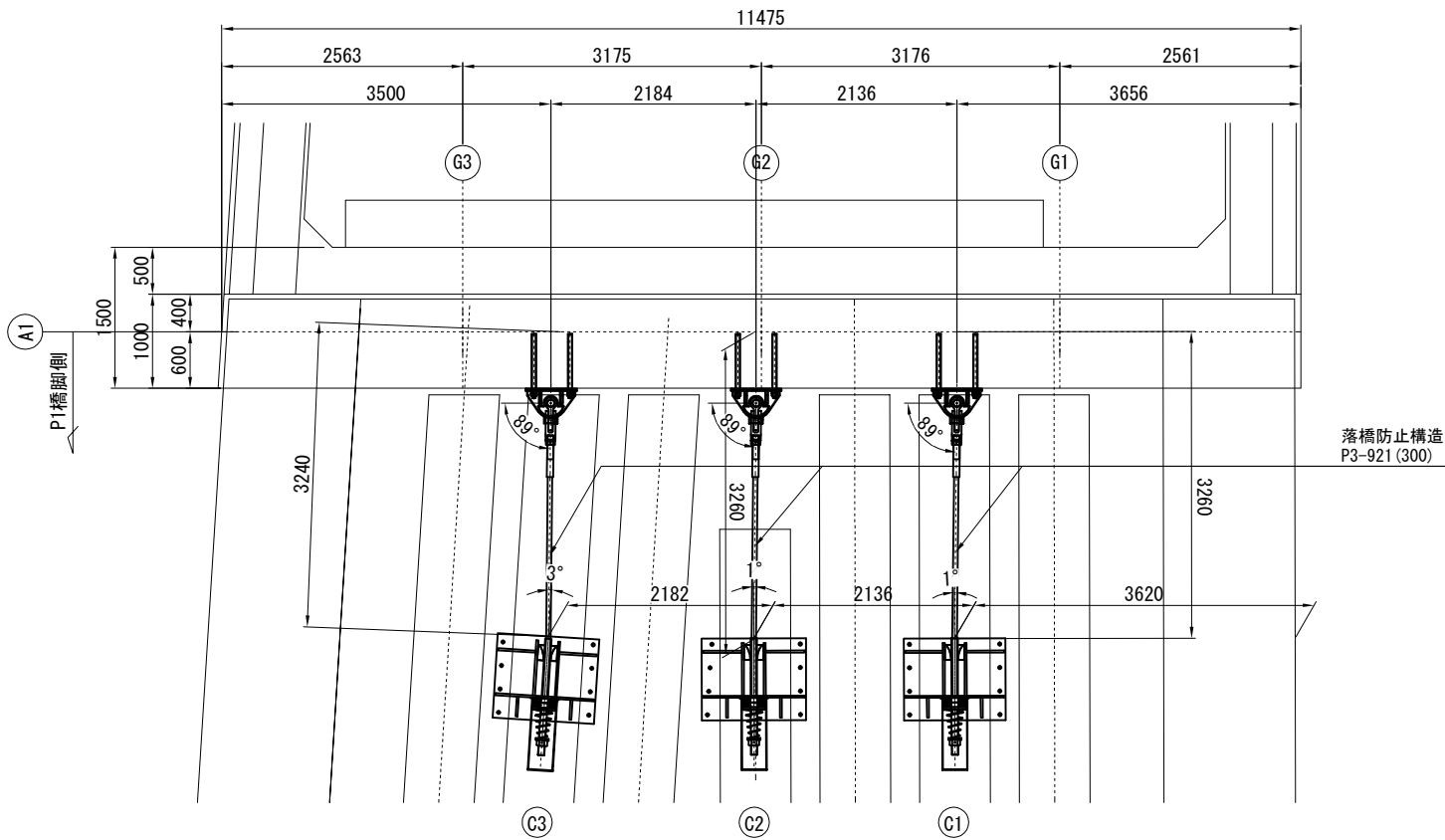
正面図 S=1:40



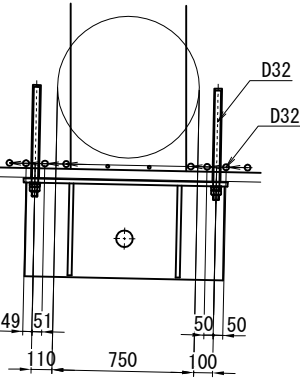
側面図(B - B) S=1:40



平面図(A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 A1橋台 落橋防止構造詳細図(その1)

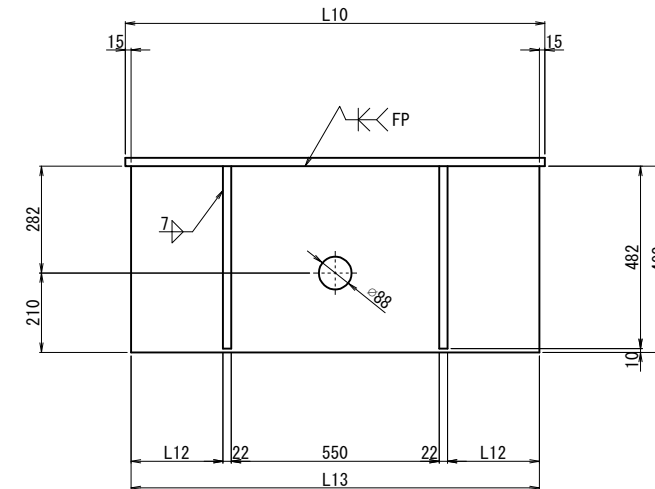
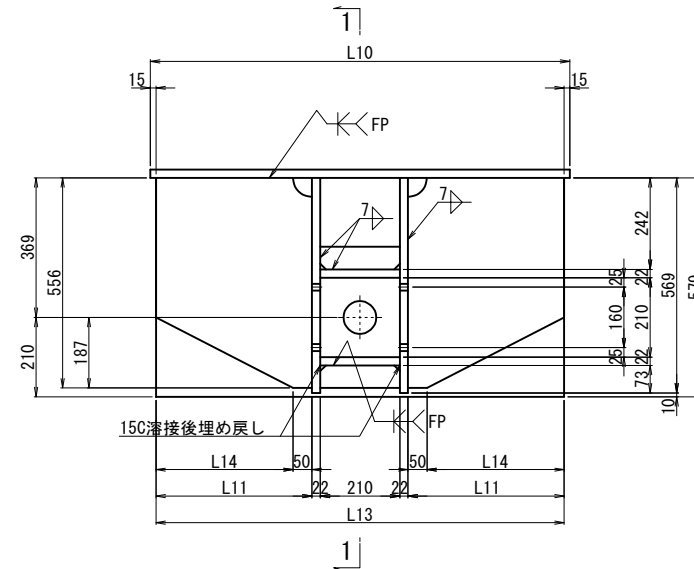
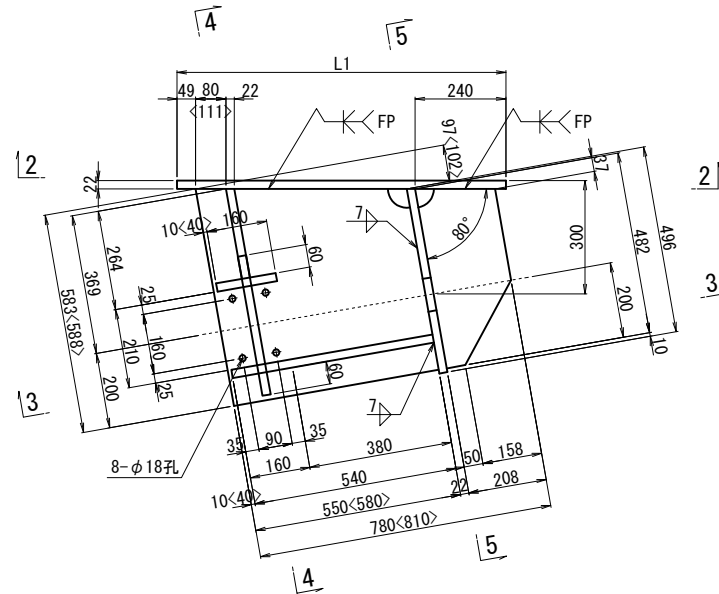
上部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図
(落橋防止構造 P3-921(300))

1 - 1 S=1:10

4 - 4 S=1:10

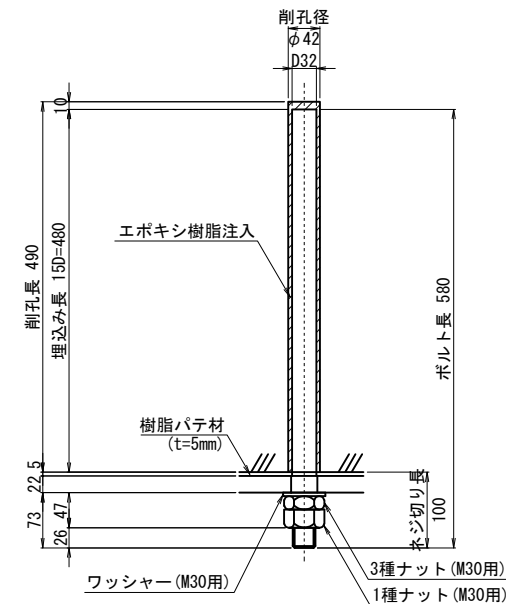
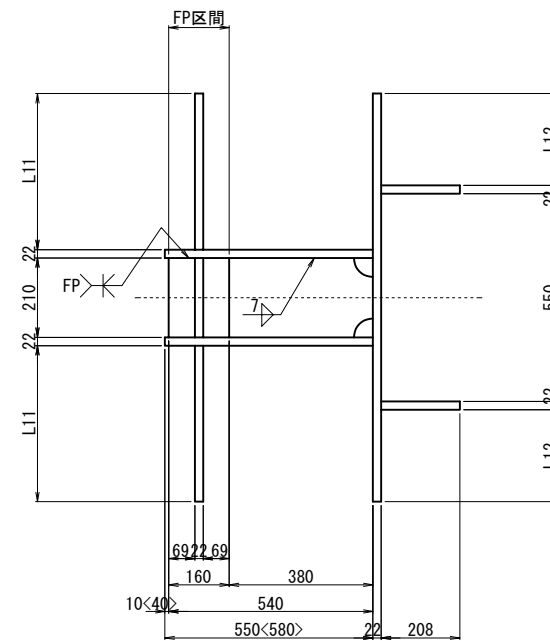
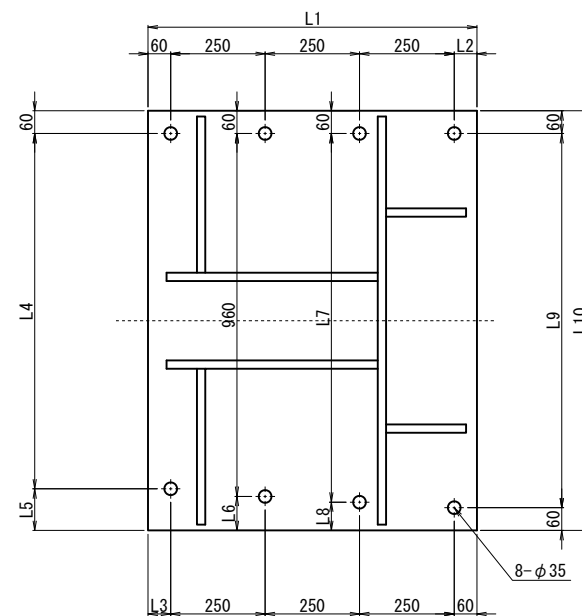
5 - 5 s=1:10



2 - 2 s=1:10

3 - 3 S=1:10

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエ $\phi 42 \cdot 490$ (上方向)



	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	L13	L14
C1	870	60	60	960	60	60	960	60	960	1080	398	228	1050	348
C2	870	60	60	940	110	90	975	75	990	1110	413	243	1080	363
C3	900	90	90	960	60	60	960	60	960	1080	398	228	1050	348

C1
ブラケット1基当り (製作数:1基)

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 398x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1050
1-PL 870x22x1080

C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 413x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1080
1-PL 870x22x1110

C3
ブラケット1基当り (製作数:1基)

2-PL 208x22x482
2-PL 580x22x588
2-PL 398x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1050
1-PL 900x22x1080

ブラケット1基当り (製作数:3基)

8-AncBolt D32x580 (SD490)
8-1種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-3種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-Washer M30用 (強度区分8.8用) (SS400)

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

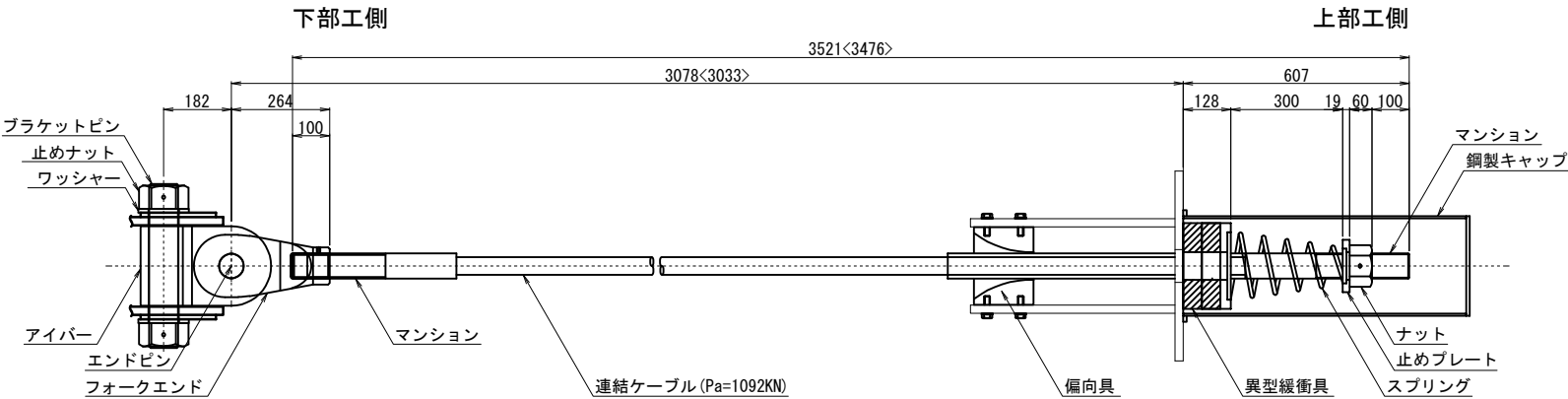
注記)

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカラーアップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上とする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT7とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
5. < >内は、C3における値を示す。
6. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜須賀実道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 落橋防止構造詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

落橋防止構造 P3-921(300)

取付詳細図

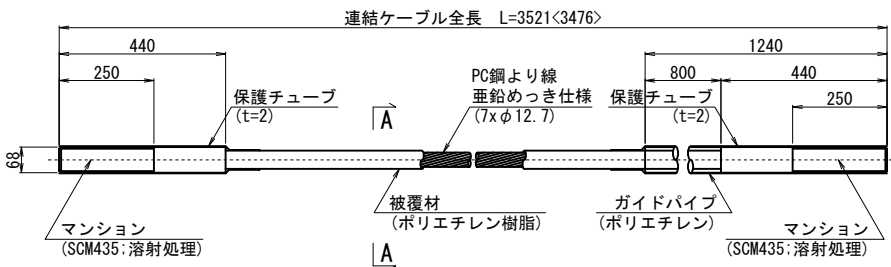


材 料 表 (落橋防止構造1組当たり) 全3組

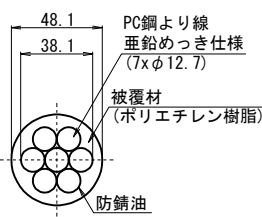
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=3521<3476>mm	本	1	PC鋼より線, 亜鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435, 亜鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込>
	Pa=1092KN用 800mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C: 亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=1092KN用 L=450	個	1	SW-C: 亜鉛めっき, クロメート処理
異型緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x50 1W付	本	8	SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
鋼製キャップ	Pa=1092KN用 L=760	個	1	SS400, STK400: 亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・Uナット	M16x60 2W付	本	4	SS400相当品: 亜鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400, 亜鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400, 亜鉛めっき

※ L=3521mm 2本, L=3476mm 1本

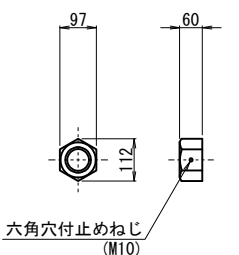
連結ケーブル



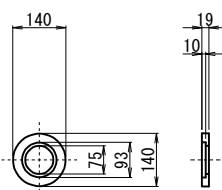
A-A断面図 S=1:2



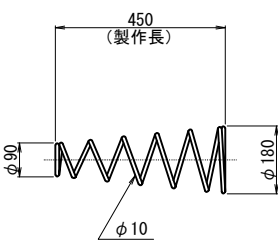
ナット
(S45C: 亜鉛めっき)



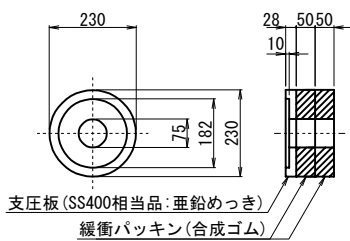
止めプレート
(SS400相当品: 亜鉛めっき)



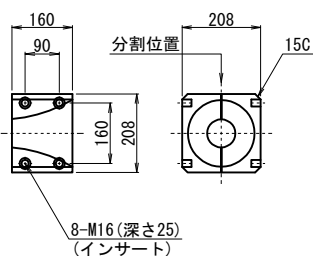
スプリング
(SW-C: 亜鉛めっき, クロメート処理)



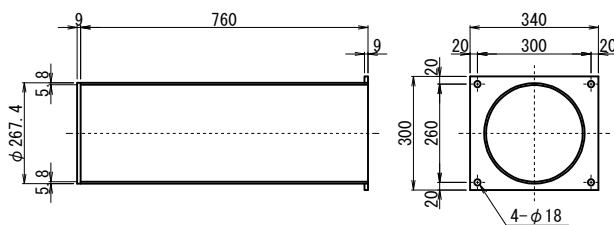
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



鋼製キャップ
(SS400, STK400: 亜鉛めっき)

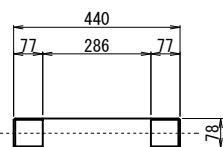


規格表

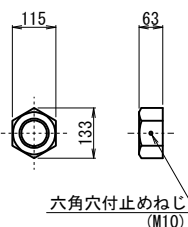
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	921 kN
設 計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

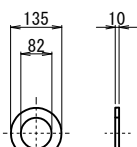
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



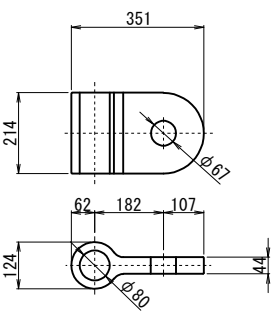
止めナット
(S45C: 亜鉛めっき)



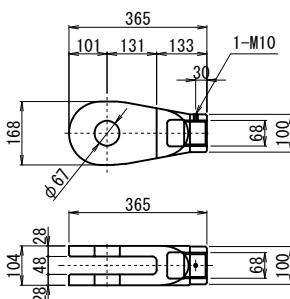
ワッシャー
(SS400: 亜鉛めっき)



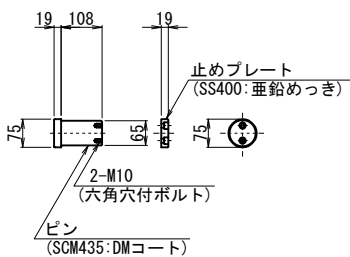
アイバー
(S45C: 亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)

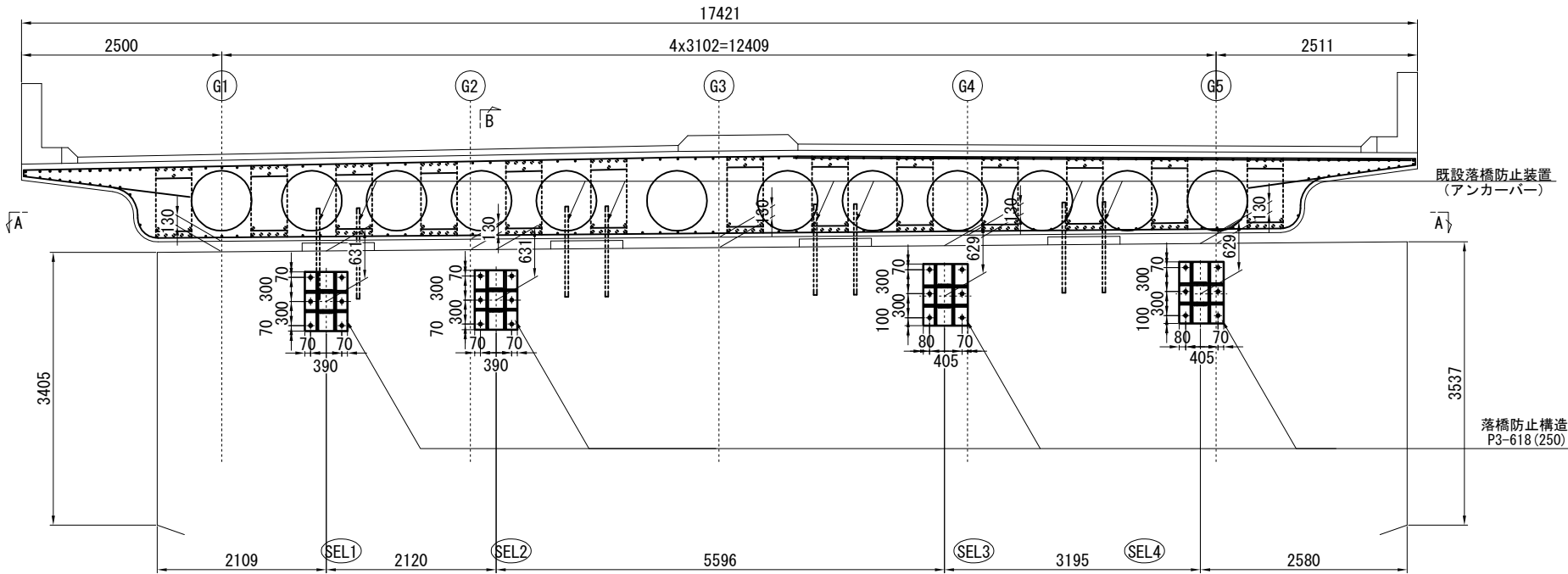


- 注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
 2. <>内は、C3における値を示す。

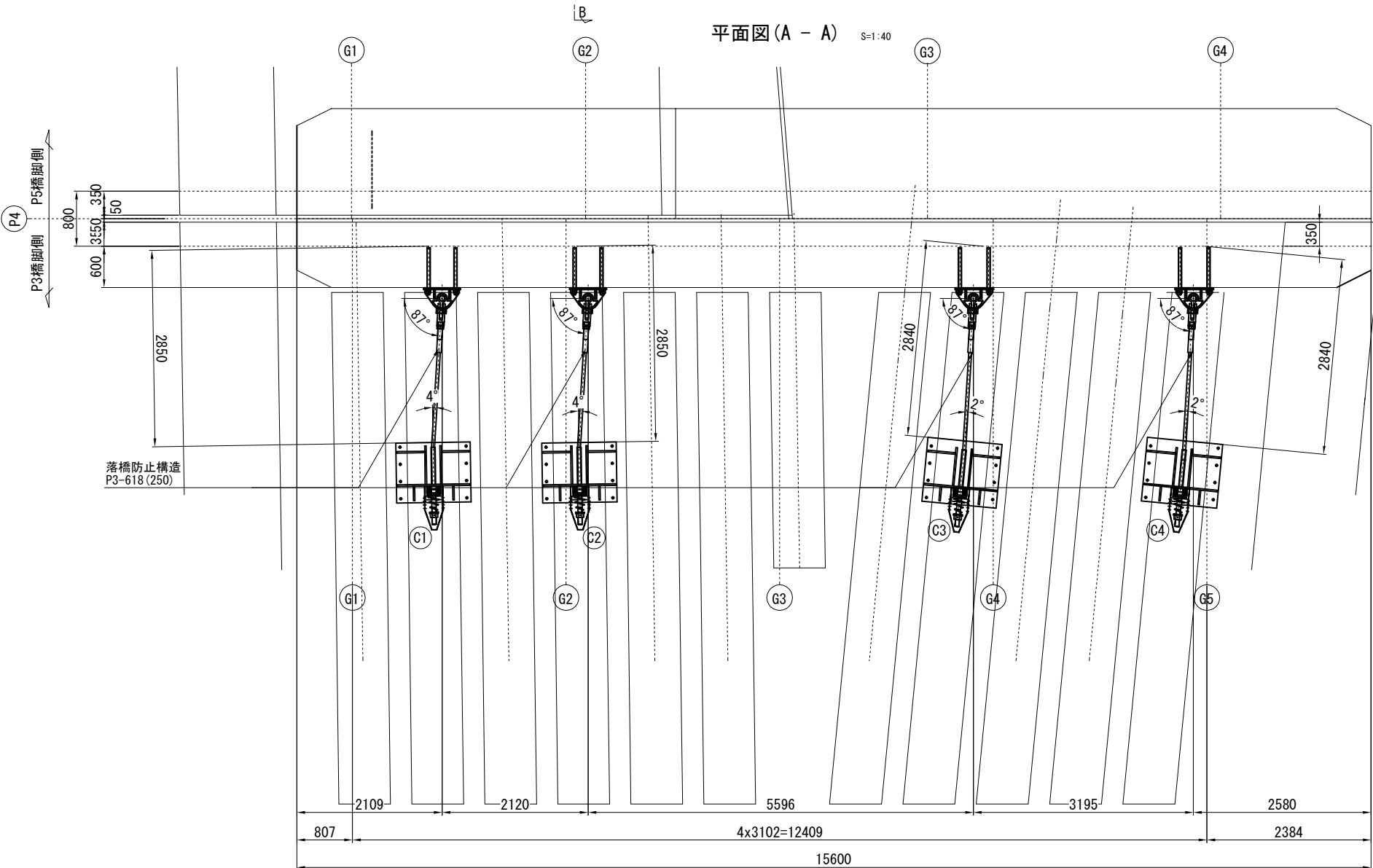
横浜横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A1橋台 落橋防止構造詳細図(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	44 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側） 耐震補強配置図

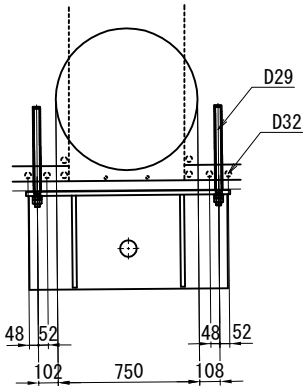
正面図 S=1:40



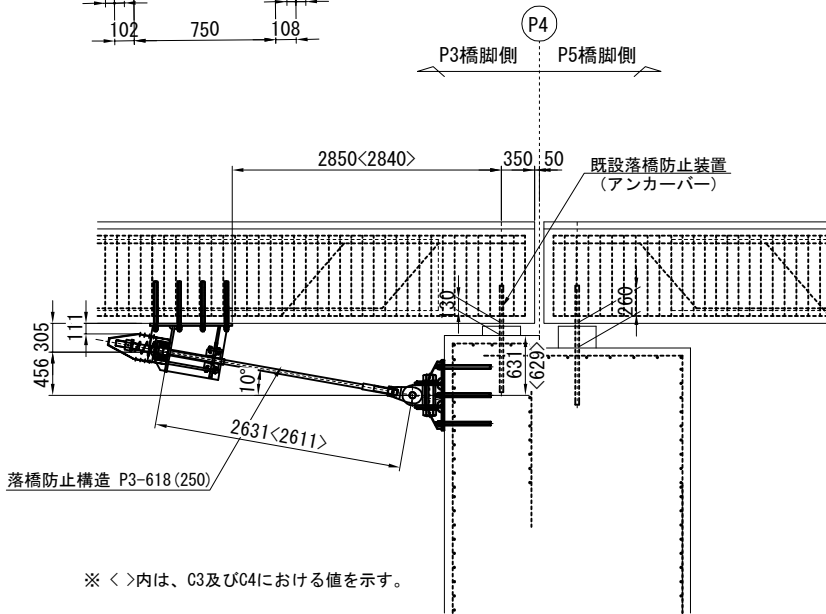
平面図 (A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



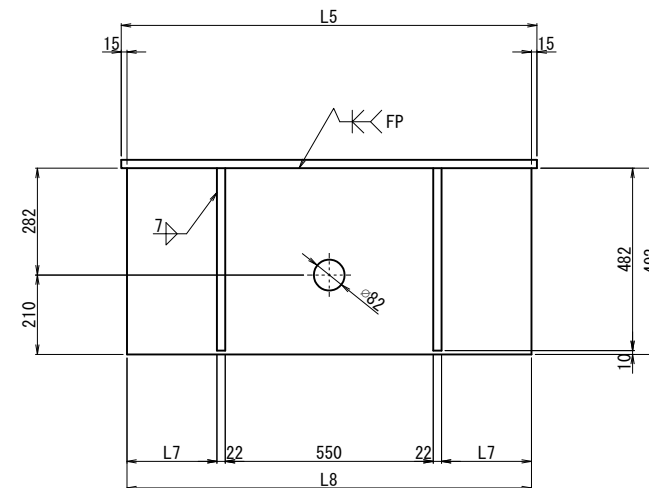
側面図 (B - B) S=1:40



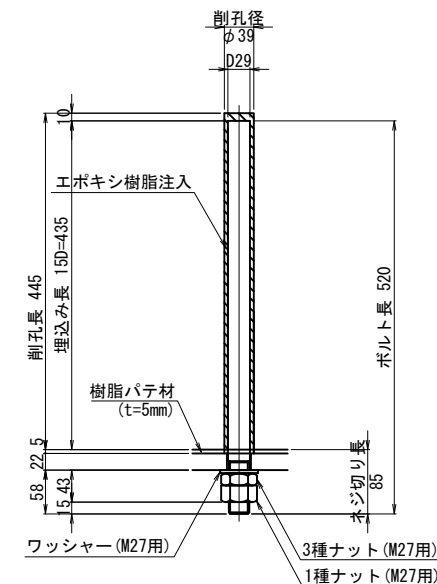
注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

5 - 5 S=1:10



落橋防止構造 S=1:5
アンカー工φ39・445(上方向)



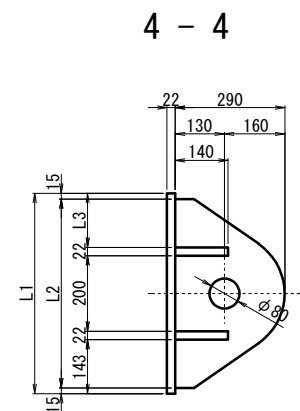
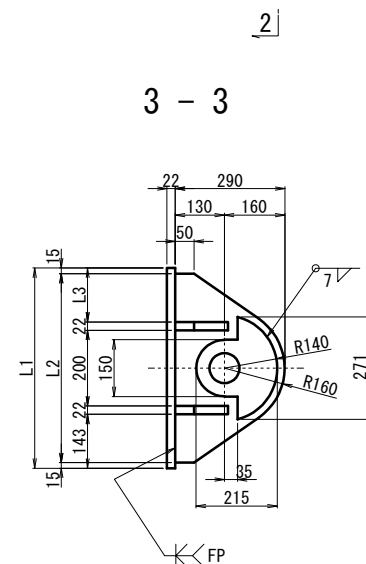
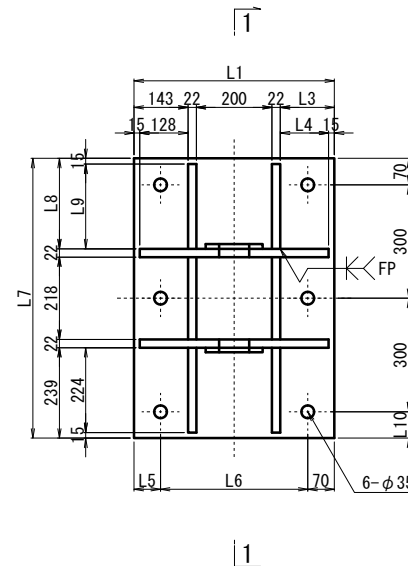
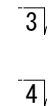
2-PL 208x22x482
2-PL 610x22x594
2-PL 413x22x557
2-PL 65x22x200
1-PL 200x22x540
1-PL 150x22x200
1-PL 496x22x1070
1-PL 930x22x1100

8-AncBolt D29x520 (SD490)
8-1種Nut M27用 (強度区分8.8) (SS400)
8-3種Nut M27用 (強度区分8.8) (SS400)
8-Washer M27用 (強度区分8.8用) (SS400)

1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラブは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
亜鉛、ポルト・ナット類はHDZT49とする。
5. <く>内は、C1及びC2における値を示す。
6. 「FP」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

<p>横浜須賀賢道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
<p>図面の種類</p>		<p>金沢谷第一橋 P4橋脚（起点側） 養橋防止構造詳細図（その1）</p>	
縮 尺	図 示	図面番号	46 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜管理事務所</p>		

2 - 2



2-PL 215x12x271
2-PL 290x22xLL1
2-PL 140x22xLL2
2-PL 140x22x224
2-PL 140x22x218
1-PL LL3x22xLL4
6-Anc Bolt D32x575 (SD490)
6-1種 Nut M30用 (SS400)
6-3種 Nut M30用 (SS400)
6-Washer M30用 (SS400)

	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	LL1	LL2	LL3	LL4
C1, C2	530	500	143	128	70	390	740	239	224	70	174	500	224	530	740
C3, C4	555	525	168	153	80	405	770	269	254	100	204	525	254	555	770

Technical drawing of a bolted connection (Fig. 10). The drawing shows a side view of a bolted joint. Key dimensions and components are labeled:

- ボルト長 575
- ネジ切り長 95
- ワッシャー (M30用)
- 樹脂パテ材 (t=5mm)
- 3種ナット (M30用)
- 1種ナット (M30用)
- エポキシ樹脂注入
- 埋込み長 15D=480
- 削孔長 490
- 削孔径 $\phi 42$
- D32
- D47
- D21
- D5
- D22
- D68

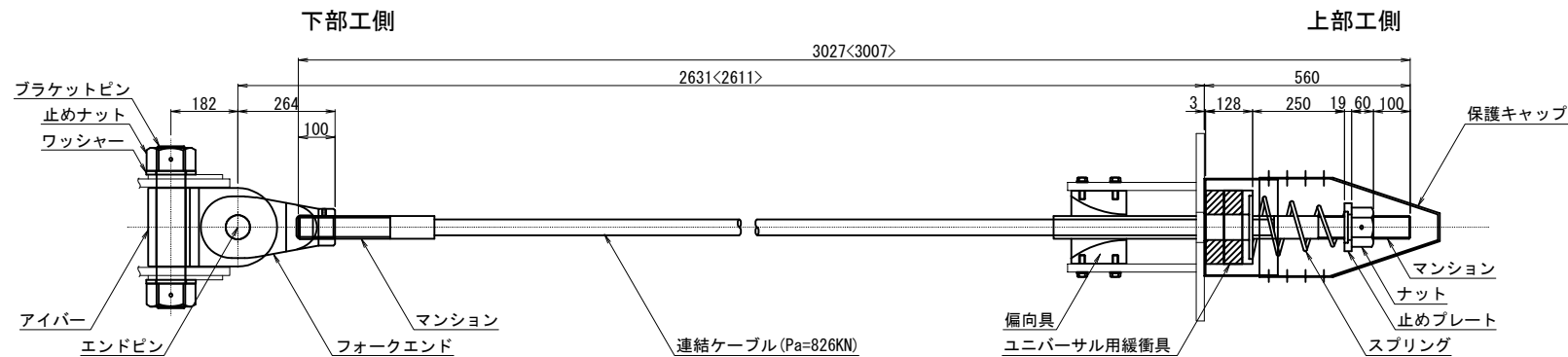
注記)

1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上とする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZ77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZ749とする。
4. プラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類		釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点部） 養橋防止構造詳細図（その2）	
縮 尺	図 示	図面番号	47 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜管理事務所		

落橋防止構造 P3-618 (250)

取付詳細図



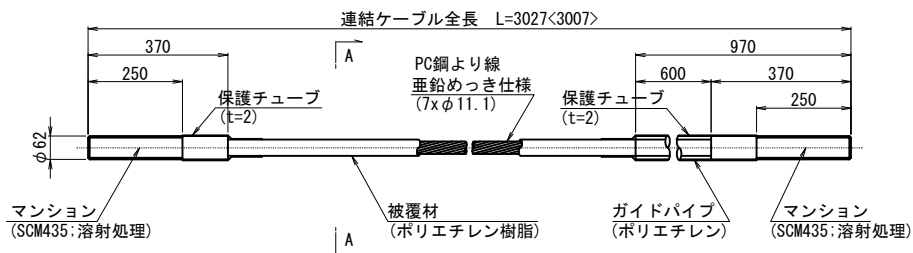
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全4組

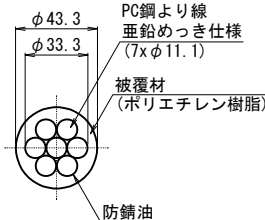
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	Pa=826KN L=3027<3007>mm	本	1	PC鋼より線, 亜鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
	(マンション)	個	2	SCM435, 亜鉛アルミ溶射, ねじり標準 <ケーブルに組込>
	(ガイドパイプ)	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=826KN用	個	1	S45C; 亜鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=826KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=826KN用 L=400	個	1	SW-C; 亜鉛めっき, クロメート処理
ユニバーサル用緩衝具	Pa=826KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	Pa=826KN用	個	1	ポリエチレン
	(取付ボルト)	本	8	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	Pa=826KN用	組	1	ポリエチレン; 8-止めビス付
ブラケットピン	Pa=826KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
止めナット	Pa=826KN用	個	2	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=826KN用	個	2	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=826KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=826KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=826KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
(止めプレート)	Pa=826KN用	個	1	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3027mm 2本, L=3007mm 2本

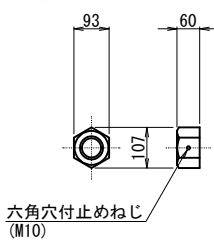
連結ケーブル



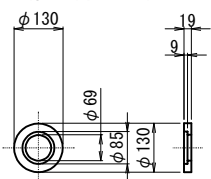
A-A断面図 S=1:2



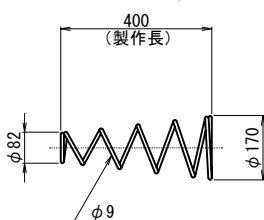
ナット (S45C: 亜鉛めっき)



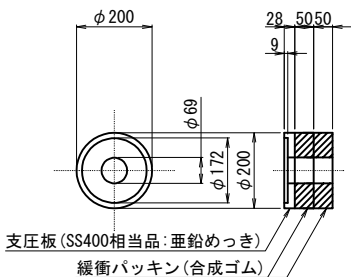
止めプレート (SS400相当品: 亜鉛めっき)



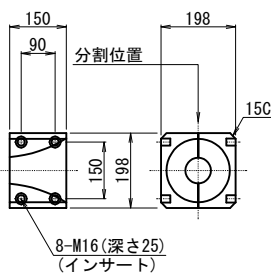
スプリング (SW-C: 亜鉛めっき, クロメート処理)



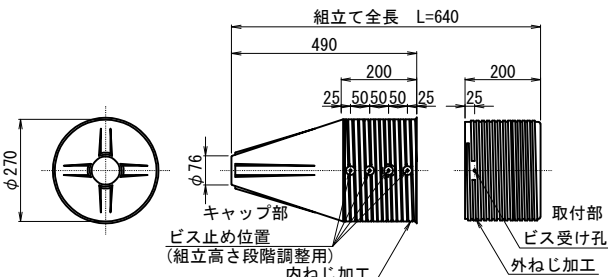
ユニバーサル用緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



偏向具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)

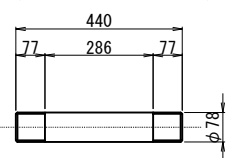


規格表

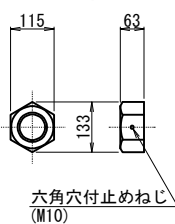
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	618 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
許 容 耐 力	826 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

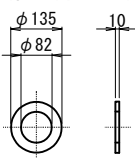
ブラケットピン (SCM435: DMコート)



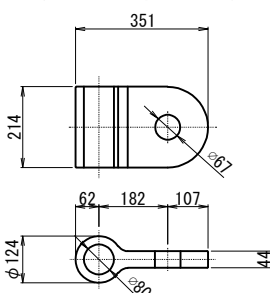
止めナット (S45C: 亜鉛めっき)



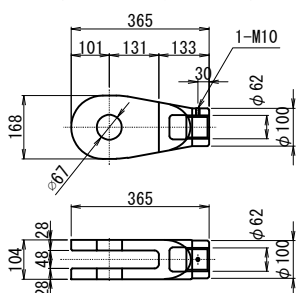
ワッシャー (SS400相当品: 亜鉛めっき)



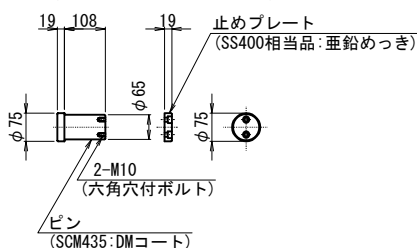
アイバー (S45C: 亜鉛めっき)



フォークエンド (S45C: 亜鉛めっき)



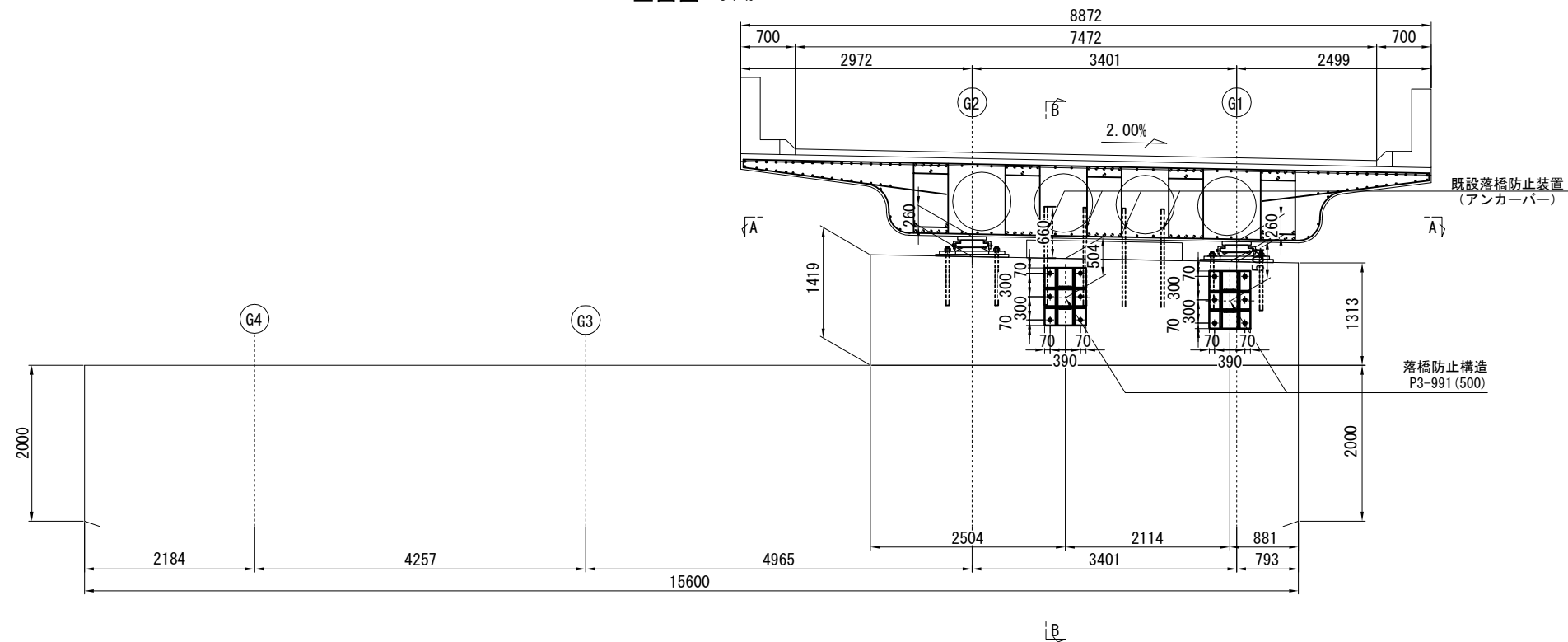
エンドピン (ピン+止めプレート)



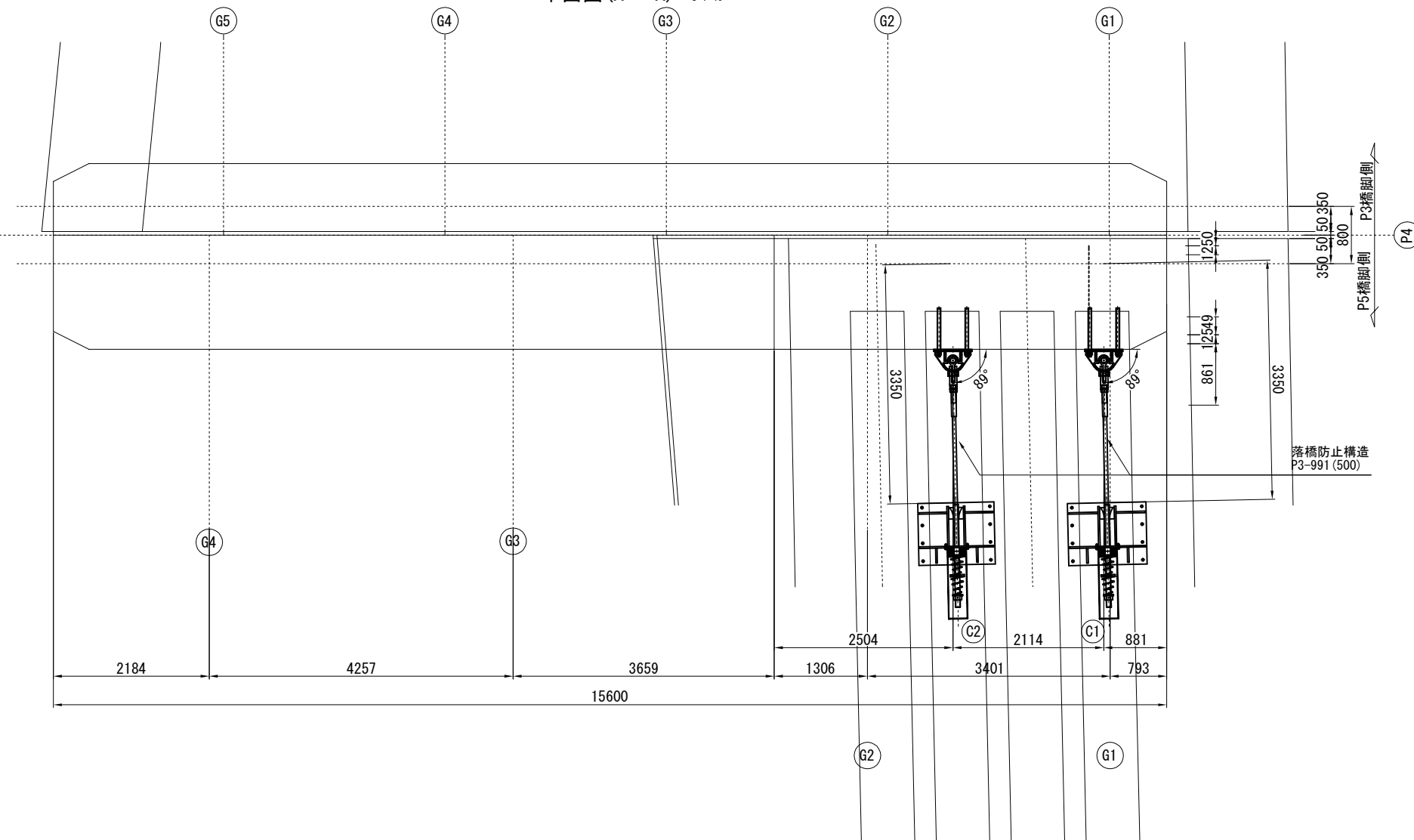
注記
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. <>内は、C3及びC4における値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（起点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

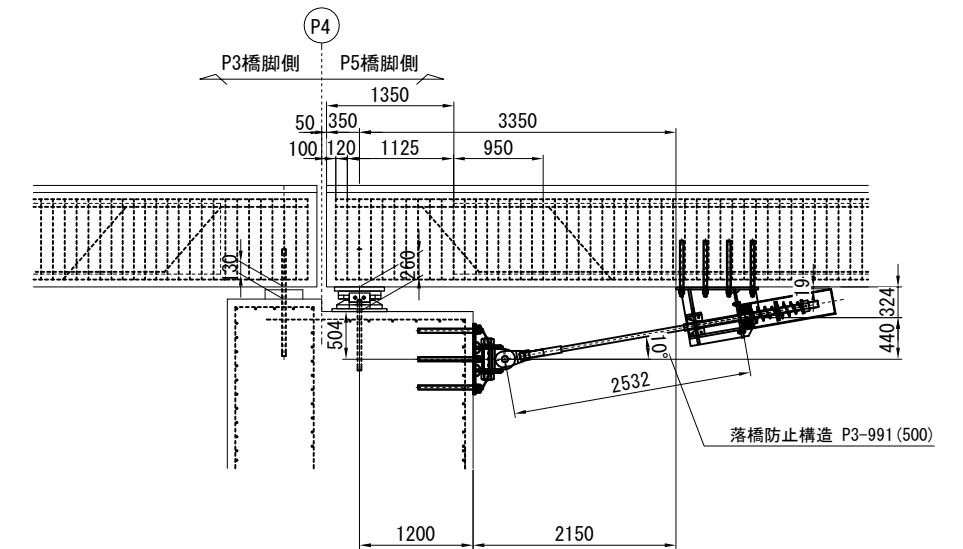
正面図 S=1:40



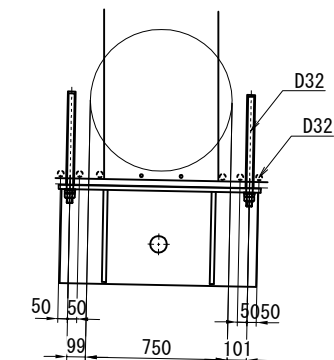
平面図 (A - A) S=1:40



側面図 (B - B) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜須賀沼道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（終点側）耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	49 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

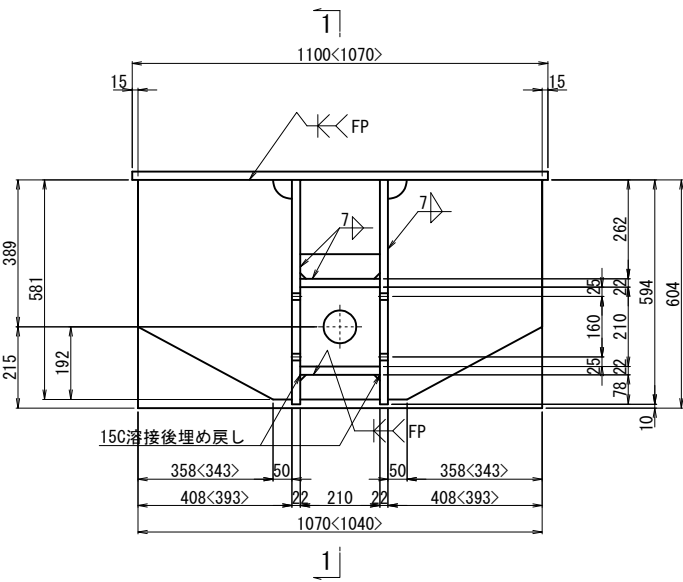
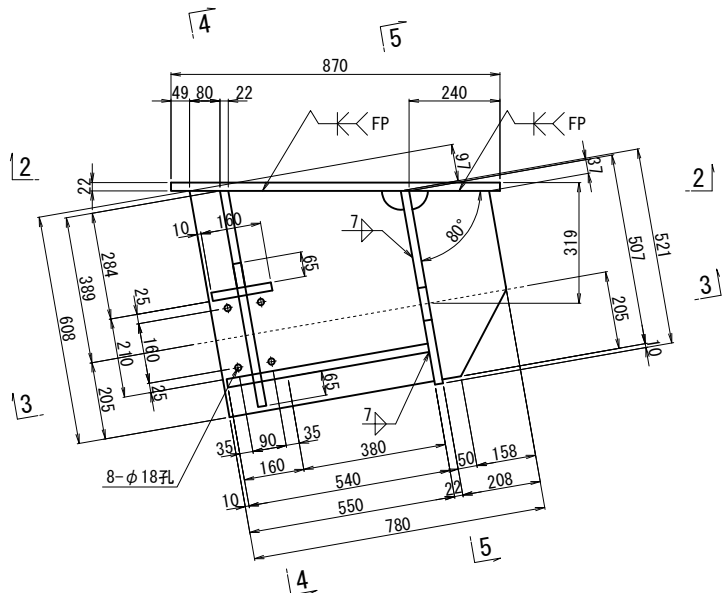
上部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図

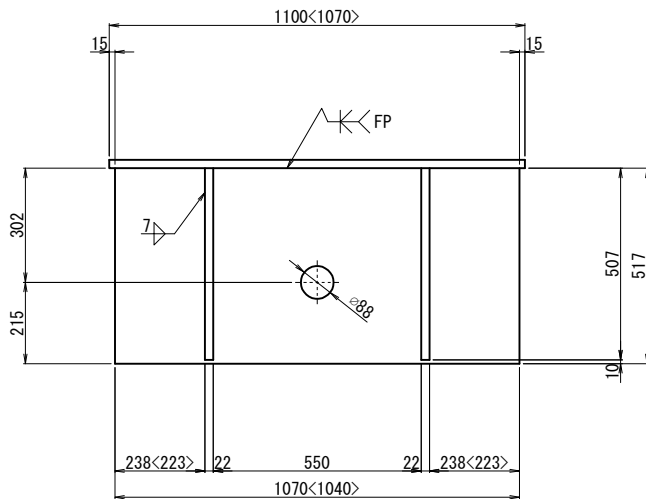
（落橋防止構造 P3-991(500)）

4 - 4 S=1:10

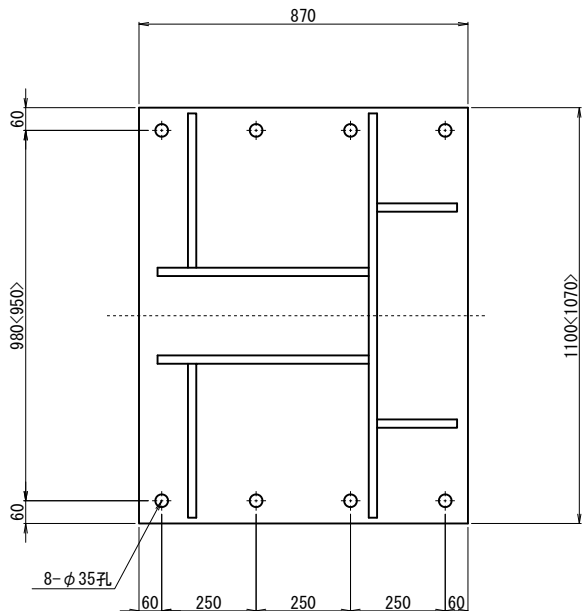
1 - 1 S=1:10



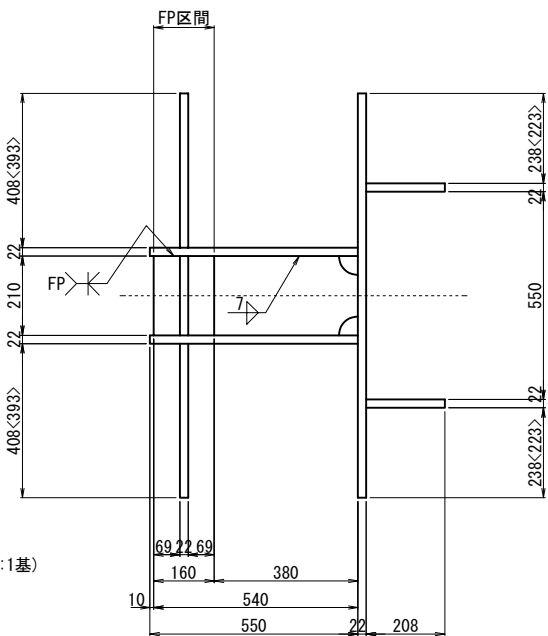
5 - 5 S=1:10



2 - 2 S=1:10

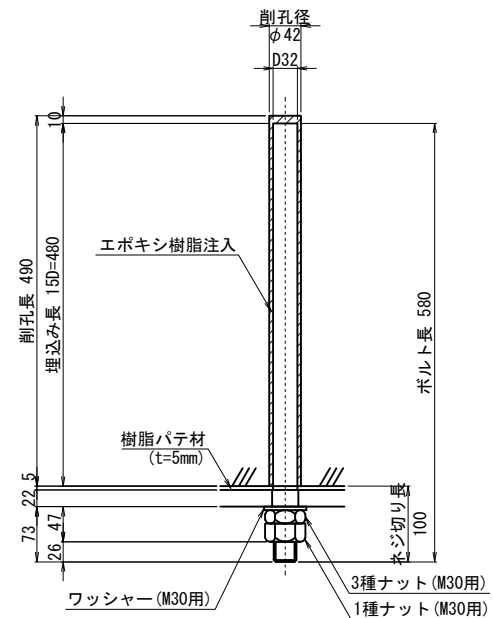


3 - 3 S=1:10



落橋防止構造 S=1:5

アンカーエφ42・490(上方向)



C1
ブラケット1基当り（製作数:1基）

- 2-PL 208x22x507
- 2-PL 550x22x608
- 2-PL 408x22x581
- 2-PL 65x22x210
- 1-PL 210x22x540
- 1-PL 160x22x210
- 1-PL 521x22x1070
- 1-PL 870x22x1100

C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）

- 2-PL 208x22x507
- 2-PL 550x22x608
- 2-PL 393x22x581
- 2-PL 65x22x210
- 1-PL 210x22x540
- 1-PL 160x22x210
- 1-PL 521x22x1040
- 1-PL 870x22x1070

ブラケット1基当り（製作数:2基）

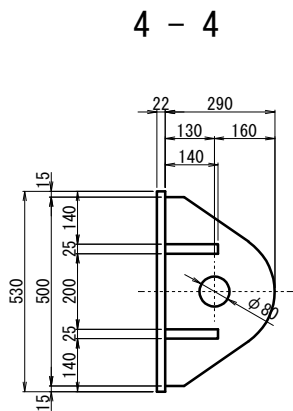
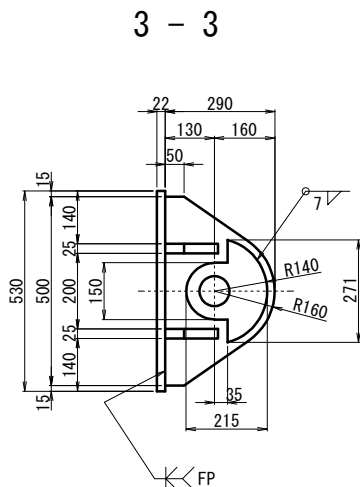
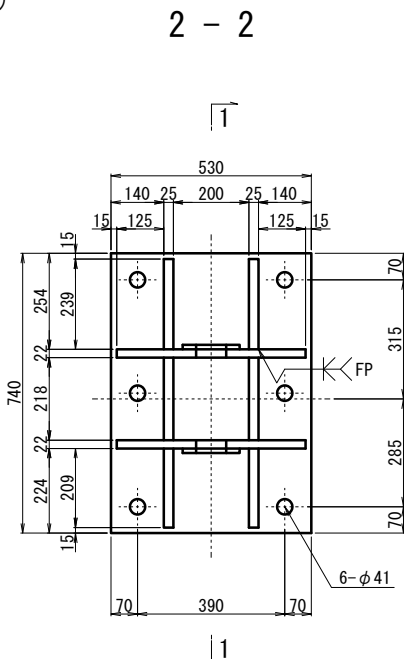
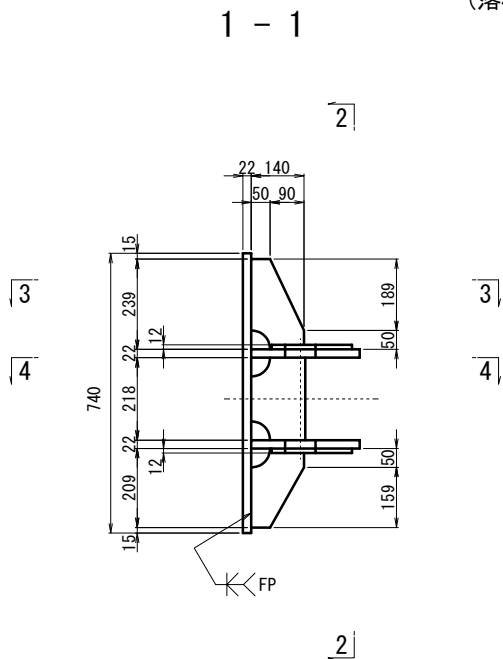
- 8-AncBolt D32x580 (SD490)
- 8-1種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
- 8-3種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
- 8-Washer M30用（強度区分8.8用）(SS400)

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - < >内は、C2における値を示す。
 - 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P4橋脚（終点側）	落橋防止構造詳細図（その1）	
縮 尺	図 示	図面番号	50 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

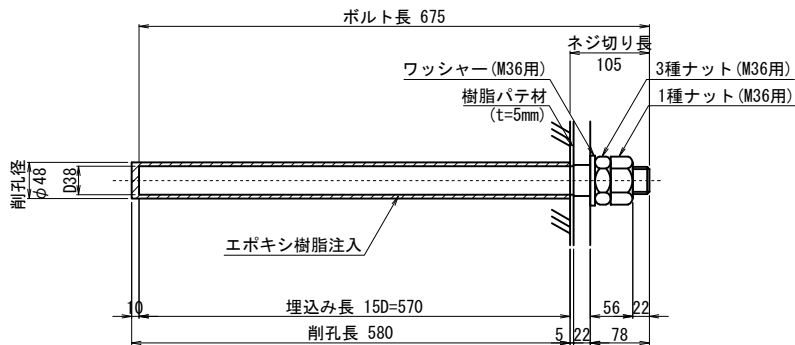
ブラケット詳細図 S=1:10
(落橋防止構造 P3-991(500))



ブラケット1基当り(製作数:2基)

- 2-PL 215x12x271
- 2-PL 290x22x500
- 2-PL 140x25x239
- 2-PL 140x25x209
- 2-PL 140x25x218
- 1-PL 530x22x740
- 6-Anc Bolt D38x675 (SD490)
- 6-1種 Nut M36用 (SS400)
- 6-3種 Nut M36用 (SS400)
- 6-Washer M36用 (SS400)

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)

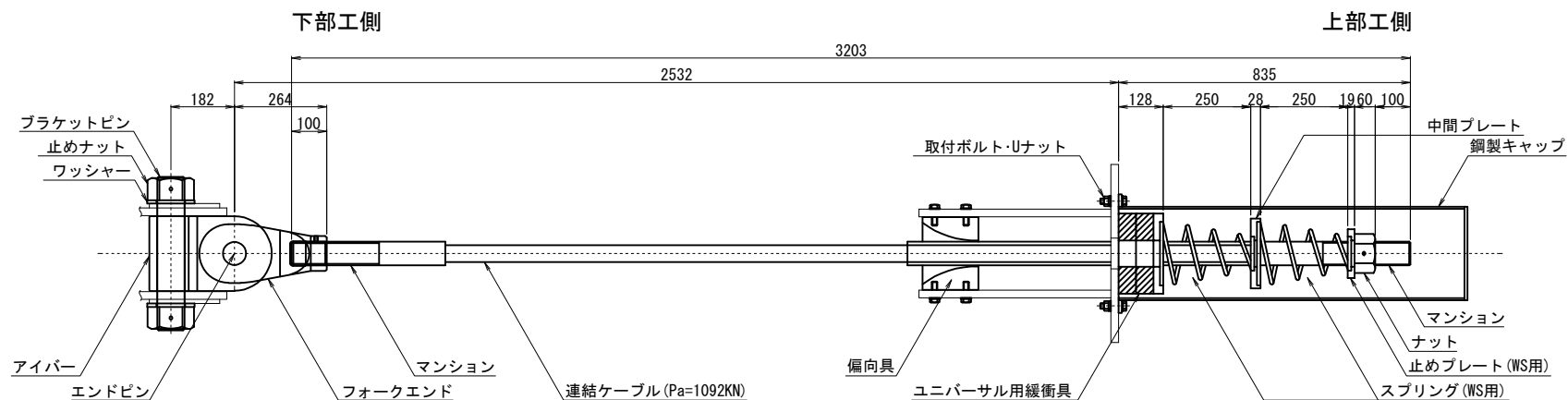


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P4橋脚（終点側） 落橋防止構造詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



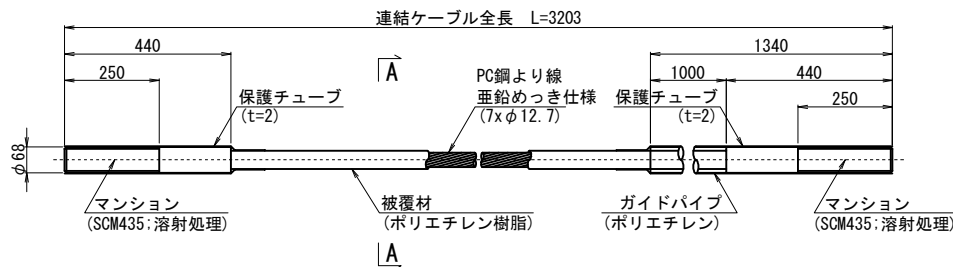
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全2組

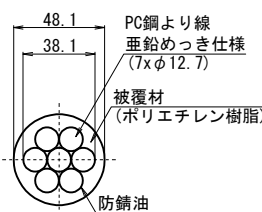
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=3203mm	本	1	PC鋼より線、亜鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆	
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、亜鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>	
	Pa=1092KN用 1000mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>	
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C; 亜鉛めっき (HDZT77)	
止めプレート (WS用)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77)	
スプリング (WS用)	Pa=1092KN用 L=400	個	2	SW-C; 亜鉛めっき、クロメート処理	
中間プレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77)	
ユニバーサル用緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム	
偏向具 (取付ボルト)	Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン	
	M16x50 1W付	本	8	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付	
鋼製キャップ	Pa=1092KN用 L=990	個	1	SS400, STK400; 亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)	
取付ボルト・Uナット	M16x60 2W付	本	4	SS400相当品; 亜鉛めっき (HDZT49)	
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C, 亜鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
	(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品, 亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3203mm 2本

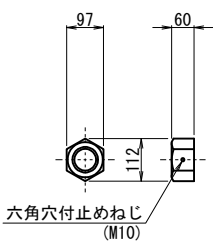
連結ケーブル



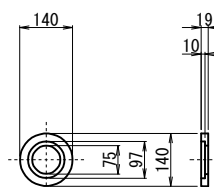
A-A断面図 S=1:2



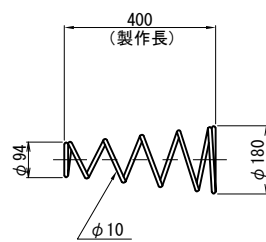
ナット
(S45C：亜鉛めっき)



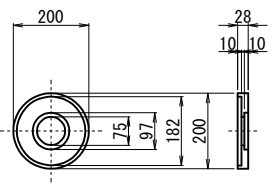
止めプレート（WS用）
(SS400相当品：亜鉛めっき)



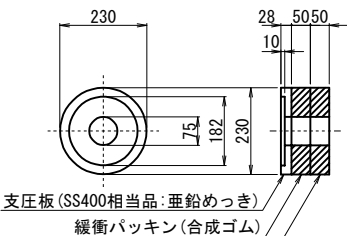
スプリング（WS用）
(SW-C：亜鉛めっき、クロメート処理)



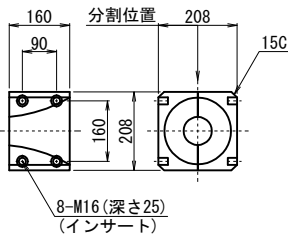
中間プレート
(SS400相当品：亜鉛めっき)



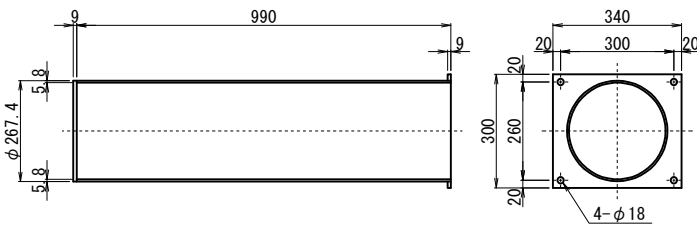
ユニバーサル用緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



鋼製キャップ
(SS400、STK400：亜鉛めっき)

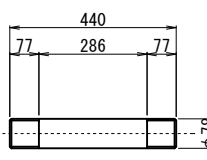


規格表

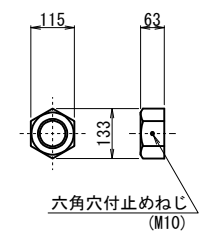
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	991 kN
設 計 遊 間 量	500 mm
許 容 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

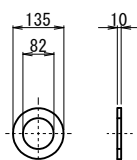
ブラケットピン
(SCM435：DMコート)



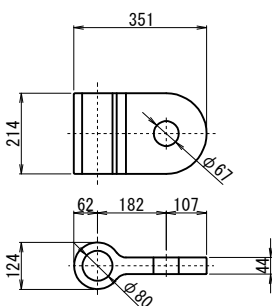
止めナット
(S45C：亜鉛めっき)



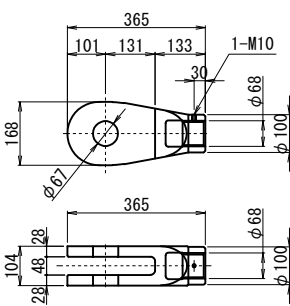
ワッシャー
(SS400相当品：亜鉛めっき)



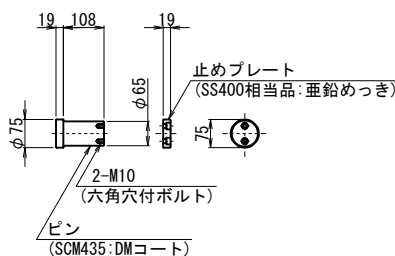
アイバー
(S45C：亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C：亜鉛めっき)



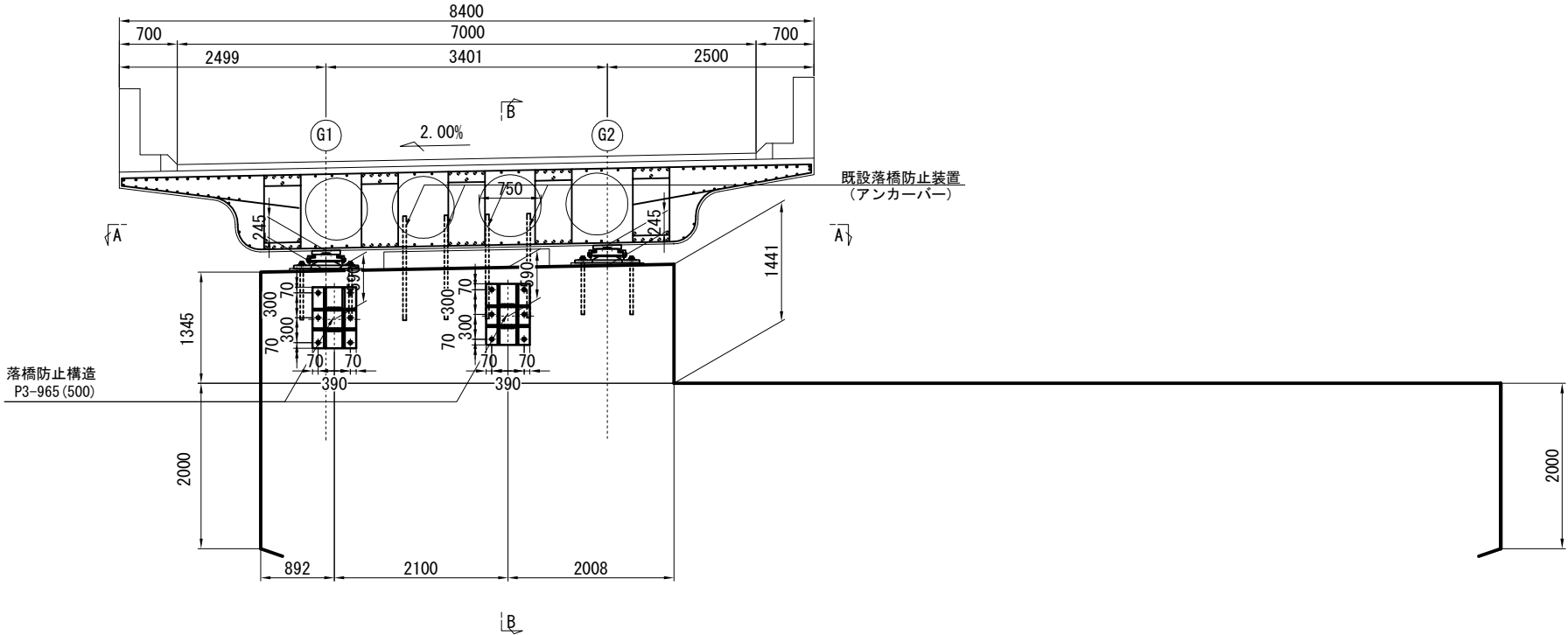
エンドピン
(ピン+止めプレート)



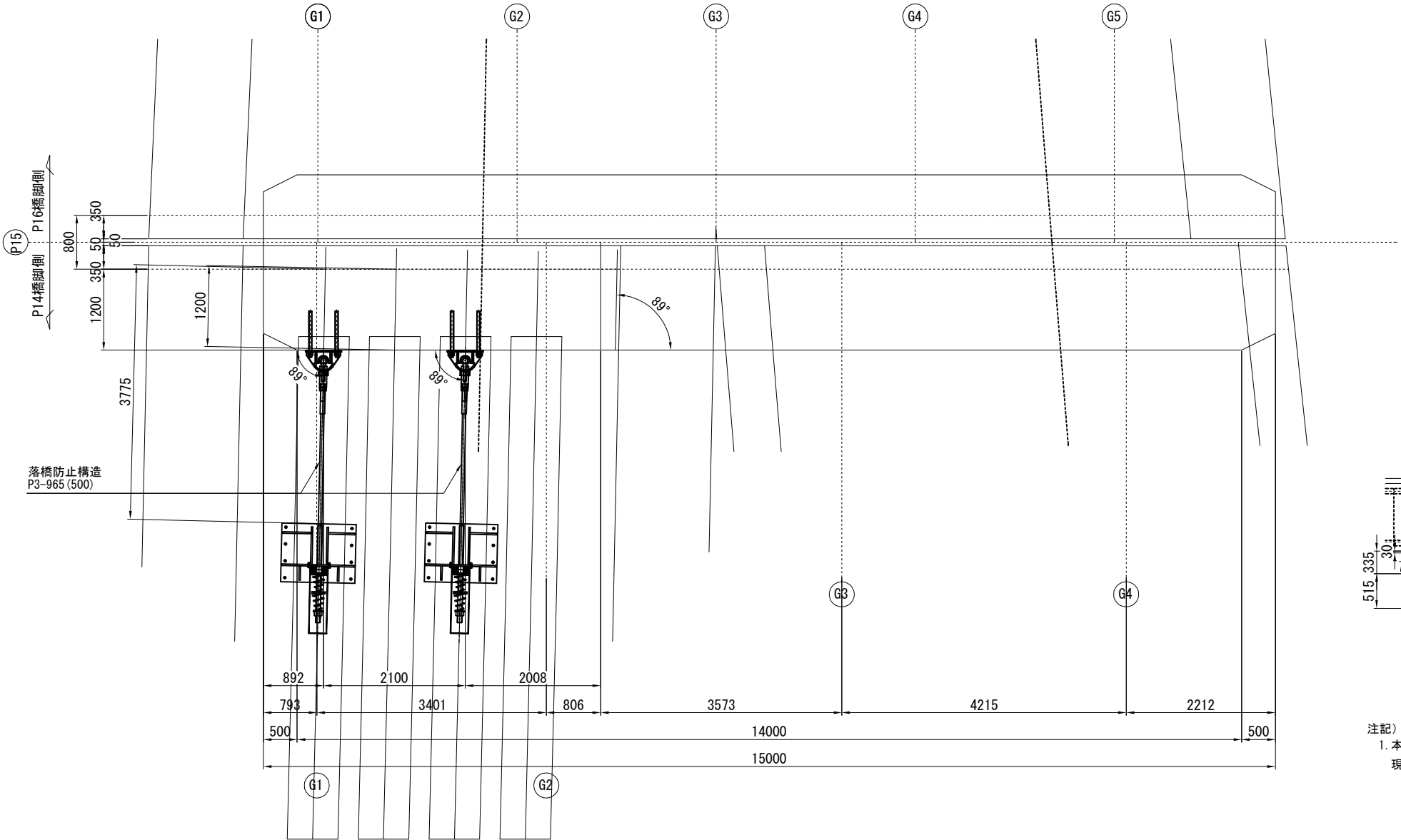
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

横浜横須賀道路 釜利谷JCT第一橋 P4橋脚（終点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）			
図面の種類	縮 尺	図 示	図面番号 52 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

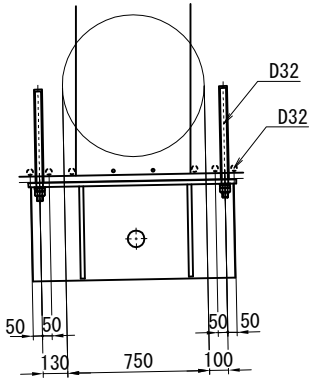
正面図 S=1:40



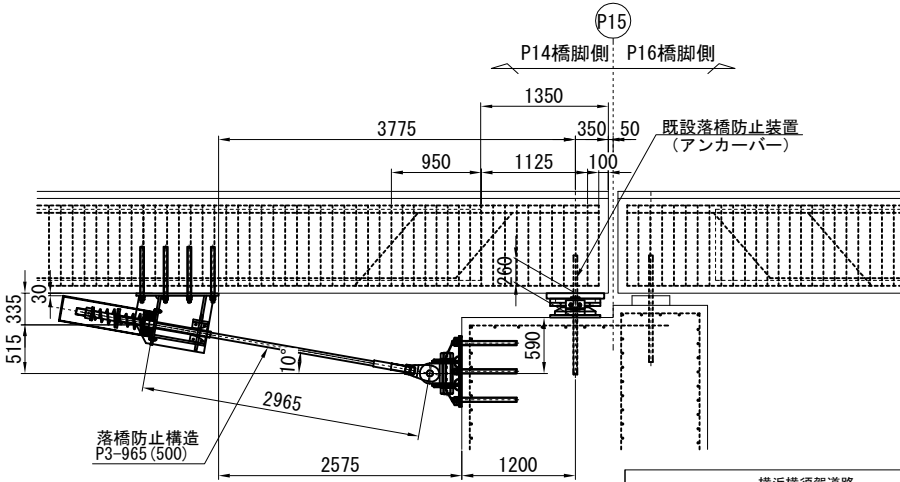
平面図 (A - A) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



側面図 (B - B) S=1:40

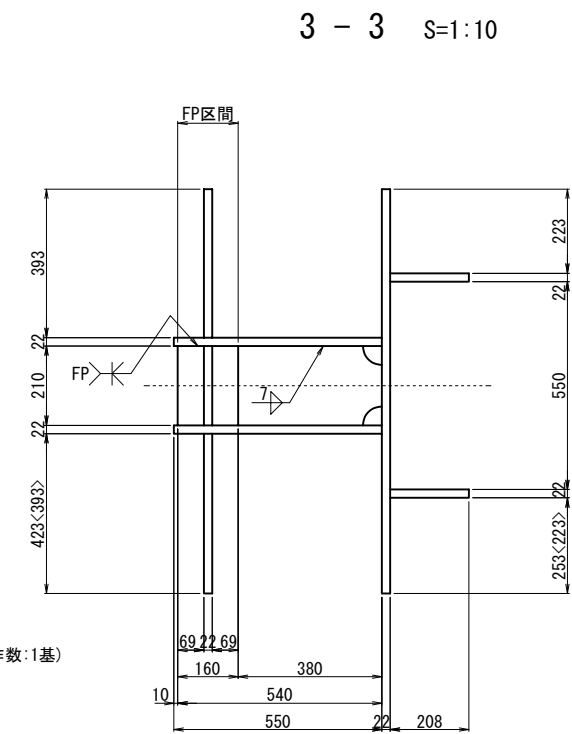
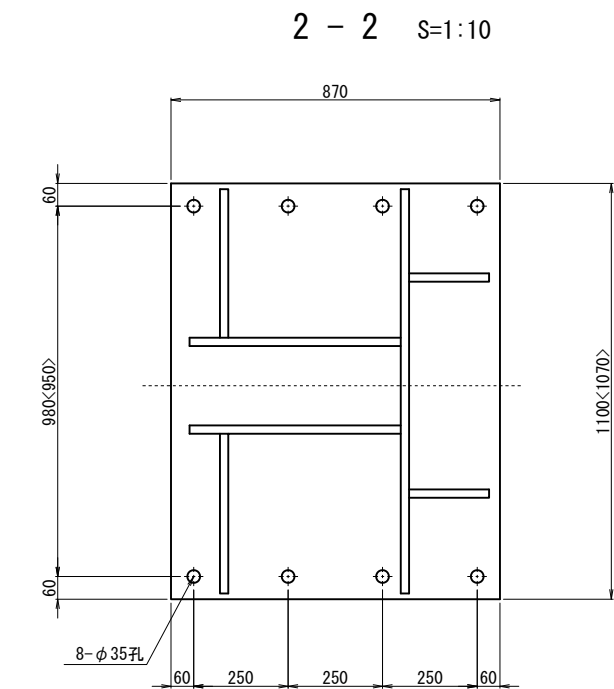
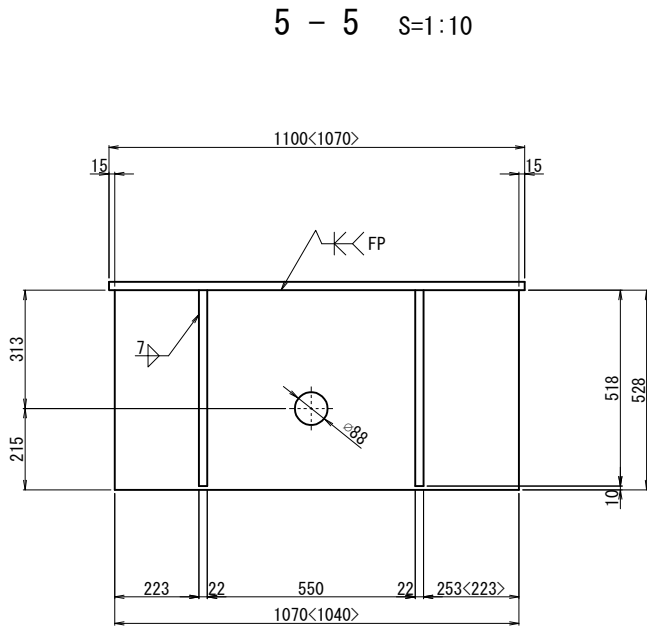
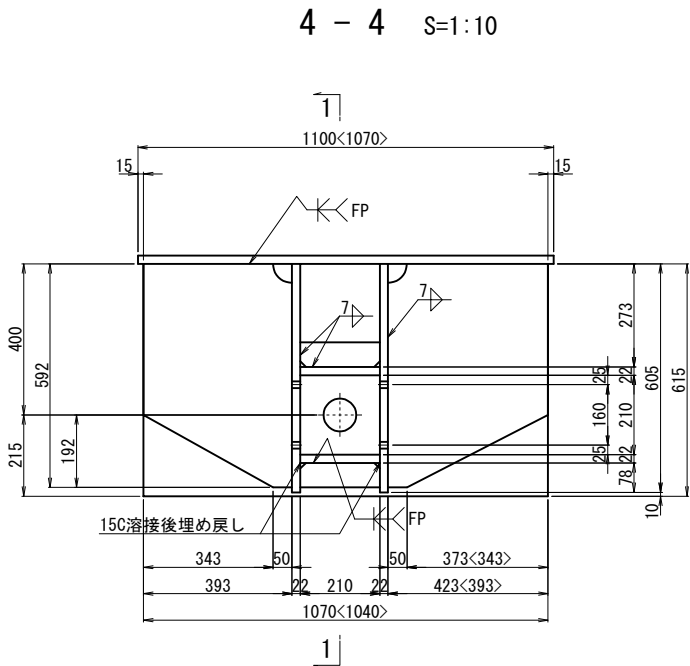
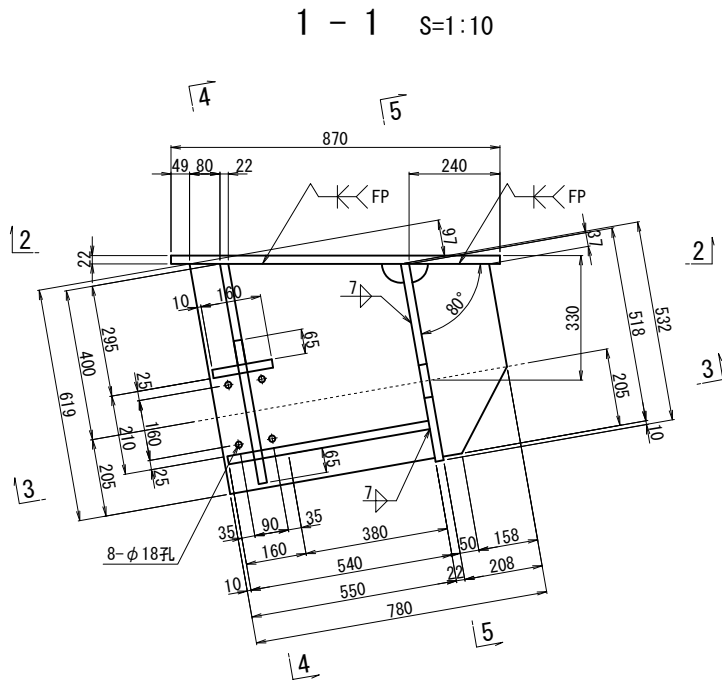


注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

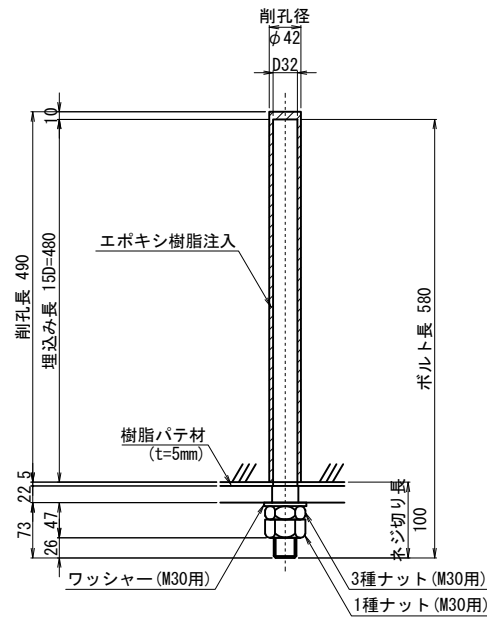
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（起点側）耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	53 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図
（落橋防止構造 P3-965 (500)）



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ42・490（上方向）



C1
ブラケット1基当り（製作数:1基）
2-PL 208x22x518
2-PL 550x22x619
1-PL 423x22x592
1-PL 393x22x592
2-PL 65x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 532x22x1070
1-PL 870x22x1100

C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）
2-PL 208x22x518
2-PL 550x22x619
2-PL 393x22x592
2-PL 65x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 532x22x1040
1-PL 870x22x1070

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

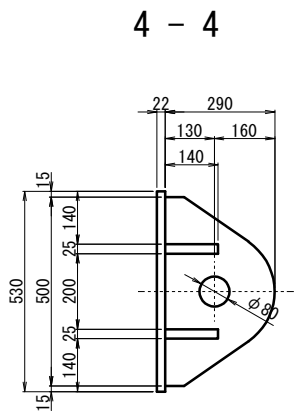
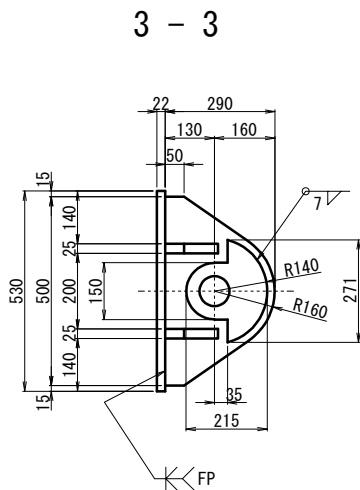
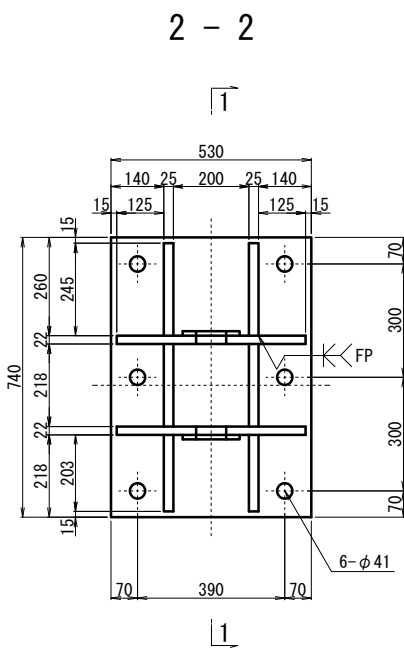
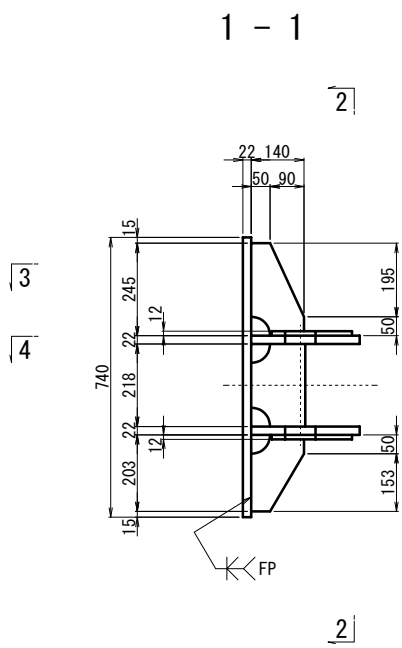
ブラケット1基当り（製作数:2基）
8-AncBolt D32x580 (SD490)
8-1種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
8-3種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
8-Washer M30用（強度区分8.8用）(SS400)

- 注記）
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
 4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 5. < >内は、C2における値を示す。
 6. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第一橋			
	P15橋脚（起点側）	落橋防止構造詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	54	88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

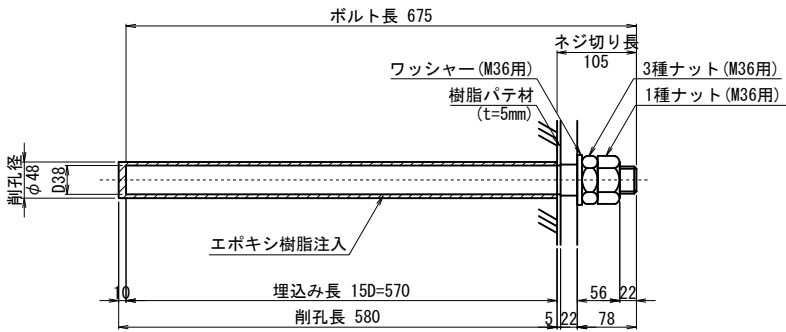
下部エブラケット詳細図

ブラケット詳細図 S=1:10
(落橋防止構造 P3-965 (500))



- ブラケット1基当り (製作数:2基)
- 2-PL 215x12x271
 - 2-PL 290x22x500
 - 2-PL 140x25x245
 - 2-PL 140x25x203
 - 2-PL 140x25x218
 - 1-PL 530x22x740
 - 6-Anc Bolt D38x675 (SD490)
 - 6-1種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-3種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-Washer M36用 (SS400)

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)



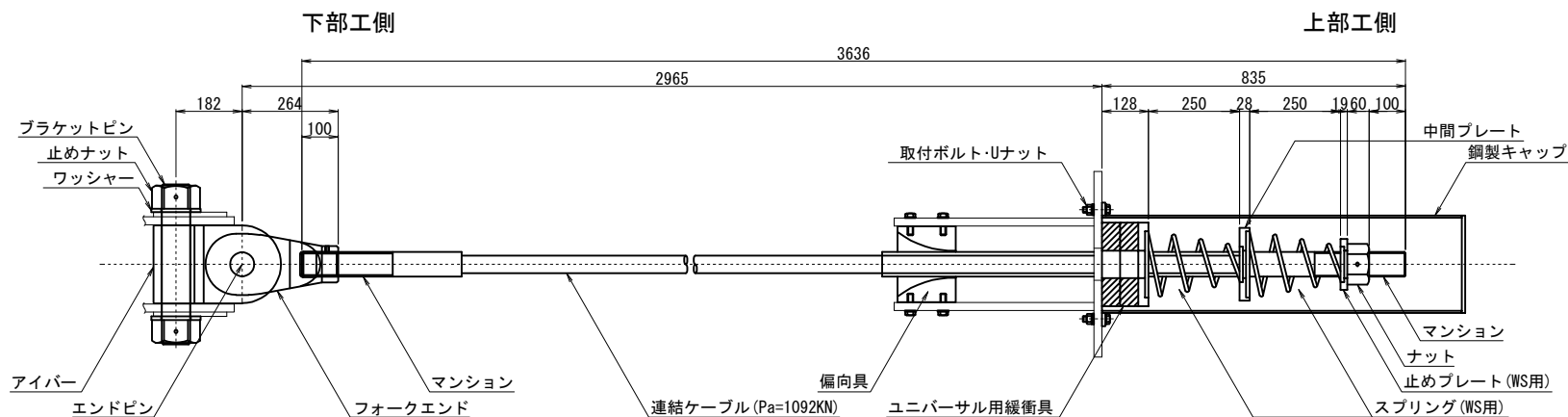
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P15橋脚（起点側） 落橋防止構造詳細図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	55 / 88
設計会社名	バンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 P3-965 (500)

取付詳細図



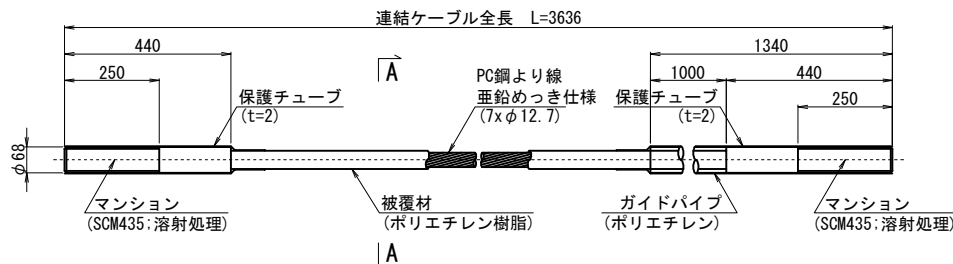
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全2組

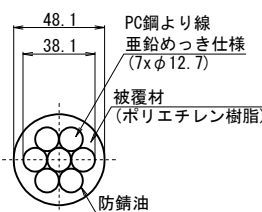
名 称		規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=3636mm	本	1	PC鋼より線、亜鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆	
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、亜鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>	
	Pa=1092KN用 1000mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>	
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)	
止めプレート (WS用)	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)	
スプリング (WS用)	Pa=1092KN用 L=400	個	2	SW-C、亜鉛めっき、クロメート処理	
中間プレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)	
ユニバーサル用緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム	
偏向具 (取付ボルト)	Pa=1092KN用 M16x50 1W付	個 本	1 8	ポリエチレン SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT49) 接着剤付	
鋼製キャップ	Pa=1092KN用 L=990	個	1	SS400、STK400、亜鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)	
取付ボルト・Uナット	M16x60 2W付	本	4	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT49)	
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C、亜鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン) (止めプレート)	Pa=1092KN用 Pa=1092KN用	本 個	1 1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート SS400相当品、亜鉛めっき (HDZT77)

※ L=3636mm 2本

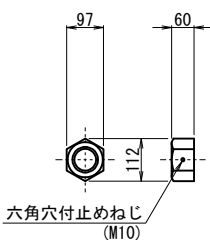
連結ケーブル



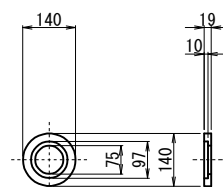
A-A断面図 S=1:2



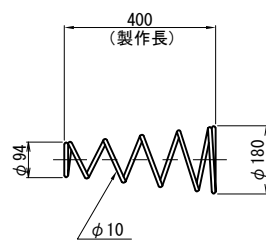
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)



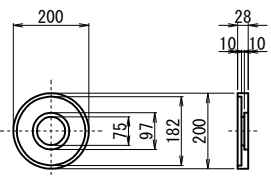
止めプレート (WS用)
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



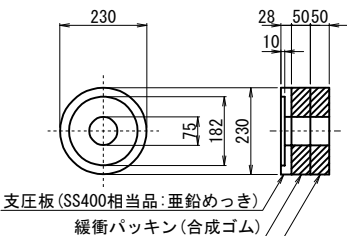
スプリング (WS用)
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



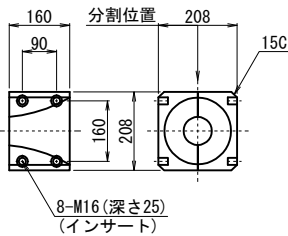
中間プレート
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



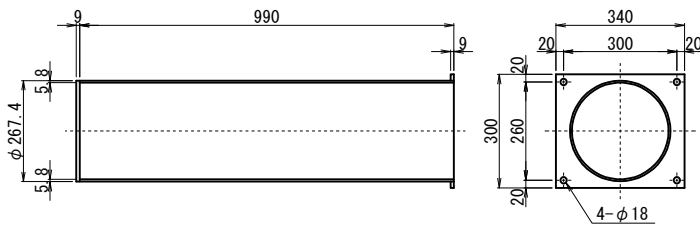
ユニバーサル用緩衝具
(支柱板+緩衝パッキン)



偏向具
(ポリエチレン)



鋼製キャップ
(SS400, STK400: 垂鉛めっき)

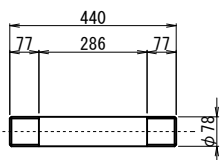


規格表

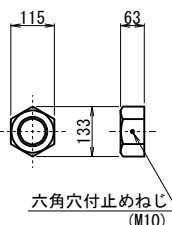
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	965 kN
設計遊間量	500 mm
設計耐力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

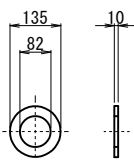
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



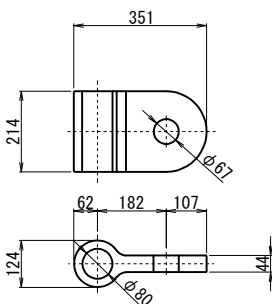
止めナット
(S45C: 垂鉛めっき)



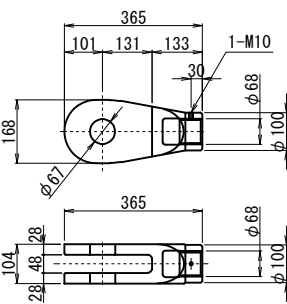
ワッシャー
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



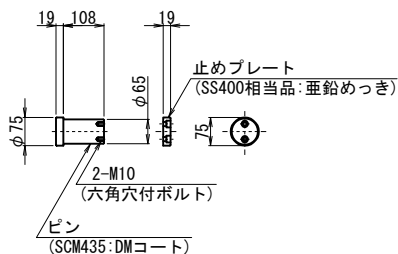
アイバー
(S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 垂鉛めっき)



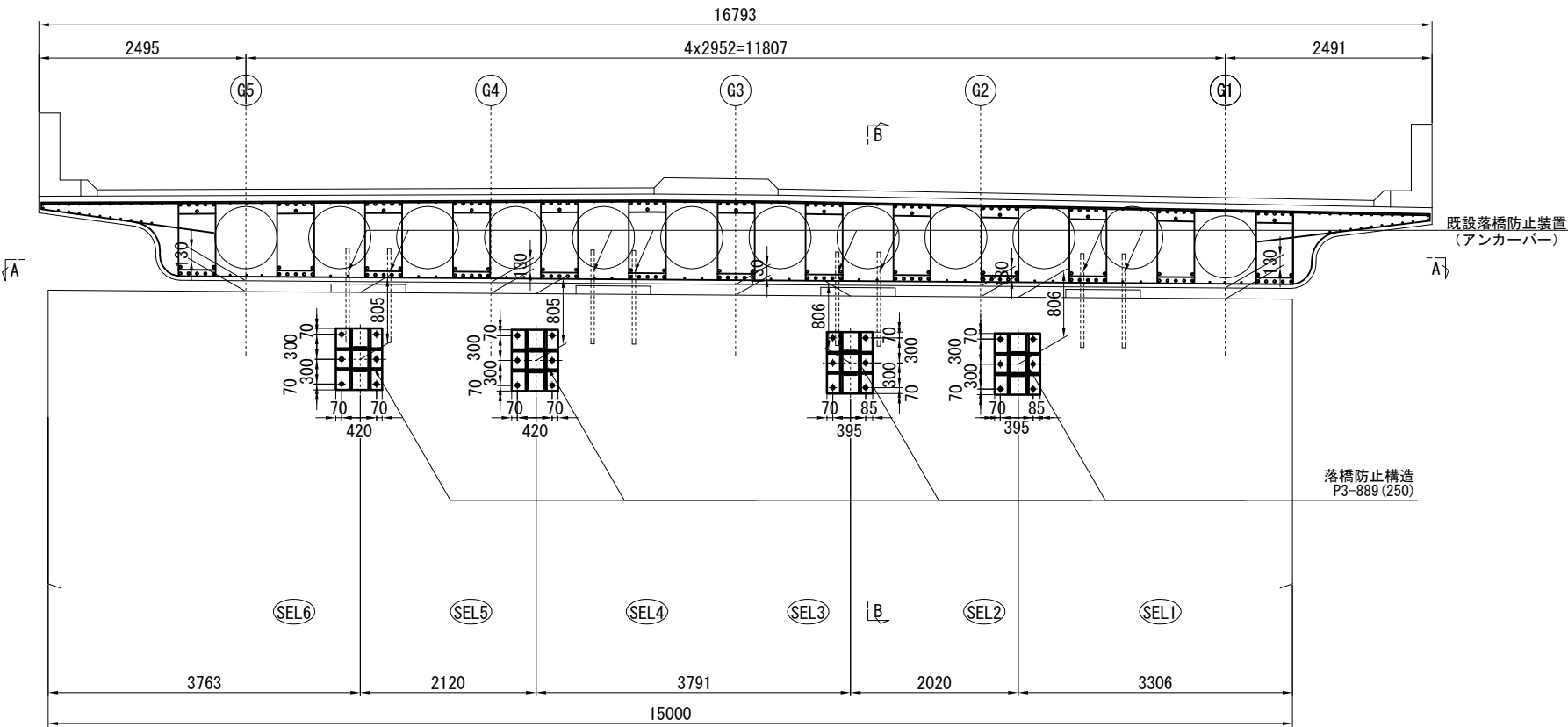
エンドピン
(ピン+止めプレート)



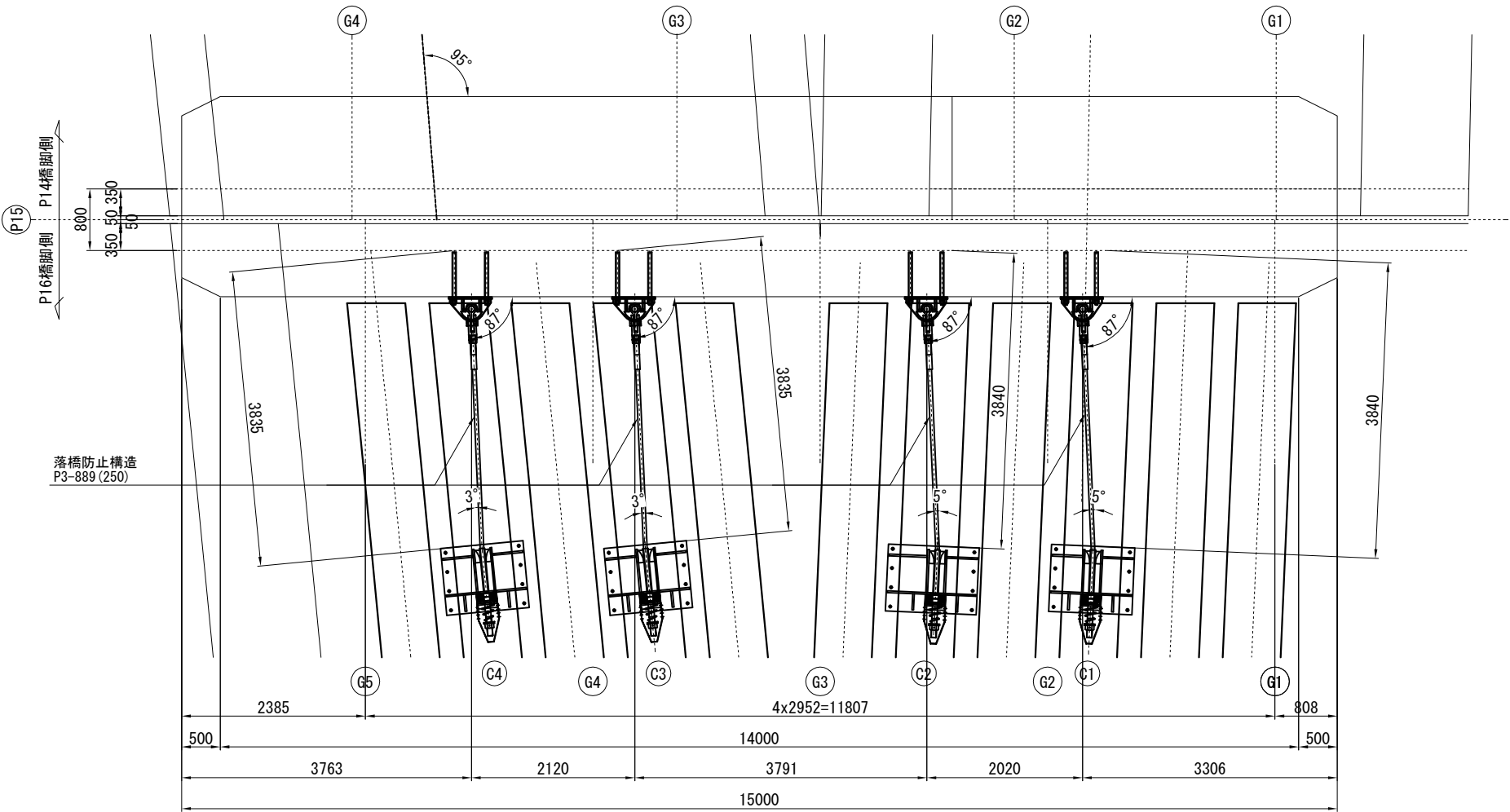
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

横浜横須賀道路			
釜利谷JCT第一橋			
図面の種類	P15橋脚（起点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	56 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

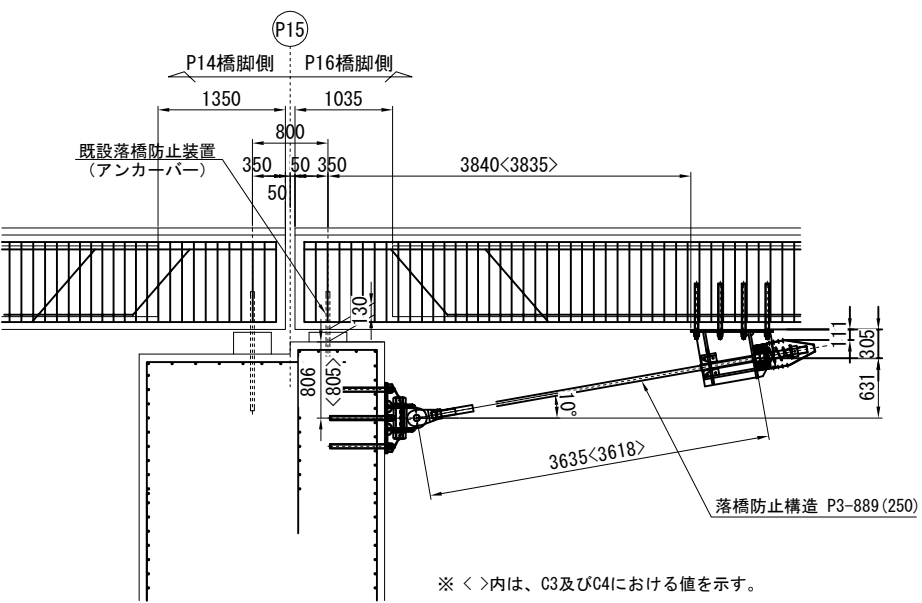
正面図 S=1:40



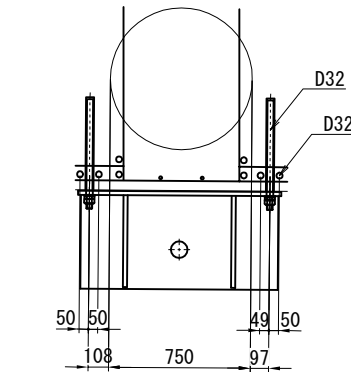
平面図 (A - A) S=1:40



側面図 (B - B) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



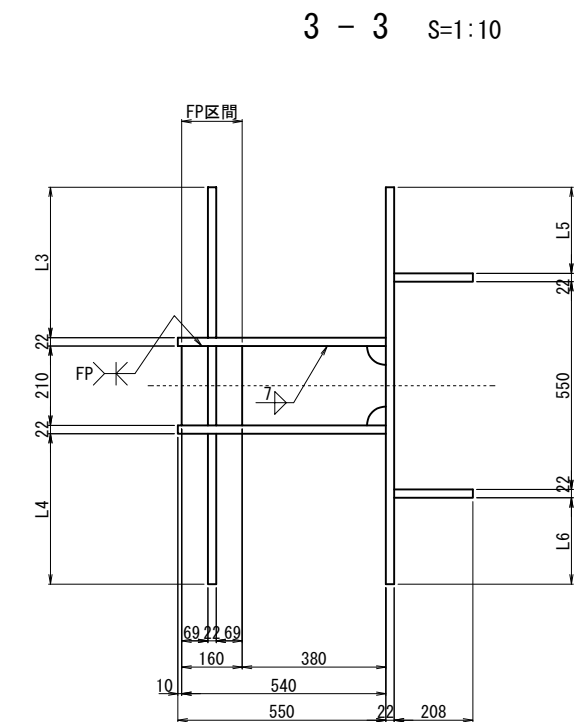
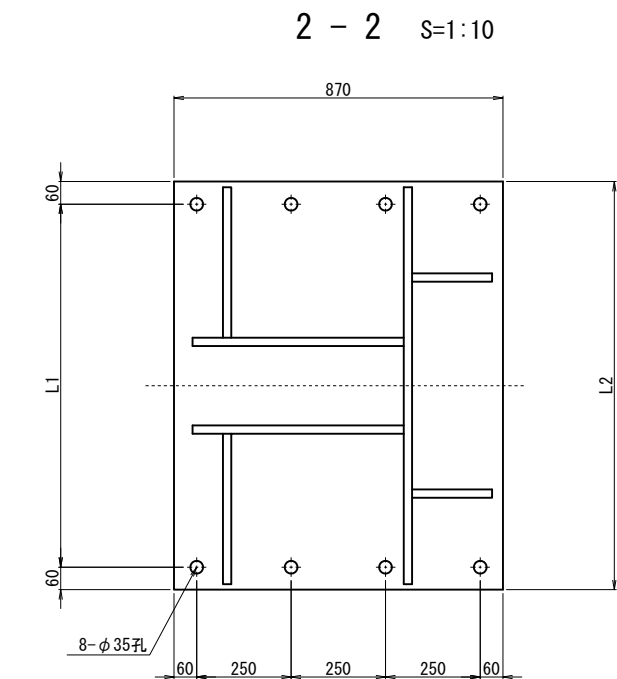
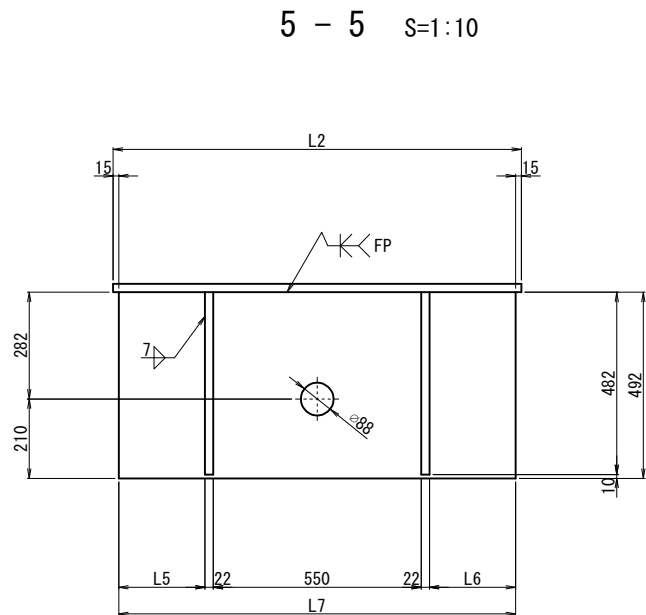
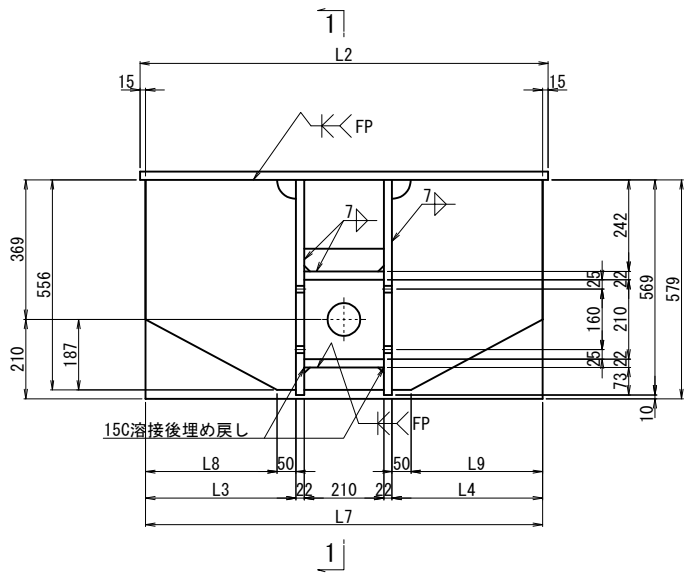
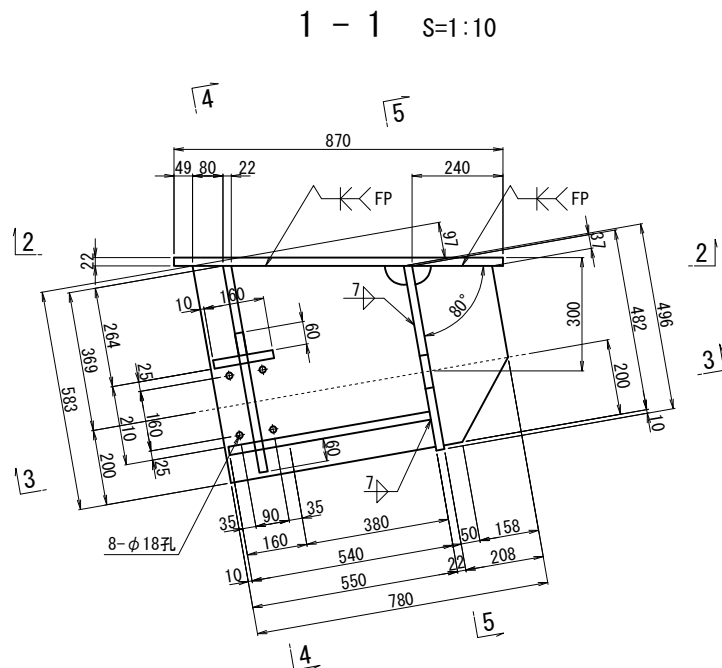
注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（終点側） 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	57 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部エブラケット詳細図

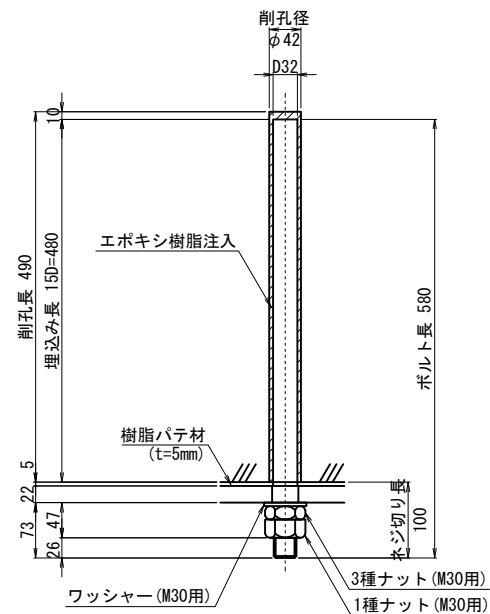
ブラケット詳細図

（落橋防止構造 P3-889 (250)）



落橋防止構造 S=1:5

アンカーエφ42・490(上方向)



	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9
C1	960	1080	398	398	228	228	1050	348	348
C2	1060	1180	398	498	228	328	1150	348	448
C3, C4	955	1075	395.5	395.5	225.5	225.5	1045	345.5	345.5

C1
ブラケット1基当り（製作数:1基）

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 398x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1050
1-PL 870x22x1080

C2
ブラケット1基当り（製作数:1基）

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
1-PL 398x22x556
1-PL 498x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1150
1-PL 870x22x1180

C3, C4
ブラケット1基当り（製作数:2基）

2-PL 208x22x482
2-PL 550x22x583
2-PL 396x22x556
2-PL 60x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 496x22x1045
1-PL 870x22x1075

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り（製作数:4基）

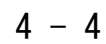
8-AncBolt D32x580 (SD490)
8-1種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
8-3種Nut M30用（強度区分8.8）(SS400)
8-Washer M30用（強度区分8.8用）(SS400)

注記）

- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
- 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
- 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
- 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	P15橋脚（終点側） 落橋防止構造詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	58 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

2 - 2



	L1	L2	L3	L4	L5	L6	LL1	LL2
C1, C2	550	520	160	145	395	85	520	550
C3, C4	560	530	170	155	420	70	530	560

Technical drawing of a bolted connection for a resin plate. The drawing shows a side view of a bolt passing through a resin plate and a metal plate. Key dimensions and components are labeled:

- Bolt length 675
- Washer (M36用)
- 樹脂パテ材 (t=5mm)
- 3種ナット (M36用)
- 1種ナット (M36用)
- ネジ切り長 105
- 埋込み長 150=570
- エポキシ樹脂注入
- 削孔径 $\phi 48$
- 削孔長 580
- Dimensions: 10, 5, 22, 78, 56, 22

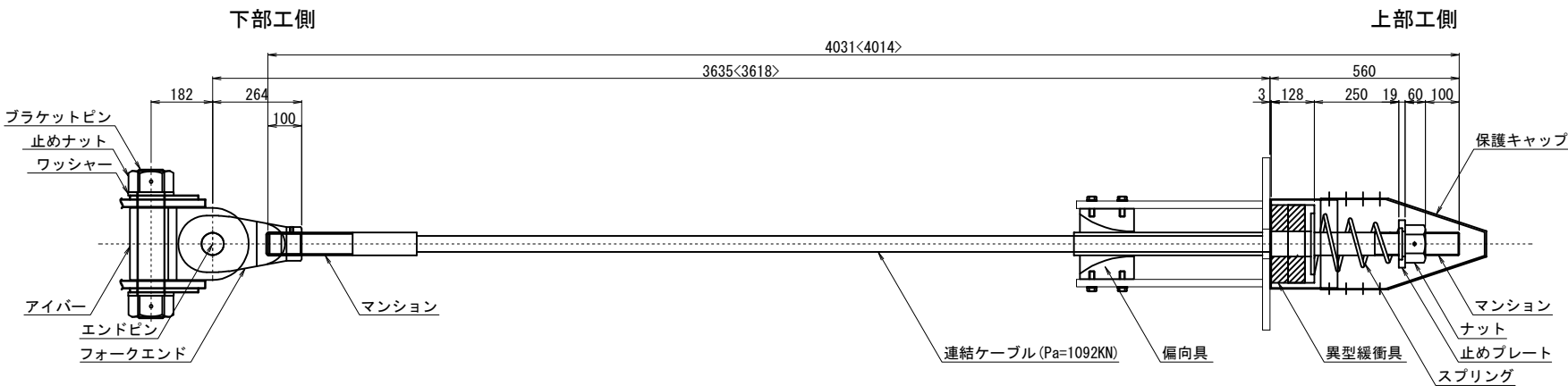
注記)

1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕掛けとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
4. プラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
5. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜須賀買道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷JCT第一橋 P15橋脚（橋点側） 震害防止構造詳細（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	59 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜管理事務所		

落橋防止構造 P3-889 (250)

取付詳細図



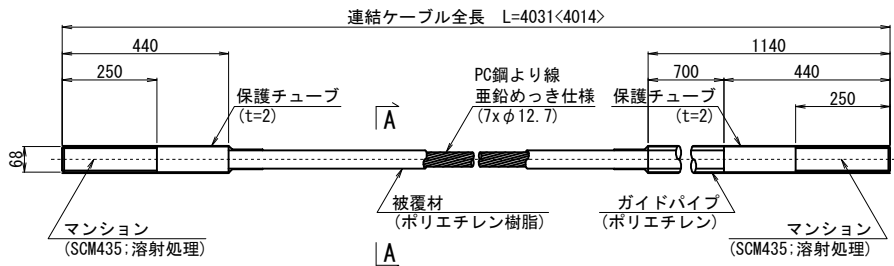
材 料 表（落橋防止構造1組当たり）

全4組

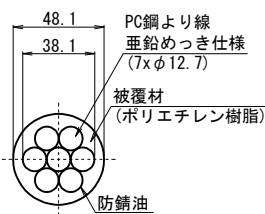
名 称		規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=1092KN L=4031<4014>mm	本	1	PC鋼より線、垂鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆	
	Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、垂鉛アルミ溶射、ねじきり標準 <ケーブルに組込>	
	Pa=1092KN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>	
ナット	Pa=1092KN用	個	1	S45C: 垂鉛めっき (HDZT77)	
止めプレート	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77)	
スプリング	Pa=1092KN用 L=400	個	1	SW-C: 垂鉛めっき、クロメート処理	
異型緩衝具	Pa=1092KN用	個	1	SS400: 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム	
偏向具 (取付ボルト)	Pa=1092KN用 M16x50 1W付	個 本	1 8	ポリエチレン SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付	
保護キャップ	Pa=1092KN用	組	1	ポリエチレン: 8-止めビス付	
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400、垂鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン) (止めプレート)	Pa=1092KN用 Pa=1092KN用	本 個	1 1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート SS400、垂鉛めっき

※ L=4031mm 2本, L=4014mm 2本

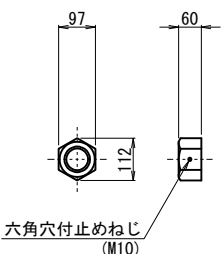
連結ケーブル



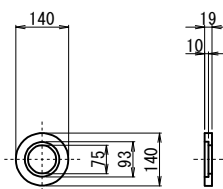
A-A断面図 S=1:2



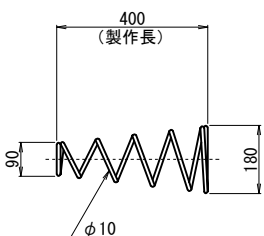
ナット (S45C: 垂鉛めっき)



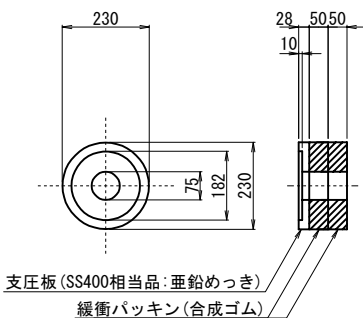
止めプレート (SS400相当品: 垂鉛めっき)



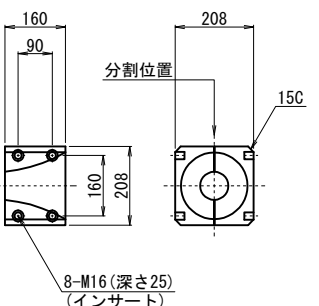
スプリング (SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



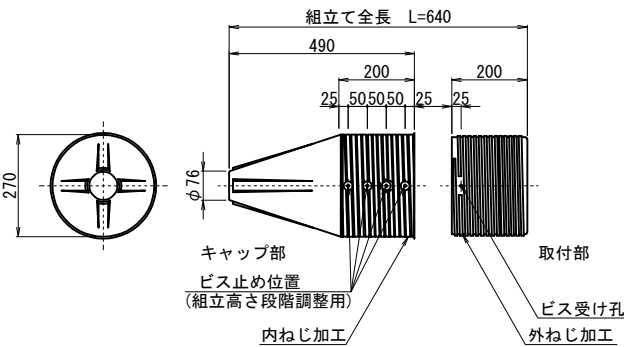
異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)

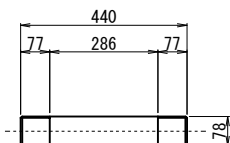


規格表

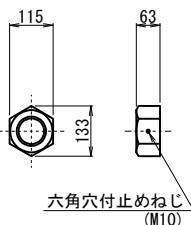
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	889 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
設 計 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

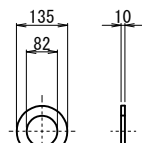
ブラケットピン (SCM435: DMコート)



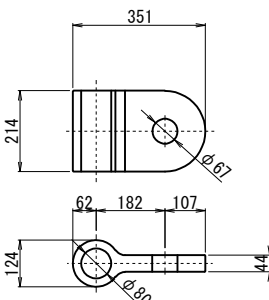
止めナット (S45C: 垂鉛めっき)



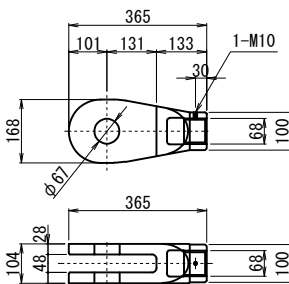
ワッシャー (SS400: 垂鉛めっき)



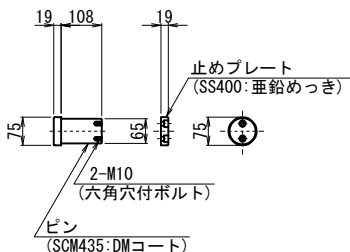
アイバー (S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド (S45C: 垂鉛めっき)



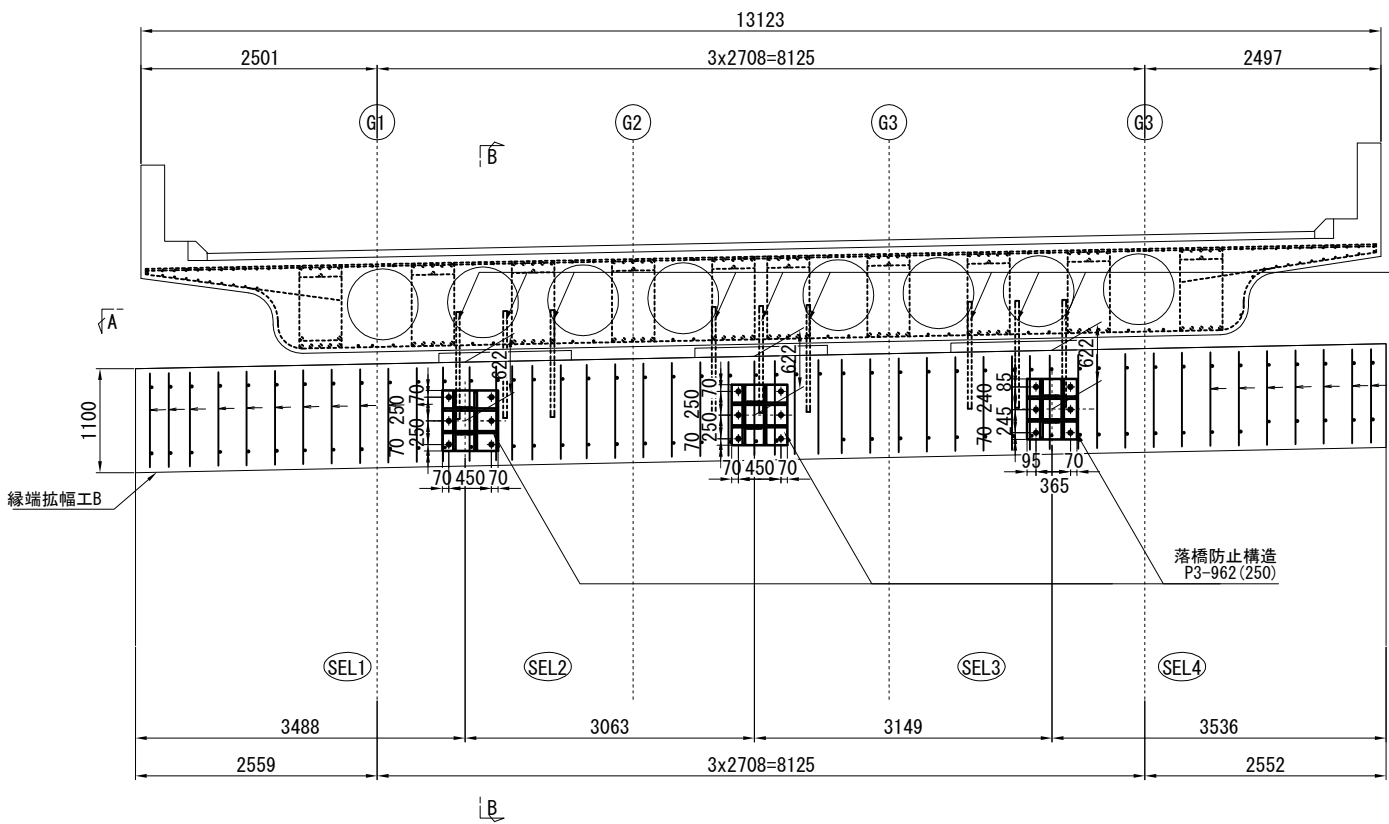
エンドピン (ピン+止めプレート)



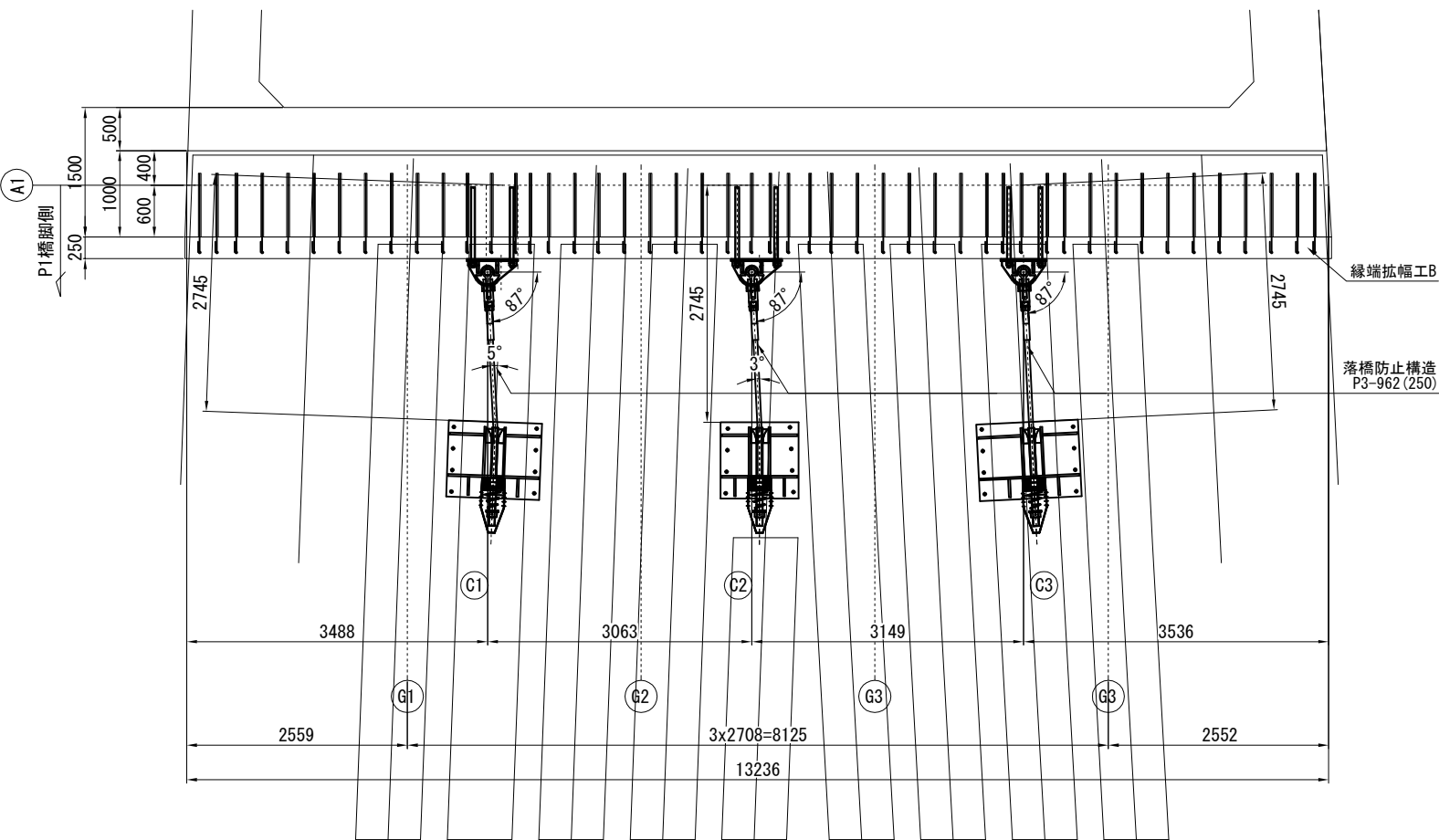
注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. < >内は、C3及びC4における値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 P15橋脚（終点側）落橋防止構造詳細図（その3）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	60 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

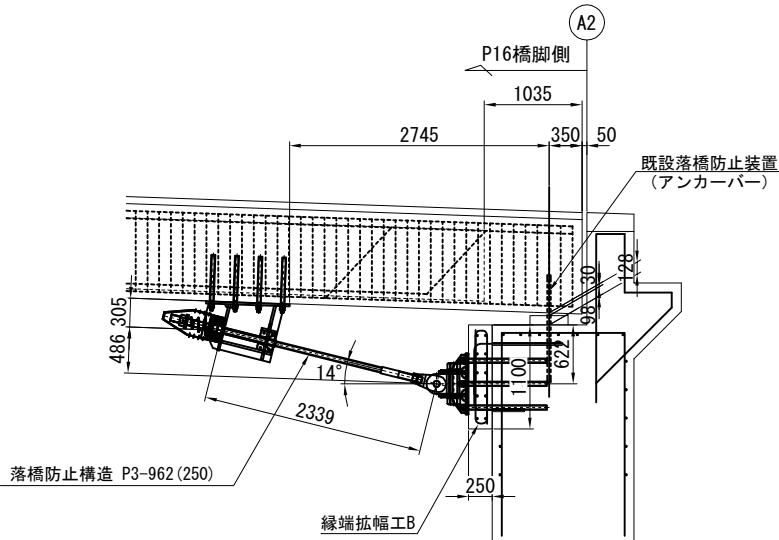
正面図 S=1:40



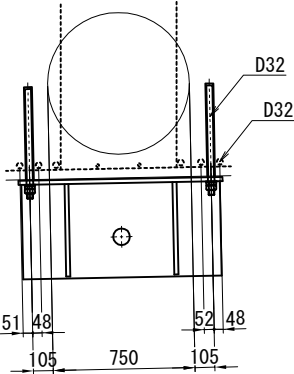
平面図 (A - A) S=1:40



側面図 (B - B) S=1:40



落橋防止構造 取付詳細図 S=1:20



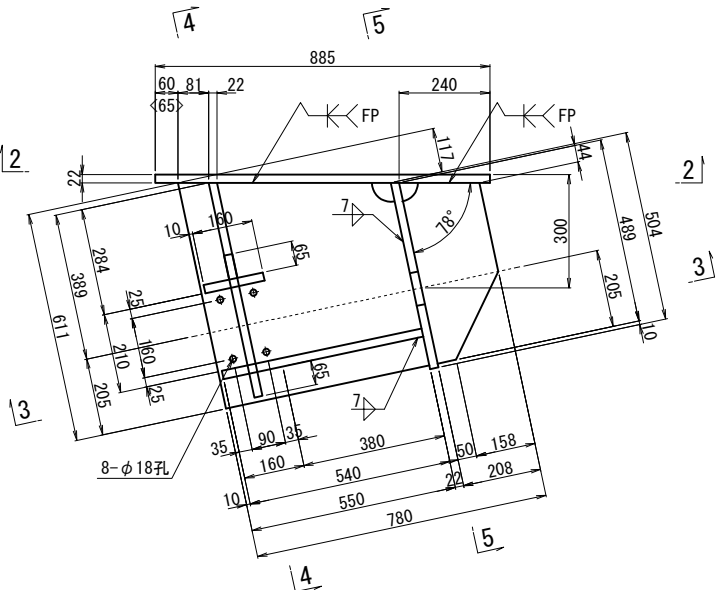
注記)
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 耐震補強配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	61 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

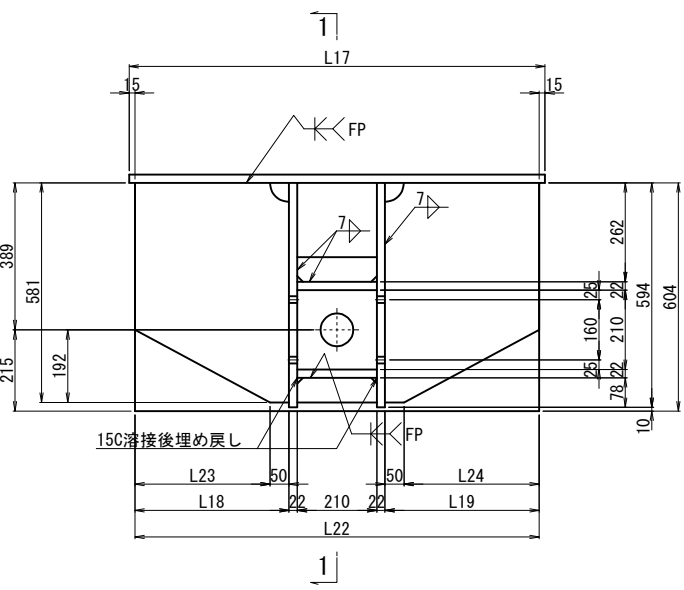
ブラケット詳細図

(落橋防止構造 P3-962(250))

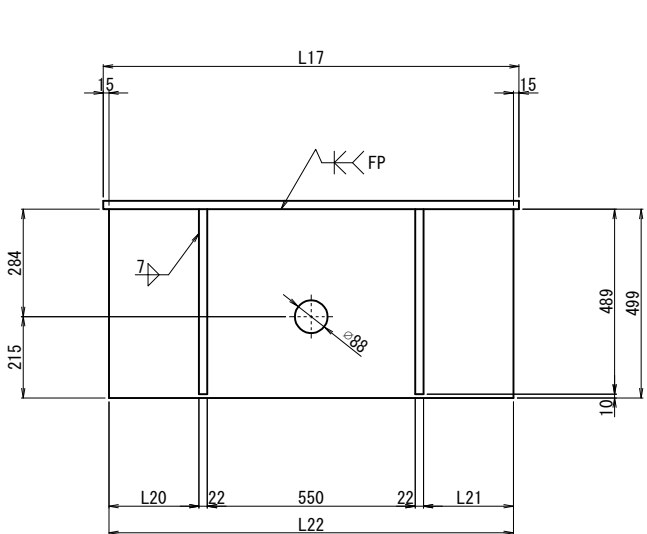
1 - 1 S=1:10



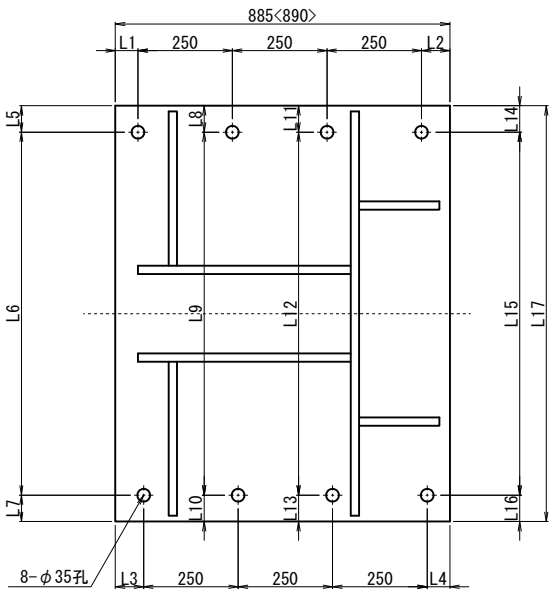
4 - 4 S=1:10



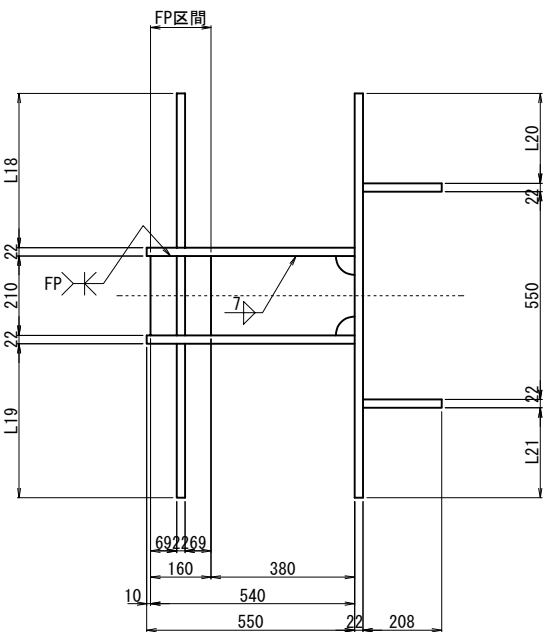
5 - 5 S=1:10



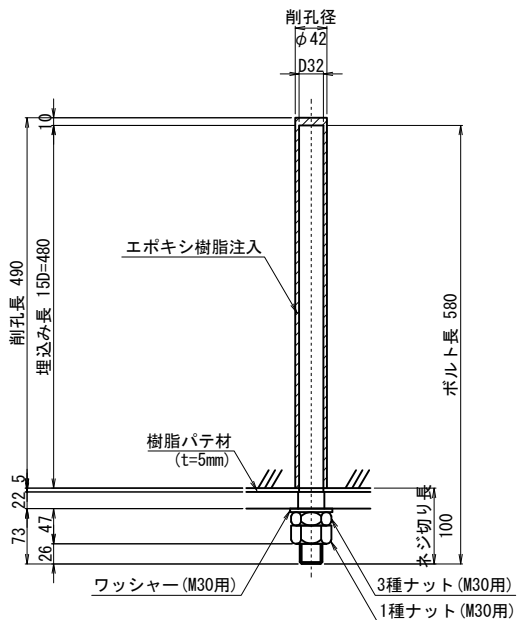
2 - 2 S=1:10



3 - 3 S=1:10



落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ42・490(上方向)



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

ブラケット1基当り (製作数:3基)
8-AncBolt D32x580 (SD490)
8-1種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-3種Nut M30用 (強度区分8.8) (SS400)
8-Washer M30用 (強度区分8.8用) (SS400)

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
 4. 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
垂鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 5. < >内は、C3における値を示す。
 6. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8
C1	60	75	75	60	60	960	60	60
C2	60	75	75	60	100	720	85	85
C3	80	60	60	80	60	1060	60	60

	L9	L10	L11	L12	L13	L14	L15	L16
C1	960	60	60	960	60	60	960	60
C2	740	80	75	760	70	60	785	60
C3	1060	60	60	1060	60	60	1060	60

	L17	L18	L19	L20	L21	L22	L23	L24
C1	1080	398	398	228	228	1050	348	348
C2	905	310.5	310.5	140.5	140.5	875	260.5	260.5
C3	1180	403	493	233	323	1150	355	443

C1
ブラケット1基当り (製作数:1基)

2-PL 208x22x489
2-PL 550x22x611
2-PL 398x22x581
2-PL 65x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 504x22x1050
1-PL 885x22x1080

C2
ブラケット1基当り (製作数:1基)

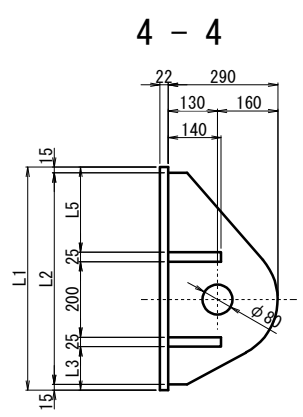
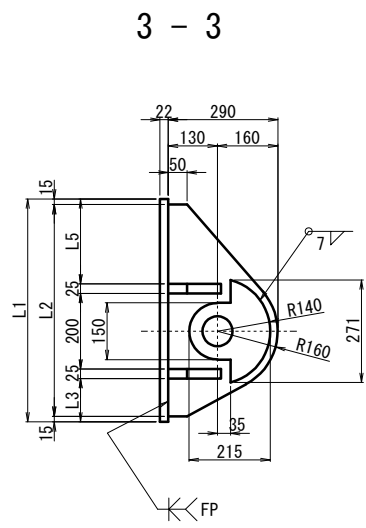
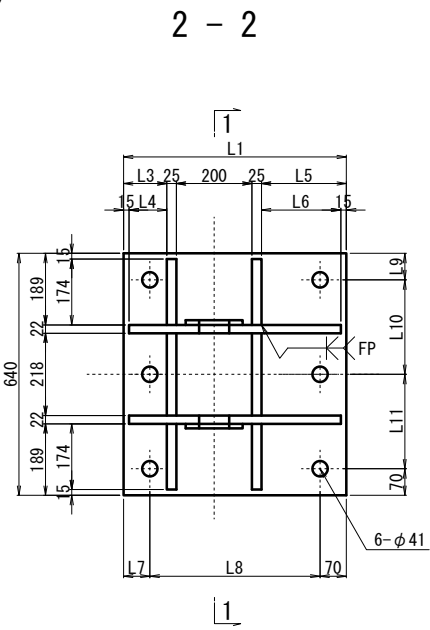
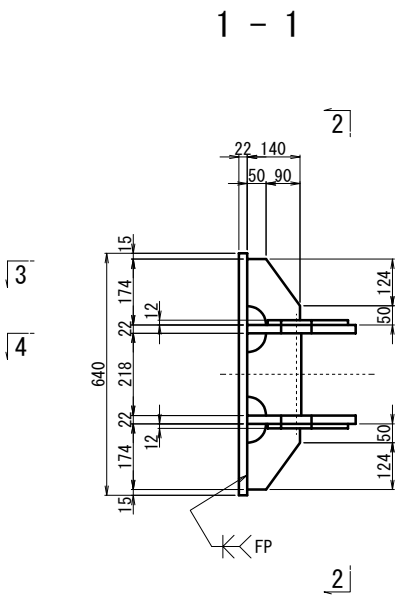
2-PL 208x22x489
2-PL 550x22x611
2-PL 311x22x581
2-PL 65x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 504x22x875
1-PL 885x22x905

C3
ブラケット1基当り (製作数:1基)

2-PL 208x22x489
2-PL 550x22x611
1-PL 403x22x581
1-PL 493x22x581
2-PL 65x22x210
1-PL 210x22x540
1-PL 160x22x210
1-PL 504x22x1150
1-PL 890x22x1180

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 62 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

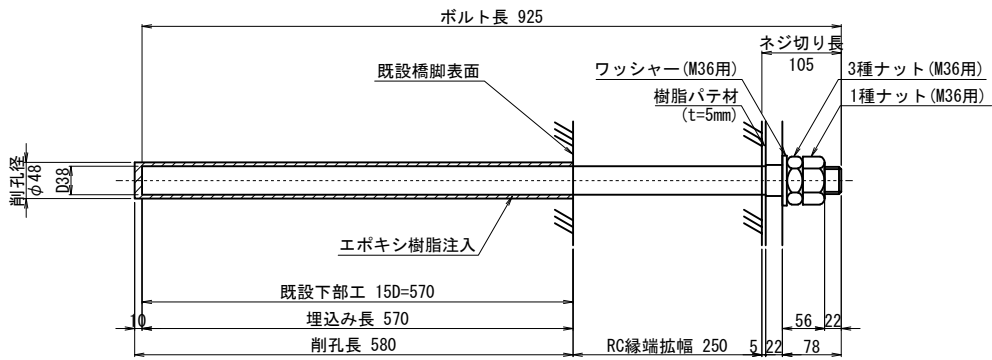
ブラケット詳細図 S=1:10
(落橋防止構造 P3-962 (250))



- ブラケット1基当り(製作数:3基)
- 2-PL 215x12x271
 - 2-PL 290x22xLL1
 - 4-PL 140x25x174
 - 2-PL 140x25x218
 - 1-PL LL2x22x640
 - 6-Anc Bolt D38x925 (SD490)
 - 6-1種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-3種 Nut M36用 (SS400)
 - 6-Washer M36用 (SS400)

	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	LL1	LL2
C1, C2	590	560	115	100	225	210	70	450	70	250	250	560	590
C3	530	500	140	125	140	125	95	365	85	240	245	500	530

落橋防止構造 S=1:5
アンカーエφ48・580(水平方向)

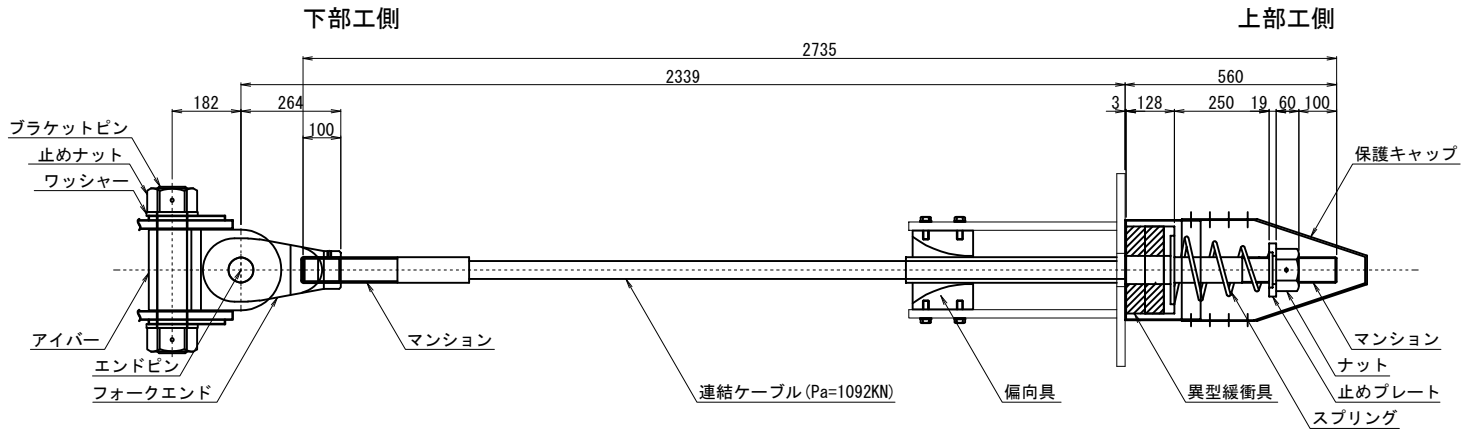


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上とする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 落橋防止構造詳細図(その2)		
	縮 尺	図 示	図面番号 63 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



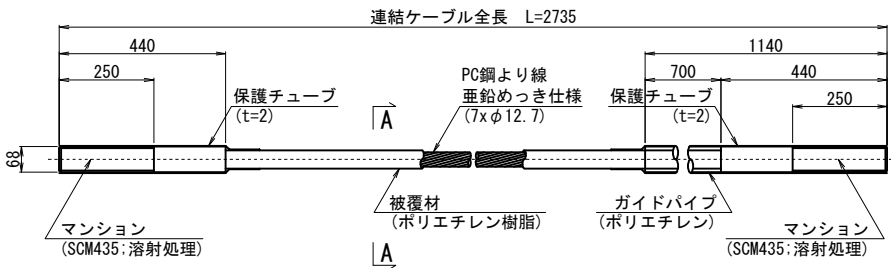
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全3組

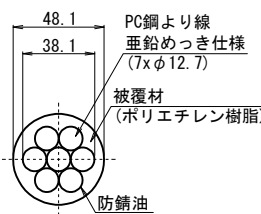
名 称		規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)		Pa=1092KN L=2735mm	本	1	PC鋼より線、垂鉛めっき仕様、ポリエチレン被覆
		Pa=1092KN用 標準	個	2	SCM435、垂鉛アルミ溶射、ねじり標準 <ケーブルに組込>
		Pa=1092KN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット		Pa=1092KN用	個	1	S45C;垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート		Pa=1092KN用	個	1	SS400;垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング		Pa=1092KN用 L=400	個	1	SW-C;垂鉛めっき、クロメート処理
異型緩衝具		Pa=1092KN用	個	1	SS400;垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具 (取付ボルト)		Pa=1092KN用	個	1	ポリエチレン
		M16x50 1W付	本	8	SS400相当品;垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ		Pa=1092KN用	組	1	ポリエチレン;8-止めビス付
ユニバーサルシステム	ブラケットピン	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	止めナット	Pa=1092KN用	個	2	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	ワッシャー	Pa=1092KN用	個	2	SS400、垂鉛めっき (HDZT77)
	アイバー	Pa=1092KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	フォークエンド	Pa=1092KN用	個	1	S45C、垂鉛めっき (HDZT77)
	エンドピン (ピン)	Pa=1092KN用	本	1	SCM435、ダクロダイズド処理、DMコート
	(止めプレート)	Pa=1092KN用	個	1	SS400、垂鉛めっき

※ L=2735mm 3本

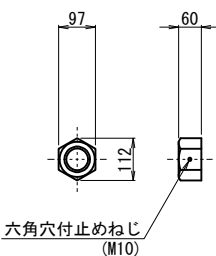
連結ケーブル



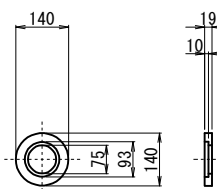
A-A断面図 S=1:2



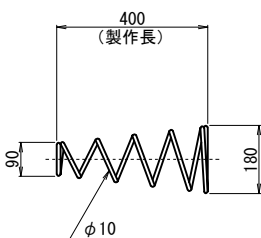
ナット (S45C: 垂鉛めっき)



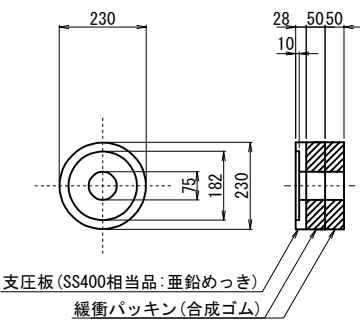
止めプレート (SS400相当品: 垂鉛めっき)



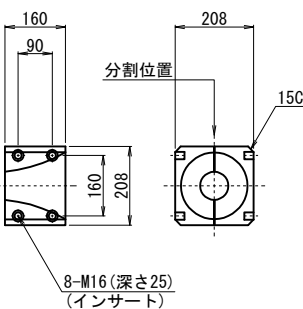
スプリング (SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



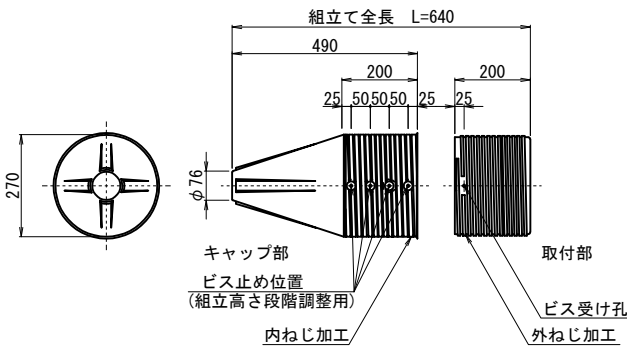
異型緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)

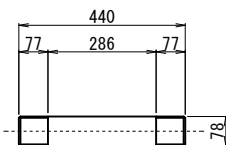


規格表

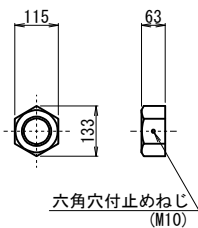
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	962 kN
設 計 遊 間 量	250 mm
設 計 耐 力	1092 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

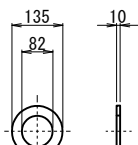
ブラケットピン (SCM435: DMコート)



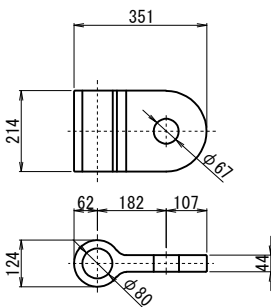
止めナット (S45C: 垂鉛めっき)



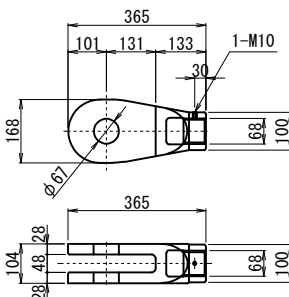
ワッシャー (SS400: 垂鉛めっき)



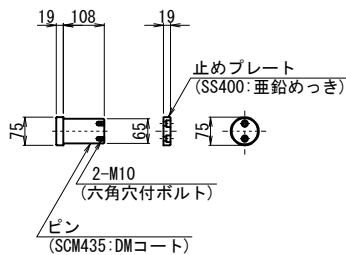
アイバー (S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド (S45C: 垂鉛めっき)



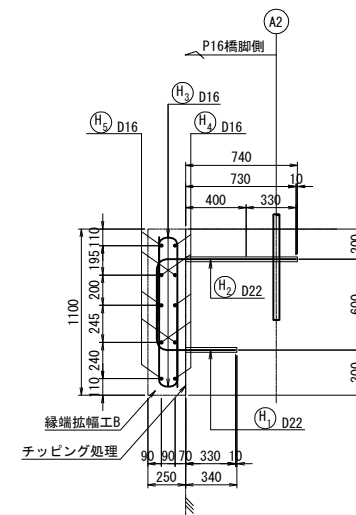
エンドピン (ピン+止めプレート)



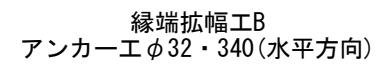
- 注記)
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
 2. < >内は、C3における値を示す。

釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
釜利谷JCT第一橋			
図面の種類	A2橋台 落橋防止構造詳細図(その3)(参考図)	図面番号	64 / 88
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社	図面番号	64 / 88
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社	図面番号	64 / 88
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所	図面番号	64 / 88

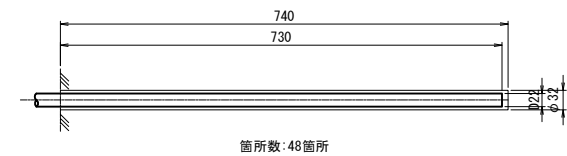
C - C s=1:25



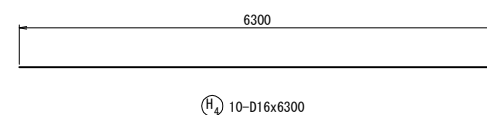
アンカー鉄筋定着詳細図 S=1:6.25



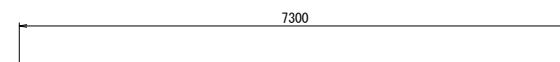
縁端拡幅工B
アンカー工 $\phi 32 \cdot 740$ (水平方向)



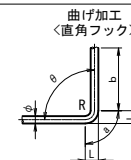
(H₃) 96-D16x1620



⑤ 10-D16x7300



鉄筋表



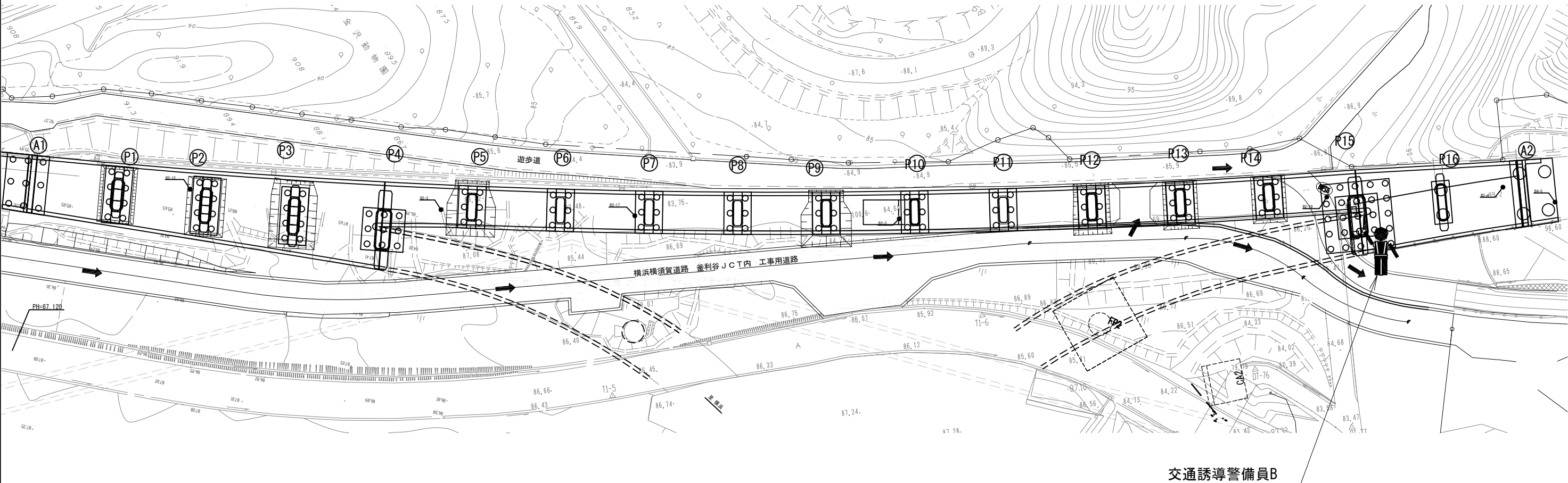
記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	備考
H1	D22	1020	48	3.04	3.10	149	┐
H2	D22	1420	48	3.04	4.32	207	┐
H3	D16	1620	96	1.56	2.53	243	┐
H4	D16	6300	10	1.56	9.83	98	——
H5	D16	7300	10	1.56	11.39	114	——
鉄筋質量 (SD345)				D16		455	kg
				D22		356	kg
緑端拡幅工B 鉄筋				合計		811	kg
緑端拡幅工B コンクリート						3.655	m3
緑端拡幅工B 型わく						18.49	m2

- (注記)
1. 製作は現地にて寸法を計測し確認後行なうこと。
 2. 既設コンクリートへの削孔の際には、鉄筋探査を実施し既設鉄筋は、切断しないこと。また、既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト位置の調整を行うこと。
 3. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30N/mm^2$ とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 A2橋台 縁端拡幅工B詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	65 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

←至 堀口能見台

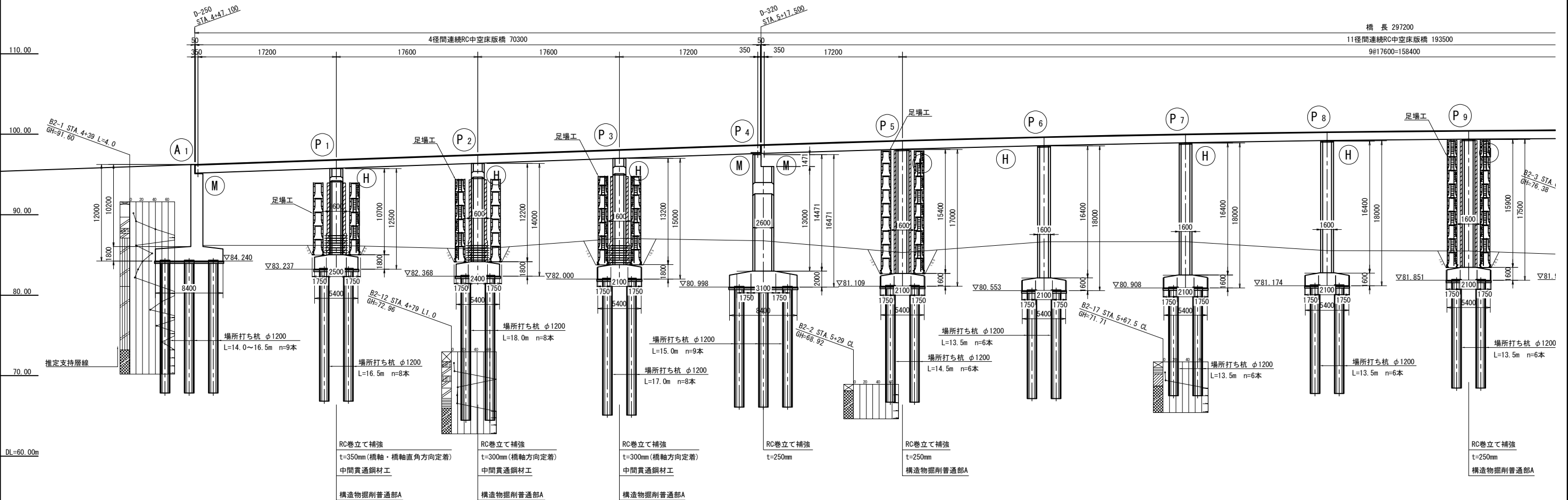
至 横須賀 →



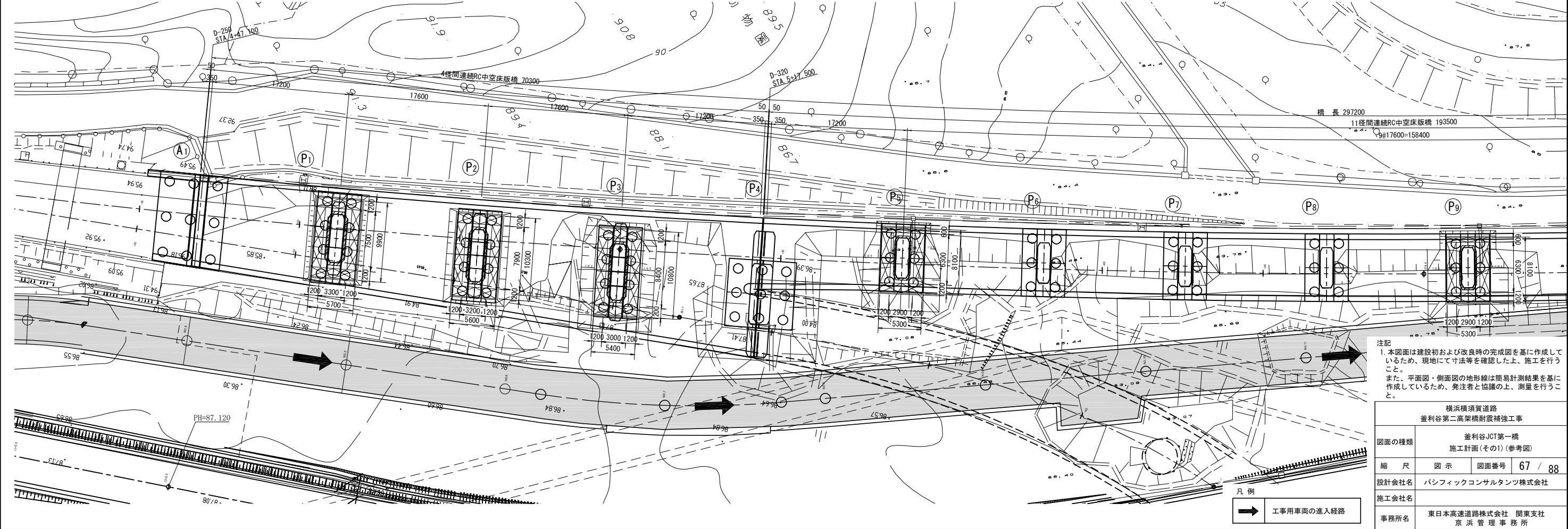
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 交通保安要員配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	66 / 88
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 施工計画(その1)(参考図)

【柱補強時】
側面図 S=1:500



平面図 S=1:500

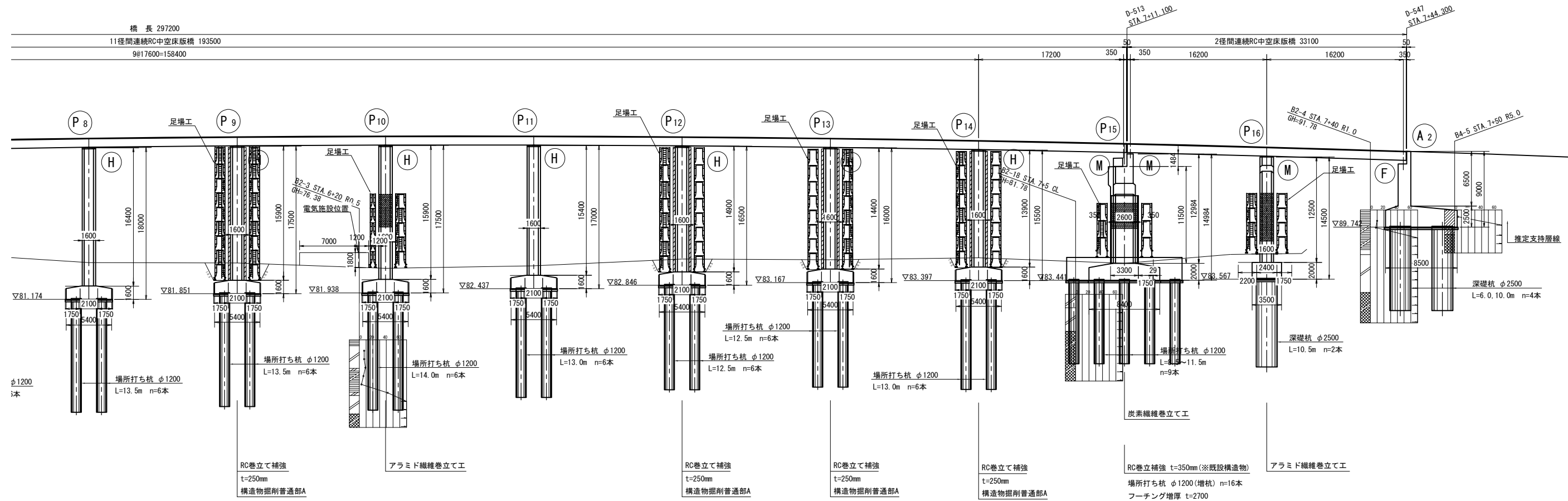


注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

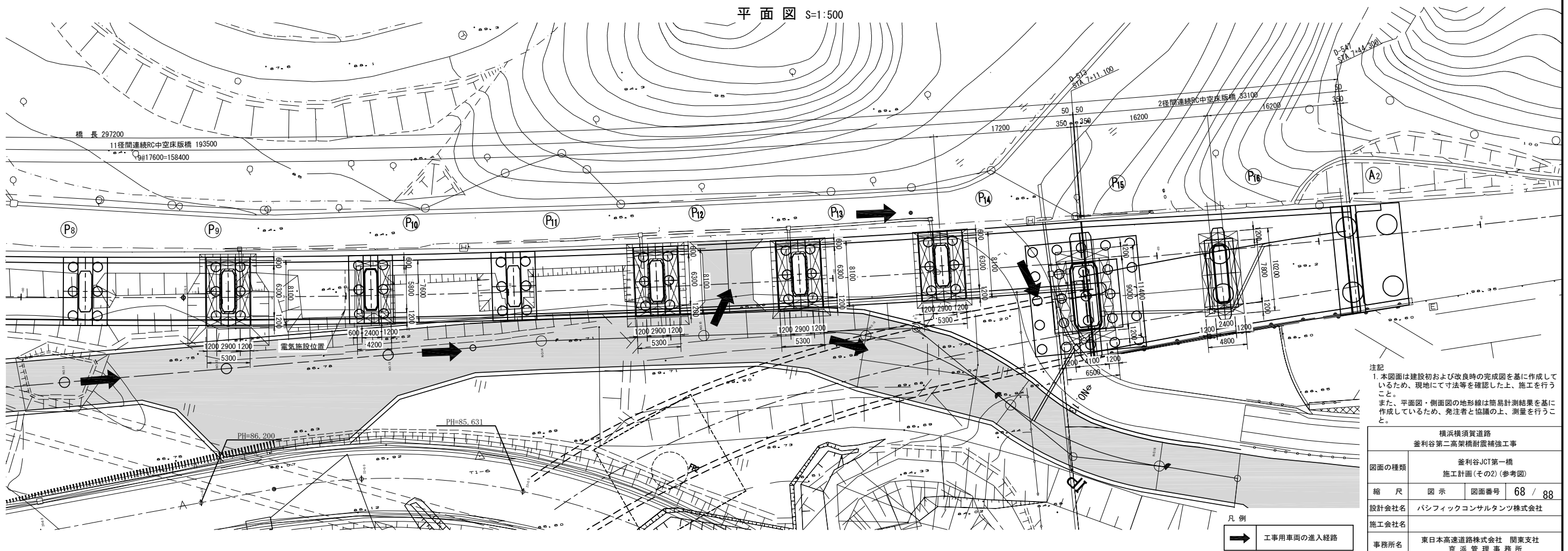
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 施工計画(その1)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	67 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

凡例
→ 工事用車両の進入経路

【柱補強時】
側面図 S=1:500



平面图 S=1:500



1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事		
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 施工計画（その2）（参考図）	
縮 尺	図 示	図面番号 68 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 倉 近 管 理 車 路 所	

側面図 S=1:500



平面図 S=1:500

橋長 297200
1径間連続RC中空床版橋 193500
9径17600=158400

吊足場工
昇降足場工
昇降足場正
Bランプ(鋼3径間連続箱桁)

PH=87.120
D-250 STA 4+67.100
D-320 STA 5+17.500

凡例
→ 工事用車両の進入経路

注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 金利谷第二高架橋耐震補強工事	
図面の種類	金利谷JCT第一橋 施工計画(その3)(参考図)
縮尺	図示 図面番号 69 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所

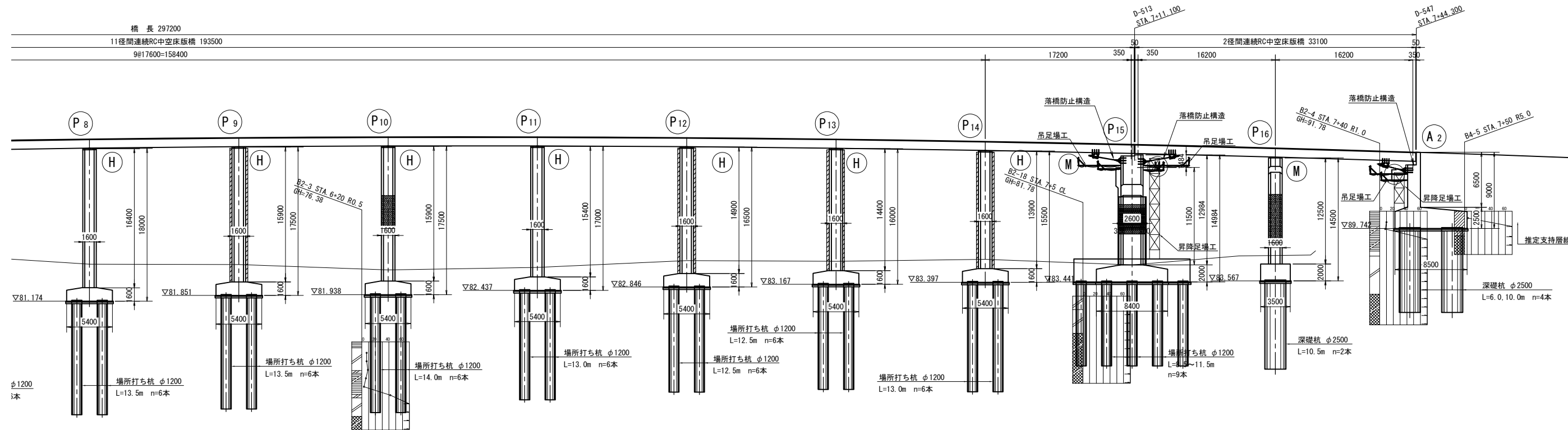
注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横浜賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類		釜利谷JCT第一橋 施工計画(その3)(参考図)	
縮 尺	図 示	図面番号	69 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

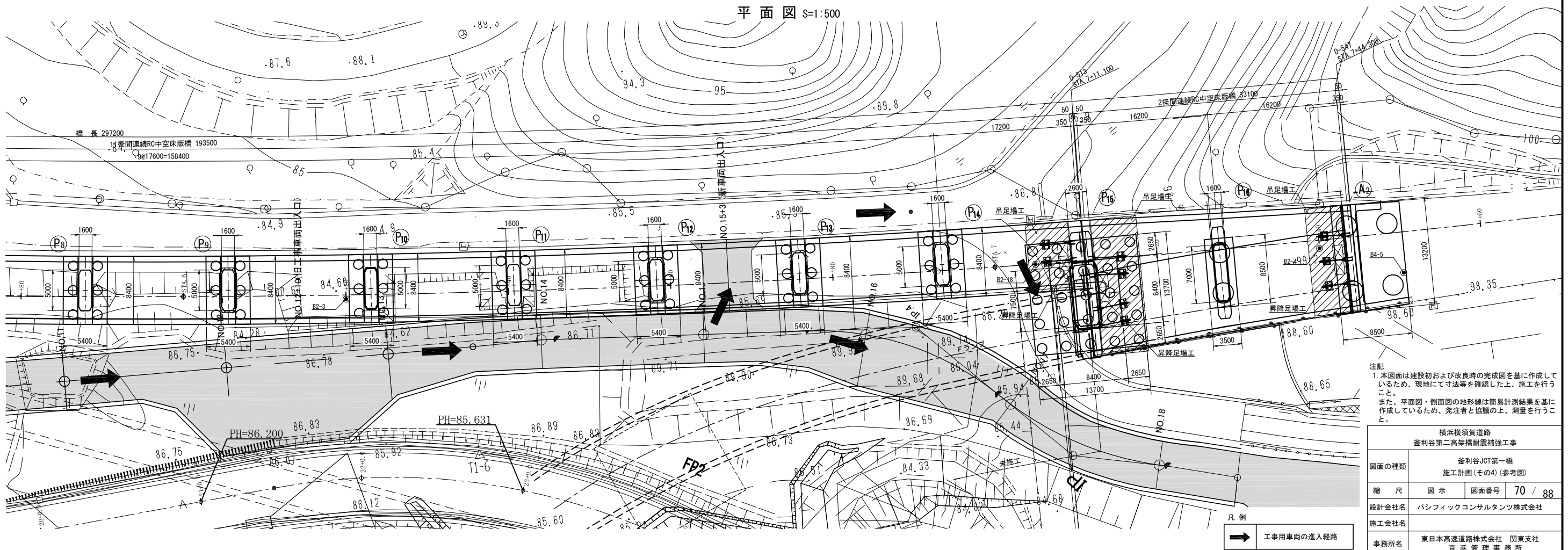
釜利谷JCT第一橋 施工計画(その4)(参考図)

【落橋防止構造施工時】

側面図 S=1:500



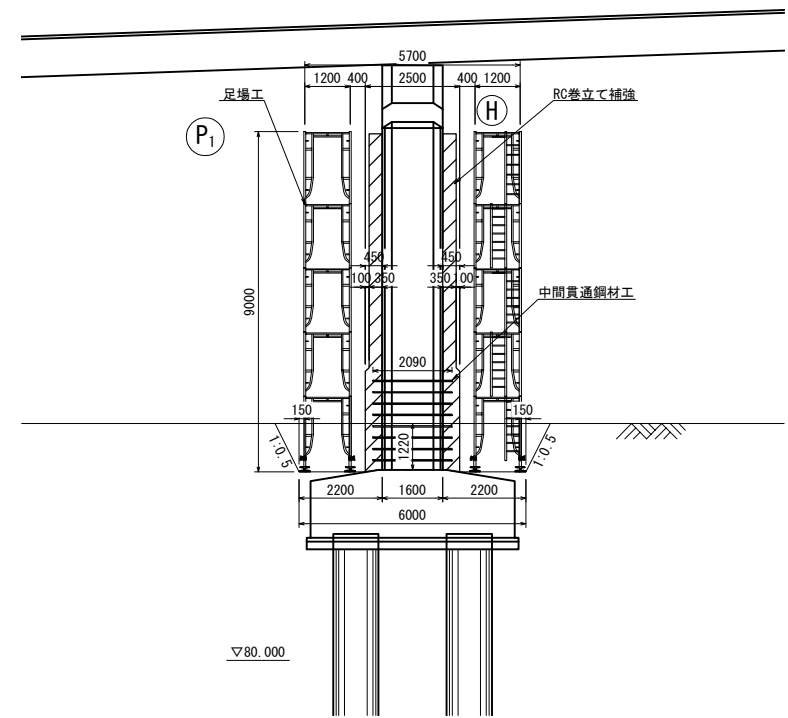
平面図 S=1:500



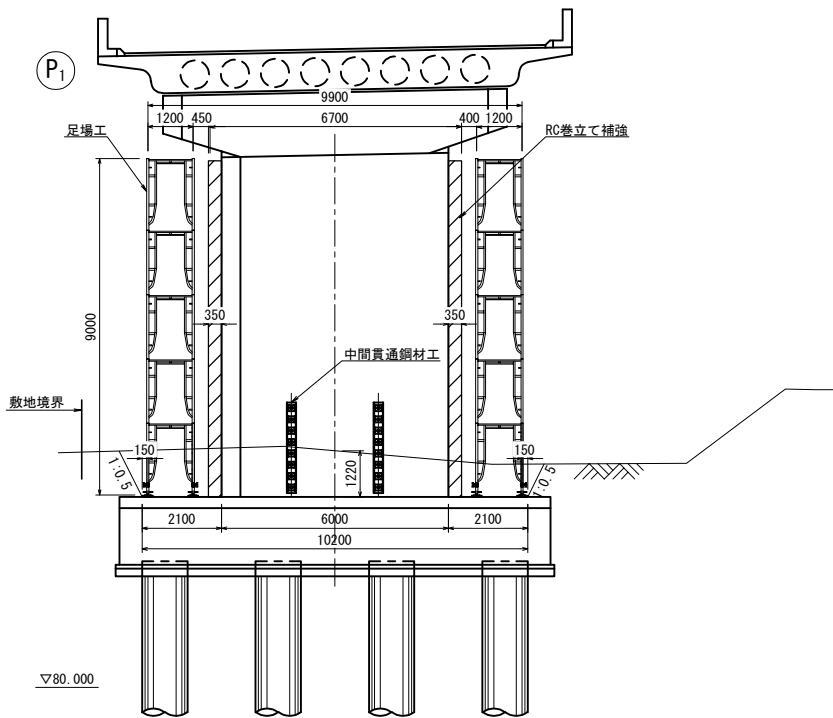
注記
1. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
また、平面図・側面図の地形図は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 施工計画(その4)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	70 / 88
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

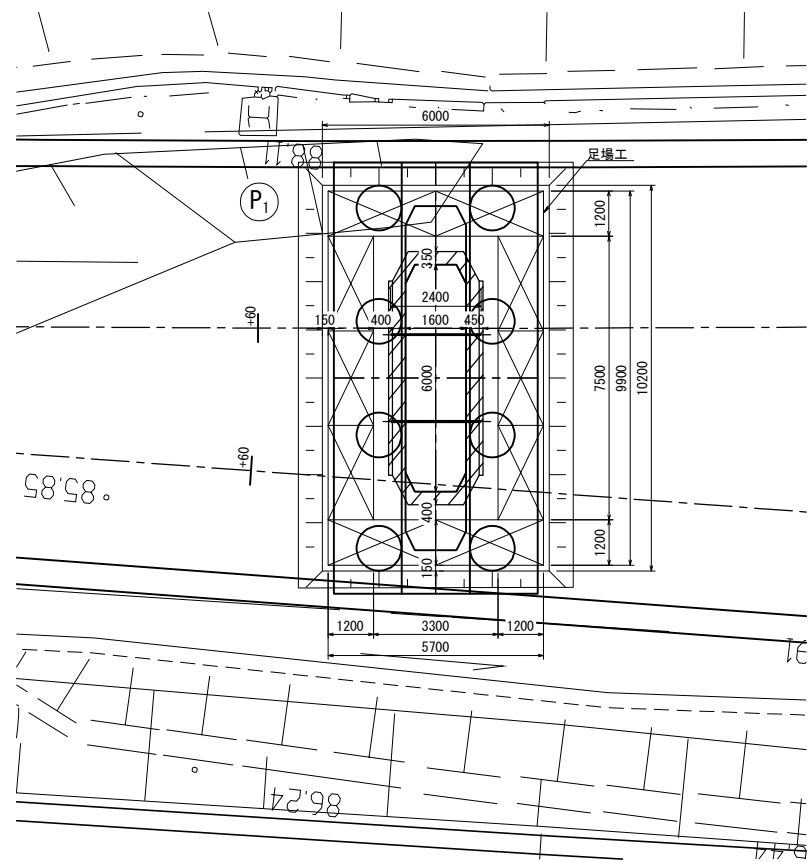
側 面 図



正 面 図



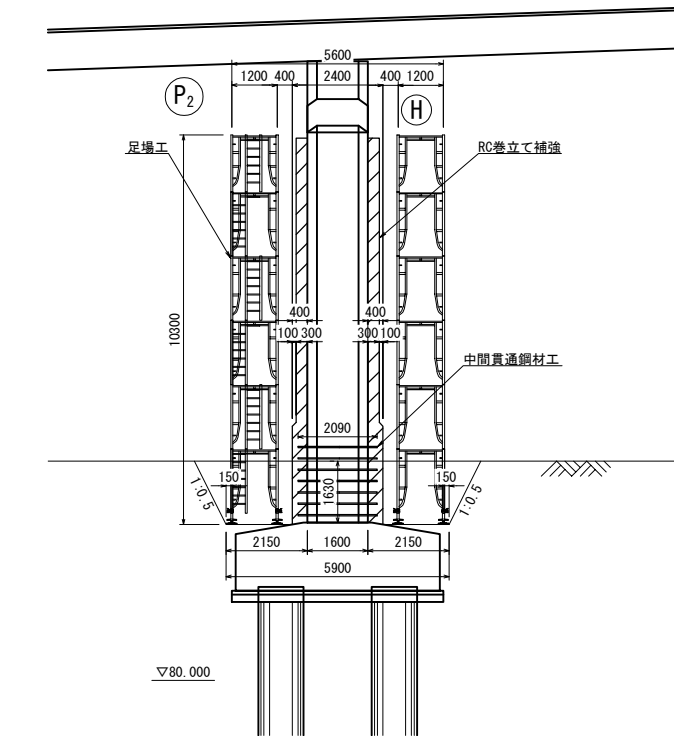
平 面 図



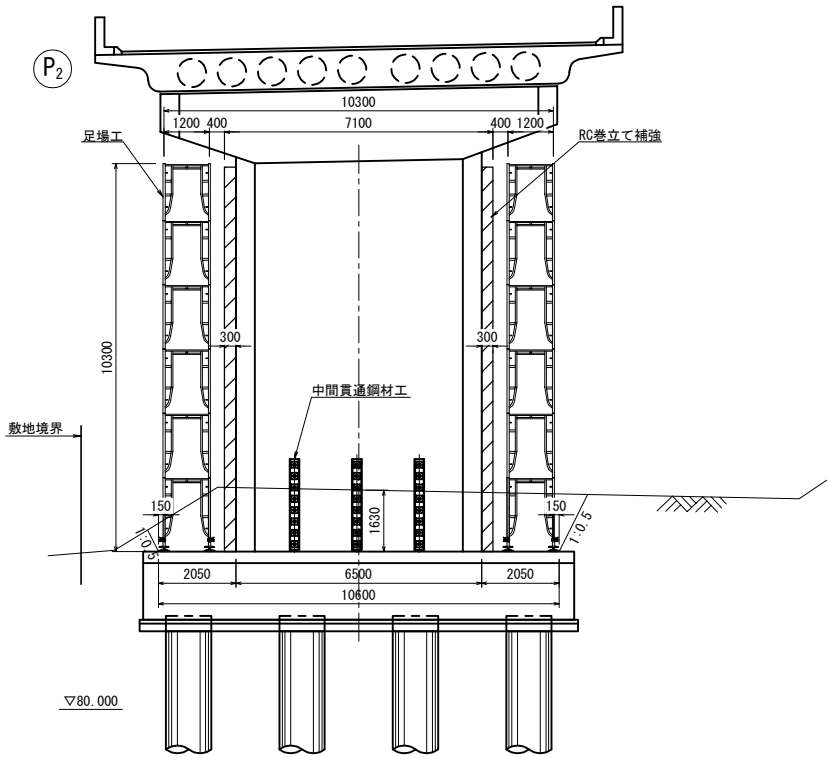
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その1)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 71 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

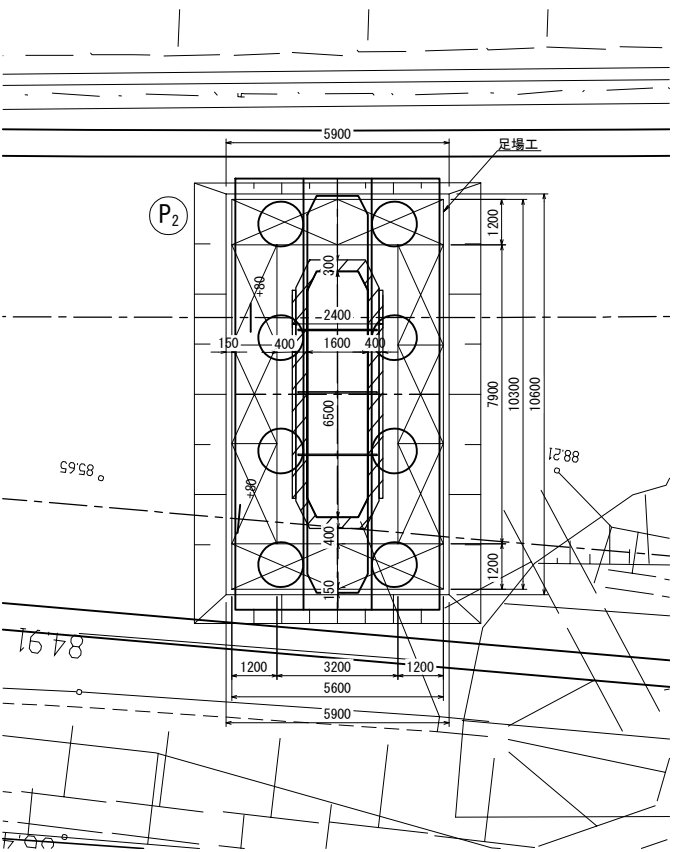
側面図



正面図



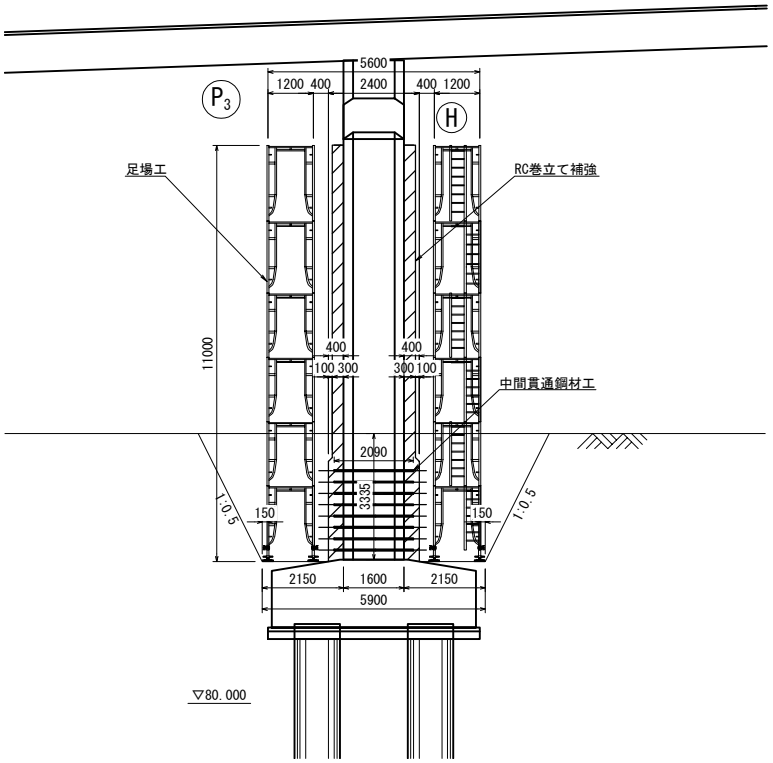
平面図



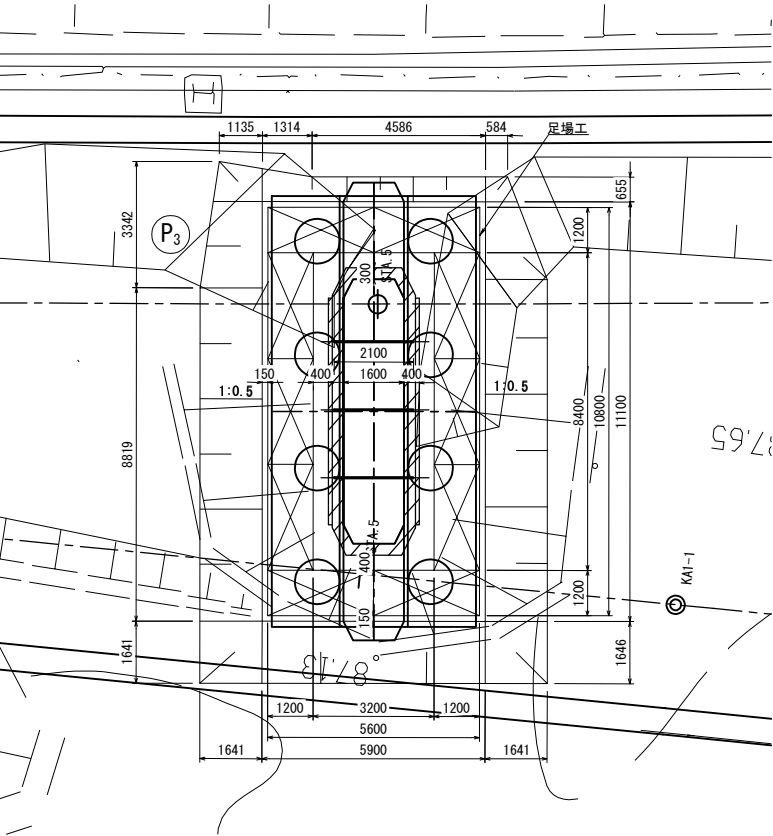
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その2)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 72 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

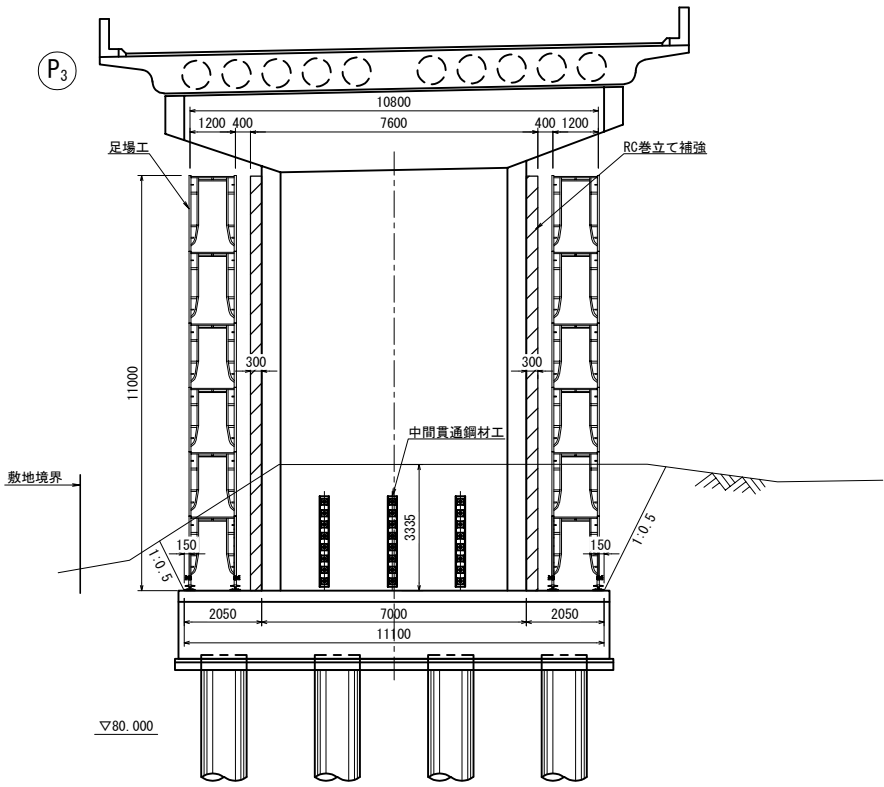
側面図



平面図



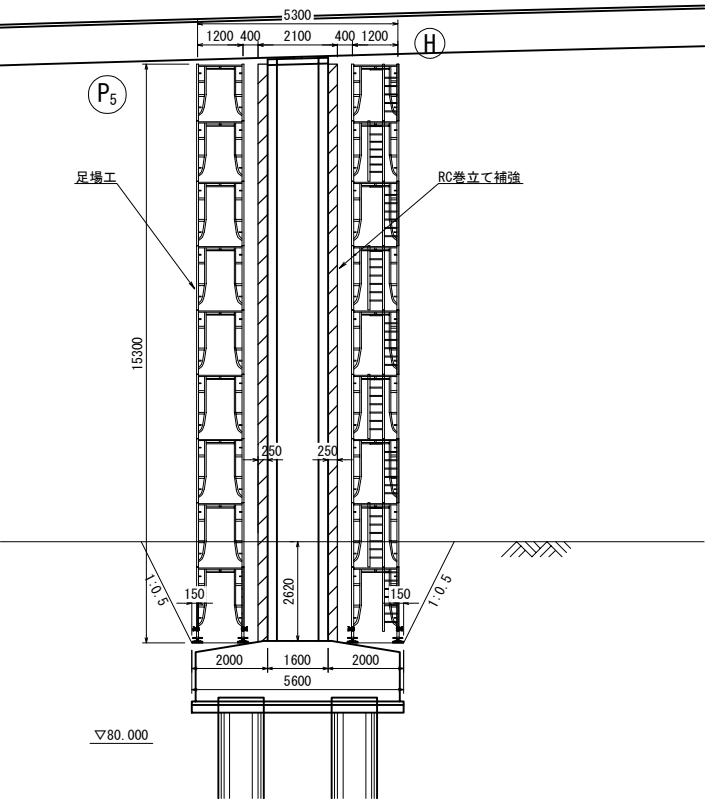
正面図



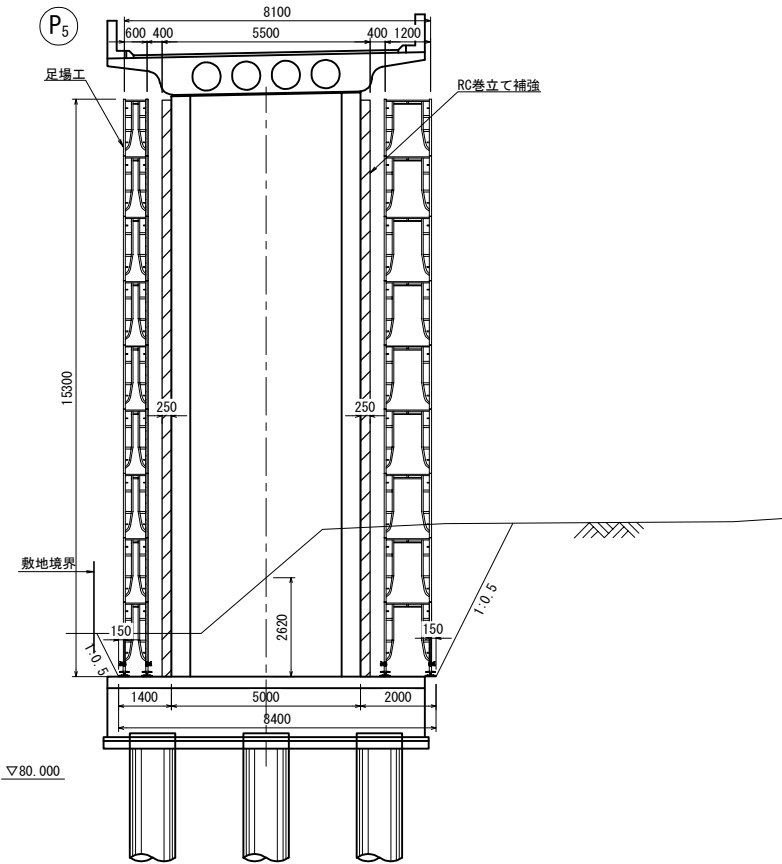
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	73 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

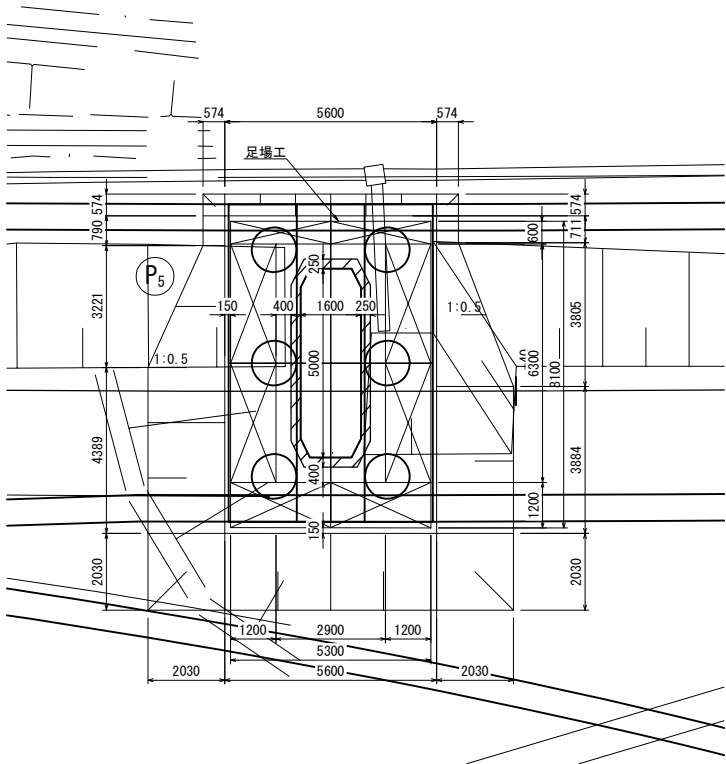
側面図



正面図



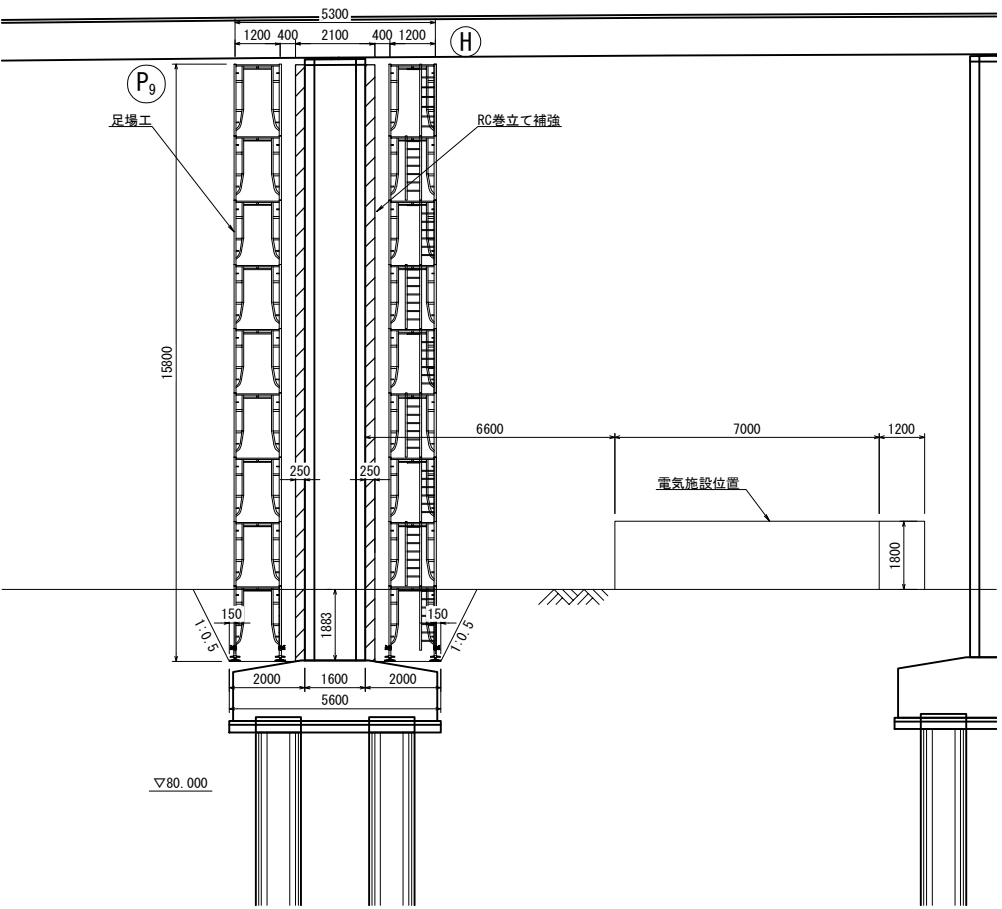
平面図



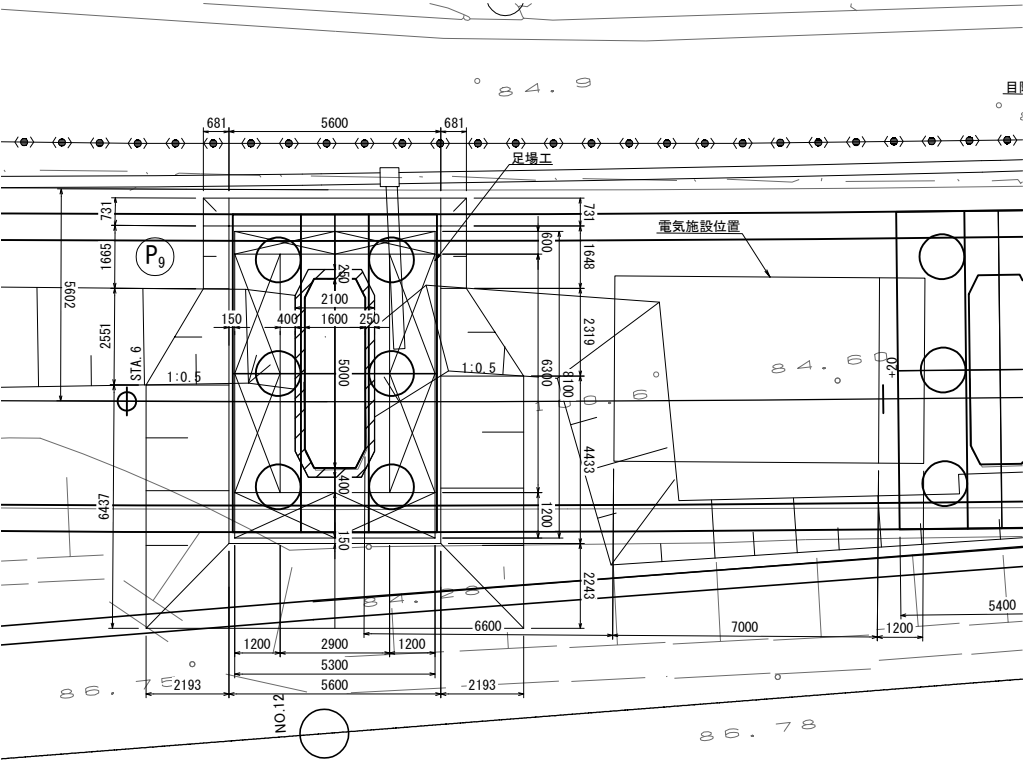
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その4)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	74 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

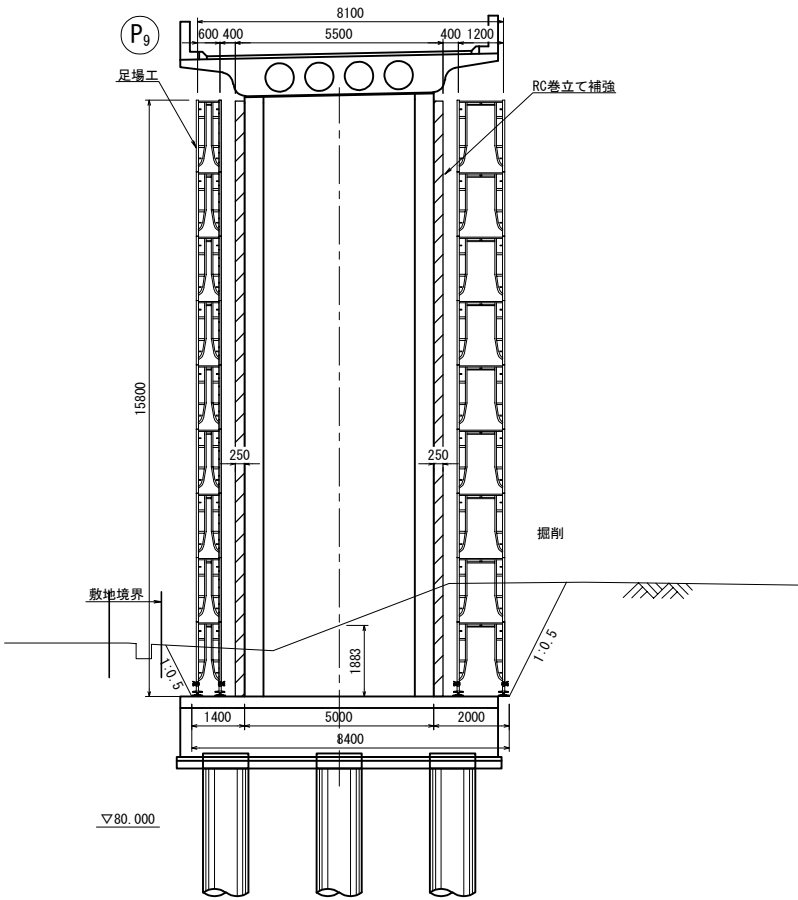
側面図



平面図



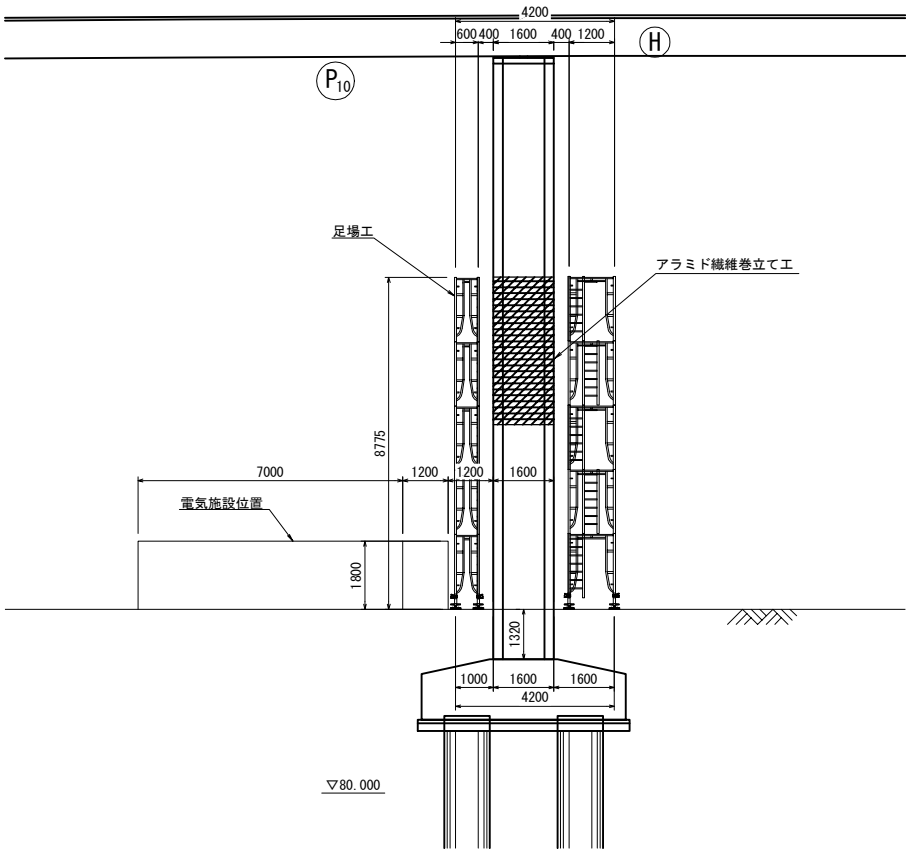
正面図



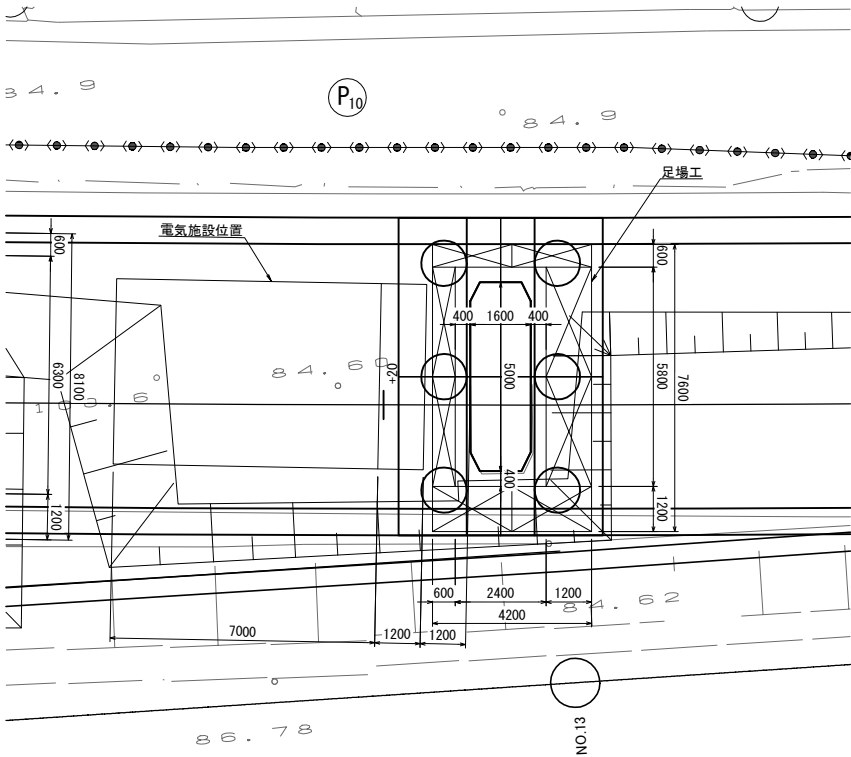
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その5)(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	75 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

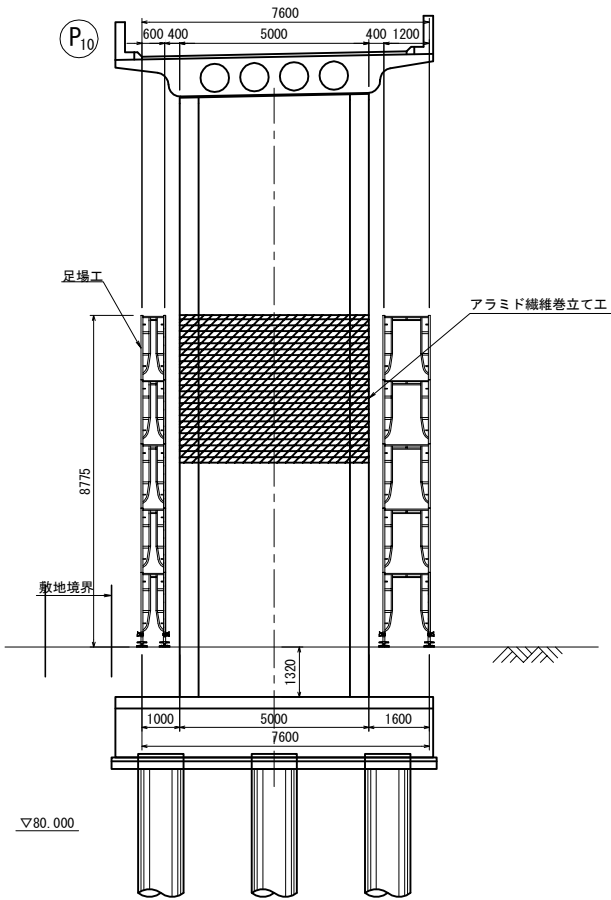
側 面 図



平 面 図



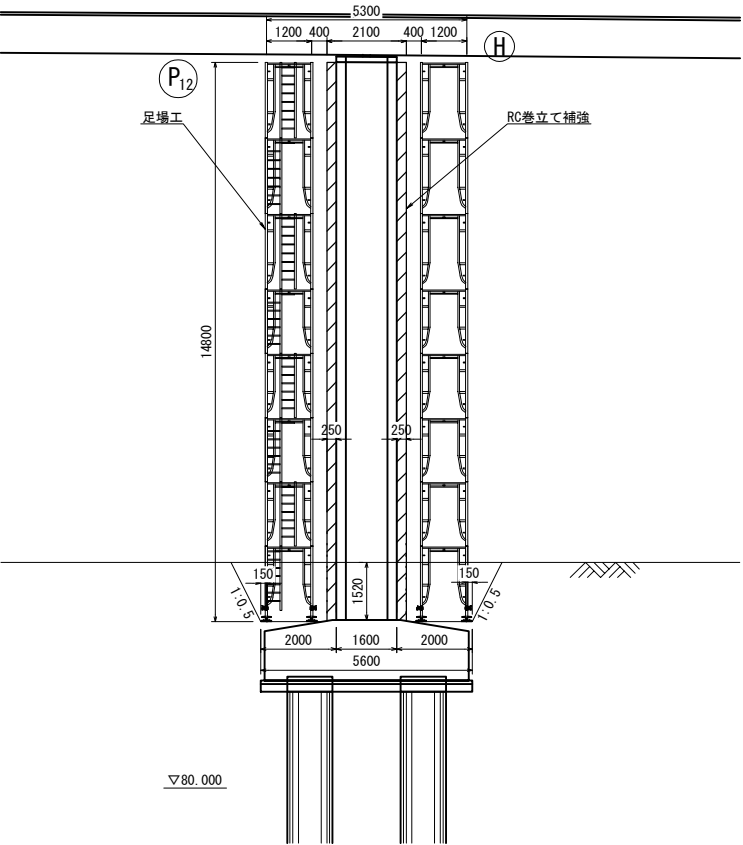
正 面 図



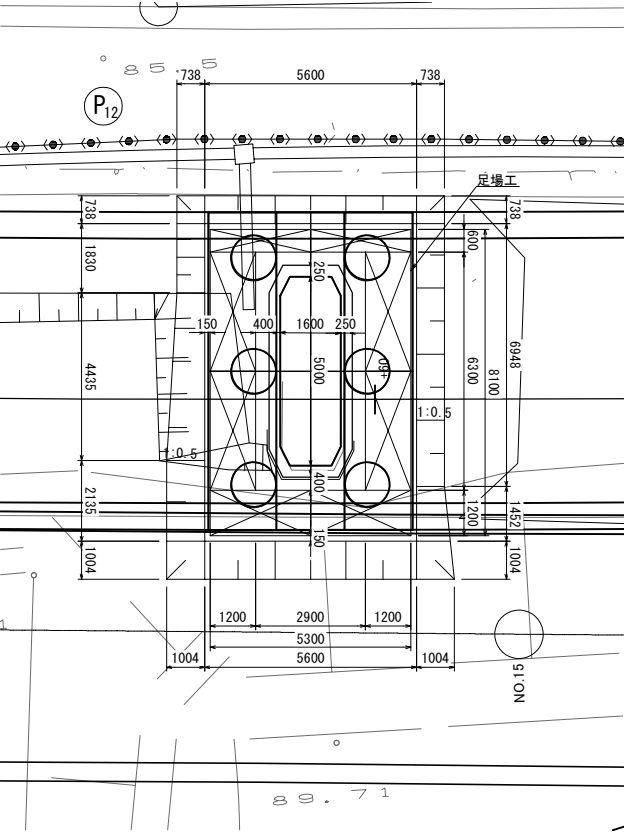
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その6)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	76 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

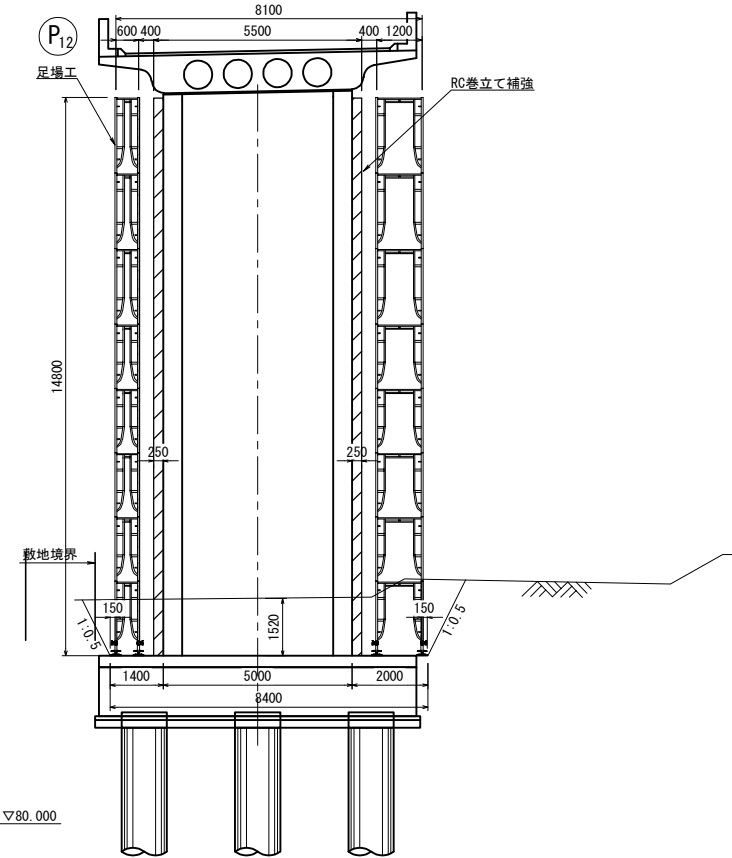
側面図



平面図



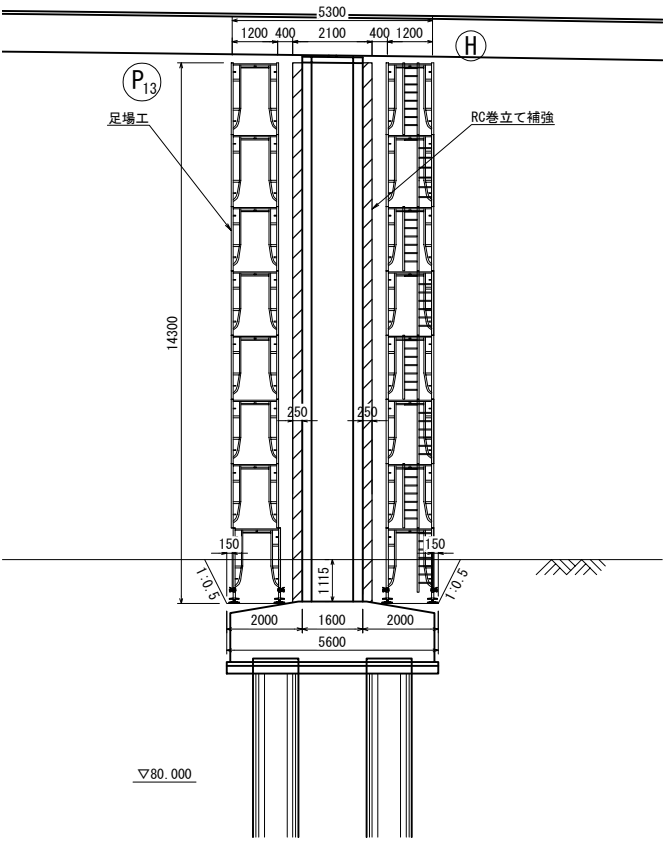
正面図



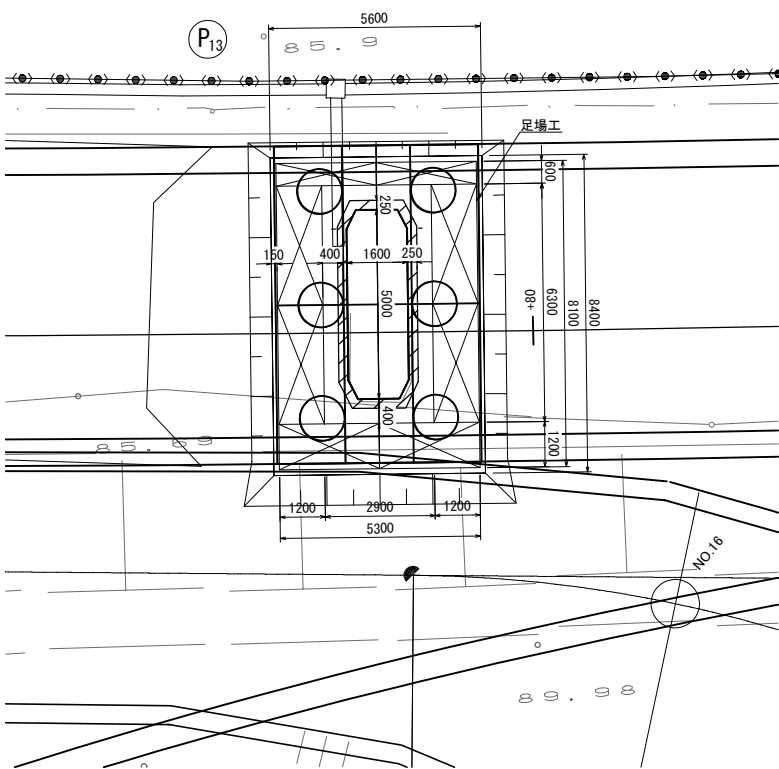
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その7)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	77 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

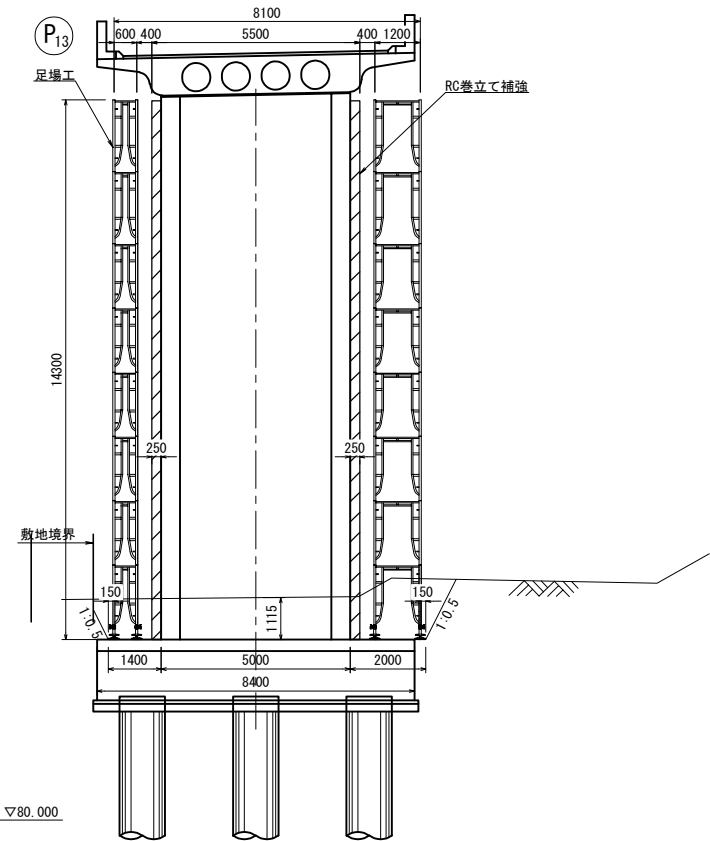
側面図



平面図



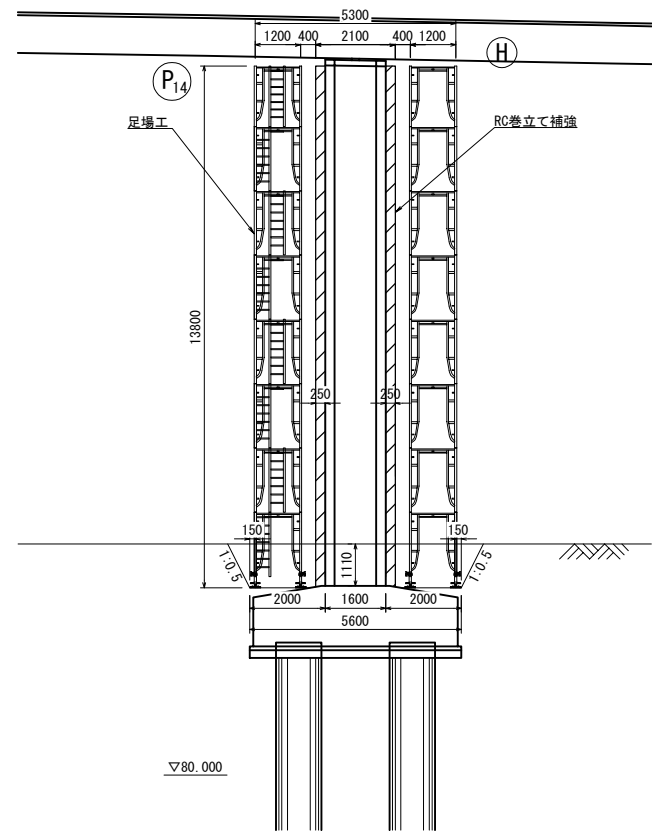
正面図



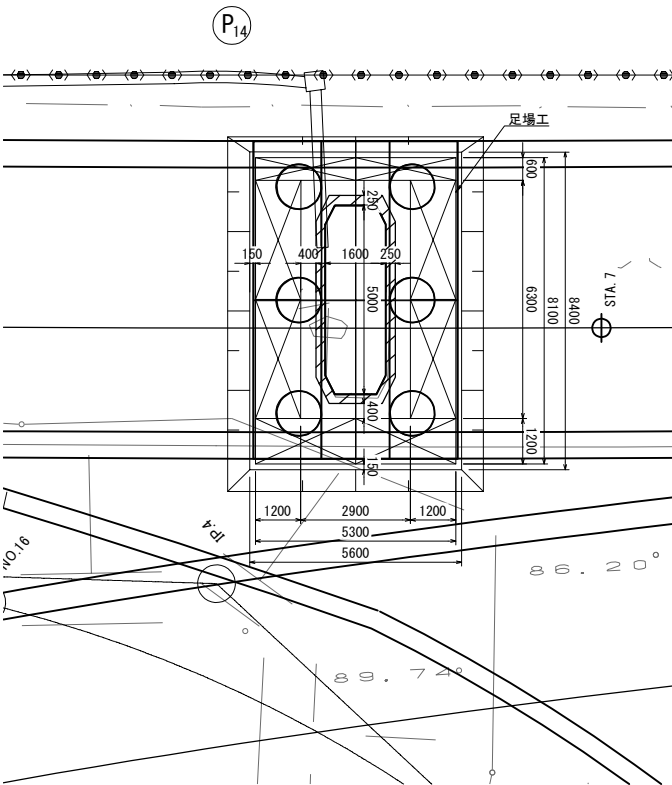
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その8)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	78 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

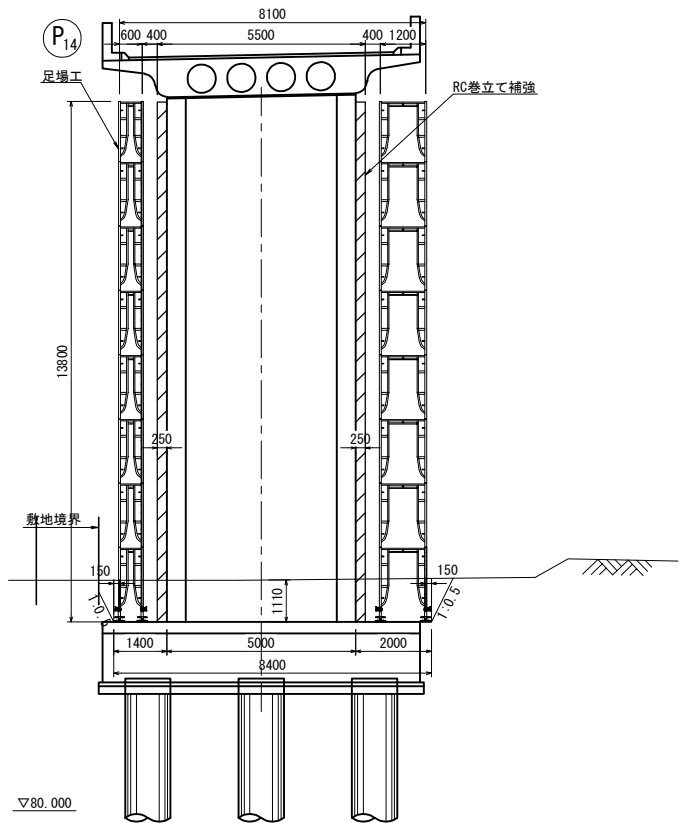
側面図



平面図



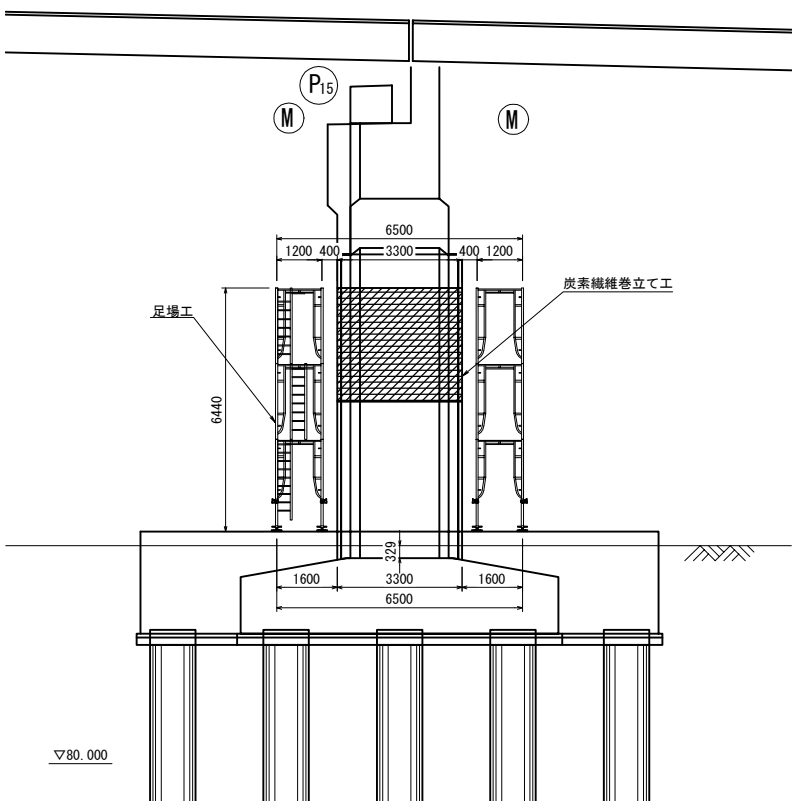
正面図



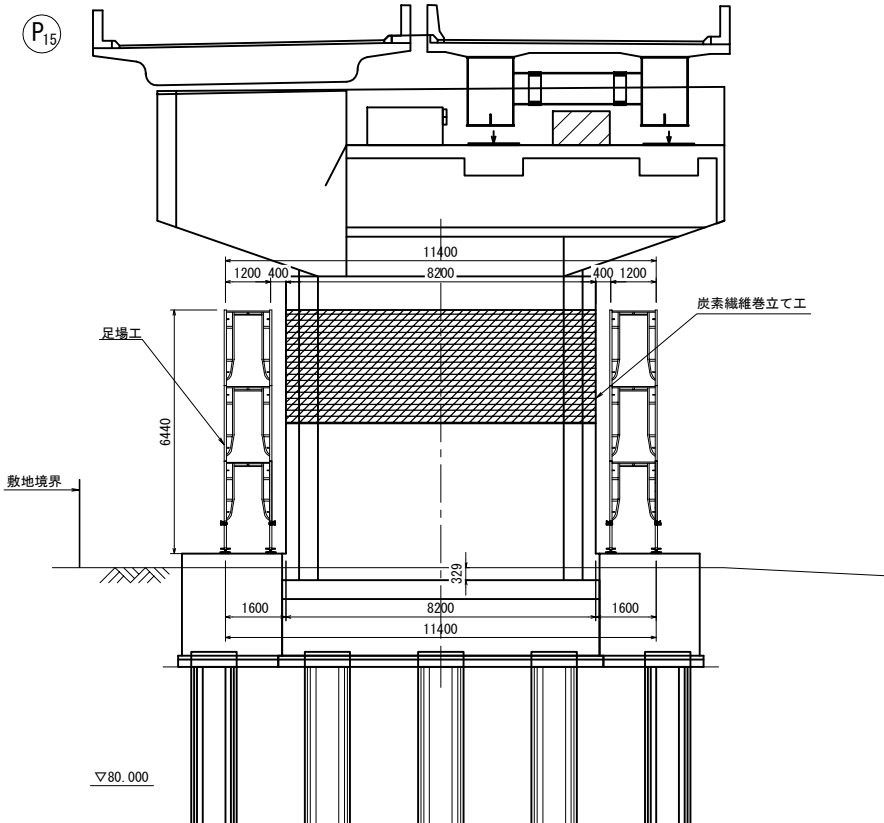
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その9)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	79 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

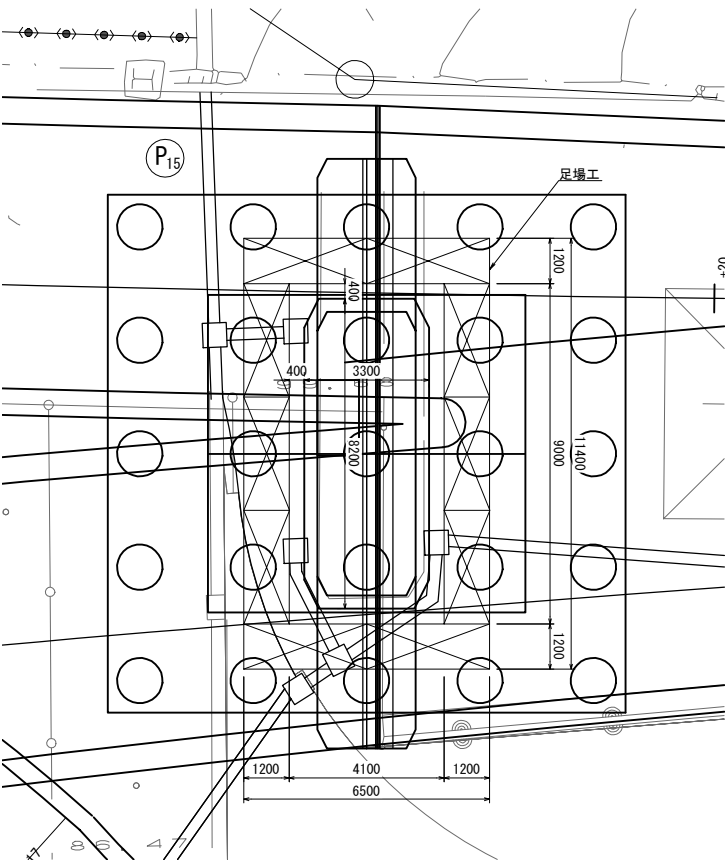
側面図



正面図



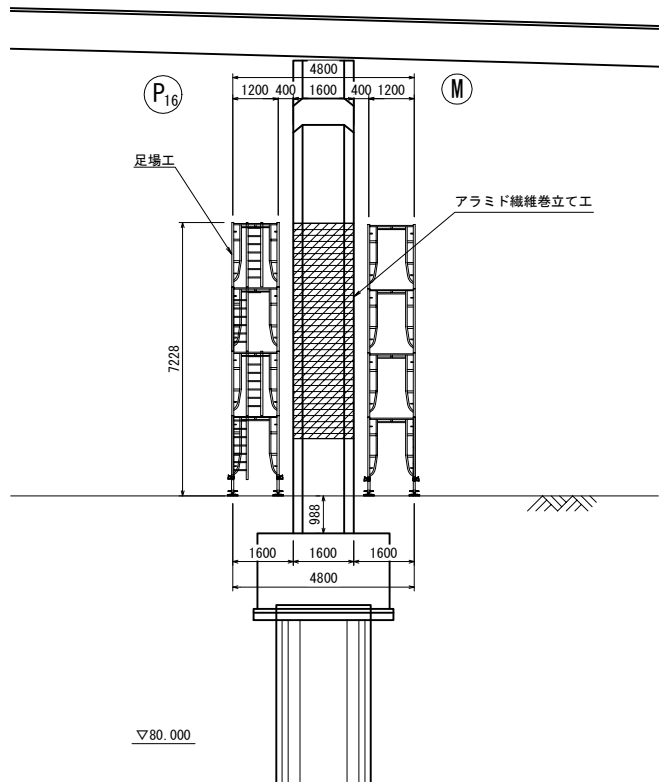
平面図



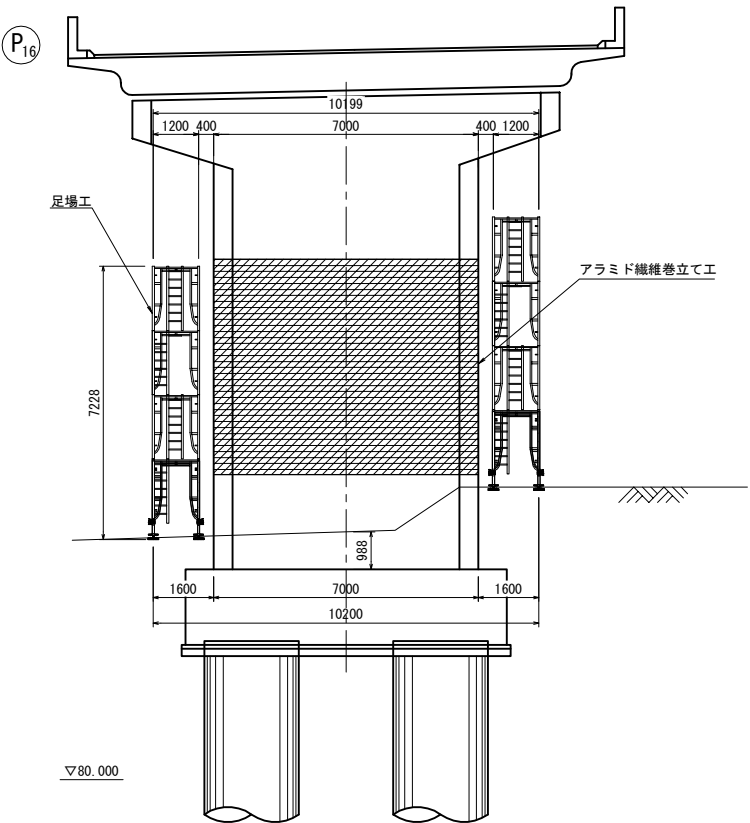
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その10)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 80 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

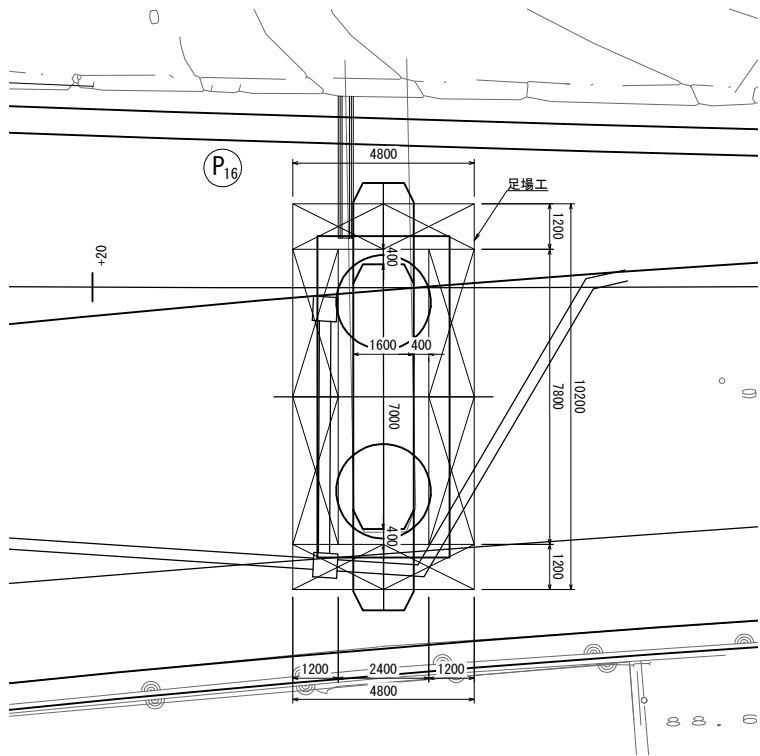
側面図



正面図

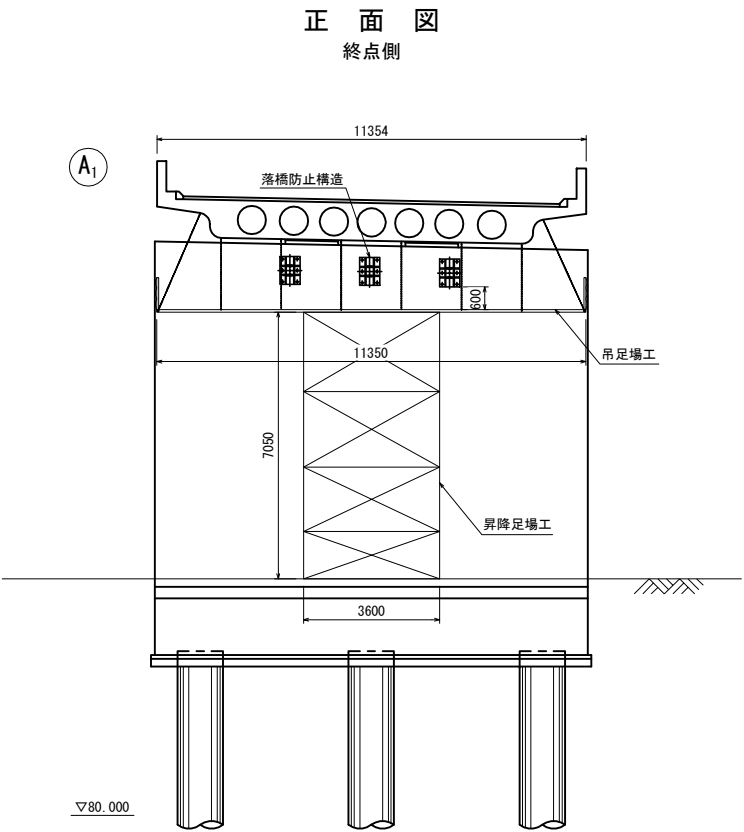
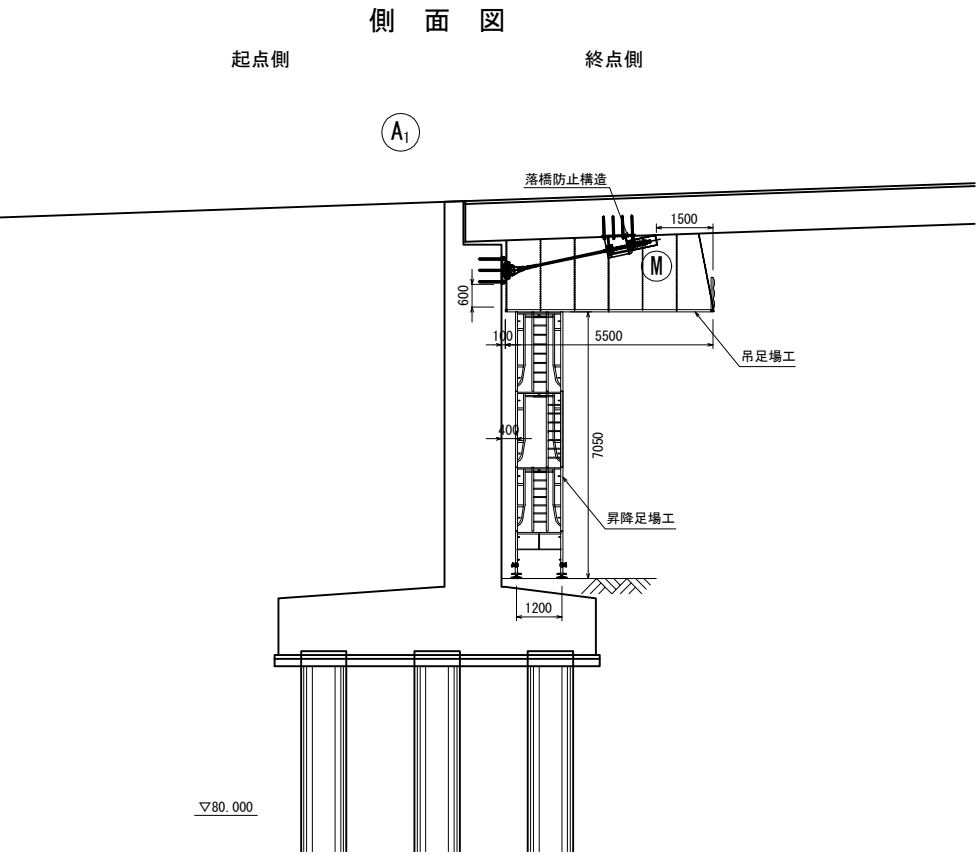


平面図

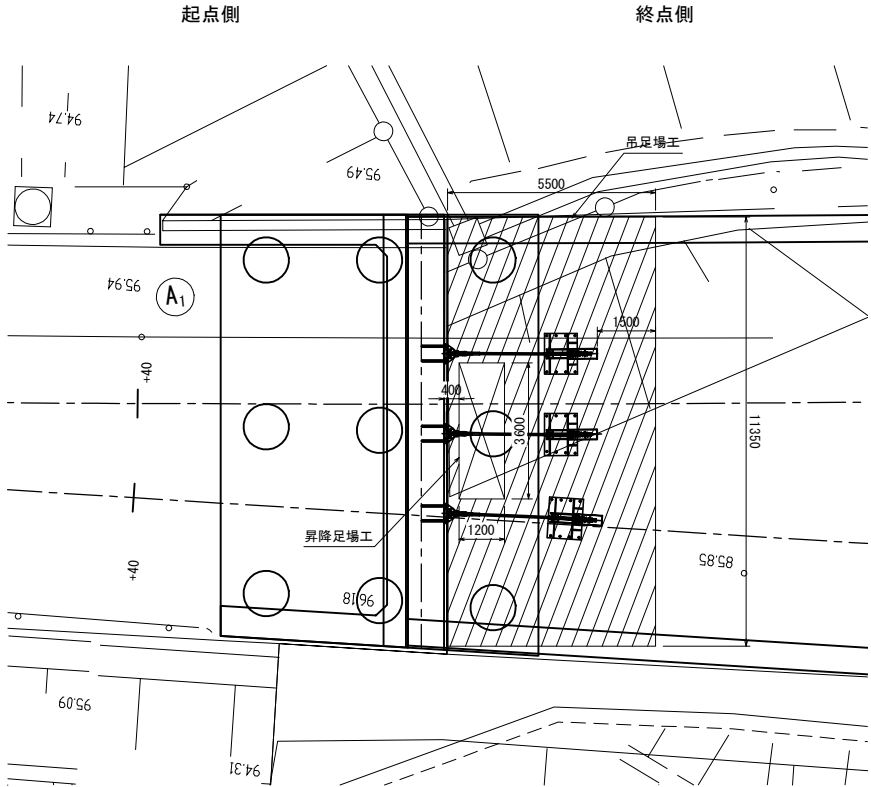


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(橋脚補強施工時)(その11)(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 81 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



平面図

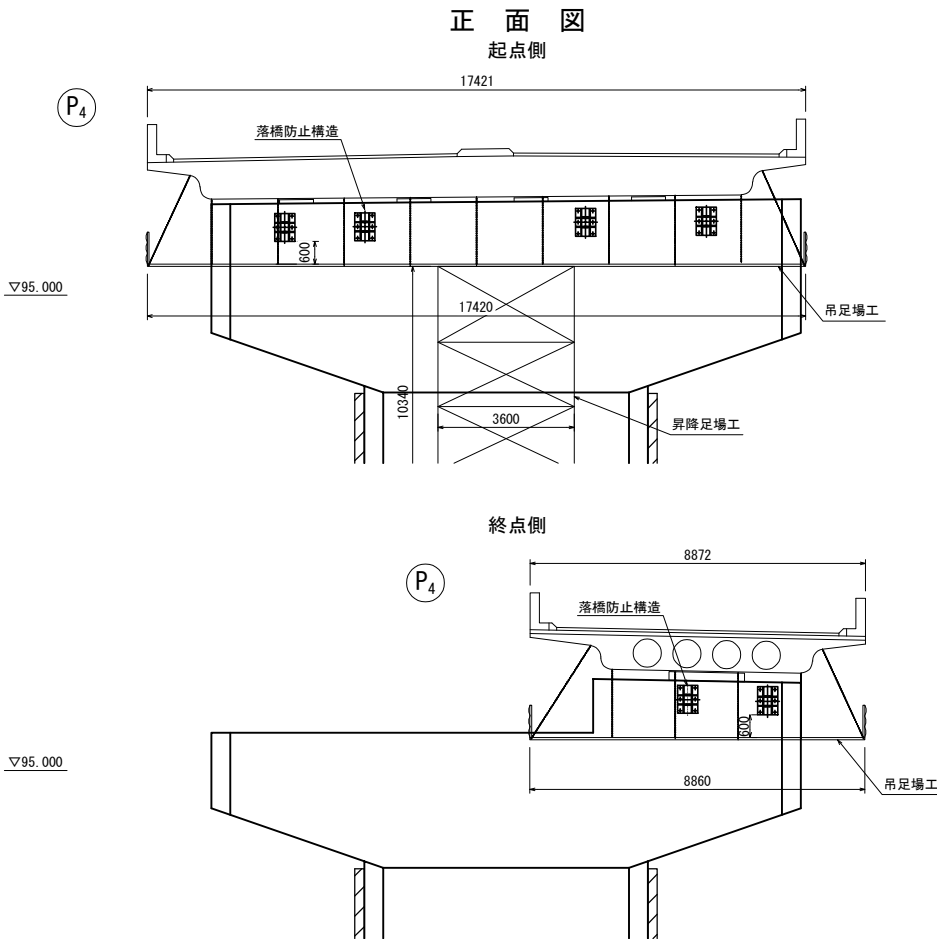
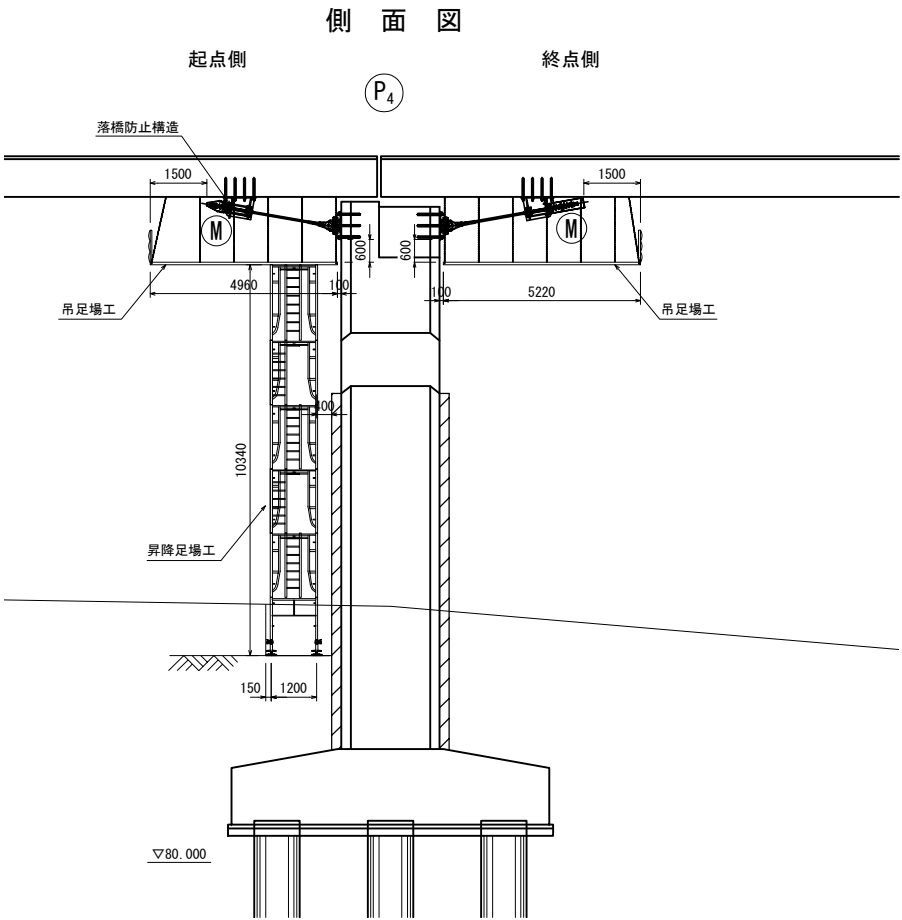


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

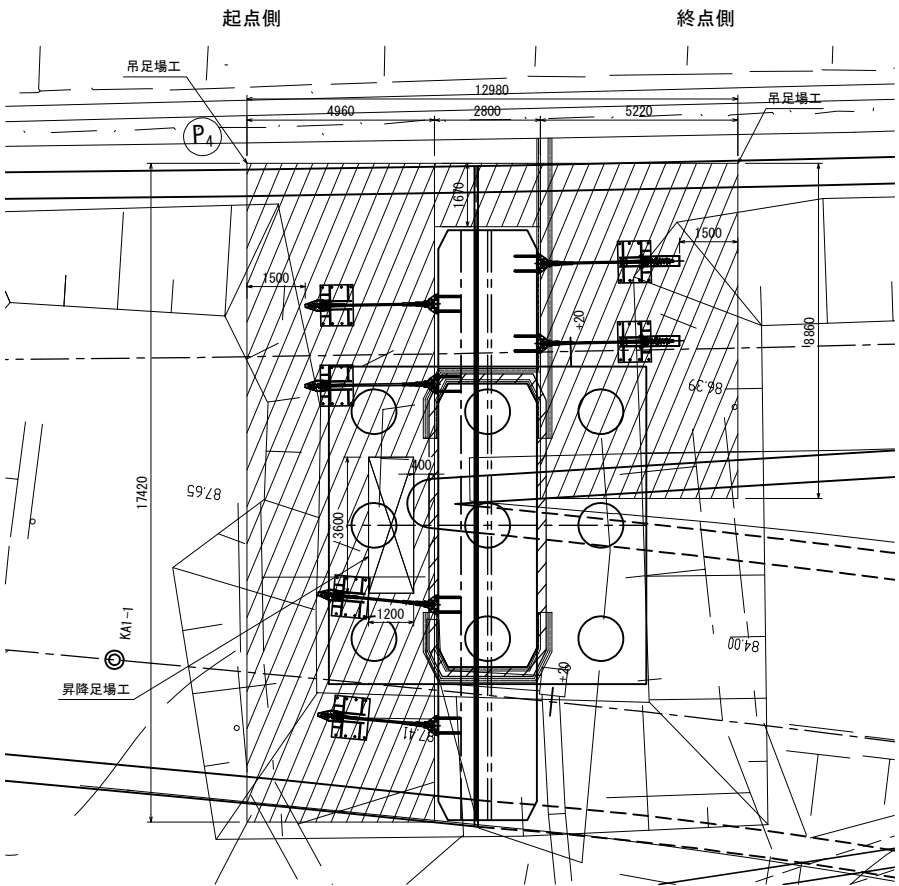
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	82 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その2)(参考図)
【P4橋脚】

S=1:200



平面図



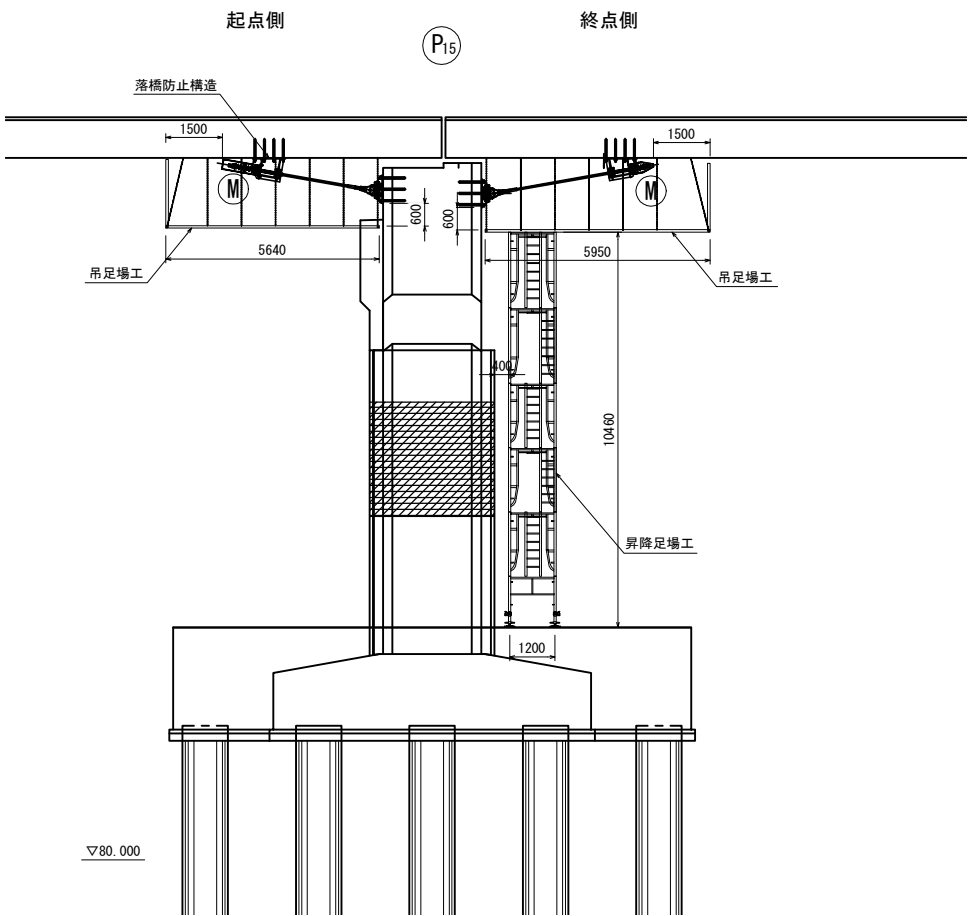
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その2)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	83 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

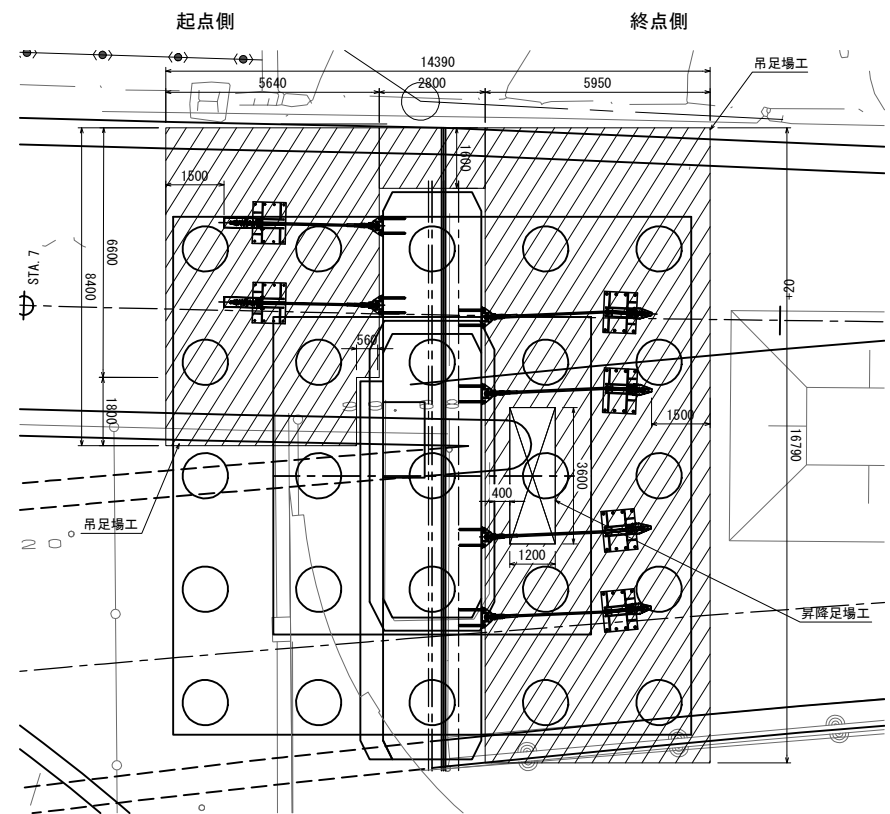
釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その3)(参考図)
【P15橋脚】

S=1:200

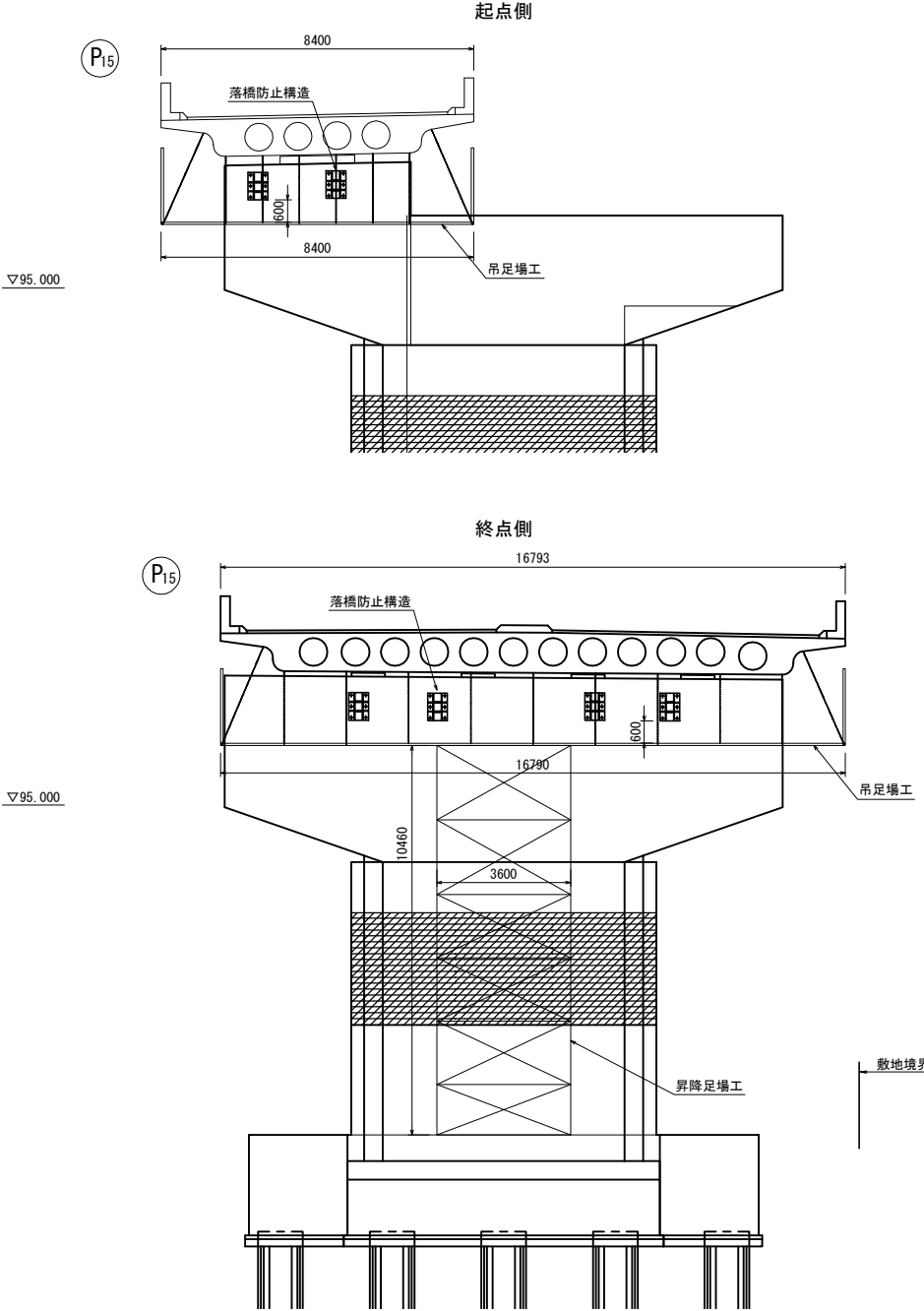
側面図



平面図



正面図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

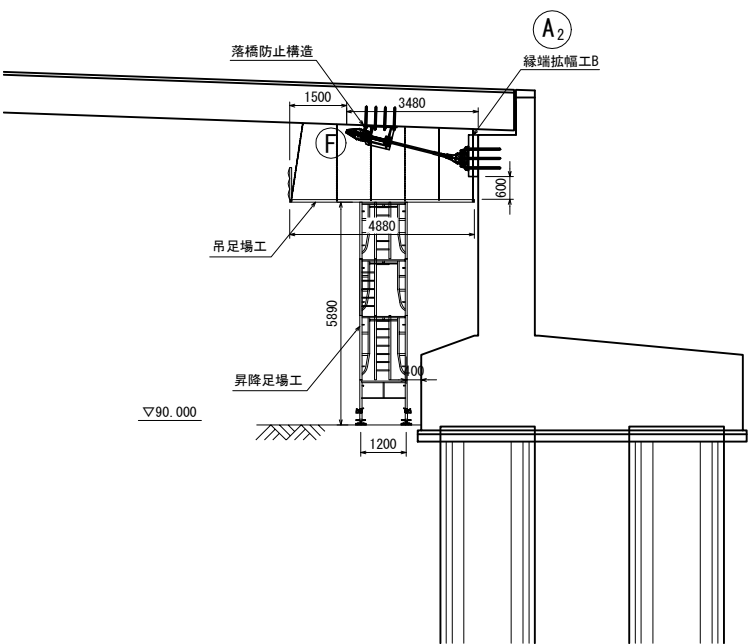
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	84 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その4)(参考図)
【A2橋台 落橋防止システム施工時】

S=1:200

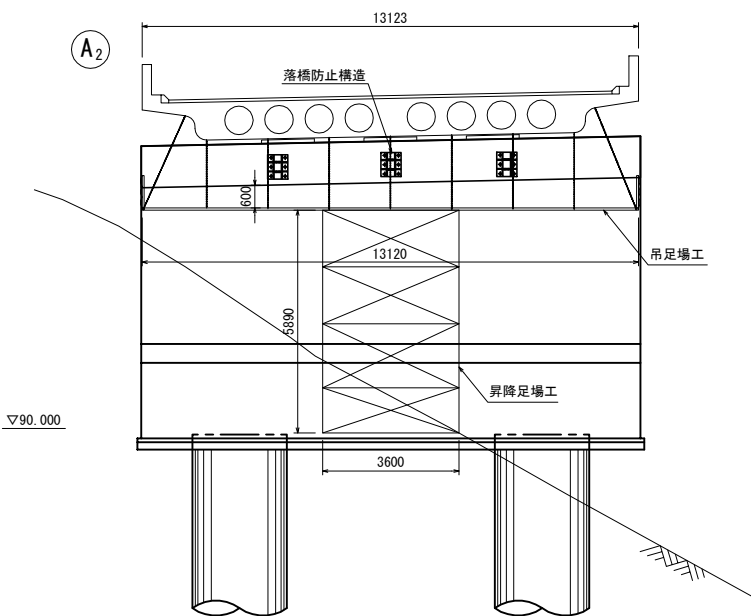
側面図

起点側 終点側



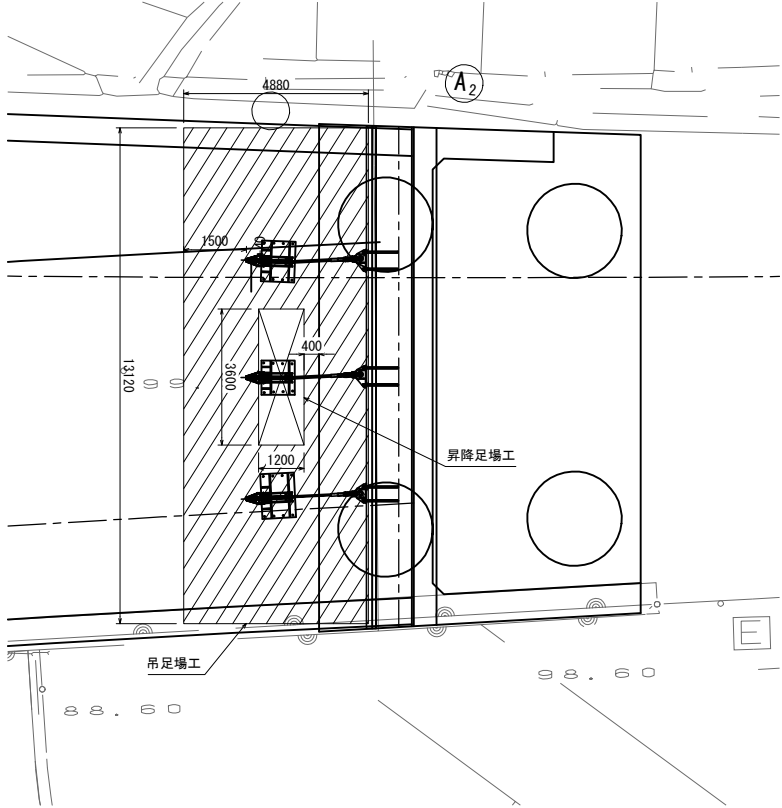
正面図

起点側



平面図

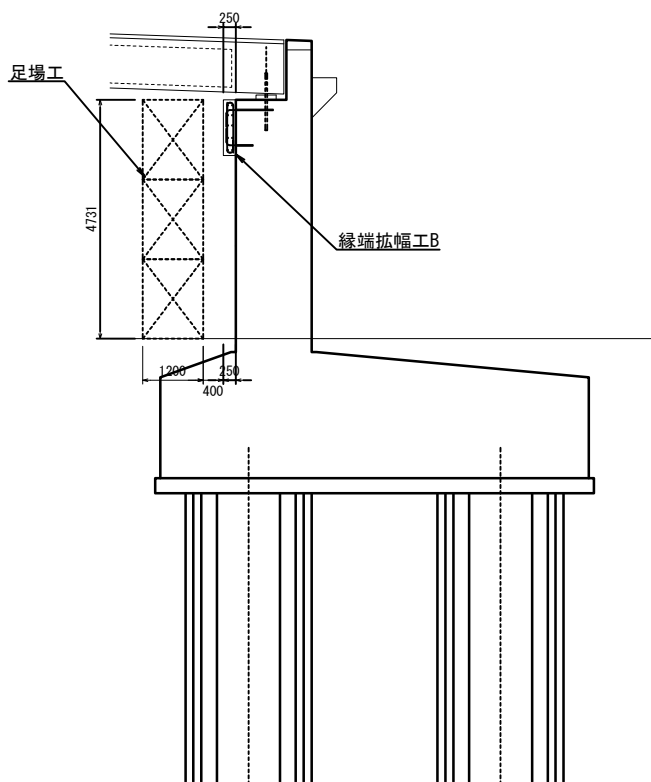
起点側 終点側



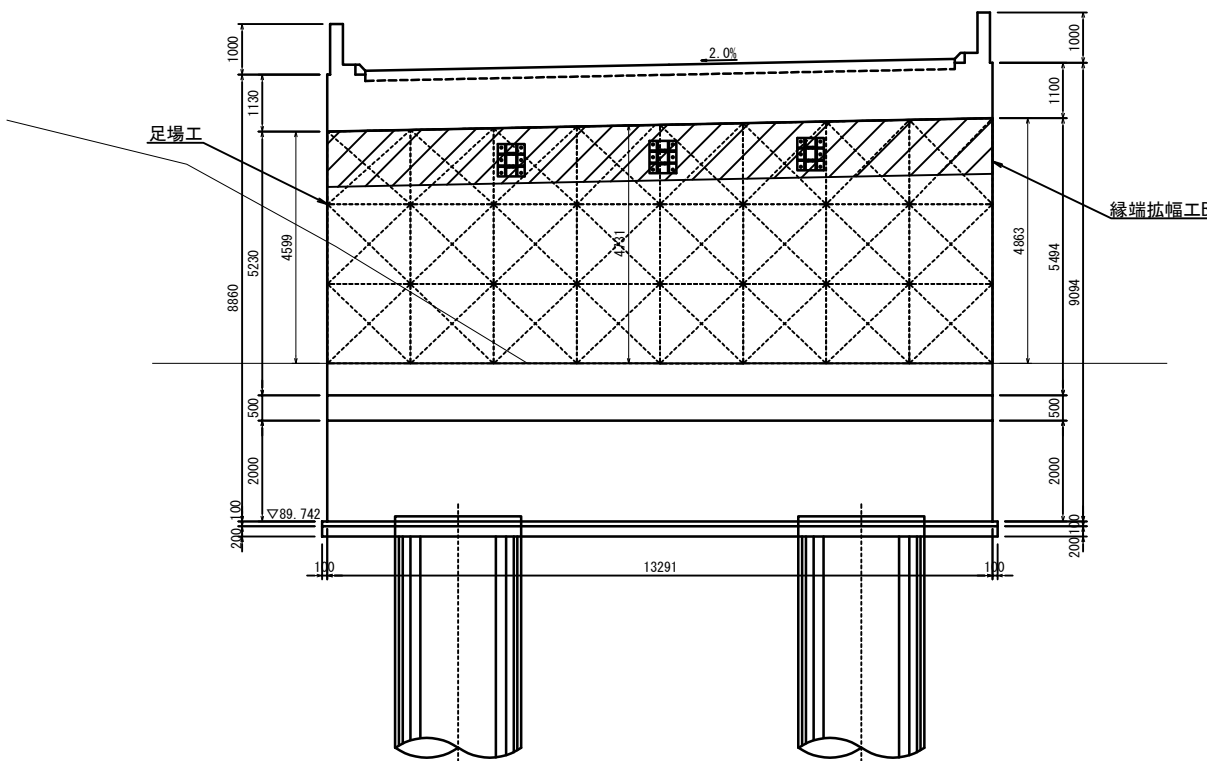
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 足場工計画図(支承周り施工時)(その4)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	85 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

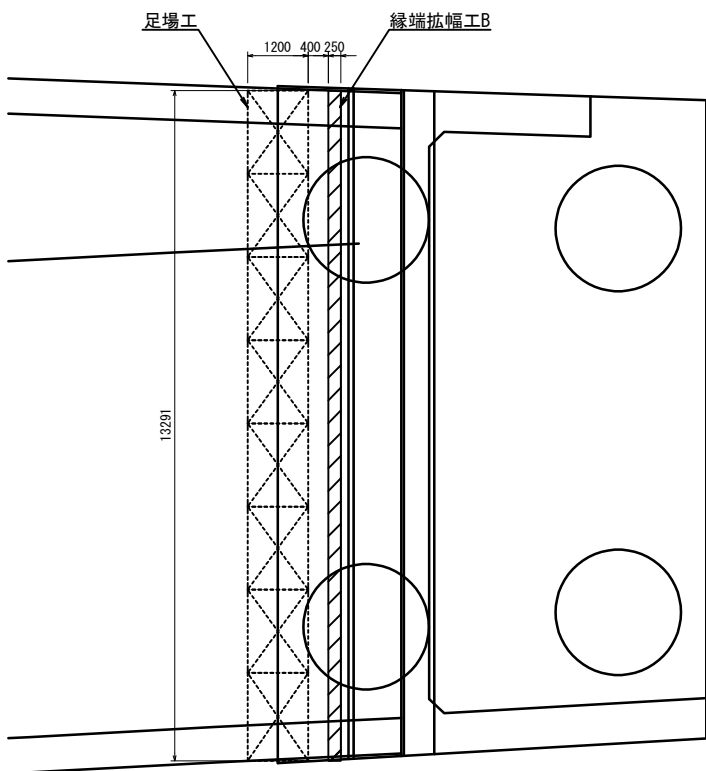
側面図



正面図

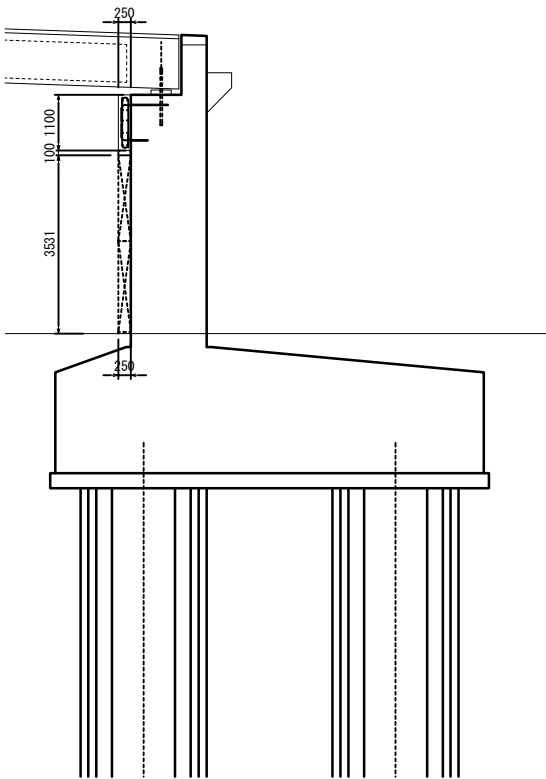


平面図

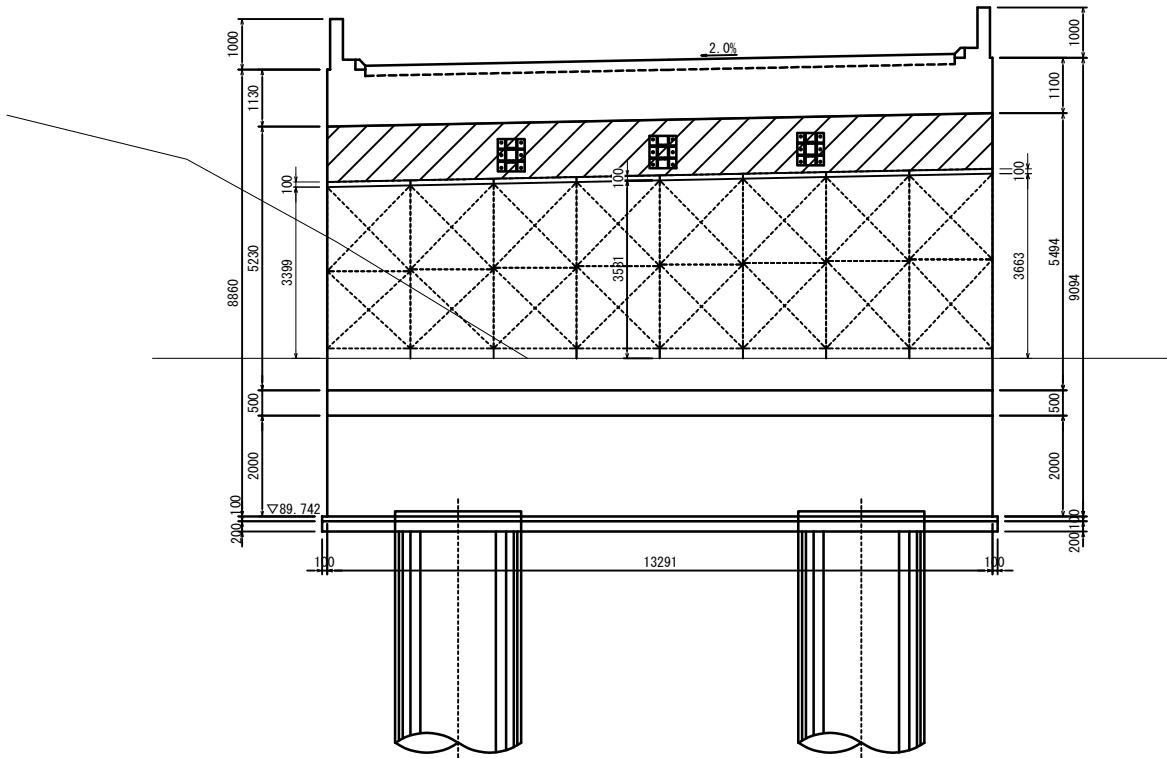


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋		
	足場工計画図(支承周り施工時)(その5)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	86 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

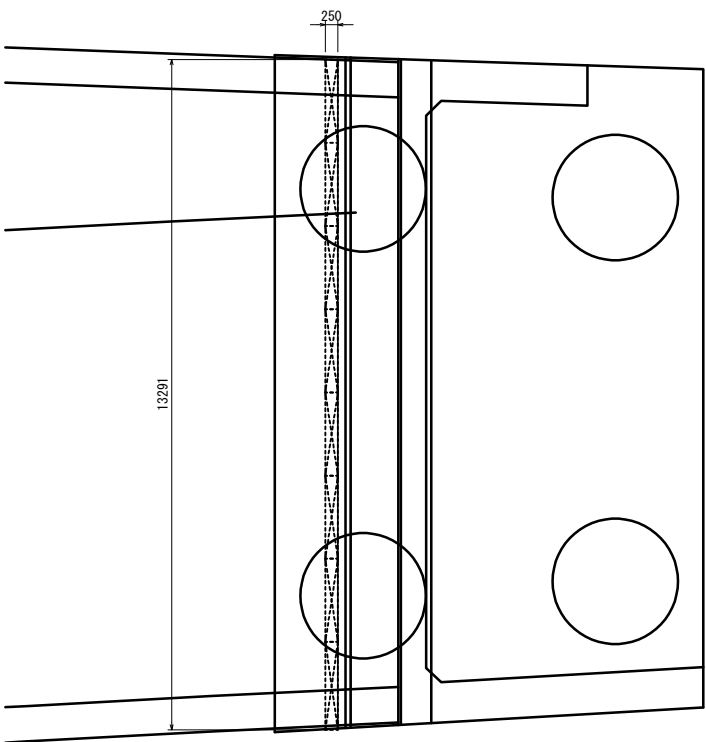
側面図



正面図



平面図



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第一橋 支保工(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	87 / 88
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷 J C T 第二橋】

令和 7 年 7 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目次

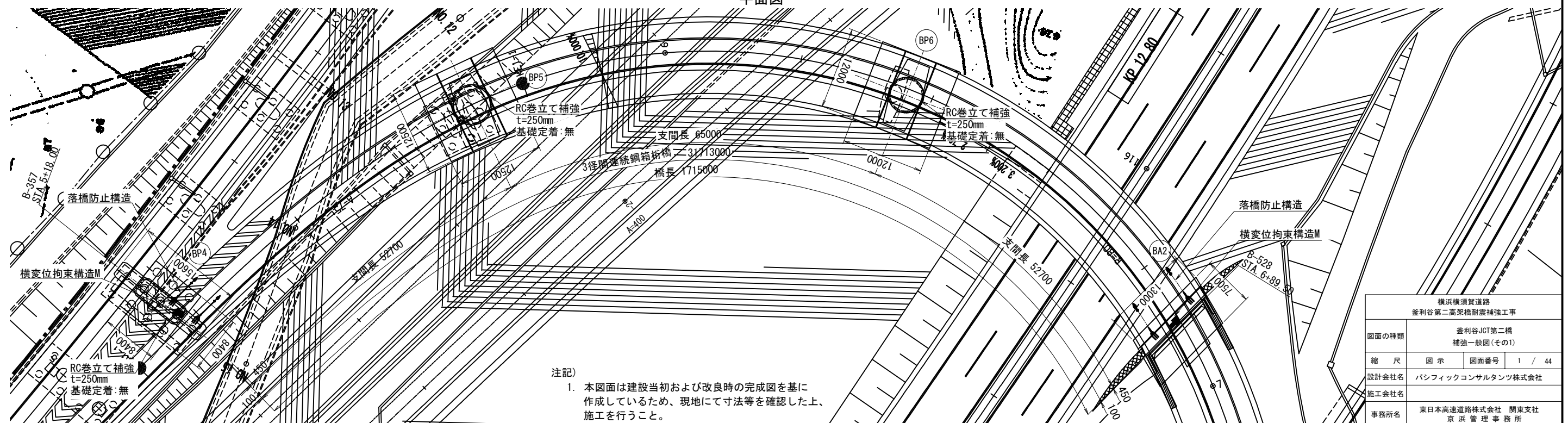
番号	設計図名称
1～2	釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その1)～(その2)
3～6	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その1)～(その4)
7	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強構造一般図
8～9	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
10	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強構造一般図
11～13	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その3)
14	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強構造一般図
15～16	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
17	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強配置図
18～20	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造図(その1)～(その3)
21	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造桁内補強図
22～24	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その1)～(その3)
25	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台耐震補強配置図
26～28	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その1)～(その3)
29	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造桁内補強図
30～32	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その1)～(その3)
33	釜利谷JCT第二橋 塗替塗装区分図
34	釜利谷JCT第二橋 はく落防止対策工図
35	釜利谷JCT第二橋 交通規制工
36～38	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その1)～(その3)(参考図)

[illegible]

橋 長 171500




平面图



注記)

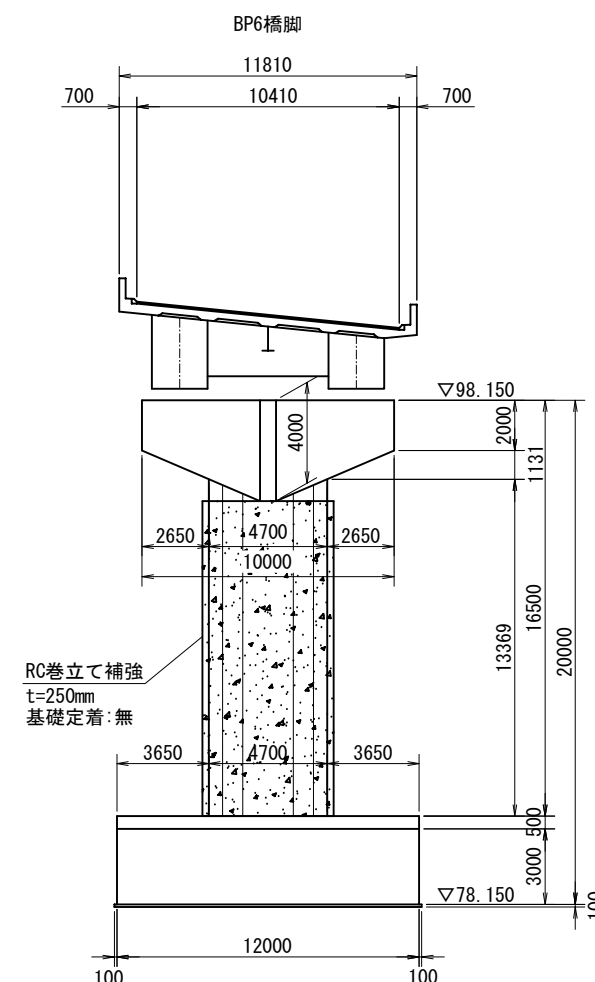
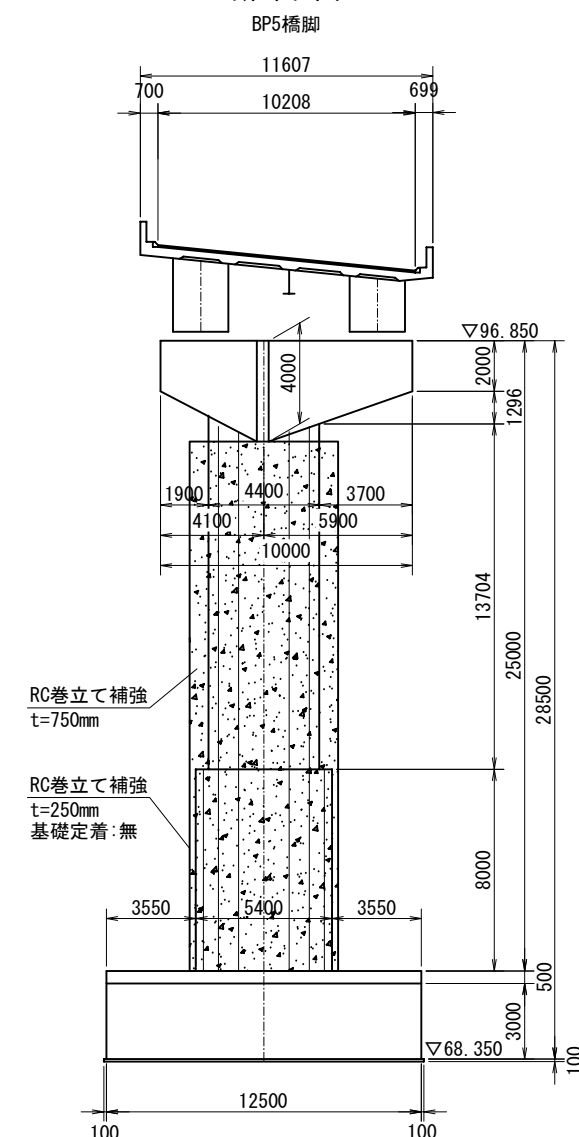
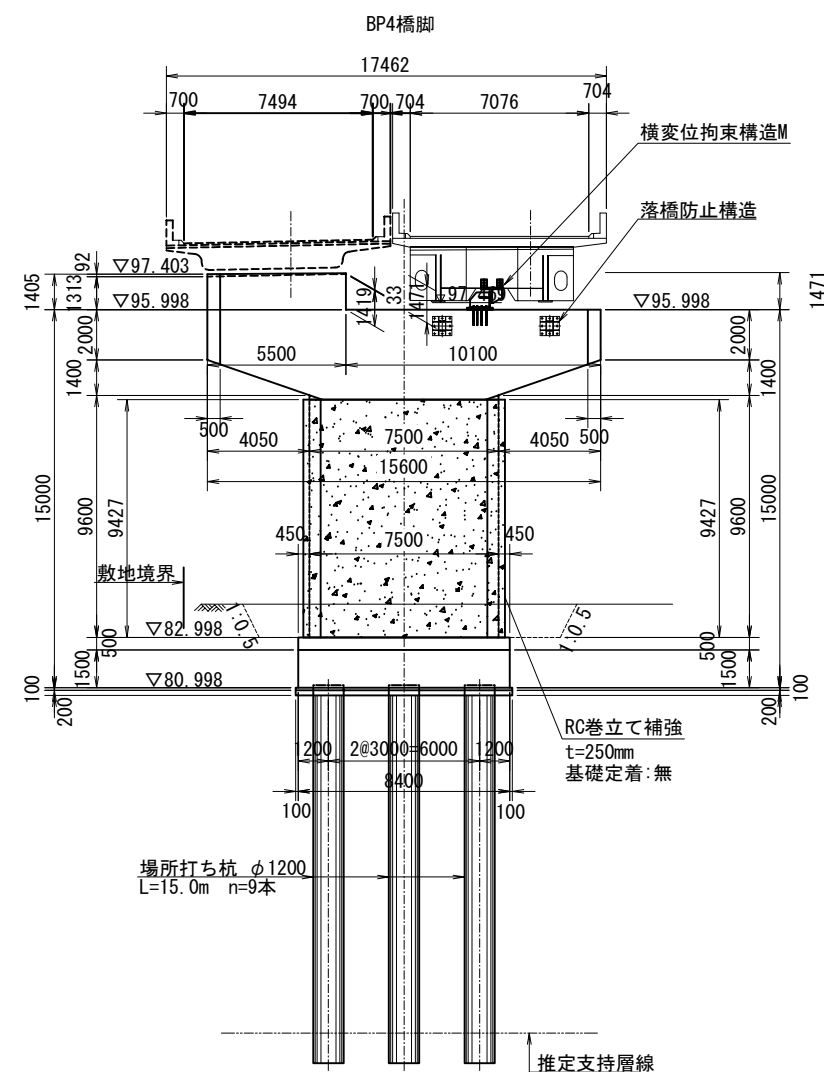
1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

			
横浜橋須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	1 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

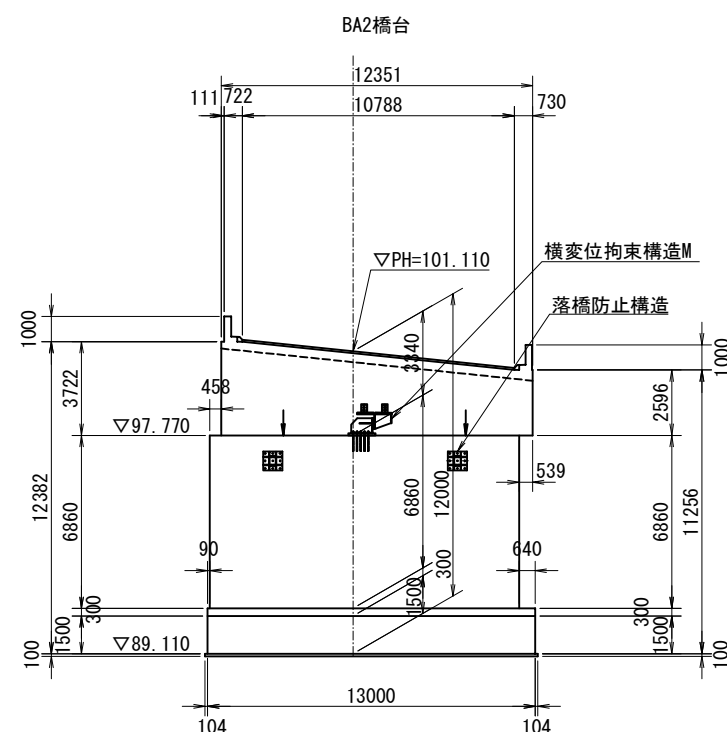
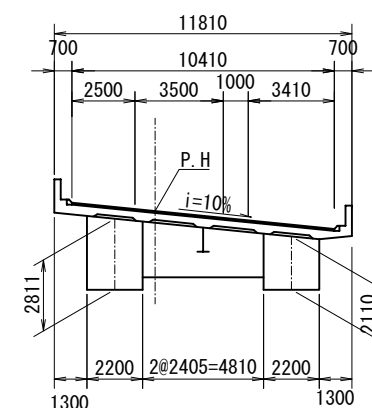
釜利谷JCT第二橋 補強一般図(その2)

S=1 : 300

断面図



標準断面図



【竣工時】設計条件表（昭和62年2月[1987年]）

路線名	横浜横須賀道路 金沢支線		橋名	釜利谷JCT第二橋
重要度区分	第1種2級B規格		活荷重	TL-20, TT-43
橋長	171.500m		交差条件	圏央道・横浜横須賀道路
上部構造	上部工形式		桁長	支間長
	P4~BA2	鋼3径間連続曲線箱桁橋	70.300m	52.700m+65.000m+52.700m
幅員構成	総幅員	8.400m~11.810m	有効幅員	7.000m ~ 10.410m
線形条件	平面線形	A=75.0m+R=80.0m	縦断線形	i=2.764% / ~ \ 3.200%
	横断線形	i=10.0%~0.7%	斜角	BA2 75° 00' 00"
床版・舗装	RC床版, アスファルト舗装 t=75mm			
支承形式	BP-A支承			
下部構造	張出式橋脚 (P4)、張出式円柱橋脚 (BP5・BP6)			
	場所打ちコンクリート杭 (P4)、直接基礎 (BP5~BA2)			
	コンクリート σ_{ck} =24.0N/mm ² 、鉄筋SD345			
適用示方書	道路橋示方書・同解説 (昭和53年・55年、日本道路協会) 設計要領第二集 (昭和55年)			
地盤種別	I 種地盤			
設計水平震度	K _h =0.18			

【耐震補強設計時】設計条件表（令和6年12月[2024年]）

上部構造 耐震補強	横変位拘束構造	鋼製ブラケット	
	落橋防止構造	PCケーブル	
	使用材料	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ 、SM90A、SM400A、SD345	
下部構造 耐震補強	RC巻立て補強 (P4、BP5、BP6)		
	設計基準強度 $\sigma_{ck}=30.0\text{N/mm}^2$ 、鉄筋SD345		
適用示方書	道路橋示方書・同解説 (平成24年、日本道路協会) 設計要領第二集 (令和2年)		
重要度区分	B種	活 荷 重	B活荷重
地 盤 種 別	I 種地盤		
地域別補正係数	地域区分A1 : $c_I=1.0$, $c_{II}=1.2$, $c_{III}=1.0$		
目 標耐震性能	橋脚	耐震性能2(a)および2(b)混合を許容する。	
	支承	補強は実施しない。	
	落橋防止システム	支承部の耐震性能が2を満足しないため、省略条件を適用しない。	

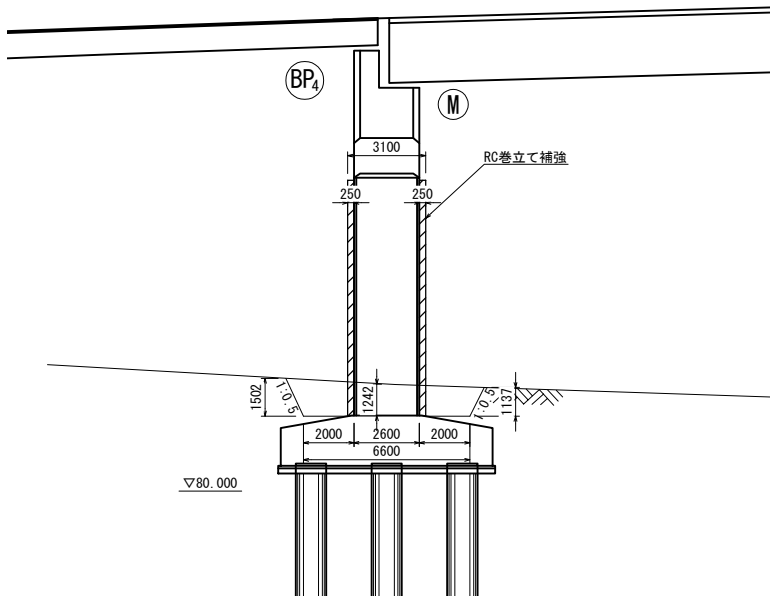
注記)

1. 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

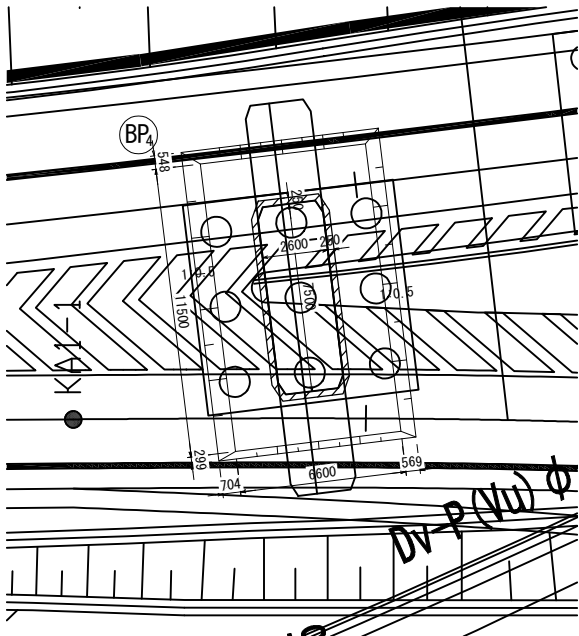
横浜横須賀道路 金谷分第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷JCT第二二橋 補強一般図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

構造物掘削 普通部A

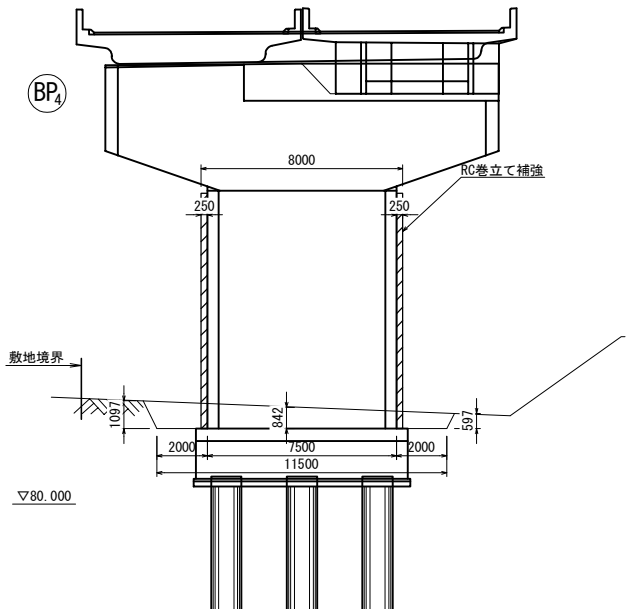
側 面 図



平 面 図



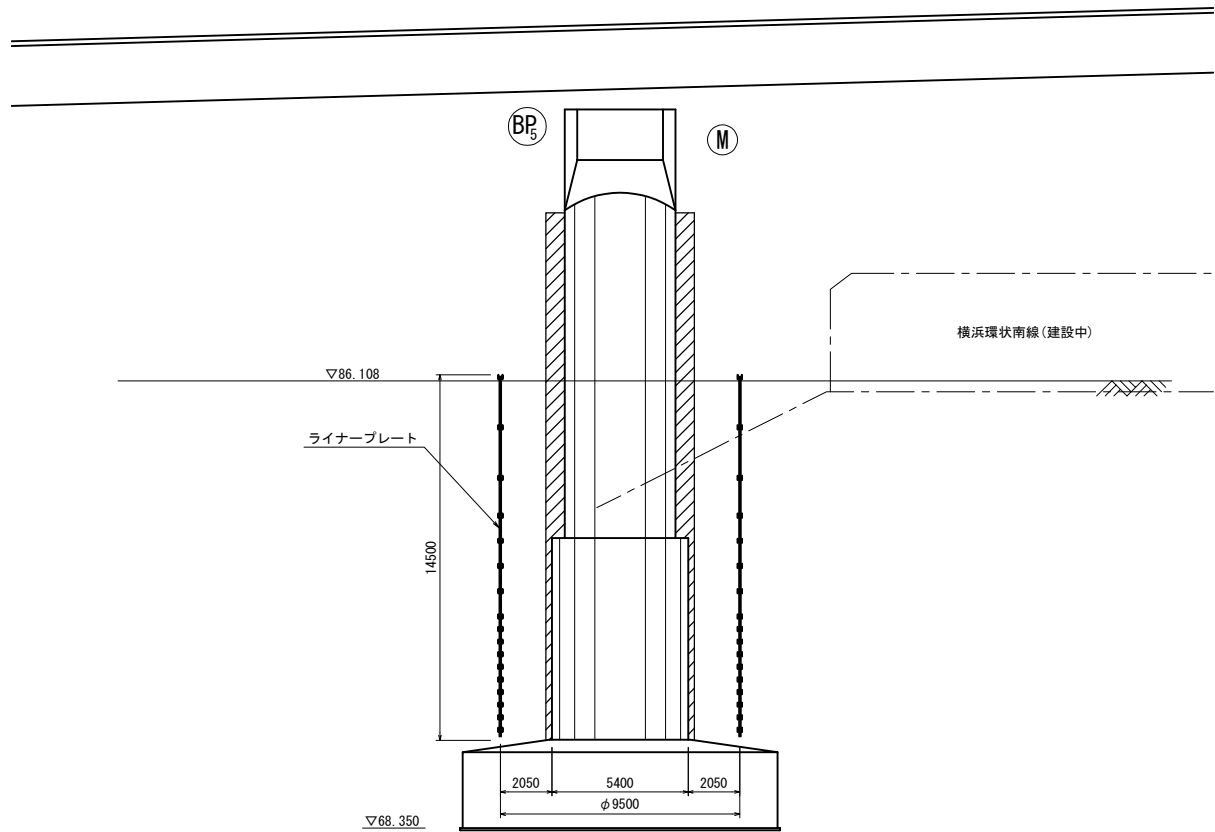
正 面 図



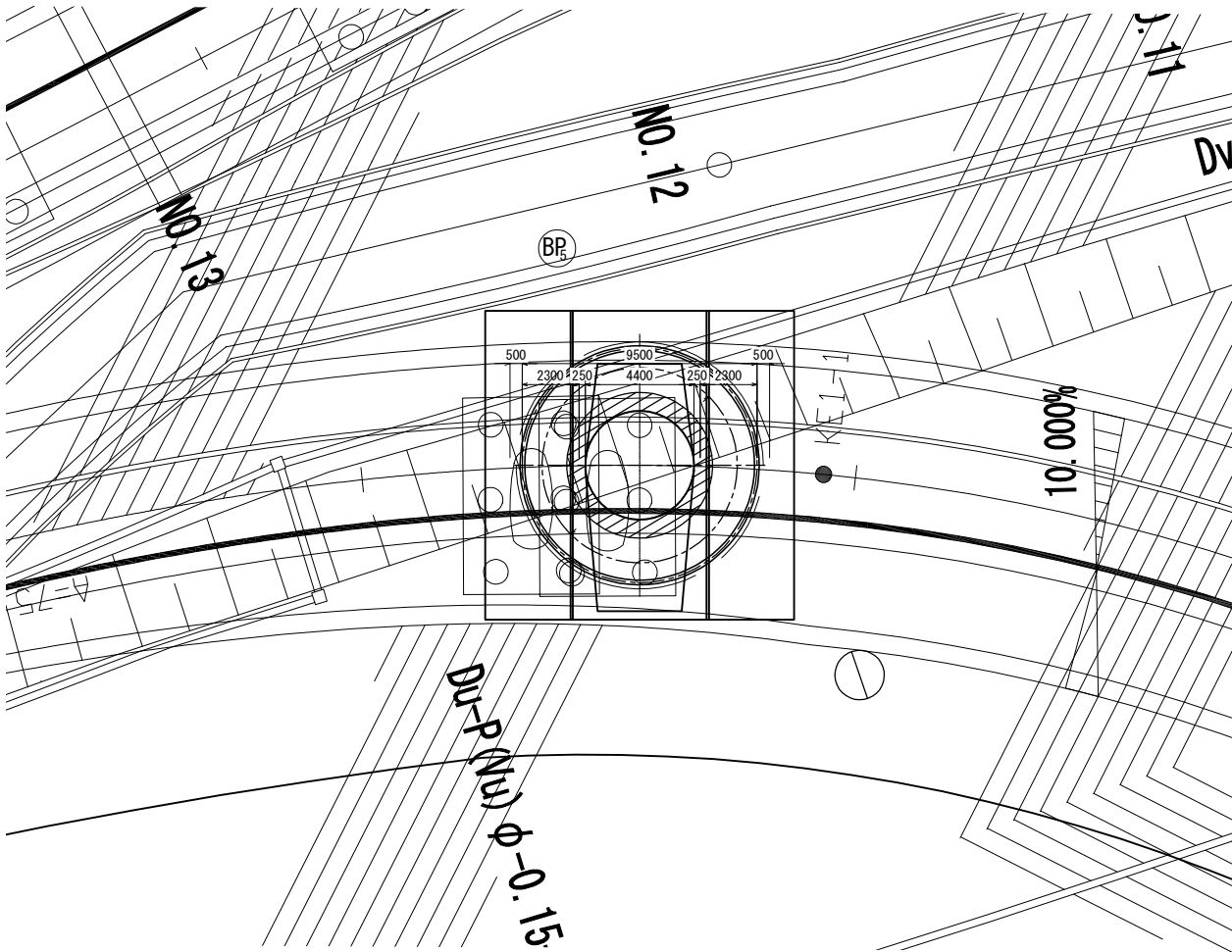
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 3 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

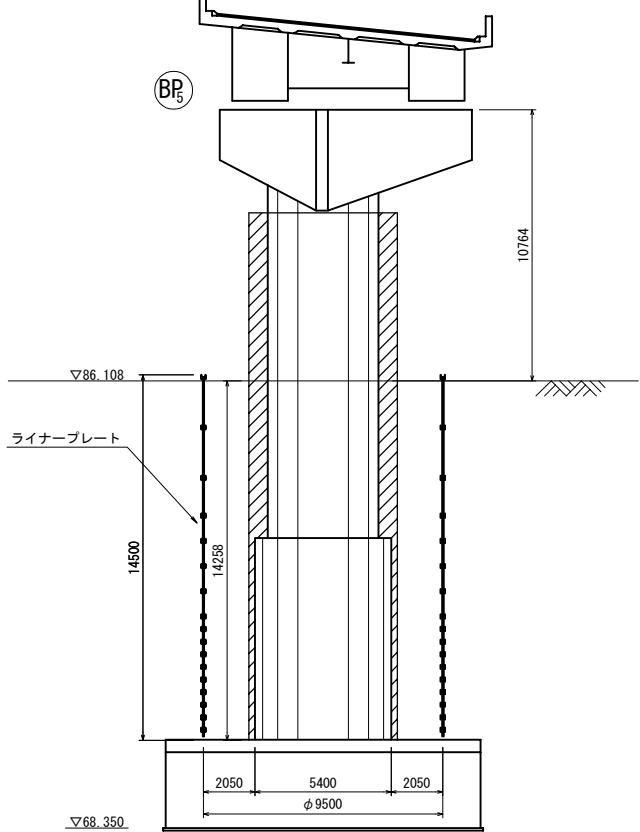
側 面 図 S=1:300



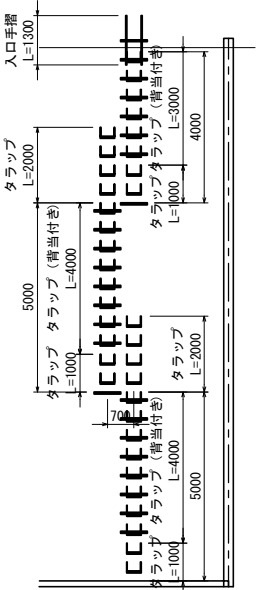
平 面 図 S=1:300



正 面 図 S=1:300



昇降設備参考図 S=1:200



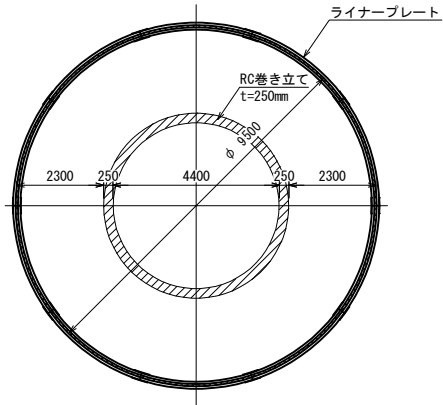
注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 44	
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

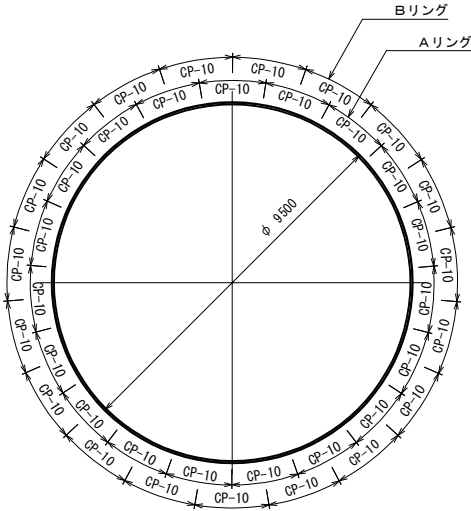
釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その3)

BP5橋脚
構造物掘削 特殊部A

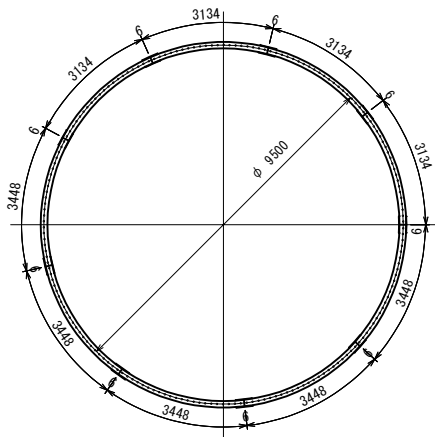
平面図 縮尺=1:200



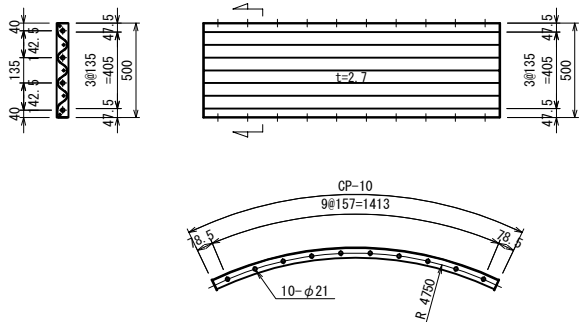
ライナープレート構成図 縮尺=1:200



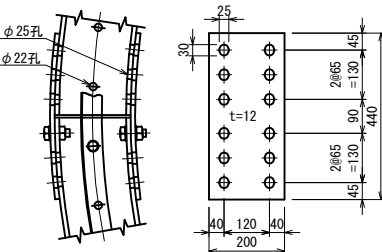
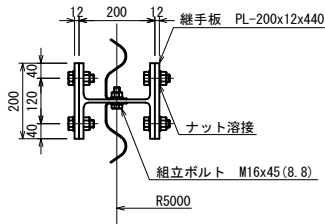
補強リング構成図 縮尺=1:200



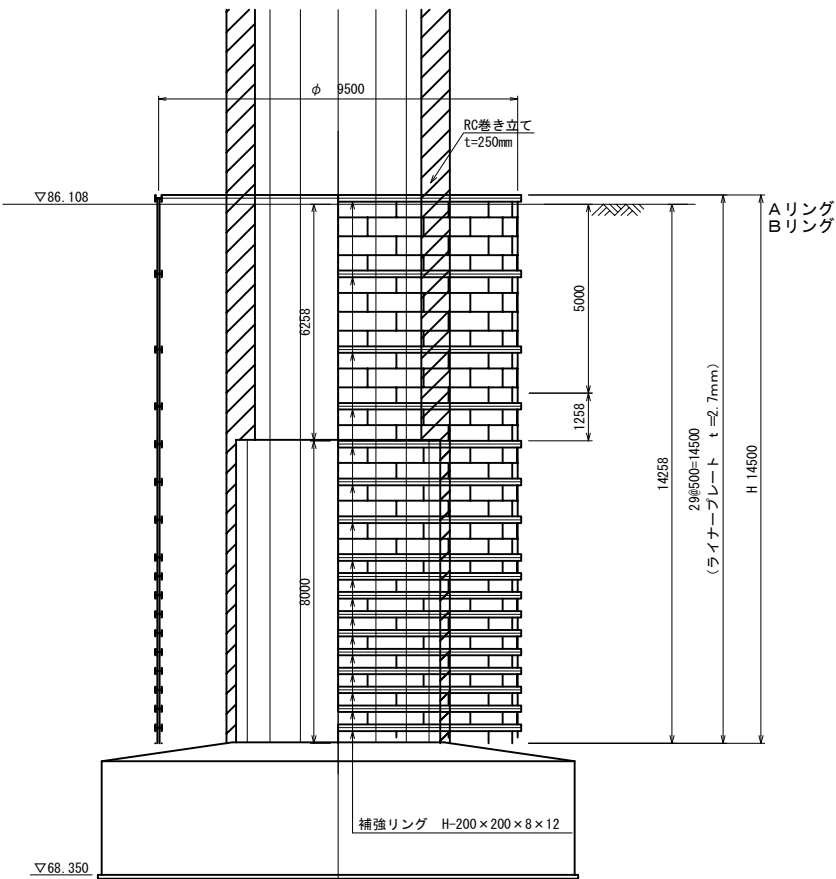
ライナープレート 縮尺=1:40



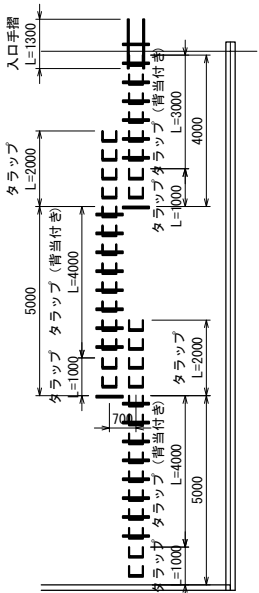
補強リング継手詳細図 縮尺=1:20



側面図 縮尺=1:200



昇降設備参考図 縮尺=1:200



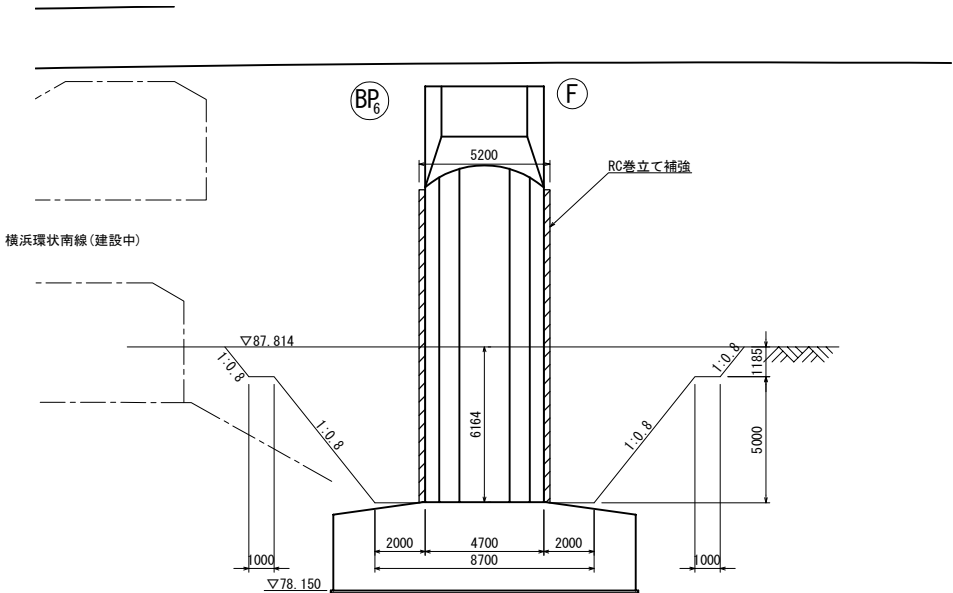
材料表

名 称	寸 法 (mm)	単体質量 (kg)	数 量	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=14.5m					
ライナープレート	2.7×500×1570 (CP-10)	26.0	551	14326.0	黒皮
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP用)	0.137	2394	328.0	
組立ボルト	M16×45 (8.8, HR用)	0.158	3230	510.3	
小計				15164.3 kg	
補強リング (H-200)・・・13リング (継ぎ手部 10箇所/1リング)					
補強リング	H-200×200×8×12×3134	156.4	68	10635.2	黒皮
補強リング	H-200×200×8×12×3448	172.1	85	14628.5	黒皮
継手板	PL-200×12×440	8.29	306	2536.7	黒皮
継手ボルト	M20×55 (8.8)	0.287	3672	1053.9	
小計				28854.3 kg	
合計				44018.6 kg	

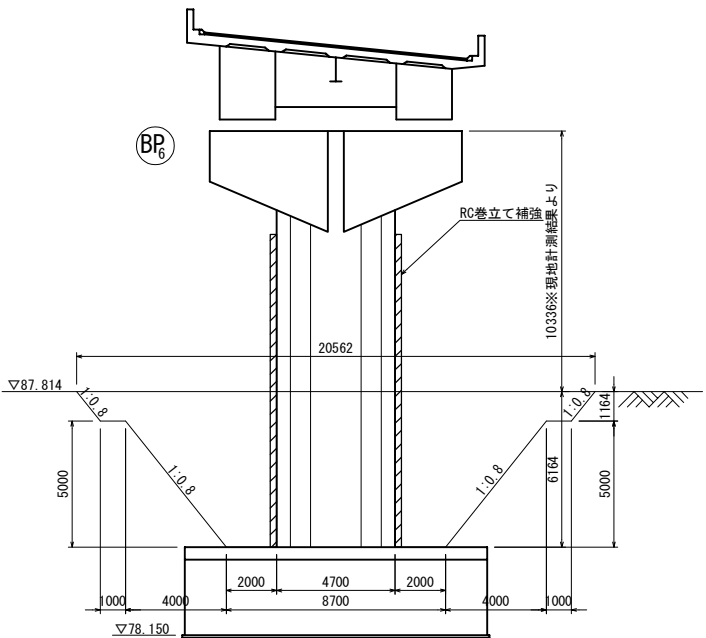
- 注記
- 1) 施工時に現地にて高さを確認し、ライナープレート深度を調整すること。
 - 2) 昇降施設については、現地にて割り付けを確認し、適宜調整すること。
 - 3) 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その3)			
縮 尺	図 示	図面番号	5	/ 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

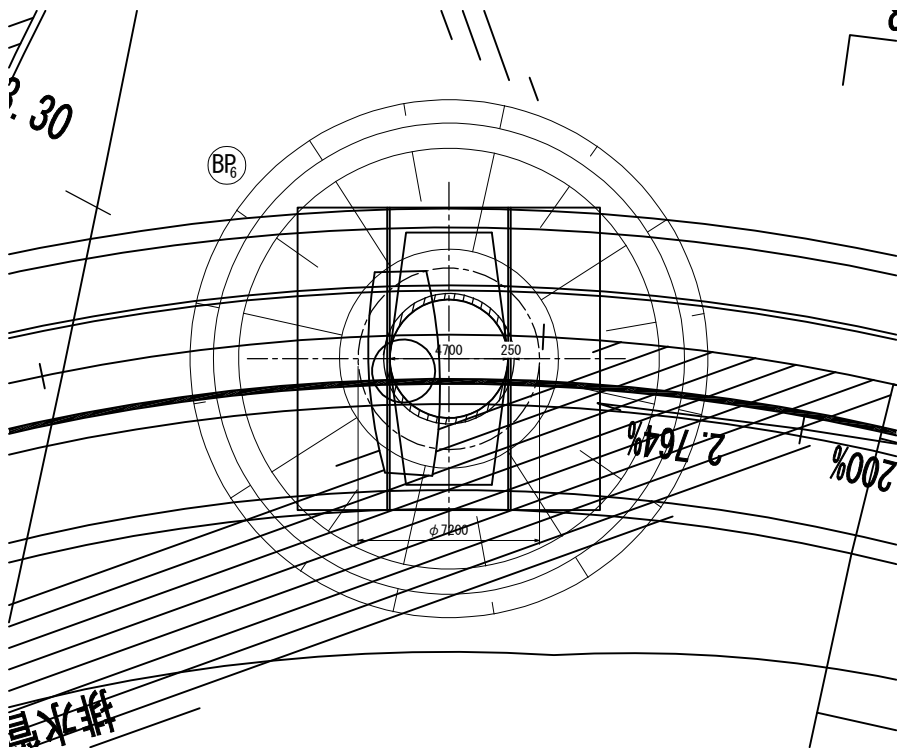
側 面 図



正 面 図

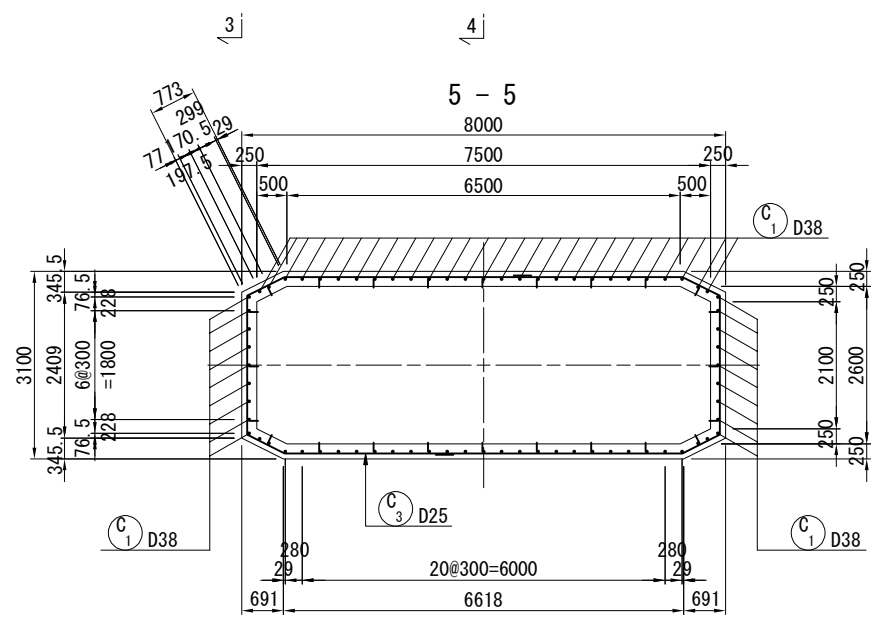
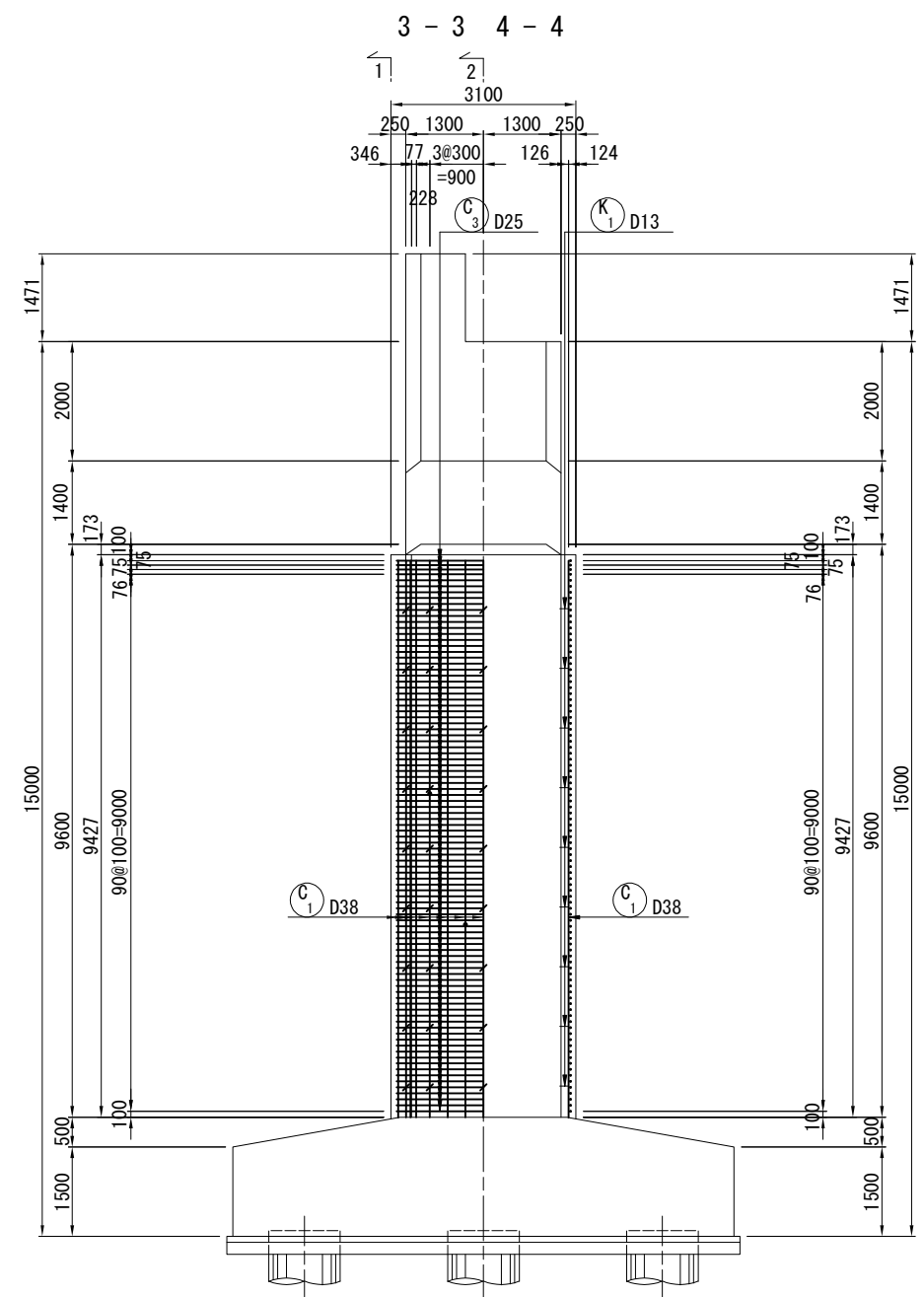
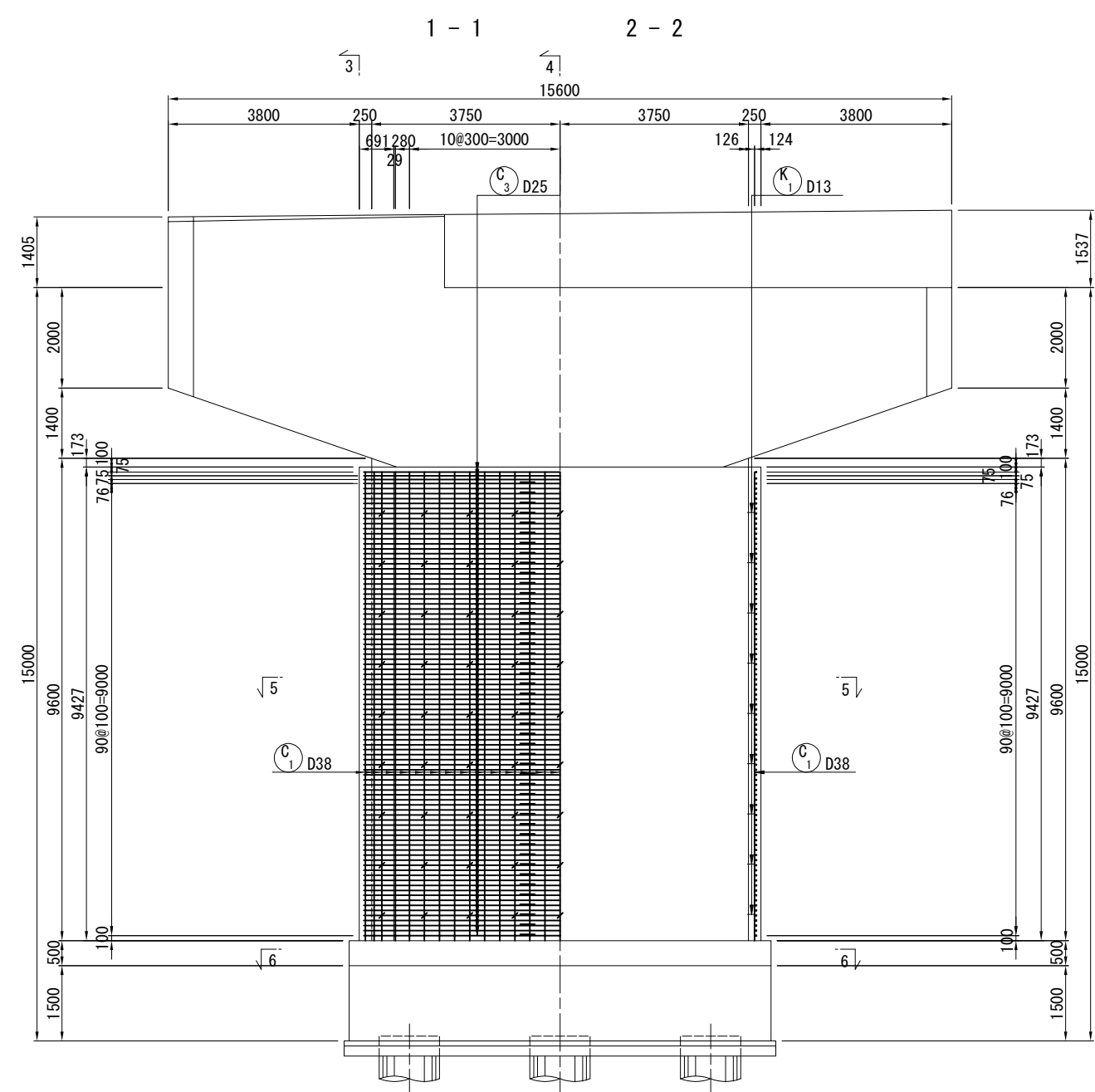


平 面 図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

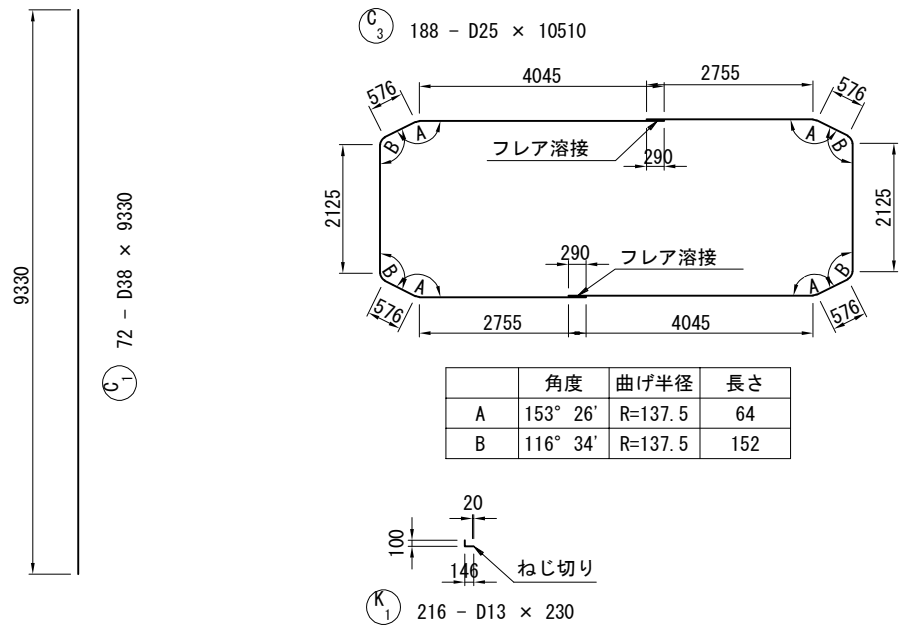
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 構造物掘削(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記)

- コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
- 鉄筋は、SD345を使用する。
- 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
- コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
- フレア溶接部は千鳥配置とする。
- 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
- なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
- 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮 尺	図 示	図面番号 8 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



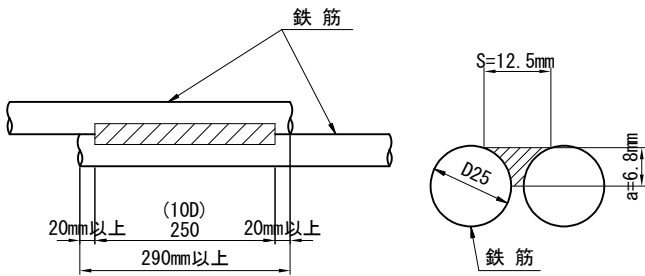
鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D38	9330	72	8.95	83.5	6012	I
C ₃	D25	10510	188	3.98	41.8	7858	C
SD345小計						13870	kg
鉄筋I集計表							
D38						6012	kg
D25						7858	kg
(SD345) 合計						13870	kg
フレア溶接の箇所数 D25 + D25 188 箇所							
K ₁	D13	230	216	0.995	0.229	49	L
D13						49	kg

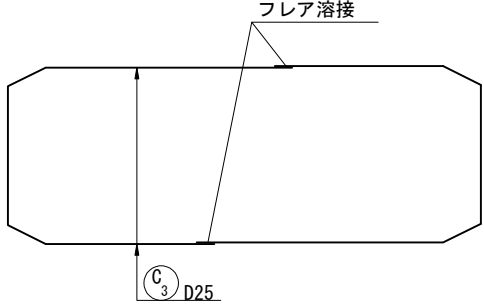
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 90°		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

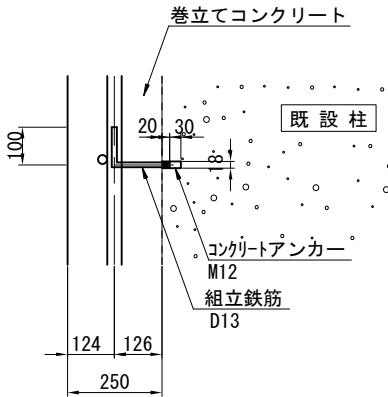
フレア溶接詳細図 S=1:10



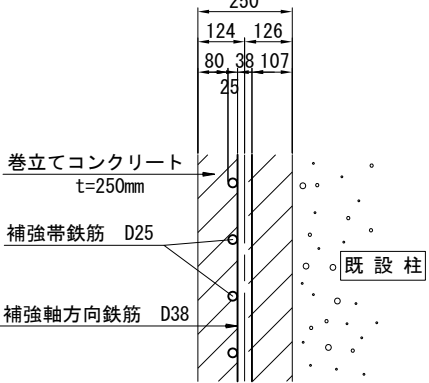
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

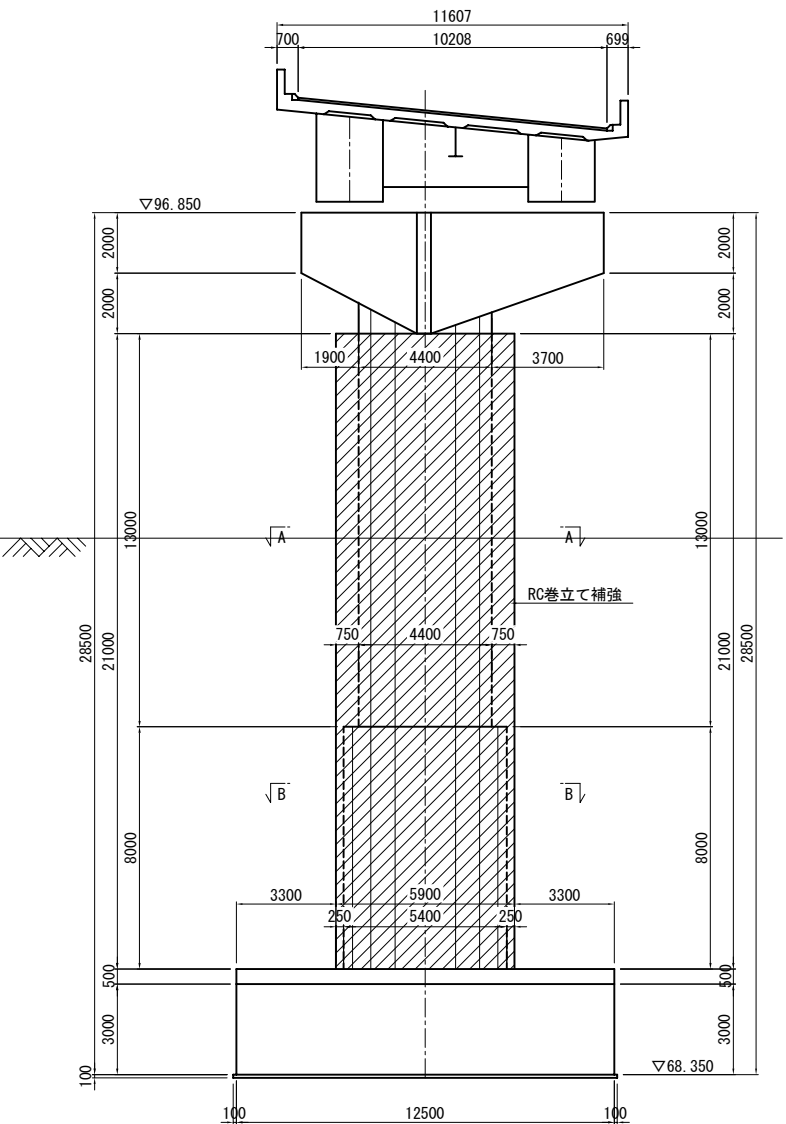


かぶり詳細図 S=1:20

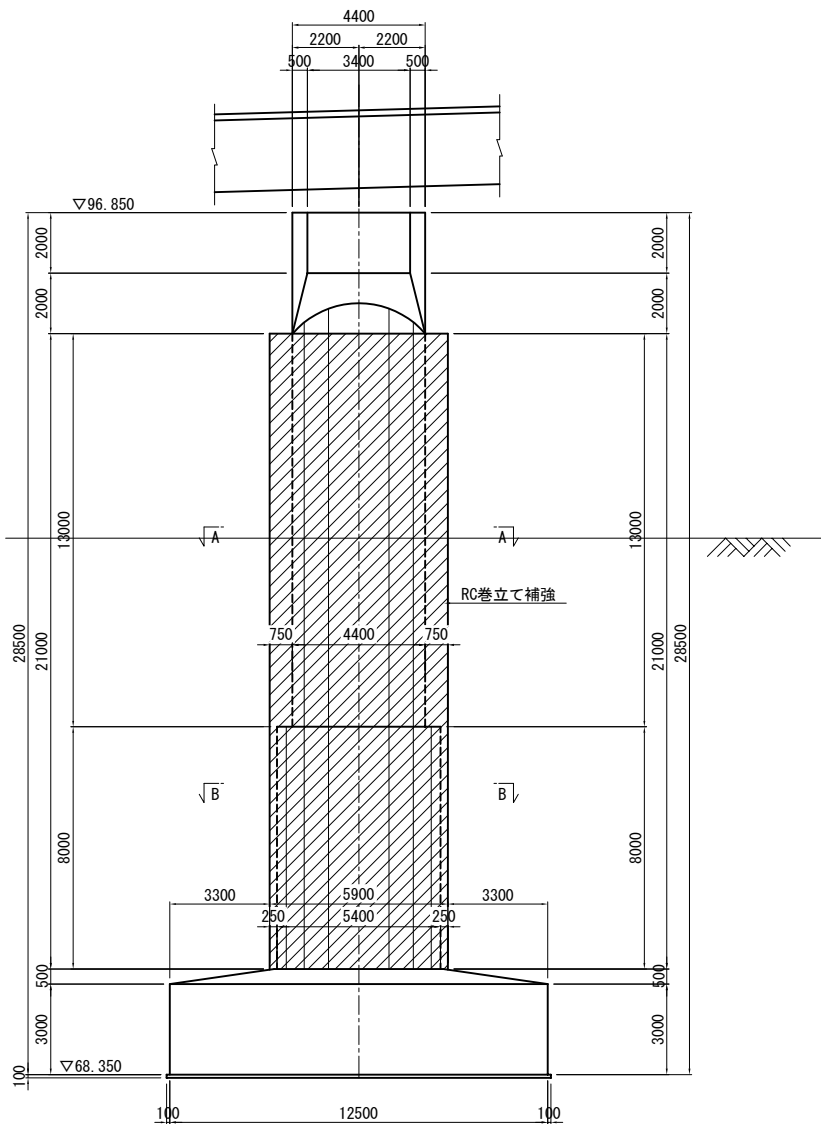


注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。
なお、既設鉄筋の影響により、アンカー定着鉄筋本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
7. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
8. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

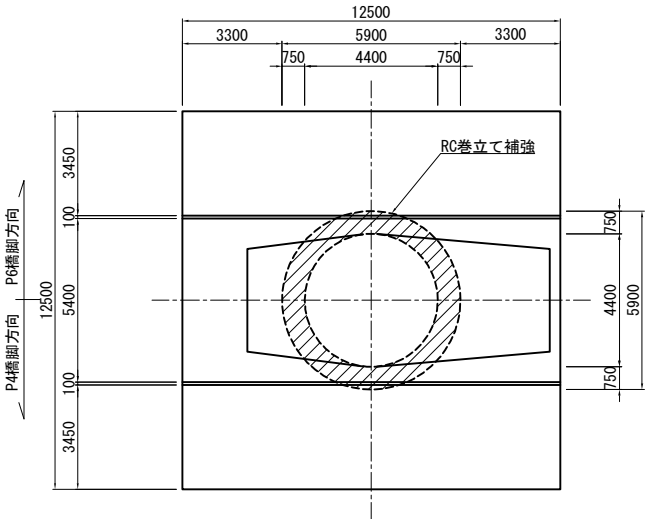
正面図 S=1:250



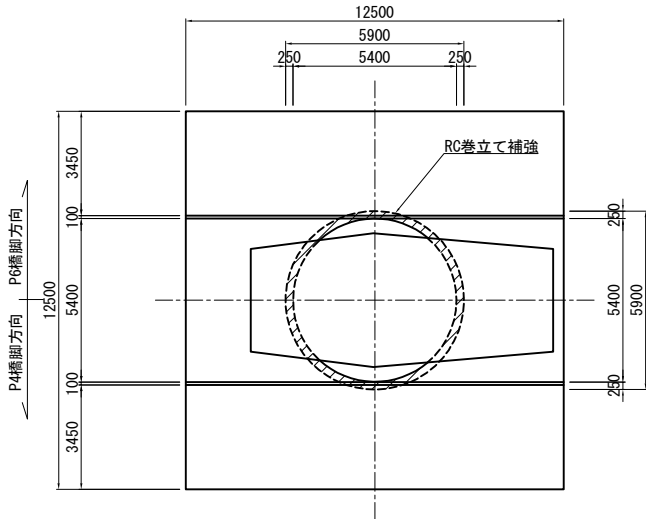
側面図 S=1:250



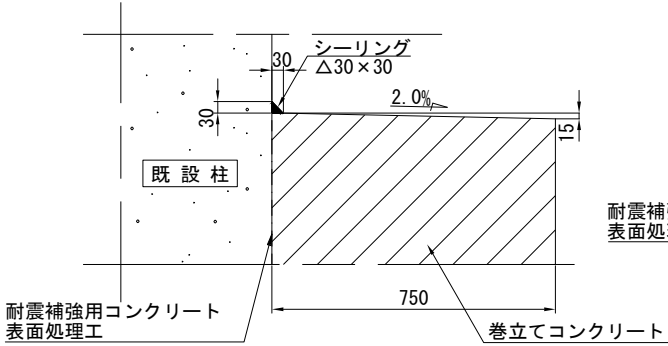
平面図(A-A) S=1:250



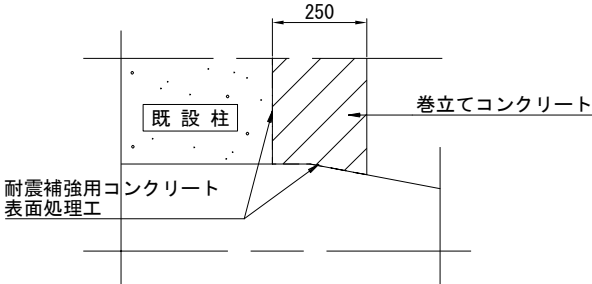
平面図(B-B) S=1:250



巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20

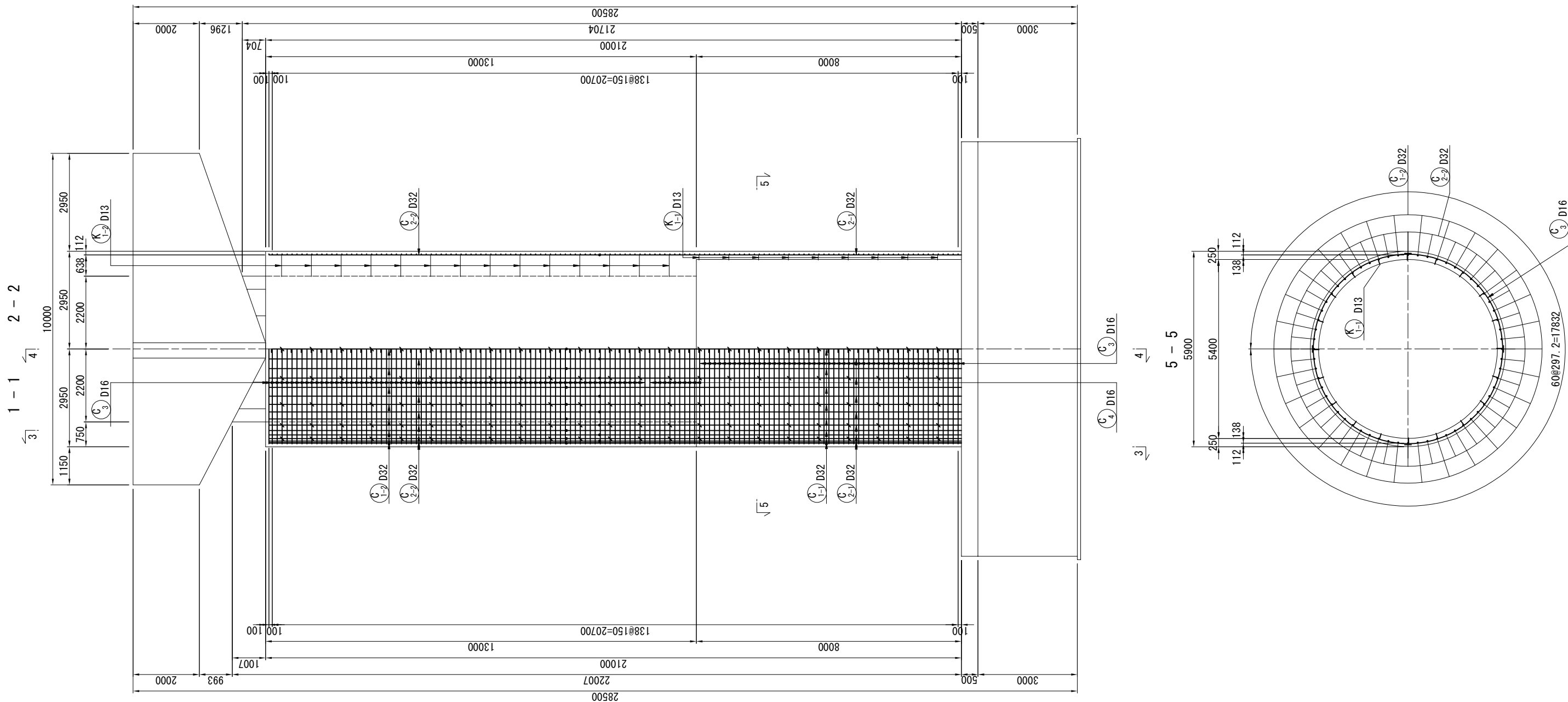


巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



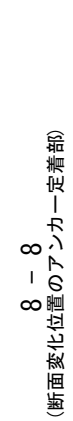
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ(高さ)は、低い部分を抑えて水平に構築すること。
(ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。)
 3. 補強部分(既設面)は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	10 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号 11 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

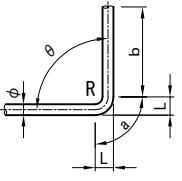


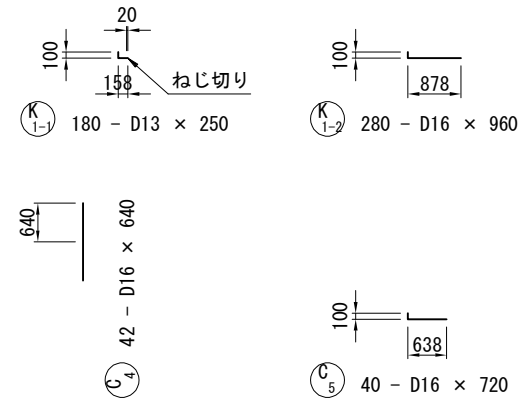
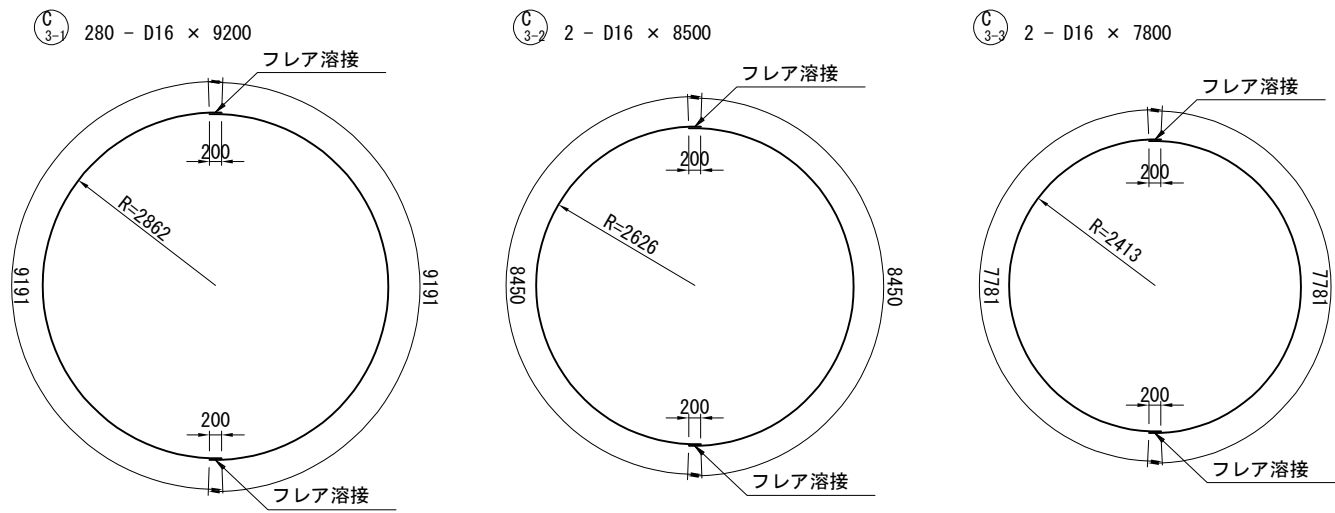
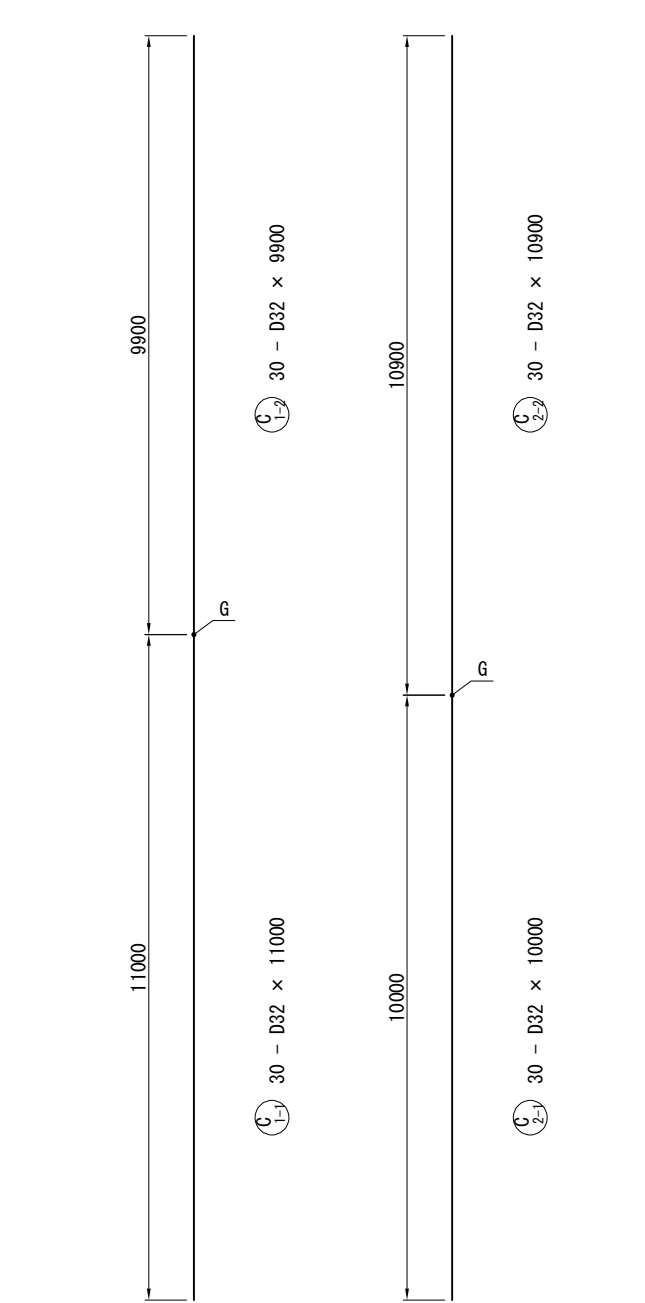
- | | | | |
|---------------------------|--------------------------------|------|---------|
| 横浜横須賀道路
釜利谷第二高架橋耐震補強工事 | | | |
| 図面の種類 | 釜利谷JCT第二橋
BP5橋脚耐震補強詳細図(その2) | | |
| 縮 尺 | 図 示 | 図面番号 | 12 / 44 |
| 設計会社名 | パンフィックコンサルタンツ株式会社 | | |
| 施工会社名 | | | |
| 事務所名 | 東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所 | | |

鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘 要
C 1-1	D32	11000	30	6. 23	68. 5	2055	↑ (30)
C 1-2	D32	9900	30	6. 23	61. 7	1851	↓
C 2-1	D32	10000	30	6. 23	62. 3	1869	↑ (30)
C 2-2	D32	10900	30	6. 23	67. 9	2037	↓
C 3-1	D16	9200	280	1. 56	14. 4	4032	C
C 3-2	D16	8500	2	1. 56	13. 3	27	C
C 3-3	D16	7800	2	1. 56	12. 2	24	C
SD345 小計					11895	kg	
鉄 筋 T 集 計 表							
D32					7812	kg	(60)
D16					4083	kg	
(SD345) 合計					11895	kg	(60)
フレア溶接の箇所数 D16 + D16					284	箇所	
ガス圧接の箇所数 D32 + D32					60	箇所	
C 4	D16	640	42	1. 56	1. 00	42	↓
C 5	D16	720	40	1. 56	1. 12	45	↓
K 1-1	D13	250	180	0. 995	0. 249	45	└─┘
K 1-2	D16	960	280	1. 56	1. 50	420	└─┘
D13					45	kg	
D16					507	kg	
合計					552	kg	

鉄筋加工寸法表

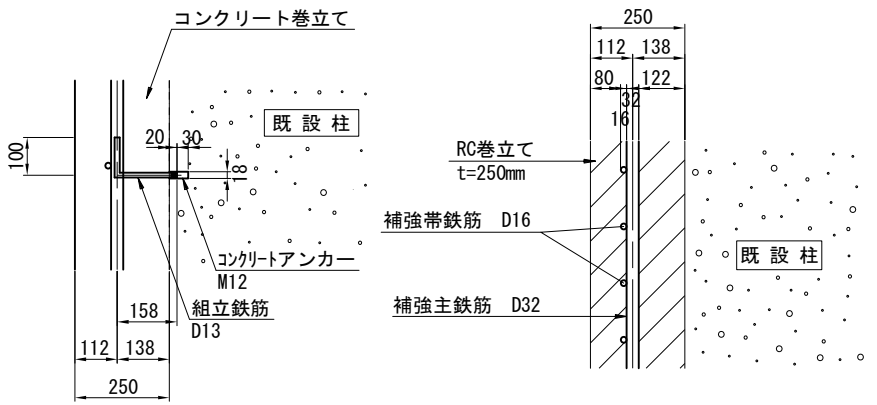
曲げ加工 〈直角フック〉					
					
SD345					
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta=90^\circ$		
			a	b	減長
D13	39	71. 5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104. 5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137. 5	118	300	32
D29	87	159. 5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192. 5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225. 5	193	492	53
D51	153	280. 5	240	612	66



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

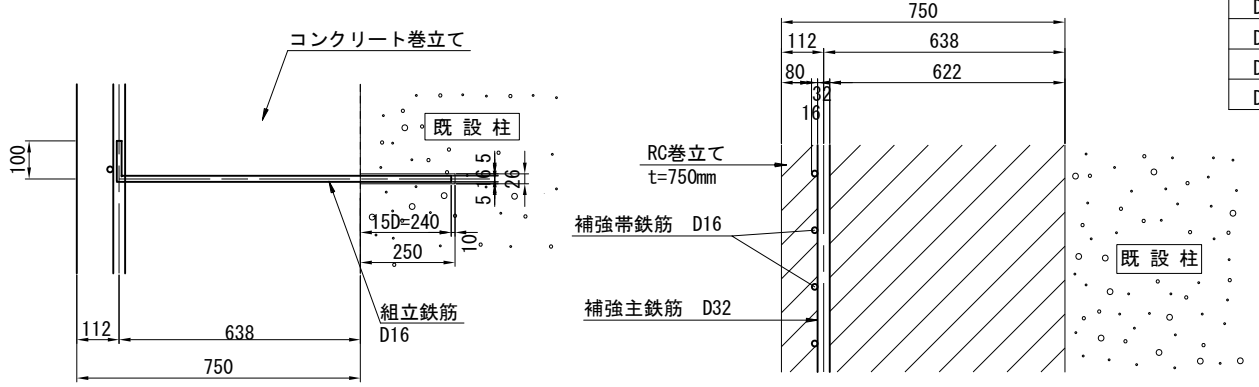
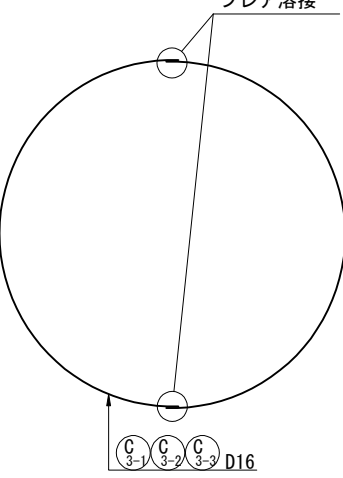
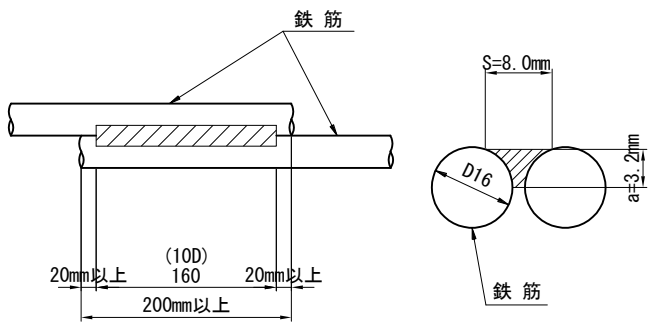
かぶり詳細図 S=1:20

アンカー詳細図 S=1:20



フレア溶接詳細図 S=1:10

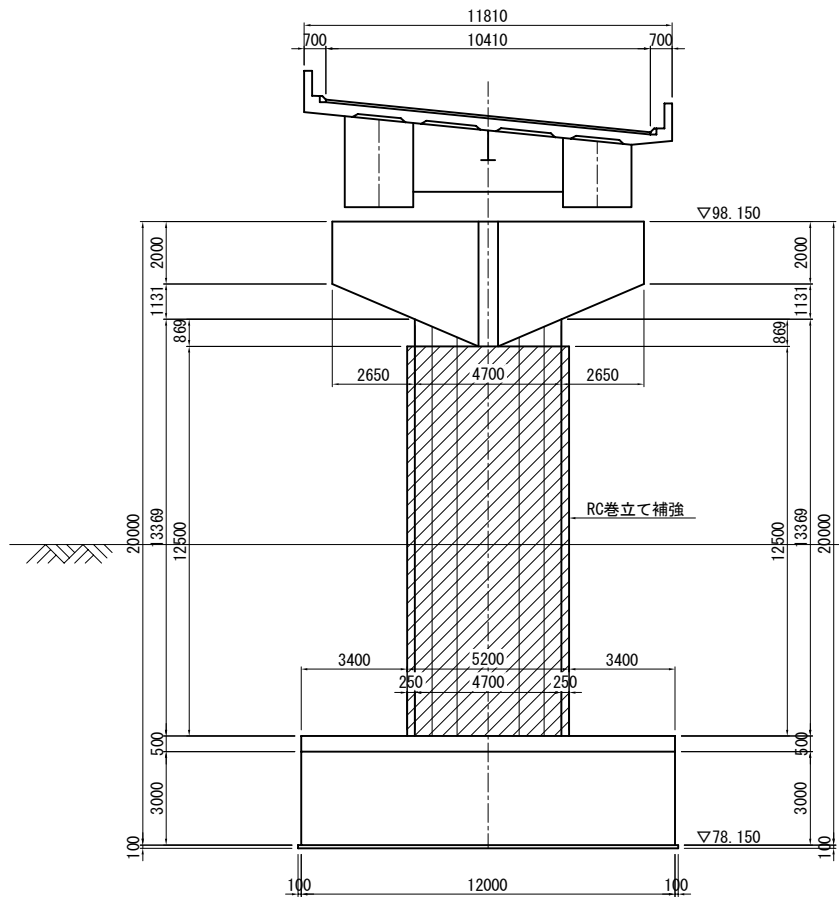
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



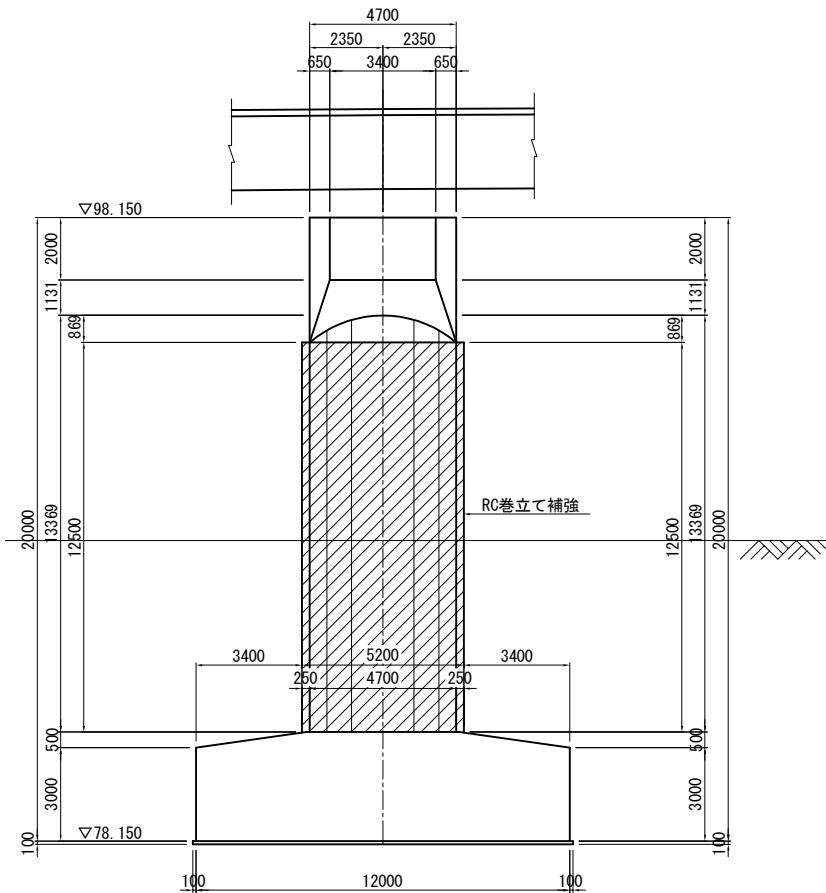
注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m²に配置すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP5橋脚耐震補強詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	13 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

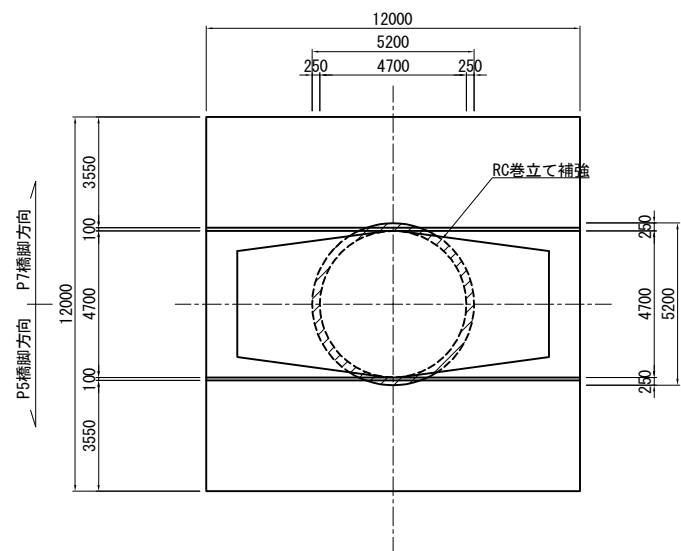
正面図 S=1:250



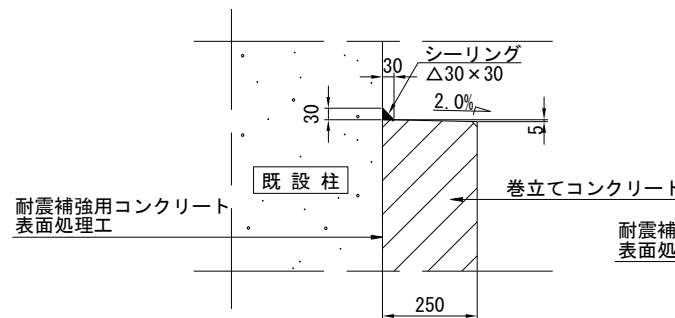
側面図 S=1:250



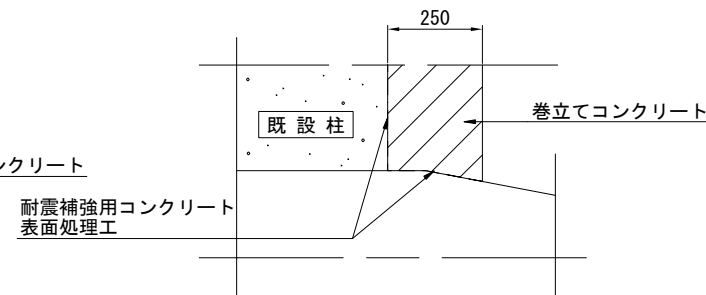
平面図 S=1:250



巻立てコンクリート天端詳細図 S=1:20

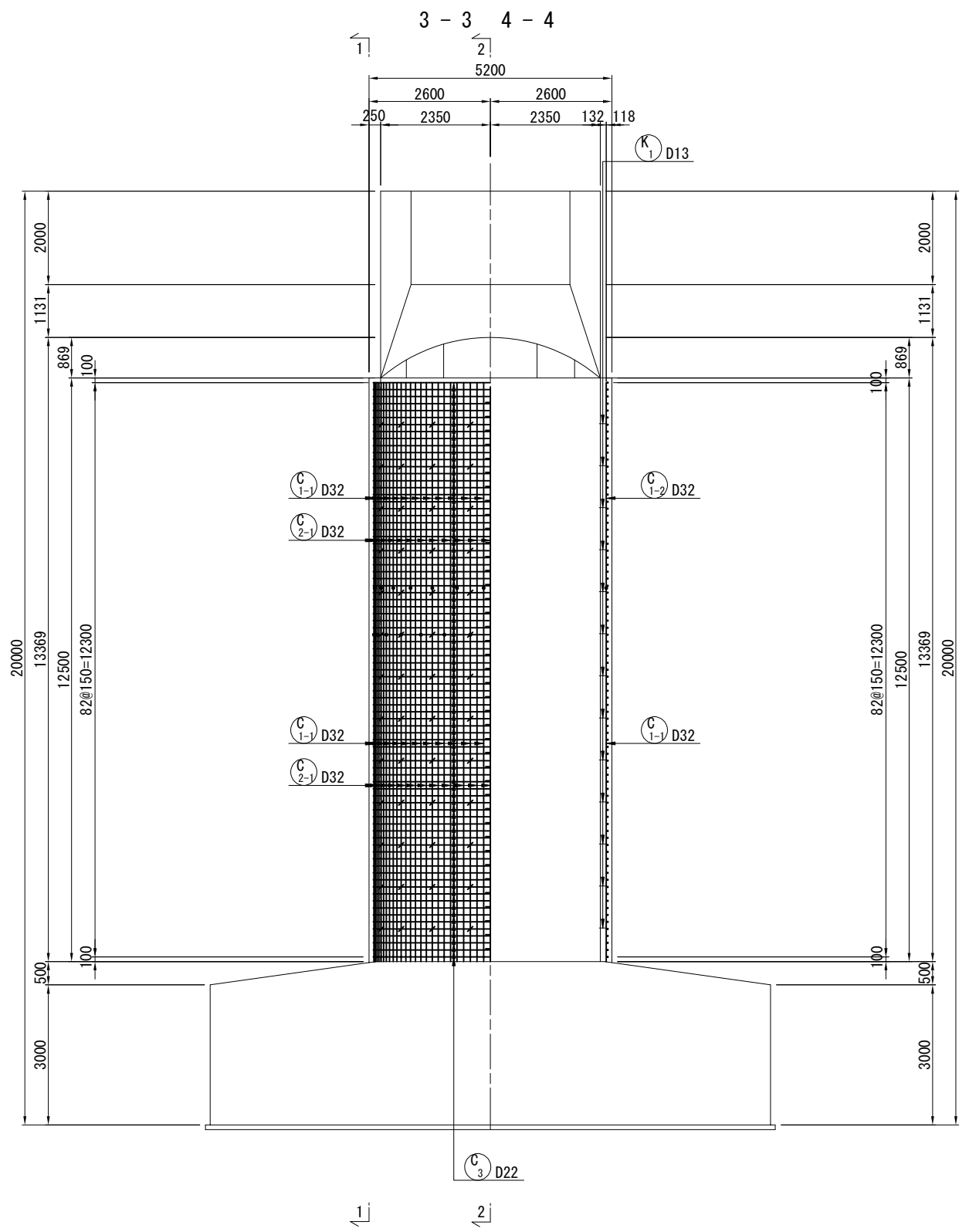
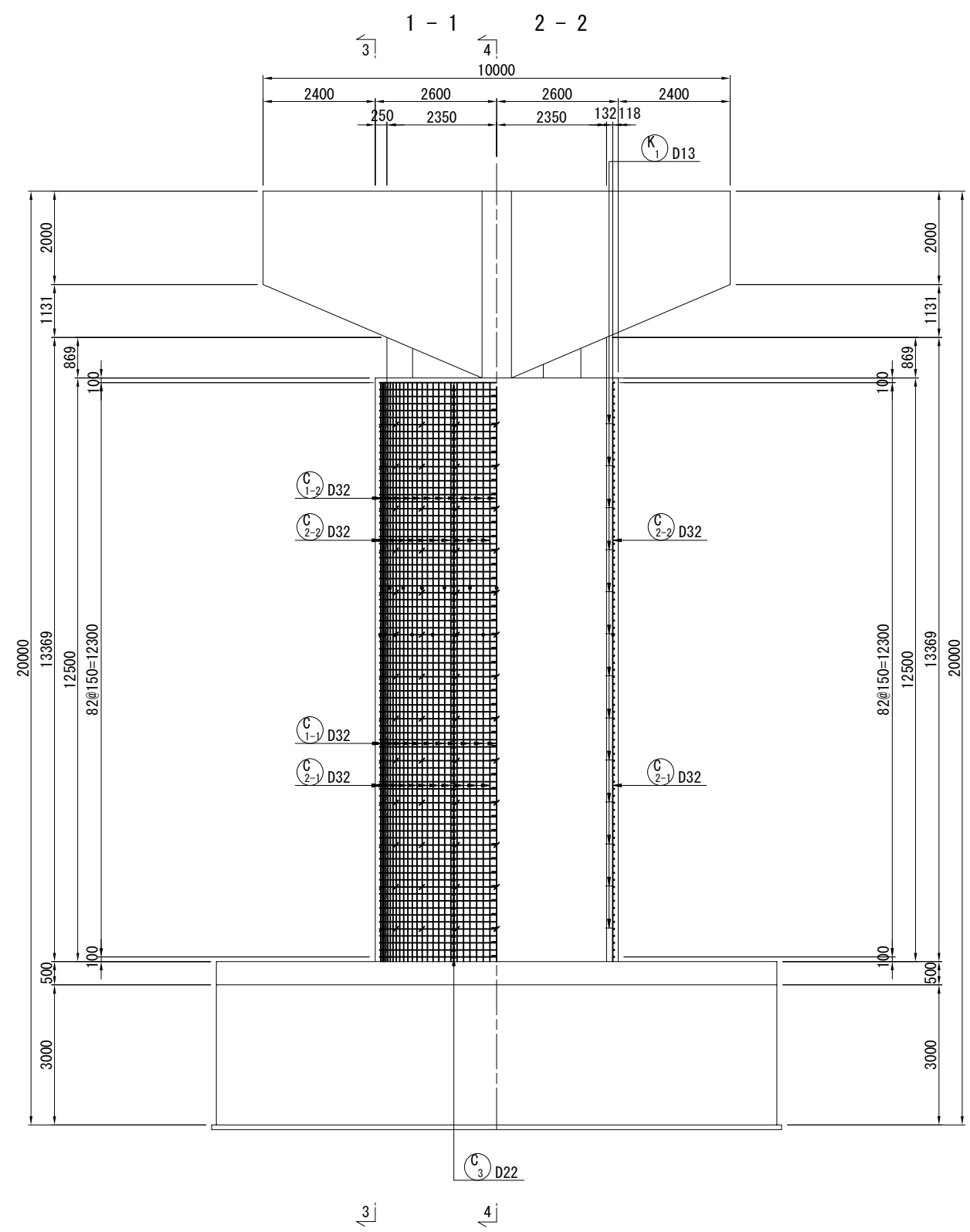


巻立てコンクリート下端詳細図 S=1:20



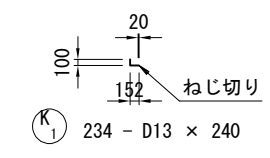
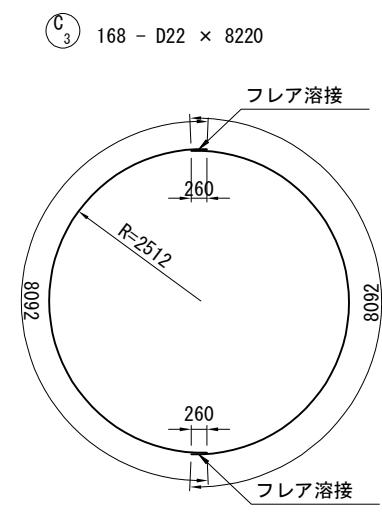
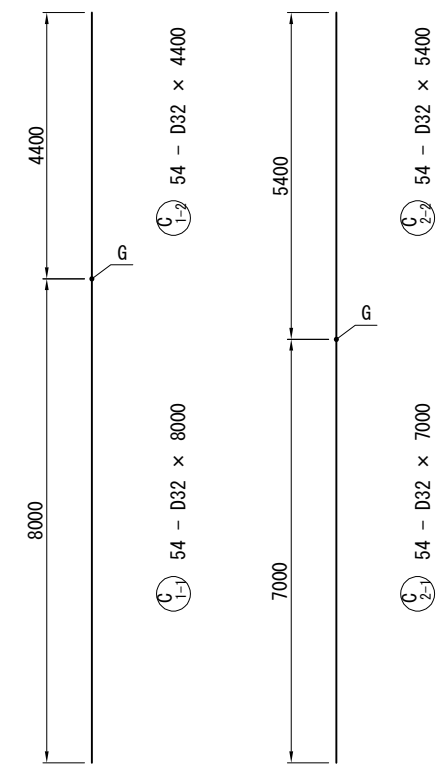
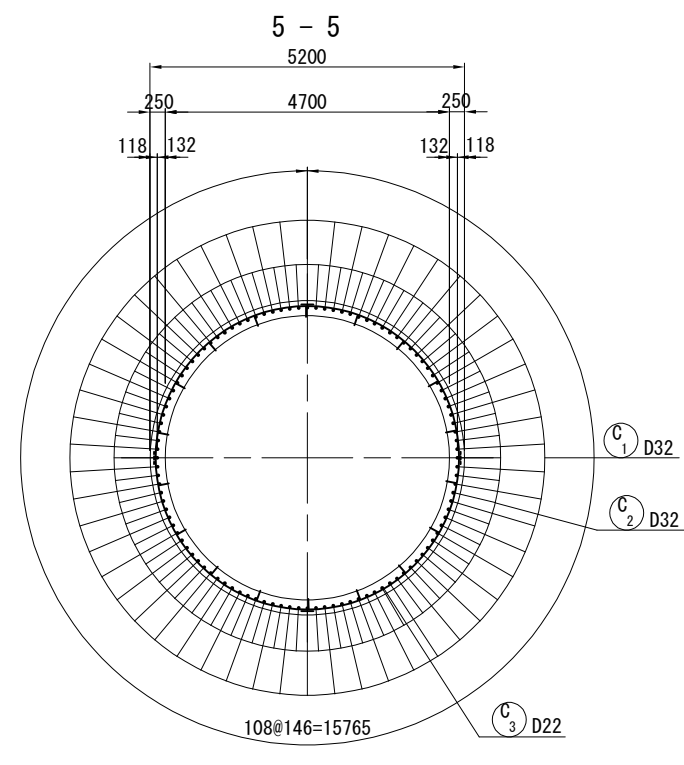
- 注記)
1. 本図面は完成図を基に作成しているため、現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。
 2. 柱の巻立て長さ（高さ）は、低い部分を抑えて水平に構築すること。（ただし断面方向には、既設橋脚側にシーリング材を施し、排水勾配を設けること。）
 3. 補強部分（既設面）は、コンクリート下地処理を行う。
 4. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
 5. 鉄筋は、SD345を使用する。

横浜横須賀道路				
釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強構造一般図			
縮 尺	図 示	図面番号	14	/ 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			



注記) 1. コンクリートの設計基準強度は $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$ を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は千鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP6橋脚耐震補強詳細図(その1)			
	縮 尺	図 示	図面番号	15 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			



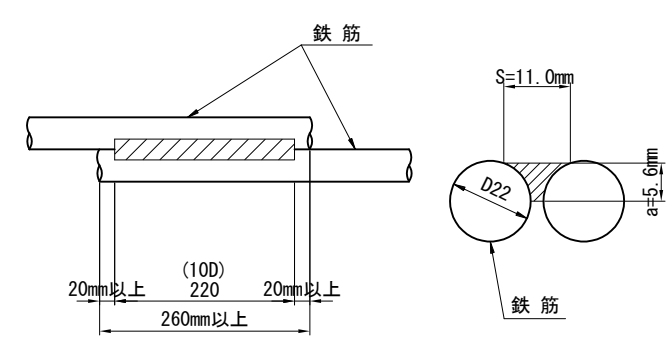
鉄筋表

種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1-1	D32	8000	54	6.23	49.8	2689	↑ (54)
C 1-2	D32	4400	54	6.23	27.4	1480	↓ (54)
C 2-1	D32	7000	54	6.23	43.6	2354	↑ (54)
C 2-2	D32	5400	54	6.23	33.6	1814	↓ (54)
C 3	D22	8220	168	3.04	25.0	4200	C
SD345 小計							12537 kg
鉄筋 T 集計表							
D32					8337 kg	(90)	
D22					4200 kg		
(SD345) 合計					12537 kg	(90)	
フレア溶接の箇所数							D22 + D22 168 箇所
ガス圧接の箇所数							D32 + D32 108 箇所
K 1							D13 240 234 0.995 0.239 56 減長
							D13 56 kg

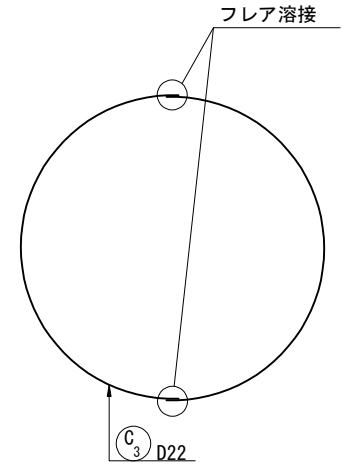
鉄筋加工寸法表

曲げ加工 〈直角フック〉					
SD345					
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 90°		
			a	b	減長
D13	39	71.5	61	156	17
D16	48	88	75	192	21
D19	57	104.5	89	228	25
D22	66	121	104	264	28
D25	75	137.5	118	300	32
D29	87	159.5	137	348	37
D32	96	176	151	384	41
D35	105	192.5	165	420	45
D38	114	209	179	456	49
D41	123	225.5	193	492	53
D51	153	280.5	240	612	66

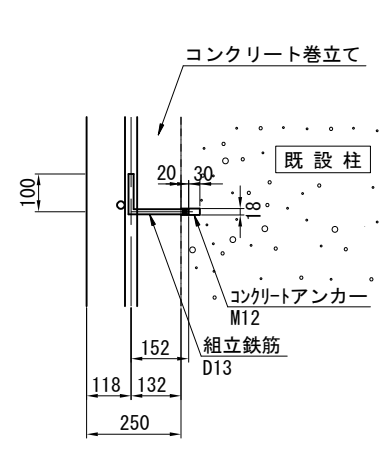
フレア溶接詳細図 S=1:10



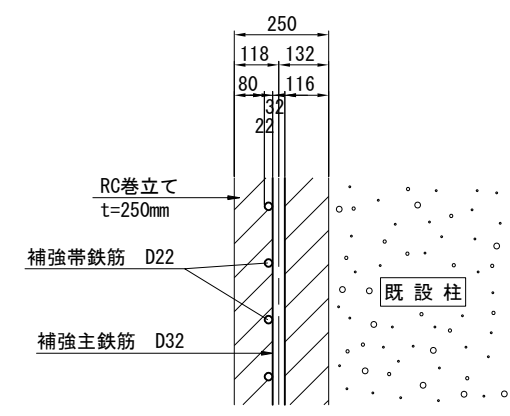
補強帯鉄筋組立図 S=1:20



組立て筋詳細図(参考図) S=1:20

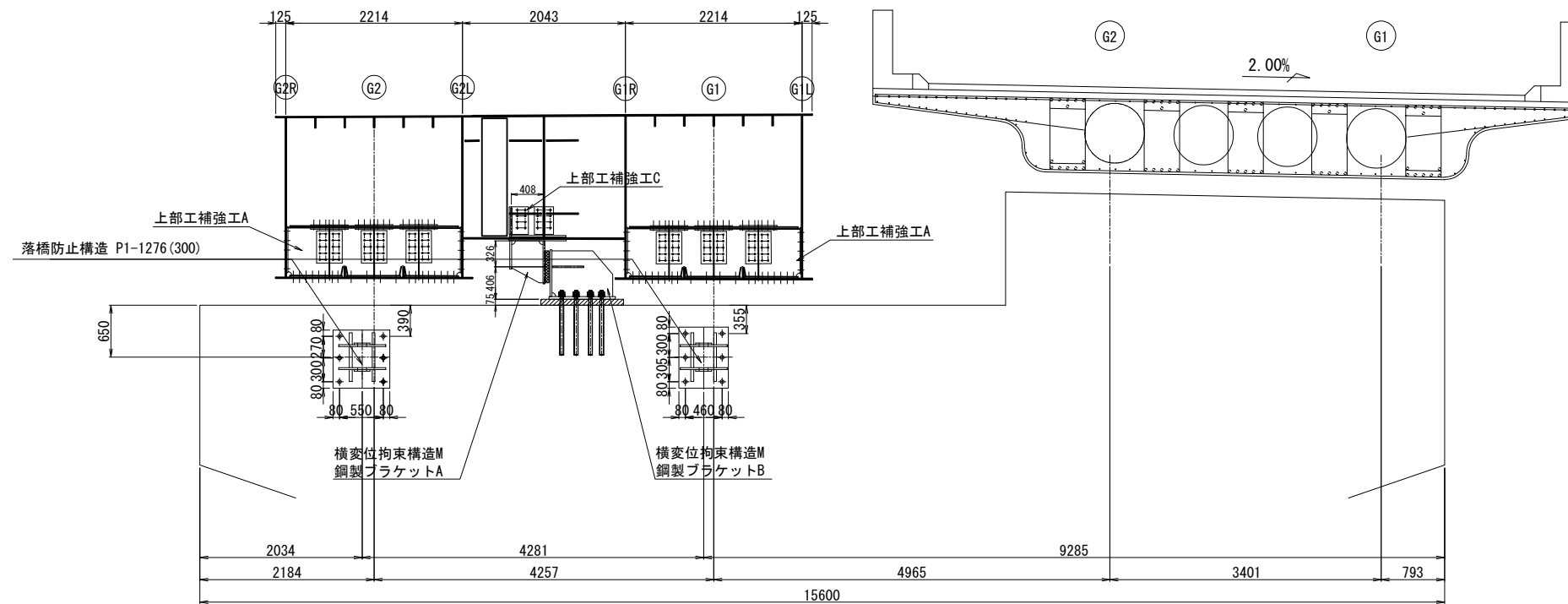


かぶり詳細図 S=1:20

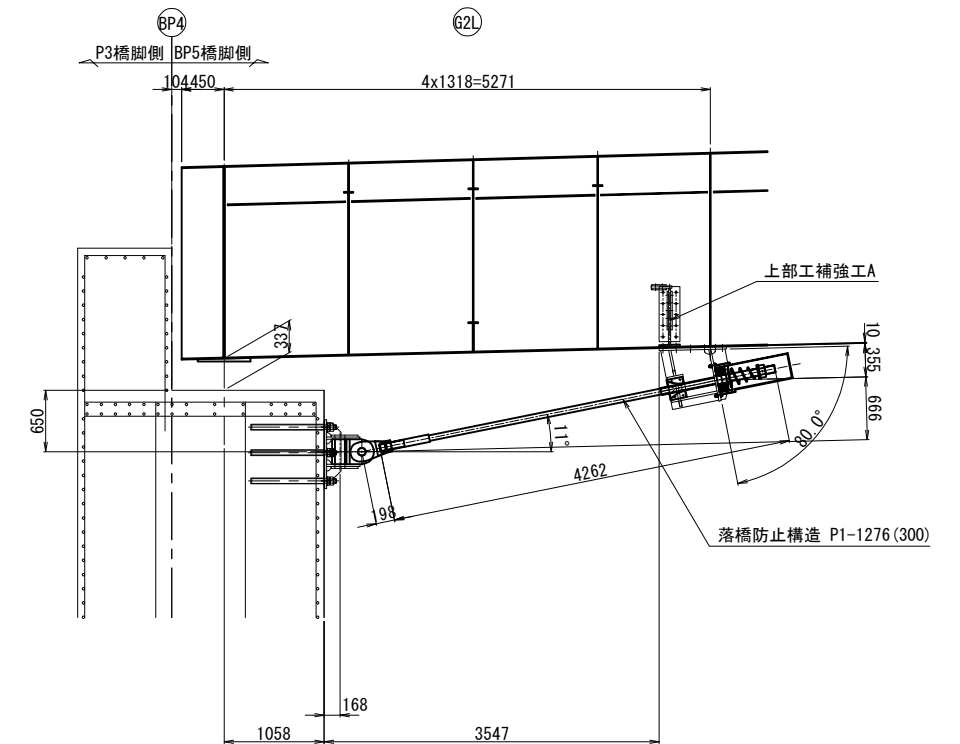


注記) 1. コンクリートの設計基準強度はσck=30N/mm2を標準とする。
2. 鉄筋は、SD345を使用する。
3. 既設コンクリート及び新設コンクリートの接合面の表面処理は、WJ工法で行うことを基本とする。
4. コンクリート表面に浮きや剥離が生じている場合は、劣化部を除去したうえで増厚補強を行うこと。
5. フレア溶接部は干鳥配置とする。
6. 本図面の寸法は既存図面としている。橋脚耐震補強工の施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。
7. 鉄筋固定用の組立用アンカーは1本/m2に配置すること。

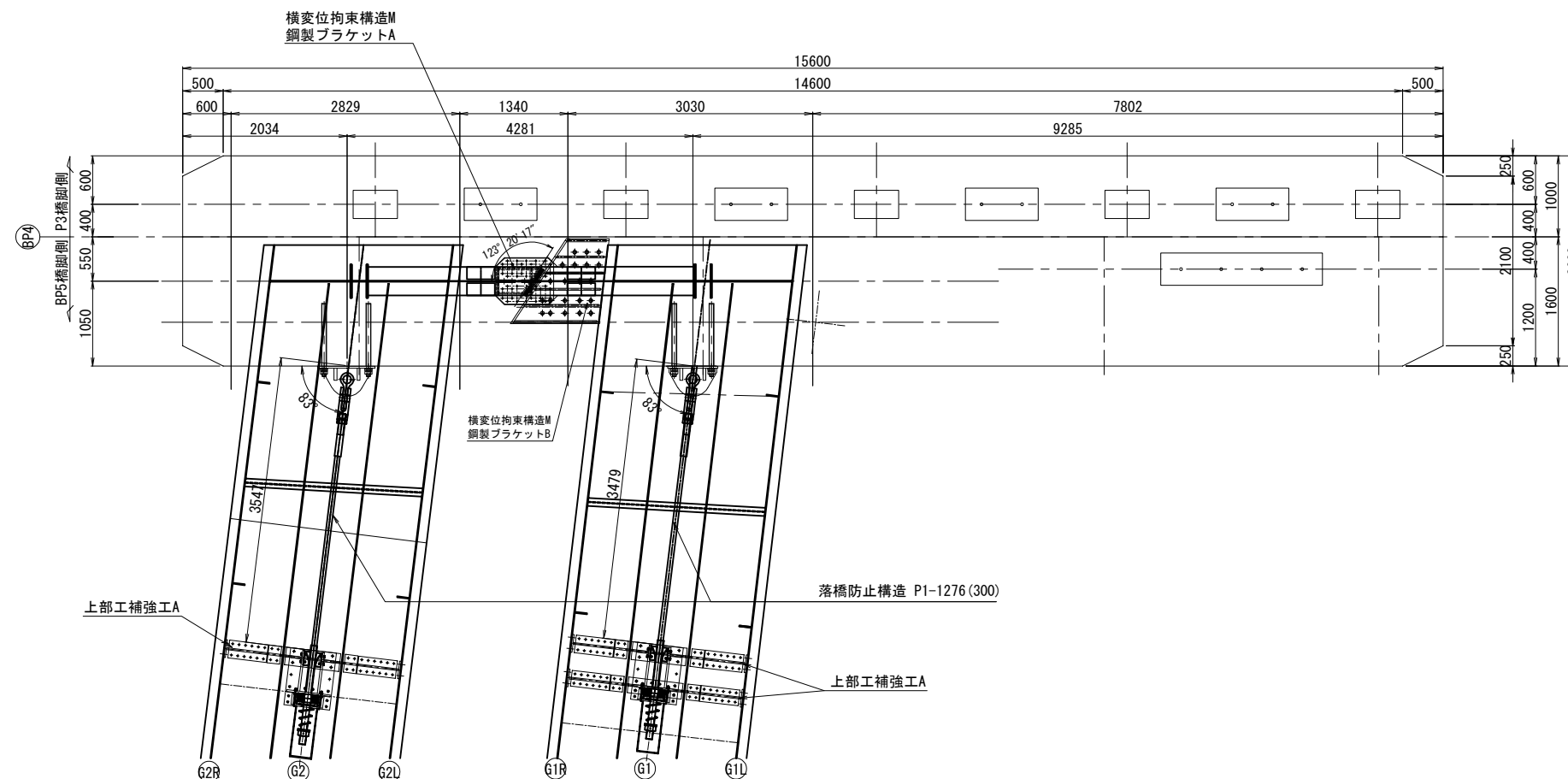
正面図



側面図



平面图



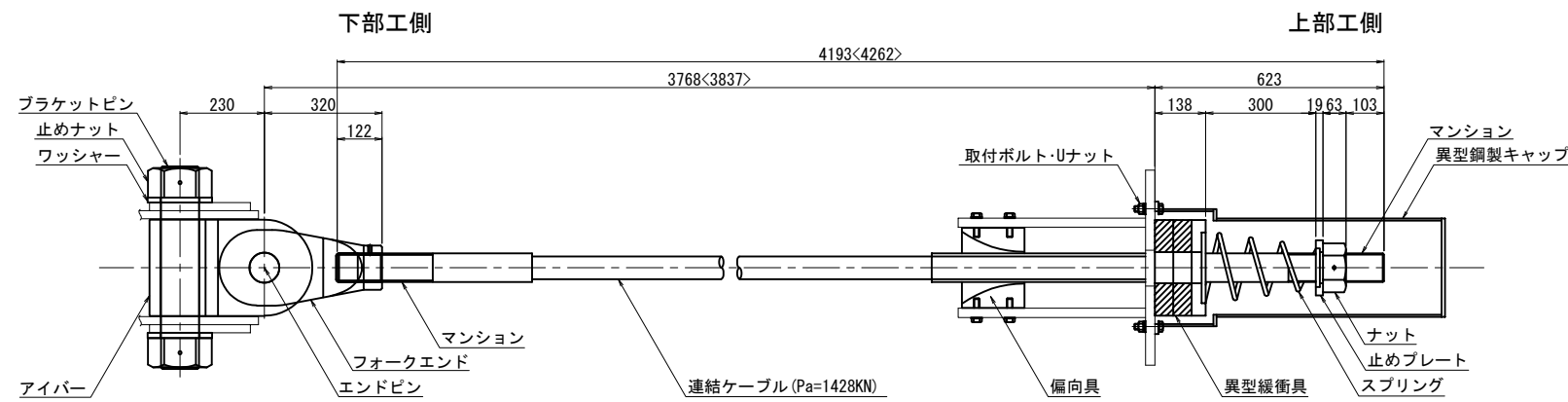
注記)

1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

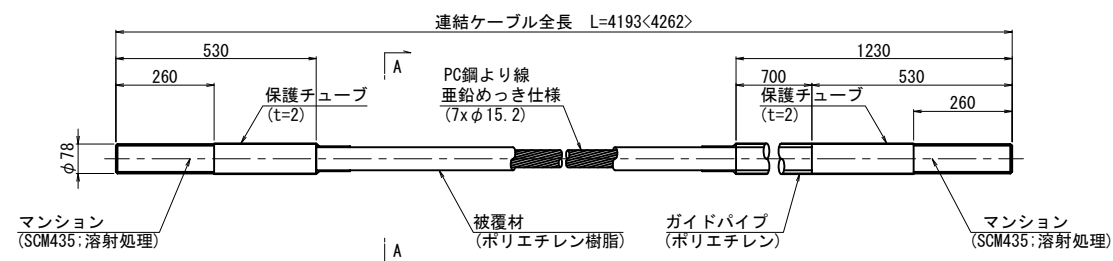
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚耐震補強配置図		
縮 尺	1:80	図面番号	17 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

落橋防止構造 P1-1276 (300)

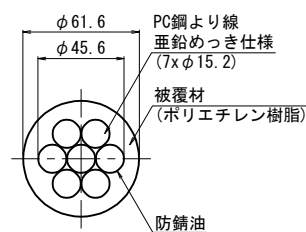
取付詳細図



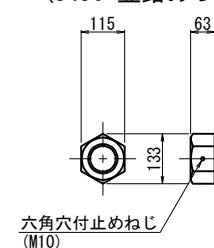
連結ケーブル



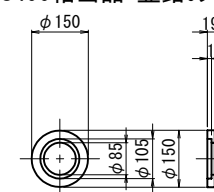
A-A断面図 S=1:2



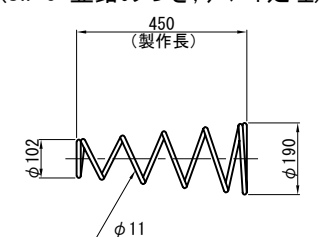
ナット
(S45C:亜鉛めっき)



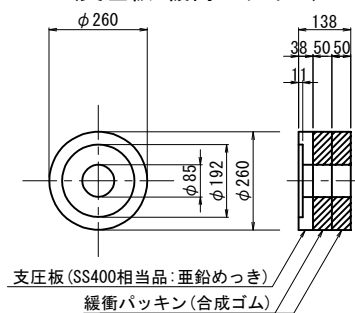
止めプレート
(SS400相当品:亜鉛めっき)



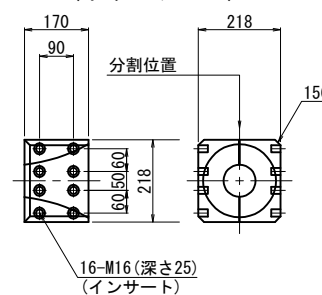
スプリング
(SW-C: 亜鉛めっき, クロム処理)



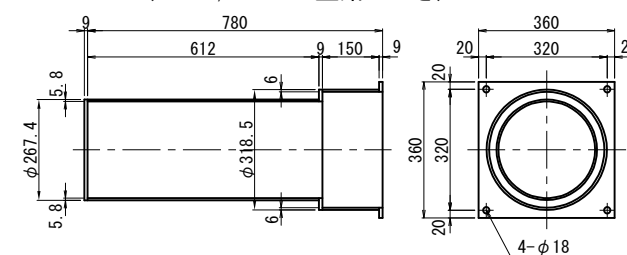
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



偏 向 具
(ポリエチレン)



異型鋼製キャップ
(SS400, STK400:亜鉛めっき)

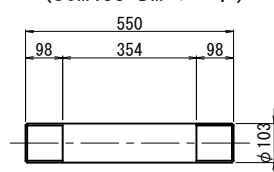


規格表

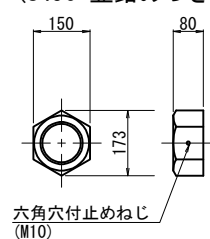
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力(PCケーブル1本当たり)	1276 kN
設 計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	1428 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

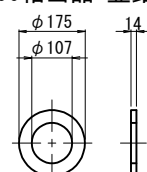
ブラケットピン
(SCM435:DMコート)



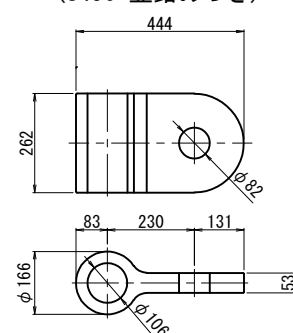
止めナット
(S45C:亜鉛めっき)



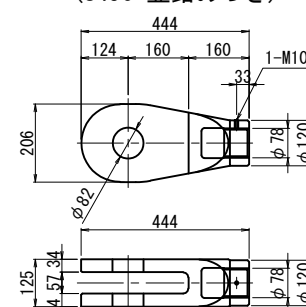
ワッシャー
(SS400相当品:亜鉛めっき)



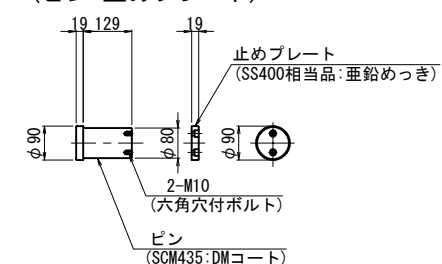
アイバー
(S45C:亜鉛めっき)



フォークエンド
(S45C:亜鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)

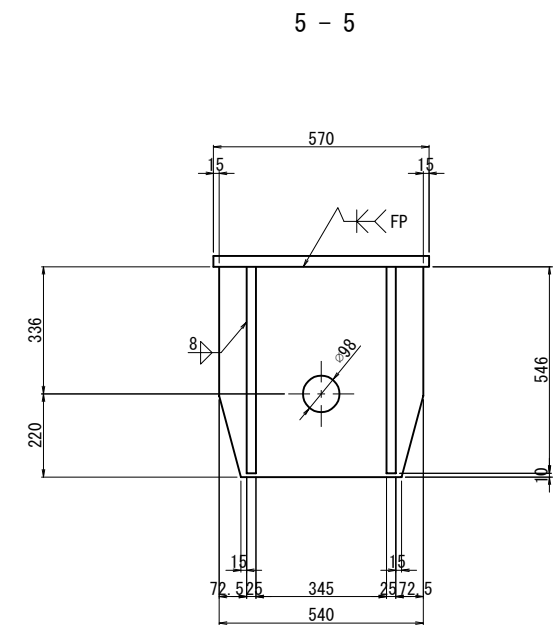
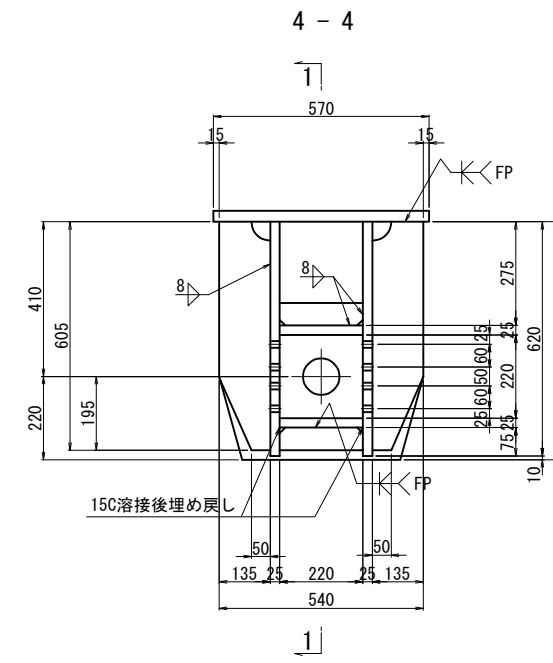
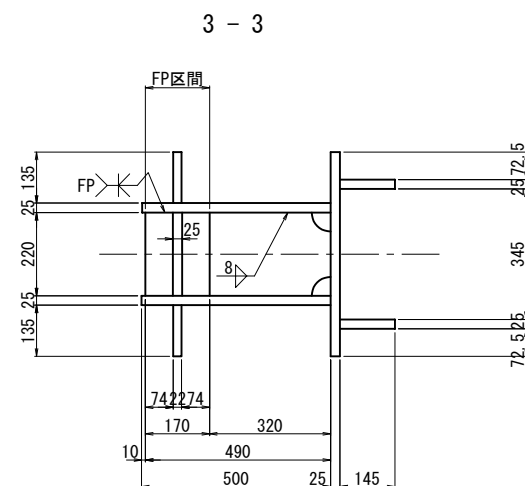
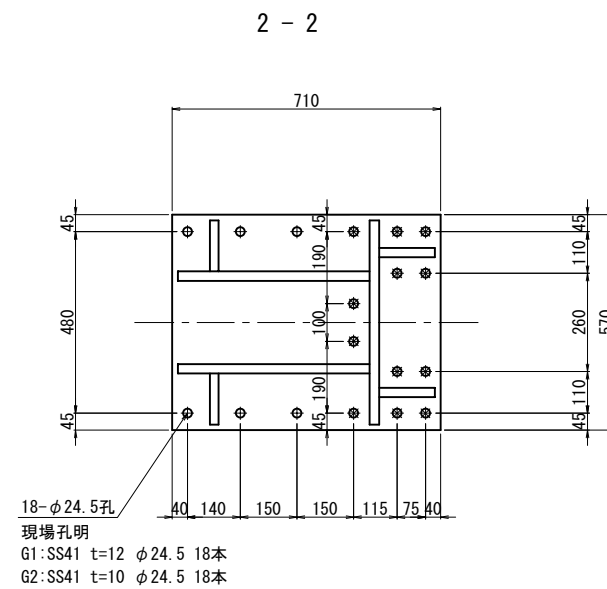
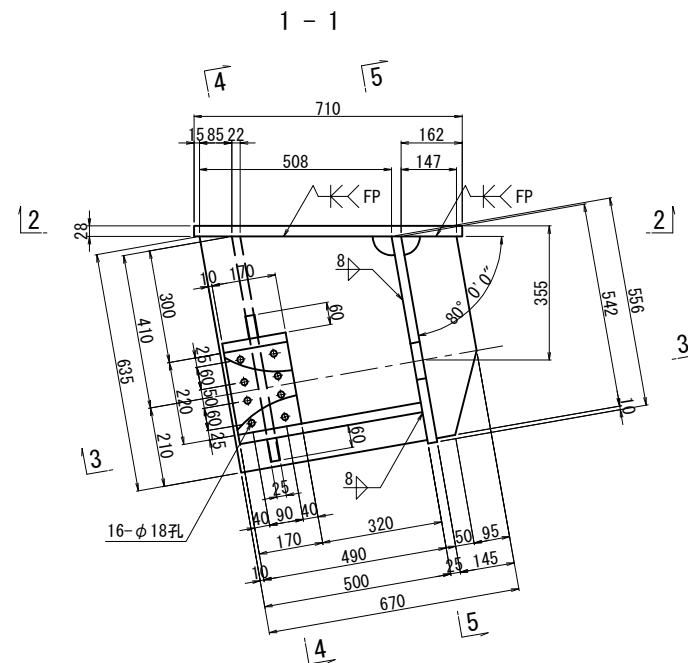


注記)

1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. < >内の数値はG2主析の値を示す。

横浜横須賀道路 金利科第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利科JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造図(その1)(参考図)		
縮 尺	1:20	図面番号	18 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止構造 P1-1276 (300)



ブラケット1基当り(製作数:2基)

- 2-PL 145x25x542
2-PL 500x25x635
2-PL 135x22x605
2-PL 60x25x220
1-PL 220x25x490
1-PL 170x25x220
1-PL 556x25x540
1-PL 710x28x570 (SM490B)
4-TCB M22x 80 (S10T) [+1W]
8-TCB M22x L1 (S10T) [+1W]
2-TCB M22x 75 (S10T)
4-TCB M22x L2 (S10T)

	L1	L2
G1	105	100
G2	80	95

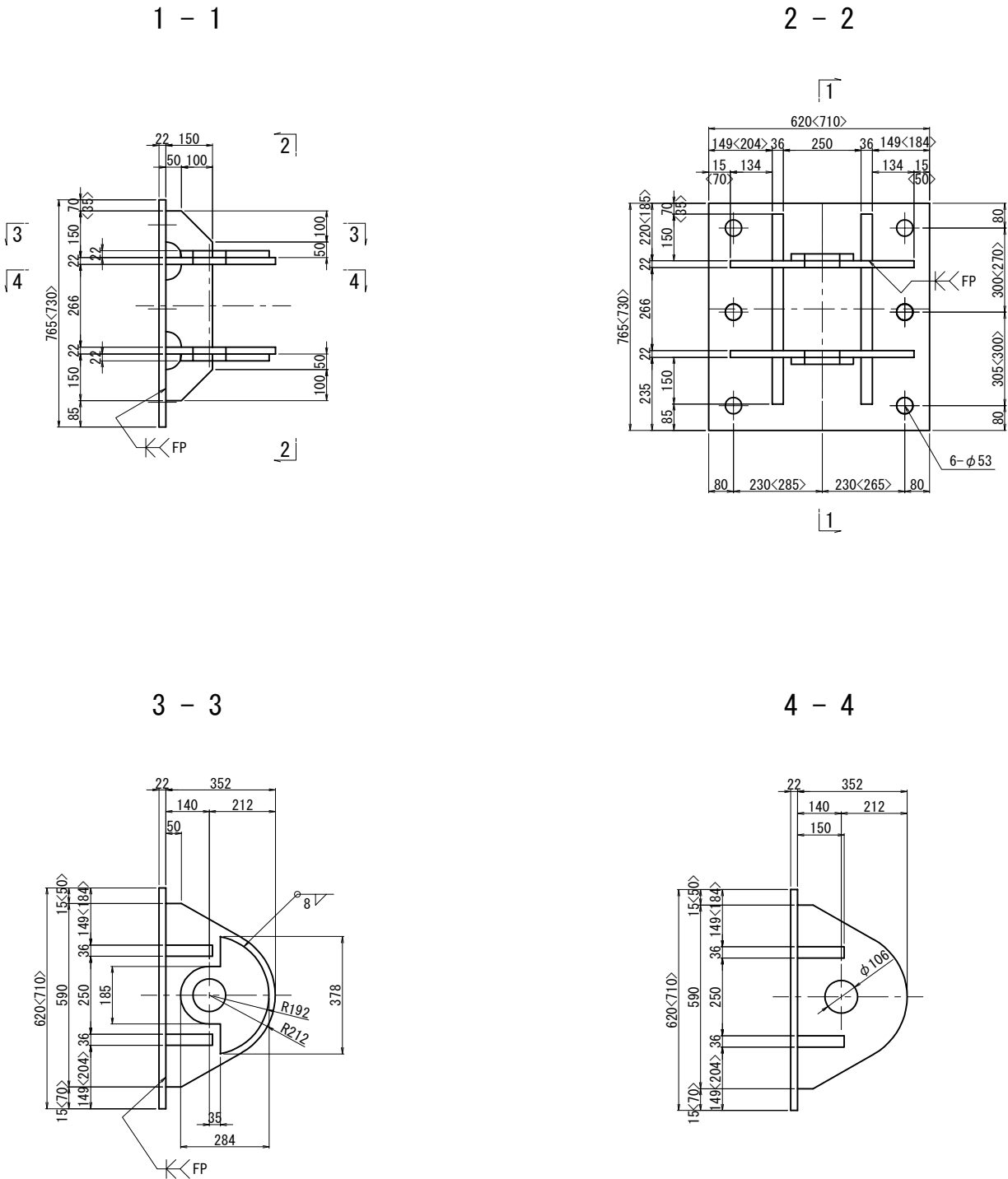
注記)

1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 上部ブラケット及び、桁補強は主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
5. ●の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 「FP」の表記のある箇所は完全溶け込み溶接を用いる。

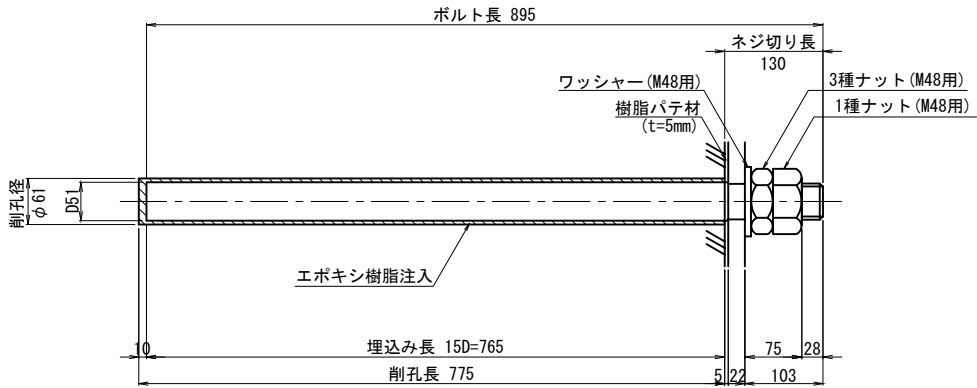
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造図 (その2)		
縮 尺	1:20	図面番号	19 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

下部エブラケット詳細図

下部エブラケット詳細図
落橋防止構造 P1-1276(300)



アンカーボルト詳細図 S=1:10
落橋防止構造 アンカーエφ61・775(水平方向)



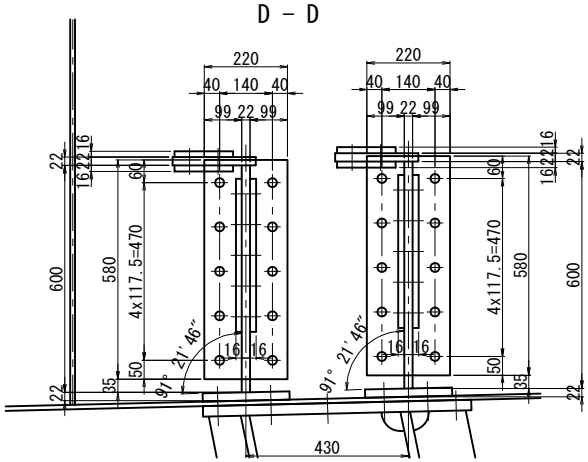
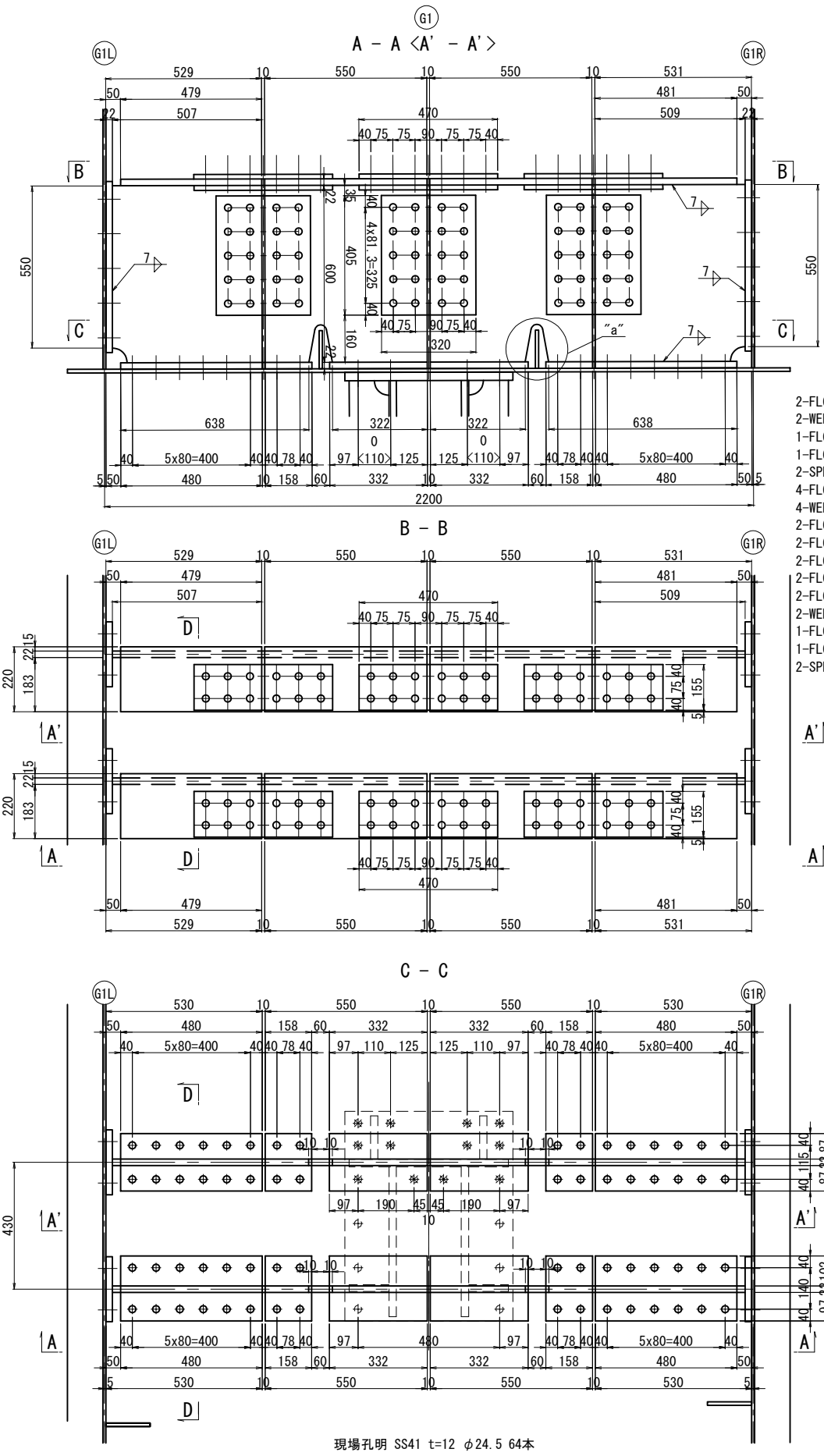
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- ブラケット1基当り(製作数:2基)
- 2-PL 284x22x378
 - 2-PL 352x22x590
 - 4-PL 150x36x150 (SM490B)
 - 2-PL 150x36x266 (SM490B)
 - 1-PL 620<710>x22x765<730>
 - 6-Anc Bolt D51x895 (SD345)
 - 6-1種 Nut M48用 (SS400)
 - 6-3種 Nut M48用 (SS400)
 - 6-Washer M48用 (SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZT77とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - < >内の数値はG2主桁側の値を示す。

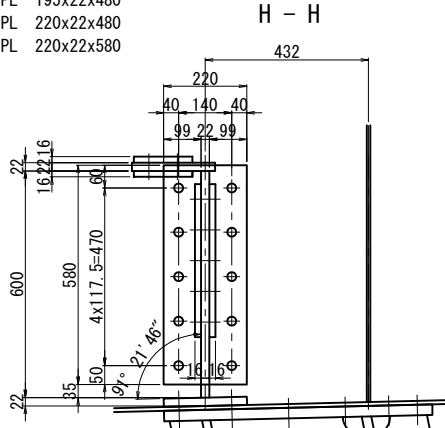
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造図(その3)			
	縮 尺	1:20	図面番号	20 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

上部工補強工A

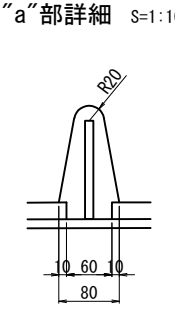


現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 40本

- | | | | |
|---------------------|------------------------------|---------------------|-----------------------------|
| 2-FLG PL 220x22x479 | 12-SPL PL 155x16x470 (SS400) | 1-FLG PL 220x22x479 | 6-SPL PL 155x16x470 (SS400) |
| 2-WEB PL 600x22x507 | 72-TCB M22x90 (S10T) | 1-WEB PL 600x22x507 | 36-TCB M22x90 (S10T) |
| 1-FLG PL 195x22x480 | 12-SPL PL 405x16x320 (SS400) | 1-FLG PL 220x22x480 | 6-SPL PL 405x16x320 (SS400) |
| 1-FLG PL 220x22x480 | 120-TCB M22x90 (S10T) | 1-SPL PL 220x22x580 | 60-TCB M22x90 (S10T) |
| 2-SPL PL 220x22x580 | 64-TCB M22x70 (S10T) | 2-FLG PL 220x22x550 | 32-TCB M22x70 (S10T) |
| 4-FLG PL 220x22x550 | 40-TCB M22x70 (S10T) | 2-WEB PL 600x22x550 | 20-TCB M22x70 (S10T) |
| 4-WEB PL 600x22x550 | | 2-FLG PL 220x22x332 | |
| 2-FLG PL 195x22x332 | | 2-FLG PL 220x22x158 | |
| 2-FLG PL 220x22x332 | | 1-FLG PL 220x22x481 | |
| 2-FLG PL 195x22x158 | | 1-WEB PL 600x22x509 | |
| 2-FLG PL 220x22x158 | | 1-FLG PL 220x22x480 | |
| 2-WEB PL 600x22x509 | | 1-SPL PL 220x22x580 | |
| 1-FLG PL 195x22x480 | | | |
| 1-FLG PL 220x22x480 | | | |
| 2-SPL PL 220x22x580 | | | |

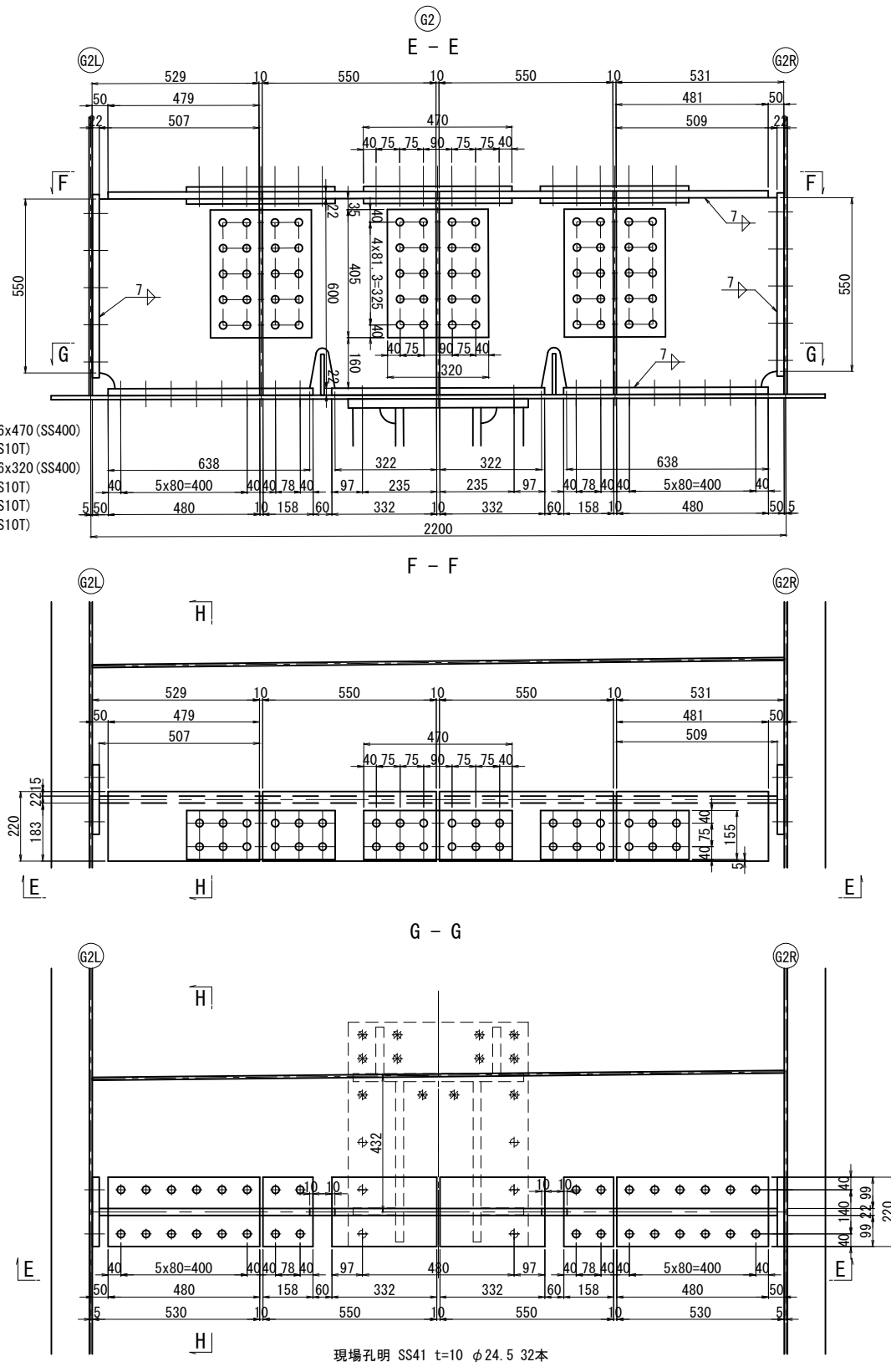
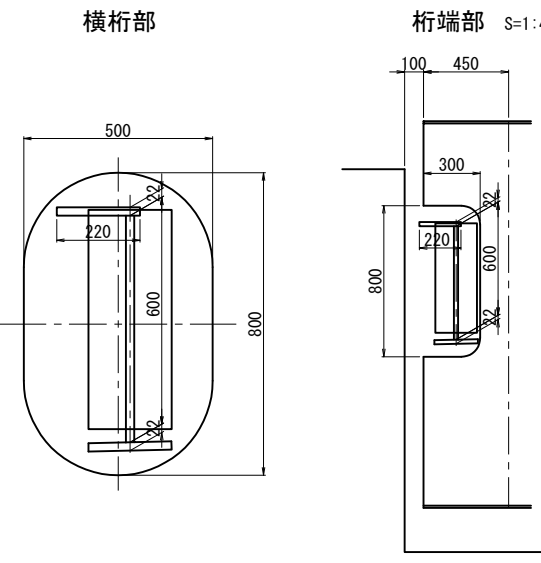


現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 20本



"a"部詳細 S=1:10

搬入確認図

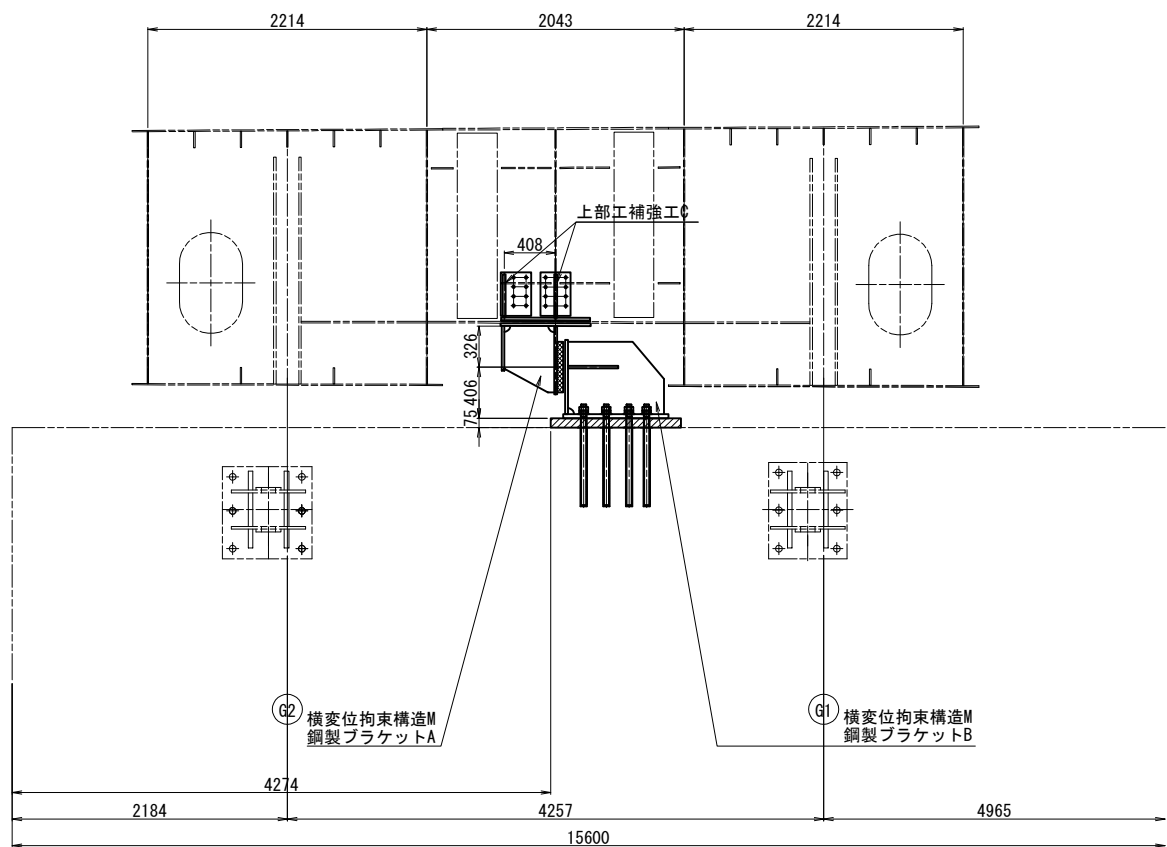


現場孔明 SS41 t=10 φ24.5 32本

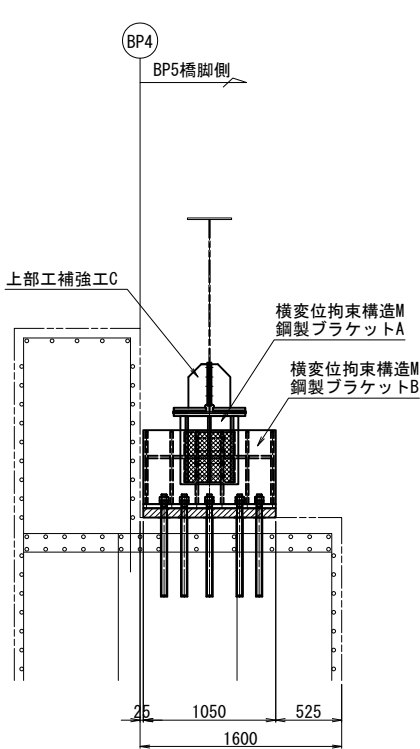
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 特記なきボルトの孔径は、既設部材：φ24.5、新設部材：φ26.5とする。
 4. 部材の寸法および工場制作は、現地実測後決定のこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚落橋防止構造桁内補強図		
縮 尺	1:20	図面番号	21 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

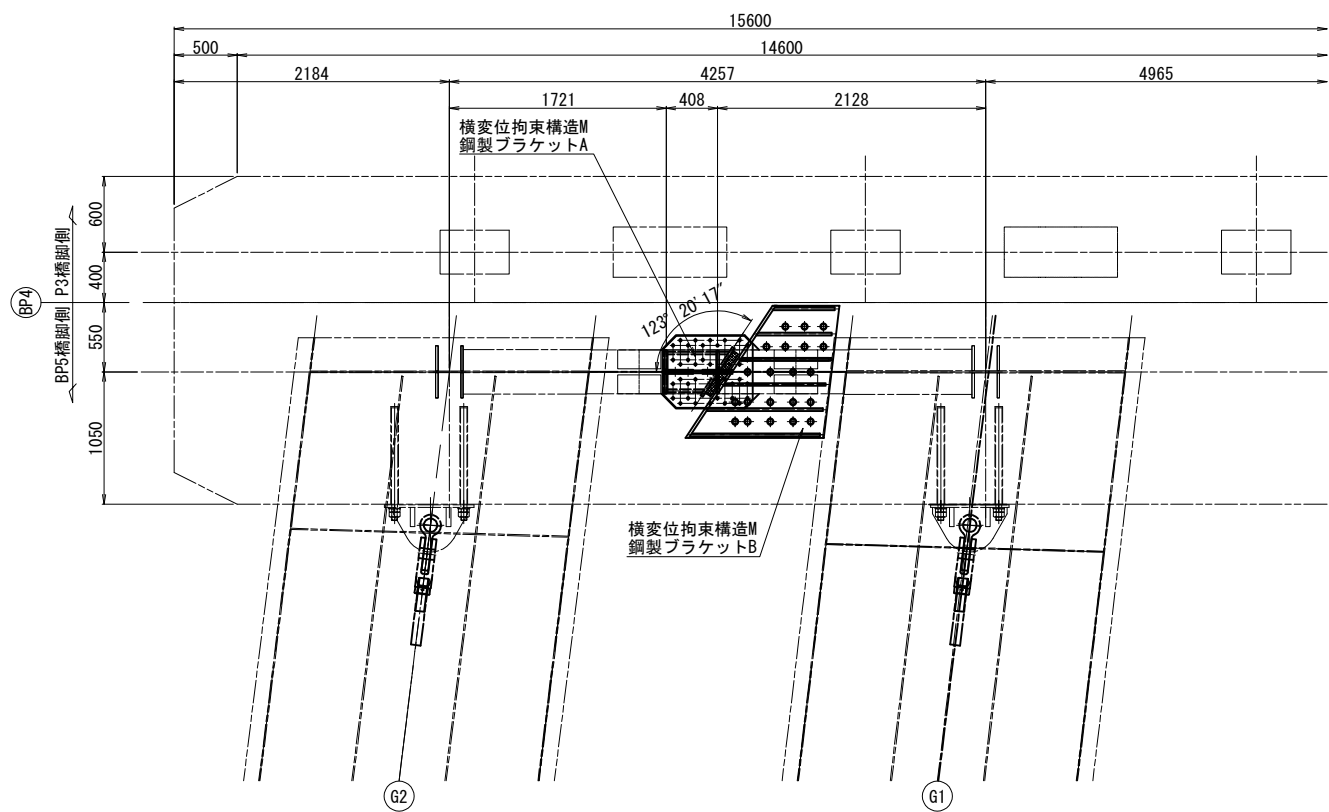
正面図 S=1:60



側面図 S=1:60



平面図 S=1:60

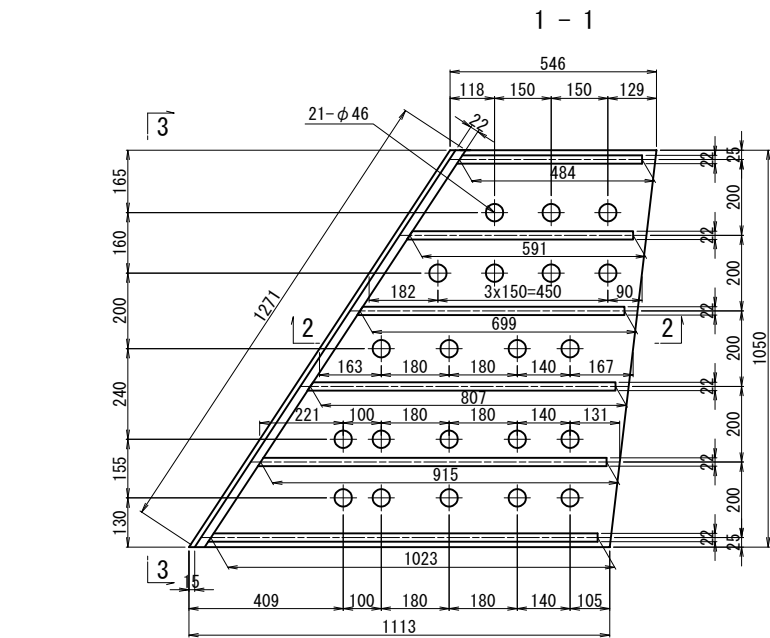


注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

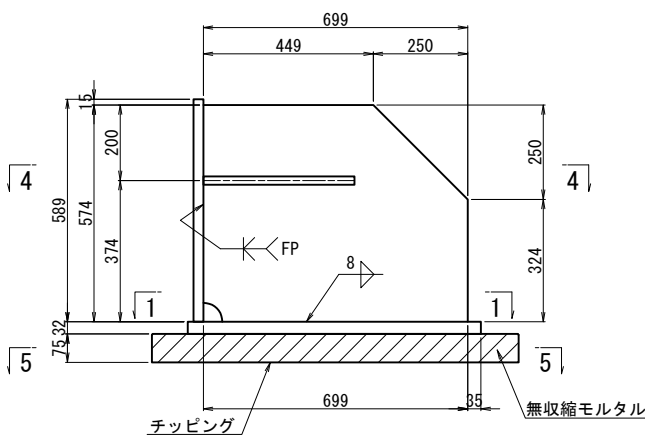
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その1)		
	縮 尺	図示	図面番号 22 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その2)		
縮 尺	1:20	図面番号	23 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

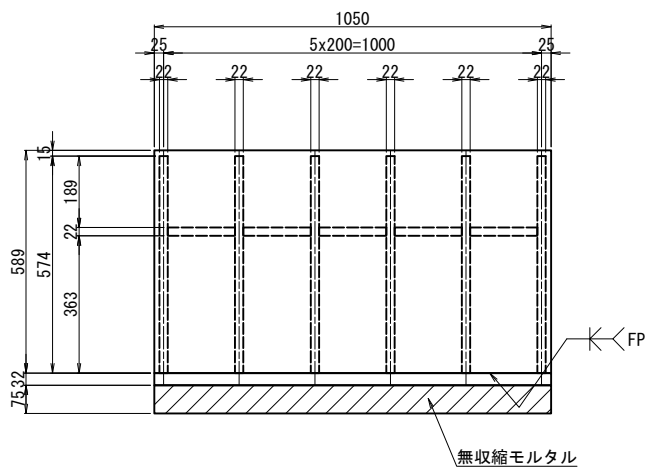
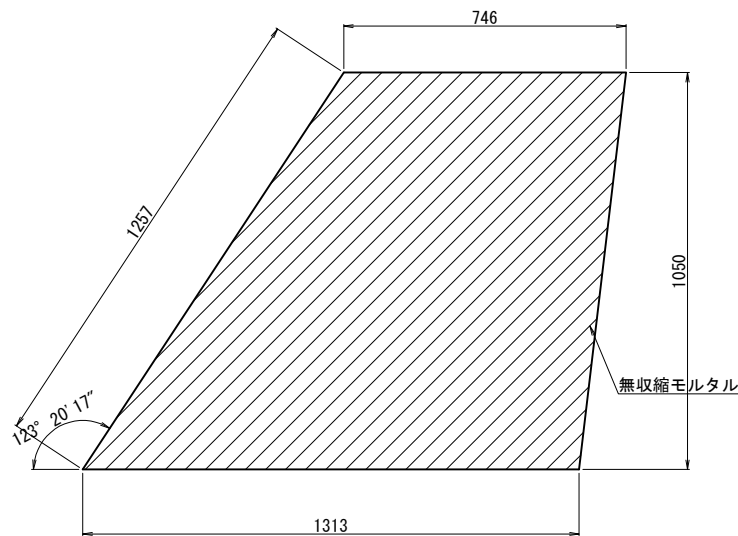
橋座面ブラケット
横変位拘束構造M 鋼製ブラケットB
3 - 3



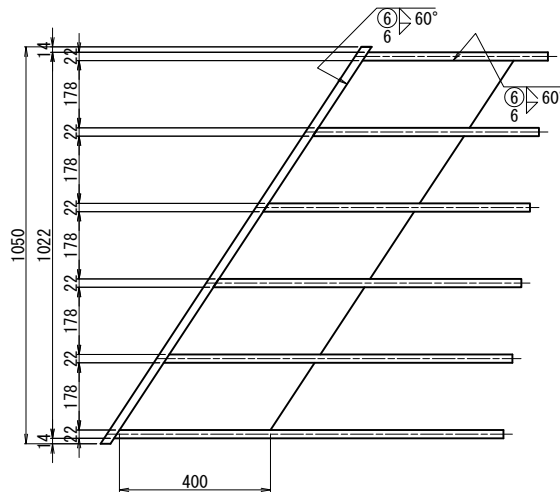
2 - 2



5 - 5

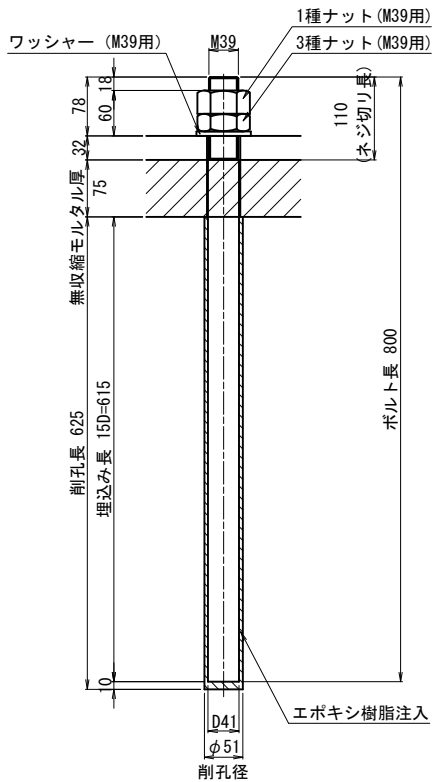


4 - 4



- 1-PL BASE 1050x32x1237
- 1-PL BASE 1271x22x589
- 1-PL RIB 491x22x574
- 1-PL RIB 599x22x574
- 1-PL RIB 707x22x574
- 1-PL RIB 815x22x574
- 1-PL RIB 923x22x574
- 1-PL RIB 1031x22x574
- 5-PL RIB 178x22x517

横変位拘束構造M アンカーエφ51・625(下方向)
アンカーボルト詳細図 S=1:10



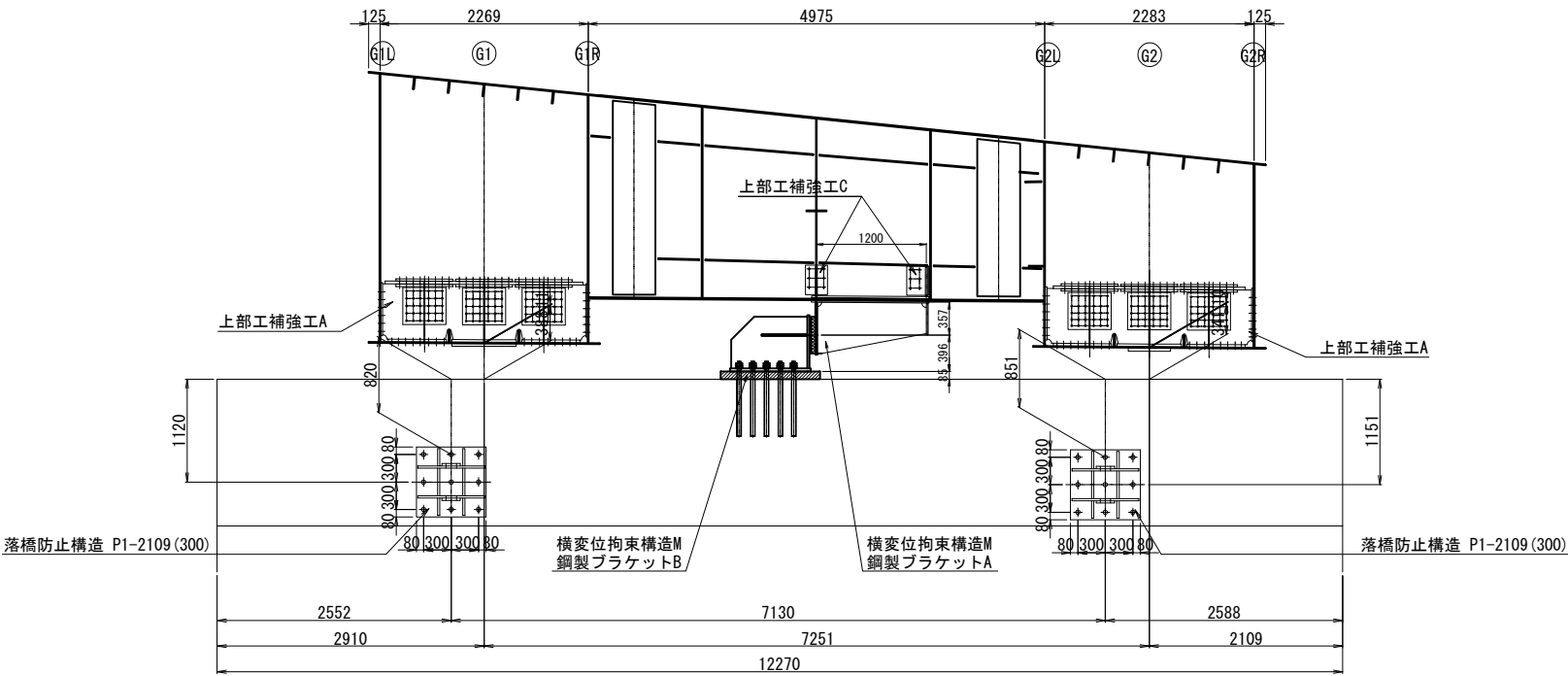
- 21-ANC BOLT D41x800 (SD345)
- 21-1種 Nut M39用 (SS400)
- 21-3種 Nut M39用 (SS400)
- 21-WASHER M39 (SS400)

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

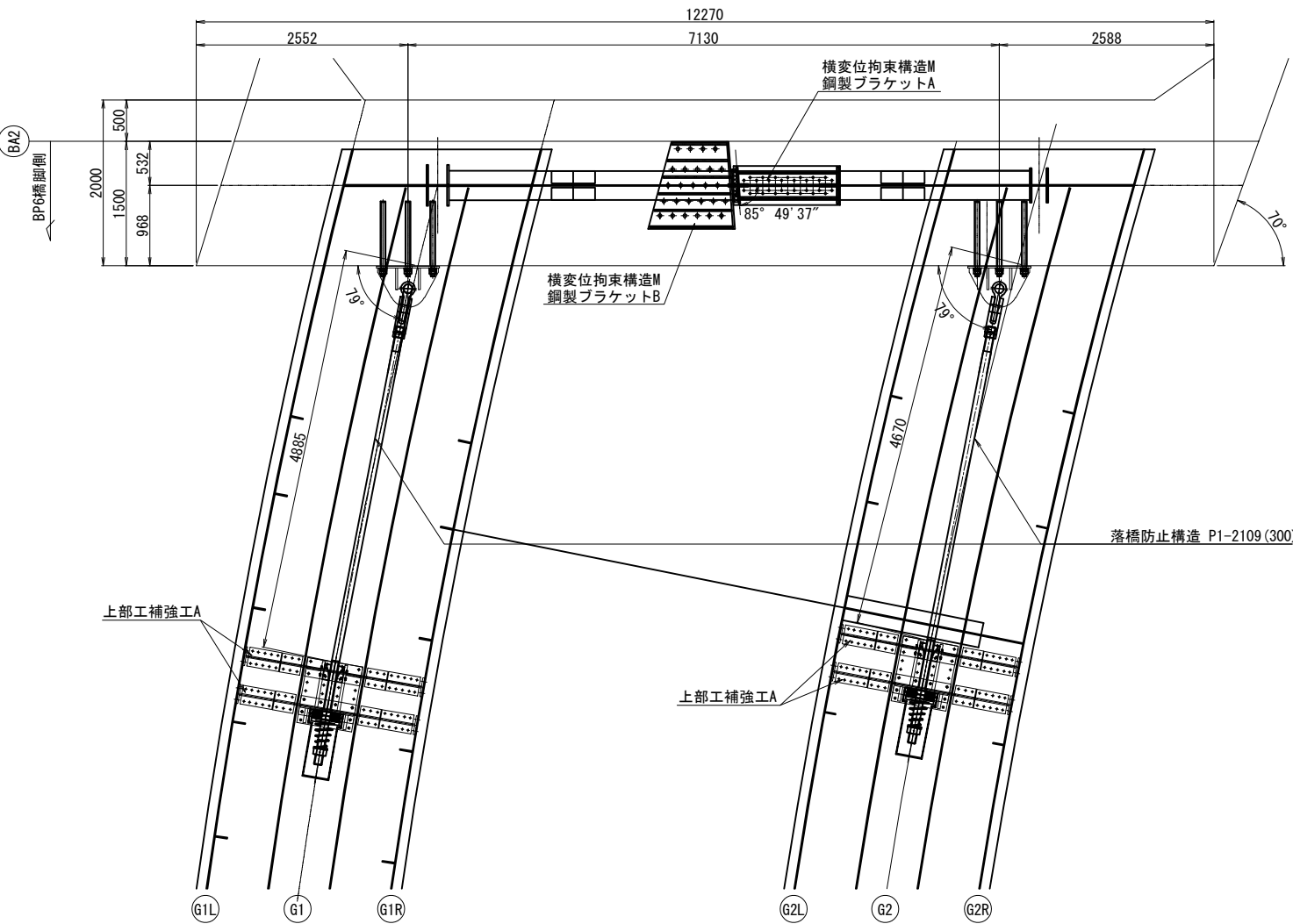
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - 下部エブラケットは溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャー類はHDZT49とする。
 - 上部工付きブラケットは塗装仕様です。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BP4橋脚横変位拘束構造図(その3)		
	縮 尺	1:20	図面番号 24 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

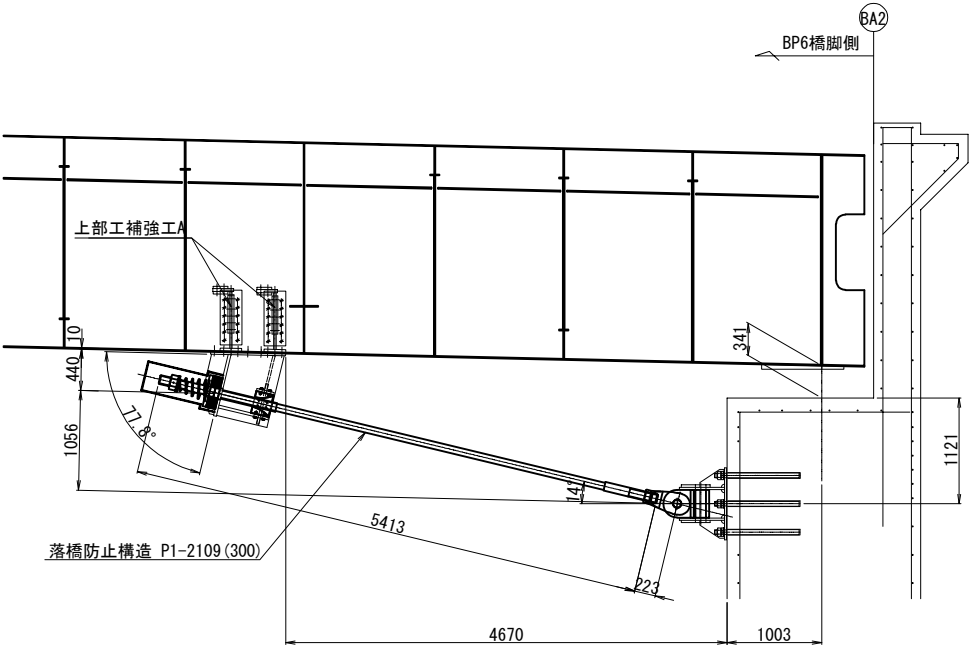
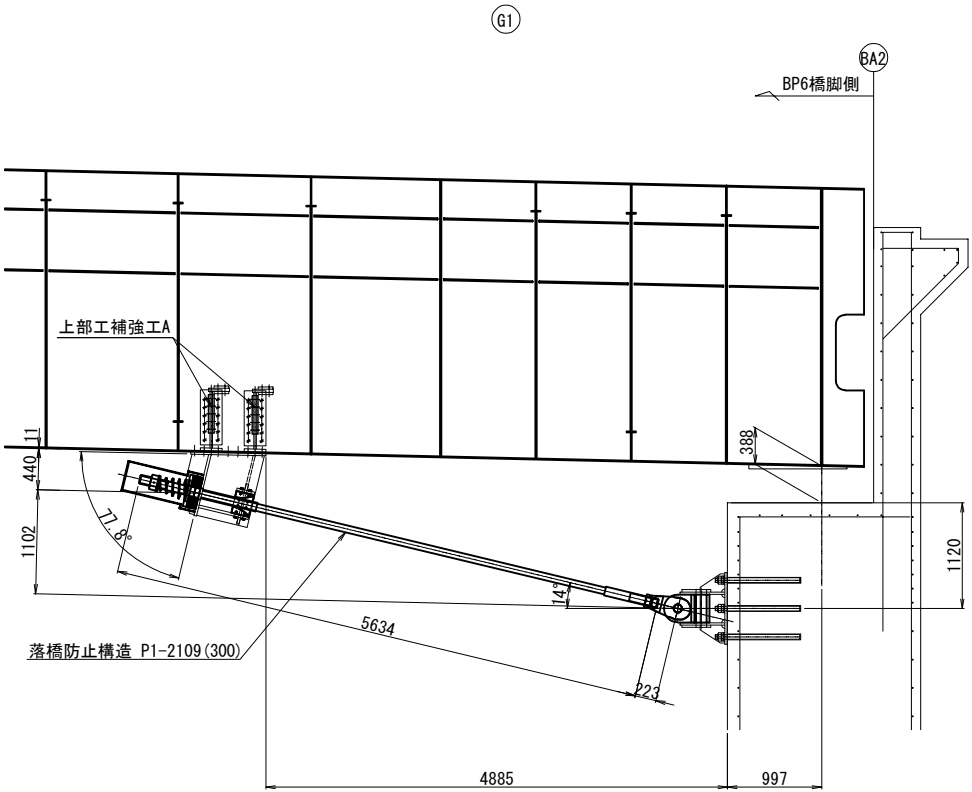
正面図



平面図



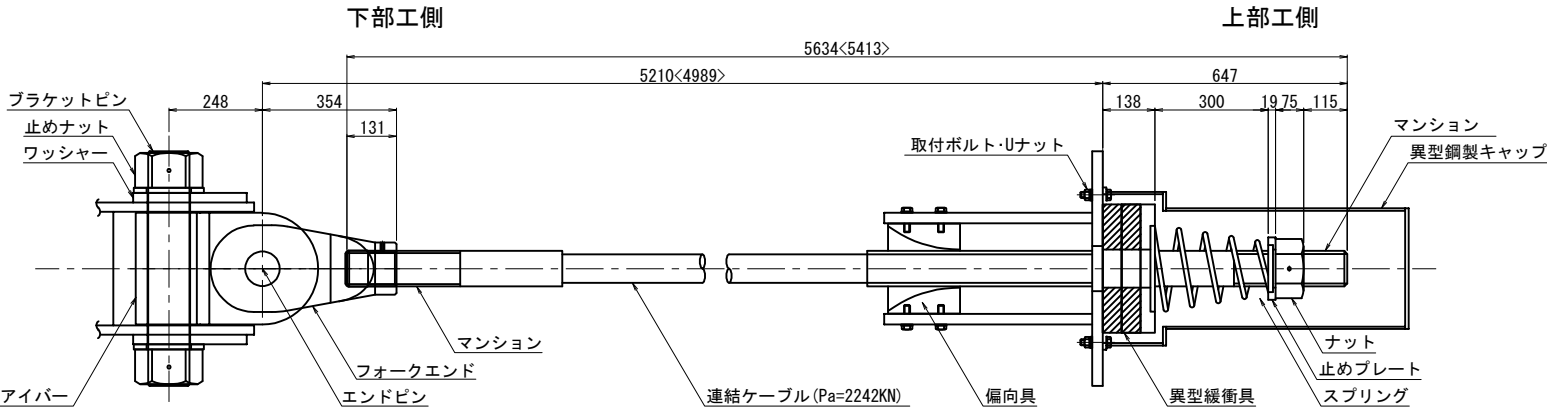
側面図



注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地に寸法等を確認した上、施工を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台耐震補強配置図		
	縮 尺	1:80	図面番号 25 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

取付詳細図



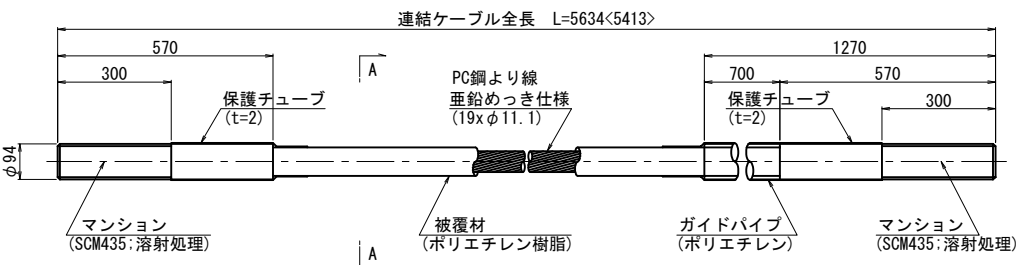
材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全2組

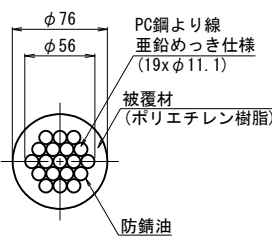
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	Pa=2242KN L=5634<5413>mm Pa=2242KN用 標準 Pa=2242KN用 700mm	本 個 本	1 2 1	PC鋼より線, 垂鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆 SCM435, 垂鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込> ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	Pa=2242KN用 L=450	個	1	SW-C; 垂鉛めっき, クロメート処理
異型緩衝具	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具 (取付ボルト)	Pa=2242KN用 M16x55 1W付	個 本	1 16	ポリエチレン SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
異型鋼製キャップ	Pa=2242KN用 L=800	個	1	SS400, STK400; 垂鉛めっき (HDZT77)
取付ボルト・Uナット	M16x65 2W付	本	4	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT49)
ブラケットピン	Pa=2242KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	Pa=2242KN用	個	2	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	Pa=2242KN用	個	2	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	Pa=2242KN用	個	1	S45C; 垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	Pa=2242KN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めプレート (ピン)	Pa=2242KN用	個	1	SS400相当品; 垂鉛めっき (HDZT77)

※ L=5634mm 1本, L=5413mm 1本

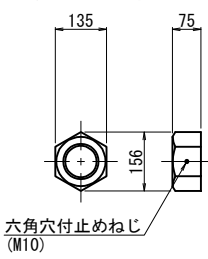
連結ケーブル



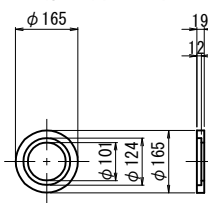
A-A断面図 S=1:3



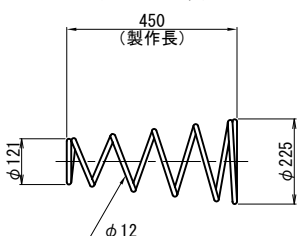
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)



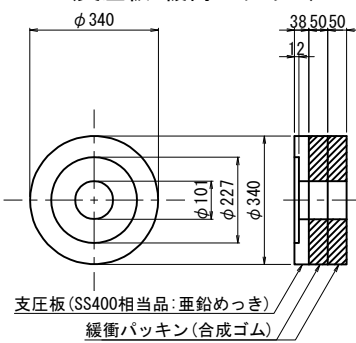
止めプレート
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



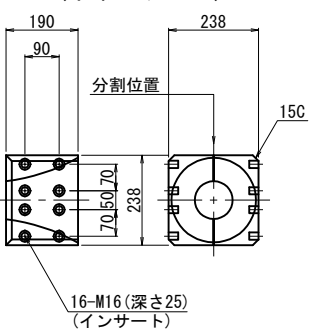
スプリング
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



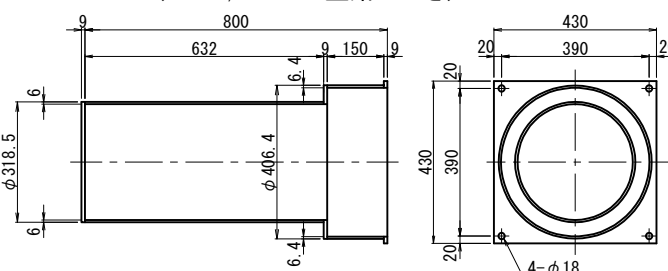
異型緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



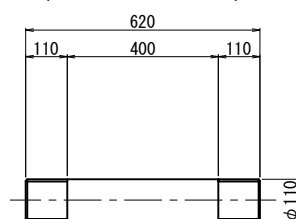
偏 向 具
(ポリエチレン)



異型鋼製キャップ
(SS400, STK400: 垂鉛めっき)



ブラケットピン
(SCM435: DMコート)

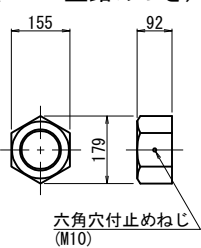


規格表

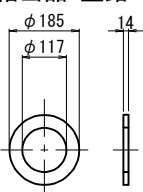
落 橋 防 止 構 造 仕 様	
設計地震力 (PCケーブル1本当たり)	2109 kN
設計 遊 間 量	300 mm
許 容 耐 力	2242 kN

落橋防止構造は上記の性能を有する製品を使用することとし、この姿図は参考とする。

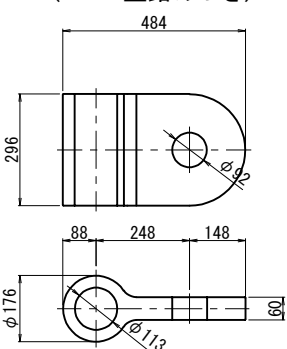
止めナット
(S45C: 垂鉛めっき)



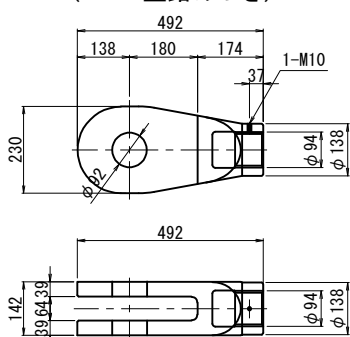
ワッシャー
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



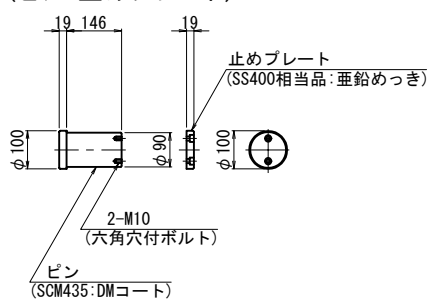
アイバー
(S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 垂鉛めっき)



エンドピン
(ピン+止めプレート)

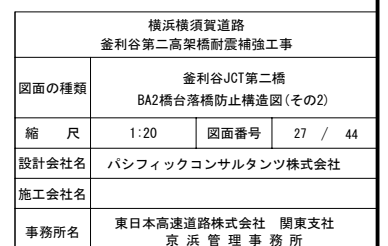


注記)

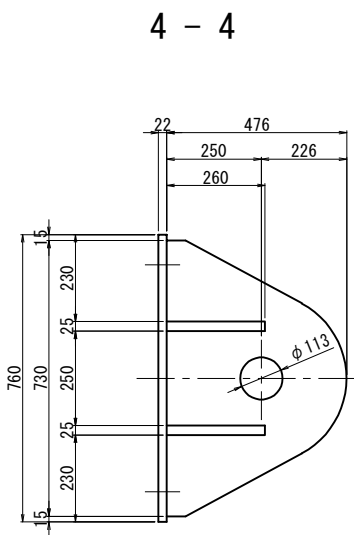
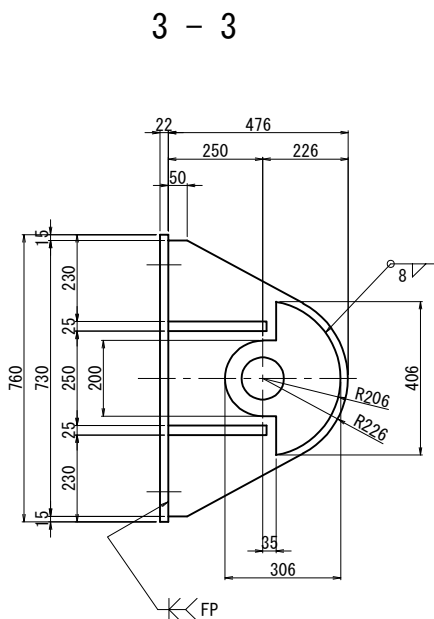
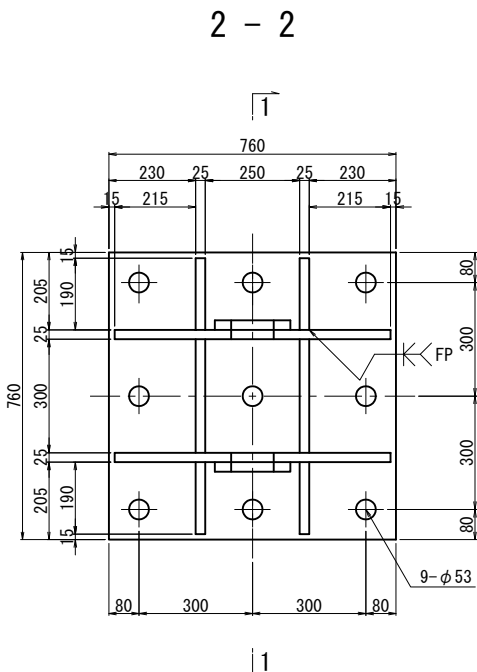
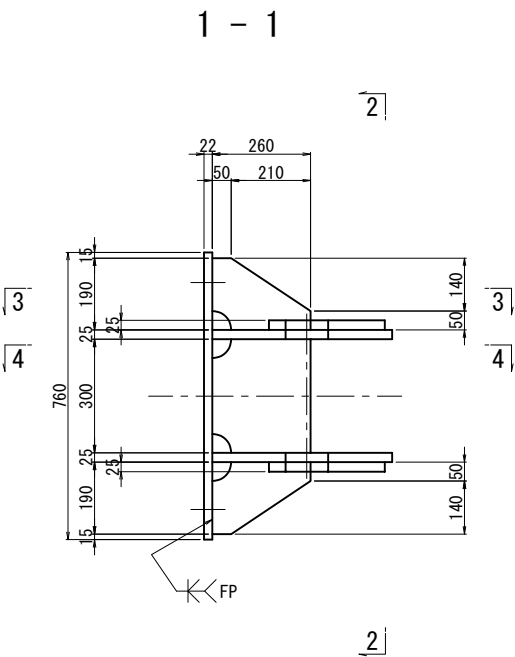
- 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。
- < >内の数値はG2主桁の値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事	
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その1)(参考図)
縮 尺	1:20 図面番号 26 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所

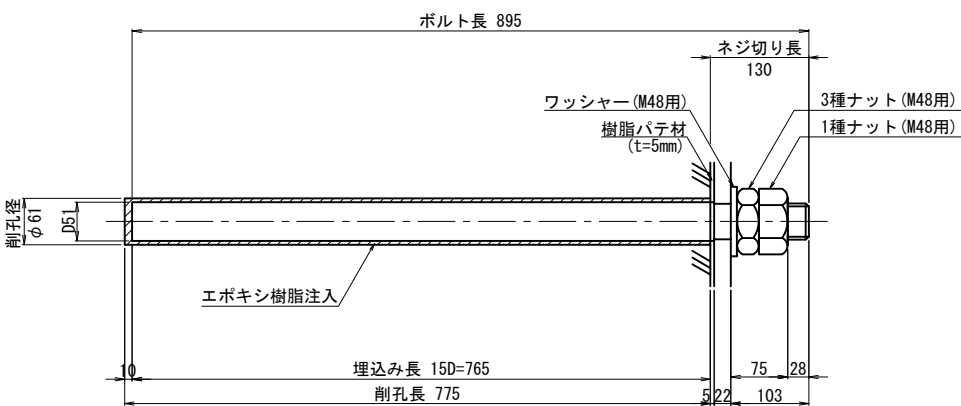
落橋防止構 P1-2109(300)



下部エブラケット詳細図
落橋防止構造 P1-2109 (300)



アンカーボルト詳細図 S=1:10
落橋防止構造 アンカーエφ61・775(水平方向)



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

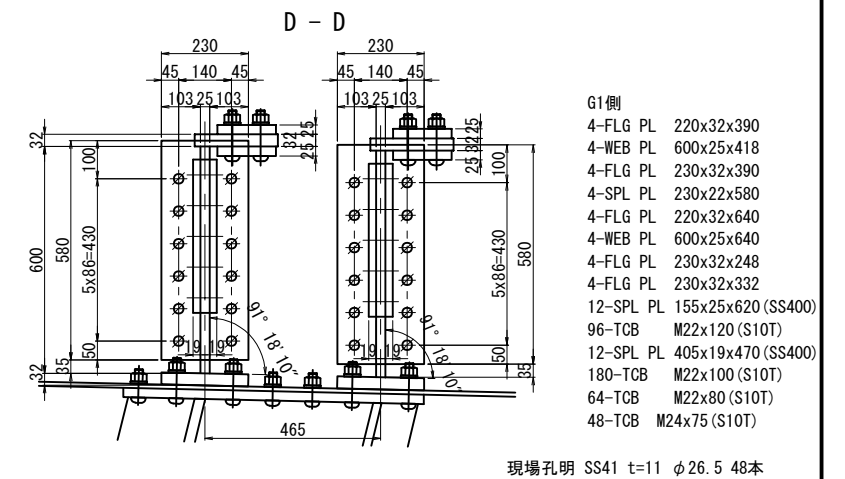
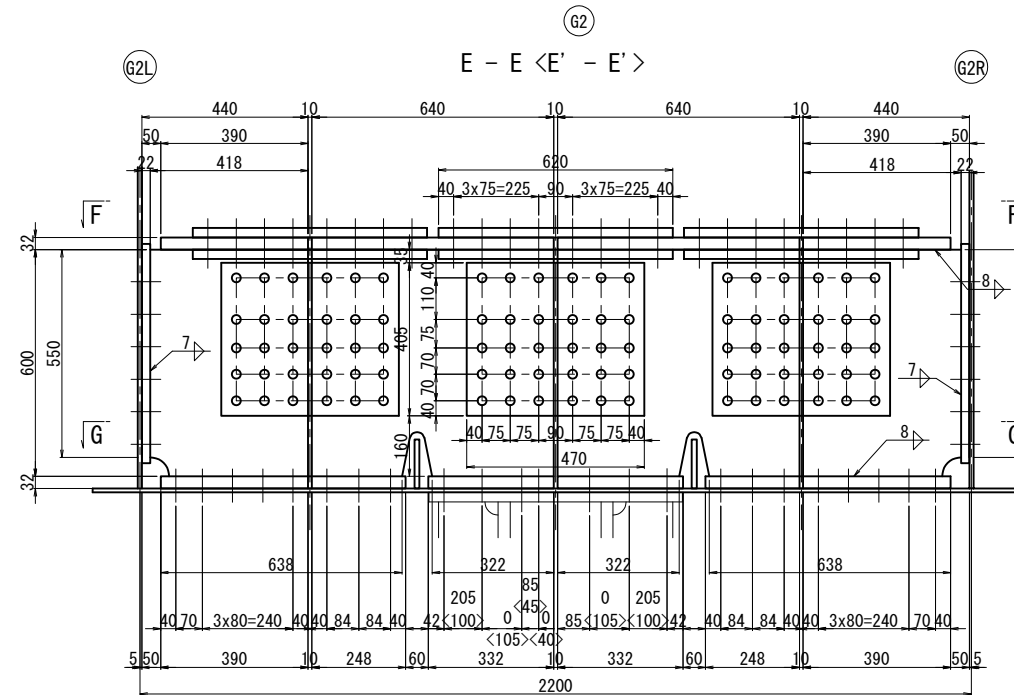
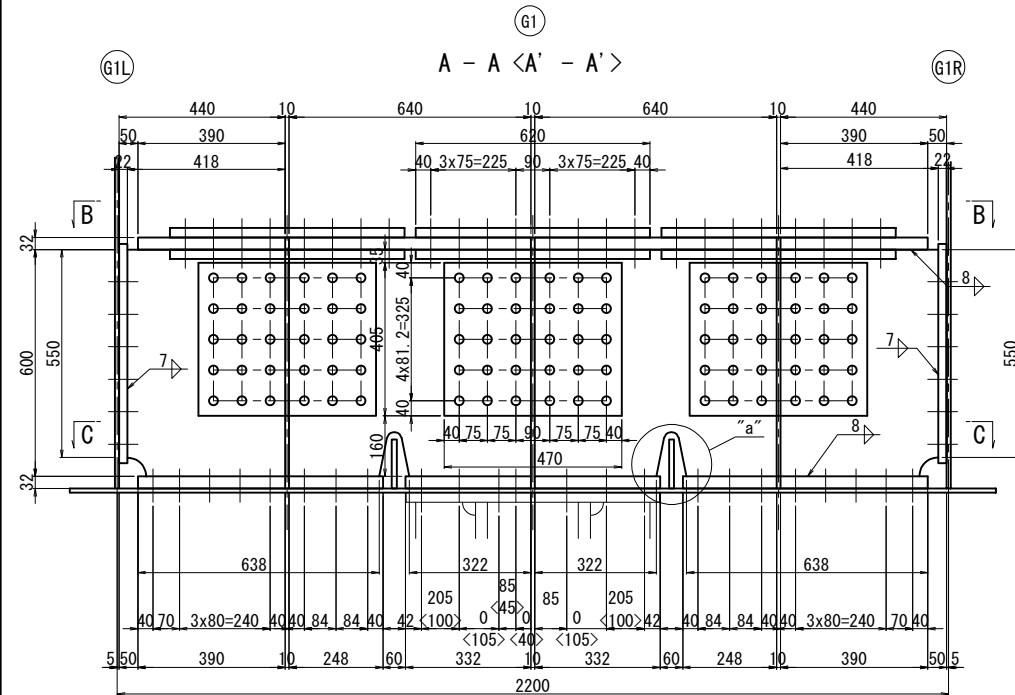
ブラケット1基当り(製作数:2基)

2-PL	306x25x406
2-PL	476x25x730
4-PL	260x25x190
2-PL	260x25x300
1-PL	760x22x760
9-Anc Bolt	D51x895 (SD490)
9-1種 Nut	M48用 (SS400)
9-3種 Nut	M48用 (SS400)
9-Washer	M48用 (SS400)

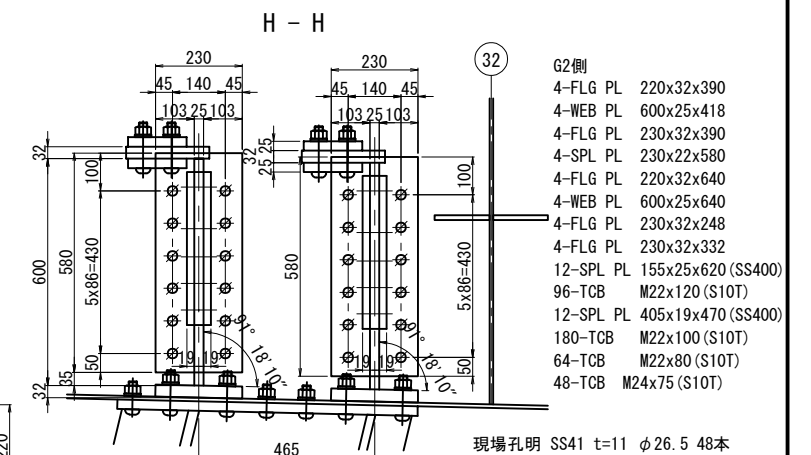
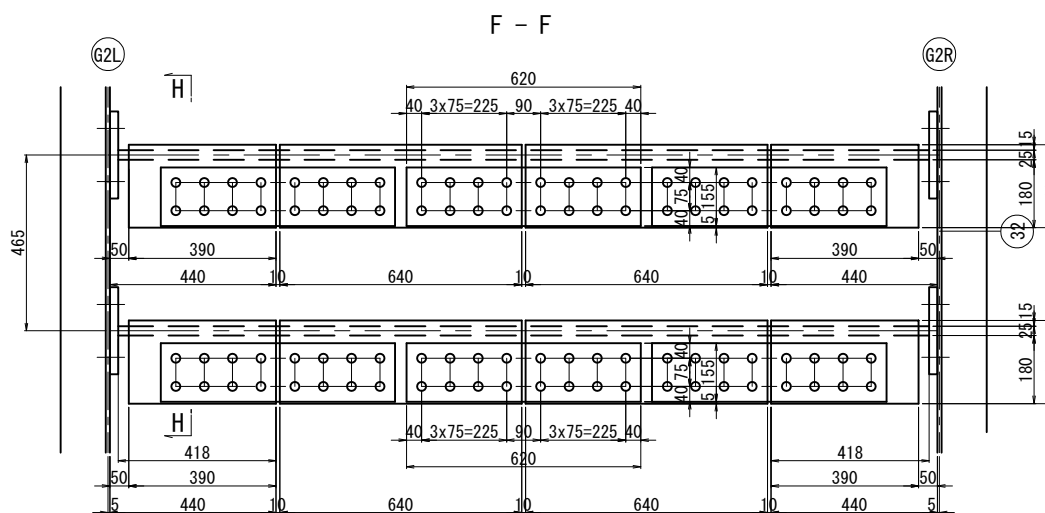
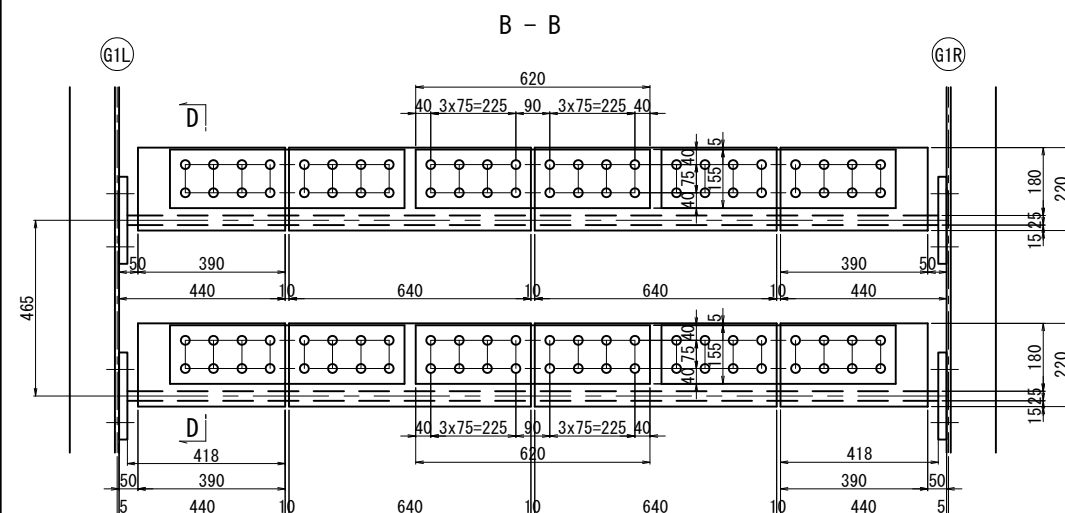
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造図(その3)		
縮 尺	1:20	図面番号	28 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部工補強工A



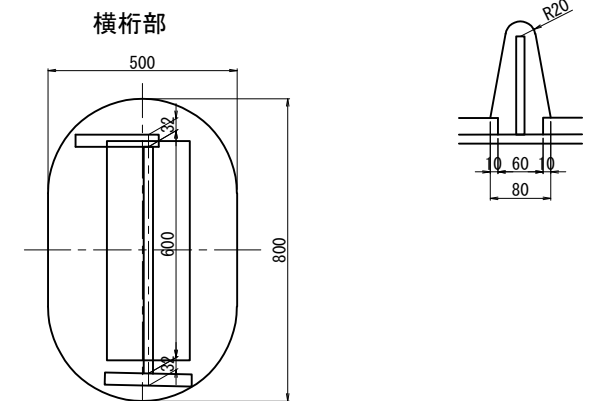
現場孔明 SS41 t=11 ϕ 26.5 48本



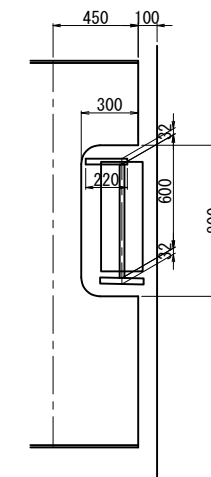
現場孔明 SS41 t=11 ϕ 26.5 48本

搬入確認図

"a"部詳細 S=1:10



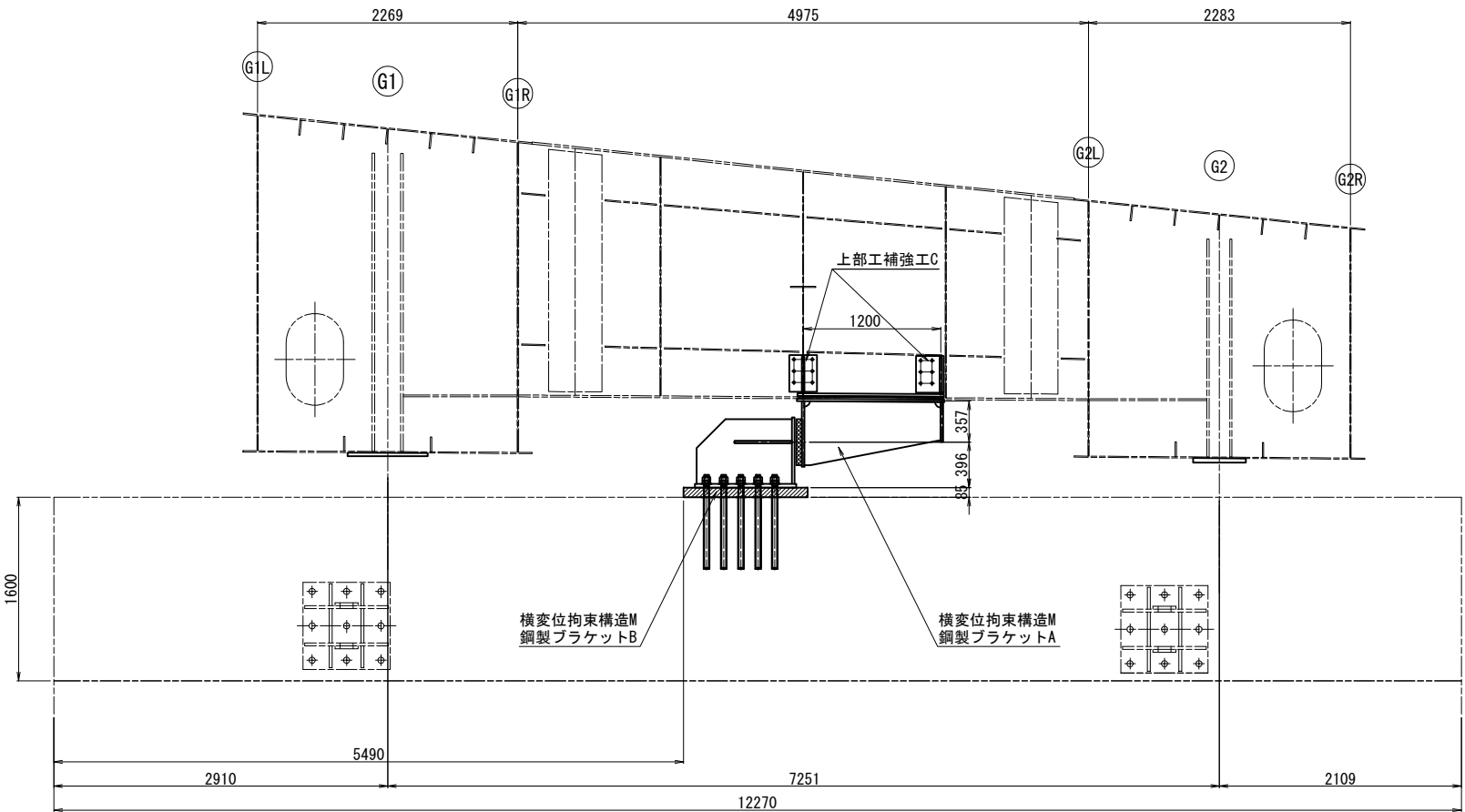
桁端部 S=1:40



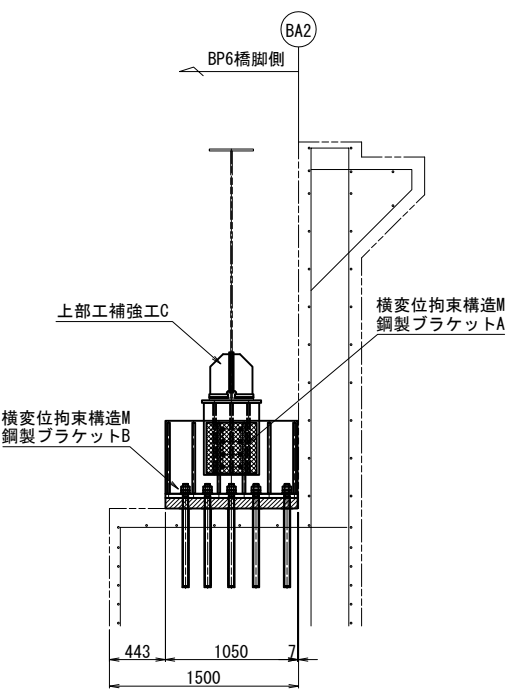
- (注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. ♠印は、トルシヤ形高力ボルトM22 (S10T) を示す。
 4. ★印は、トルシヤ形高力ボルトM24 (S10T) を示す。
 5. 特記なきボルトM22の孔径は、既設部材：φ24.5、
新設部材：φ26.5とする。
 6. 特記なきボルトM24の孔径は、既設部材：φ26.5、
新設部材：φ28.5とする。
 7. 部材の寸法および工場制作は、現地実測後決定のこと。

<p>横浜須賀買道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	<p>釜利谷JCT第二橋 BA2橋台落橋防止構造断面補強図</p>		
縮 尺	1:20	図面番号	29 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜管理事務所</p>		

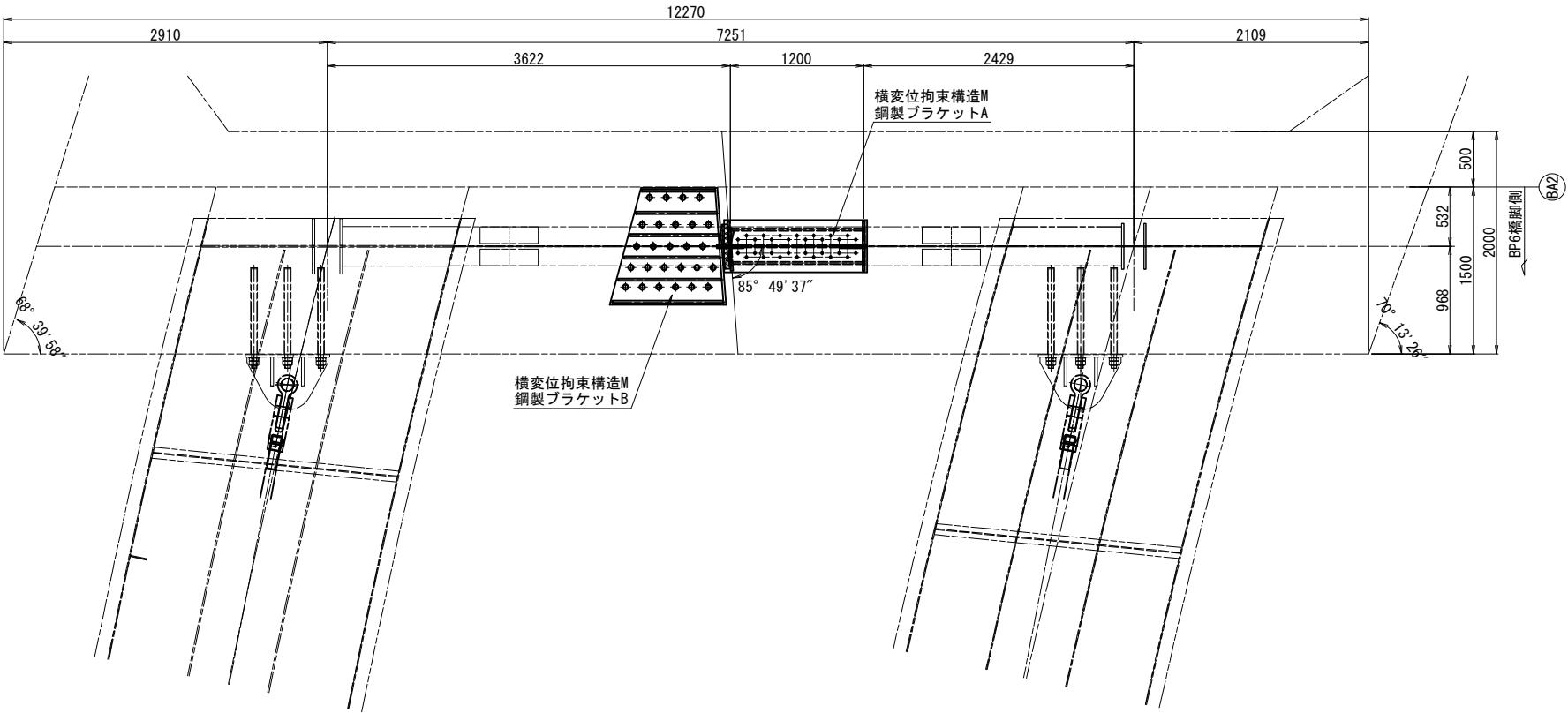
正面図 S=1:60



側面図 S=1:60



平面図 S=1:60

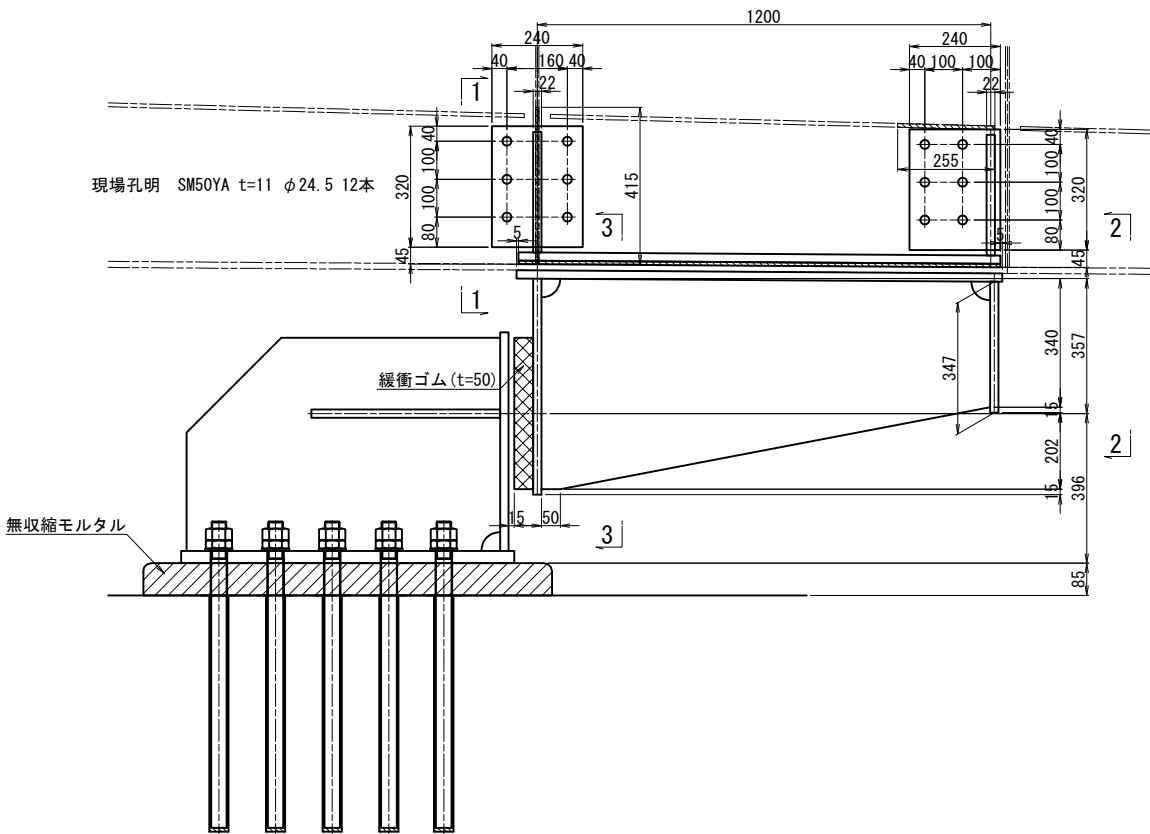


注記)
1. 本図面は竣工図を基に作成しているため、
現地にて寸法等を確認した上、施工を行うこと。

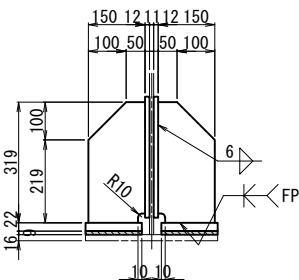
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その1)			
	縮 尺	図 示	図面番号	30 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

上部工付きブラケット
横変位拘束構造M 鋼製ブラケットA

正面図

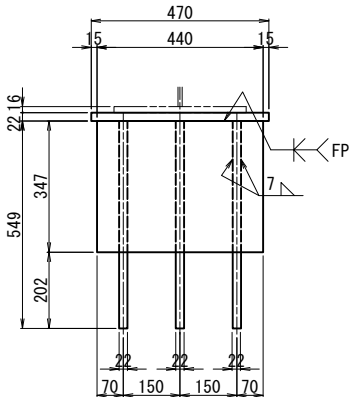


上部工補強工C
1 - 1

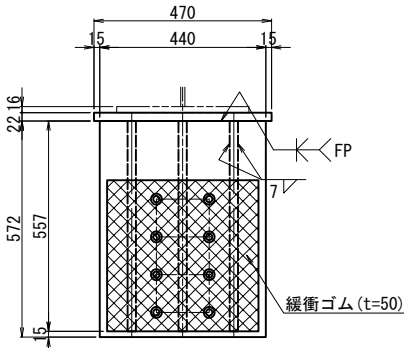


4-PL BASE 240x12x320
4-PL 150x22x319
2-PL 149x22x1275
2-FILL PL 149x9x1275 (SS400)
12-TCB M22x70 (S10T)

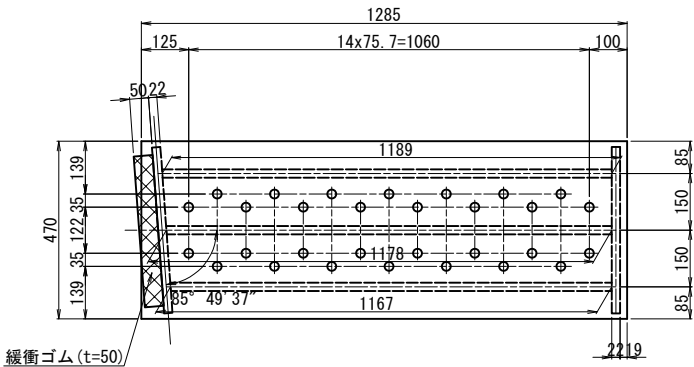
2 - 2



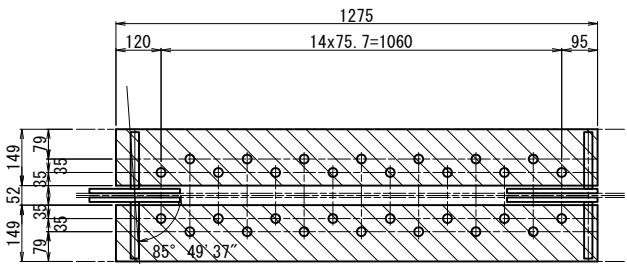
3 - 3



下側ベースプレート詳細



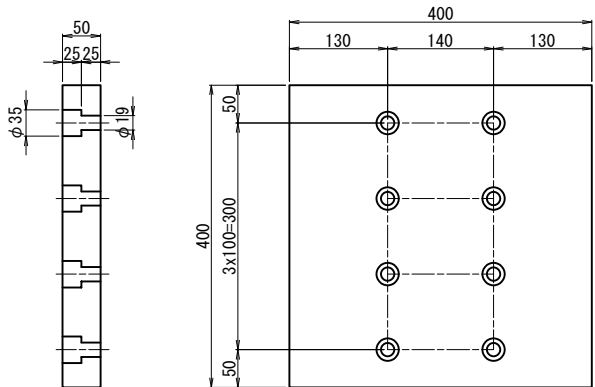
上側ベースプレート詳細



現場孔明 SM50YA t=16 φ24.5 30本

1-PL 470x22x1285
1-PL 440x22x347
1-RIB PL 1190x22x557
1-RIB PL 1179x22x557
1-RIB PL 1168x22x557
1-PL 440x22x572
30-TCB M22x105 (S10T)

緩衝ゴム詳細図 S=1:10



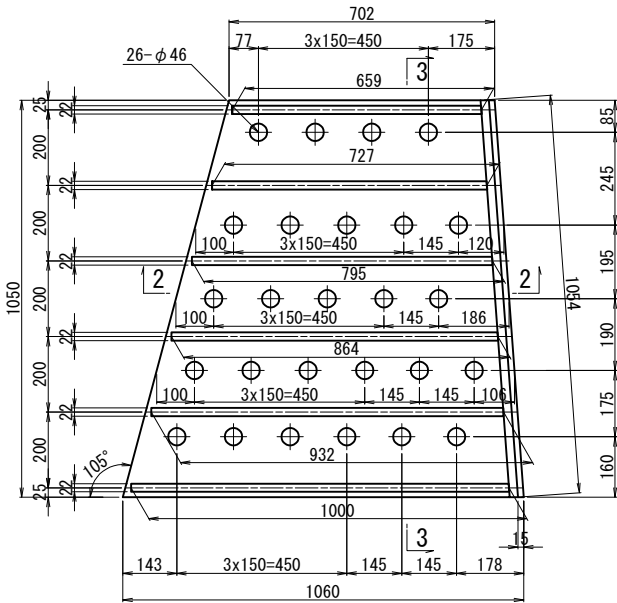
1-緩衝ゴム 400x50x400(クロロプレンゴム) (硬度55° ±5° 程度)
※ 8-BN M16x75 (2-W, SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - ※印部材は全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探査により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

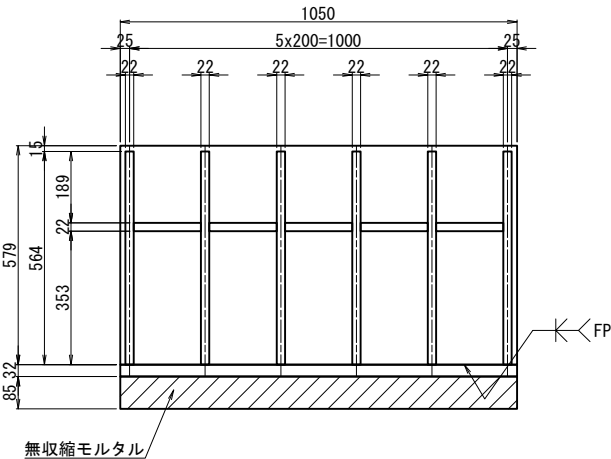
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その2)		
	縮 尺	1:20	図面番号 31 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

橋座面ブラケット
横変位拘束構造M 鋼製ブラケットB

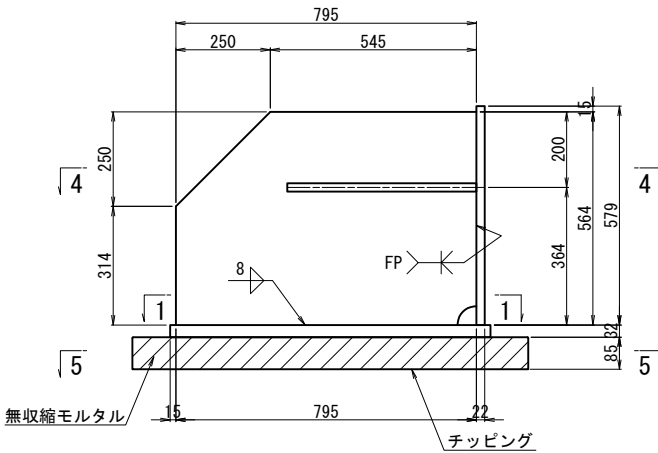
1 - 1



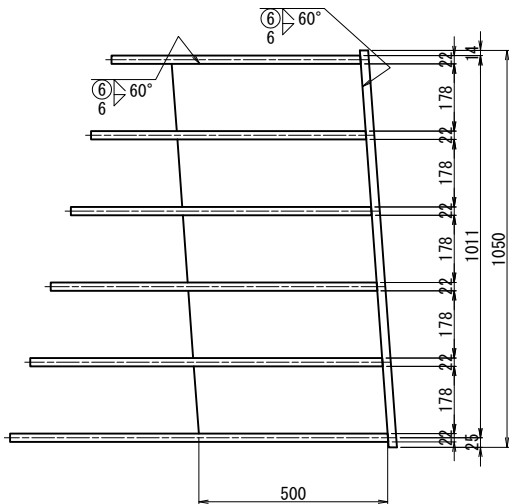
3 - 3



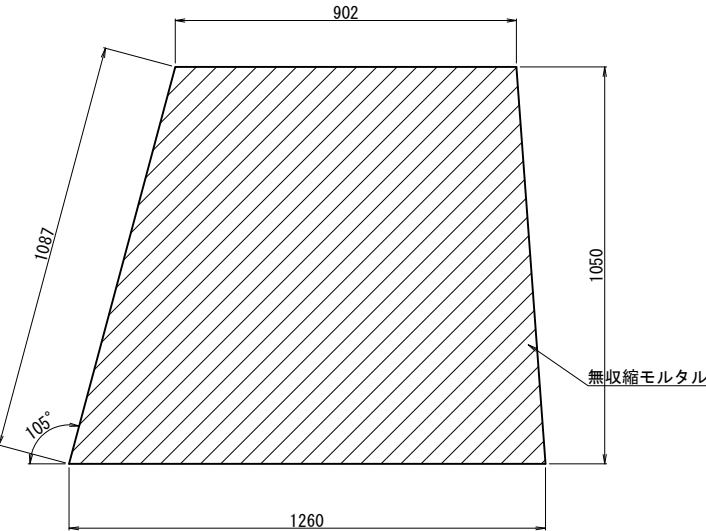
2 - 2



4 - 4



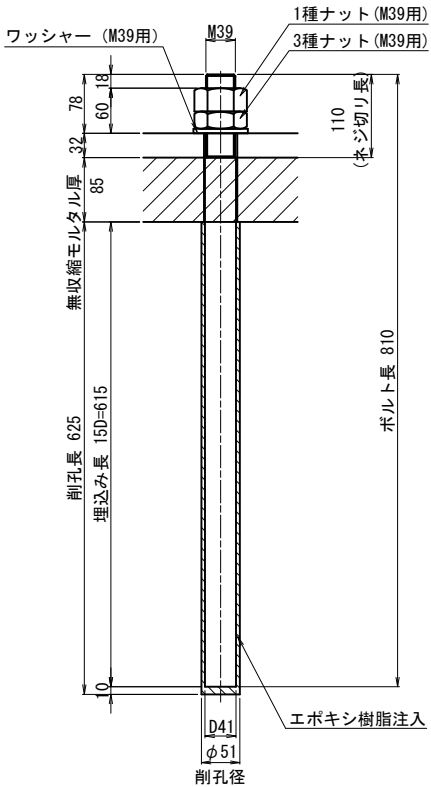
5 - 5



- 1-PL BASE 1050x32x1060
- 1-PL BASE 1054x22x579
- 1-PL RIB 660x22x564
- 1-PL RIB 728x22x564
- 1-PL RIB 796x22x564
- 1-PL RIB 864x22x564
- 1-PL RIB 932x22x564
- 1-PL RIB 1001x22x564
- 5-PL RIB 178x22x513

横変位拘束構造M アンカーエφ51・625(下方向)

アンカーボルト詳細図 S=1:10



- 26-ANC BOLT D41x810 (SD345)
- 26-1種 Nut M39用 (SS400)
- 26-3種 Nut M39用 (SS400)
- 26-WASHER M39 (SS400)

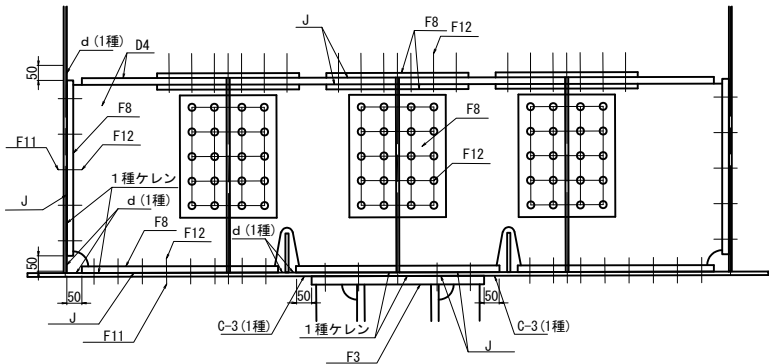
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - 下部エブラケットは溶融亜鉛めっき仕上げとする。
亜鉛の膜厚はJIS H 8641:2021 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナットおよびワッシャ類はHDZT49とする。
 - 上部工付きブラケットは塗装仕様です。
 - 既設コンクリートの削孔は鉄筋探索により既設鉄筋位置を確認の上、既設鉄筋を避けて配置すること。既設鉄筋と干渉した場合は、アンカーボルト本数や定着位置等に変更が生じる場合には、監督員と協議を行うこと。
 - 本図面は建設当初および改良時の完成図を基に作成している。
施工においては、事前に既存部材における関連部分の計測を必ず行い、計測した寸法値に合わせて施工を行うこと。

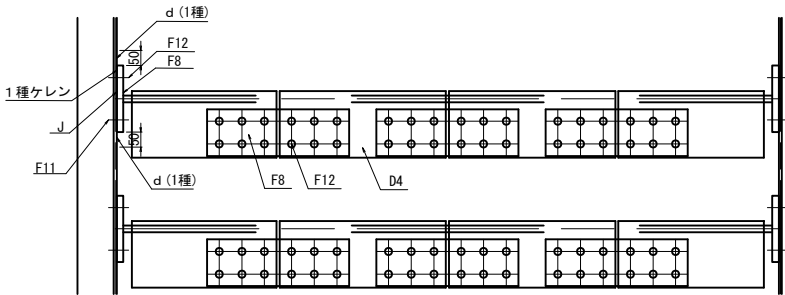
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 BA2橋台横変位拘束構造図(その3)		
縮 尺	1:20	図面番号	32 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

落橋防止装置桁内補強

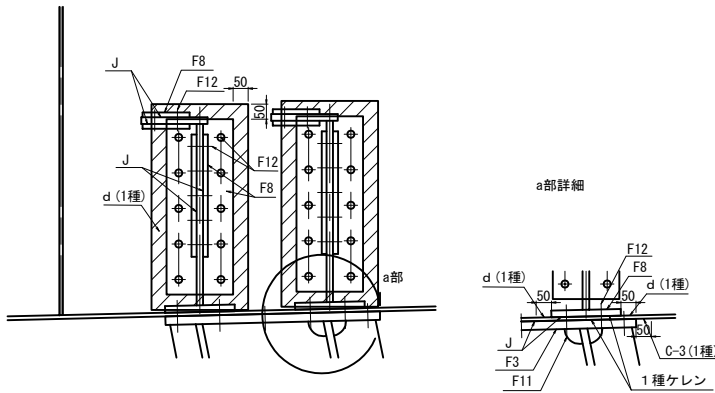
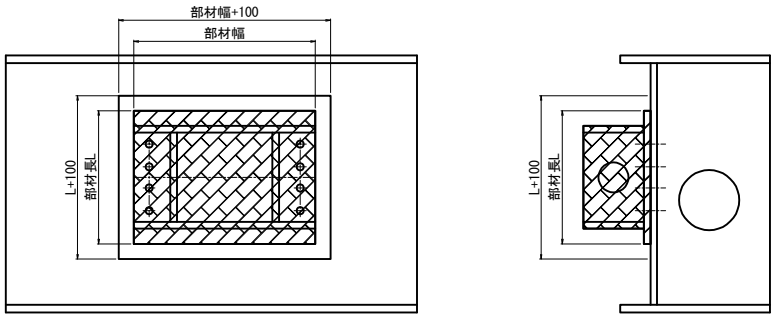
正面図



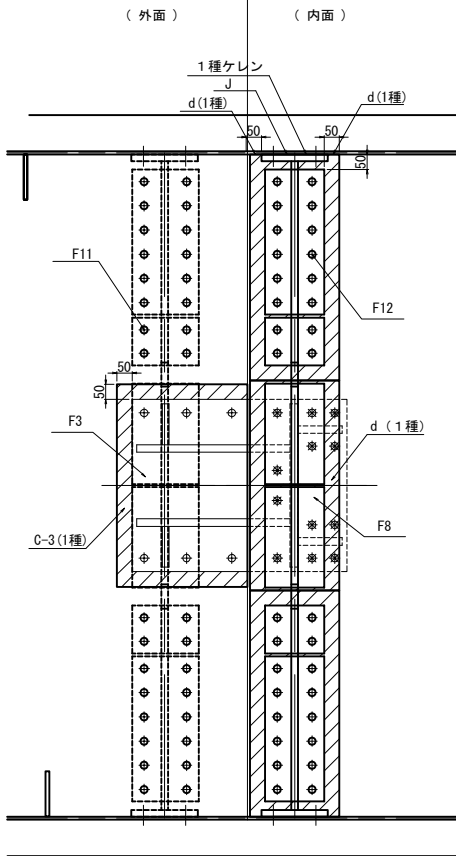
平面図



補強部材ボルト取付の素地調整範囲



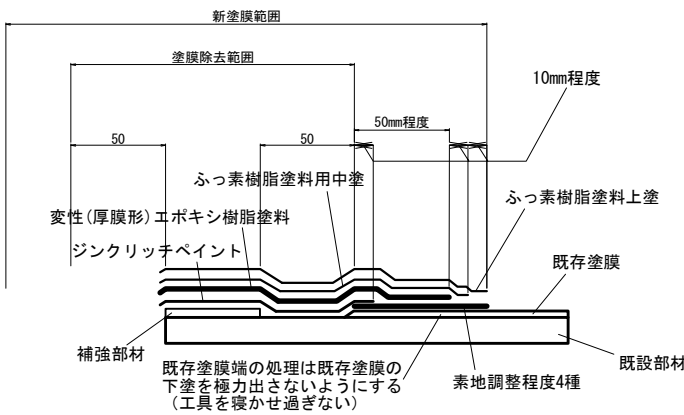
平面図



既設塗膜との境界部の処理 S=1:4

箱桁外面

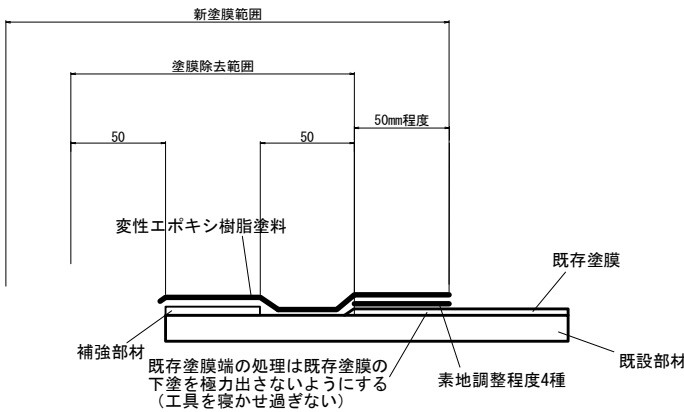
塗膜除去工A



既設塗膜との境界部の処理 S=1:4

箱桁内面

塗膜除去工B

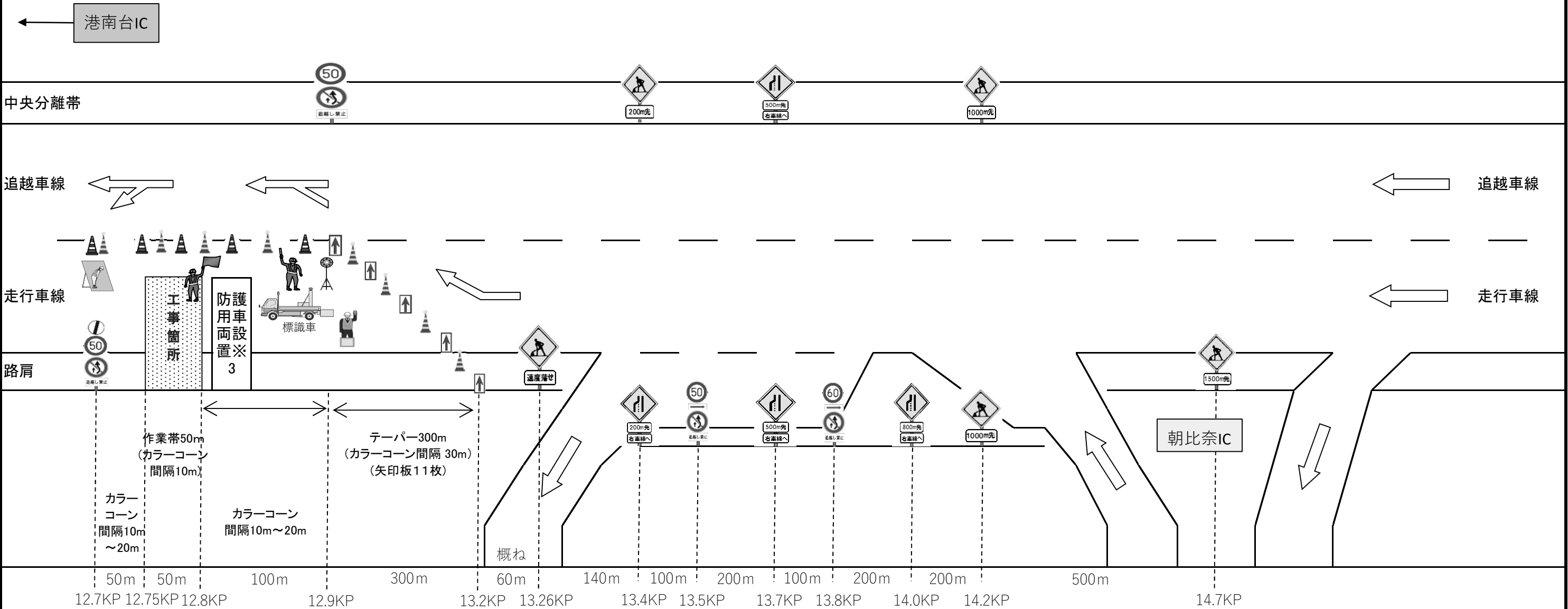


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 塗替塗装区分図			
縮 尺	図 示	図面番号	33	/ 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			


<p>横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事</p>				
図面の種類	<p>金沢谷JCT第二橋 はく落防止対策工図</p>			
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 44	
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	<p>東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所</p>			


釜利谷JCT第二橋 交通規制工


車線規制 I × 1 × 0 × 1 ・ A 1（夜）





規制材数量		車線規制 I × 1 × 0 × 1 ・ A 1（夜）		1回当たり
項目	単位	数量	備考	
標識車	台	1	貸与品	
矢印板	枚	11	貸与品	
カラーコーン	本	25	貸与品	
工事予告看板	枚	13	貸与品	
ガードマンロボット	台	1	貸与品	
赤色回転灯	台	1	貸与品	
お礼看板	枚	1	貸与品	
交通監視員	人	2	規制保守(規制費に含む)	
交通監視員(交替)	人	1	規制保守交替要員(規制費に含む)	
交通監視員A(夜)	人	1	別途検測※1	
発炎筒(5分)	本	24	受注者所有(工事予告看板設置撤去時)(規制費に含む)※2	
発炎筒(15分)	本	6	受注者所有(テーパー設置撤去時)(規制費に含む)※2	


 標識車


 : 工事予告看板


 : お礼看板


 : デリネーター付き
カラーコーン


 : 矢印板

 : ガードマンロボット

 : 交通監視員
(規制保守)

 : カラーコーン

 : 赤色回転灯

 : 交通監視員 A(夜)
(別途検測)

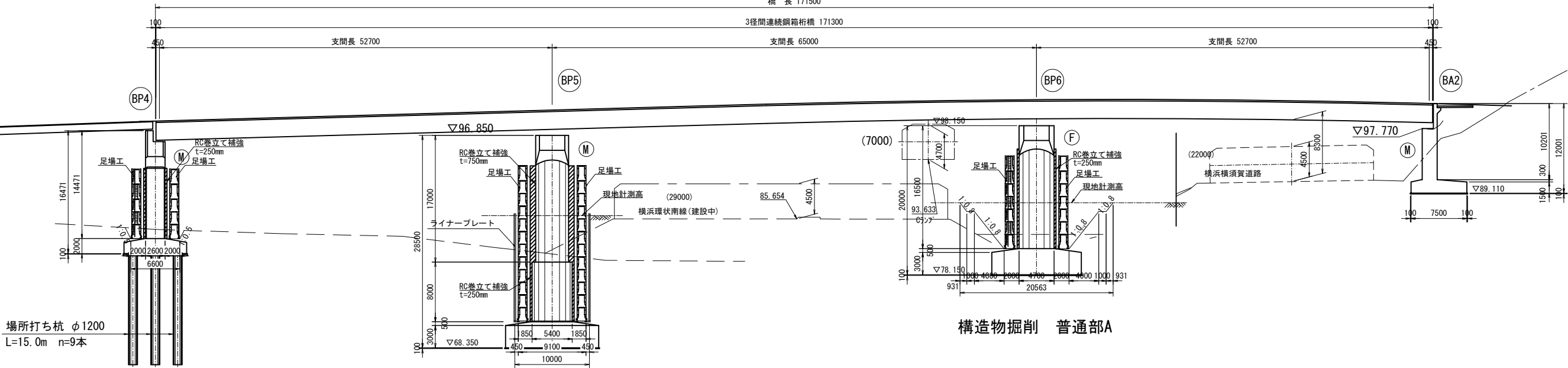
- ※1：交通監視員 A は、工事箇所に配置する
- ※2：発炎筒は、設置・撤去各 3 本の使用を基本とする
- ※3：工事箇所手前に進入車両強制停止装置又は防護車両を設置する

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 交通規制工		
縮 尺	—	図面番号	35 / 44
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

【柱補強時】

側面図

橋長 171500



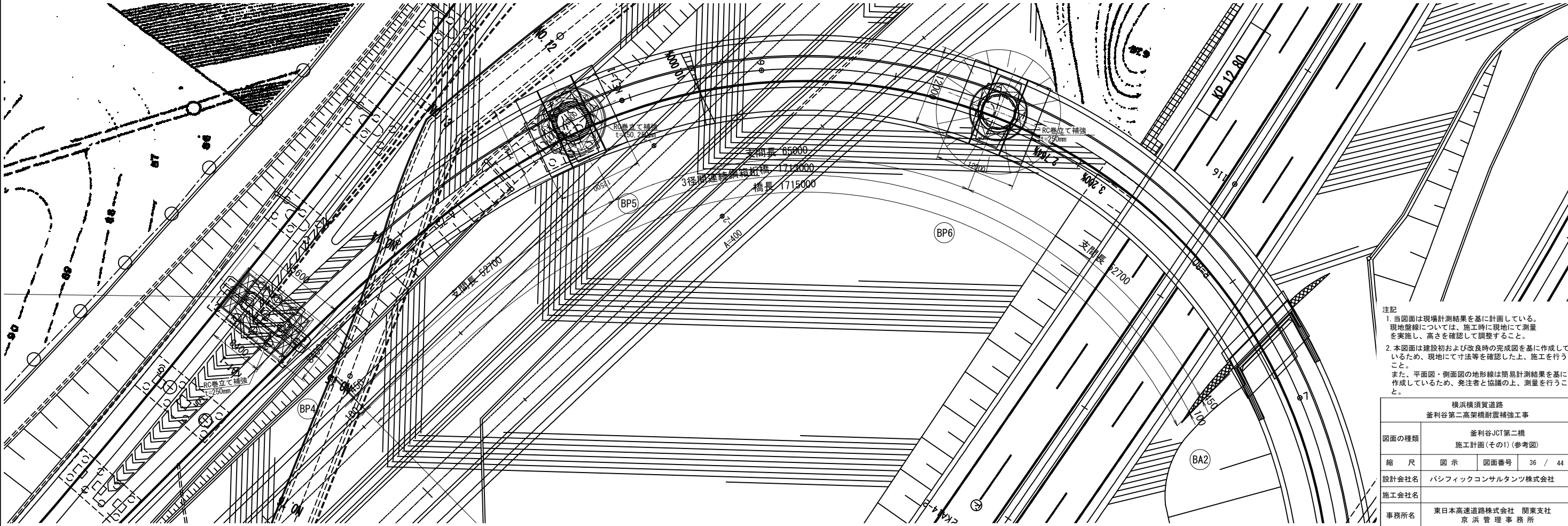
構造物掘削 普通部A

構造物掘削 特殊部A

構造物掘削 普通部A

平面図

() 内寸法は標準幅員を示す。



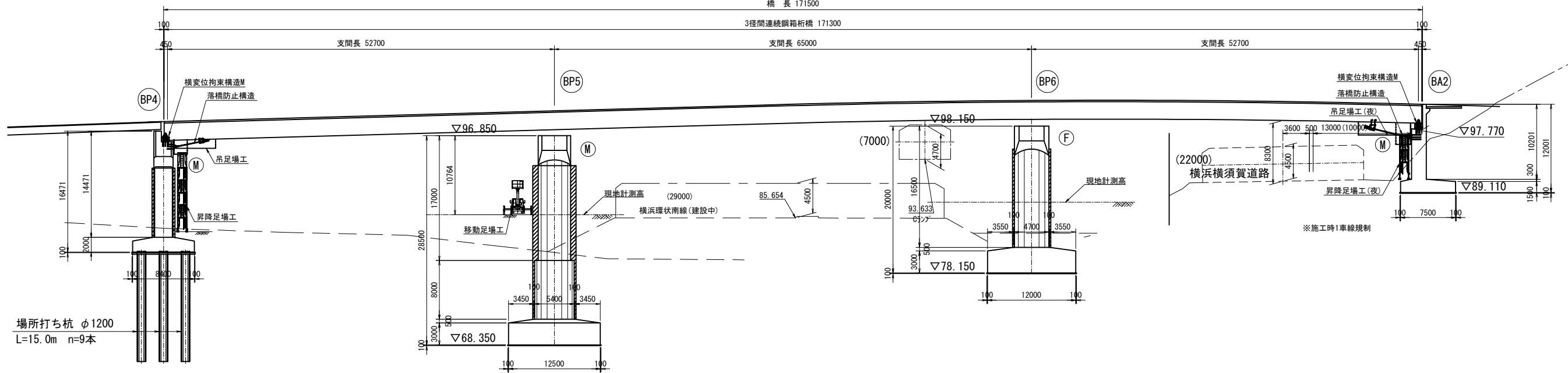
注記
1. 当図面は現場計測結果を基に計画している。
現地盤線については、施工時に現地にて測量
を実施し、高さを確認して調整すること。
2. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成して
いるため、現地にて寸法等を確認した上、施工を行う
こと。
また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に
作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこ
と。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その1)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	36 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

【支承周り施工時】

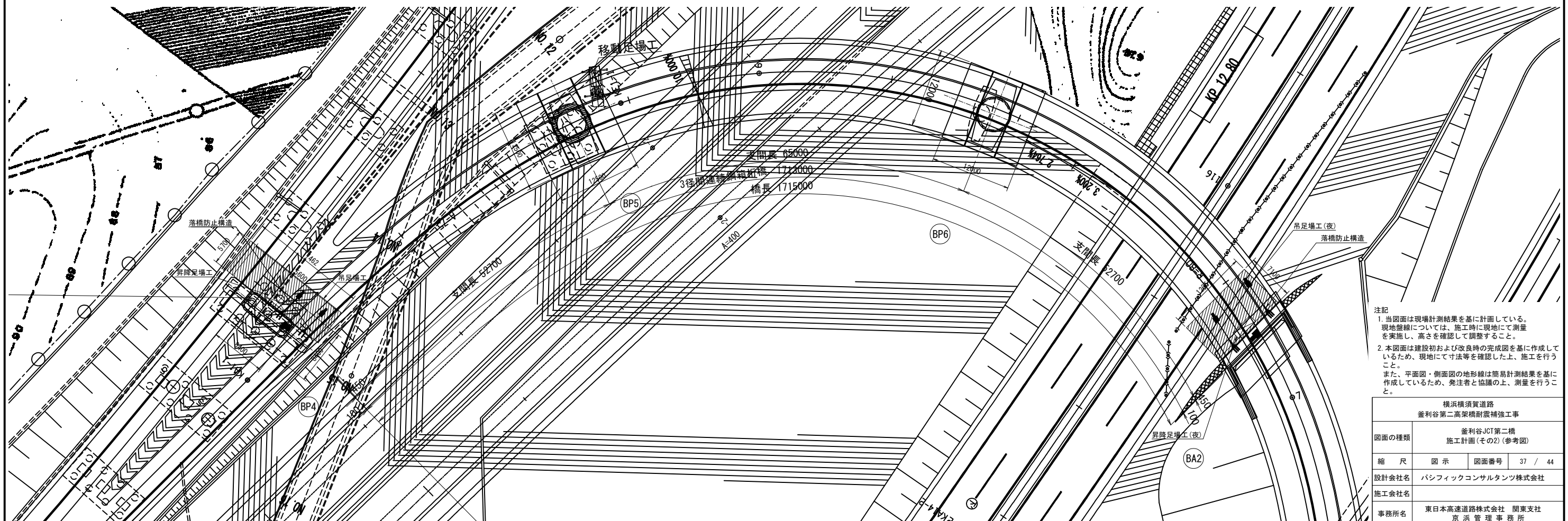
側面図

橋 長 171500



()内寸法は標準幅員を示す。

平面図



注記

1. 当図面は現場計測結果を基に計画している。
現地盤線については、施工時に現地に於て測量を実施し、高さを確認して調整すること。

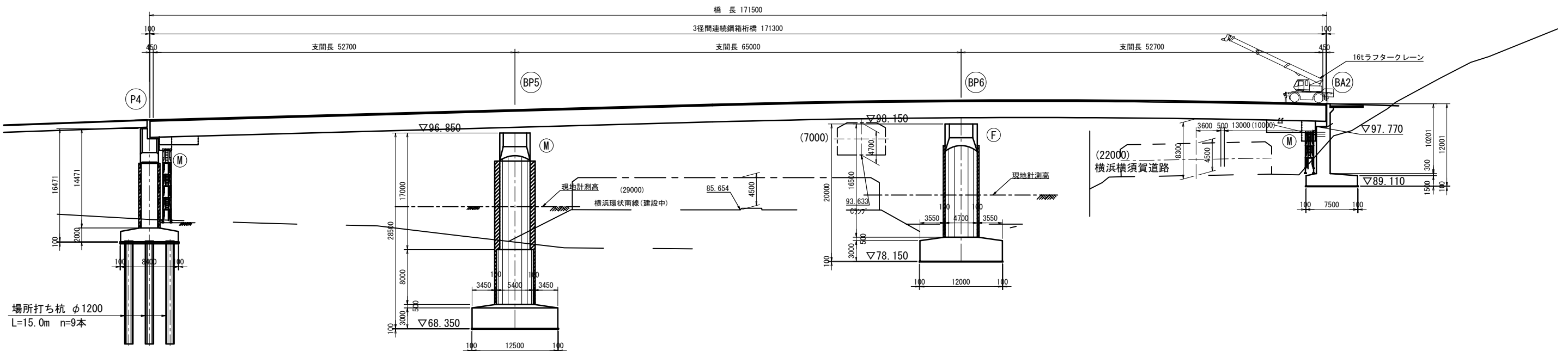
2. 本図面は建設初および改良時の完成図を基に作成しているため、現地に於て寸法等を確認した上、施工を行うこと。

また、平面図・側面図の地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

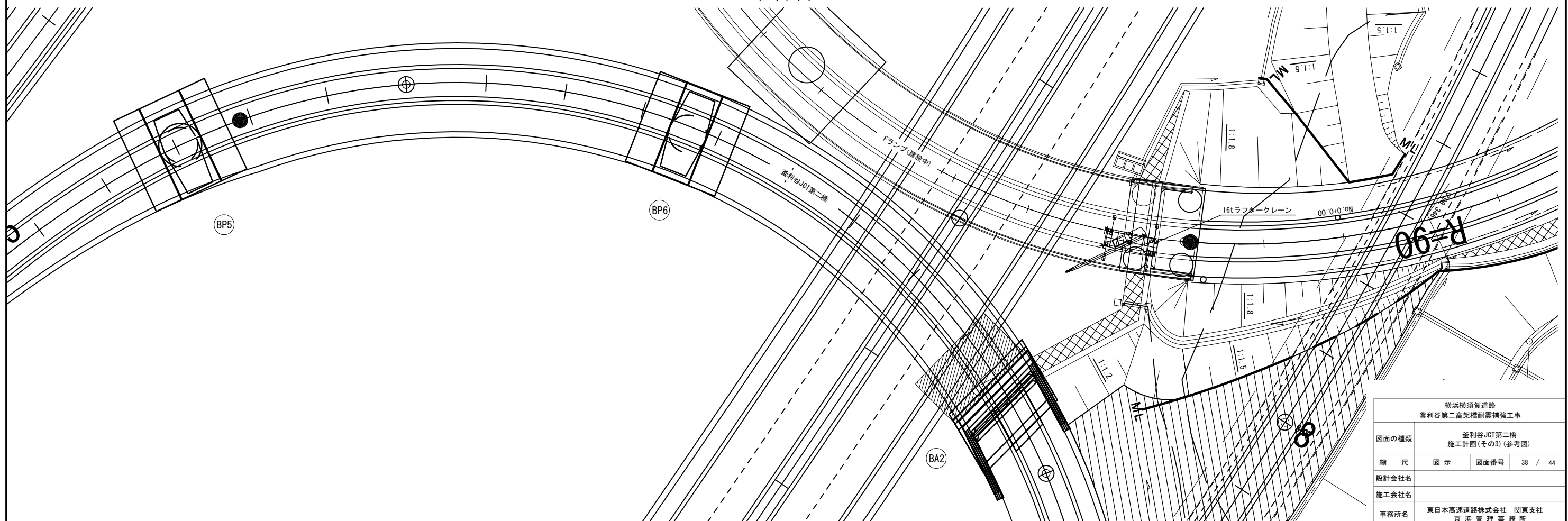
【BA2橋台資材搬入時】

側面図



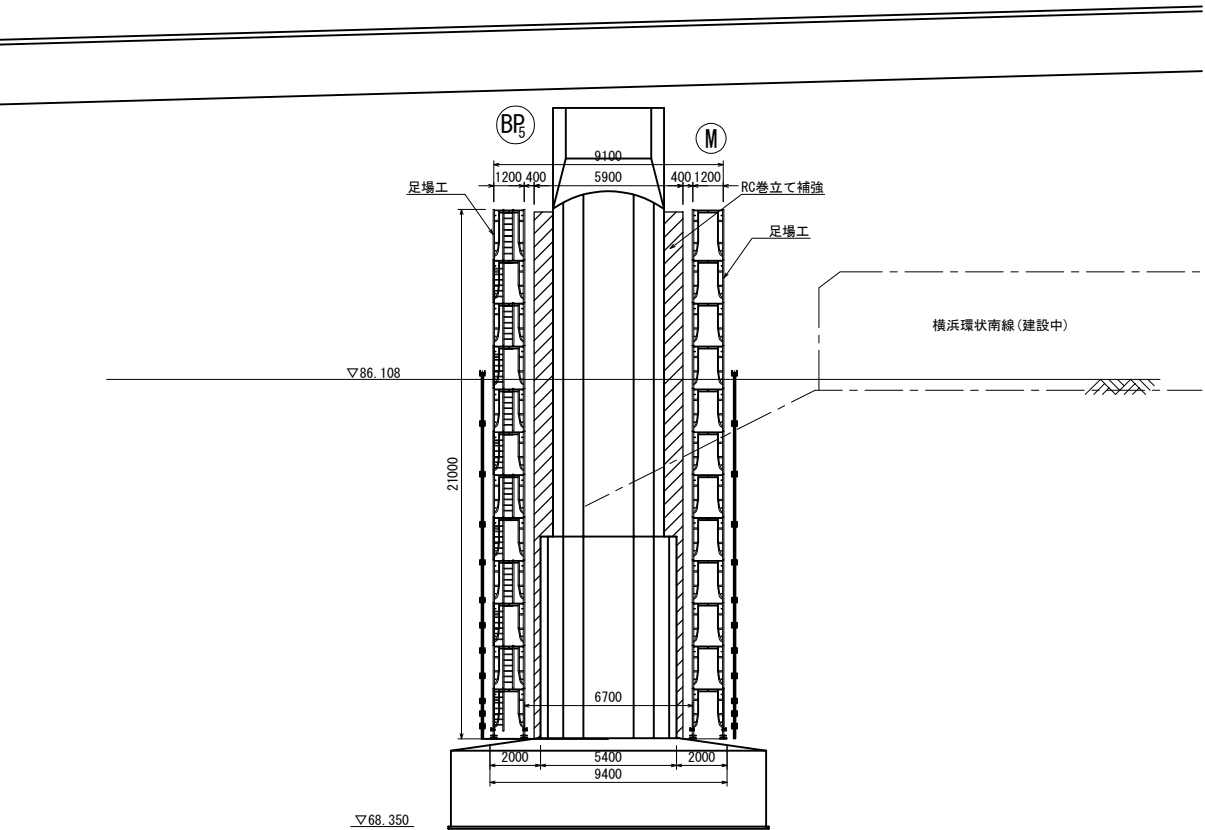
() 内寸法は標準幅員を示す。

平面図

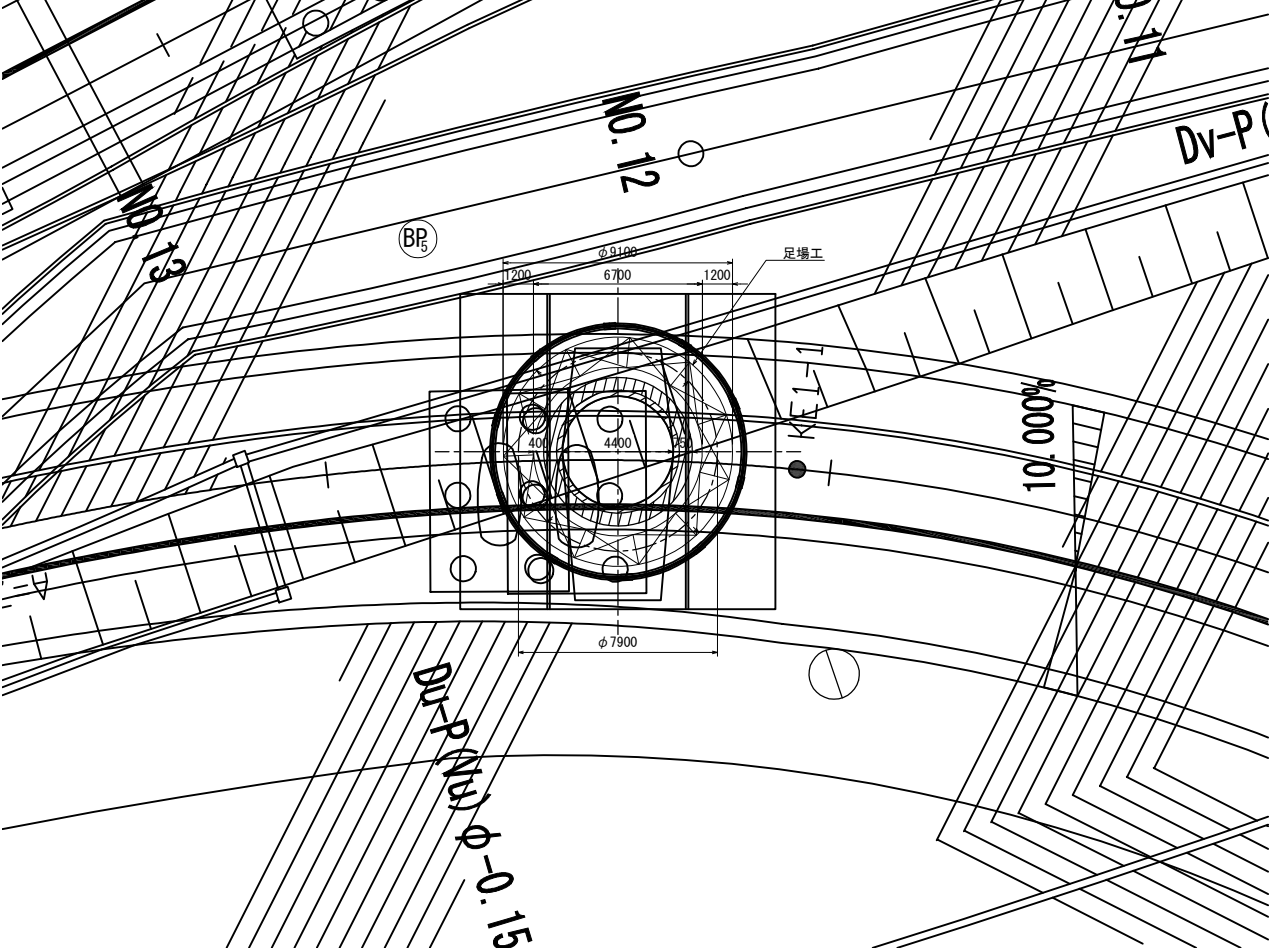


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 施工計画(その3)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	38 / 44
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

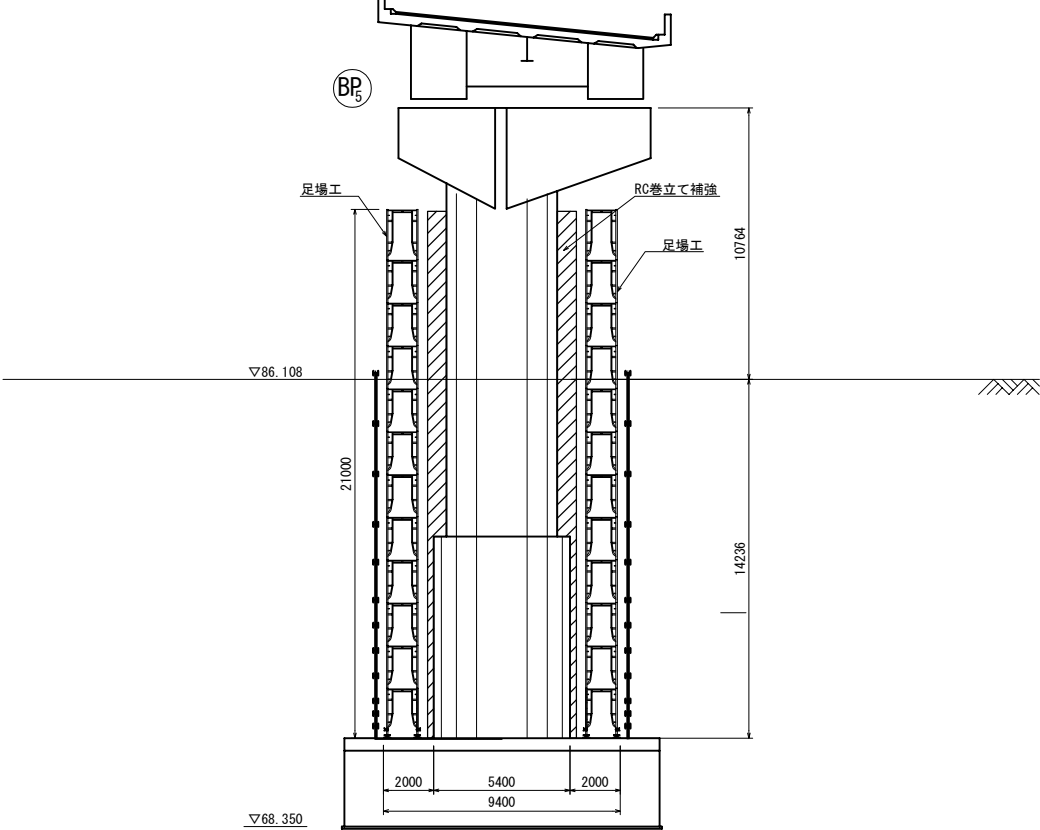
側面図



平面図



正面図

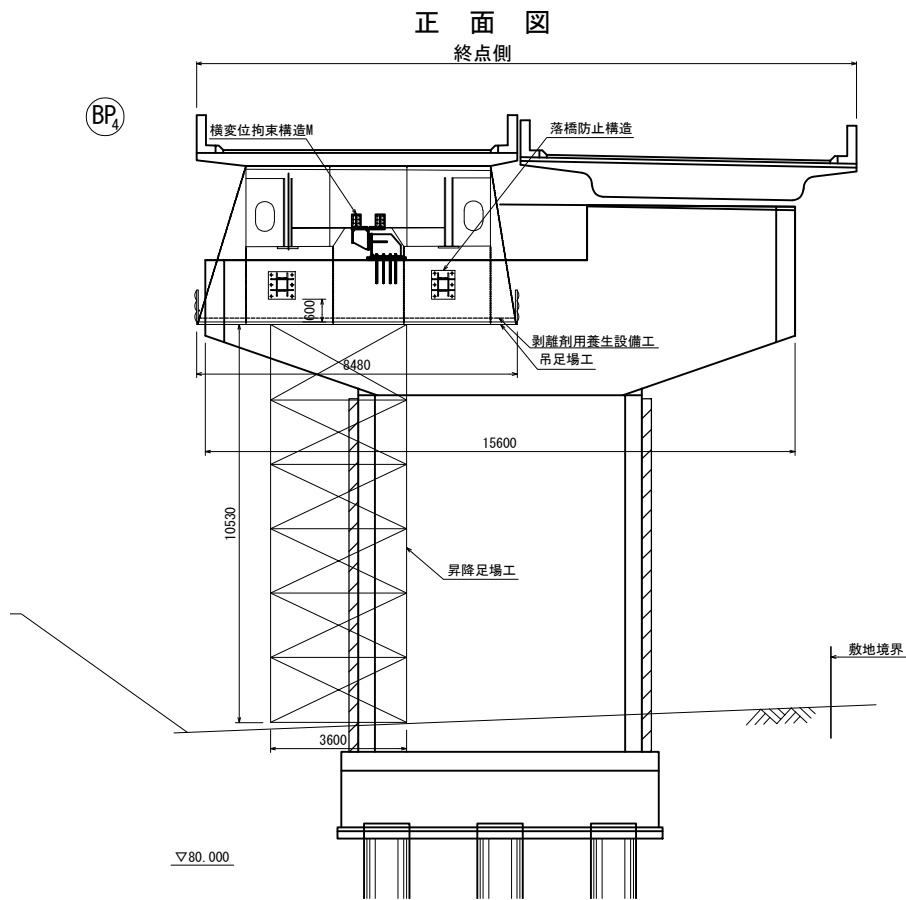
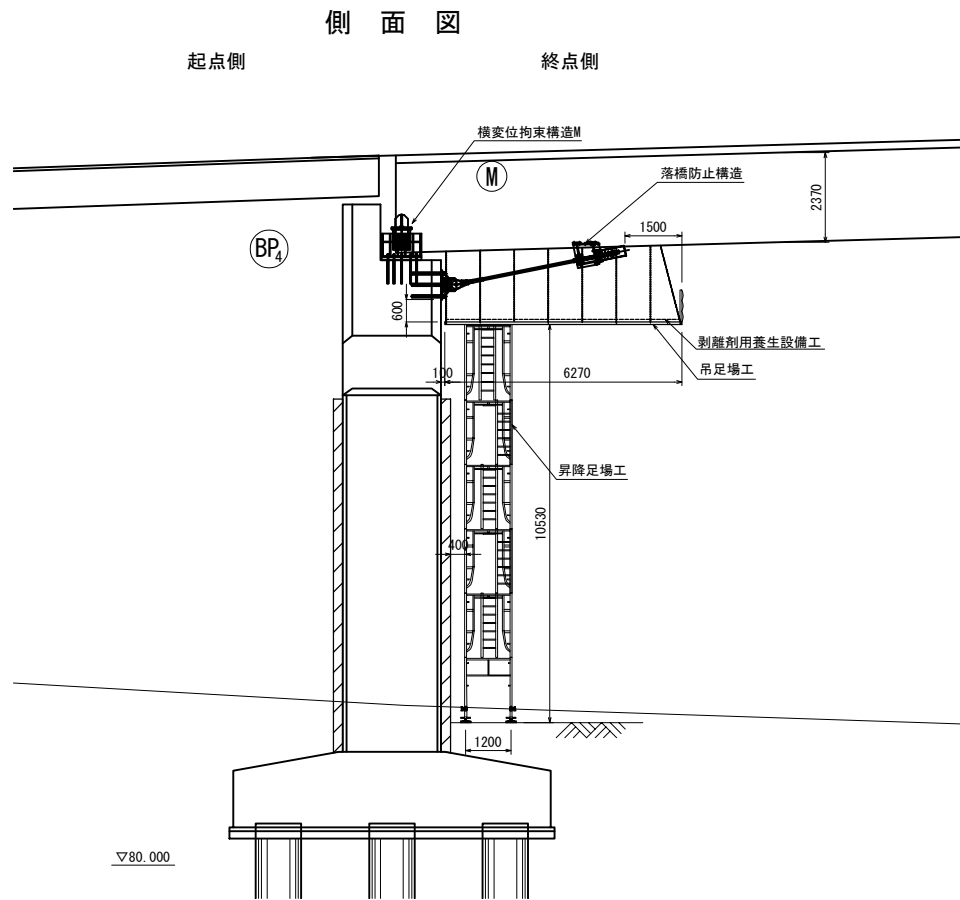


注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

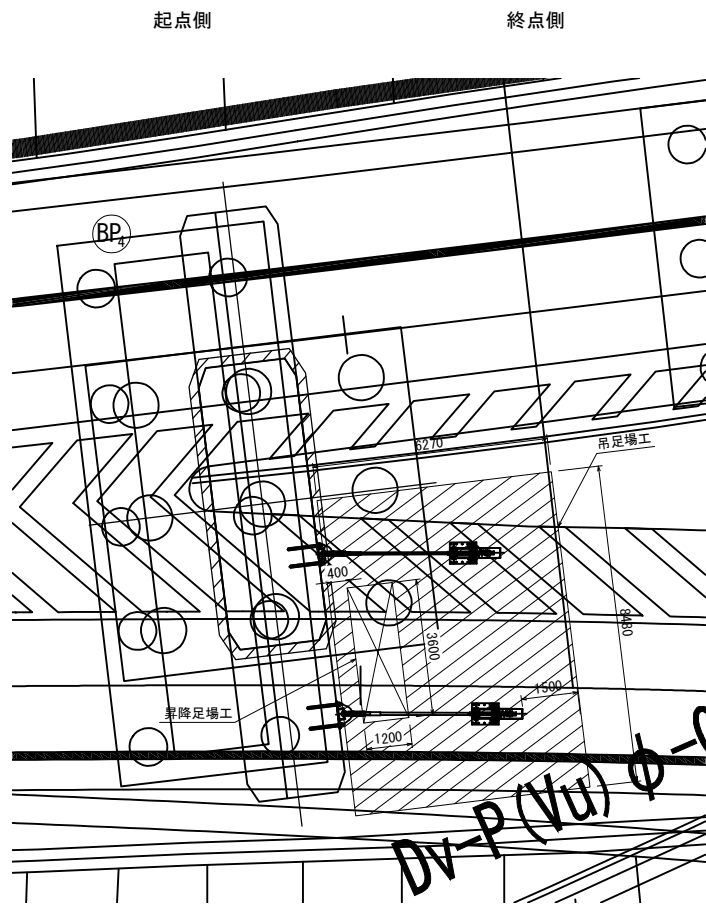
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その2)(参考図)			
	縮 尺	図 示	図面番号	40 / 44
設計会社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その4)(参考図)
【BP4橋脚支承周り施工時】

S=1:200



平面図



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その4) (参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

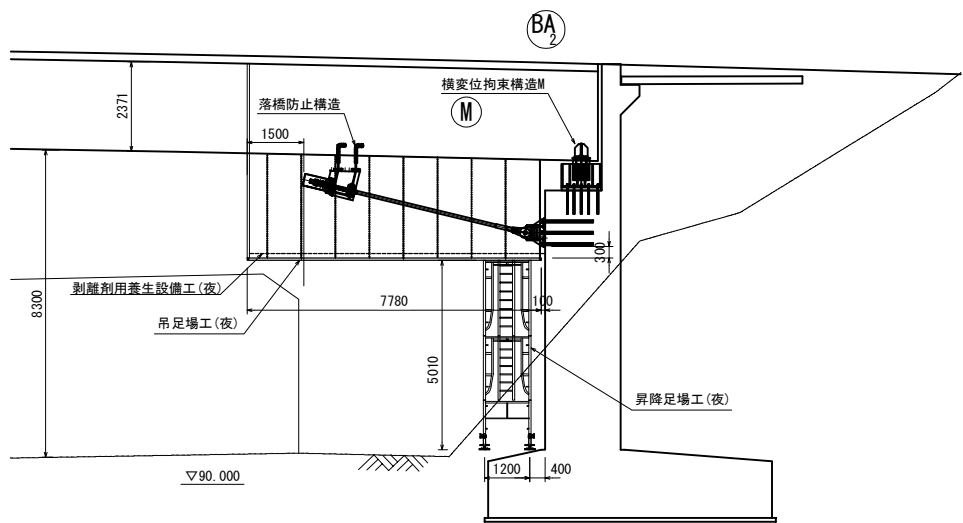
釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その6)(参考図)
【BA2橋台支承周り施工時】

S=1:200

側面図

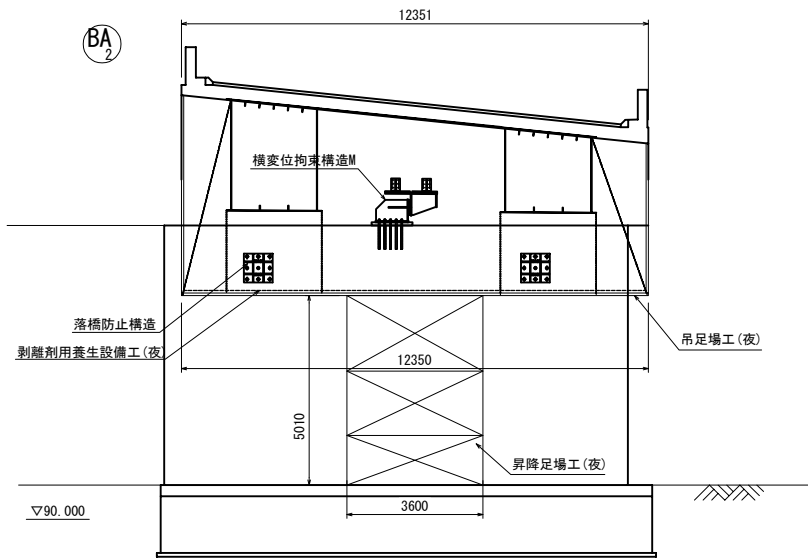
起点側

終点側



正面図

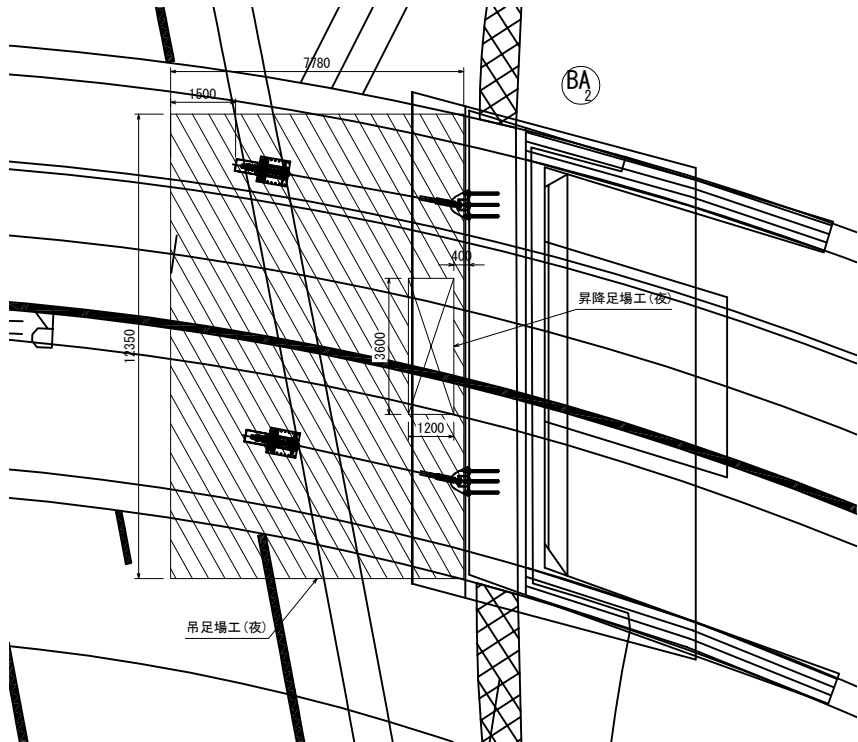
起点側



平面図

起点側

終点側



注記)
1. 地形線は簡易計測結果を基に作成しているため、
発注者と協議の上、測量を行うこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷JCT第二橋 足場工計画図(その6)(参考図)		
縮 尺	図 示	図面番号	44 / 44
設計会社名	パンフィックコンサルタンツ株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

横 浜 横 須 賀 道 路
釜 利 谷 第 二 高 架 橋 耐 震 補 強 工 事

設 計 図
【釜利谷第二高架橋】

令和 7 年 7 月

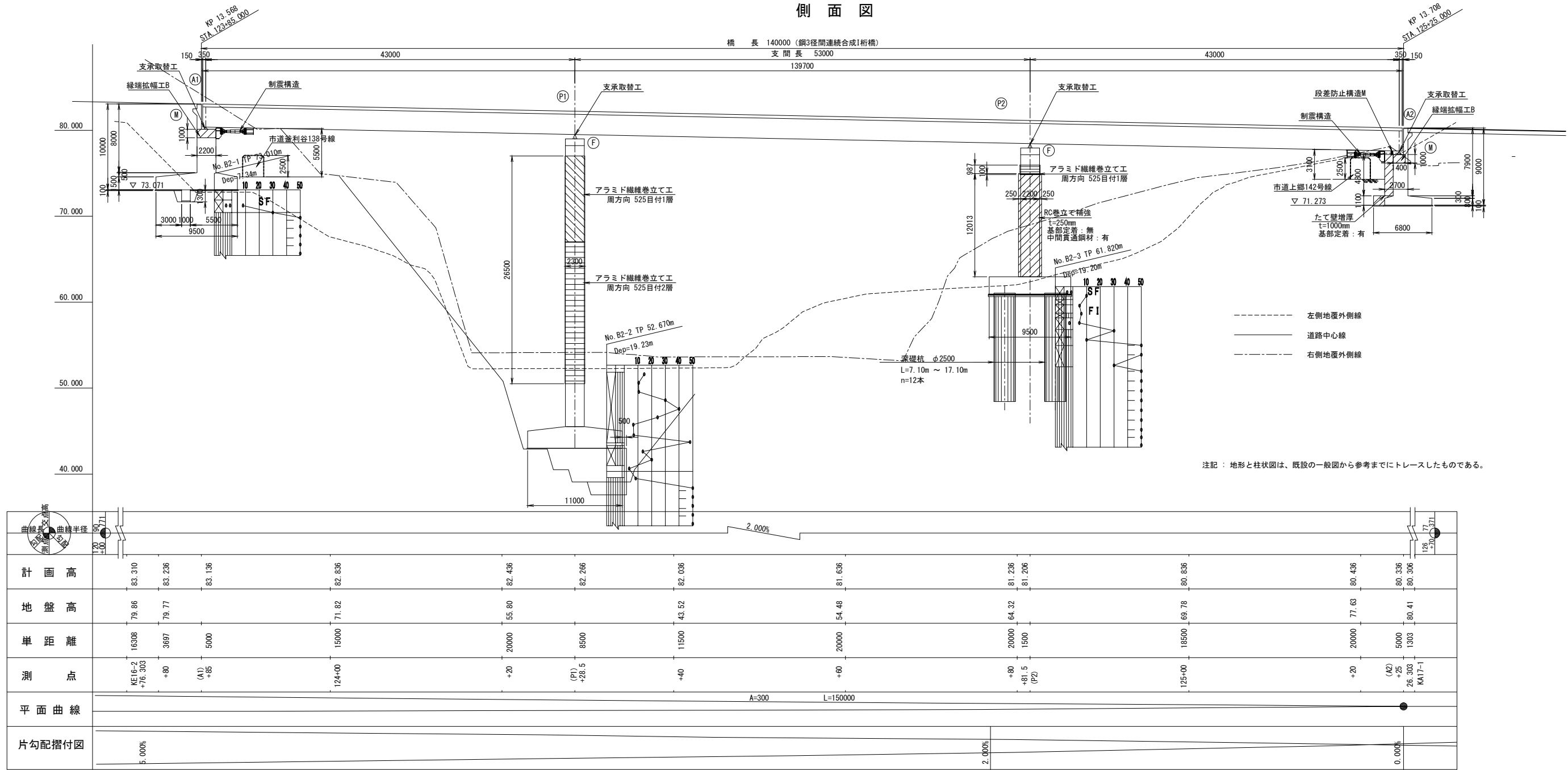
東日本高速道路株式会社 関東支社
京浜管理事務所

目 次

番号	設計図名称
1	釜利谷第二高架橋 補強一般図
2～9	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その1)～(その8)
10～11	釜利谷第二高架橋 P1橋脚耐震補強詳細図(その1)～(その2)
12～14	釜利谷第二高架橋 P2橋脚耐震補強構造一般図(その1)～(その3)
15～17	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線)耐震補強詳細図(その1)～(その3)
18～20	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線)耐震補強詳細図(その1)～(その3)
21	釜利谷第二高架橋 A2橋台耐震補強構造一般図
22～27	釜利谷第二高架橋 A2橋台耐震補強詳細図(その1)～(その6)
28～31	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)支承取替工(その1)～(その4)
32～35	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)支承取替工(その1)～(その4)
36～39	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線)支承取替工(その1)～(その4)
40～43	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線)支承取替工(その1)～(その4)
44～49	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線)支承取替工(その1)～(その6)
50～55	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線)支承取替工(その1)～(その6)
56～60	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)支承取替工(その1)～(その5)
61～65	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)支承取替工(その1)～(その5)
66～76	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その1)～(その11)
77～80	釜利谷第二高架橋 支承詳細図(その1)～(その4)
81	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)制震ダンパー配置図
82～84	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)

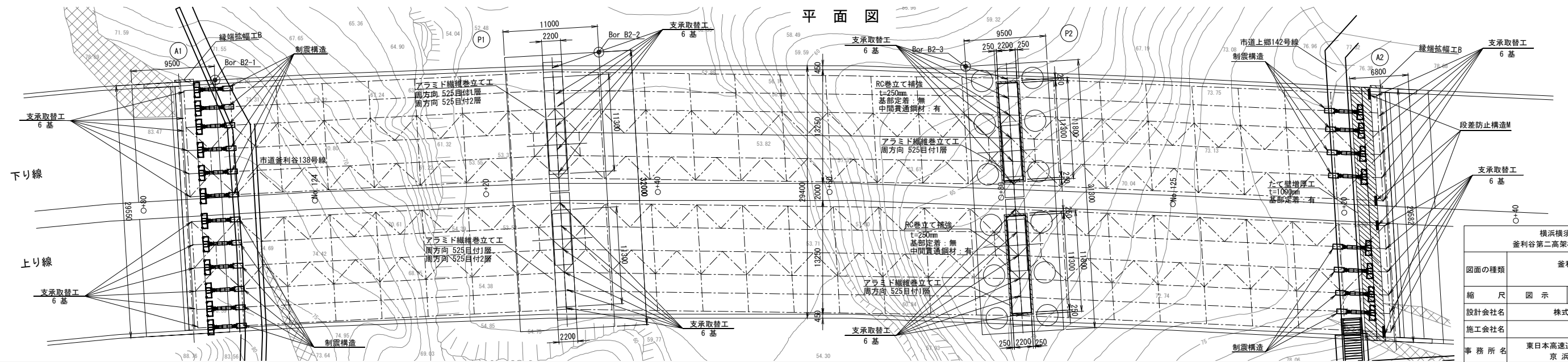
番号	設計図名称
85	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)制震ダンパー配置図
86～88	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
89	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)制震ダンパー配置図
90～92	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
93	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)制震ダンパー配置図
94～96	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)制震ダンパー取り付け詳細図(その1)～(その3)
97	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図
98	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー詳細図
99	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)縁端拡幅工B
100	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)縁端拡幅工B
101	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線)段差防止構造詳細図
102	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線)段差防止構造詳細図
103	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上下線)段差防止構造詳細図
104	釜利谷第二高架橋 交通保安要員配置図
105	釜利谷第二高架橋 交通規制工
106～107	釜利谷第二高架橋 足場工図(その1)～(その2)(参考図)
108～109	釜利谷第二高架橋 支保工(その1)～(その2)(参考図)
110～112	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その1)～(その3)(参考図)

側面図



注記：地形と柱状図は、既設の一般図から参考までにトレースしたものである。

平面図

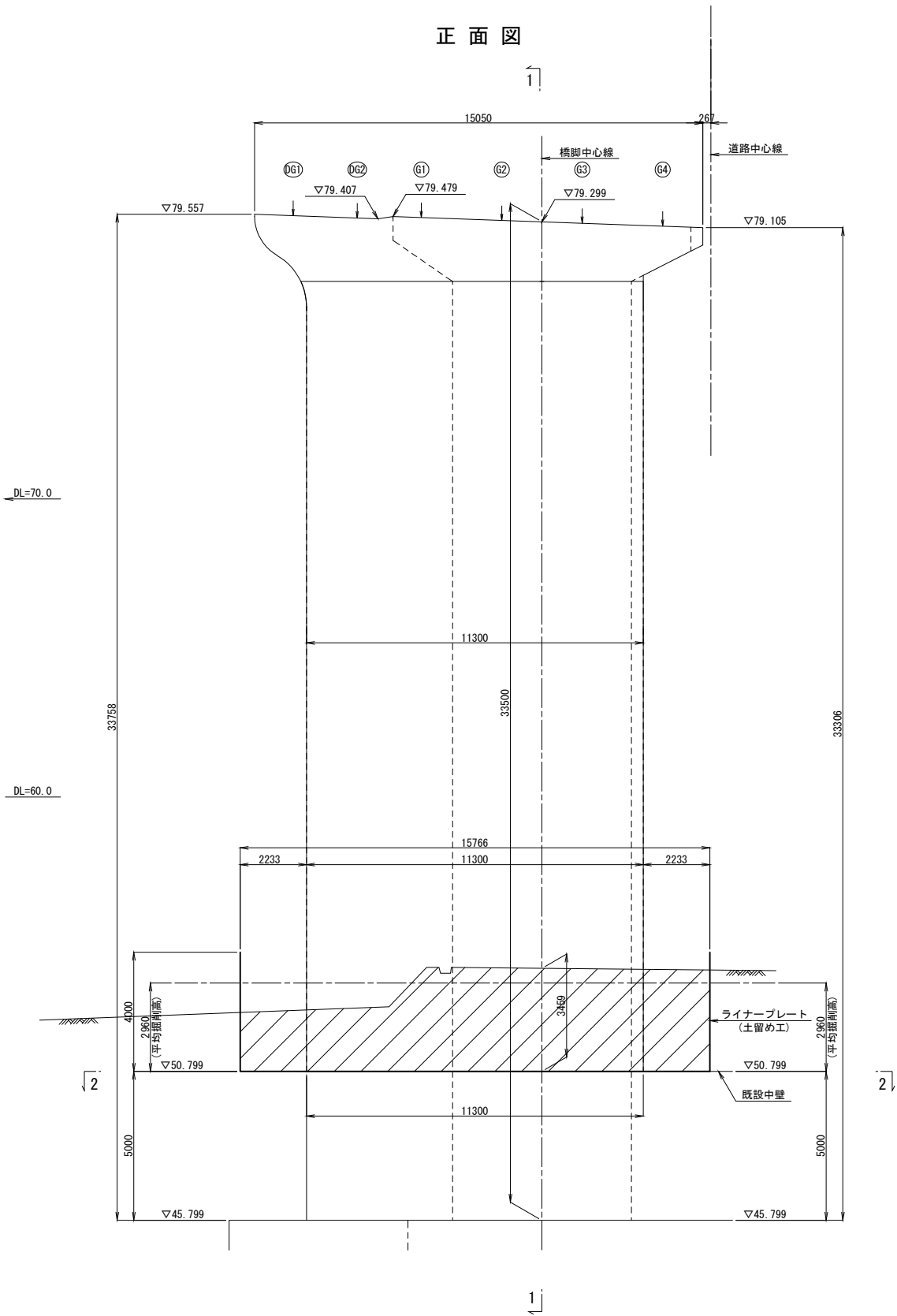


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 112	
設計会社名	株式会社 近代設計			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

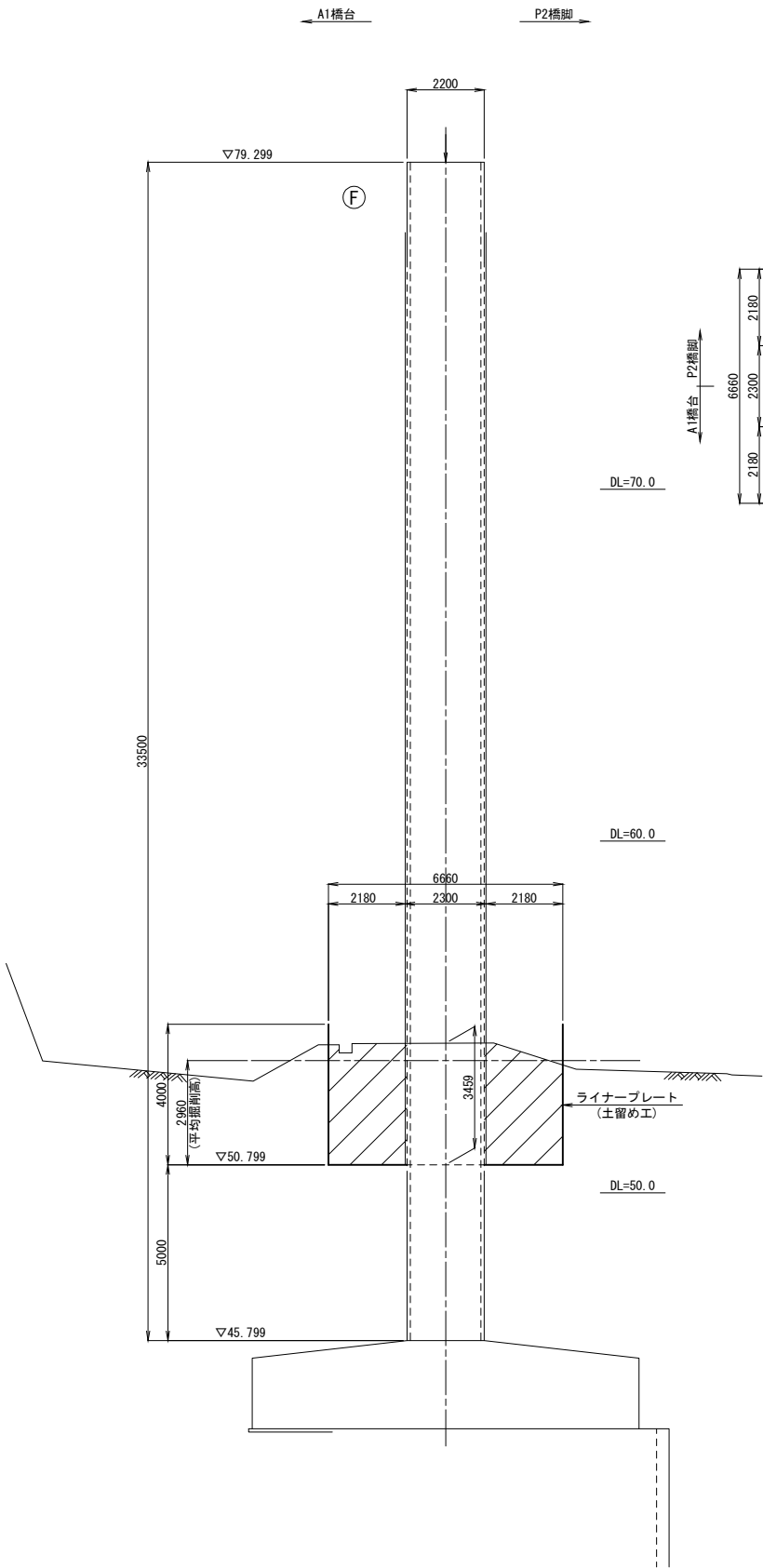
構造物掘削 特殊部D

P1橋脚 下り線

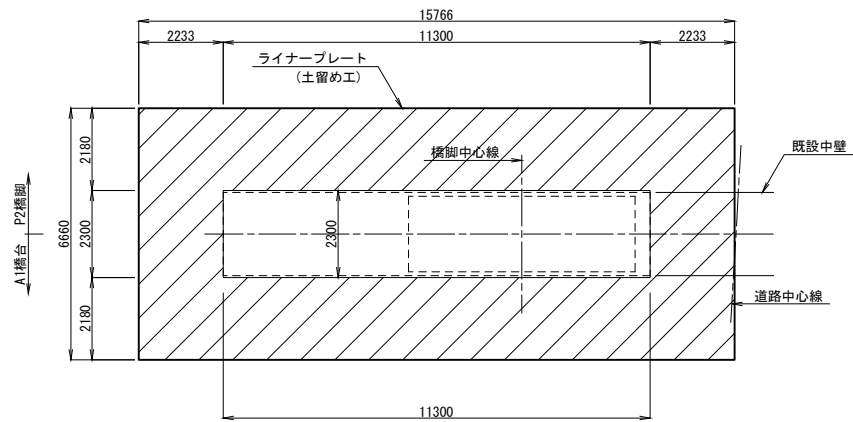
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。
* 土留め設計は、釜利谷第二高架橋耐震補強検討業務 (R5.9)に基づいている。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その2)

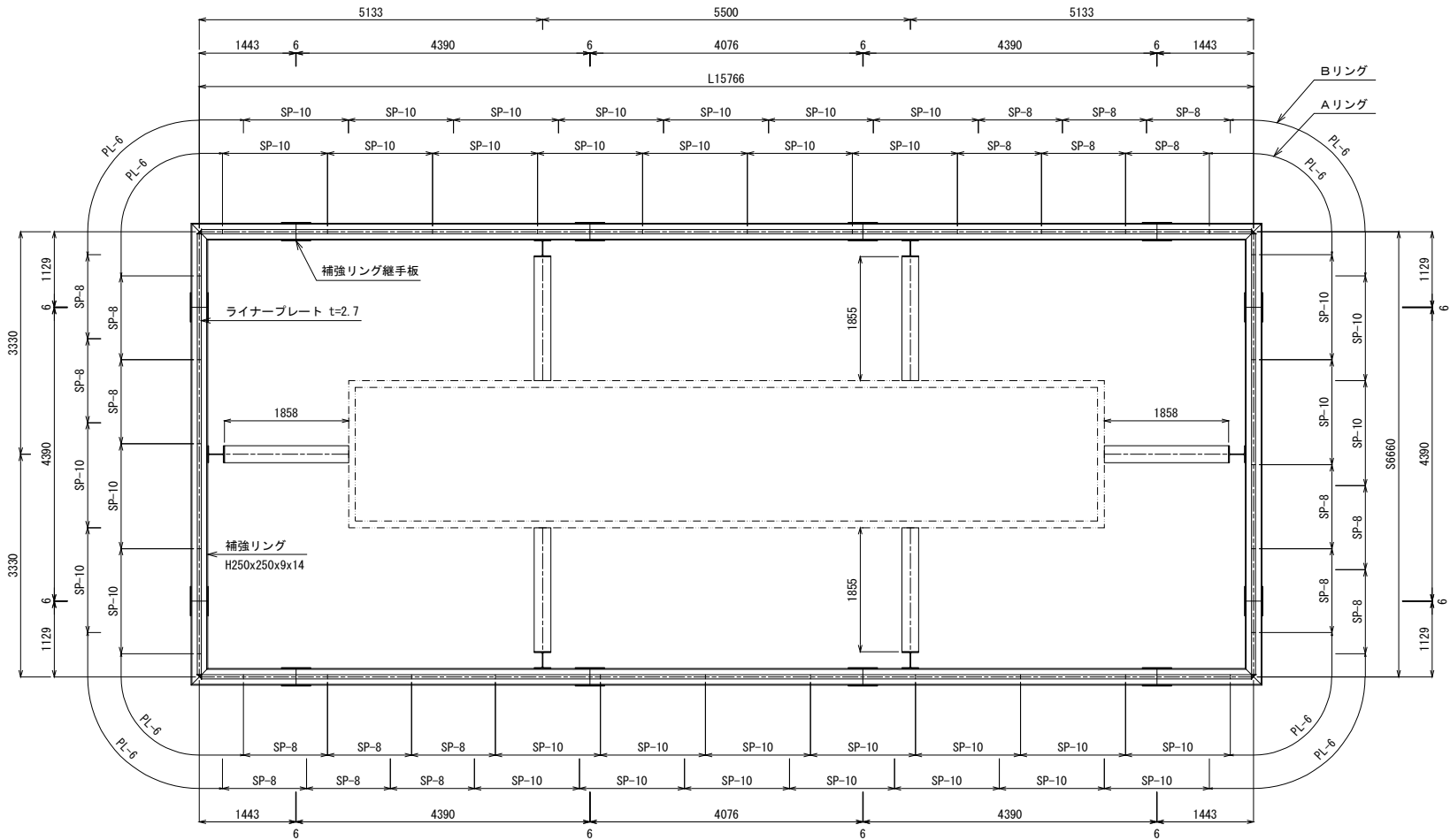
構造物掘削 特殊部D

P1橋脚 下り線

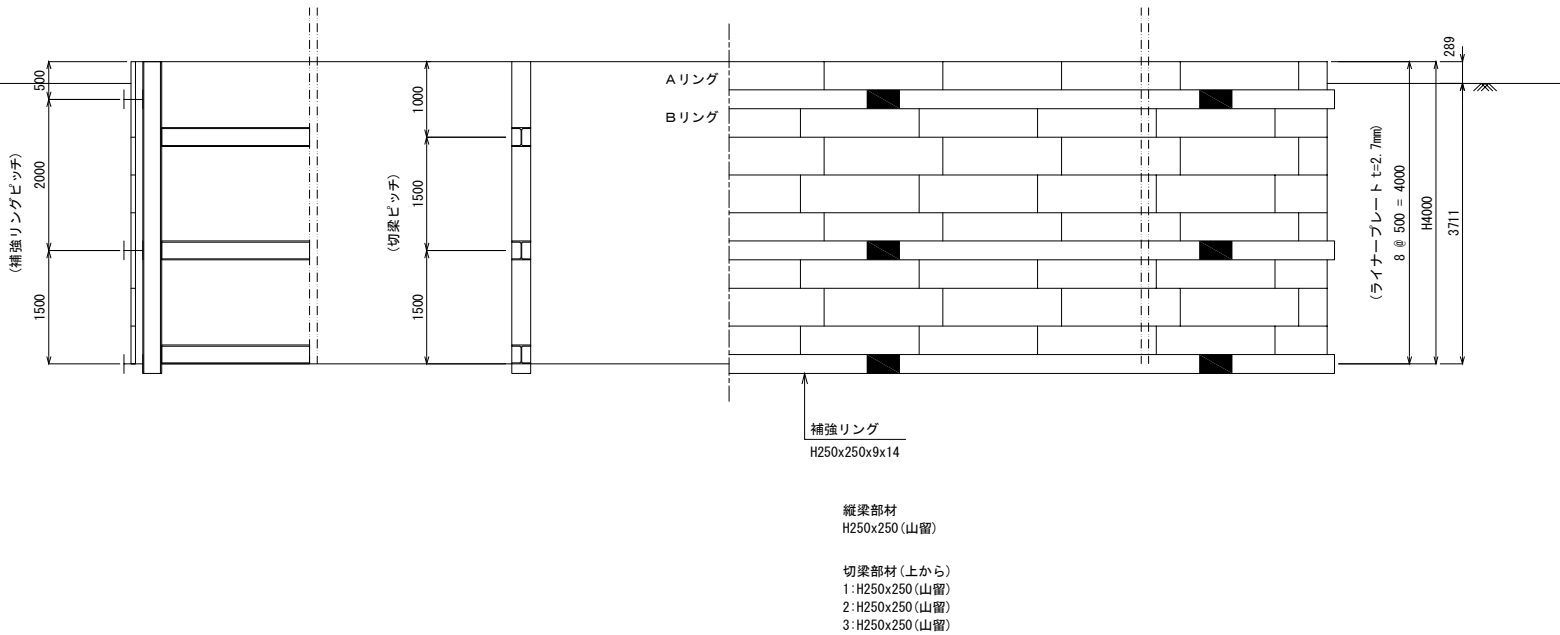
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t =2.7mm) ・ ・ ・ H=4.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	144	26.0	3744	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	80	21.1	1688	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	32	20.8	666	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P 用)	2444	0.137	335	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R 用)	852	0.158	135	
小 計				6568	kg
補強リング (H250) ・ ・ ・ 3リング (継手部 ・ ・ ・ 12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	18	315	5670	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	6	293	1758	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	12	185	2220	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	72	10.4	749	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	864	0.297	257	
小 計				10654	kg
合 計				17222	kg
参考					
縦梁	H250x250x9x14x4125	6	330	1980	山留材
切梁	H250x250x9x14x1855	12	148	1776	山留材
切梁	H250x250x9x14x1858	6	149	894	山留材
合 計				4650	kg

平面図 縮尺 1:100



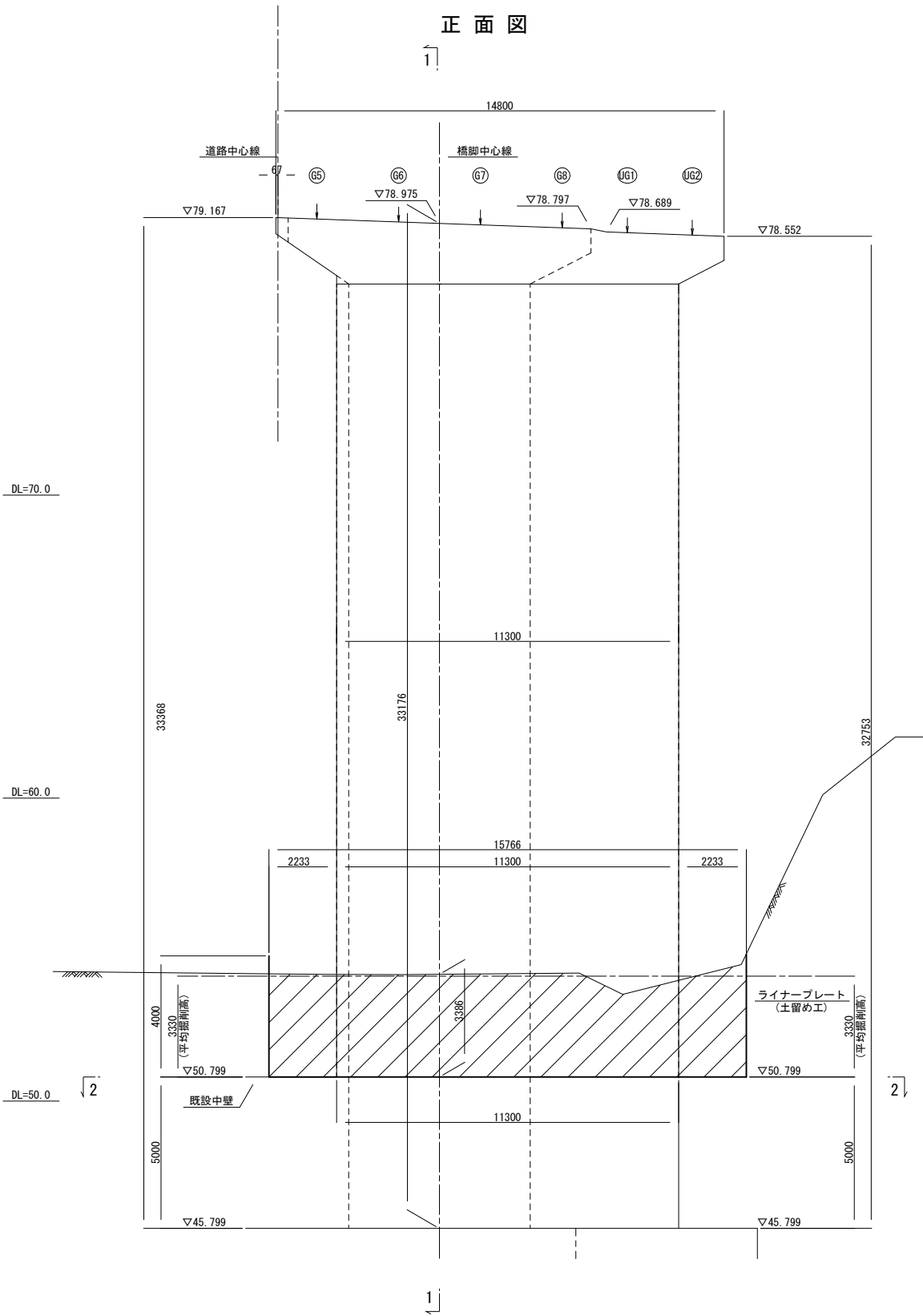
断面図及び側面図 縮尺 1:100



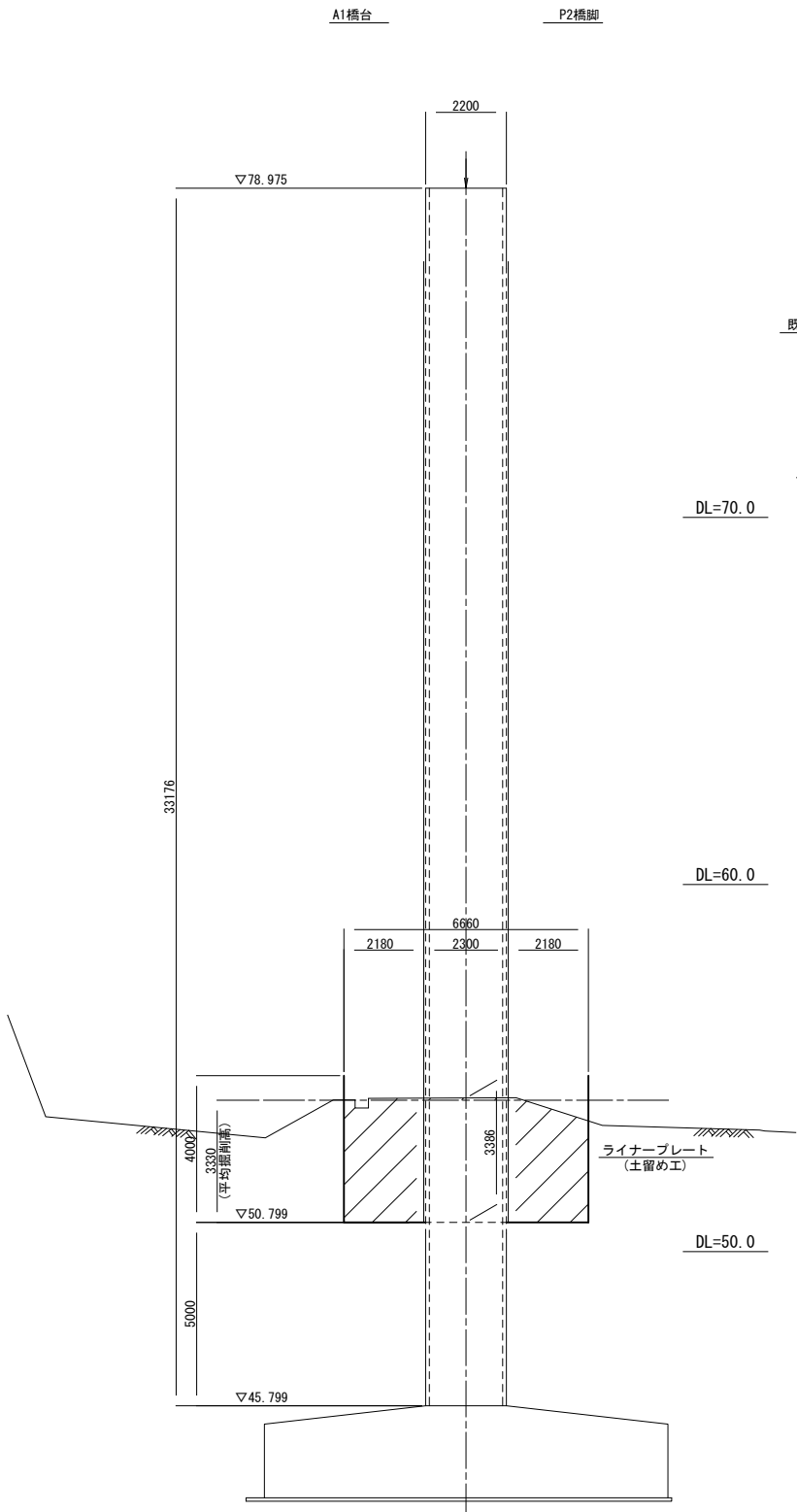
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部B
P1橋脚 上り線

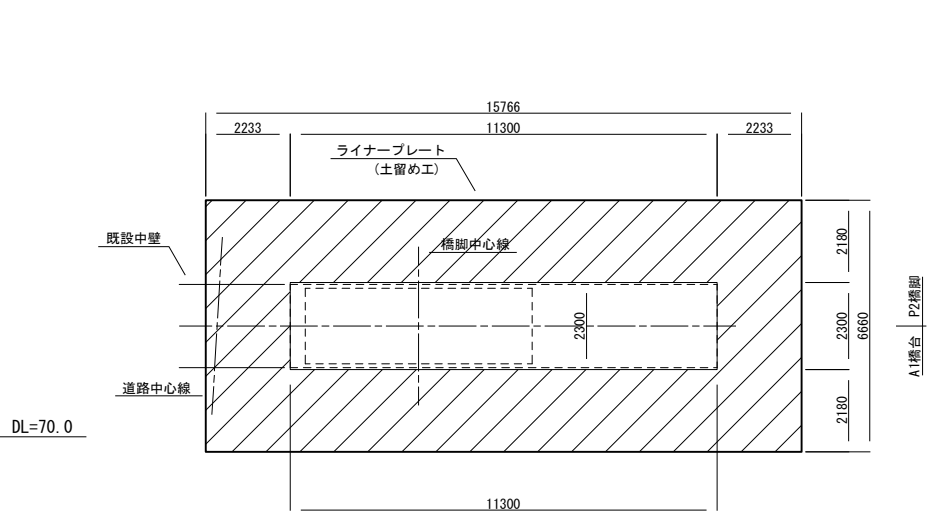
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。
* 土留め設計は、釜利谷第二高架橋耐震補強検討業務 (R5.9)に基づいている。

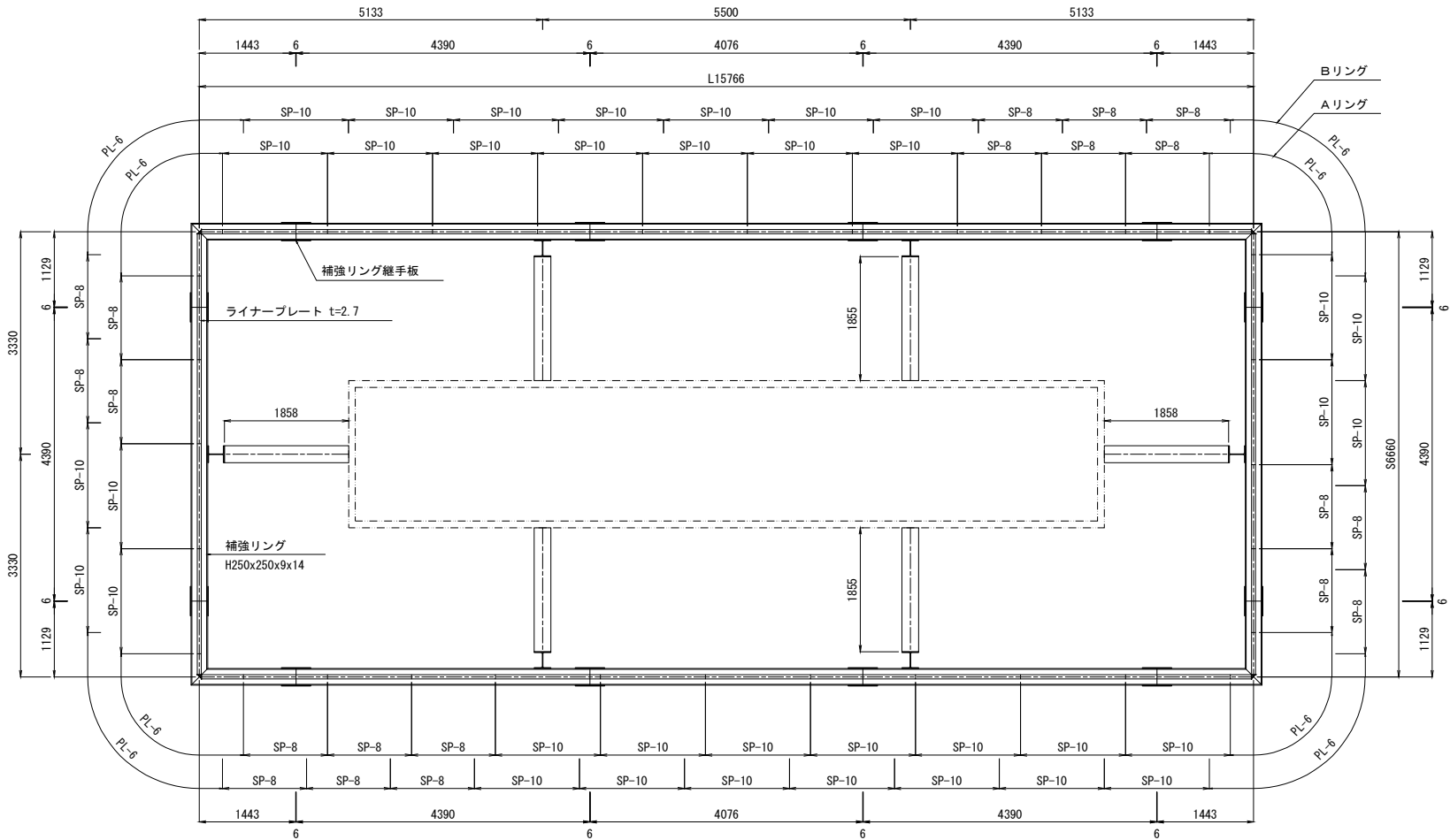
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部B
P1橋脚 上り線

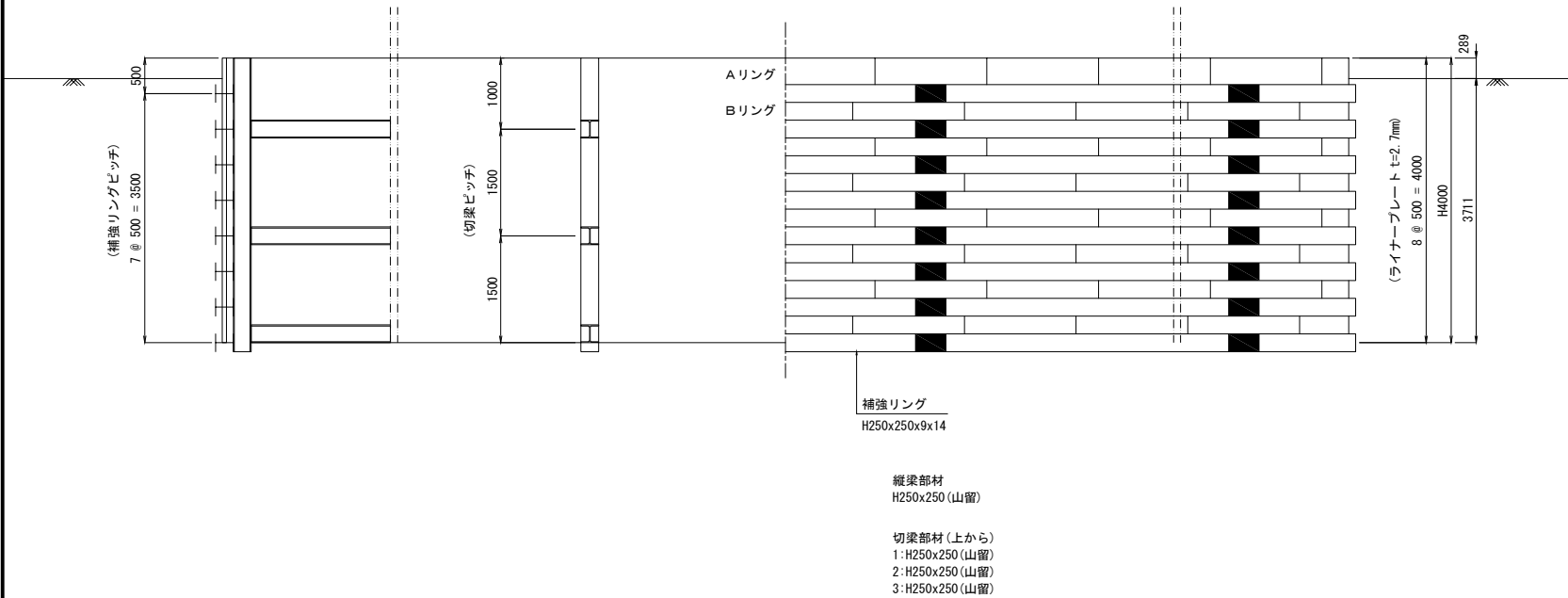
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t =2.7mm) ・ ・ ・ H=4.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	144	26.0	3744	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	80	21.1	1688	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	32	20.8	666	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P用)	1024	0.137	140	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R用)	2272	0.158	359	
小 計				6597	kg
補強リング (H250) ・ ・ ・ 8リング (継手部 ・ ・ ・ 12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	48	315	15120	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	16	293	4688	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	32	185	5920	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	192	10.4	1997	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	2304	0.297	684	
小 計				28409	kg
合 計				35006	kg
参考					
縦梁	H250x250x9x14x4125	6	330	1980	山留材
切梁	H250x250x9x14x1855	12	148	1776	山留材
切梁	H250x250x9x14x1858	6	149	894	山留材
合 計				4650	kg

平面図 縮尺 1:100



断面図及び側面図 縮尺 1:100



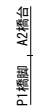
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	5 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

P2橋脚 下り線

1



平面图 (2-2)



断面图 (1 - 1)

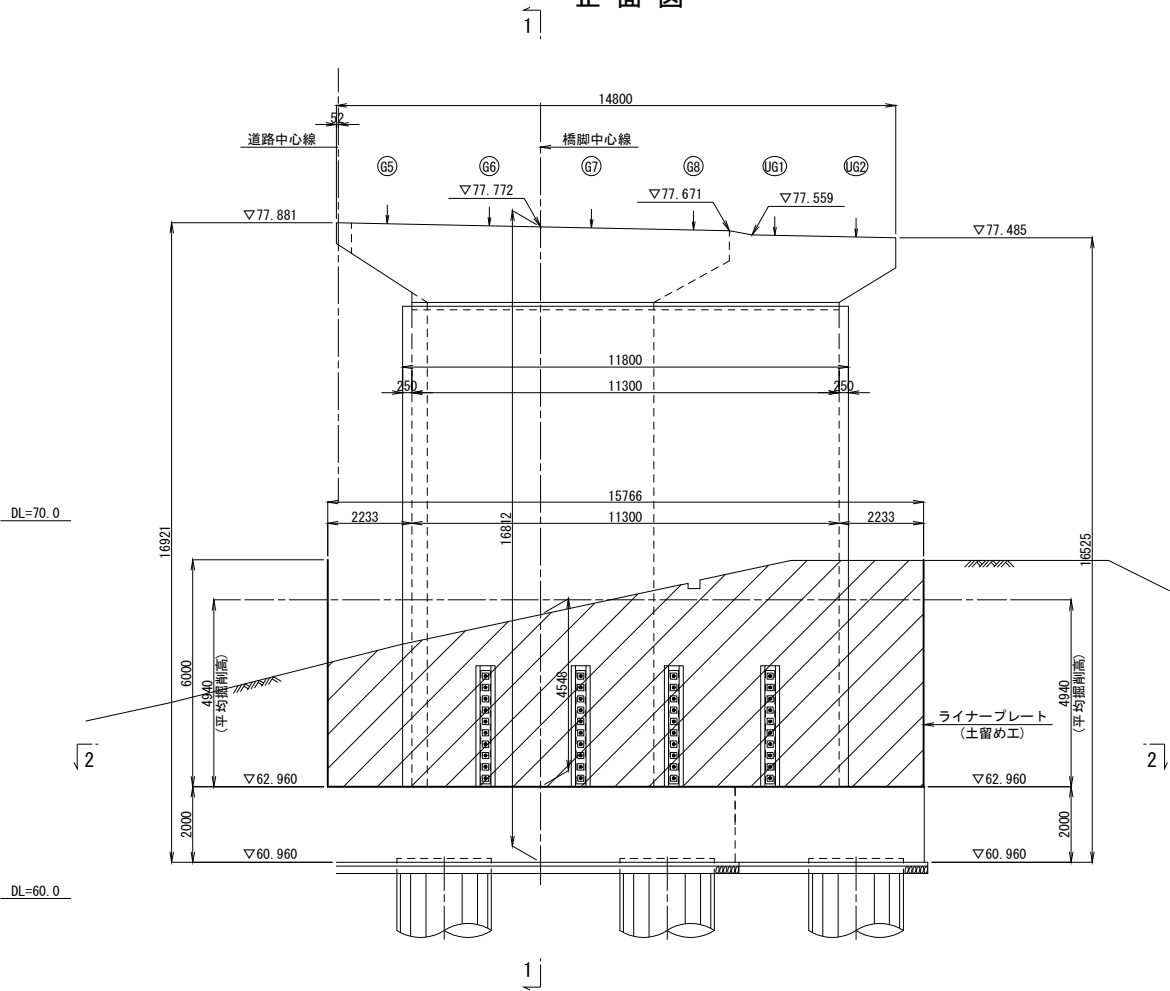


* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。

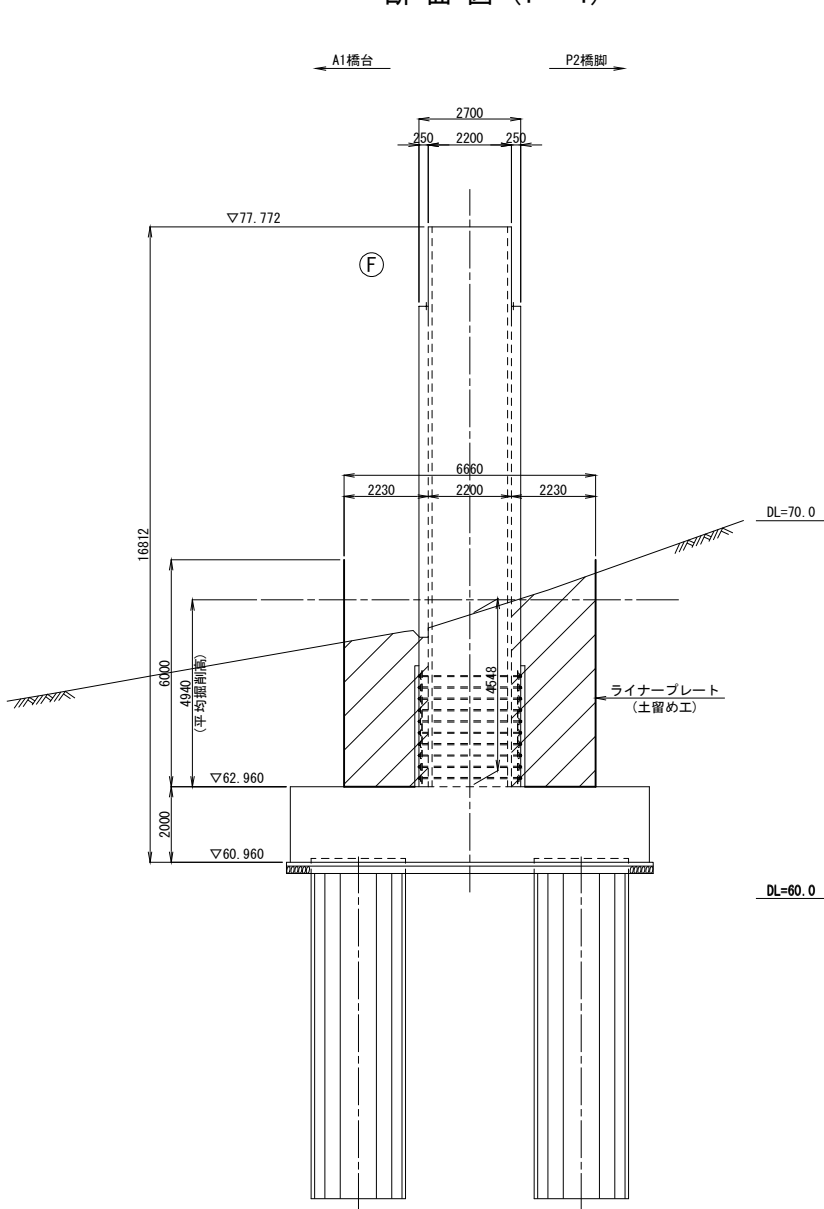
横浜横須賀道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金沢谷第二高架橋 構造物掘削 (その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	6 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

構造物掘削 特殊部C
P2橋脚 上り線

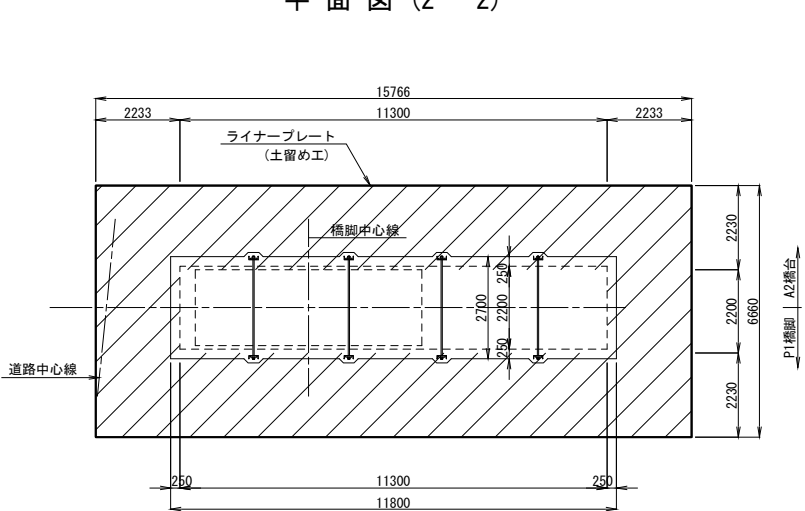
正面図



断面図 (1 - 1)



平面図 (2 - 2)



* 現地盤線は既往の設計成果等を基に設定している。
このため、着工前測量成果を基に適宜見直しを行うこと。

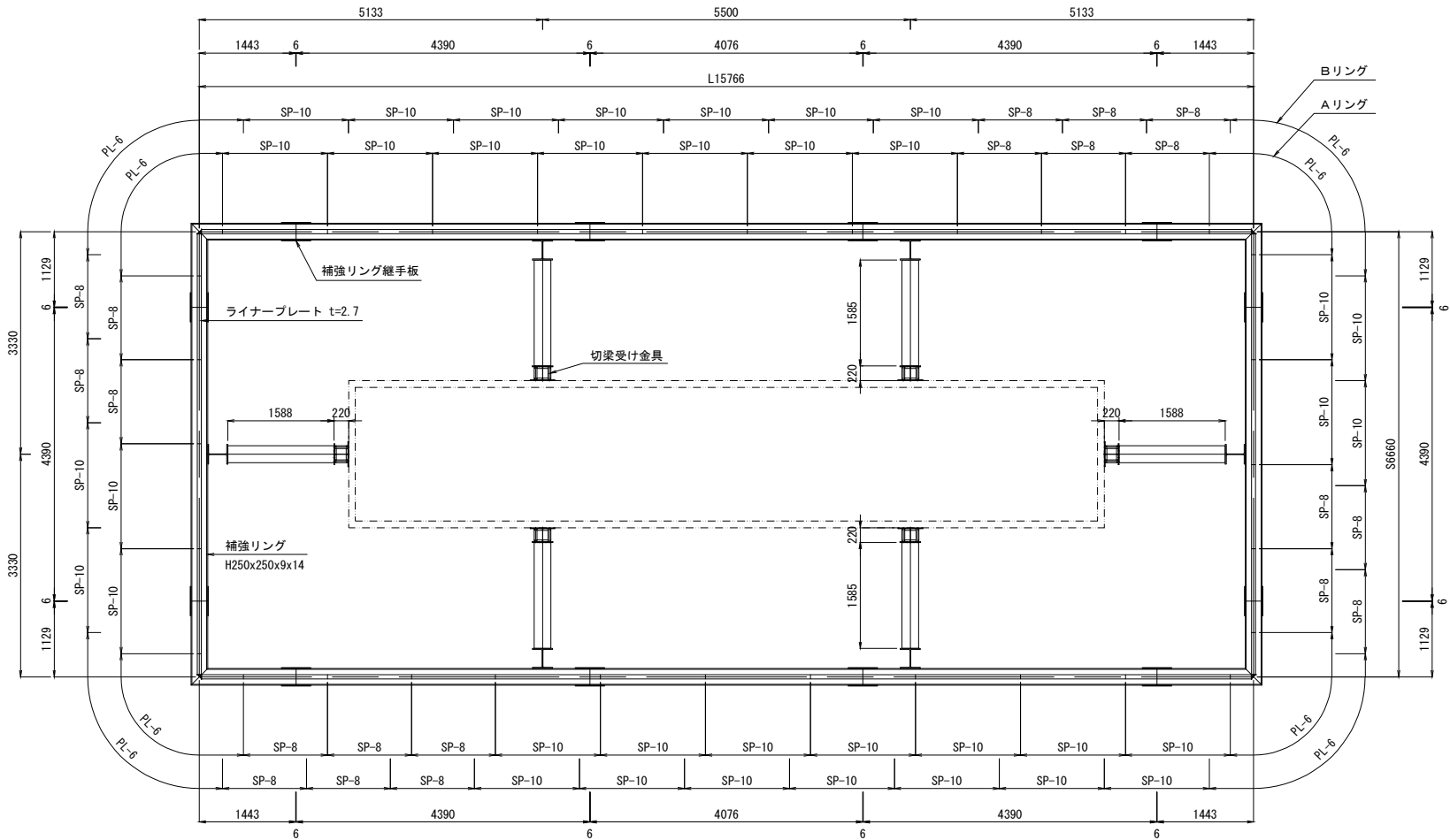
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	8 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

構造物掘削 特殊部C
P2橋脚 上り線

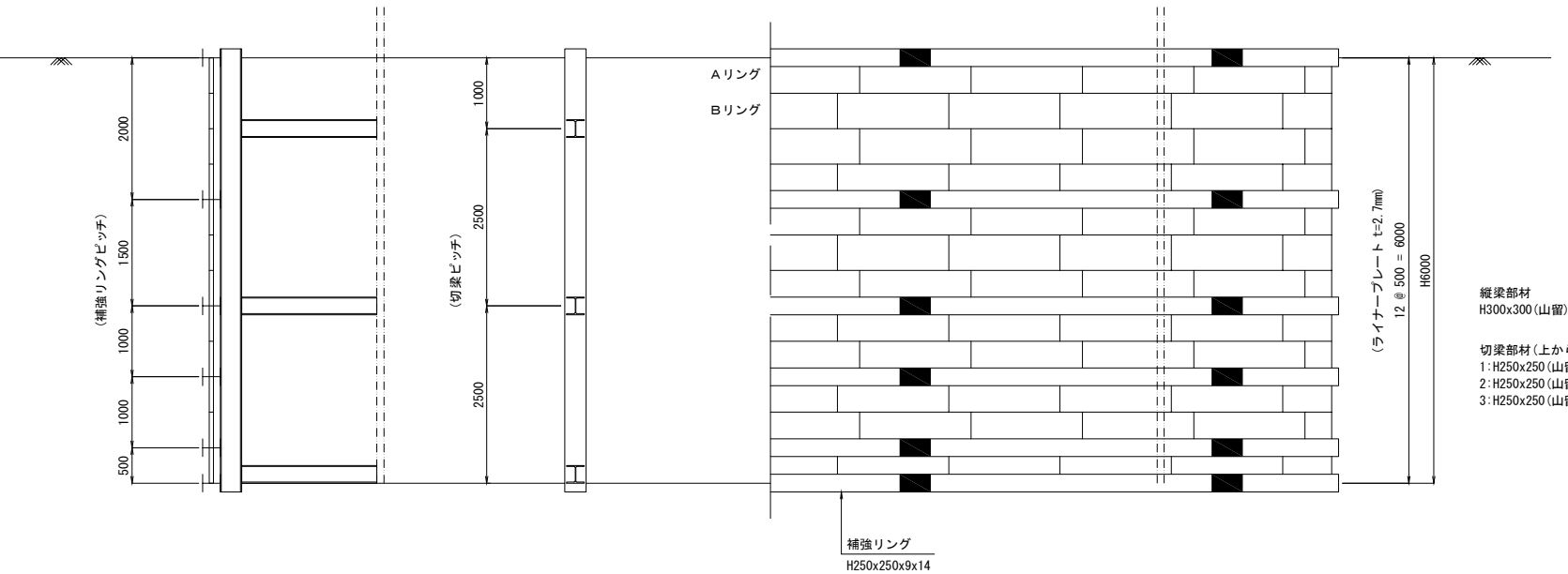
材料表

名 称	寸 法 (mm)	数 量	単 質 (kg)	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=6.0m					
ライナープレート	2.7x500x1570 (SP-10)	216	26.0	5616	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1256 (SP- 8)	120	21.1	2532	黒皮
ライナープレート	2.7x500x1008 (PL- 6)	48	20.8	998	黒皮
組立ボルト	M16x30 (4. 6, L P用)	3524	0.137	483	
組立ボルト	M16x45 (8. 8, H R用)	1704	0.158	269	
小 計				9898	kg
補強リング (H250)・・・6リング (継手部・・・12箇所/1リング当たり)					
直 材	H250x250x9x14x4390	36	315	11340	黒皮
直 材	H250x250x9x14x4076	12	293	3516	黒皮
コーナー材	H250x250x9x14x2572	24	185	4440	黒皮
継手板	PL250x12x440 (SM490)	144	10.4	1498	黒皮
継手ボルト	M20x60 (10. 9)	1728	0.297	513	
小 計				21307	kg
合 計				31205	kg
参考					
縦梁	H300x300x10x15x6250	6	625	3750	山留材
切梁	H250x250x9x14x1585	12	127	1524	山留材
切梁	H250x250x9x14x1588	6	127	762	山留材
合 計				6036	kg
切梁受け金具	H25-T25	18			個
ポリマーセメントモルタル	310x310x30	18	0.003	0.054	m3

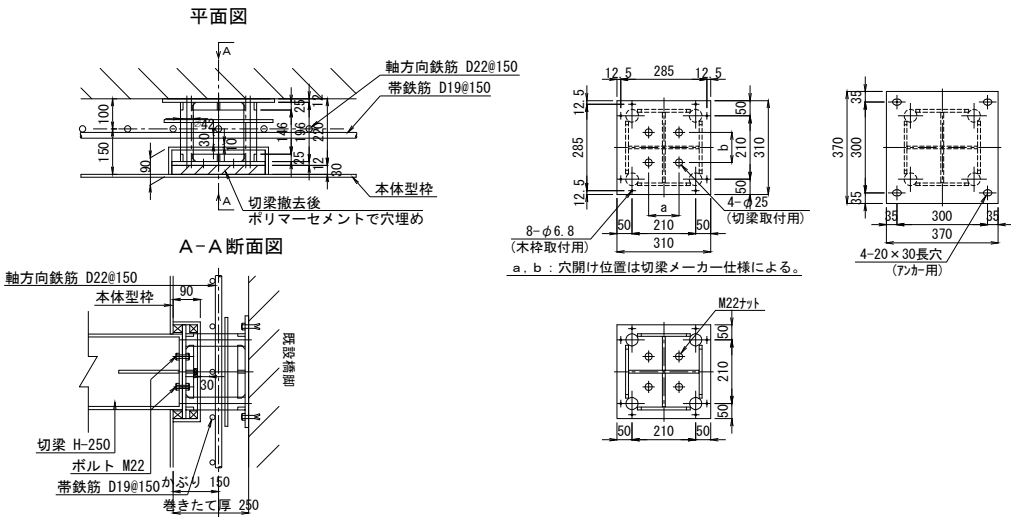
平面図 縮尺 1:100



断面図及び側面図 縮尺 1:100



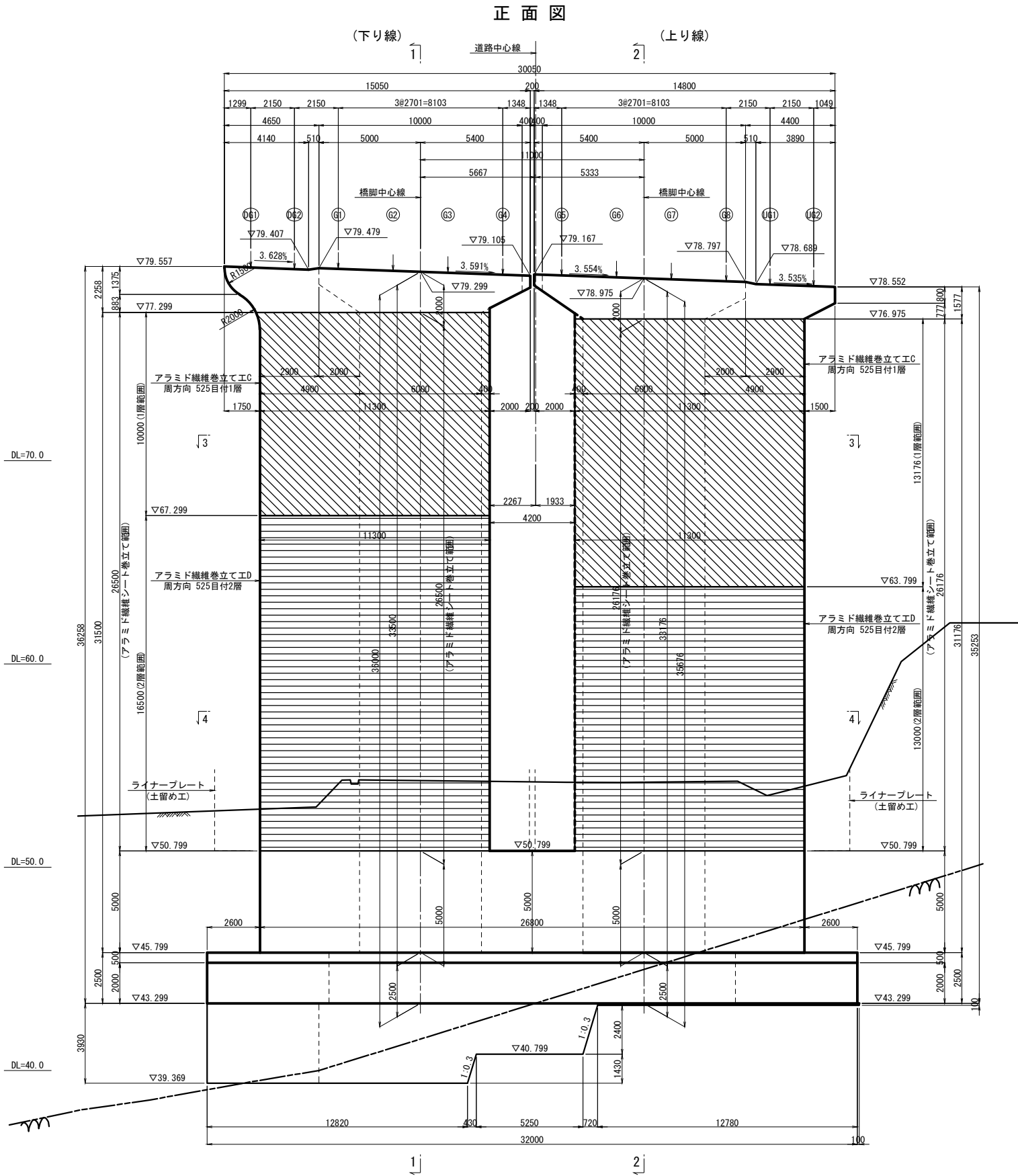
切梁受け金具 詳細図 縮尺 1:25



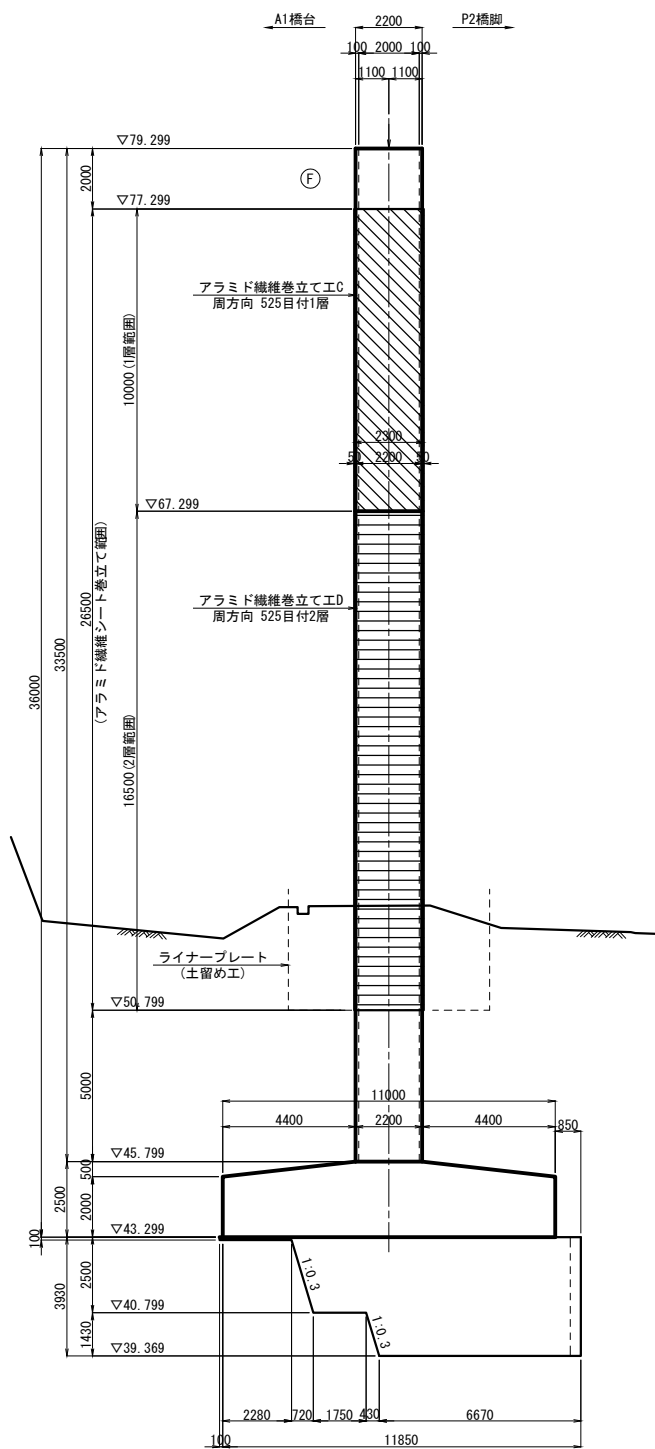
注記)
1. 切梁受け金具は適切な防錆を施すものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 構造物掘削(その8)		
縮 尺	図 示	図面番号	9 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

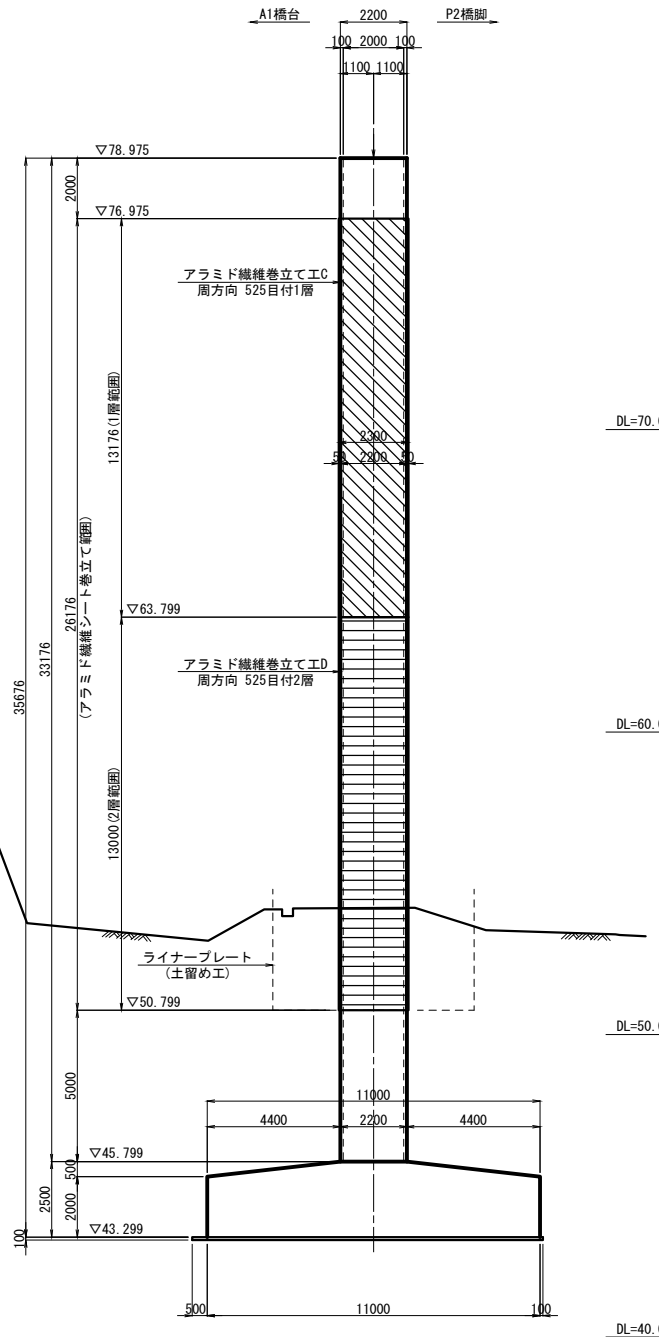
正面図



断面図 (1 - 1)



断面図 (2 - 2)



アラムド繊維シート性能表

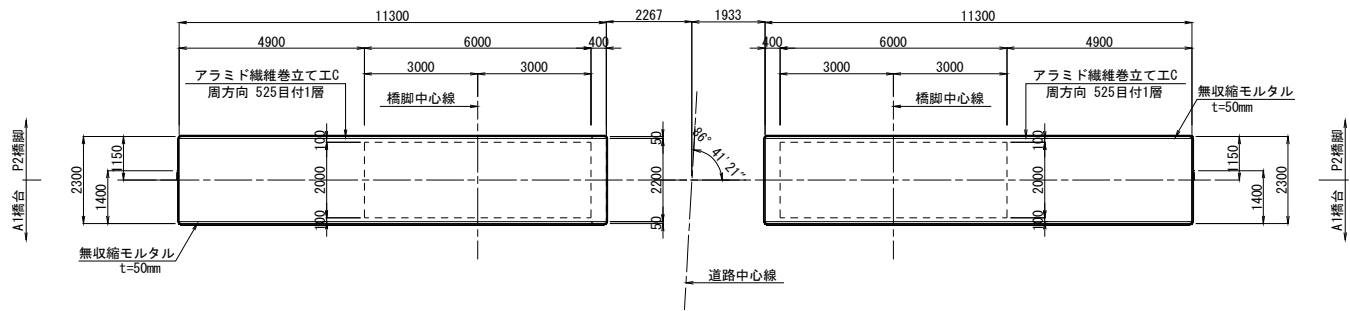
繊維目付 (g/m ²)	引張強度 (N/mm ²)	設計厚さ (mm/枚)
525	2.350	0.378

注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。

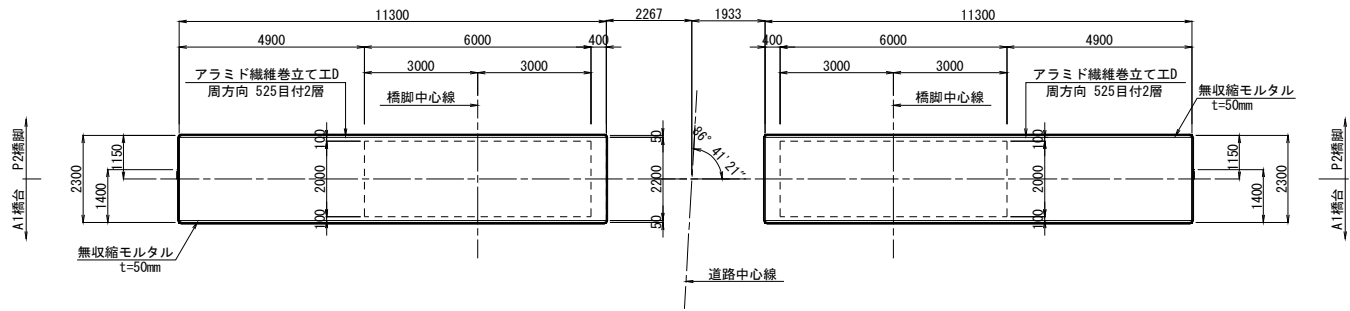
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 耐震補強詳細図（その1）		
縮 尺	図 示	図面番号	10 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

躯体部補強詳細図

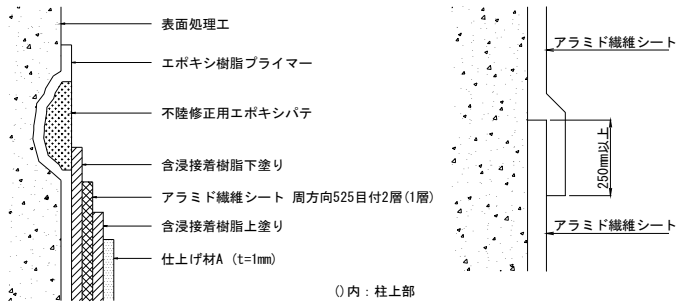
平面図 (3 - 3)



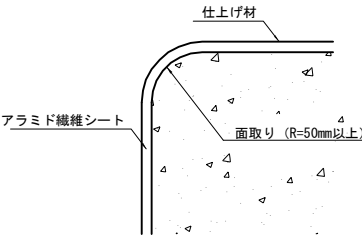
平面図 (4 - 4)



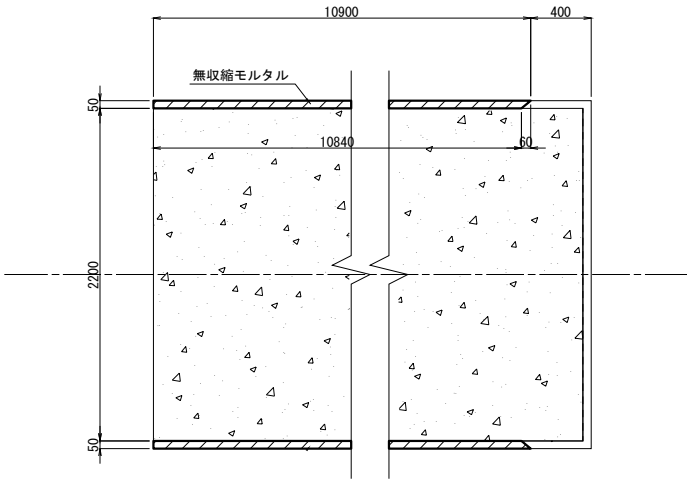
アラミド繊維シート施工断面図 重ね継手部詳細図



面取り部詳細図

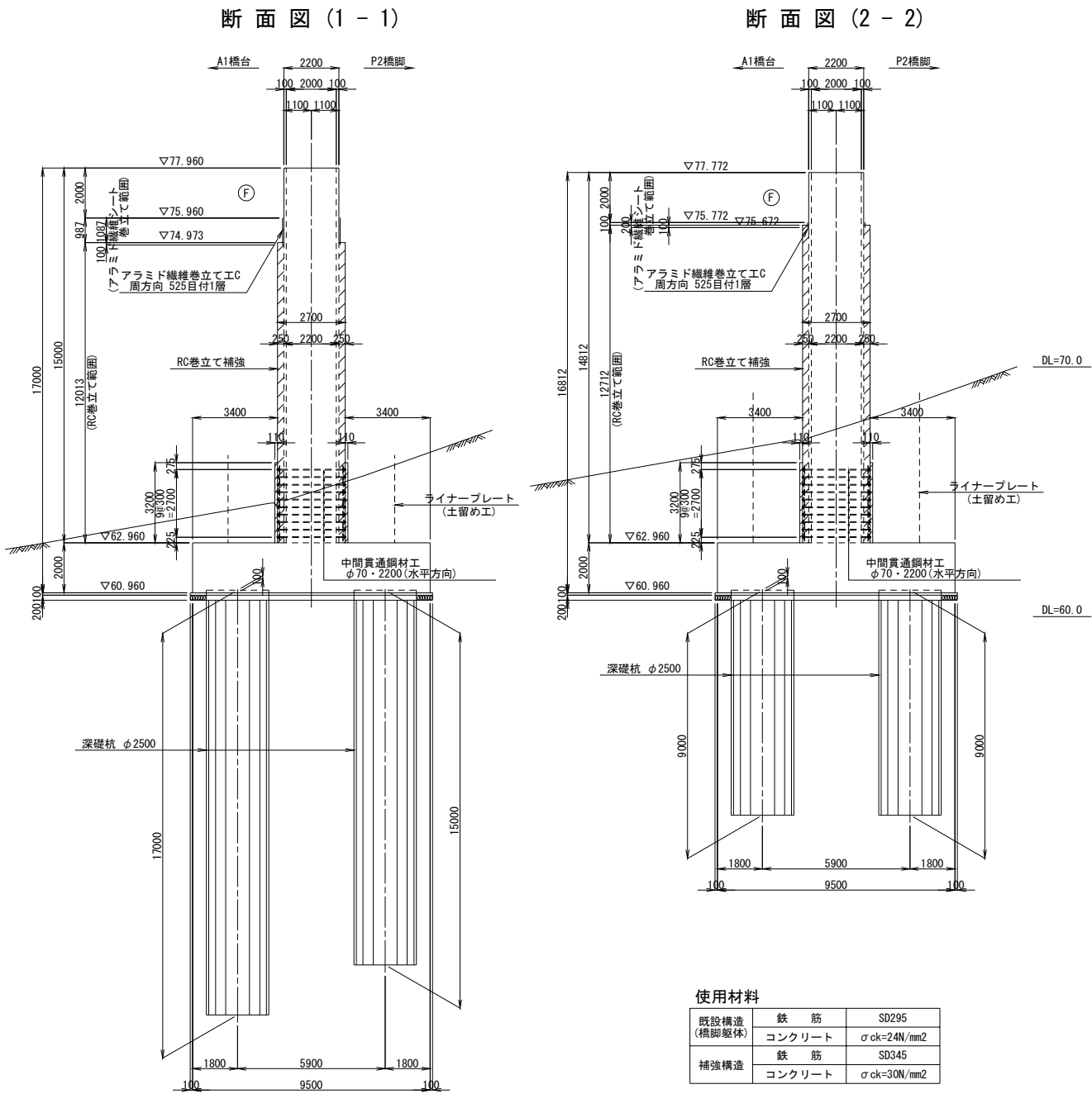
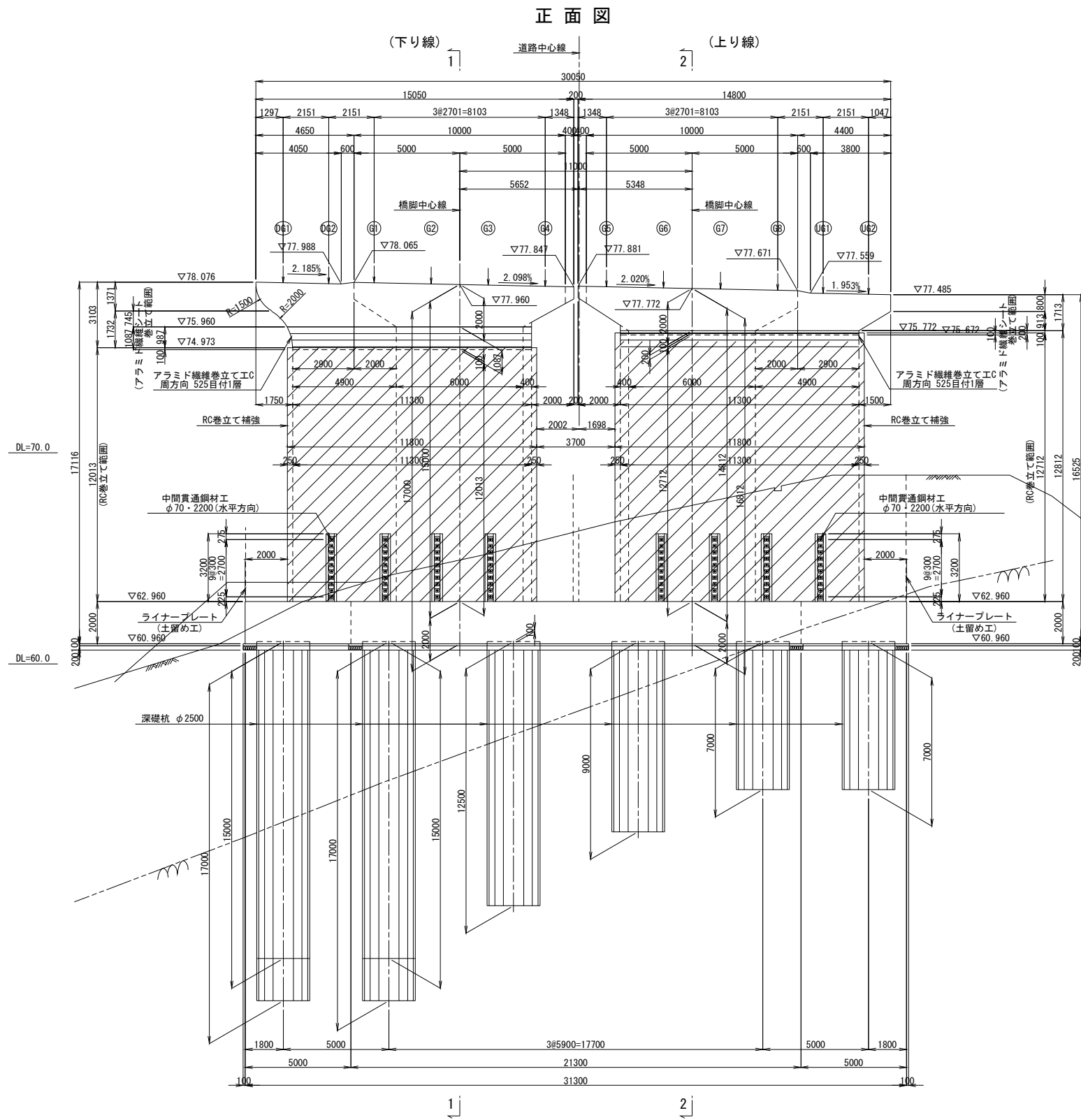


無収縮モルタル詳細図



注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 柱断面の隅角部は、半径50mm以上の面取りを行うこと。
3. アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い突起部を平らにすること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 耐震補強詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	11 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



注記)

1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。

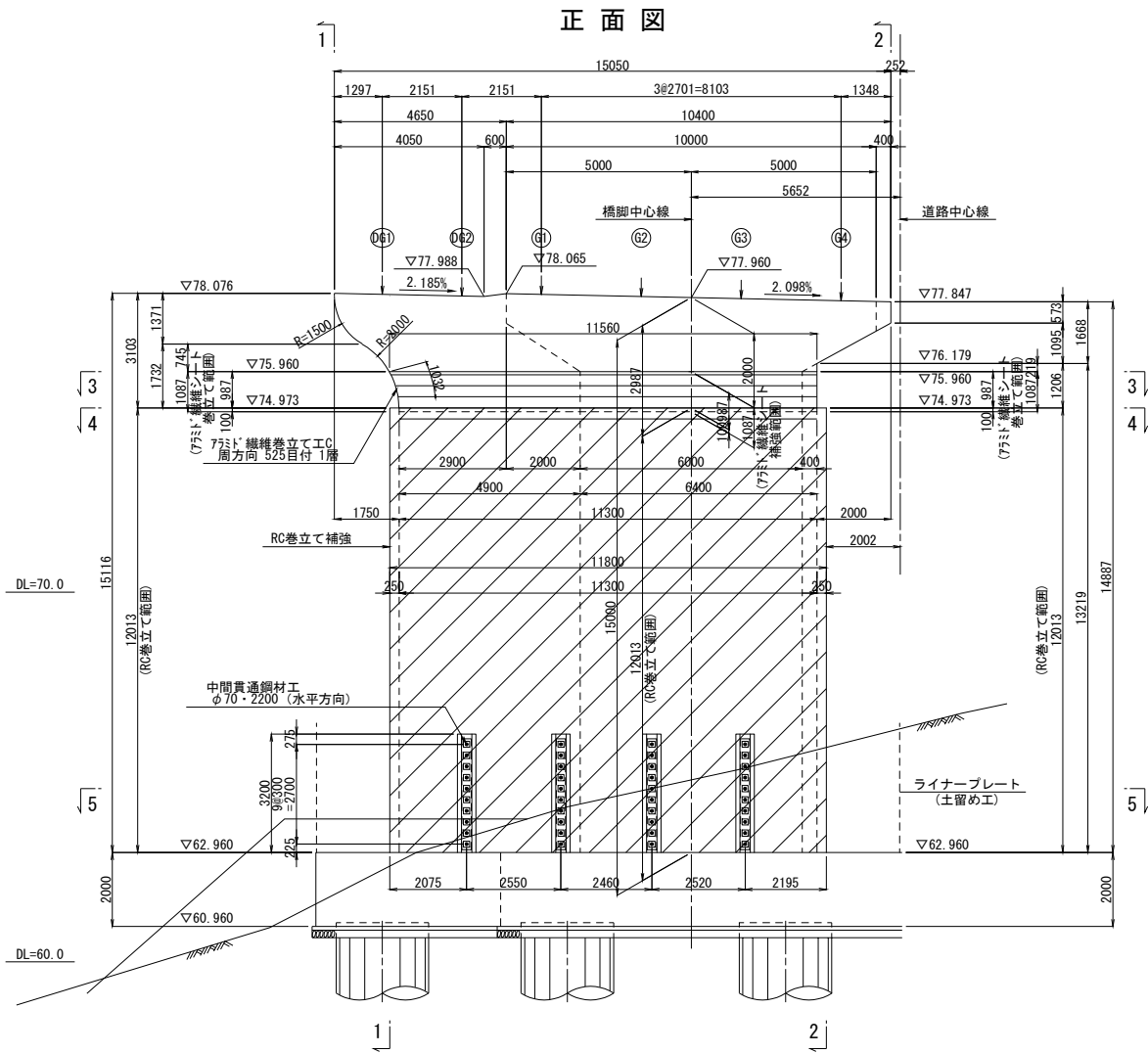
2. 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シート
の接合面は、全て表面処理を行うこと。

3. は、RC巻立て補強を示す。

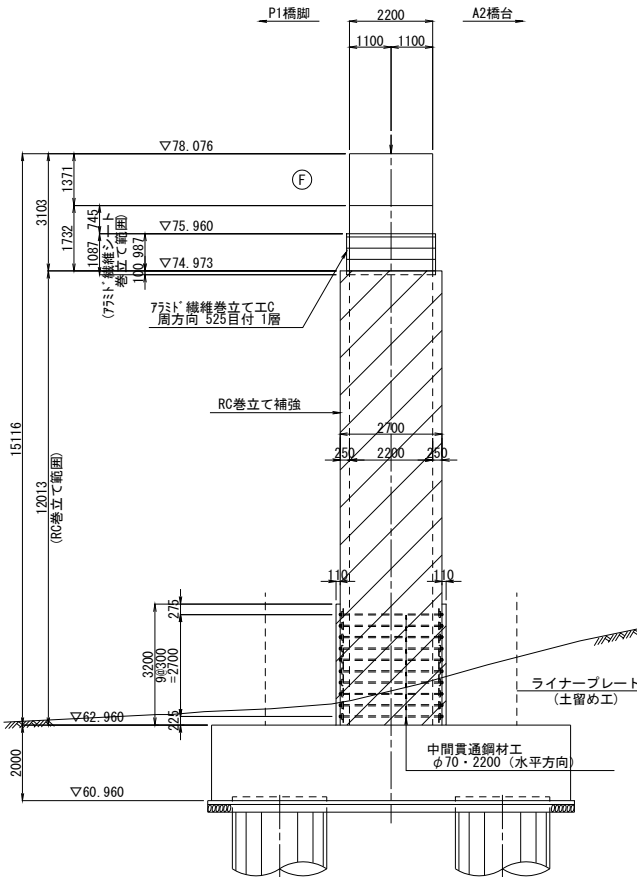
4. は、アラミド繊維巻立て工を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 耐震補強構造一般図（その1）		
縮	尺	図 示	図面番号	12 / 112
設計会社名		株式会社 近代設計		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

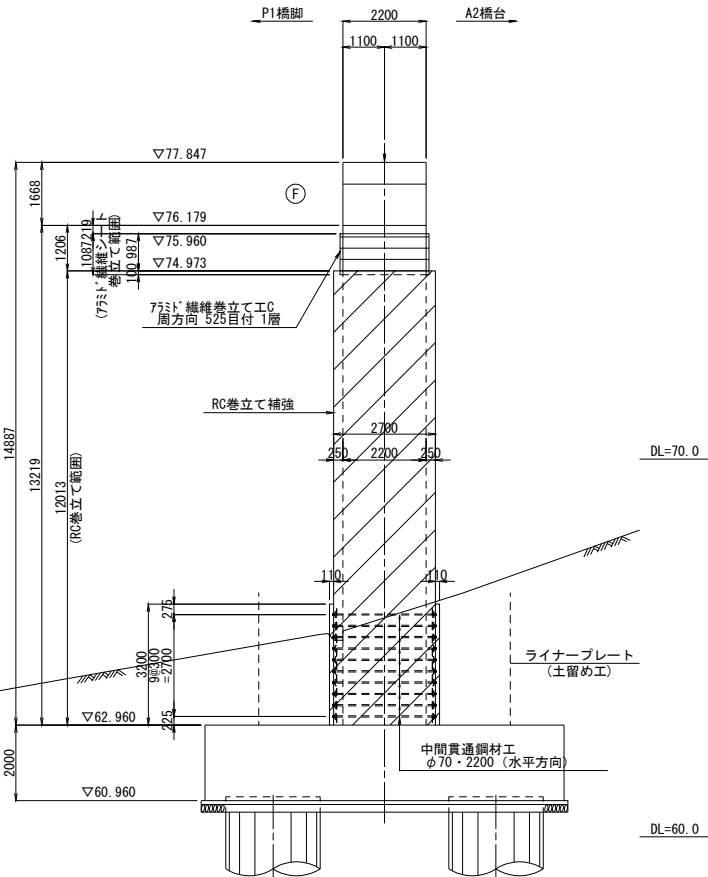
下り線 躯体部補強詳細図



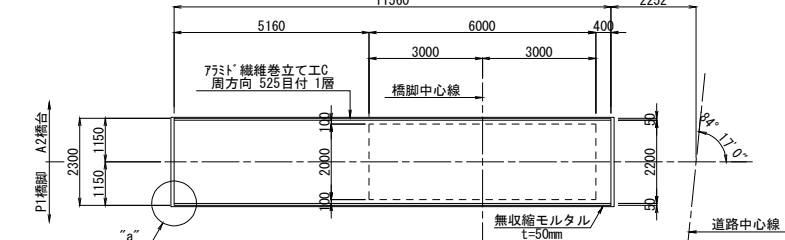
側面図 (1 - 1)



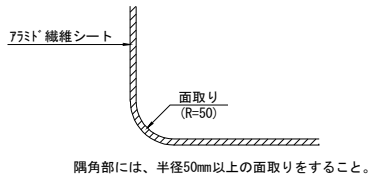
側面図 (2 - 2)



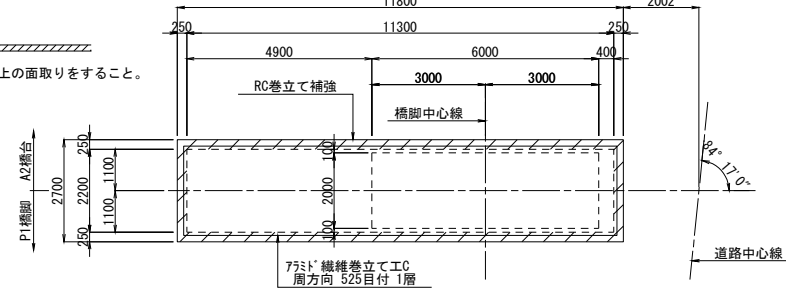
平面図 (3 - 3)



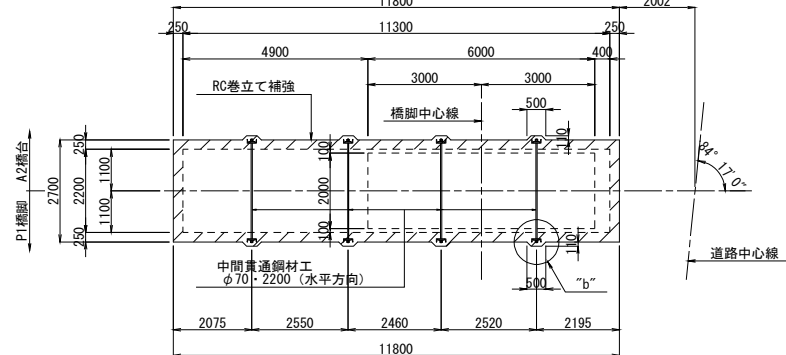
"a"部詳細図 S=1:10



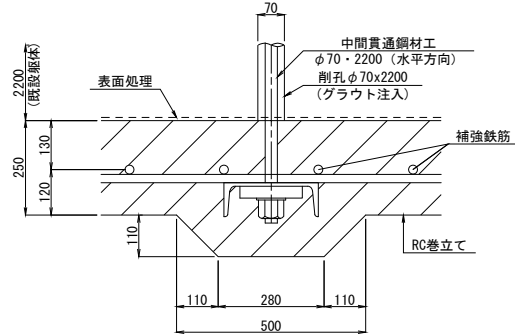
平面図 (4 - 4)



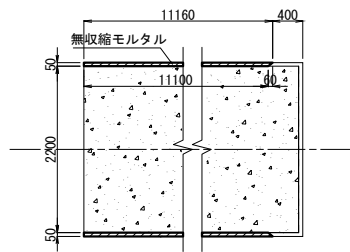
平面図 (5 - 5)



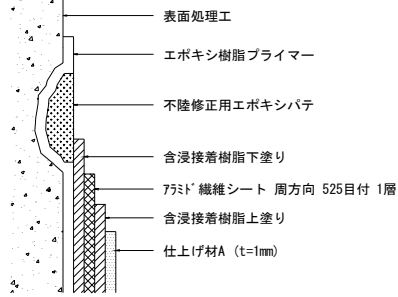
"b"部詳細図 S=1:20



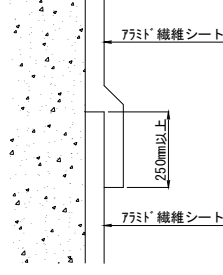
無収縮モルタル詳細図



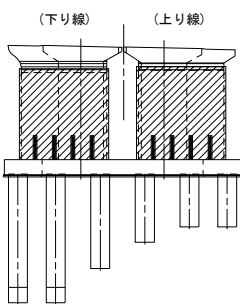
アラミド繊維シート施工断面図



重ね継手部詳細図



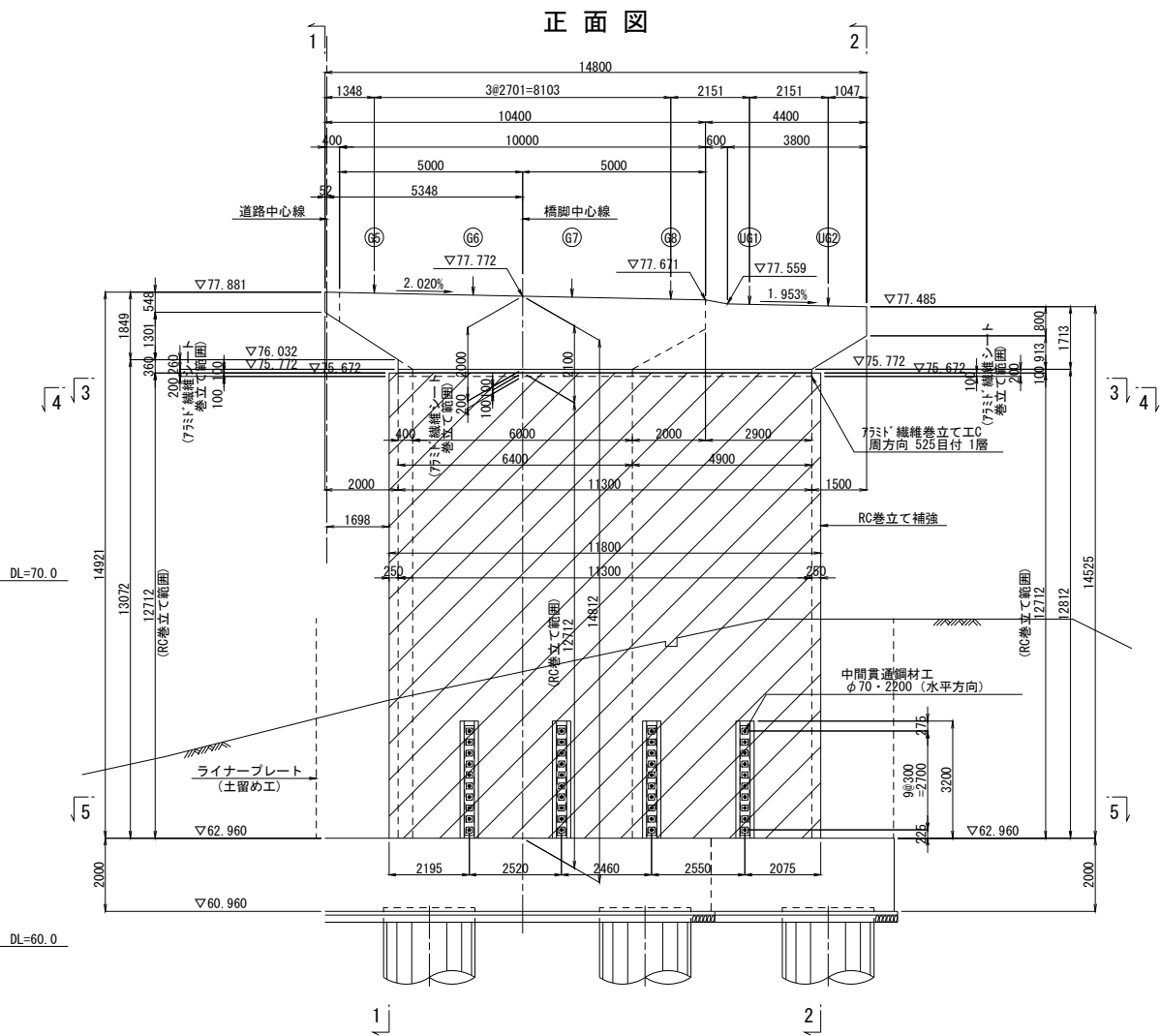
位置図



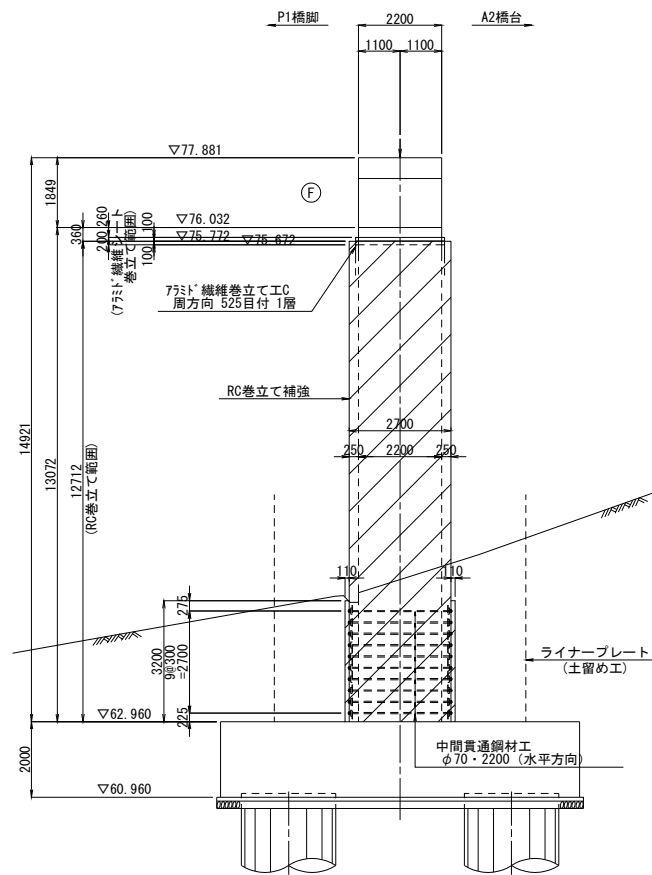
- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. [Symbol] は、RC巻立て補強を示す。
 4. [Symbol] は、アラミド繊維巻立て工を示す。
 5. 含浸接着樹脂はアラミド繊維シートの規格に合わせ、適切な量で施工すること。
 6. アラミド繊維シート巻立て部に著しい断面欠損や豆板等の不良部が確認された場合は、監督員と協議すること。
 7. アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い突起部を平らにすること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚	図面番号	13 / 112
縮 尺	図 示	図面番号	13 / 112
設計会社名	耐震補強構造一般図(その2)		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

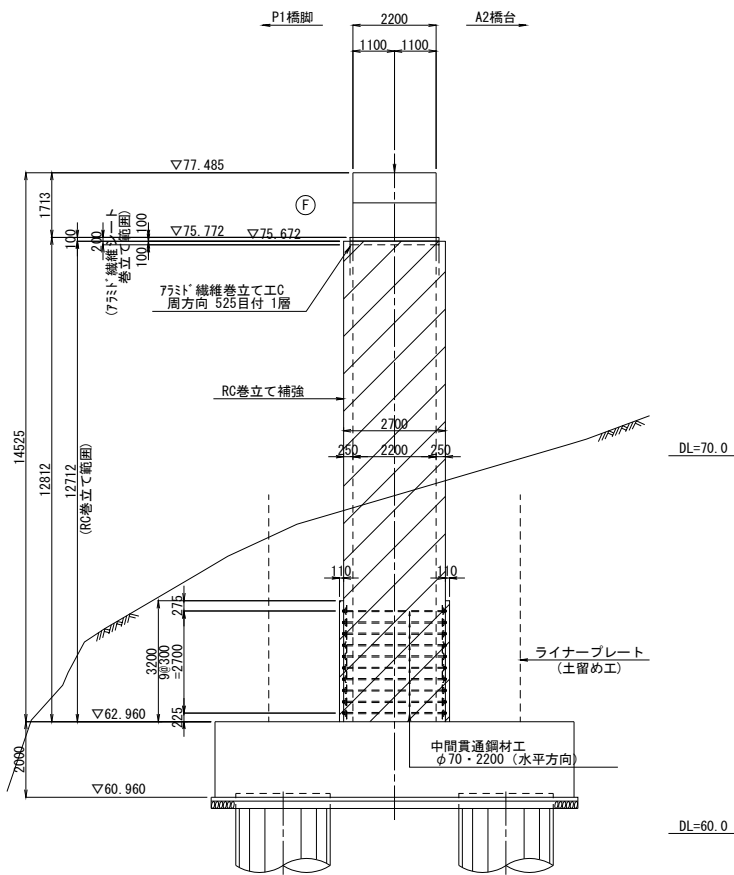
上り線 躯体部補強詳細図



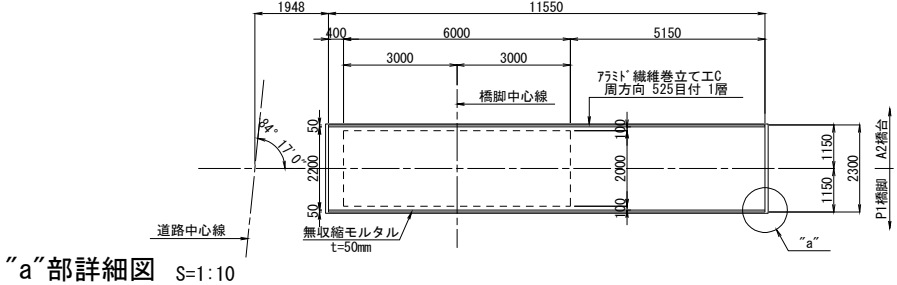
側面図 (1 - 1)



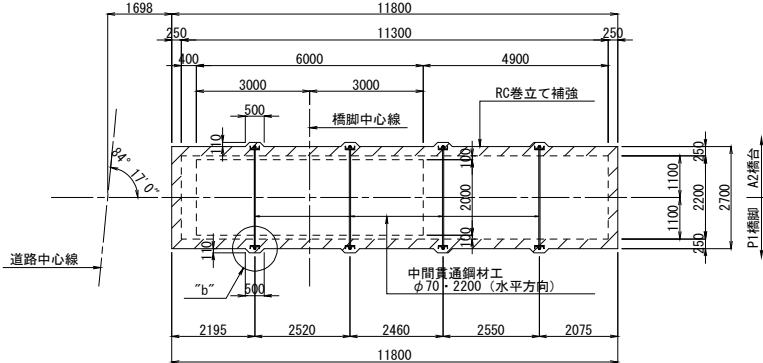
側面図 (2 - 2)



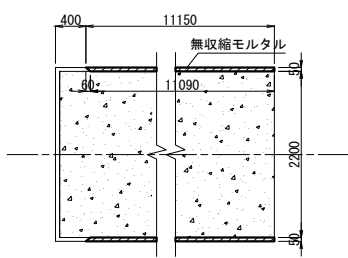
平面図 (3 - 3)



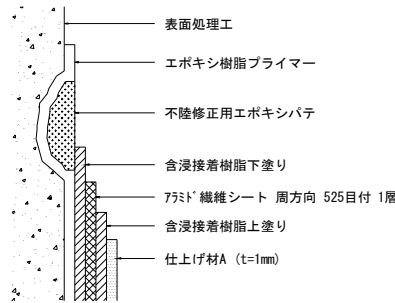
平面図 (5 - 5)



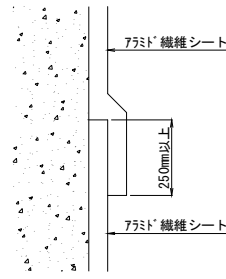
無収縮モルタル詳細図



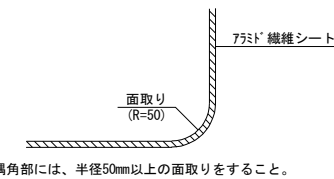
アラミド繊維シート施工断面図



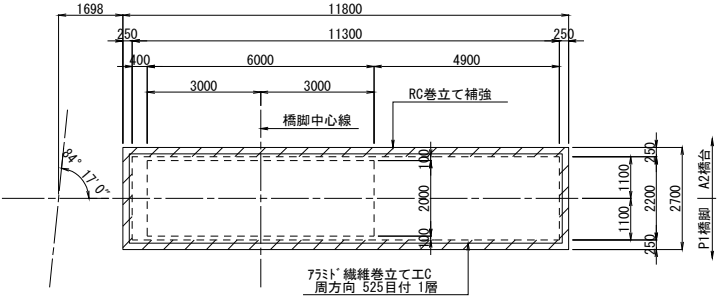
重ね継手部詳細図



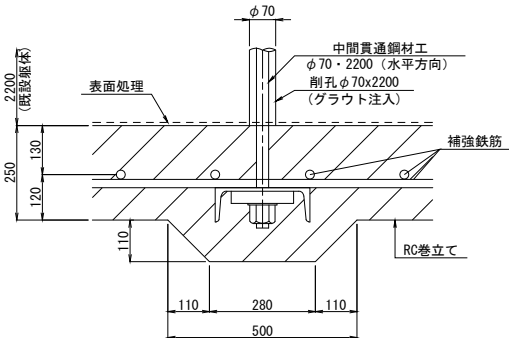
"a"部詳細図 S=1:10



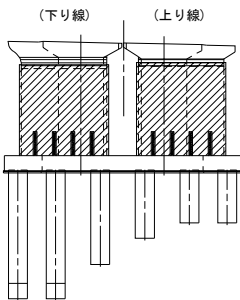
平面図 (4 - 4)



"b"部詳細図 S=1:20

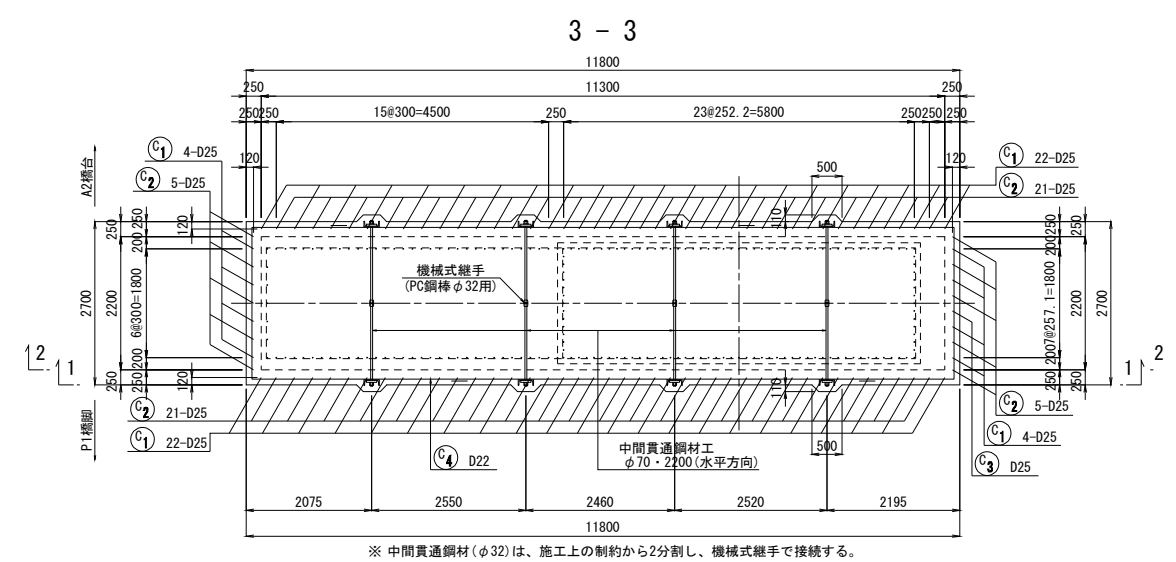
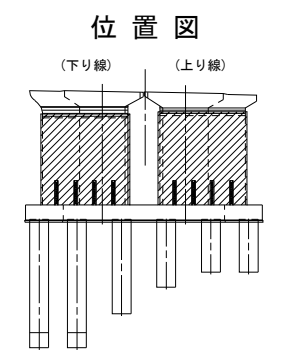
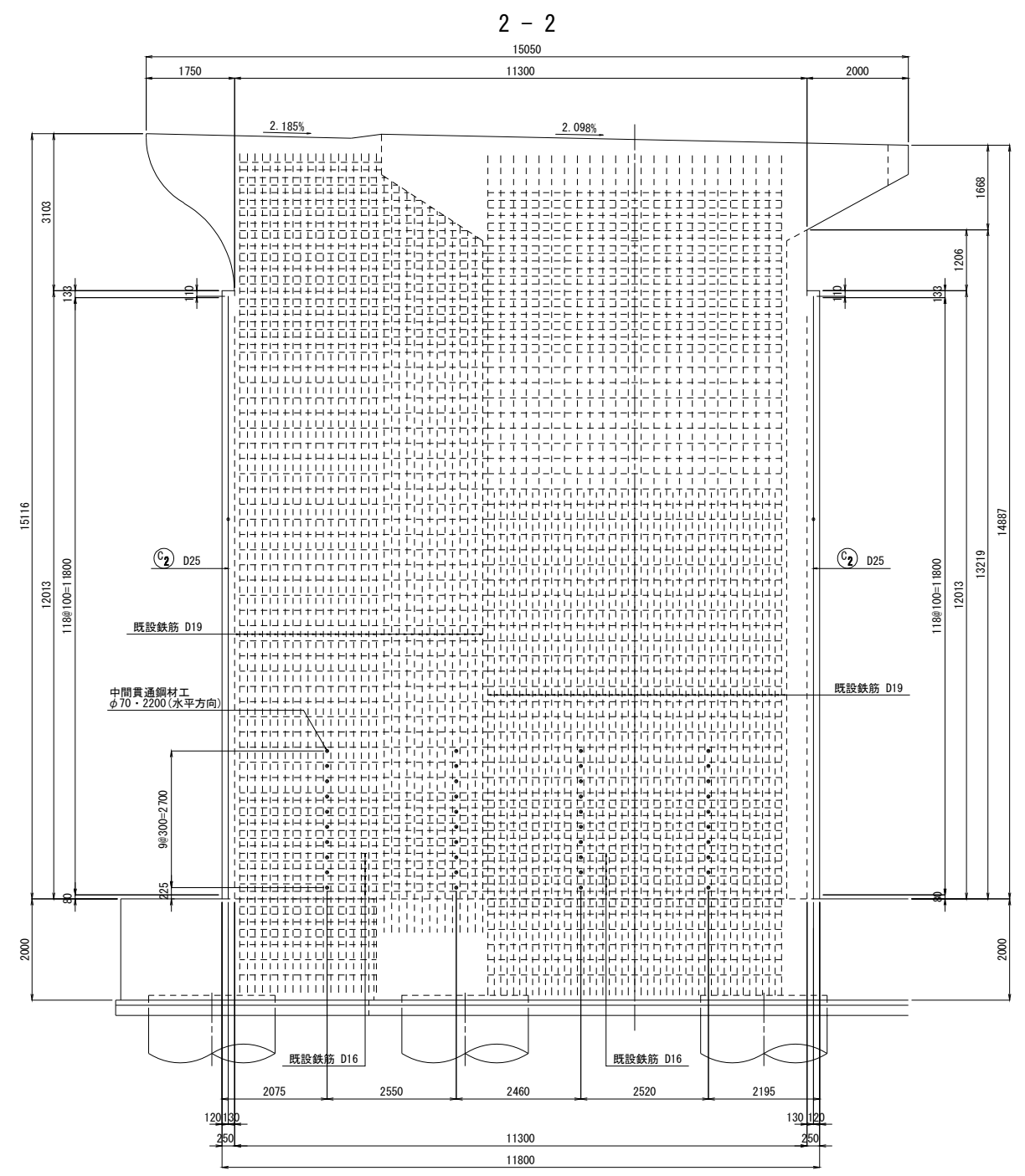
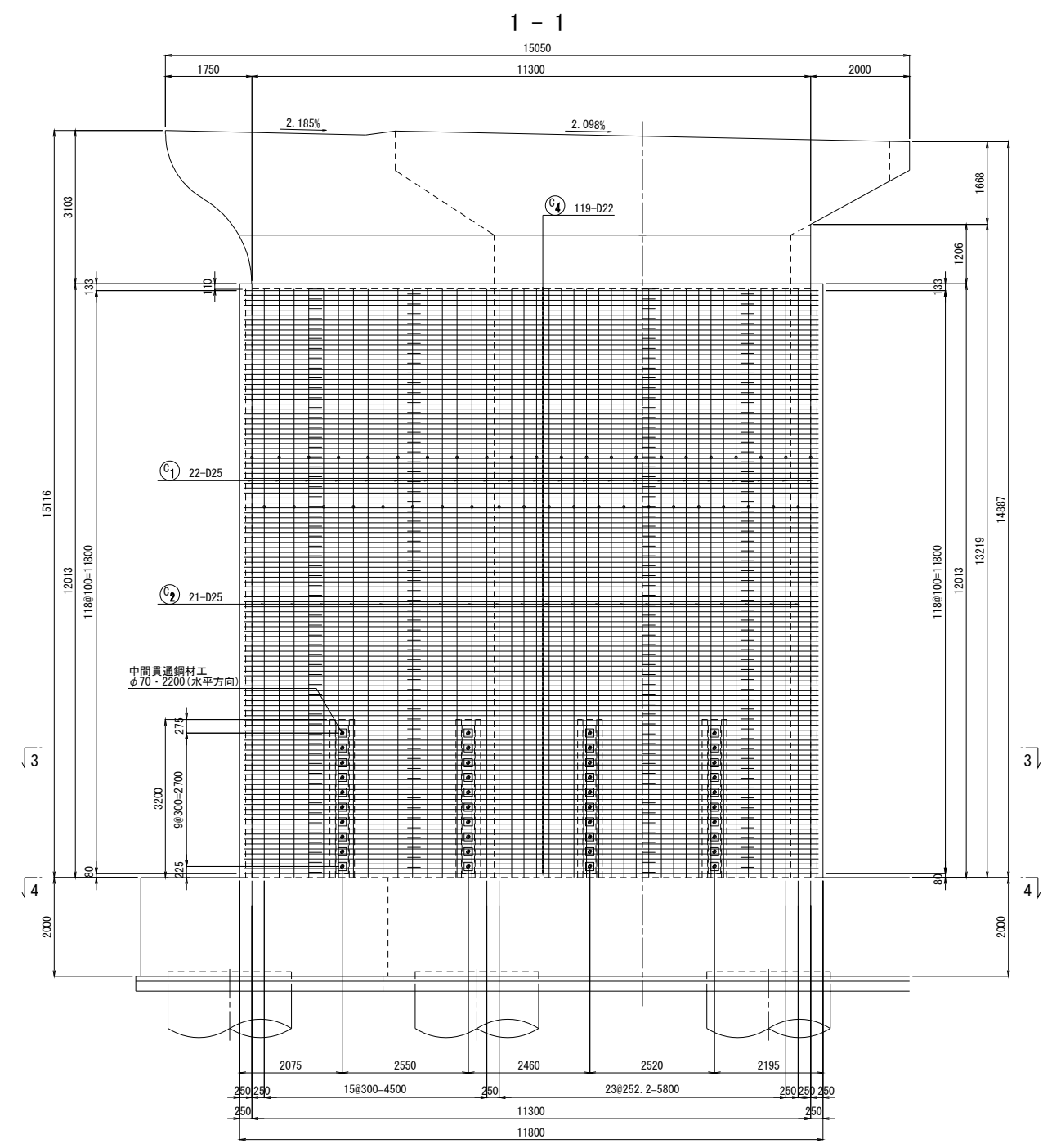


位置図



- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと、新設コンクリートおよびアラミド繊維シートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. 斜線は、アラミド繊維巻立て工を示す。
 4. 斜線は、アラミド繊維巻立て工を示す。
 5. 含浸接着樹脂はアラミド繊維シートの規格に合わせ、適切な量で施工すること。
 6. アラミド繊維シート巻立て部に著しい断面欠損や豆板等の不良部が確認された場合は、監督員と協議すること。
 7. アラミド繊維シート巻立て前に無収縮モルタルにて増し厚を行い突起部を平らにすること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚 耐震補強構造一般図(その3)	図面番号	14 / 112
縮 尺	図 示	図面番号	14 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

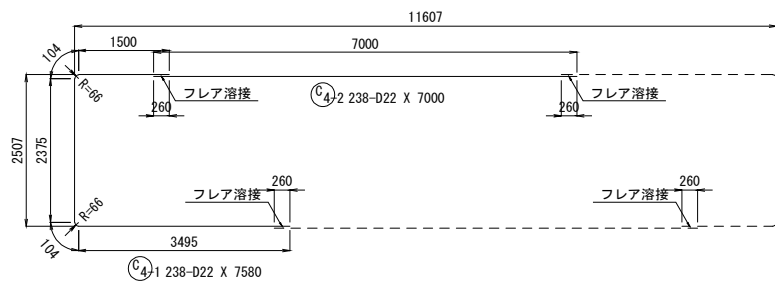
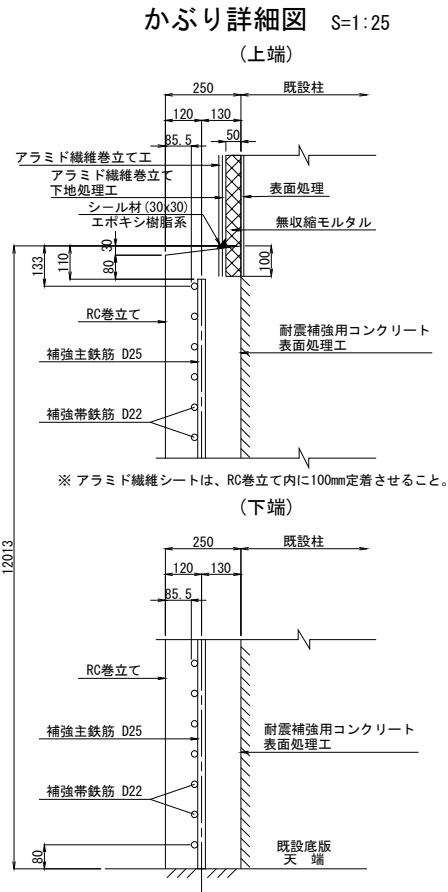
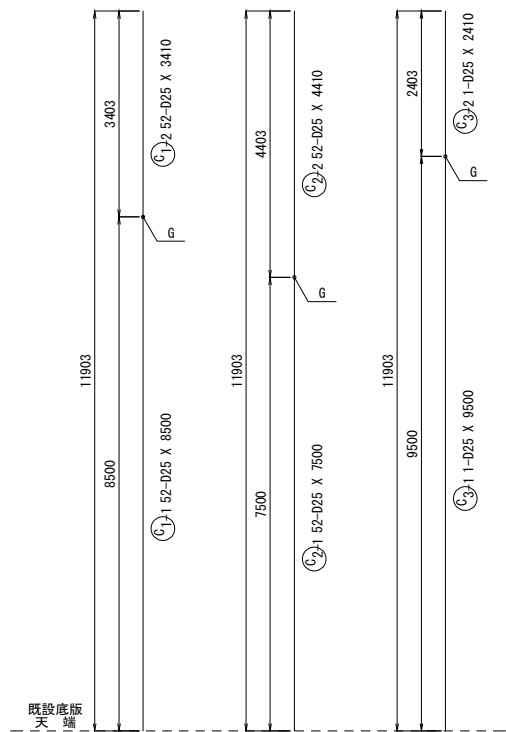
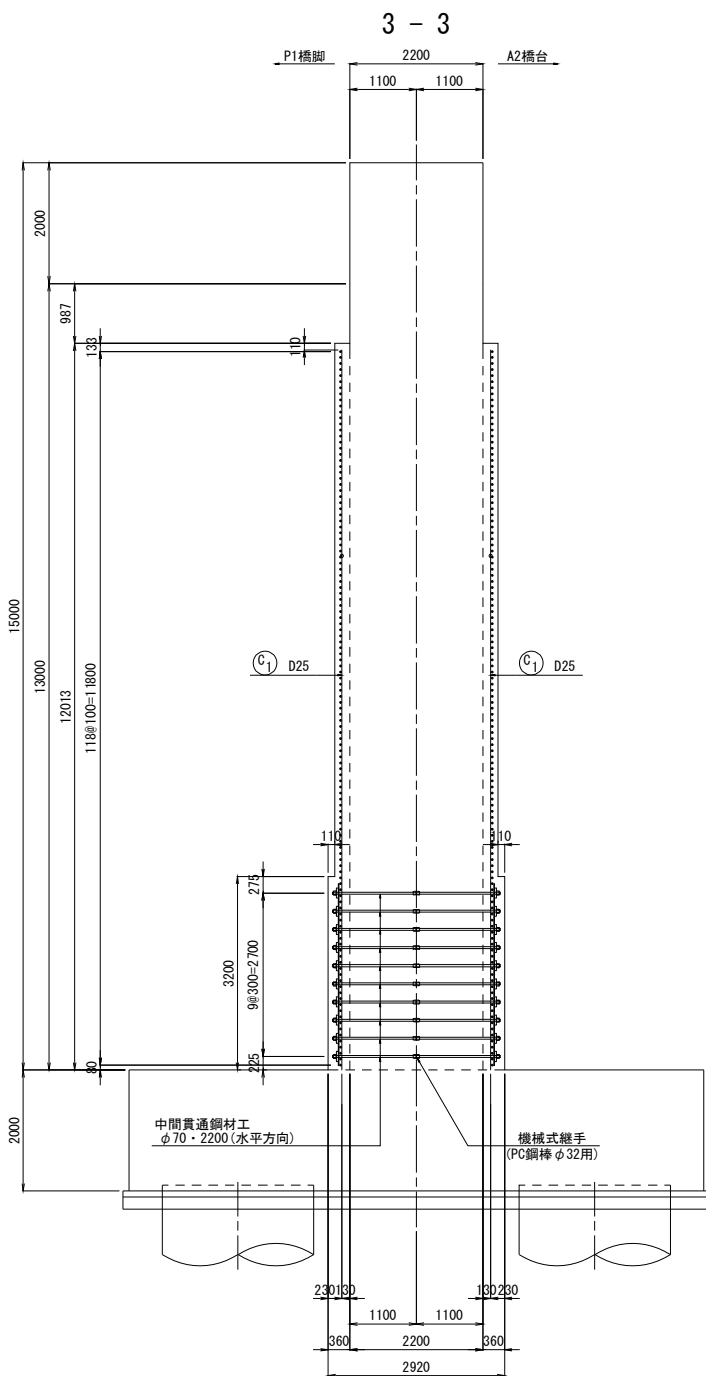
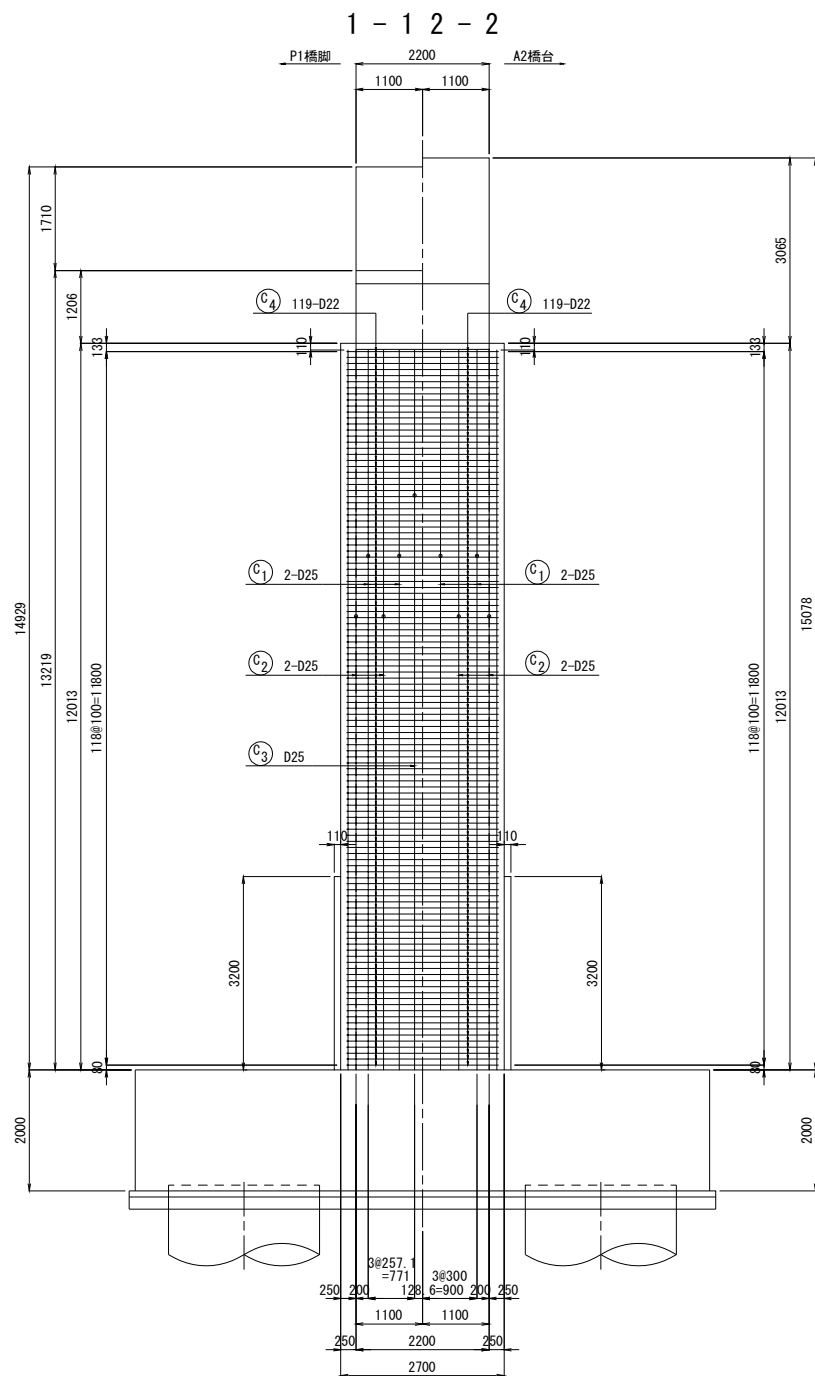


※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

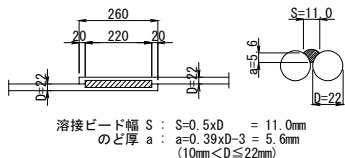
- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

既設構造 (橋脚躯体)	鉄 筋	SD295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
補強構造	鉄 筋	SD345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$

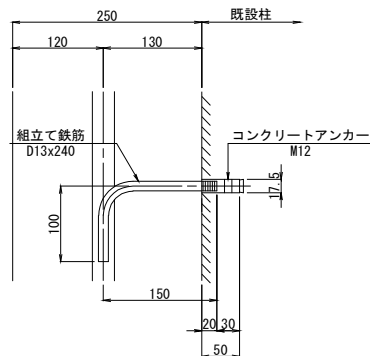
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	15 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



フレア溶接詳細図



組立て筋参考図 S=1:10

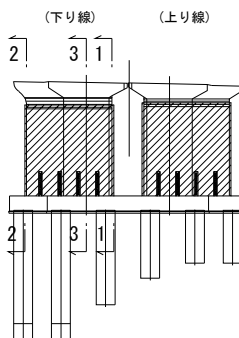


組立て筋参考数量

(下り線1基当り)						
組立て鉄筋	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
組立て鉄筋	D13	240	325	0.995	0.239	78 kg
(SD345)						
	D13		78 kg			
コンクリートアンカー	M12		325 本			

※ 組立て筋本数 324.4m2 x 1本/m2 = 325本

位置図

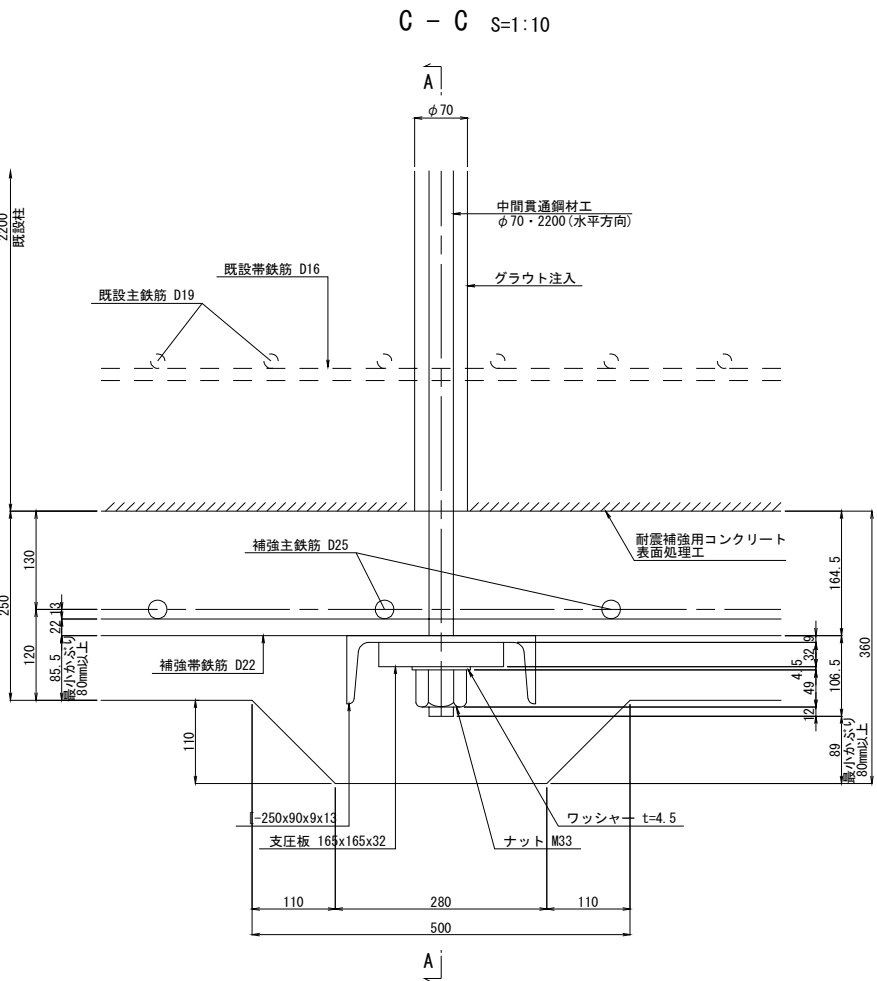
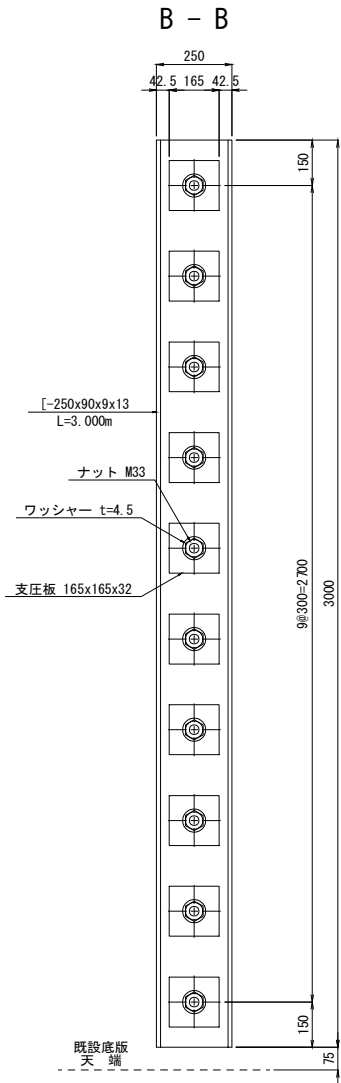
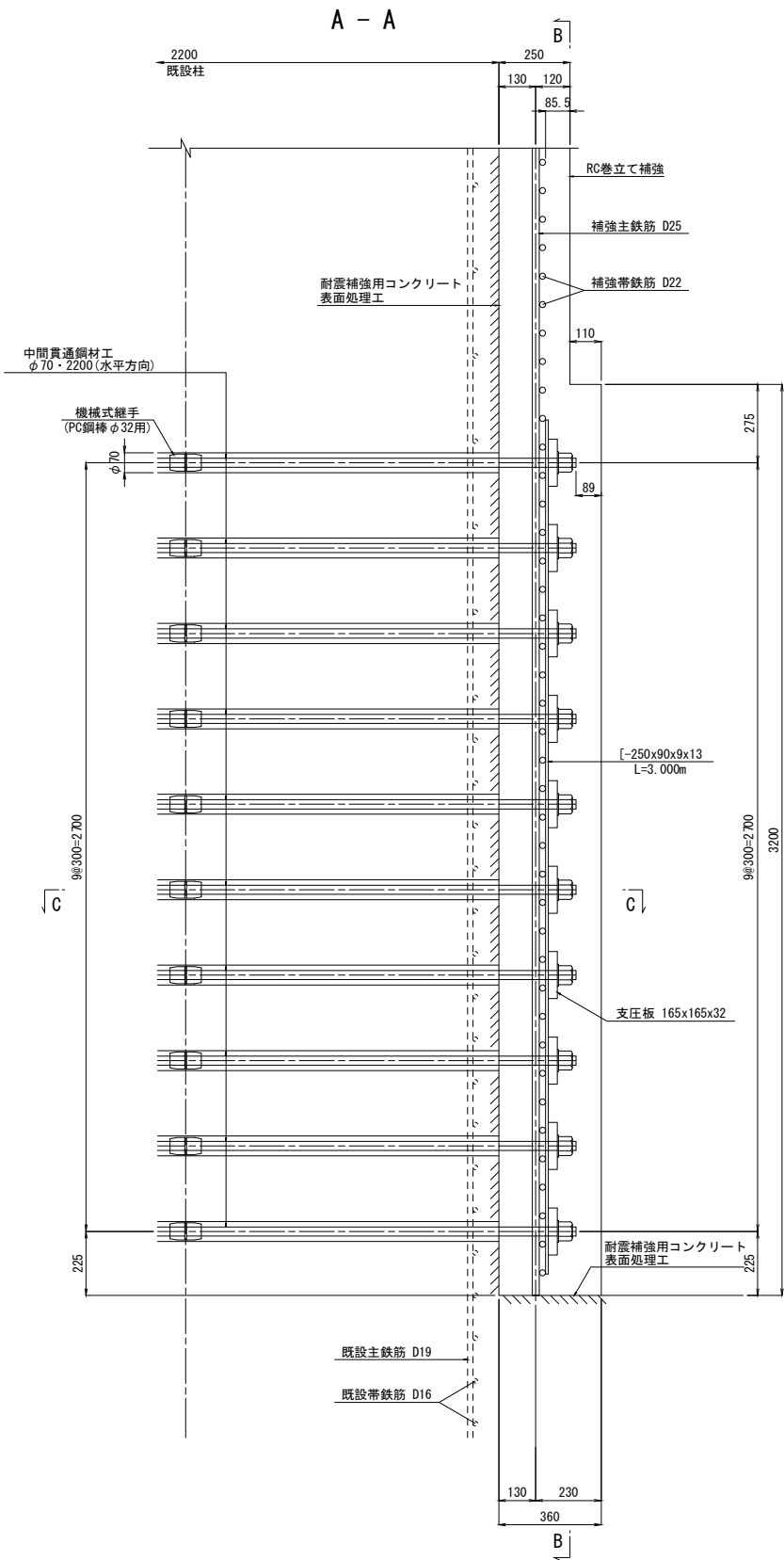


注記)

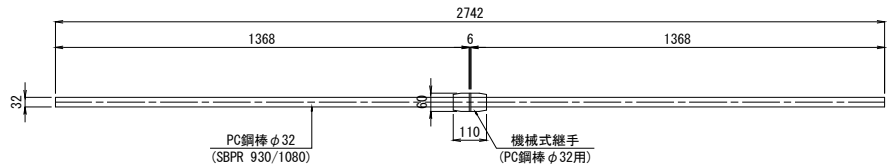
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 耐震補強詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	16 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

PC鋼材定着部・かぶり詳細図



PC鋼棒詳細図



※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

鉄筋質量表

記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
H<25m							
C 1-1	D25	8500	52	3.98	33.8	1758	I (52)
C 1-2	"	3410	52	"	13.6	707	I
C 2-1	"	7500	52	"	29.9	1555	I (52)
C 2-2	"	4410	52	"	17.6	915	I
C 3-1	"	9500	1	"	37.8	38	I (1)
C 3-2	"	2410	1	"	9.59	10	I
C 4-1	D22	7580	238	3.04	23.0	5474	□ (238)
C 4-2	"	7000	238	"	21.3	5069	□ (238)
						15526 kg	
(SD345)			T	(ガス圧接箇所数)		[フレア溶接箇所数]	
D25			4983 kg	(105)			
D22			10543 kg			[476]	
総質量			15526 kg	(105)		[476]	

注) ()内は、ガス圧接箇所数、[]内は、フレア溶接箇所数を示す。

PC鋼材質量

(下り線1基当り)							
径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要	
PC鋼棒 φ32	1368	80	6.31	8.63	690	SBPR930/1080	
機械式継手 (PC鋼棒 φ32用)			40 個				

型鋼質量

(下り線1基当り)							
径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要	
[-250x90x9x13	3000	8	34.6	104	832	SS400	

削孔集計表

(下り線1基当り)					
削孔径(mm)	x	L(mm)	方 向	箇所数	
φ32	φ70 x 2200mm	水 平	40		

鉄筋加工寸法表
曲げ加工時の減長

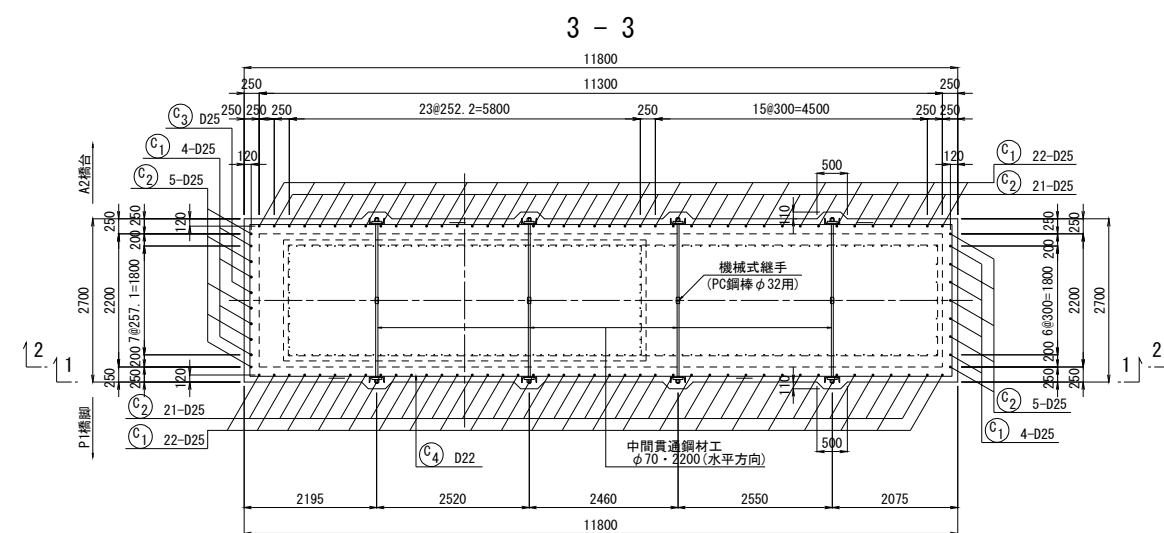
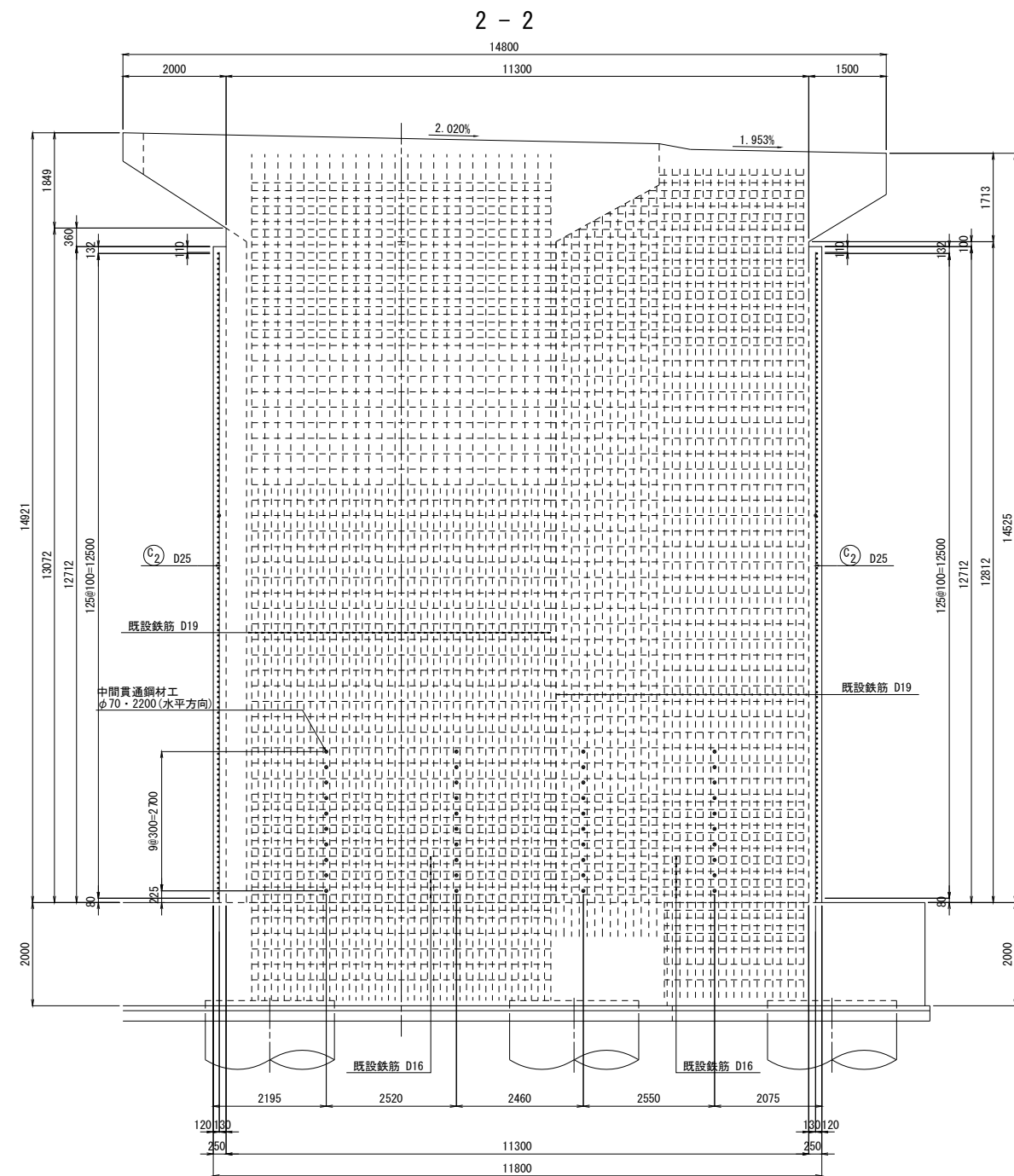
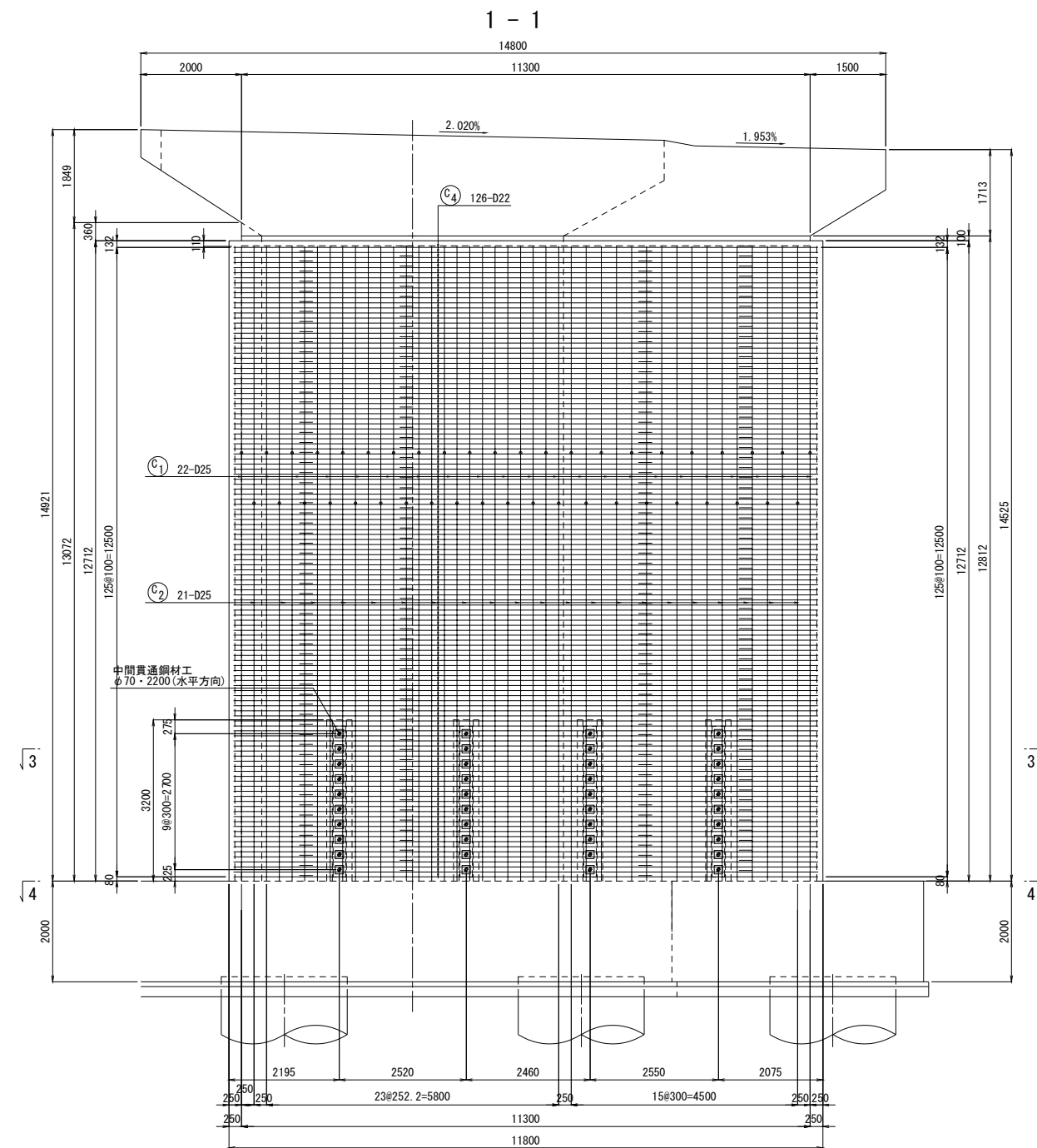
径	90°			135°		
	R	a	Δl	R	a	Δl
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6
D29	87	137	37	159.5	125	7
D32	96	151	41	176	138	8
D35	105	165	45	192.5	151	8
D38	114	179	49	209	164	9
D41	123	193	53	225.5	177	10
D51	153	240	66	280.5	220	12

$\Delta l = R \cdot (1 - \cos \theta)$
 $\theta > 90^\circ$ $R = 5\phi + 1/2\phi$
 $\theta \leq 90^\circ$ $R = 2.5\phi + 1/2\phi$

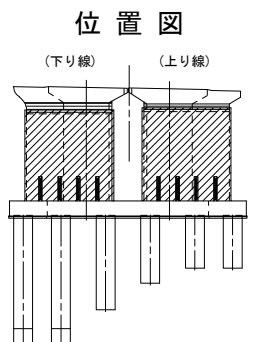
注記)

- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 耐震補強詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	17 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



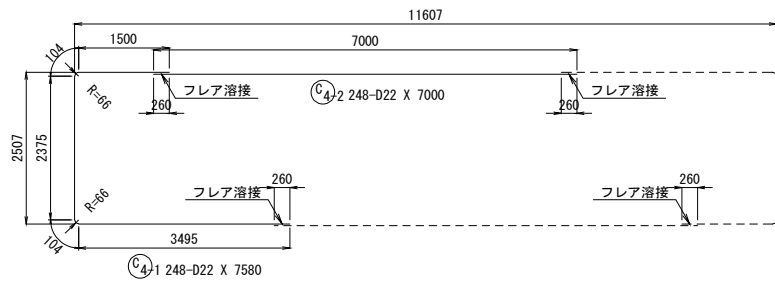
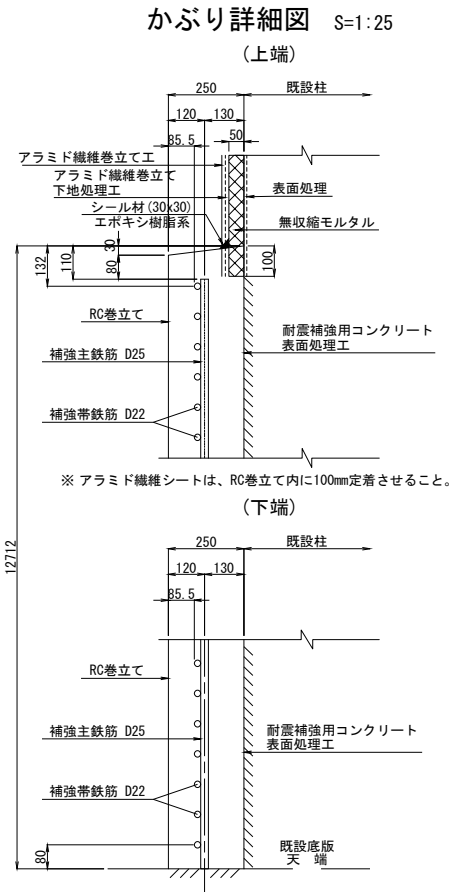
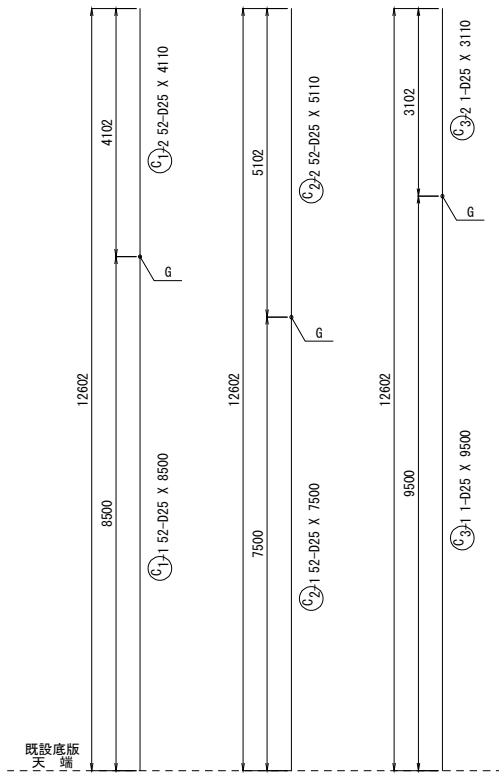
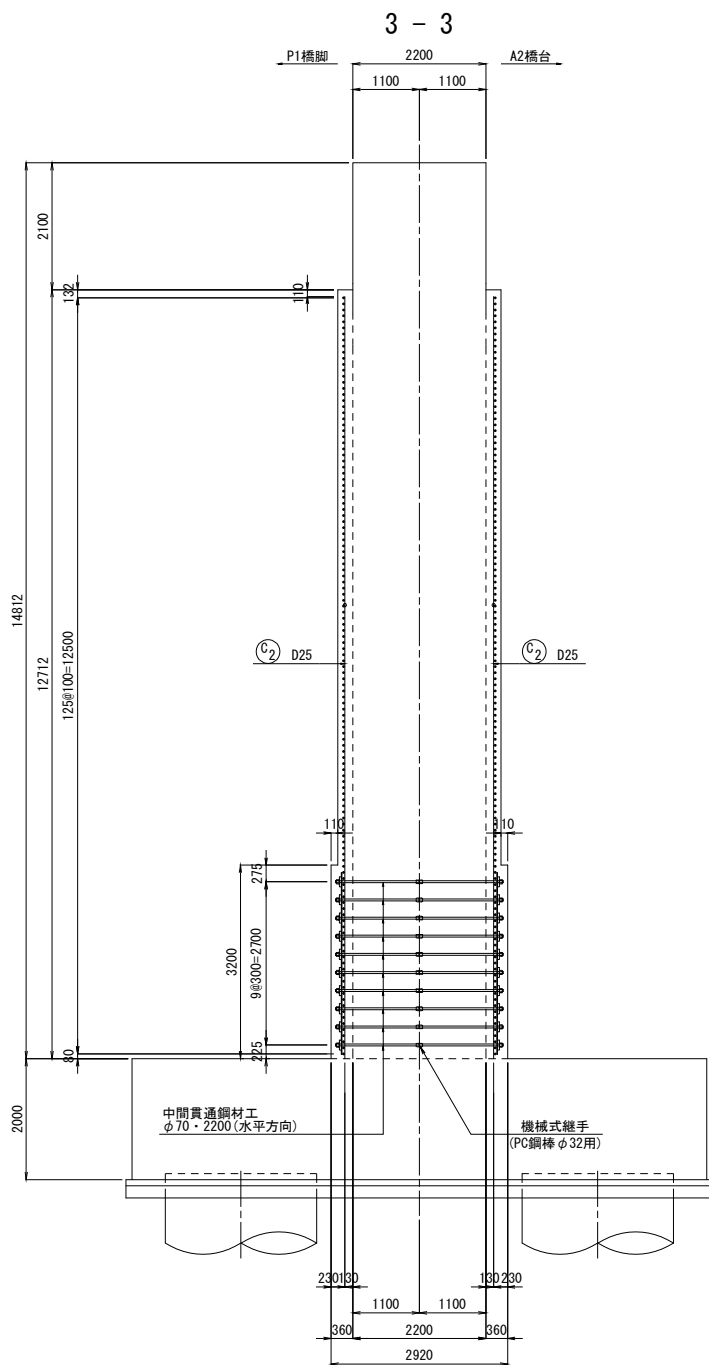
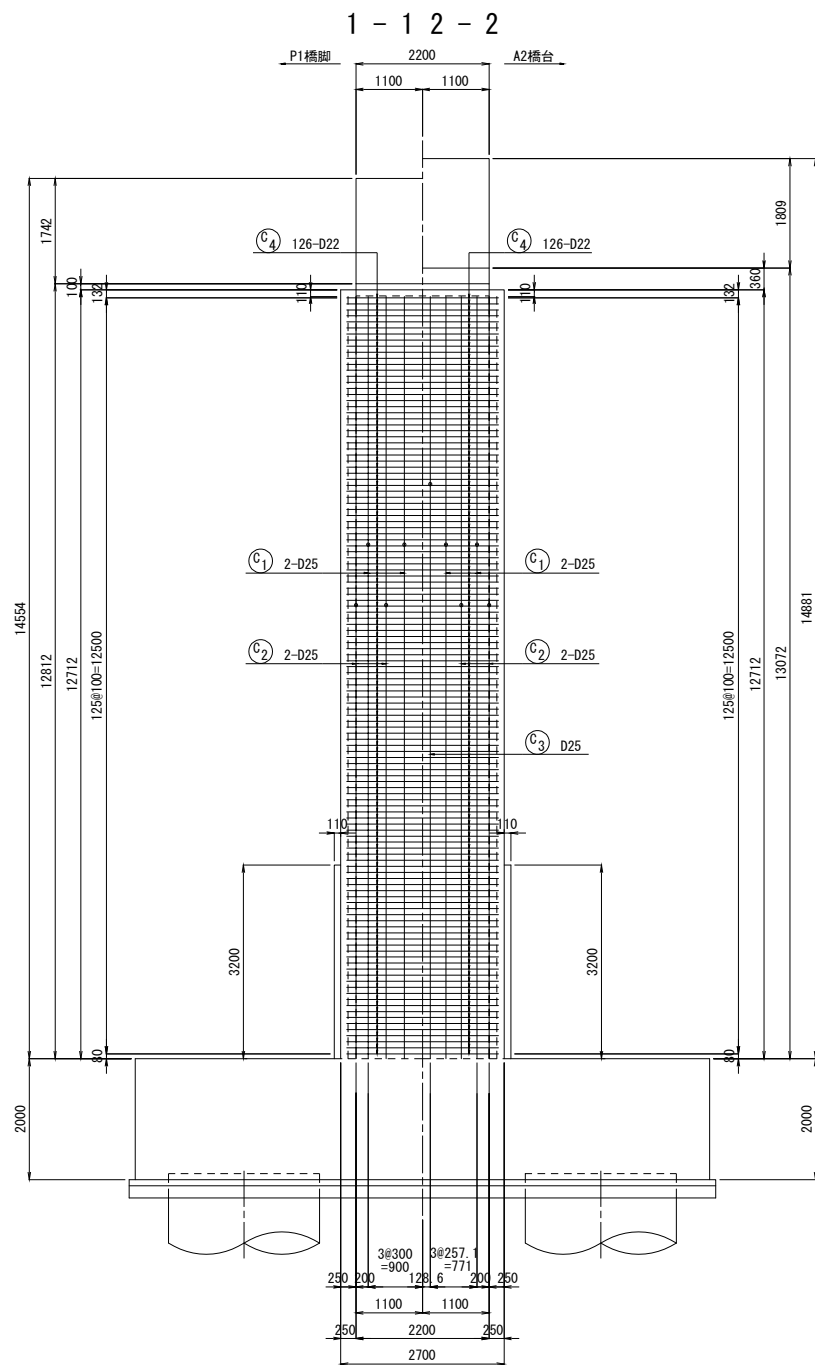
※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。



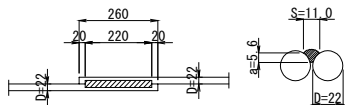
- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

既設構造 (橋脚躯体)	鉄 筋	S0295
	コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
補強構造	鉄 筋	S0345
	コンクリート	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	18 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

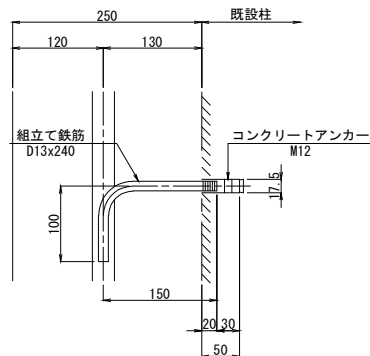


フレア溶接詳細図



溶接ビード幅 S : $S=0.5xD = 11.0\text{mm}$
のど厚 a : $a=0.39xD-3 = 5.6\text{mm}$
($10\text{mm} < D \leq 22\text{mm}$)

組立て筋参考図 S=1:10



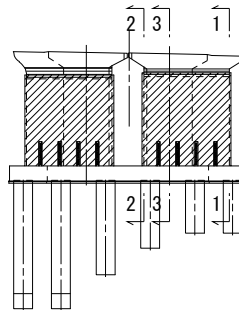
組立て筋参考数量

(上り線1基当り)						
組立て鉄筋	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量
組立て鉄筋	D13	240	344	0.995	0.239	82
						82 kg
(SD345)						
	D13		82	kg		
コンクリートアンカー	M12		344	本		

※ 組立て筋本数 343.2m2 x 1本/m2 = 344本

位置図

(下り線) (上り線)

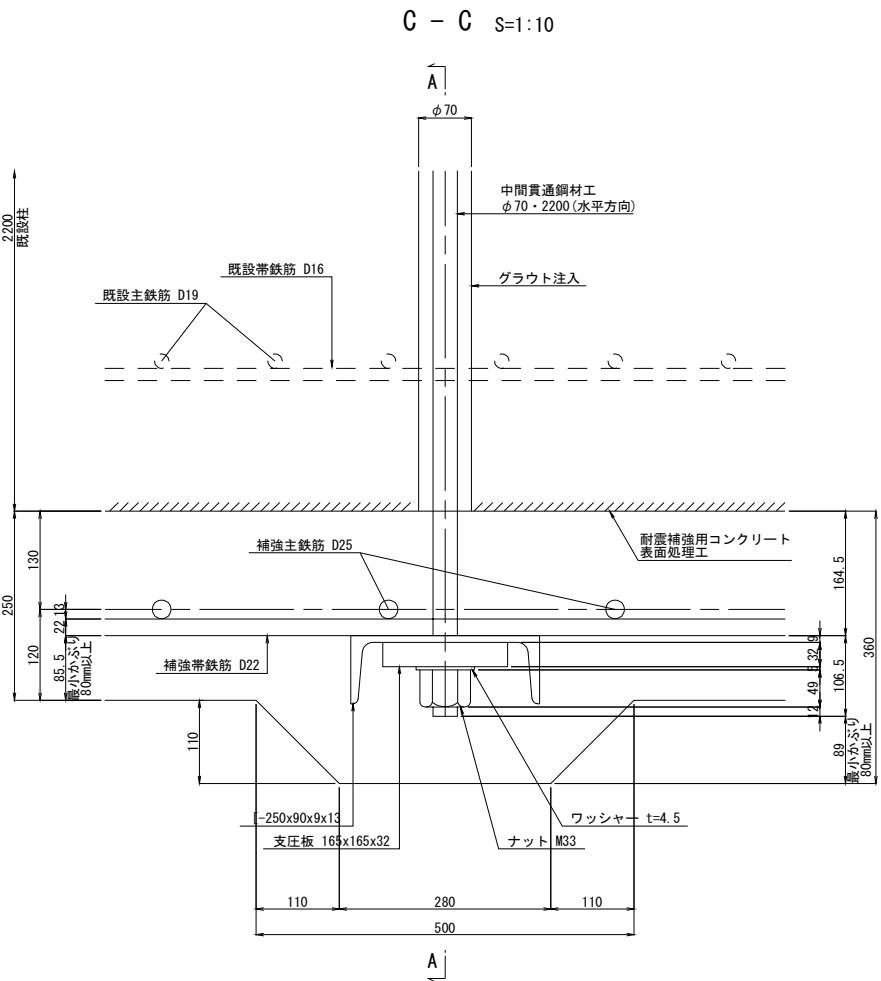
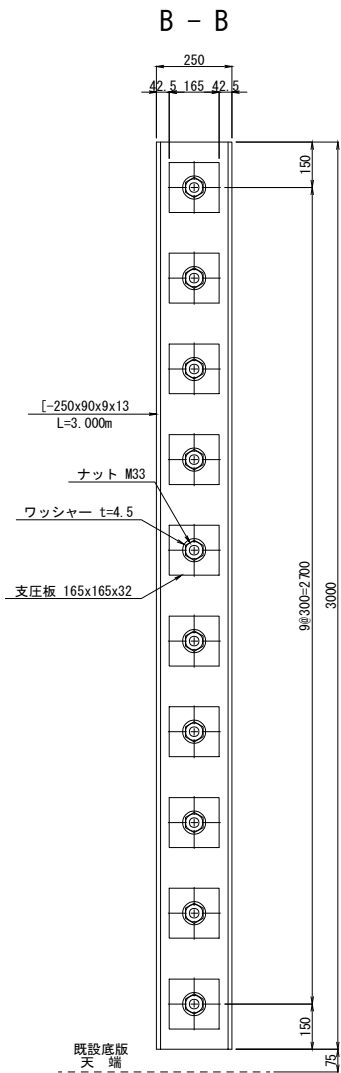
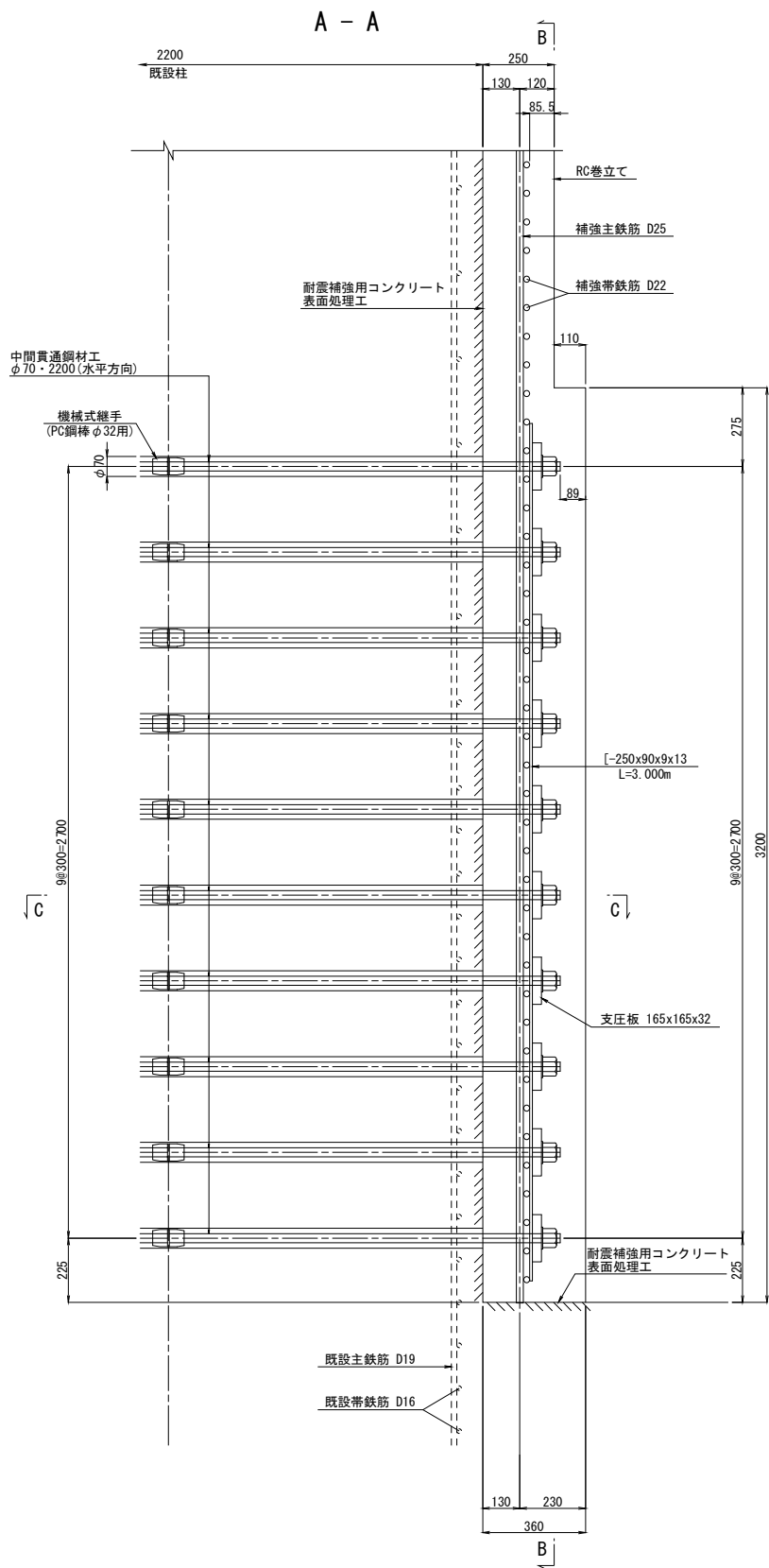


注記)

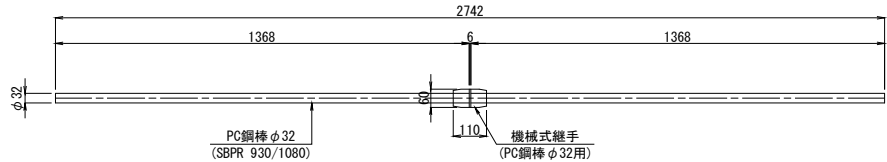
- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	19 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

PC鋼材定着部・かぶり詳細図



PC鋼棒詳細図



※ 中間貫通鋼材(φ32)は、施工上の制約から2分割し、機械式継手で接続する。

鉄筋質量表

(上り線1基当り)

記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
H<25m							
C 1-1	D25	8500	52	3.98	33.8	1758	[152]
C 1-2	"	4110	52	"	16.4	853	[152]
C 2-1	"	7500	52	"	29.9	1555	[152]
C 2-2	"	5110	52	"	20.3	1056	[152]
C 3-1	"	9500	1	"	37.8	38	[152]
C 3-2	"	3110	1	"	12.4	12	[152]
C 4-1	D22	7580	248	3.04	23.0	5704	[248]
C 4-2	"	7000	248	"	21.3	5282	[248]
16258 kg							
(SD345) T (ガス圧接箇所数) [フレア溶接箇所数]							
D25				5272 kg	(105)		
D22				10986 kg		[496]	
総質量				16258 kg	(105)	[496]	

注) ()内は、ガス圧接箇所数、[]内は、フレア溶接箇所数を示す。

PC鋼材質量

(上り線1基当り)

径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
PC鋼棒 φ32	1368	80	6.31	8.63	690	SBPR930/1080
機械式継手 (PC鋼棒 φ32用)				40 個		

型钢質量

(上り線1基当り)

径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
[-250x90x9x13	3000	8	34.6	104	832	SS400

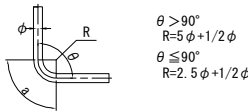
削孔集計表

(上り線1基当り)

径	削孔径 (mm)	x L (mm)	方向	箇所数
躯体	φ32	φ70 x 2200mm	水平	40

鉄筋加工寸法表
曲げ加工時の減長

径	90°			135°		
	R	a	Δl	R	a	Δl
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6
D29	87	137	37	159.5	125	7
D32	96	151	41	176	138	8
D35	105	165	45	192.5	151	8
D38	114	179	49	209	164	9
D41	123	193	53	225.5	177	10
D51	153	240	66	280.5	220	12

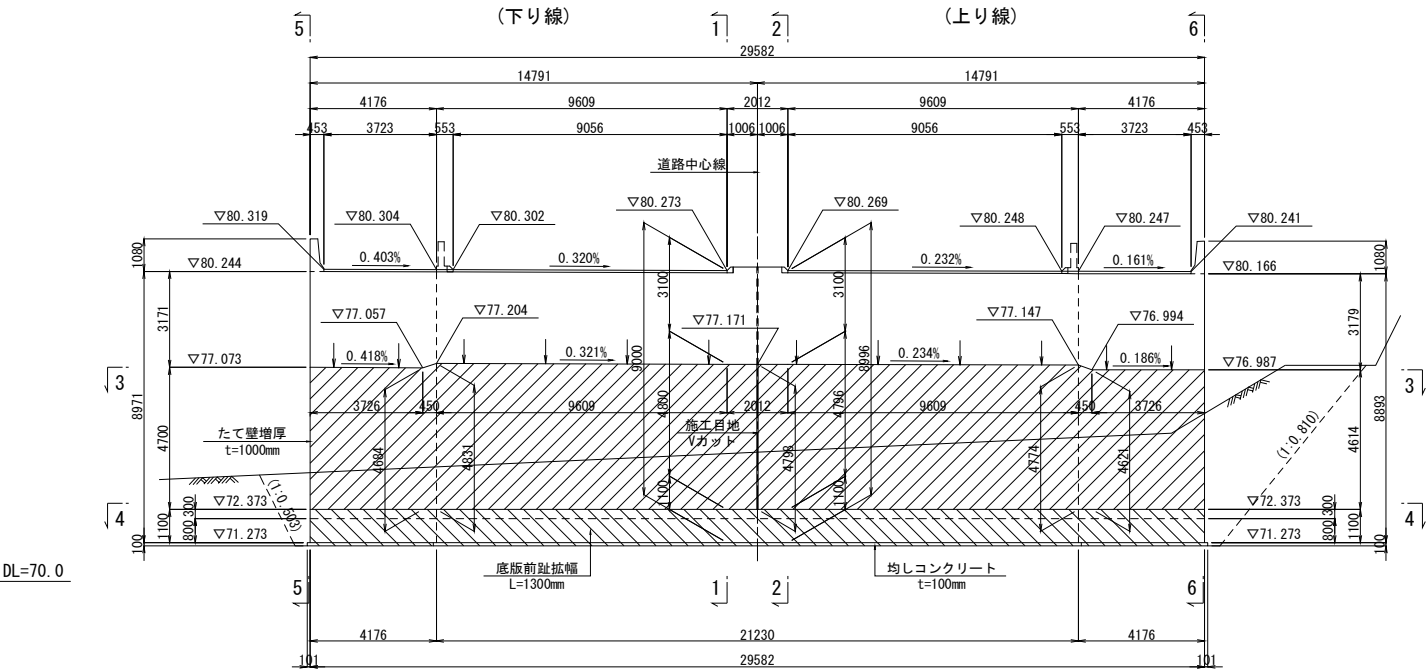


注記)

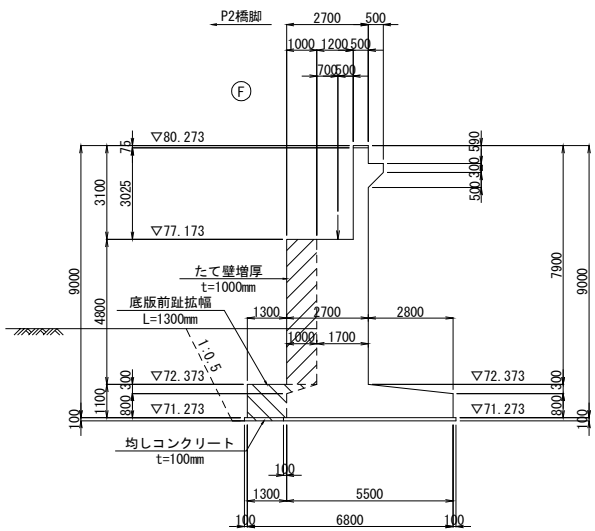
- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 耐震補強詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	20 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

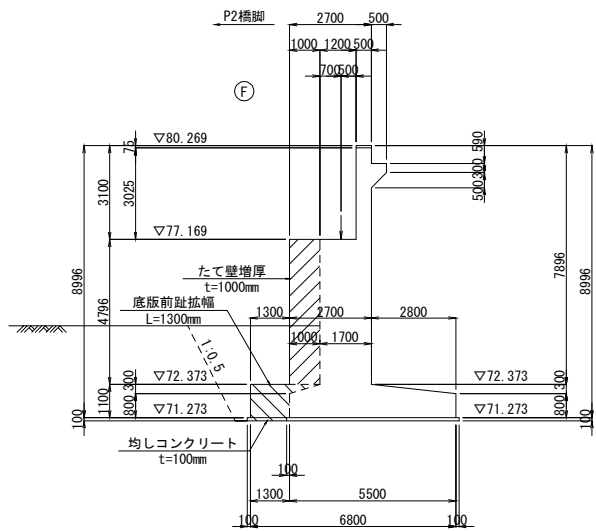
正面図



断面図 (1 - 1)

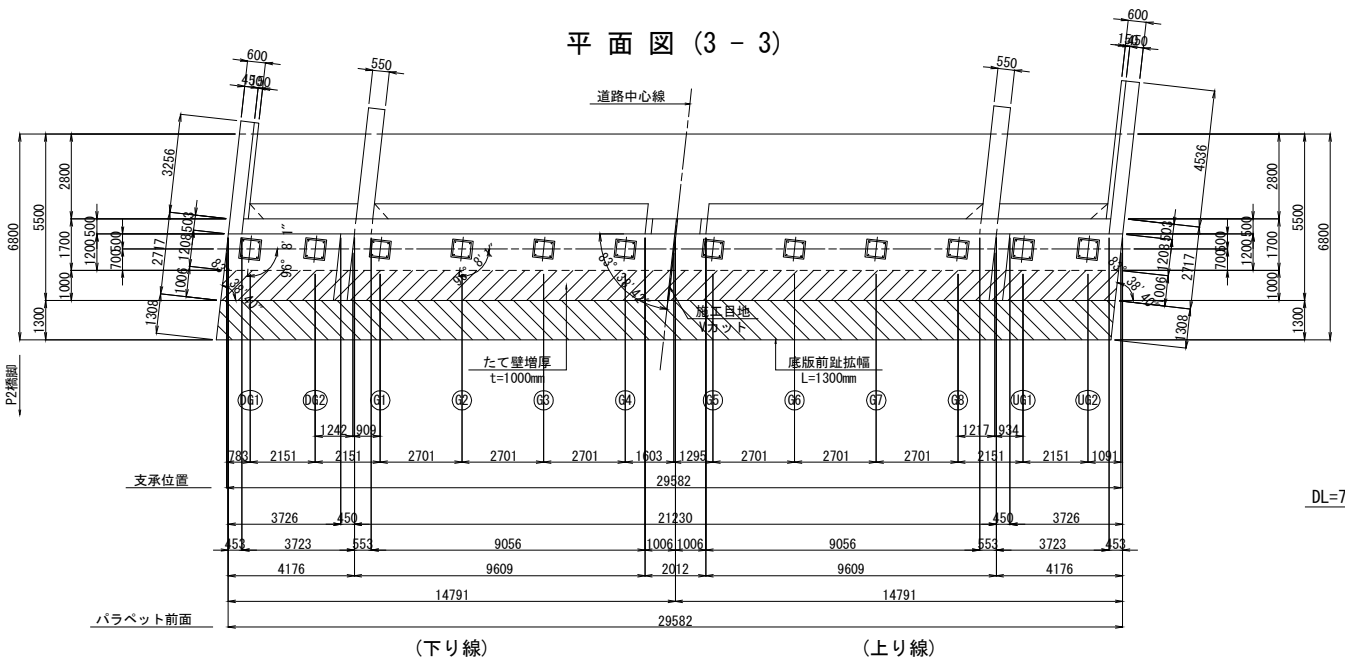


断面図 (2 - 2)



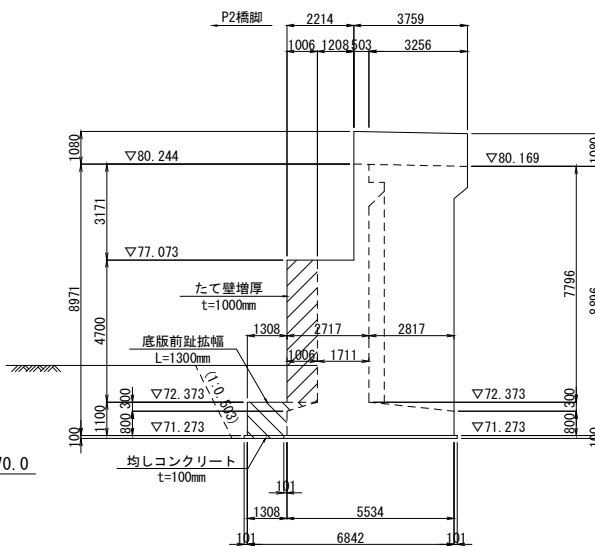
DL=70.0

平面図 (3 - 3)

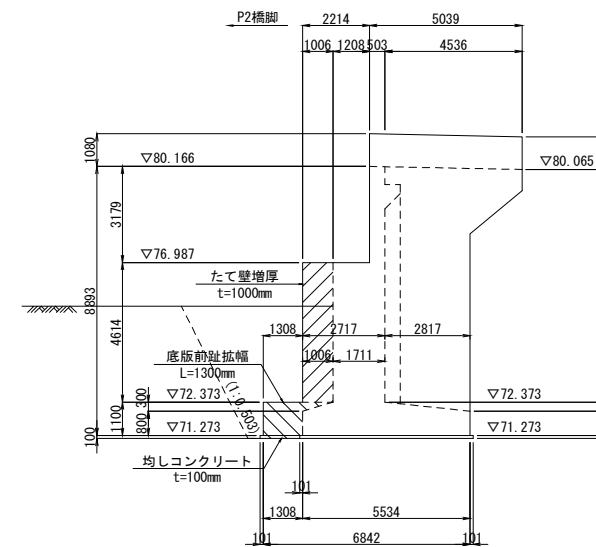


DL=70.0

側面図 (5 - 5)

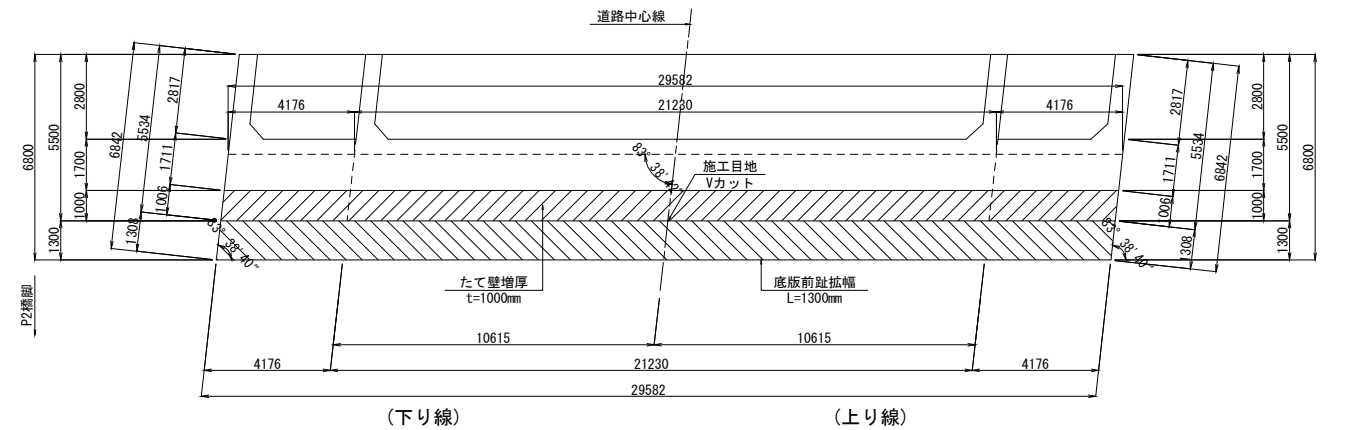


側面図 (6 - 6)

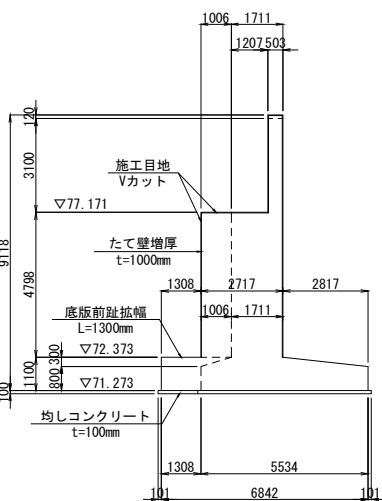


DL=70.0

平面図 (4 - 4)



施工目地 配置図



Vカット詳細図 S=1:20

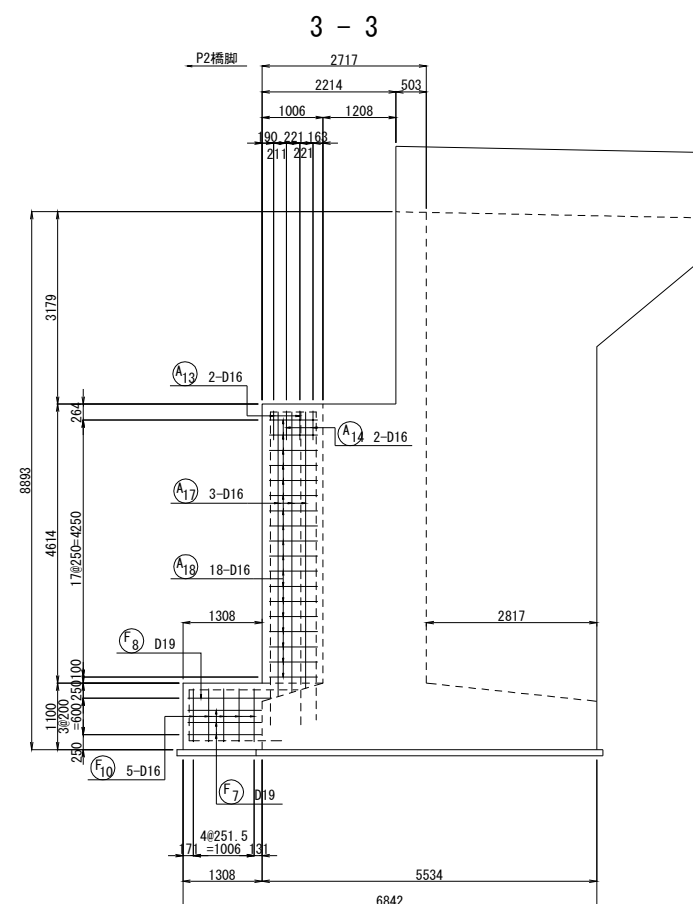
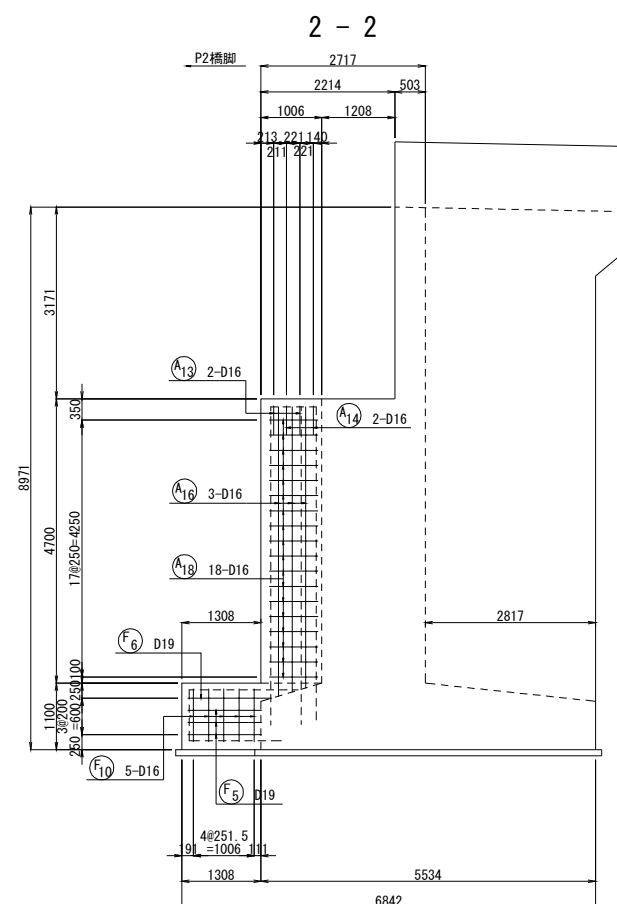


- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
 3. は、たて壁増厚工を示す。
 4. は、底版前趾拡幅工を示す。

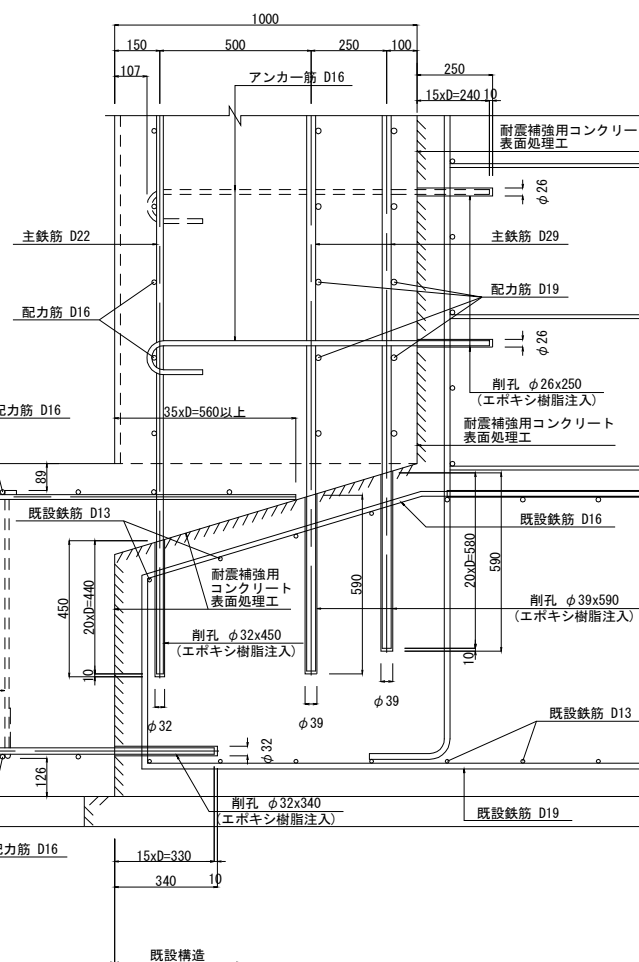
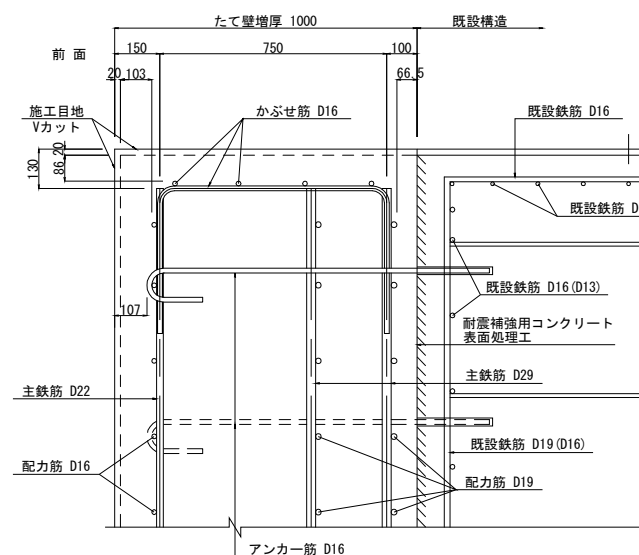
使用材料

既設構造	たて壁	鉄筋	SD295
		コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
補強構造	底版	鉄筋	SD295
		コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
	たて壁増厚	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma_{ck}=30N/mm^2$
補強構造	底版拡幅	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma_{ck}=24N/mm^2$
補強構造	均しコンクリート	鉄筋	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$
		コンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	21 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



S=1 : 25



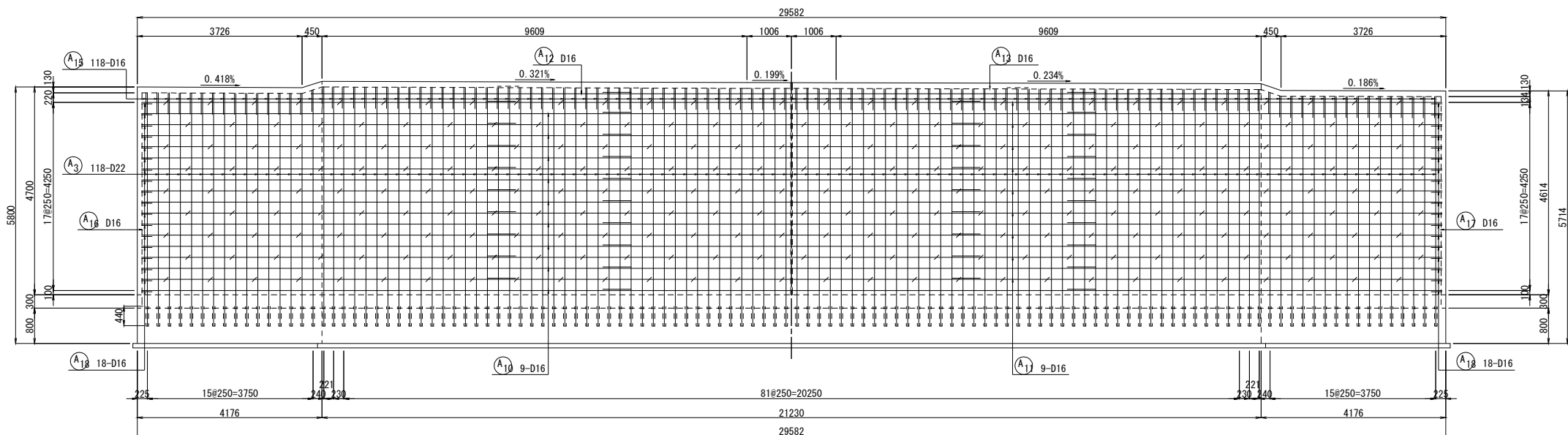
既設構造	たて壁	鉄筋	SD295
		コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	底版	鉄筋	SD295
コンクリート		$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	
補強構造	たて壁増厚	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	底版拡幅	鉄筋	SD345
		コンクリート	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
		均一コンクリート	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$

(注記)

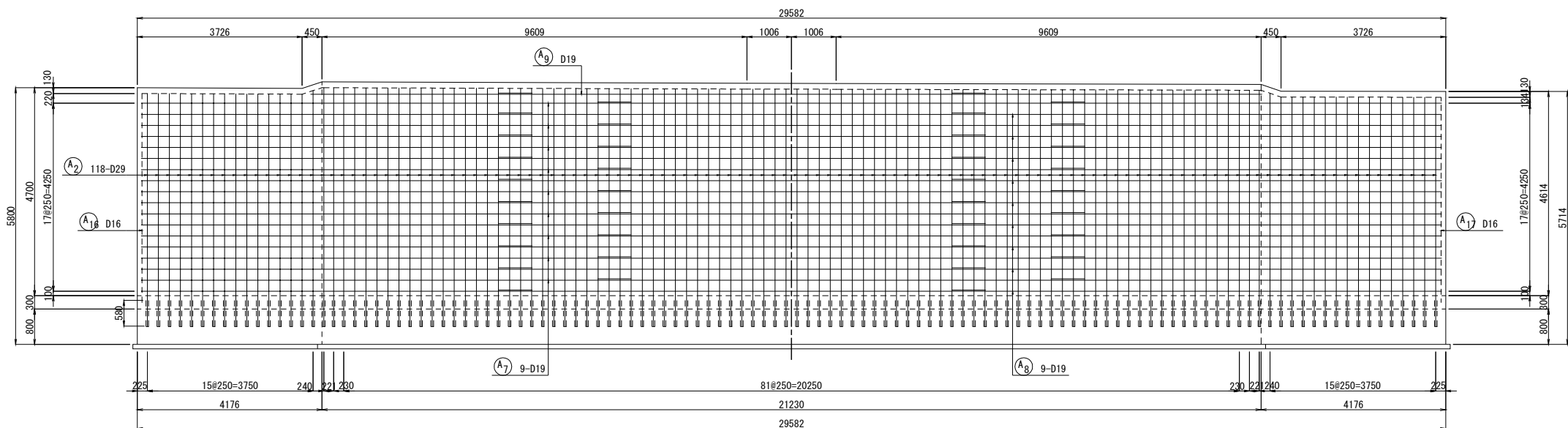
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て全面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削削の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切斷しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 金井谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金井谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	22 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

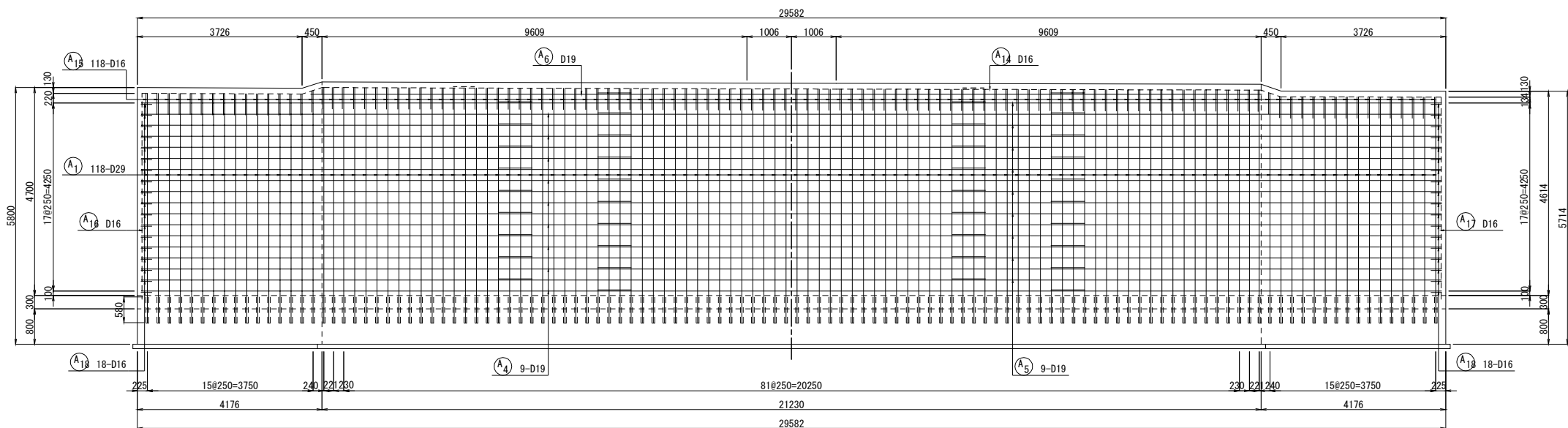
1 - 1
たて壁前面側鉄筋



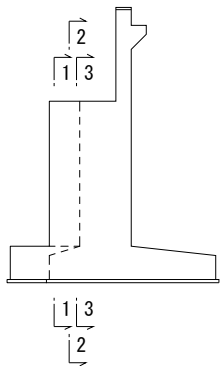
2 - 2
たて壁背面側鉄筋(2段目)



3 - 3
たて壁背面側鉄筋(1段目)

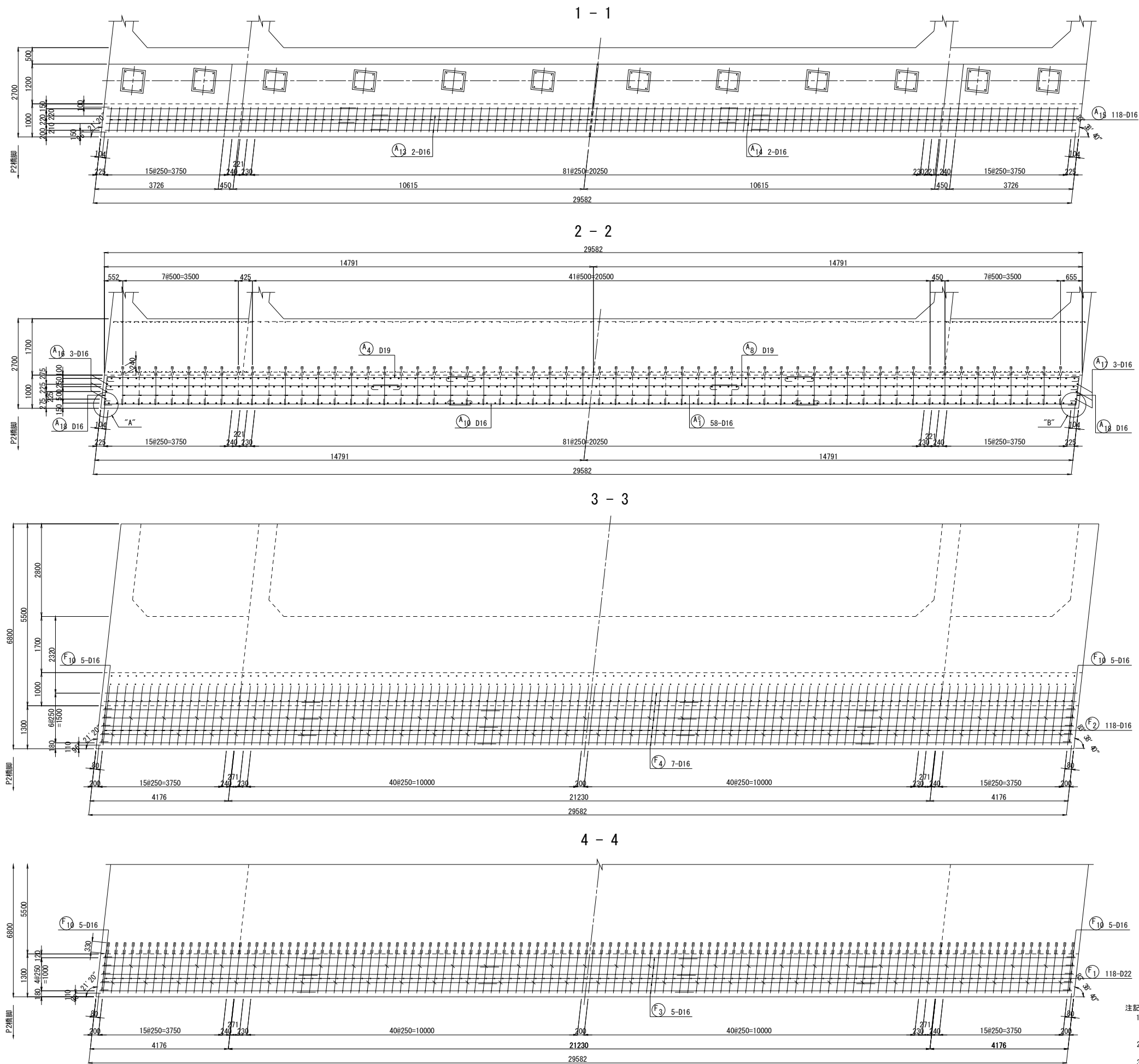


位置図

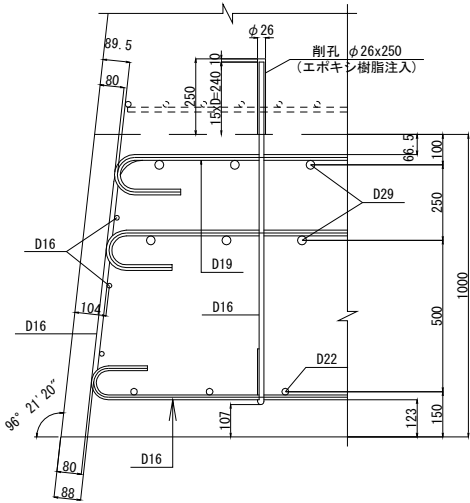


- 注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削削の際には、鉄筋探索等を
実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

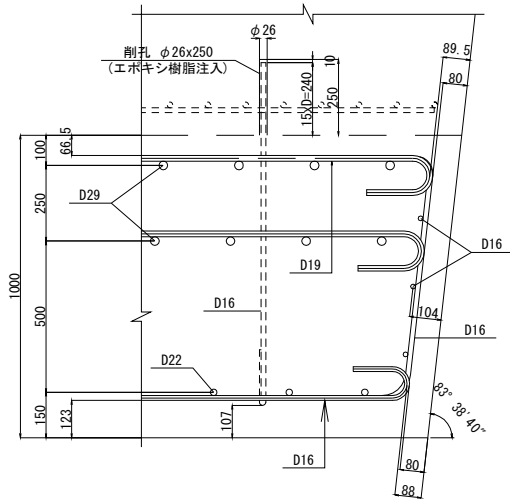
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	23 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



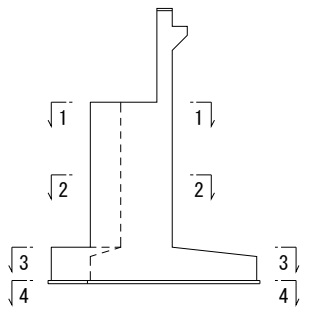
A部詳細図 S=1:25



B部詳細図 S=1:25

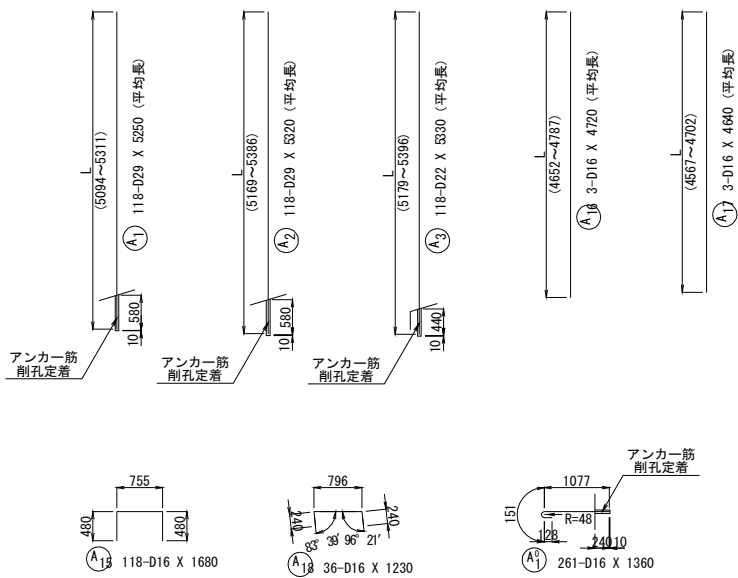


位置図



- 注記
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
 2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
 3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	24 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



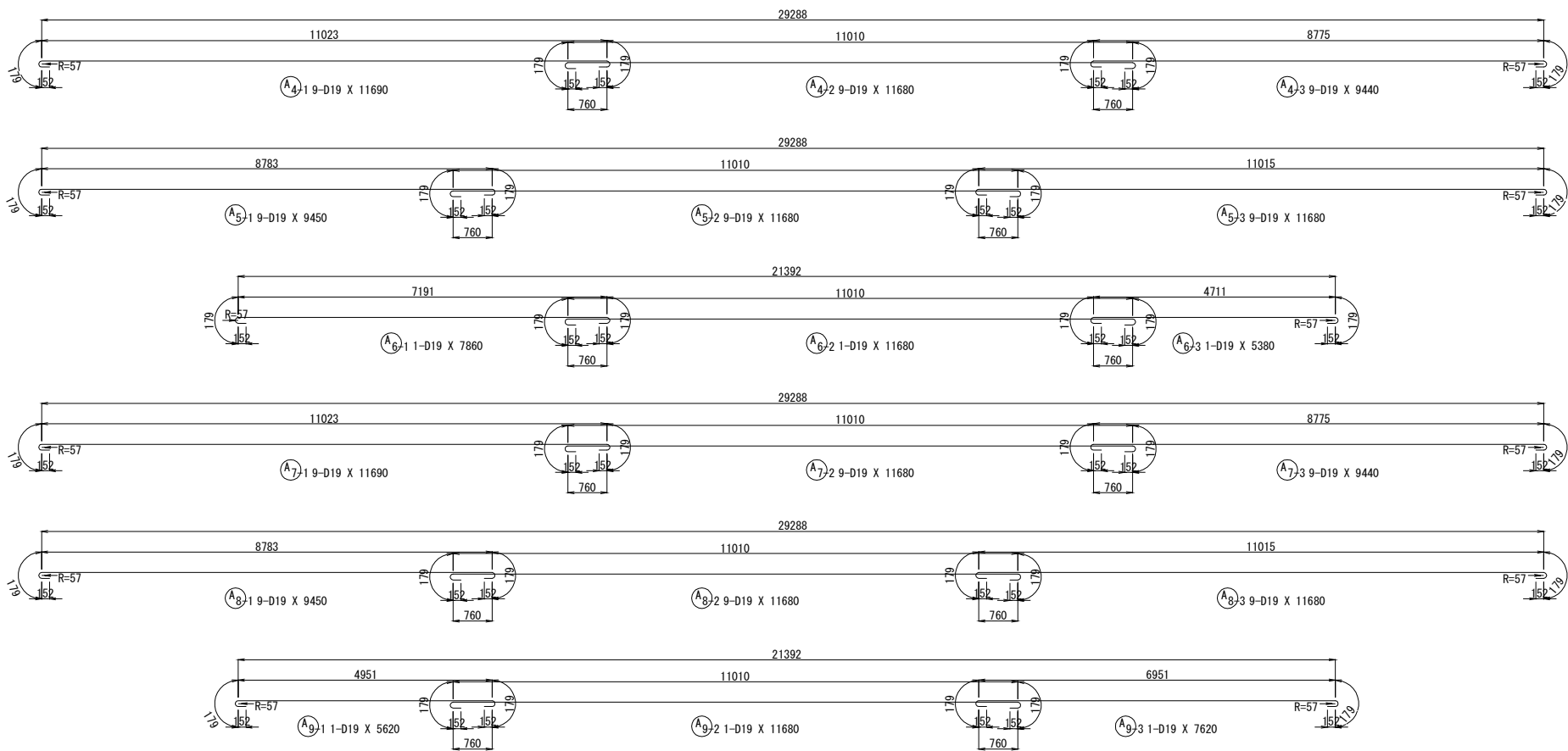
記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A1-1	D29	1	5179	A1-41	D29	1	5292	A1-81	D29	1	5266
-2	"	1	5178	-42	"	1	5291	-82	"	1	5265
-3	"	1	5177	-43	"	1	5290	-83	"	1	5265
-4	"	1	5176	-44	"	1	5289	-84	"	1	5264
-5	"	1	5175	-45	"	1	5288	-85	"	1	5263
-6	"	1	5174	-46	"	1	5288	-86	"	1	5263
-7	"	1	5173	-47	"	1	5287	-87	"	1	5262
-8	"	1	5172	-48	"	1	5286	-88	"	1	5262
-9	"	1	5171	-49	"	1	5285	-89	"	1	5261
-10	"	1	5170	-50	"	1	5284	-90	"	1	5261
-11	"	1	5169	-51	"	1	5284	-91	"	1	5260
-12	"	1	5168	-52	"	1	5283	-92	"	1	5259
-13	"	1	5167	-53	"	1	5282	-93	"	1	5259
-14	"	1	5165	-54	"	1	5281	-94	"	1	5258
-15	"	1	5164	-55	"	1	5280	-95	"	1	5258
-16	"	1	5245	-56	"	1	5280	-96	"	1	5257
-17	"	1	5311	-57	"	1	5279	-97	"	1	5256
-18	"	1	5310	-58	"	1	5279	-98	"	1	5256
-19	"	1	5309	-59	"	1	5278	-99	"	1	5255
-20	"	1	5308	-60	"	1	5278	-100	"	1	5255
-21	"	1	5308	-61	"	1	5277	-101	"	1	5254
-22	"	1	5307	-62	"	1	5277	-102	"	1	5254
-23	"	1	5306	-63	"	1	5276	-103	"	1	5185
-24	"	1	5305	-64	"	1	5276	-104	"	1	5101
-25	"	1	5304	-65	"	1	5275	-105	"	1	5100
-26	"	1	5304	-66	"	1	5275	-106	"	1	5100
-27	"	1	5303	-67	"	1	5274	-107	"	1	5100
-28	"	1	5302	-68	"	1	5273	-108	"	1	5099
-29	"	1	5301	-69	"	1	5273	-109	"	1	5099
-30	"	1	5300	-70	"	1	5272	-110	"	1	5098
-31	"	1	5300	-71	"	1	5272	-111	"	1	5098
-32	"	1	5299	-72	"	1	5271	-112	"	1	5097
-33	"	1	5298	-73	"	1	5270	-113	"	1	5097
-34	"	1	5297	-74	"	1	5270	-114	"	1	5096
-35	"	1	5296	-75	"	1	5269	-115	"	1	5096
-36	"	1	5296	-76	"	1	5269	-116	"	1	5095
-37	"	1	5295	-77	"	1	5268	-117	"	1	5095
-38	"	1	5294	-78	"	1	5268	-118	"	1	5094
-39	"	1	5293	-79	"	1	5267	平均長		118	5250
-40	"	1	5292	-80	"	1	5266				

記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A2-1	D29	1	5254	A2-41	D29	1	5367	A2-81	D29	1	5341
-2	"	1	5253	-42	"	1	5366	-82	"	1	5340
-3	"	1	5252	-43	"	1	5365	-83	"	1	5340
-4	"	1	5251	-44	"	1	5364	-84	"	1	5339
-5	"	1	5250	-45	"	1	5363	-85	"	1	5338
-6	"	1	5249	-46	"	1	5363	-86	"	1	5338
-7	"	1	5248	-47	"	1	5362	-87	"	1	5337
-8	"	1	5247	-48	"	1	5361	-88	"	1	5337
-9	"	1	5246	-49	"	1	5360	-89	"	1	5336
-10	"	1	5245	-50	"	1	5359	-90	"	1	5336
-11	"	1	5244	-51	"	1	5359	-91	"	1	5335
-12	"	1	5243	-52	"	1	5358	-92	"	1	5334
-13	"	1	5242	-53	"	1	5357	-93	"	1	5334
-14	"	1	5240	-54	"	1	5356	-94	"	1	5333
-15	"	1	5239	-55	"	1	5355	-95	"	1	5333
-16	"	1	5320	-56	"	1	5355	-96	"	1	5332
-17	"	1	5386	-57	"	1	5354	-97	"	1	5331
-18	"	1	5385	-58	"	1	5354	-98	"	1	5331
-19	"	1	5384	-59	"	1	5353	-99	"	1	5330
-20	"	1	5383	-60	"	1	5353	-100	"	1	5330
-21	"	1	5383	-61	"	1	5352	-101	"	1	5329
-22	"	1	5382	-62	"	1	5352	-102	"	1	5329
-23	"	1	5381	-63	"	1	5351	-103	"	1	5260
-24	"	1	5380	-64	"	1	5351	-104	"	1	5176
-25	"	1	5379	-65	"	1	5350	-105	"	1	5175
-26	"	1	5379	-66	"	1	5350	-106	"	1	5175
-27	"	1	5378	-67	"	1	5349	-107	"	1	5175
-28	"	1	5377	-68	"	1	5348	-108	"	1	5174
-29	"	1	5376	-69	"	1	5348	-109	"	1	5174
-30	"	1	5375	-70	"	1	5347	-110	"	1	5173
-31	"	1	5375	-71	"	1	5347	-111	"	1	5173
-32	"	1	5374	-72	"	1	5346	-112	"	1	5172
-33	"	1	5373	-73	"	1	5345	-113	"	1	5172
-34	"	1	5372	-74	"	1	5345	-114	"	1	5171
-35	"	1	5371	-75	"	1	5344	-115	"	1	5171
-36	"	1	5371	-76	"	1	5344	-116	"	1	5170
-37	"	1	5370	-77	"	1	5343	-117	"	1	5170
-38	"	1	5379	-78	"	1	5343	-118	"	1	5169
-39	"	1	5368	-79	"	1	5342	平均長		118	5320
-40	"	1	5367	-80	"	1	5341				

記号	径	本数	L	記号	径	本数	L	記号	径	本数	L
A3-1	D22	1	5264	A3-41	D22	1	5377	A3-81	D22	1	5351
-2	"	1	5263	-42	"	1	5376	-82	"	1	5350
-3	"	1	5262	-43	"	1	5375	-83	"	1	5350
-4	"	1	5261	-44	"	1	5374	-84	"	1	5349
-5	"	1	5260	-45	"	1	5373	-85	"	1	5348
-6	"	1	5259	-46	"	1	5373	-86	"	1	5348
-7	"	1	5258	-47	"	1	5372	-87	"	1	5347
-8	"	1	5257	-48	"	1	5371	-88	"	1	5347
-9	"	1	5256	-49	"	1	5370	-89	"	1	5346
-10	"	1	5255	-50	"	1	5369	-90	"	1	5346
-11	"	1	5254	-51	"	1	5369	-91	"	1	5345
-12	"	1	5253	-52	"	1	5368	-92	"	1	5344
-13	"	1	5252	-53	"	1	5367	-93	"	1	5344
-14	"	1	5250	-54	"	1	5366	-94	"	1	5343
-15	"	1	5249	-55	"	1	5365	-95	"	1	5343
-16	"	1	5330	-56	"	1	5365	-96	"	1	5342
-17	"	1	5396	-57	"	1	5364	-97	"	1	5341
-18	"	1	5395	-58	"	1	5364	-98	"	1	5341
-19	"	1	5394	-59	"	1	5363	-99	"	1	5340
-20	"	1	5393	-60	"	1	5363	-100	"	1	5340
-21	"	1	5393	-61	"	1	5362	-101	"	1	5339
-22	"	1	5392	-62	"	1	5362	-102	"	1	5339
-23	"	1	5391	-63	"	1	5361	-103	"	1	5270
-24	"	1	5390	-64	"	1	5361	-104	"	1	5186
-25	"	1	5389	-65	"	1	5360	-105	"	1	5185
-26	"	1	5389	-66	"	1	5360	-106	"	1	5185
-27	"	1	5388	-67	"	1	5359	-107	"	1	5185
-28	"	1	5387	-68	"	1	5358	-108	"	1	5184
-29	"	1	5386	-69	"	1	5358	-109	"	1	5184
-30	"	1	5385	-70	"	1	5357	-110	"	1	5183
-31	"	1	5385	-71	"	1	5357	-111	"	1	5183
-32	"	1	5384	-72	"	1	5356	-112	"	1	5182
-33	"	1	5383	-73	"	1	5355	-113	"	1	5182
-34	"	1	5382	-74	"	1	5355	-114	"	1	5181
-35	"	1	5381	-75	"	1	5354	-115	"	1	5181
-36	"	1	5381	-76	"	1	5354	-116	"	1	5180
-37	"	1	5380	-77	"	1	5353	-117	"	1	5180
-38	"	1	5379	-78	"	1	5353	-118	"	1	5179
-39	"	1	5378	-79	"	1	5352	平均長		118	5330
-40	"	1	5377	-80	"	1	5351				

記号	径	本数	L
A16-1	D16	1	4652
-2	"	1	4720
-3	"	1	4787
平均長		3	4720

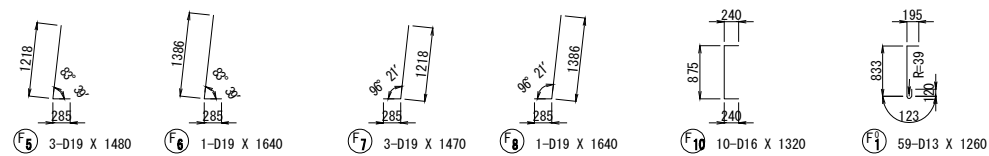
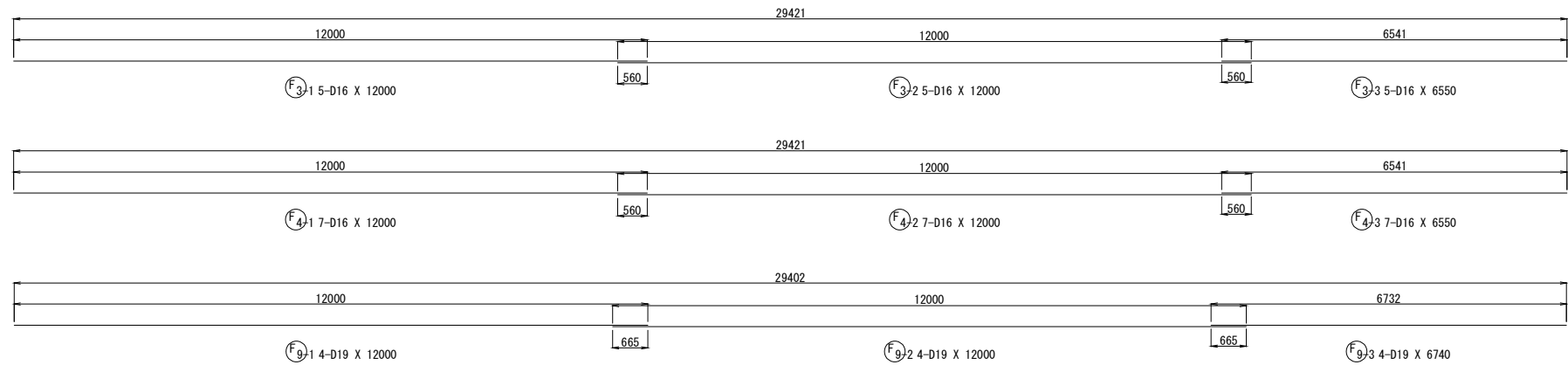
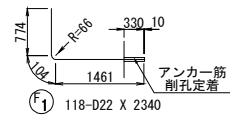
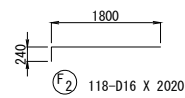
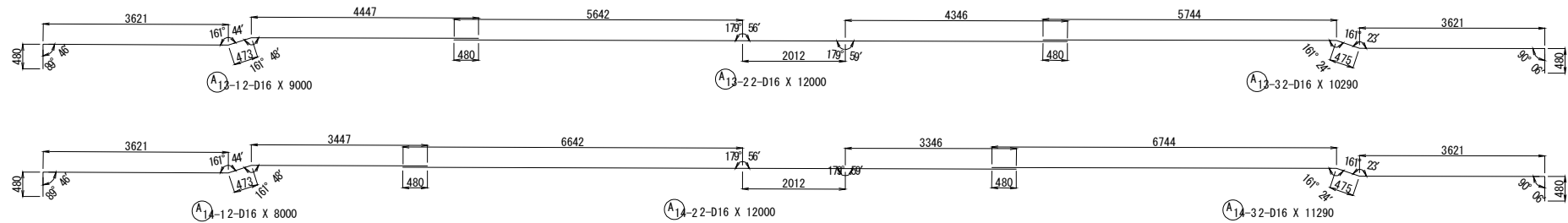
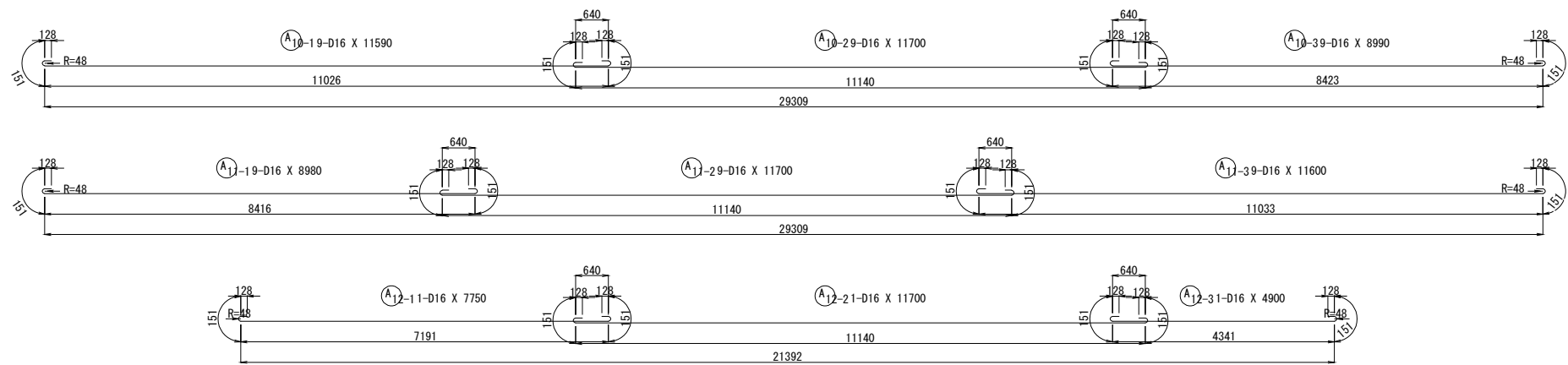
記号	径	本数	L
A17-1	D16	1	4567
-2	"	1	4634
-3	"	1	4702
平均長		3	4640



注記)

- 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて施工内容を精査すること。
- 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、全て表面処理を行うこと。
- 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探索等を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しないように注意すること。

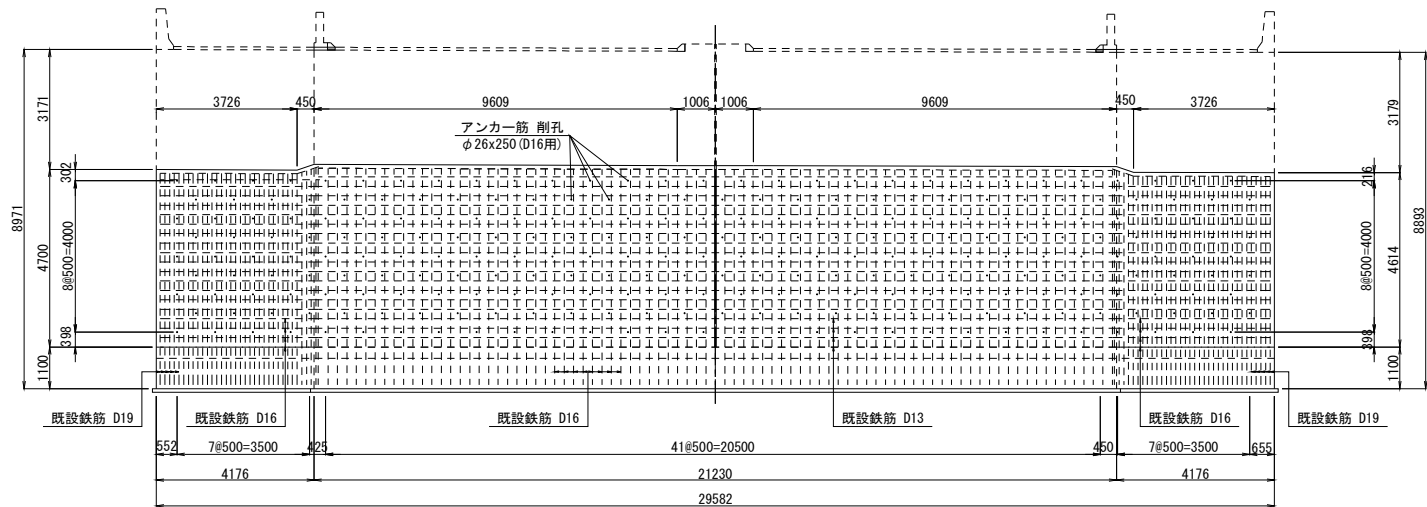
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	25 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



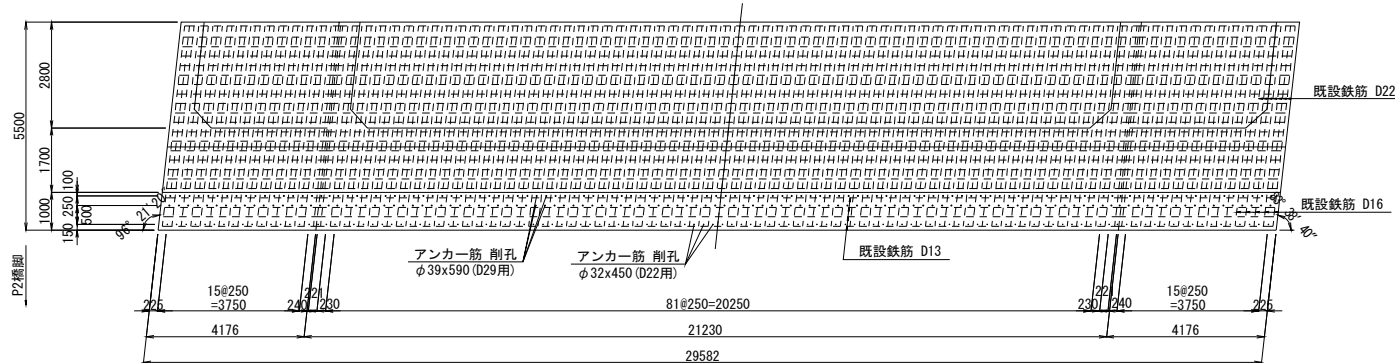
注記)
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の上、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削孔の際には、鉄筋探査等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その5)			
縮 尺	図 示	図面番号	26 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

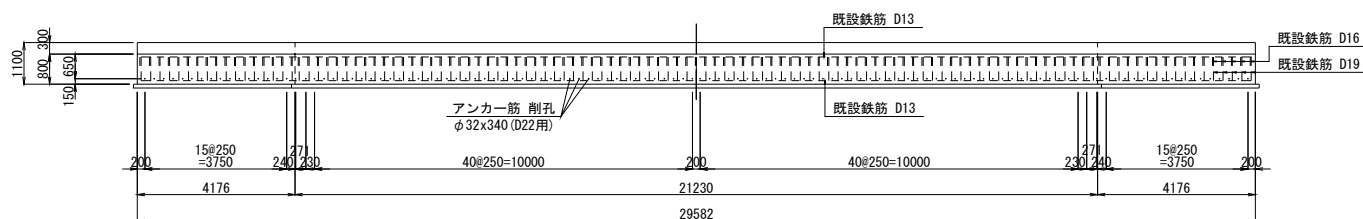
たて壁前面



底版上面



底版前趾先端



※ アンカー削孔は既設鉄筋を探索の上、適宜削孔位置をずらして施工すること。

鉄筋質量表

[illegible]

単価項目	記号	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
------	----	---	----	----	------	--------	----	----

	(底版前趾拉幅)							
鉄筋 T2	F ₁	D22	2340	118	3.04	7.11	839	┌
鉄筋 T	F ₂	D16	2020	118	1.56	3.15	372	┐
	F ₃₋₁	"	12000	5	"	18.7	94	—
	F ₃₋₂	"	12000	5	"	18.7	94	—
	F ₃₋₃	"	6550	5	"	10.2	51	—
	F ₄₋₁	"	12000	7	"	18.7	131	—
	F ₄₋₂	"	12000	7	"	18.7	131	—
	F ₄₋₃	"	6550	7	"	10.2	71	—
	F ₅	D19	1480	3	2.25	3.33	10	└
	F ₆	"	1640	1	"	3.69	4	└
	F ₇	"	1470	3	"	3.31	10	└
F ₈	"	1640	1	"	3.69	4	└	
F ₉₋₁	"	12000	4	"	27.0	108	—	
F ₉₋₂	"	12000	4	"	27.0	108	—	
F ₉₋₃	"	6740	4	"	15.2	61	—	
	F ₁₀	D16	1320	10	1.56	2.06	21	└
								2109 kg
鉄筋 T	F ₁	D13	1260	59	0.995	1.25	74	└
								74 kg
(SD345)			T		T1		T2	
合 計		D29			6289 kg			
		D22			1912 kg		839 kg	
		D19	3079 kg					
		D16	2527 kg		553 kg			
		D13	74 kg					
総質量		5680 kg		8201 kg		1392 kg		

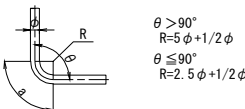
削孔集計表

	径	削孔径 (mm) x l (mm)	方 向	箇所数
軀 体	D16	φ 26 x 250mm	水 平	261
底 版	D22	φ 32 x 340mm	水 平	118
底 版	D22	φ 32 x 450mm	鉛直 (下)	118
底 版	D29	φ 39 x 590mm	鉛直 (下)	236

鉄筋加工寸法表

曲げ加工時の減長

怪	90°				135°			
	R	a	Δ		R	a	Δ	
D13	39	61	17		71.5	56	3	
D16	48	75	21		88	69	4	
D19	57	89	25		104.5	82	5	
D22	66	104	28		121	95	5	
D25	75	118	32		137.5	108	6	
D29	87	137	37		159.5	125	7	
D32	96	151	41		176	138	8	
D35	105	165	45		192.5	151	8	
D38	114	179	49		209	164	9	
D41	123	193	53		225.5	177	10	
D51	153	240	66		280.5	220	12	

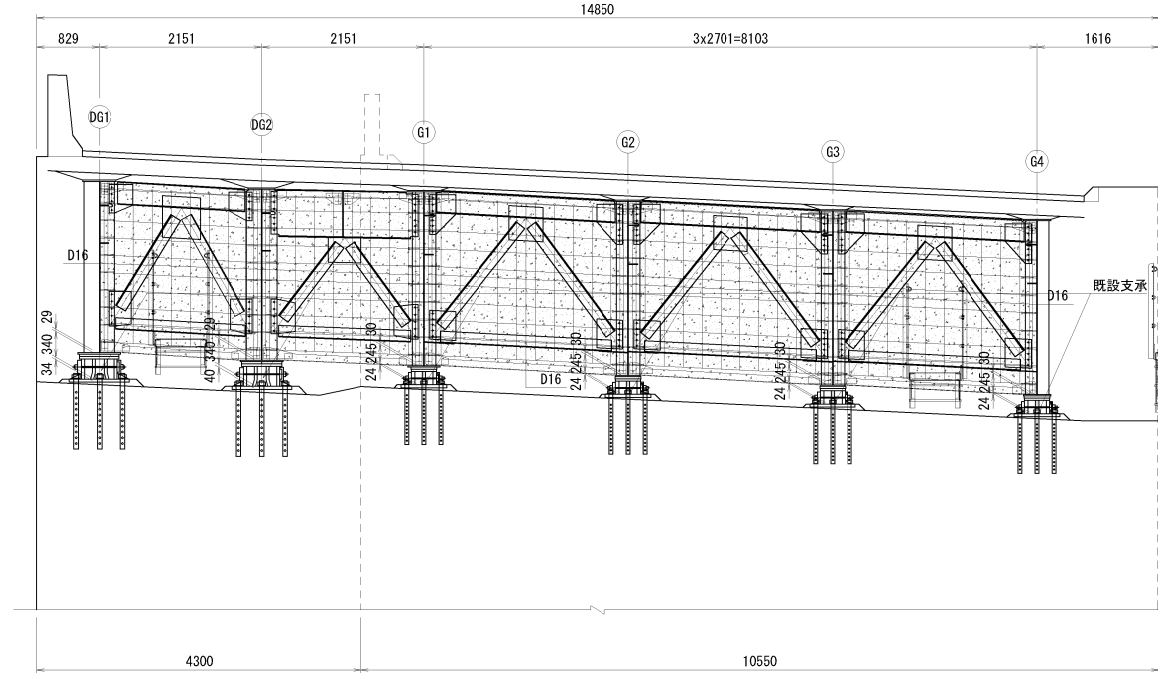


注記)

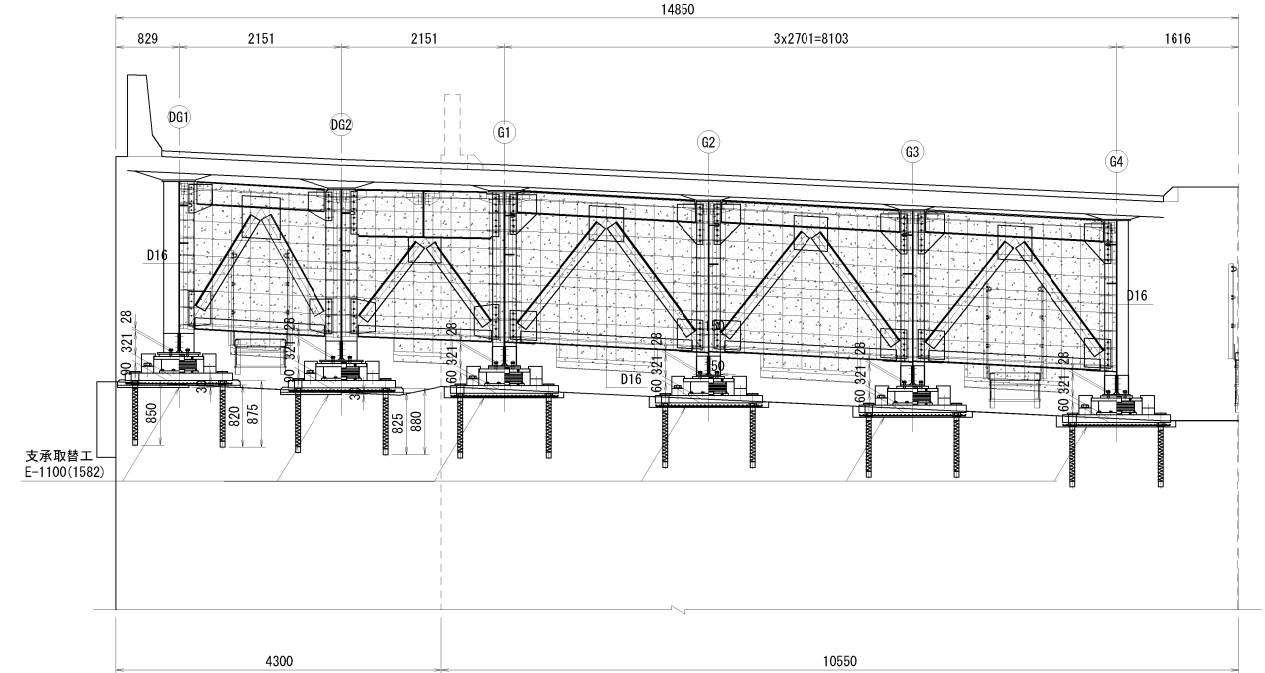
1. 本図面は、竣工図に基づき作成されたものである。
既設構造物の形状を現地計測の施工、必要に応じて
施工内容を精査すること。
2. 既設コンクリートと新設コンクリートの接合面は、
全て表面処理を行うこと。
3. 既設コンクリートに対する削削の際には、鉄筋探索等
を実施して既設鉄筋位置を確認し、既設鉄筋を切断しない
ように注意すること。

横浜横須賀道路 金井谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金井谷第二高架橋 A2橋台 耐震補強詳細図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	27 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

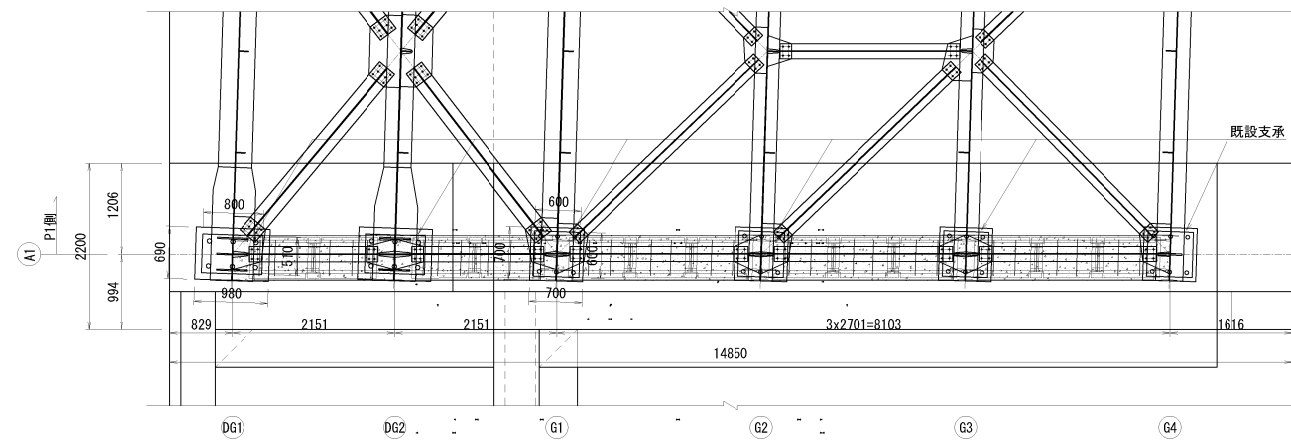
取替前
断面図



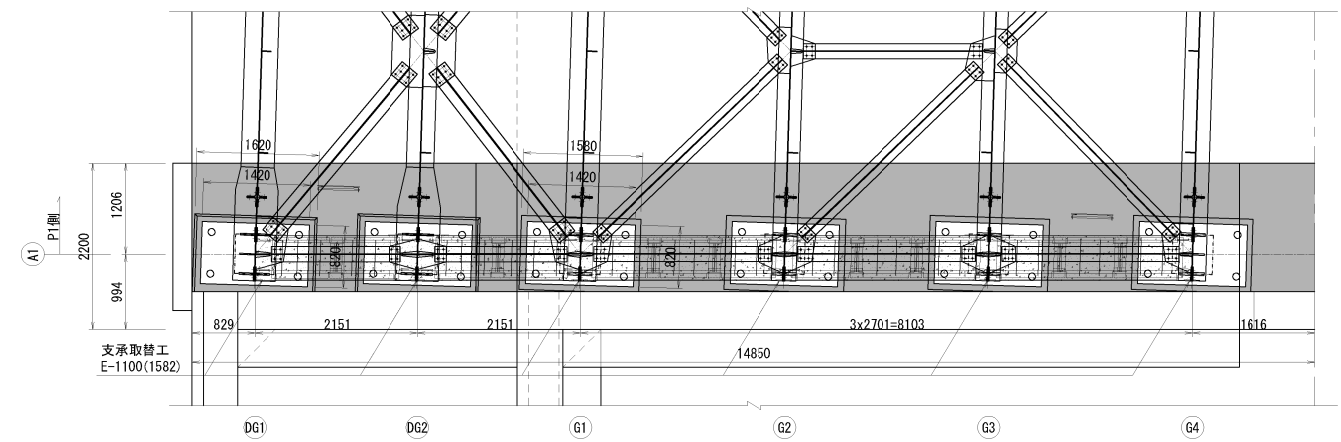
取替後
断面図



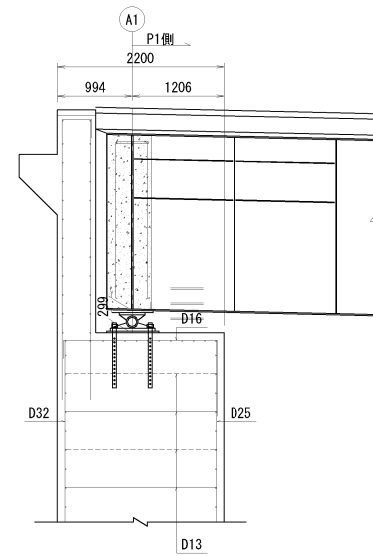
平面図



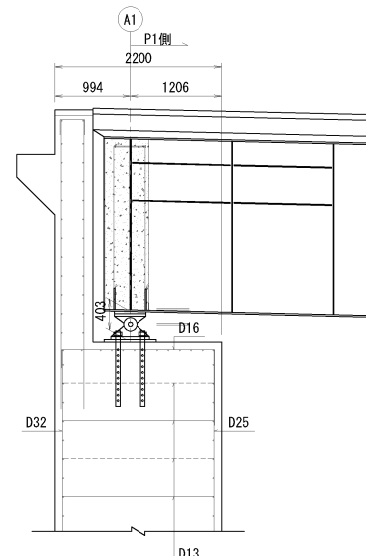
平面図



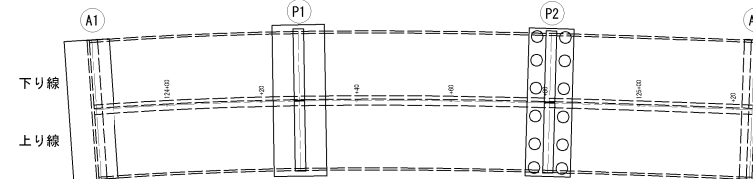
側面図(建設当初 G1)



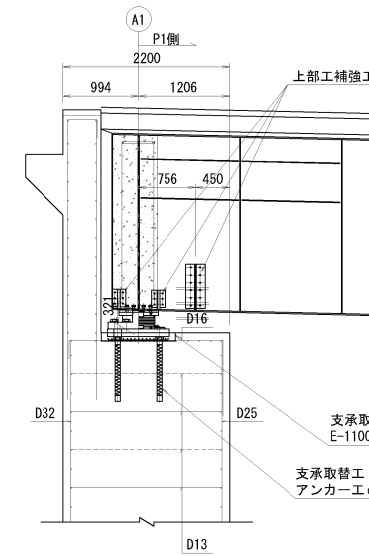
側面図(拡幅部 DG1)



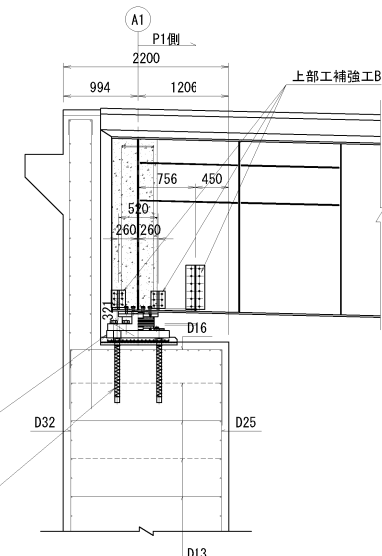
位置図



側面図(建設当初 G1)

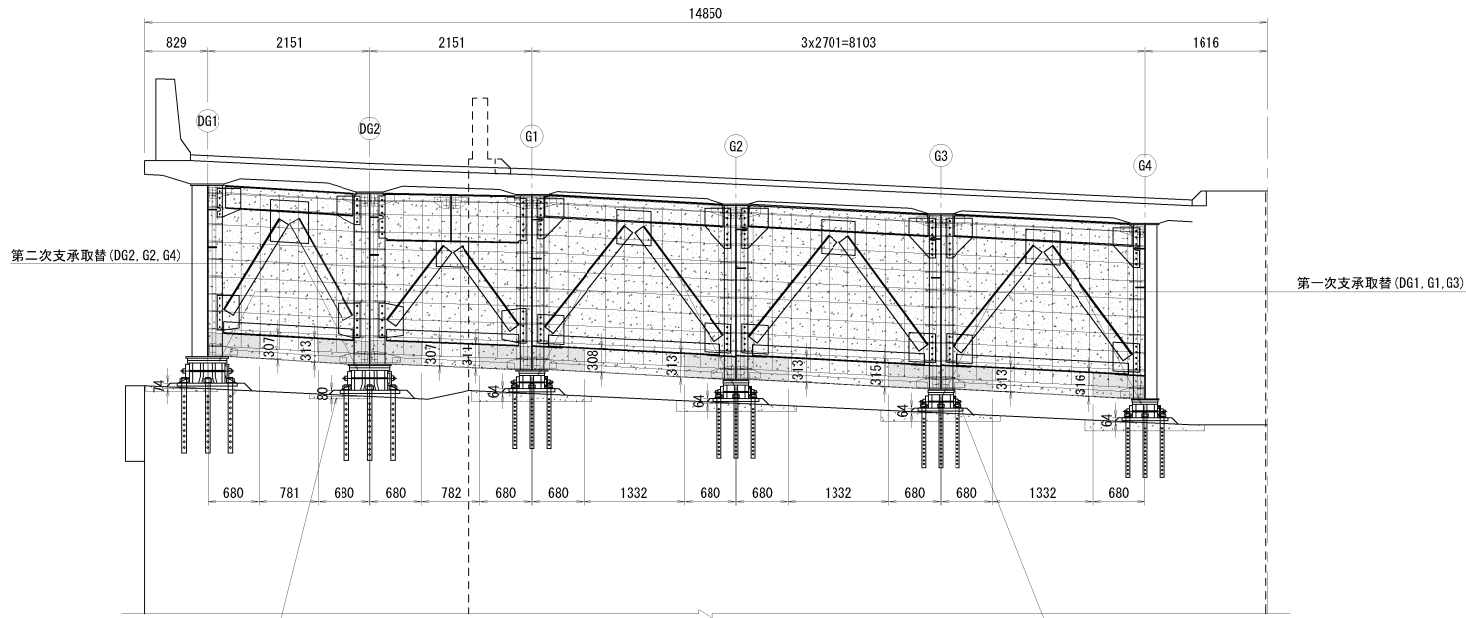


側面図(拡幅部 DG1)

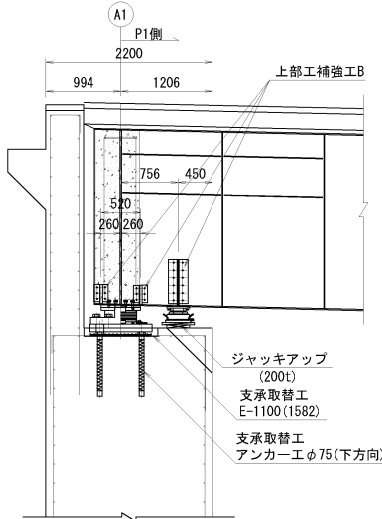


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	28 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

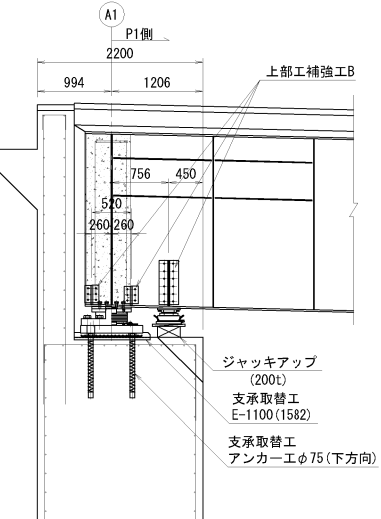
支承取替順序 断面図



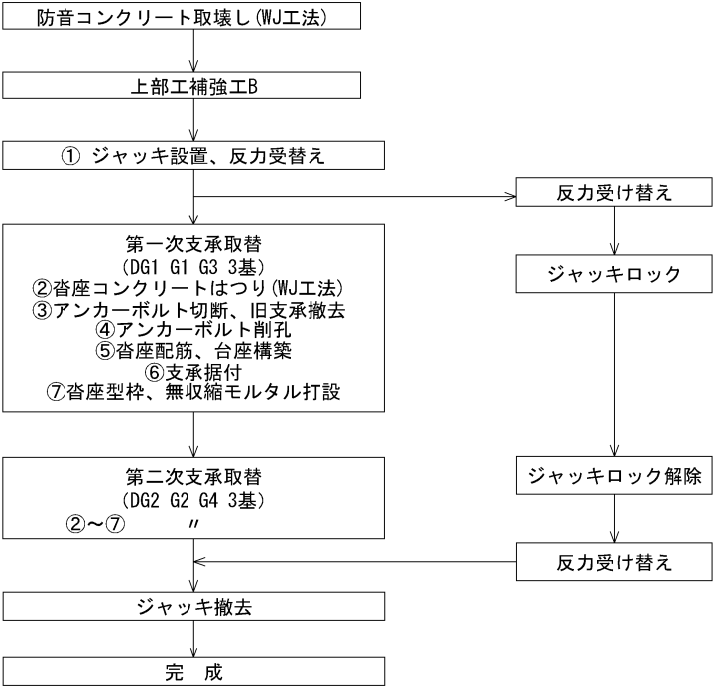
側面図(建設当初 G1)



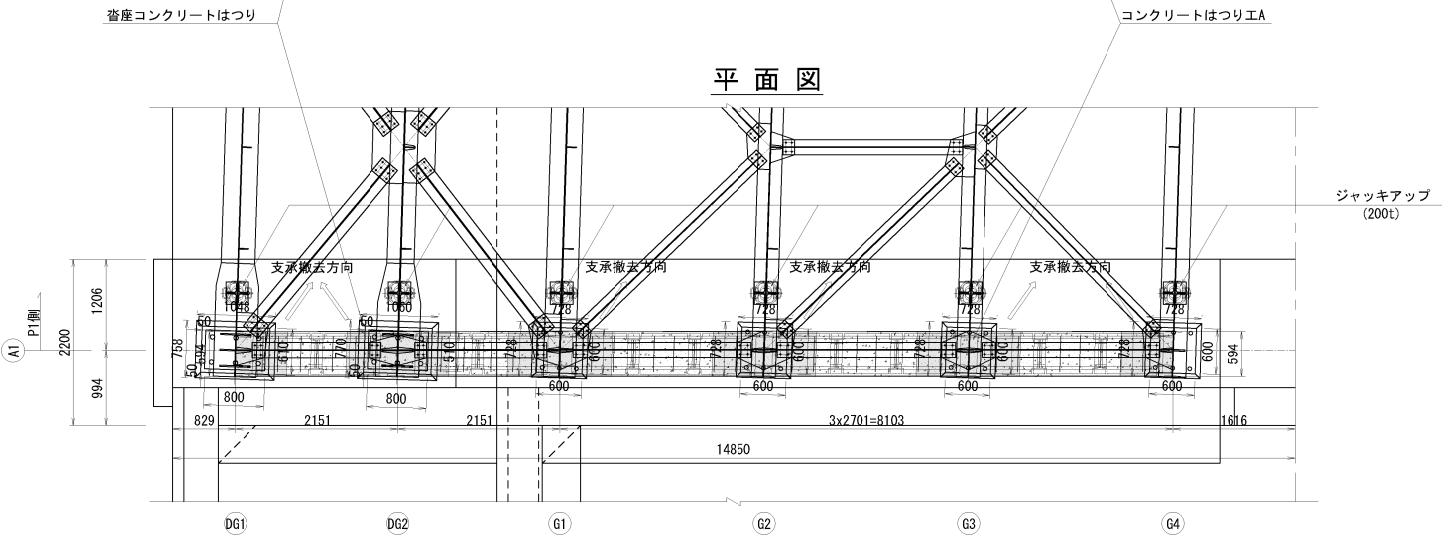
側面図(拡幅部 DG1)



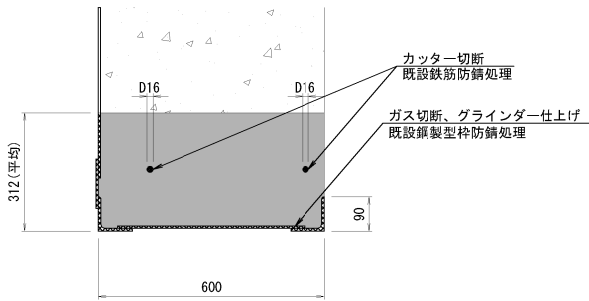
施工順番図(参考)



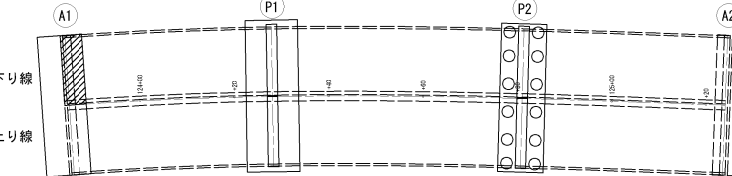
平面図



コンクリートはつり工A
防音コンクリート撤去詳細図 縮尺1:20



位置図



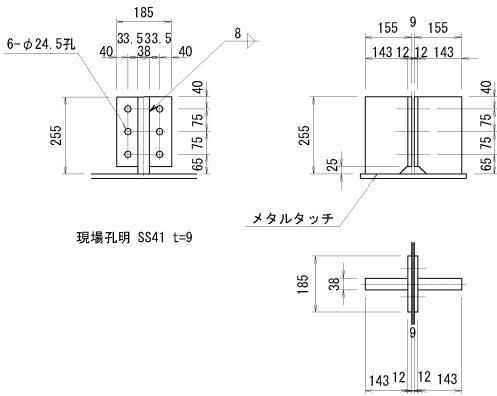
注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	29 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

上部工補強工B

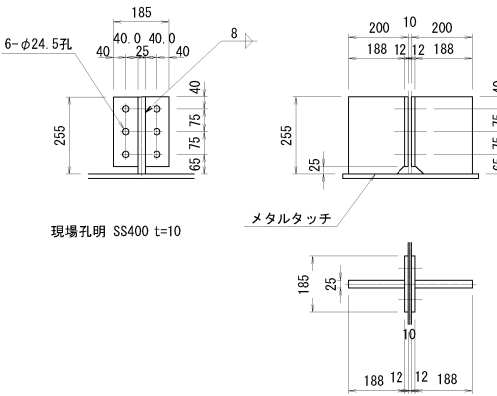
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G1~G4)



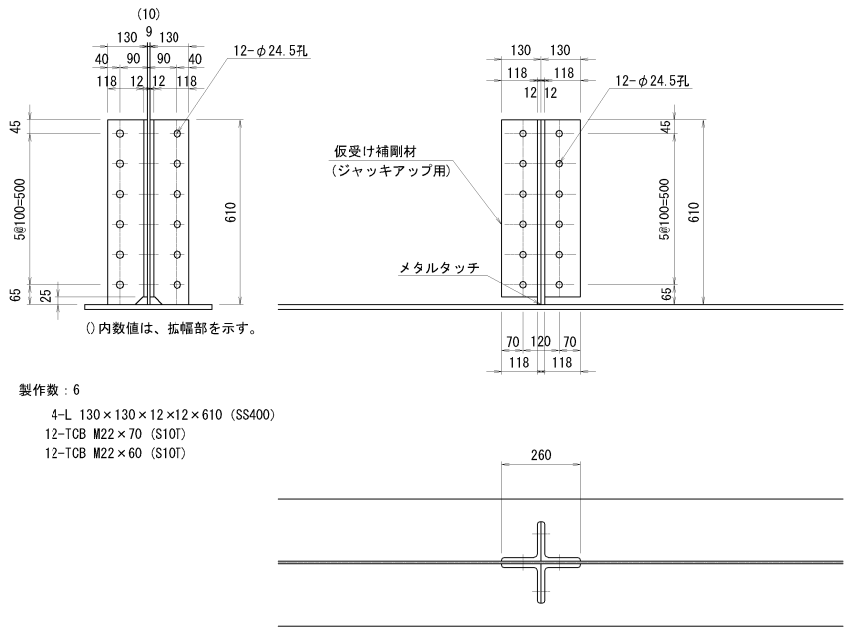
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

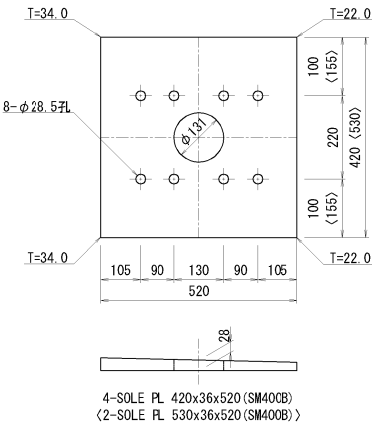
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



製作数 : 6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

支承取替工
E-1100(1582)

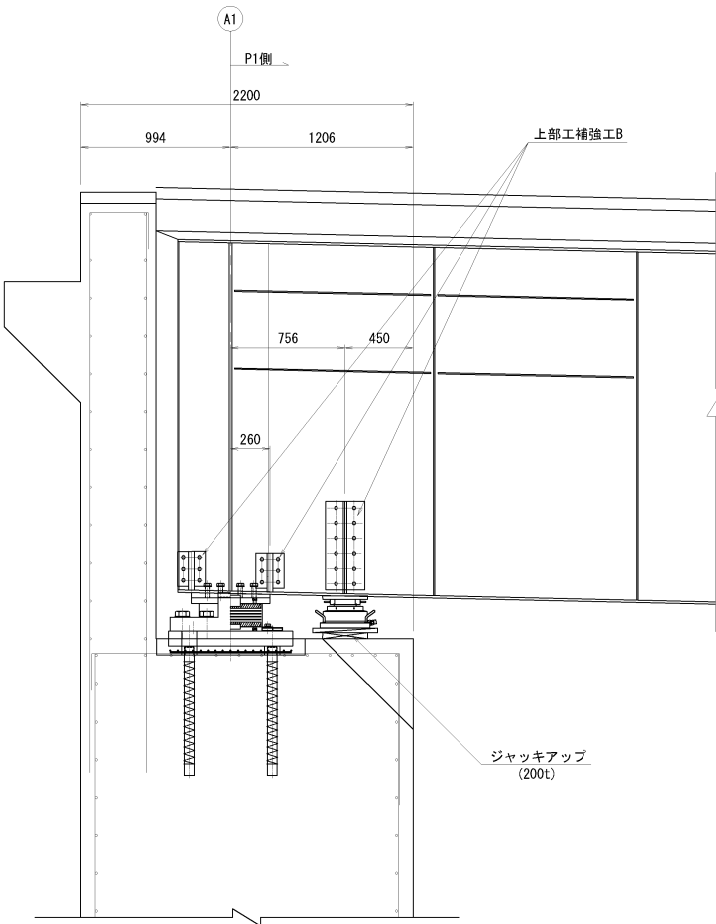
ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



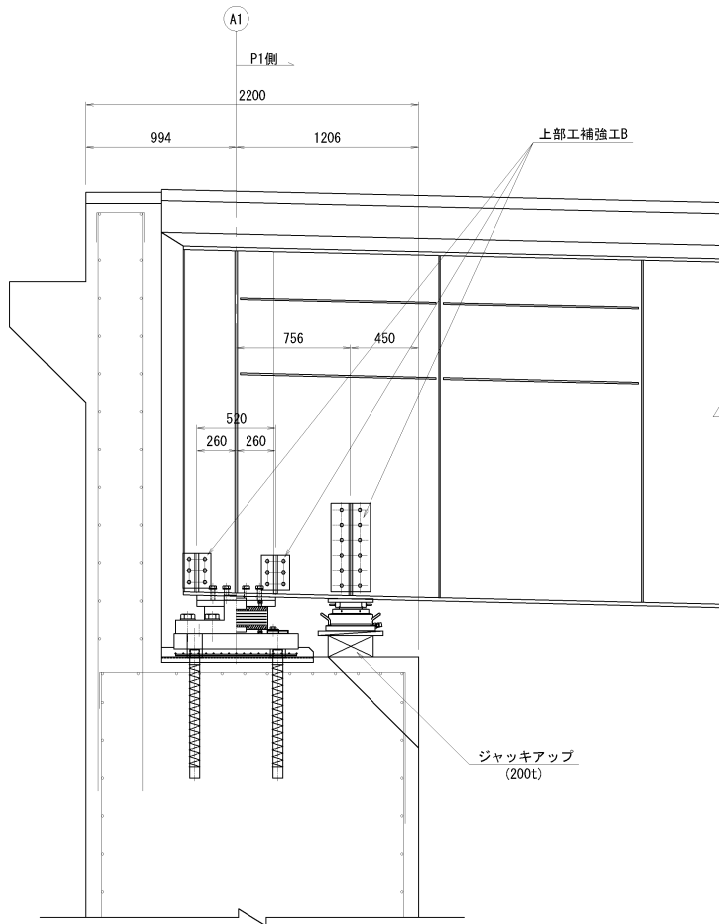
※溶融亜鉛めっき処理(膜厚は、JIS H8641 H8641 H8641とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG1)



注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

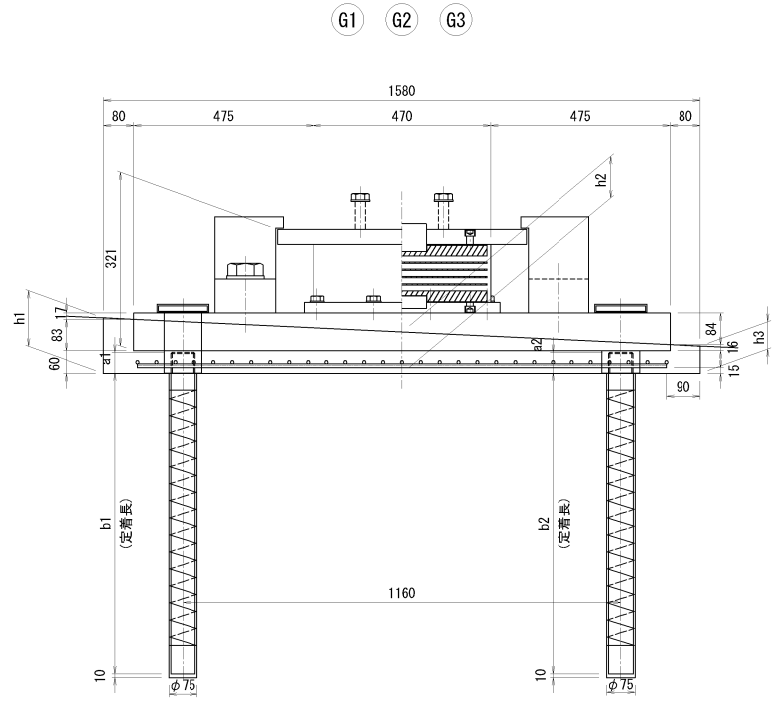
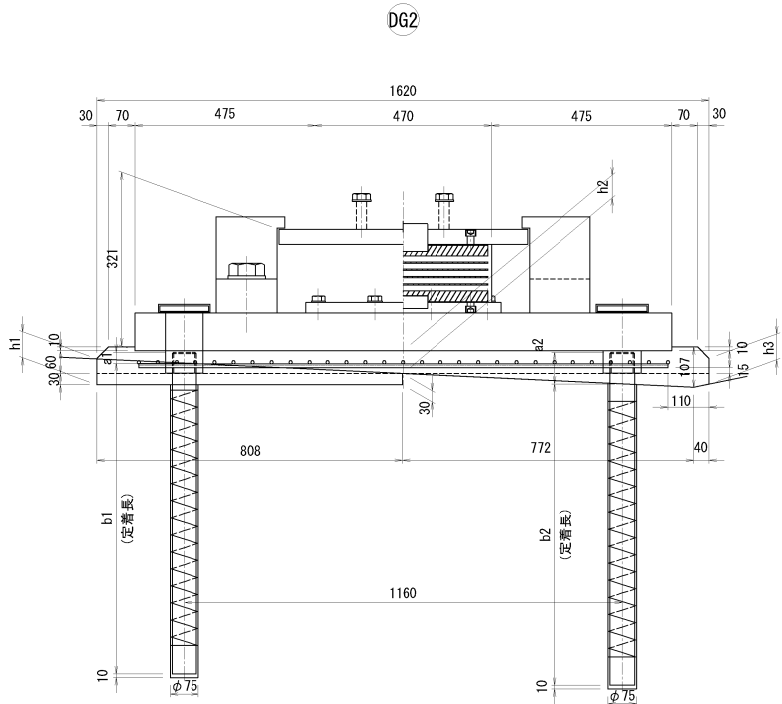
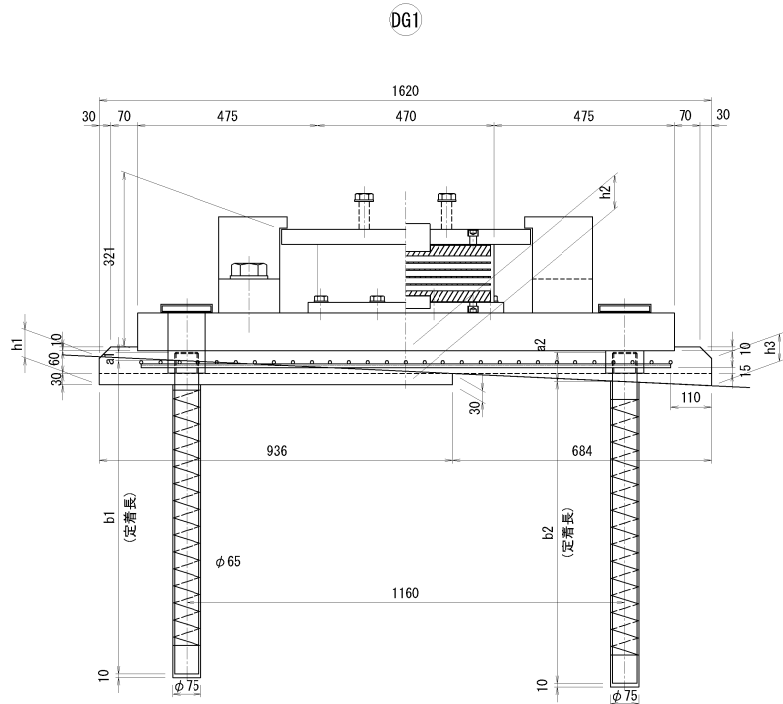
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	30 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線)支承取替工(その4)

支承取替工 E-1100(1582)

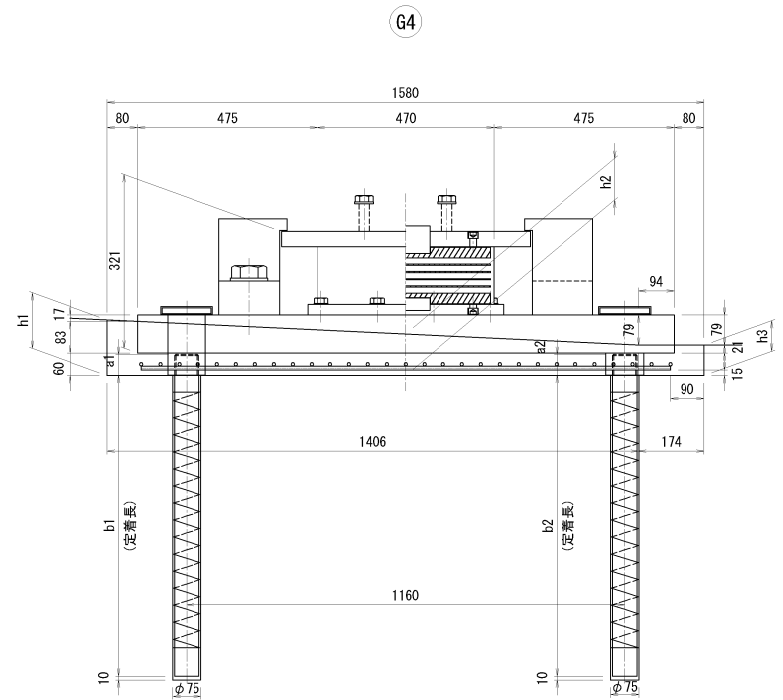
新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

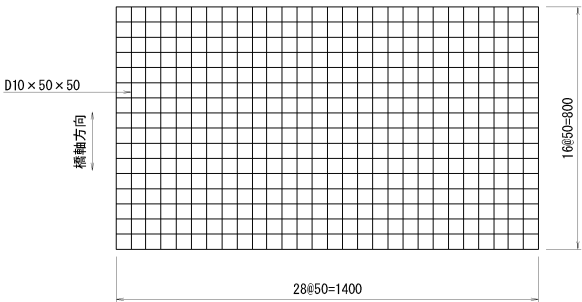


沓座格子鉄筋

支承取替工 アンカーエφ75(下方向)



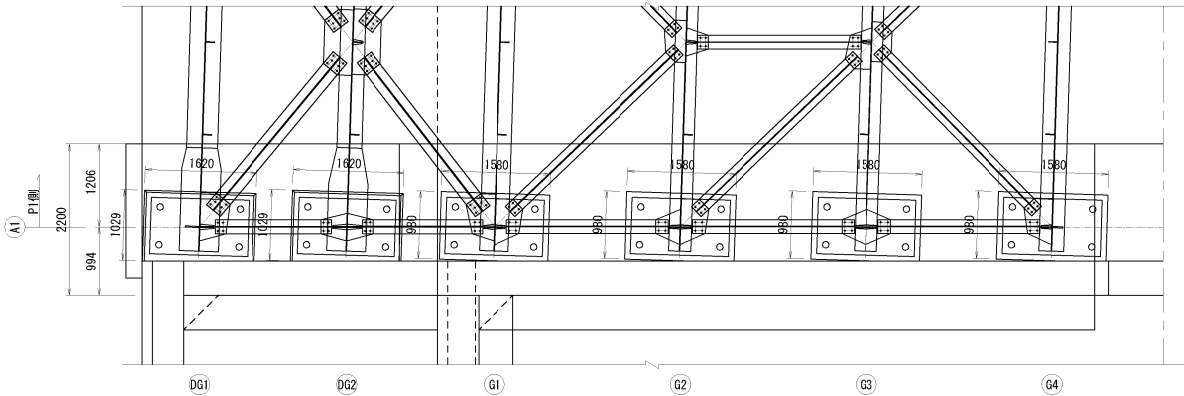
台座高				アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1(mm)	h2(mm)	h3(mm)	a1(mm)	b1(mm)	アンカー長(mm)	削孔長(mm)	a2(mm)	b2(mm)	アンカー長(mm)	削孔長(mm)
DG1	74	90	72	23	827	850	337	78	797	875	807
DG2	68	60	68	29	821	850	331	84	796	880	806
G1	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G2	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G3	147	110	72	55	795	850	305	55	795	850	805
G4	147	110	81	55	795	850	305	55	795	850	805



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	S4345	Kg	26.3	158	158	23.50Kg/m2

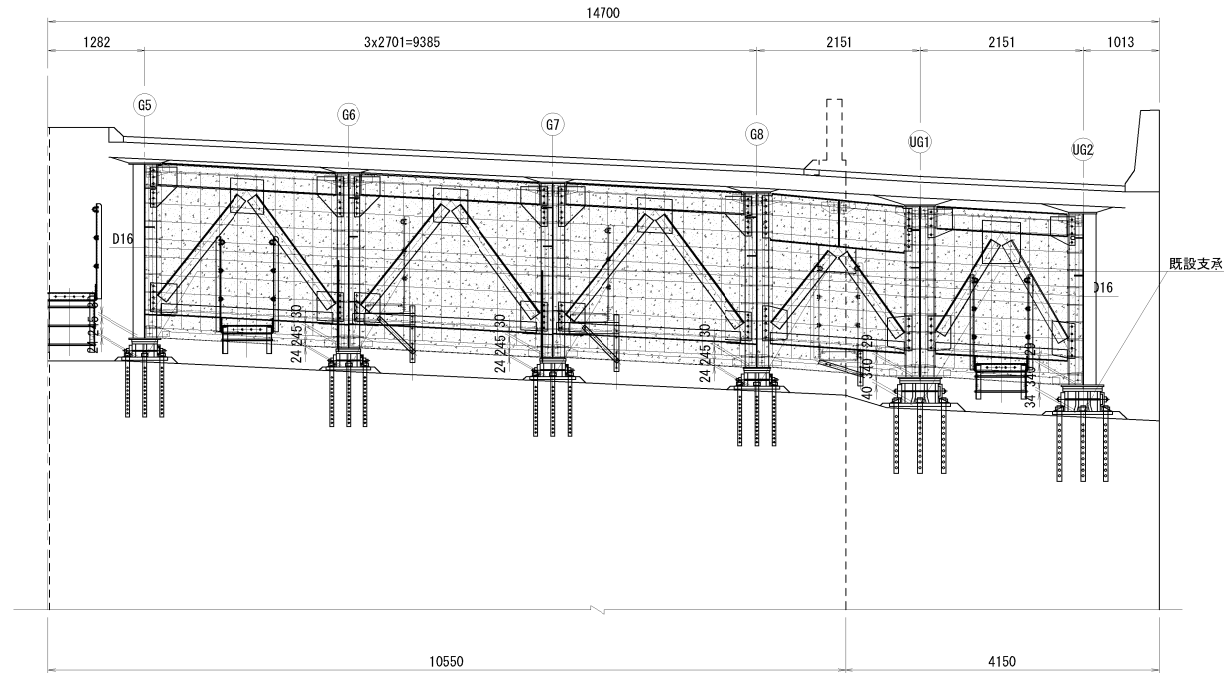
台座配置図



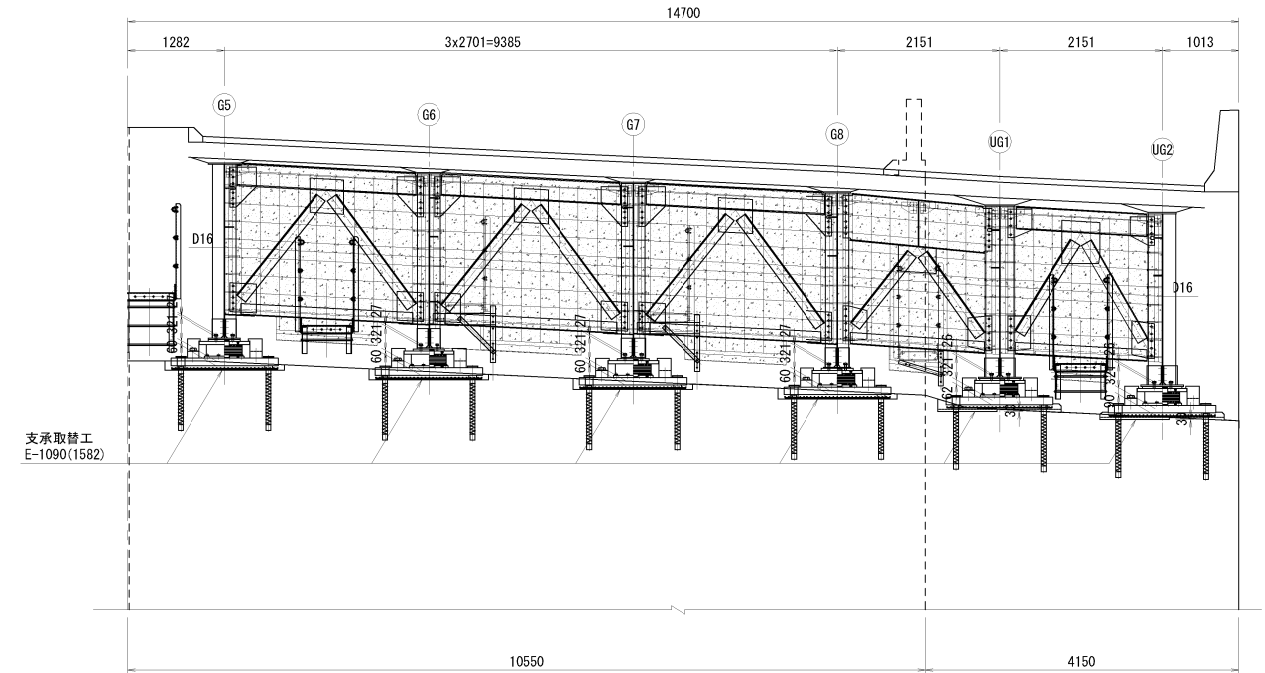
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	31 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

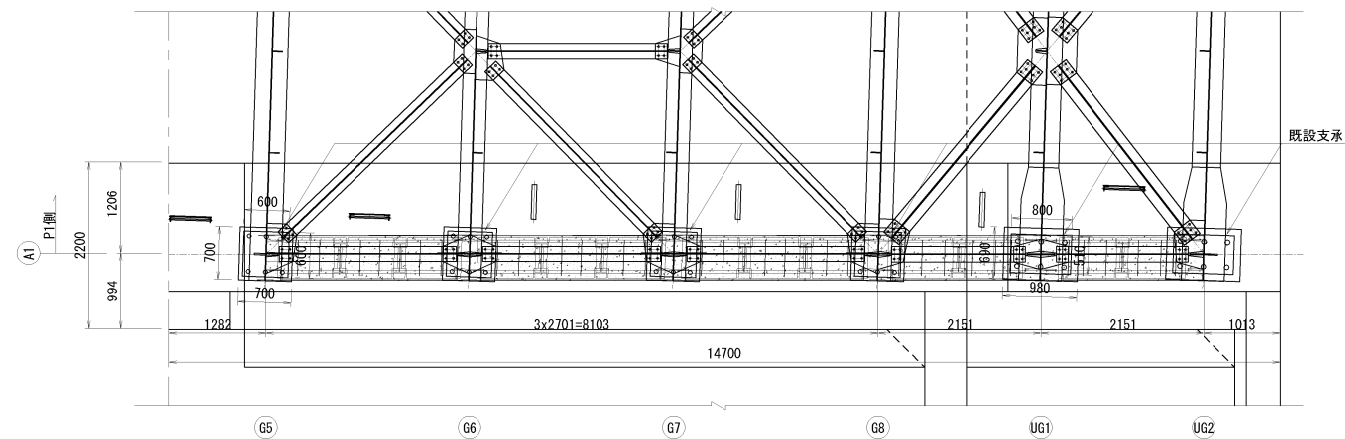
取替前
断面図



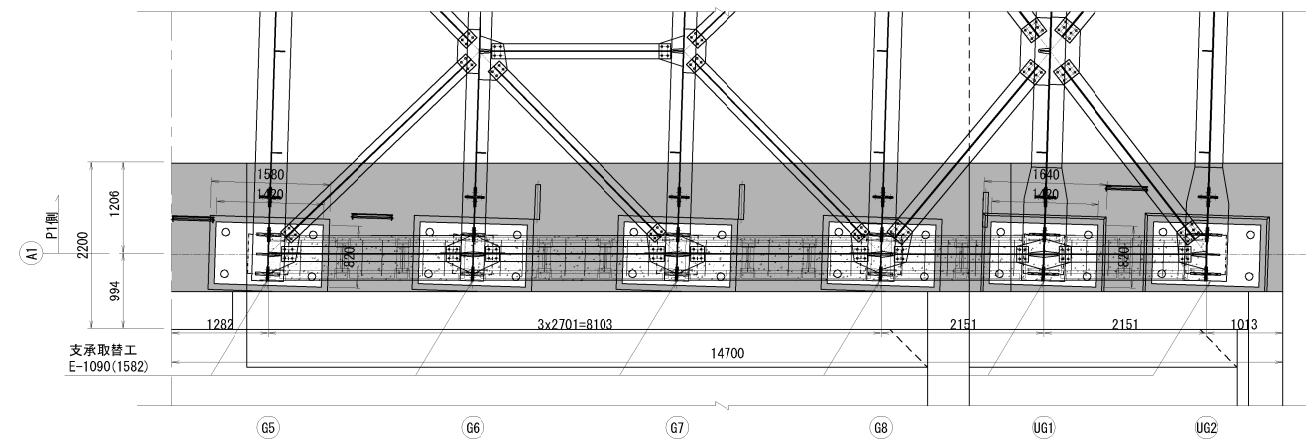
取替後
断面図



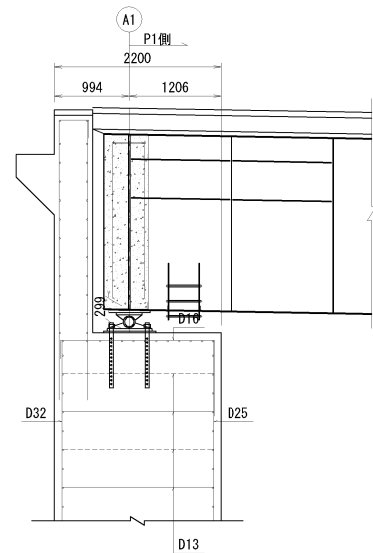
平面図



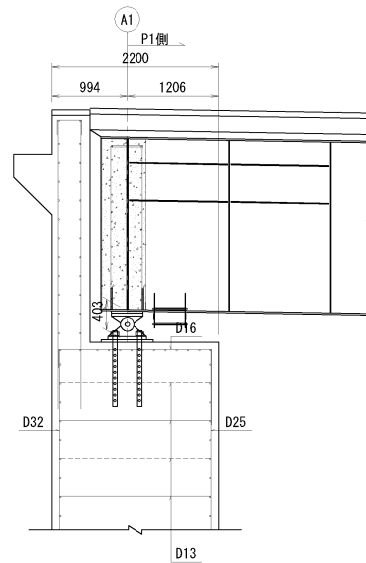
平面図



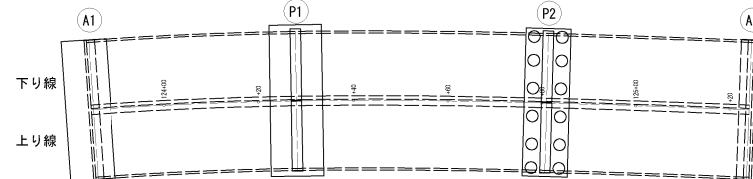
側面図(建設当初 G8)



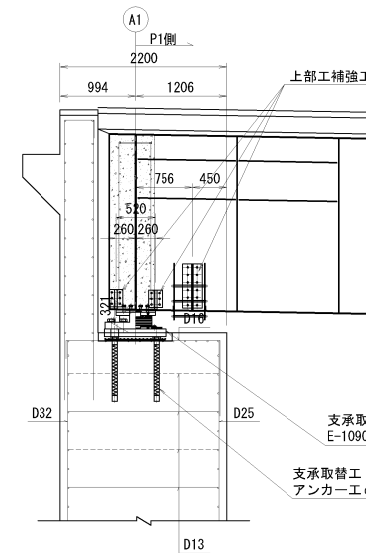
側面図(拡幅部 UG2)



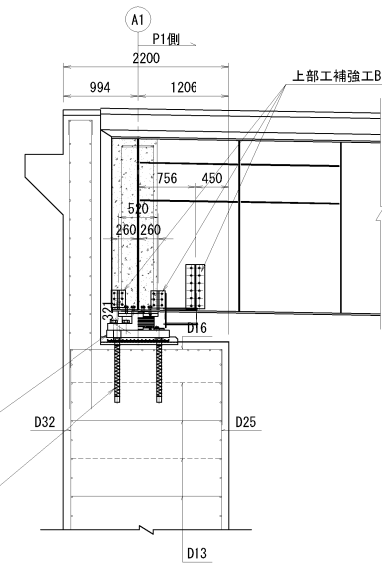
位置図



側面図(建設当初 G8)



側面図(拡幅部 UG2)

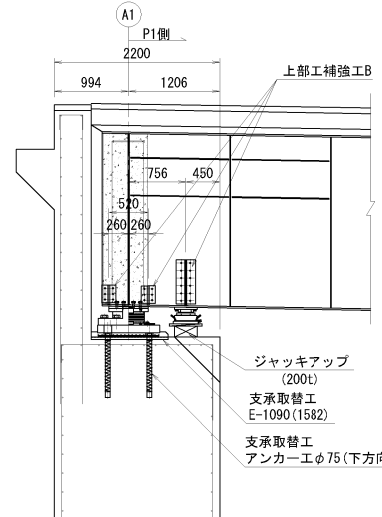
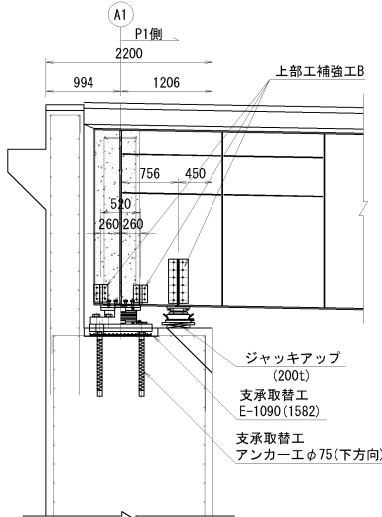
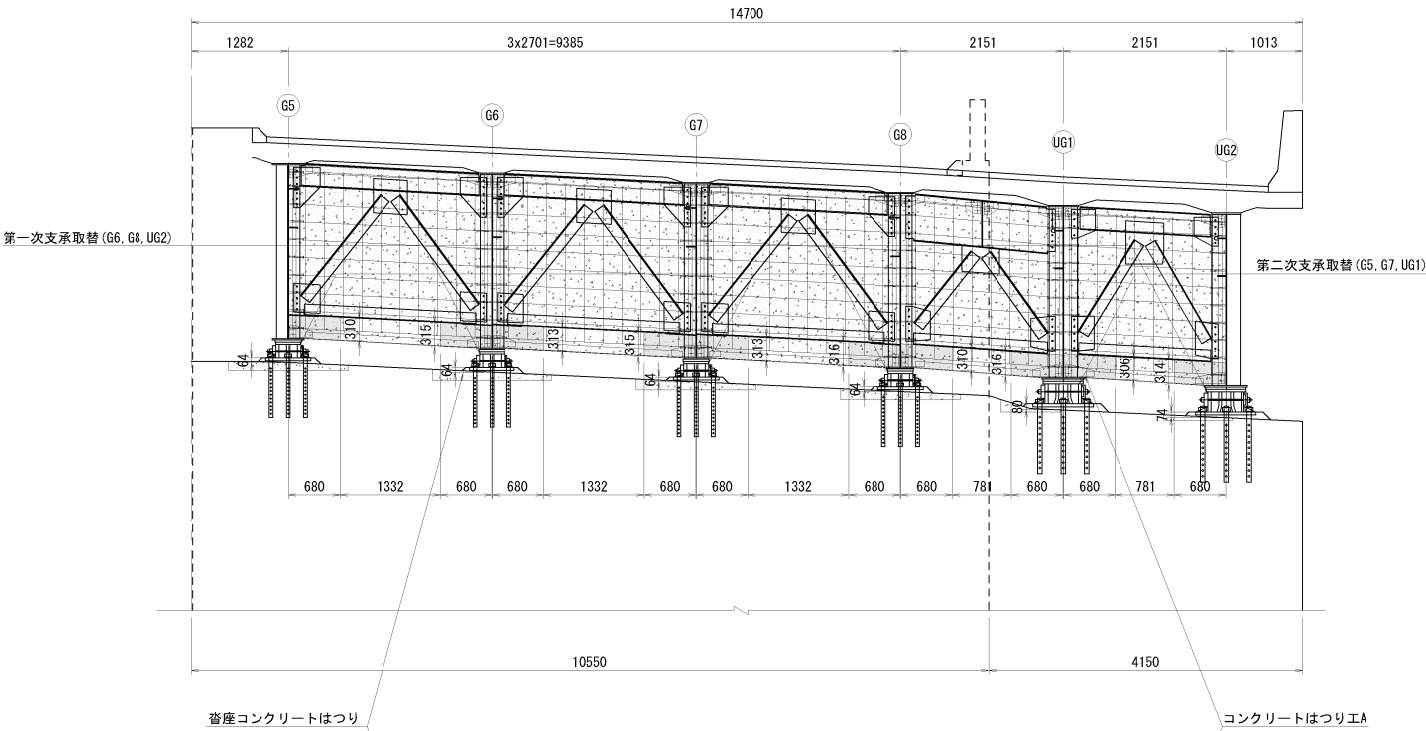


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	32 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

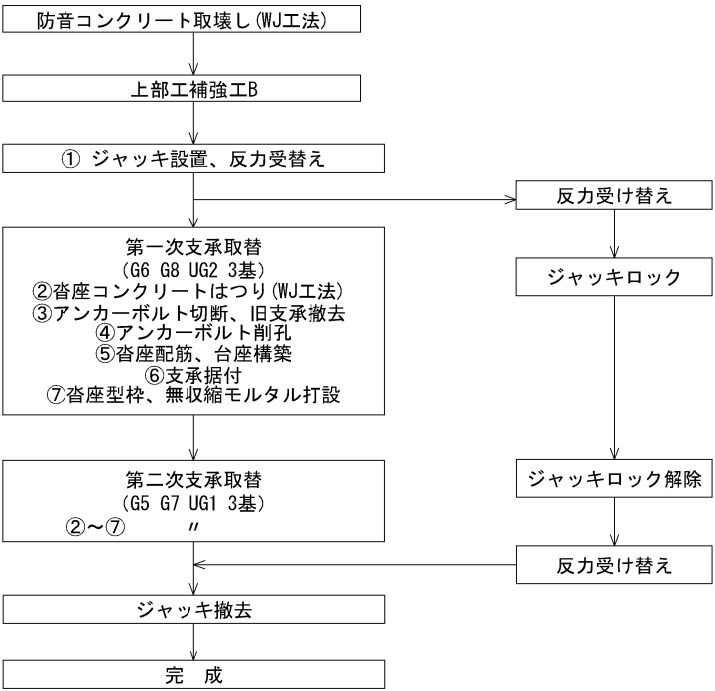
支承取替順序 断面図

側面図(建設当初 ⑧)

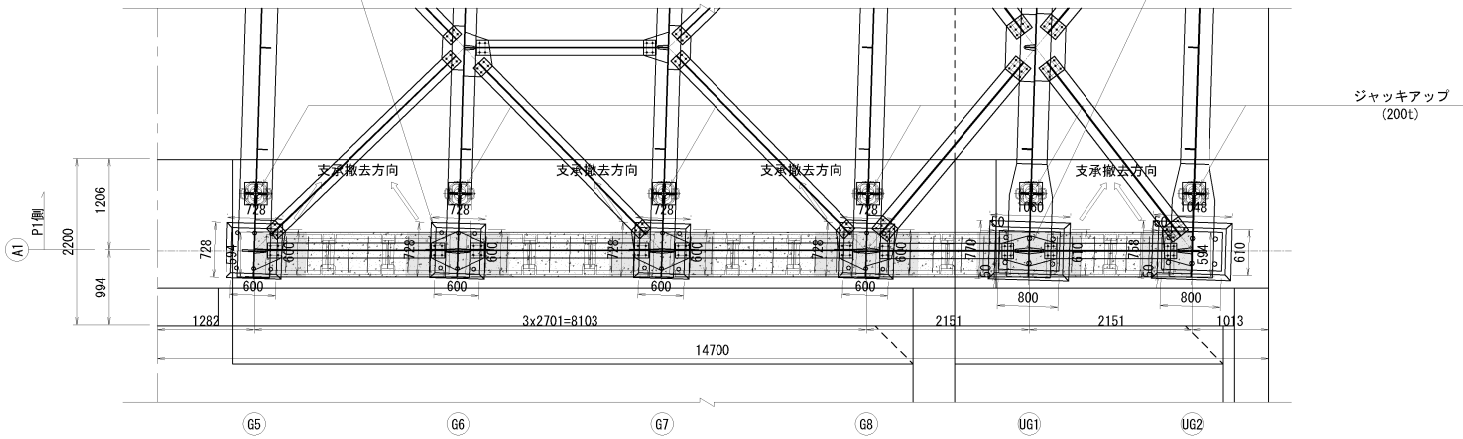
側面図(拡幅部 ⑥2)



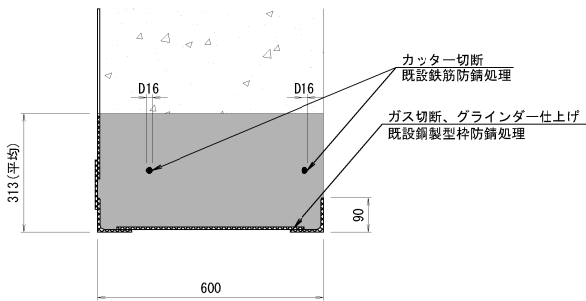
施工順番図(参考)



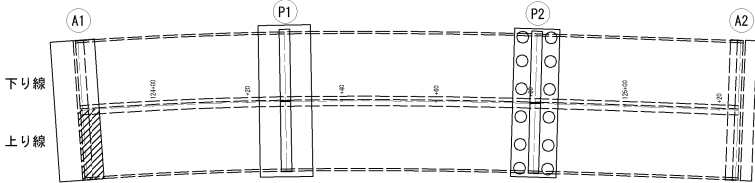
平面図



コンクリートはつり工A
防音コンクリート撤去詳細図 縮尺1:20



位置図



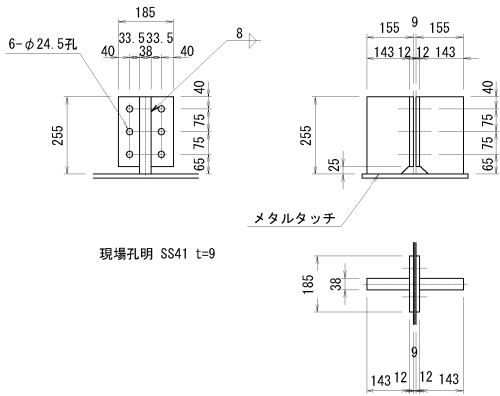
注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱い、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	33 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

上部工補強工B

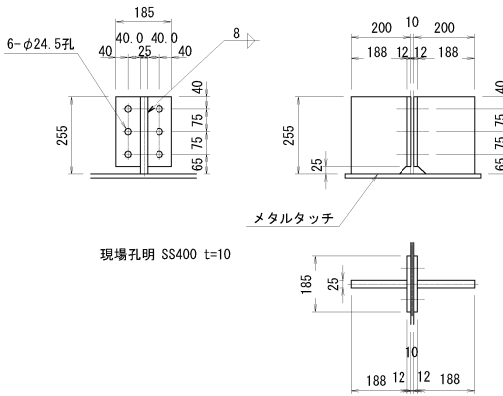
主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



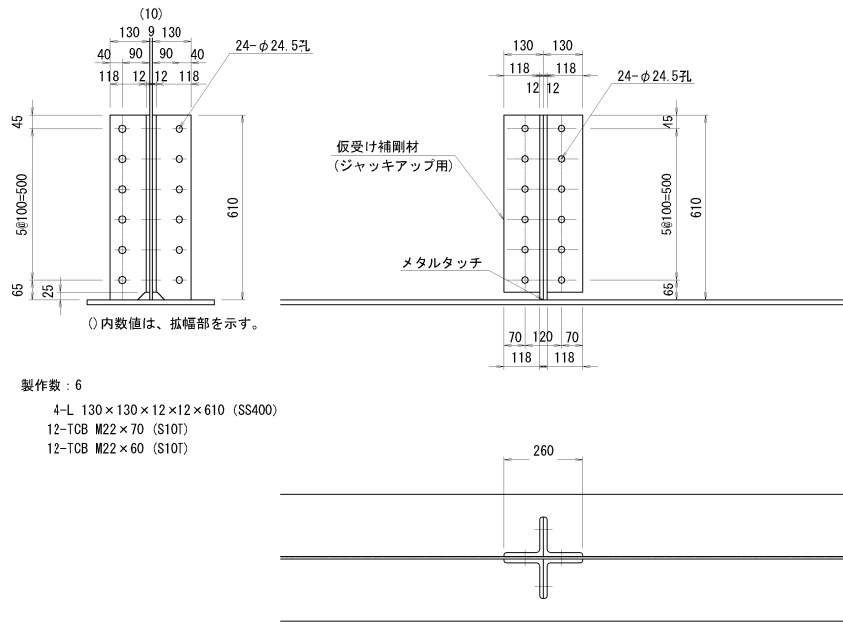
製作数 : 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 143×38×255 (SM400B)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(UG1, UG2)



製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 188×25×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

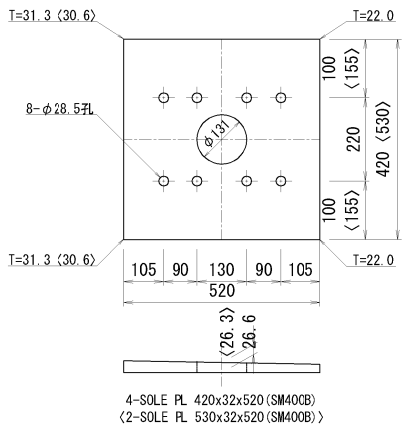
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



製作数 : 6
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

支承取替工
E-1090(1582)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
() 内数値は、拡幅部を示す。

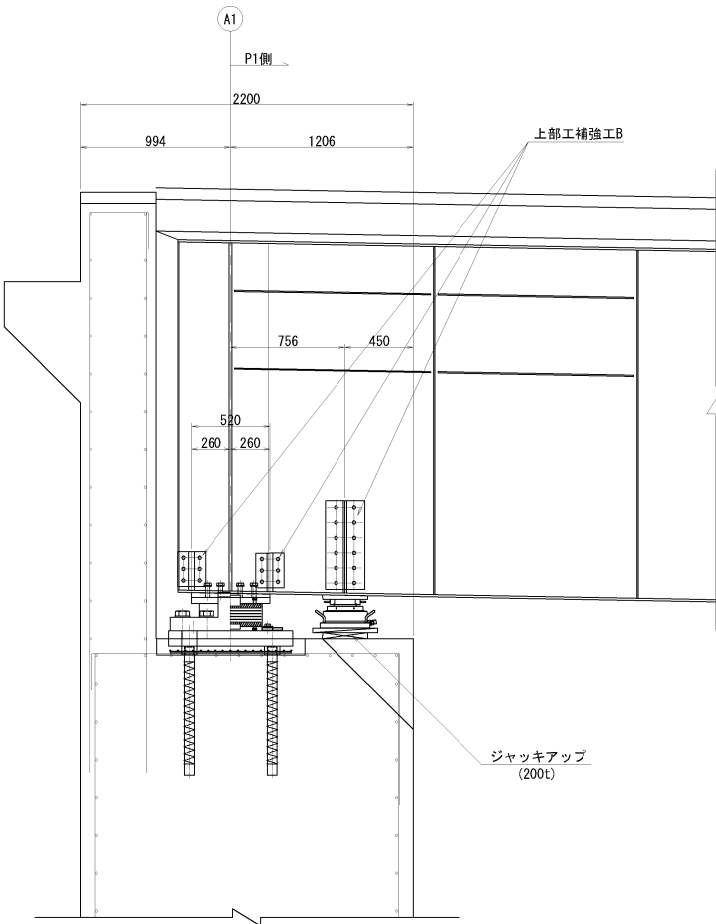


4-SOLE PL 420x32x520 (SM400B)
(2-SOLE PL 530x32x520 (SM400B))

※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

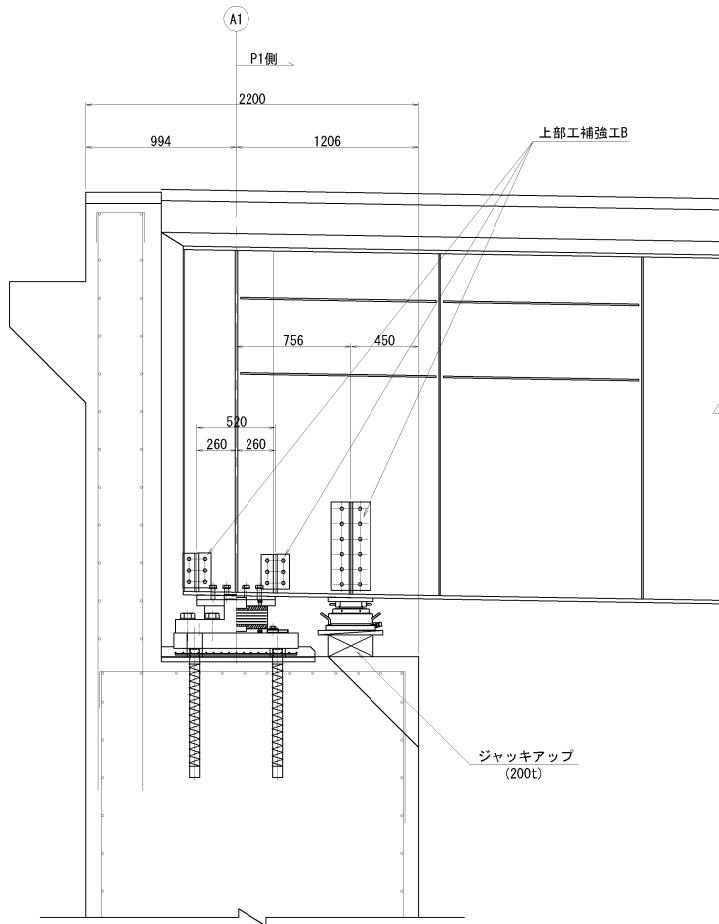
主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 (G8))



ジャッキアップ
(200t)

側面図(拡幅部 UG2)

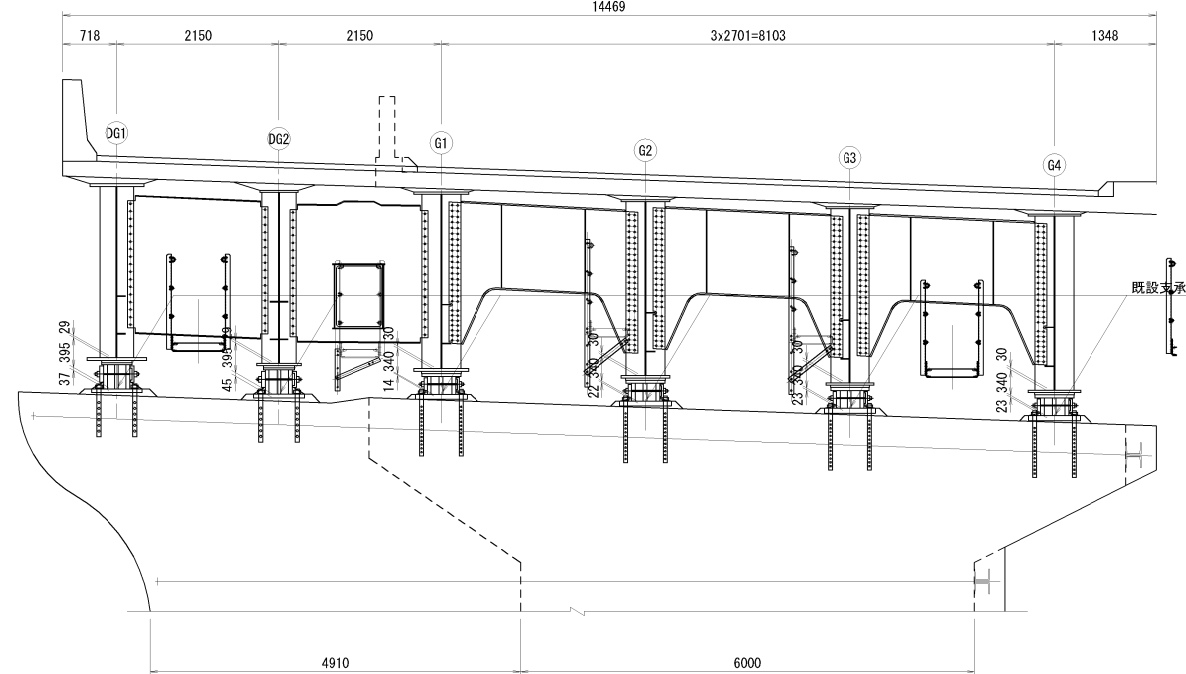


ジャッキアップ
(200t)

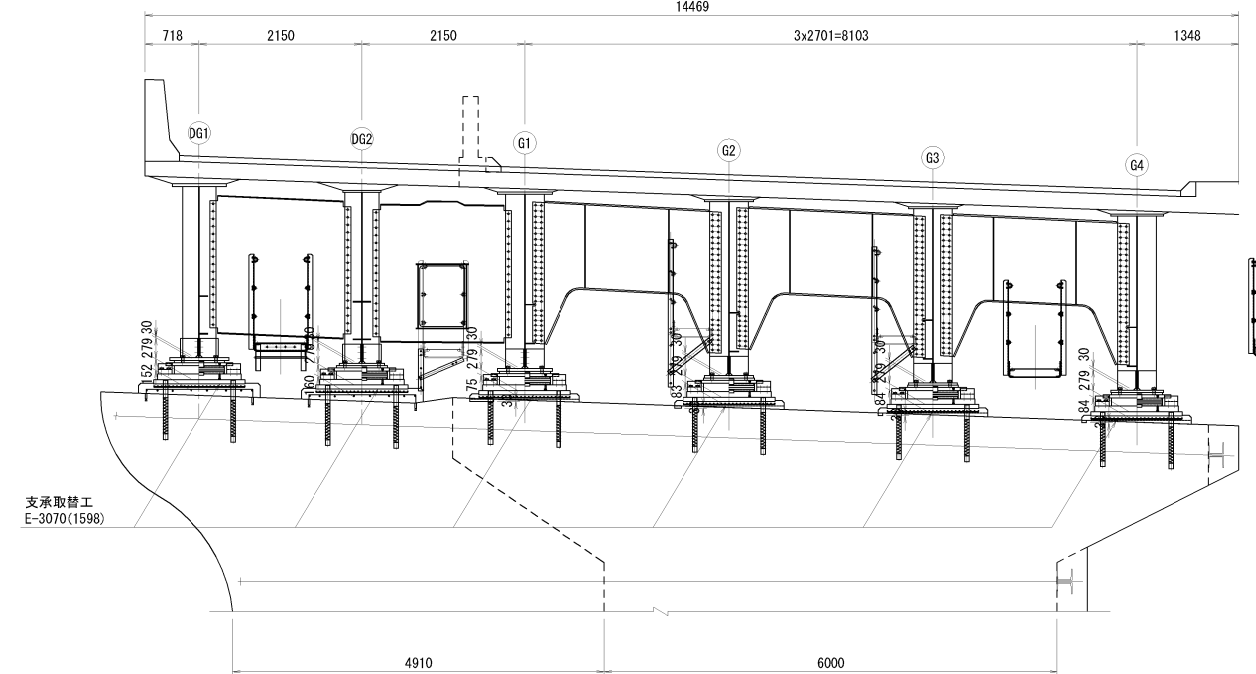
- 注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
 2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	34 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

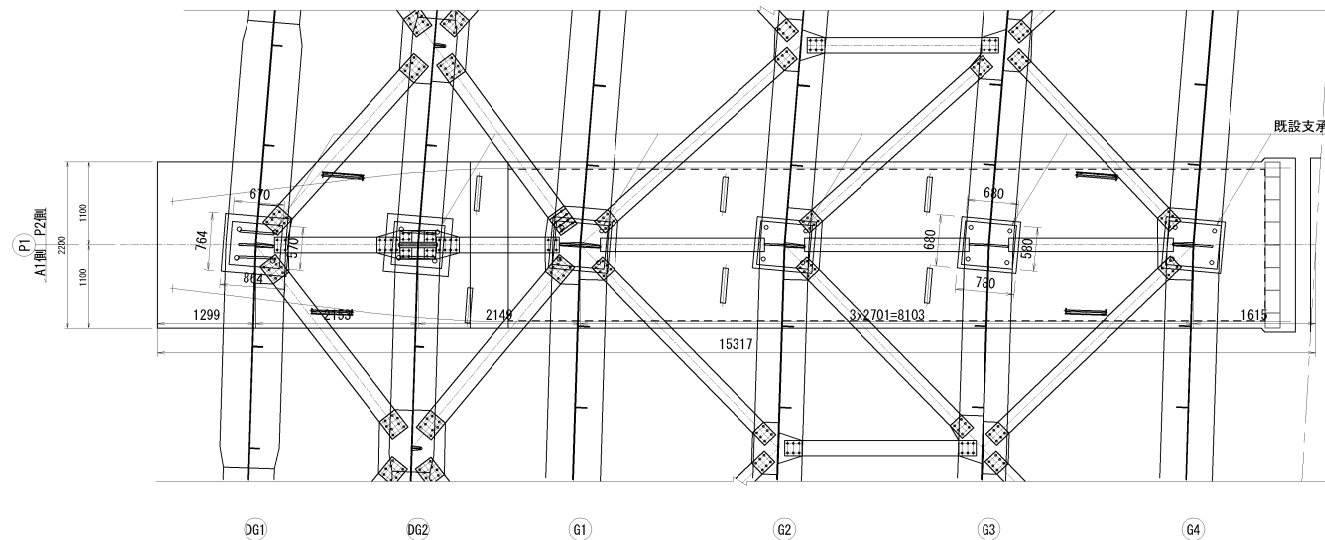
取替前
断面図



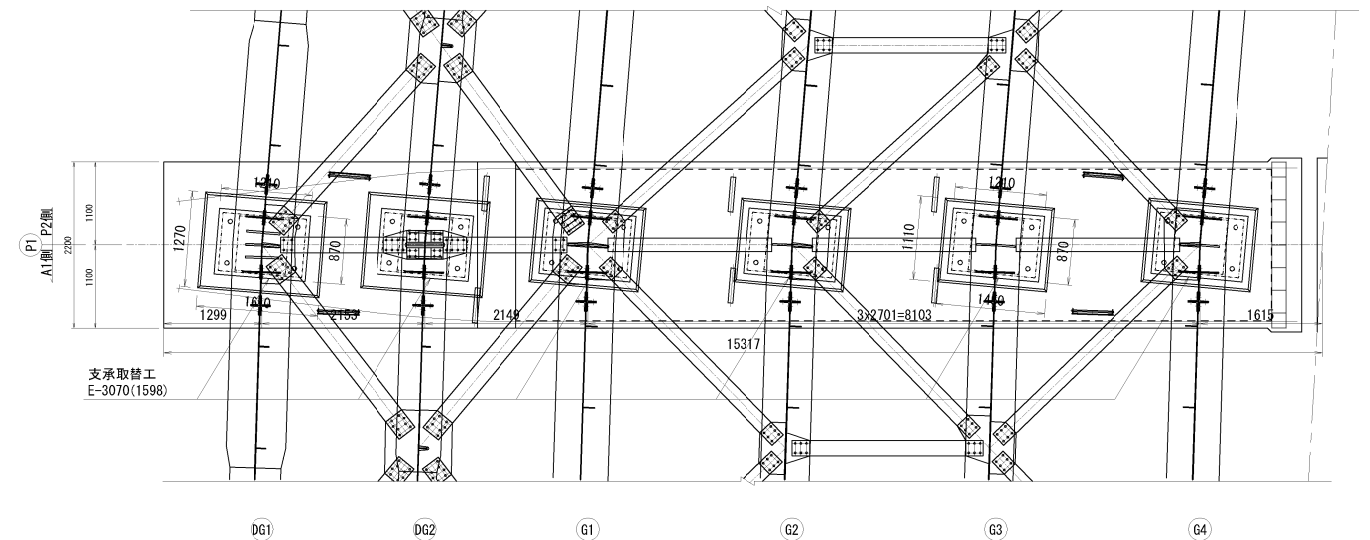
取替後
断面図



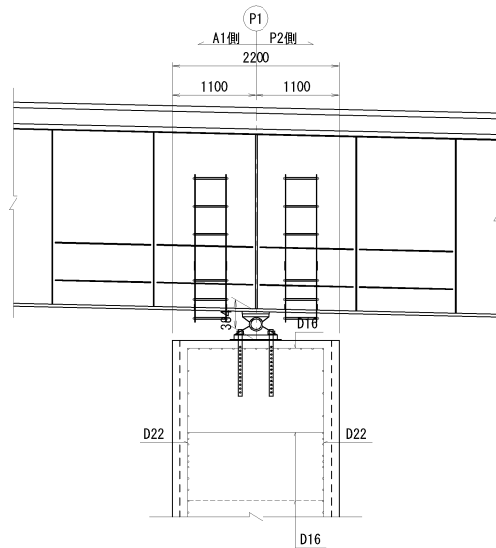
平面図



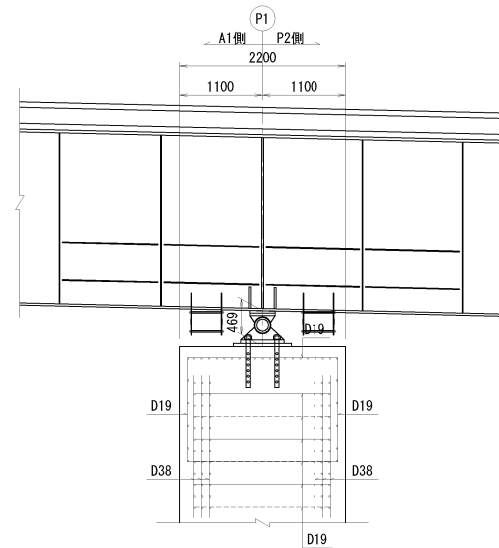
平面図



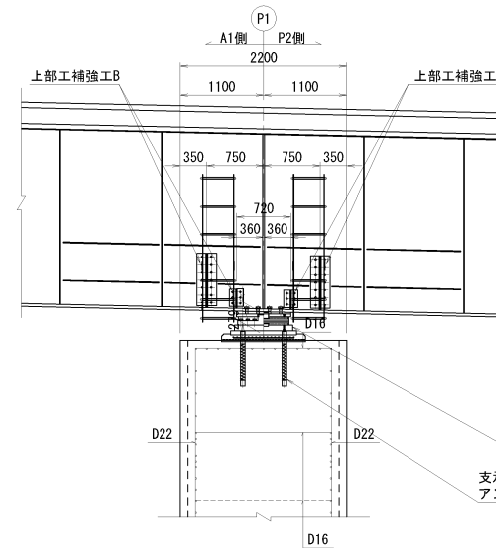
側面図(建設当初 G1)



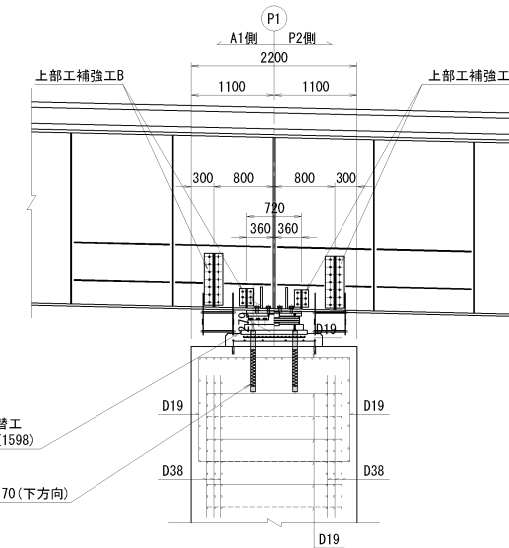
側面図(拡幅部 DG2)



側面図(建設当初 G1)

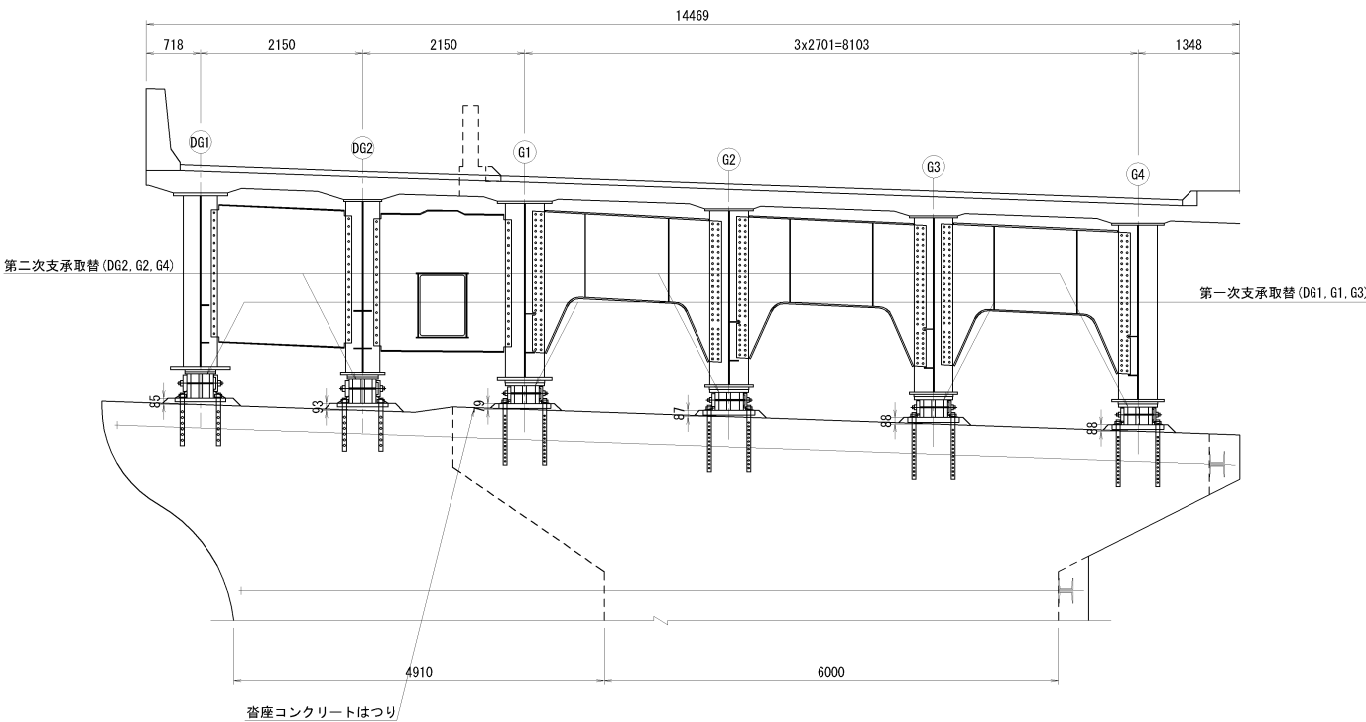


側面図(拡幅部 DG2)

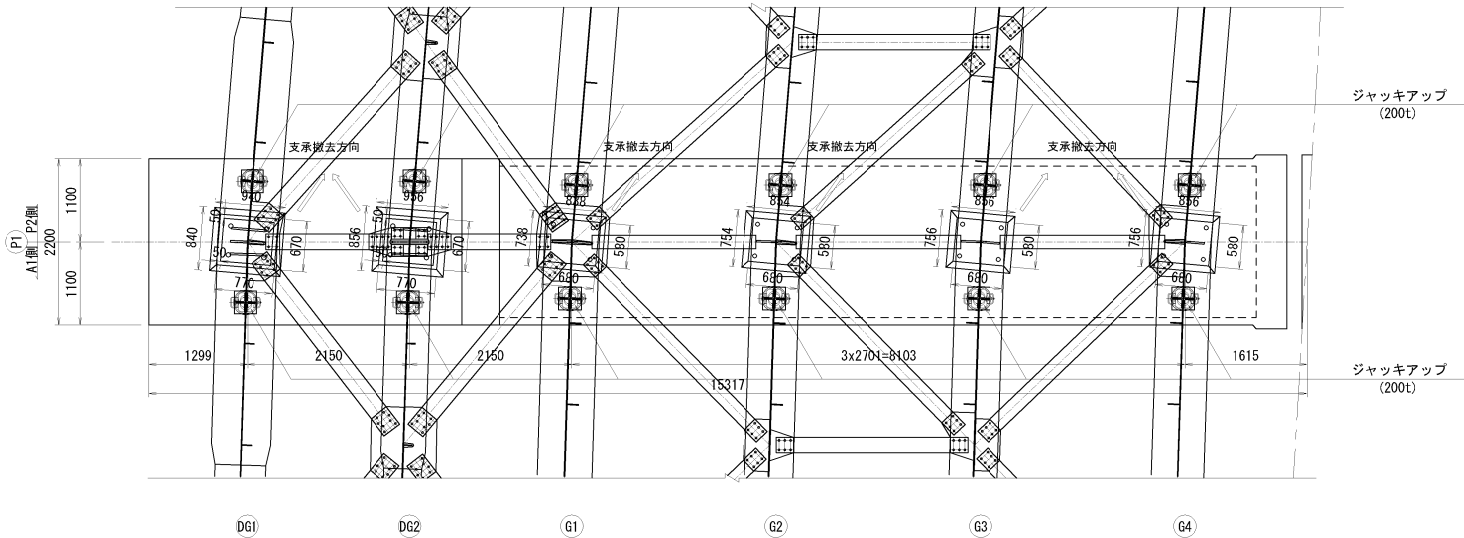


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	36 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

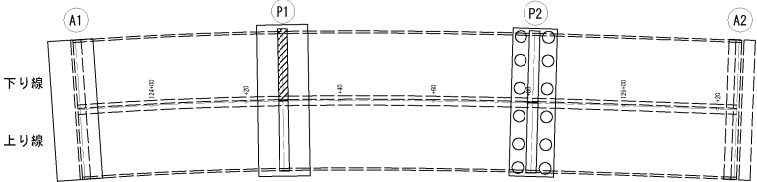
支承取替順序 断面図



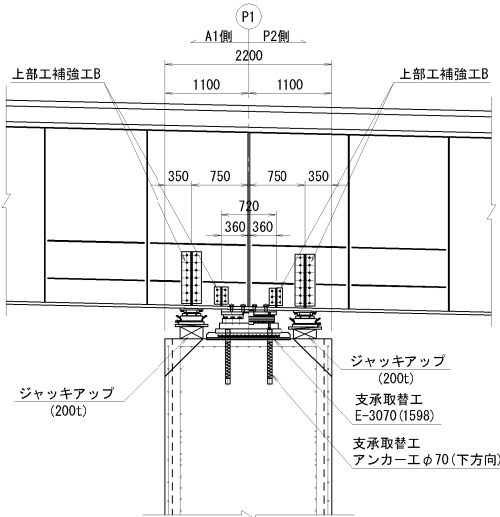
平面図



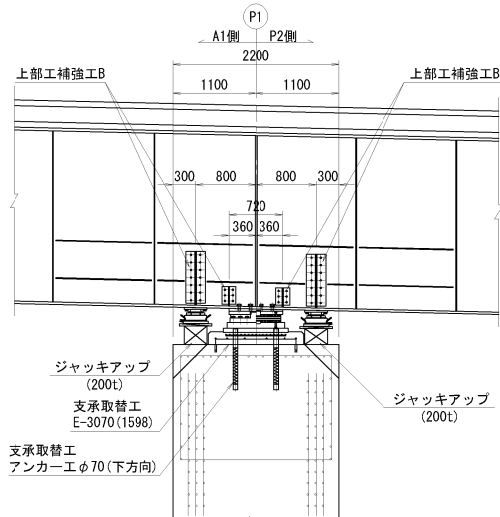
位置図



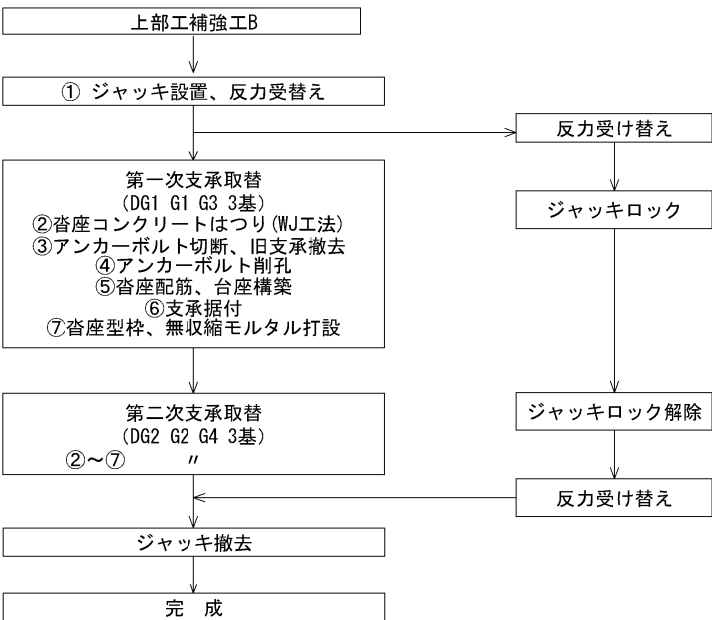
側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG2)



施工順番図(参考)

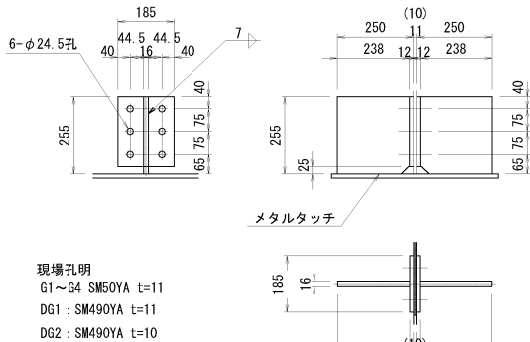


- 注 記
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	37 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G1~G4, DG1, DG2)



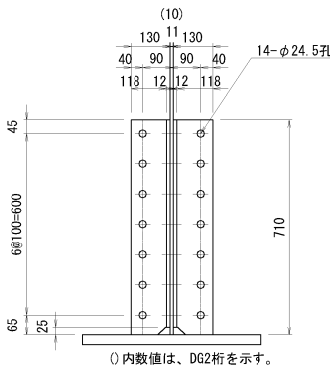
現場孔明
G1~G4 SM50YA t=11
DG1 : SM490YA t=11
DG2 : SM490YA t=10

製作数 : 12
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 238×16×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

○内数値は、DG2桁を示す。

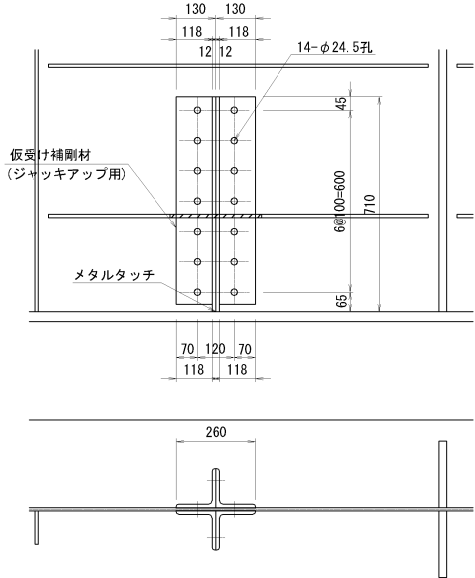
上部工補強工B

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)



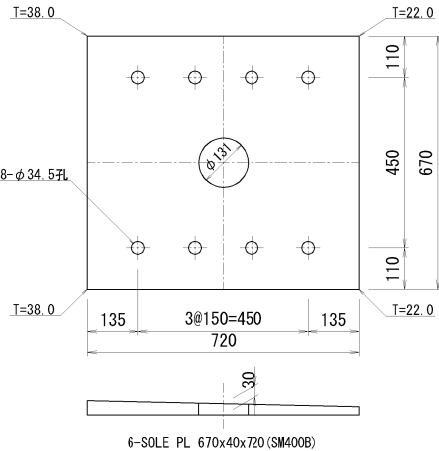
製作数 : 12
4-L 130×130×12×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

○内数値は、DG2桁を示す。



支承取替工
E-3070(1598)

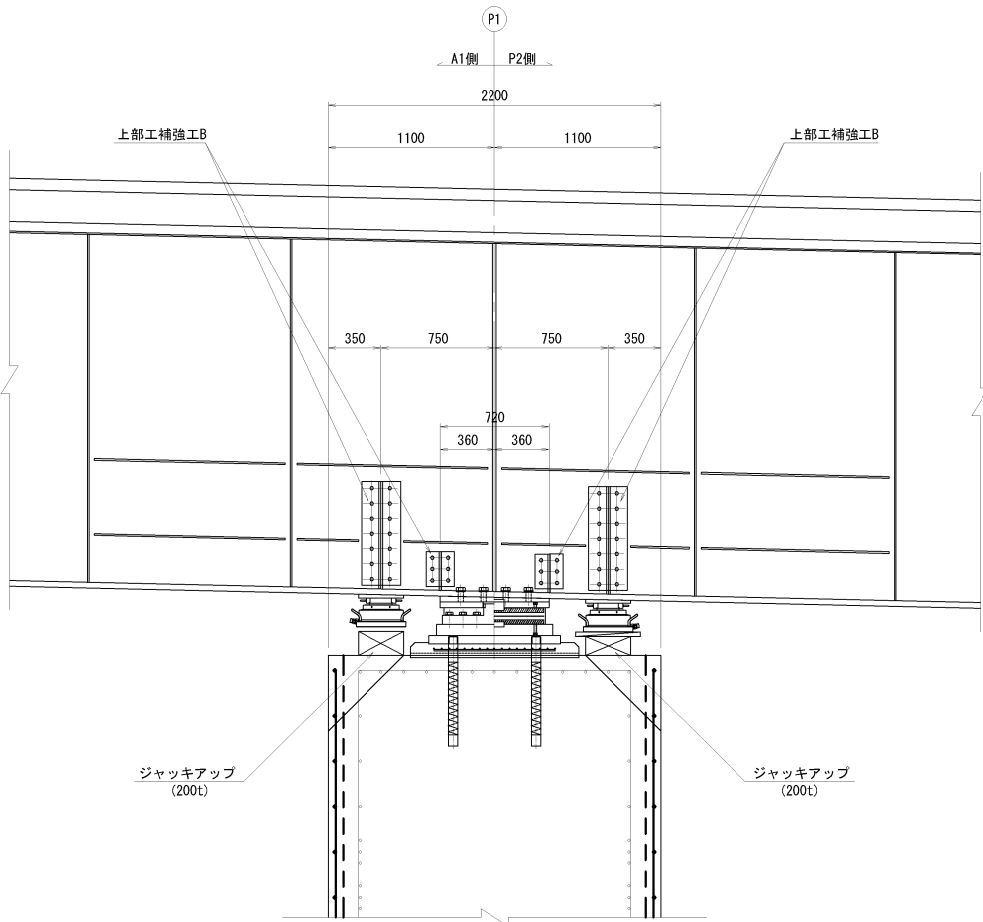
ソールプレート詳細図 縮尺1:20



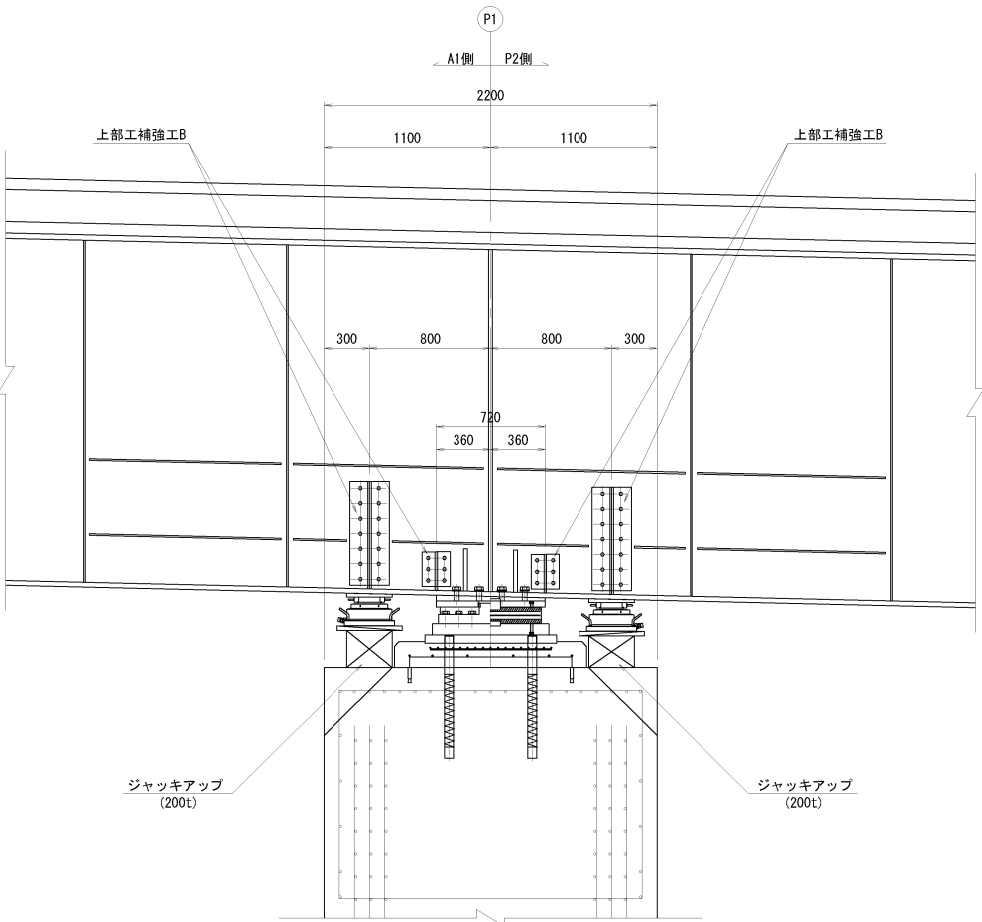
※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)



側面図(拡幅部 DG2)



注 記
1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	38 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

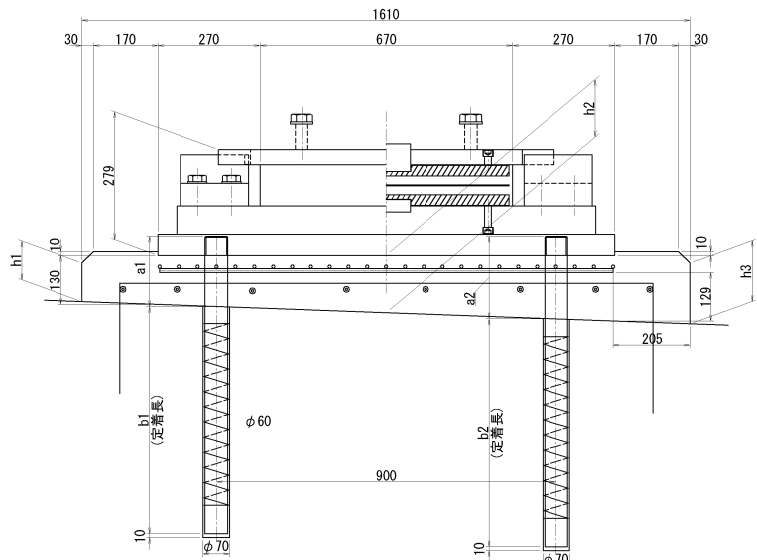
釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線)支承取替工(その4)

支承取替工 E-3070 (1598)

新支承設置

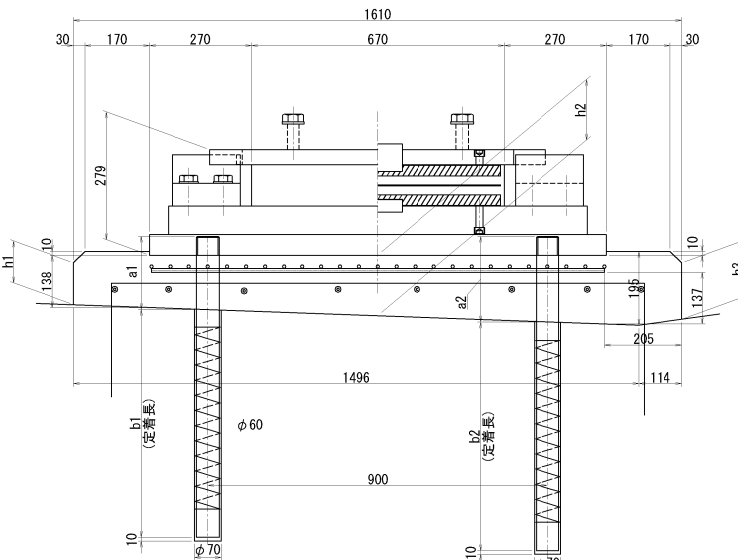
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

DG1



沓座配筋図 (DG1)

DG2



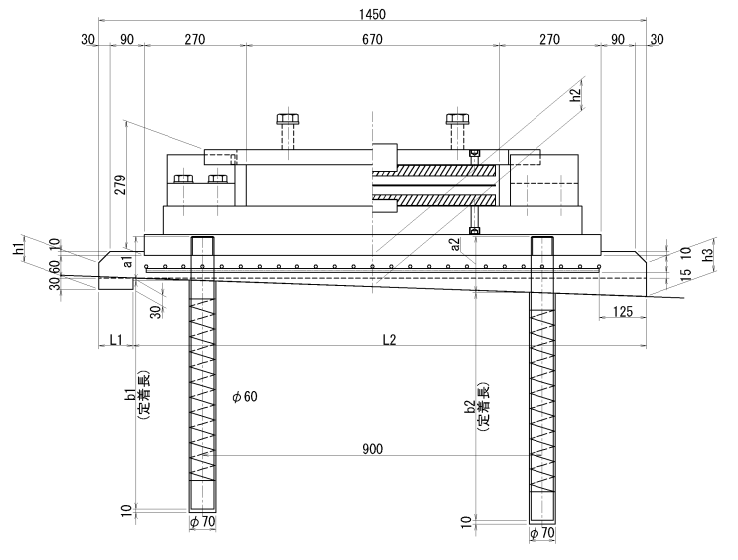
沓座配筋図 (DG2)

G1

G2

G3

G4



沓座格子鉄筋

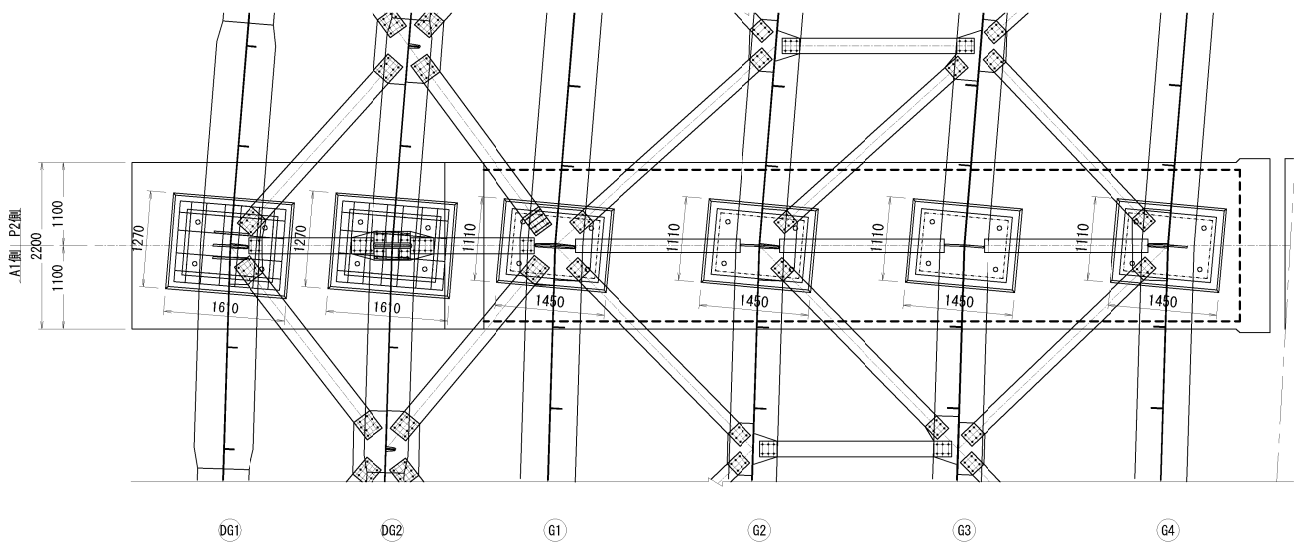
支承取替工 アンカー工φ70 (下方向)

	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)				はつり長	
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	剛孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	剛孔長 (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)
DG1	103	152	161	185	600	785	610	218	602	820	612	-	-
DG2	111	160	149	193	602	795	612	226	604	830	614	-	-
G1	70	75	81	109	601	710	611	141	604	745	614	313	1137
G2	70	83	89	117	603	720	613	149	601	750	611	90	1360
G3	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	62	1388
G4	70	84	90	118	602	720	612	150	600	750	610	62	1388

格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計 (6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345	Kg	22.6	136	136	23.5/Kg/m2

台座配置図



- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横須賀横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	39 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

鉄筋加工寸法表

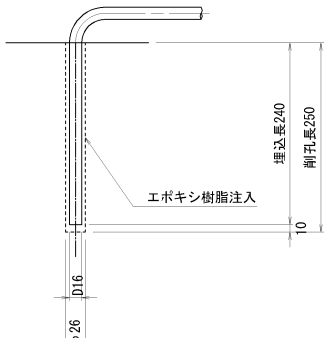
径	主 筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$	$\theta = 60^\circ$	$\theta = 90^\circ$	$\theta = 135^\circ$	$\theta = 45^\circ$	$\theta = 60^\circ$
D16	48	88	113	119	100	66	75	21

鉄筋質量表

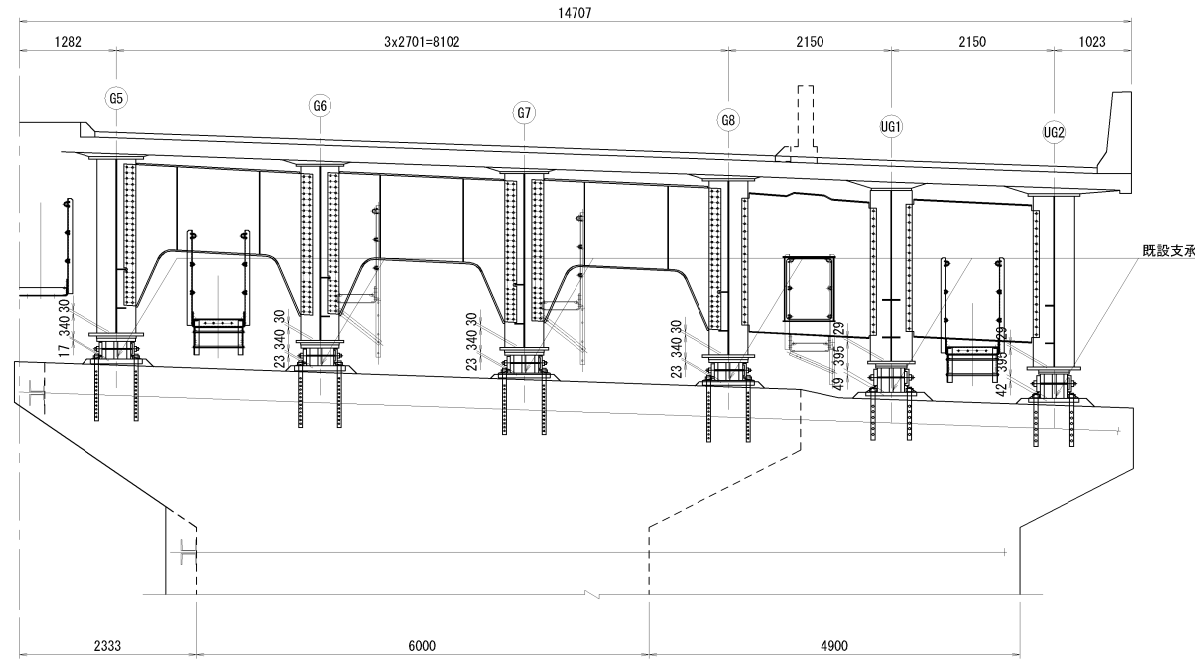
記 号	径	長 さ	本 数	単位質量	一本当り質量	質 量	摘 要
S 1	D16	850	24	1.56	1.33	32	差筋AK
S 2	D16	840	24	1.56	1.31	31	差筋AK
S 3	D16	1070	16	1.56	1.67	27	—
S 4	D16	1410	12	1.56	2.20	26	—
							116 kg
D'6				63 kg	(差し筋アンカー)		
合 計 D'6				53 kg			
総質量				116 kg			

支承取替工 アンカー工φ26 (下方向)

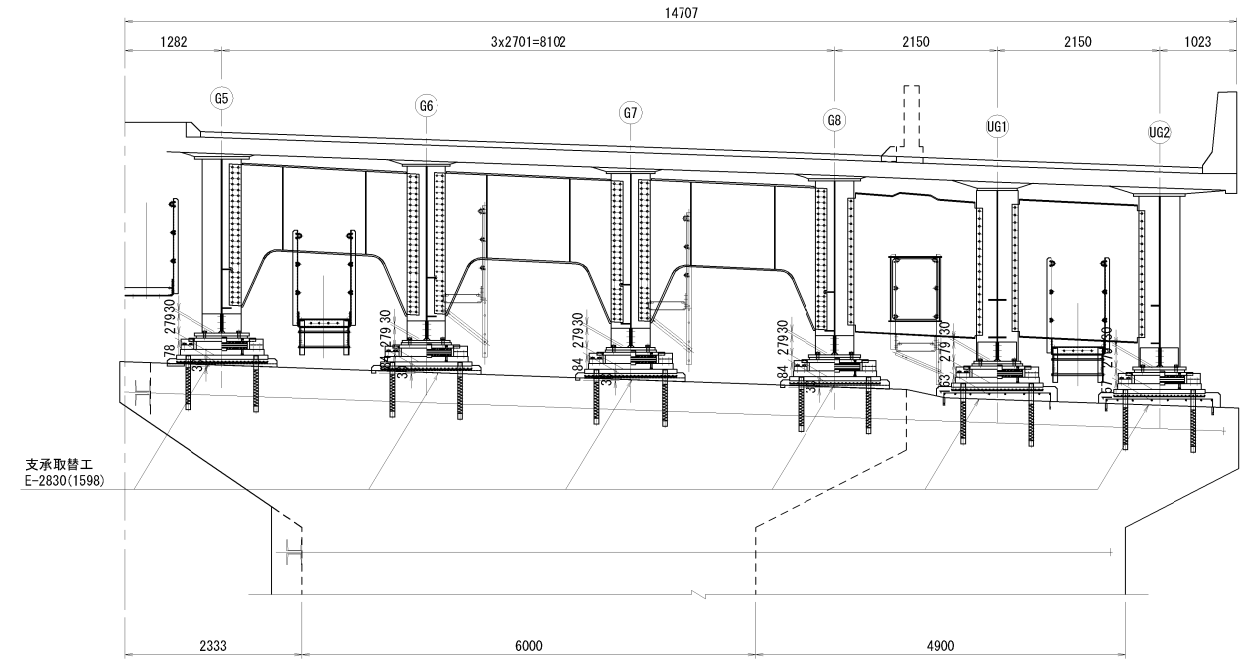
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



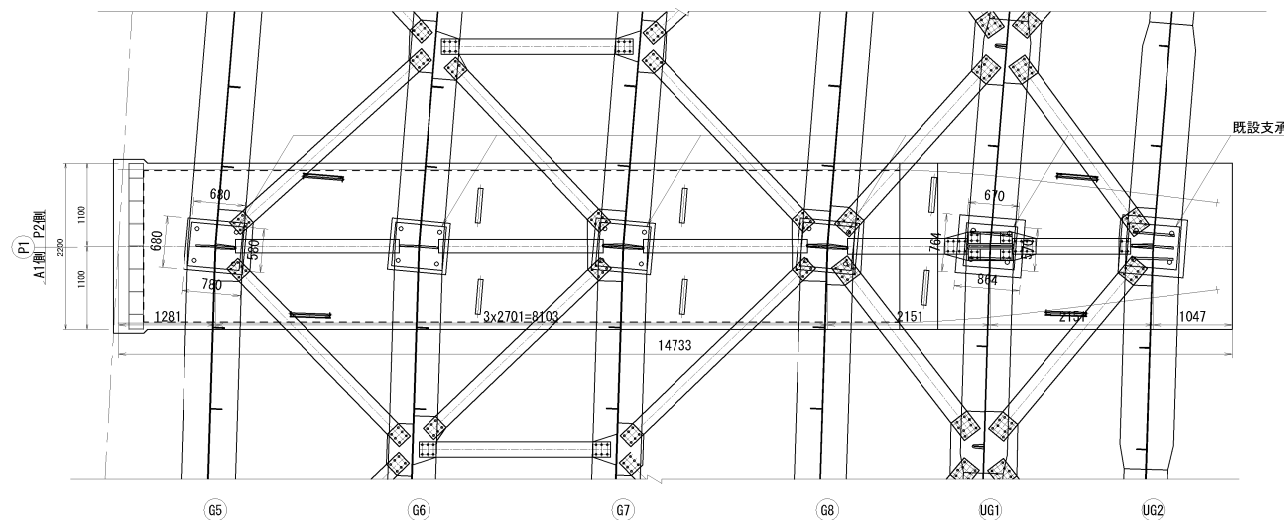
取替前
断面図



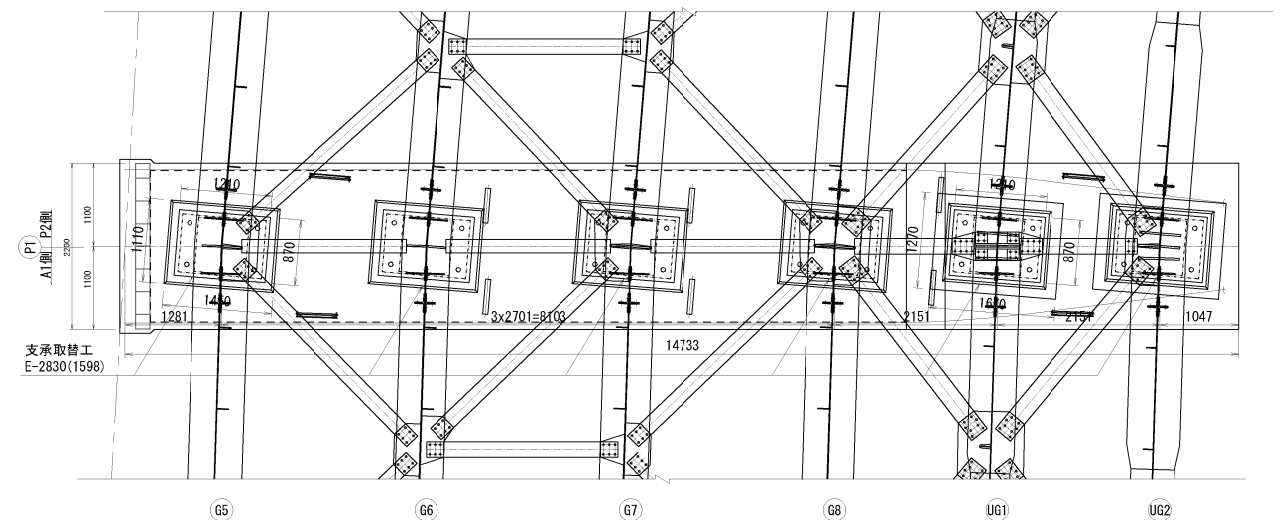
取替後
断面図



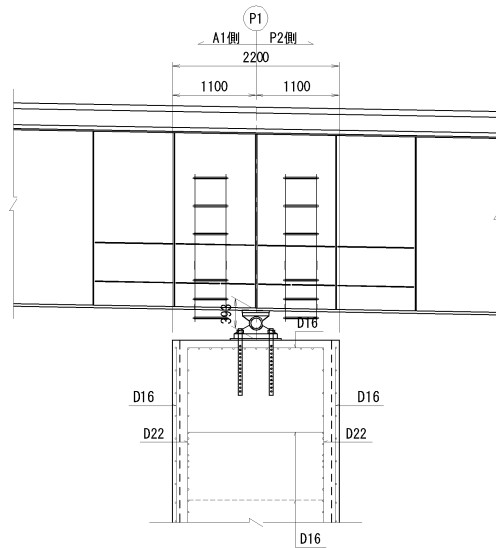
平面図



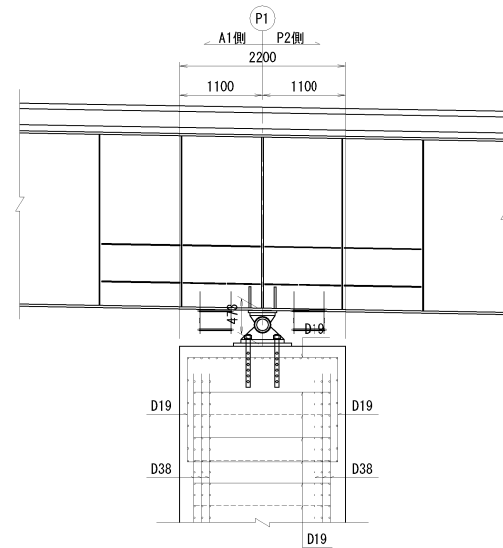
平面図



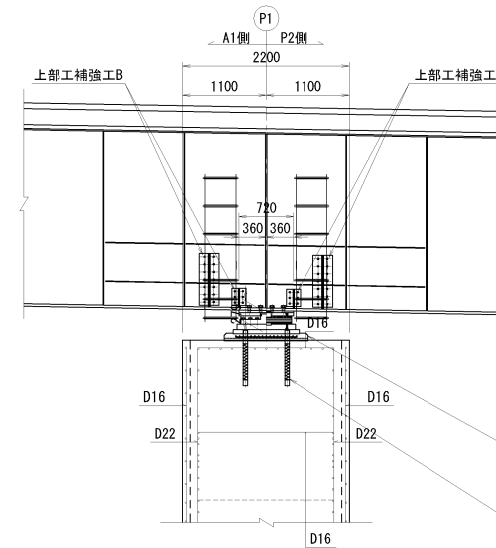
側面図(建設当初 G8)



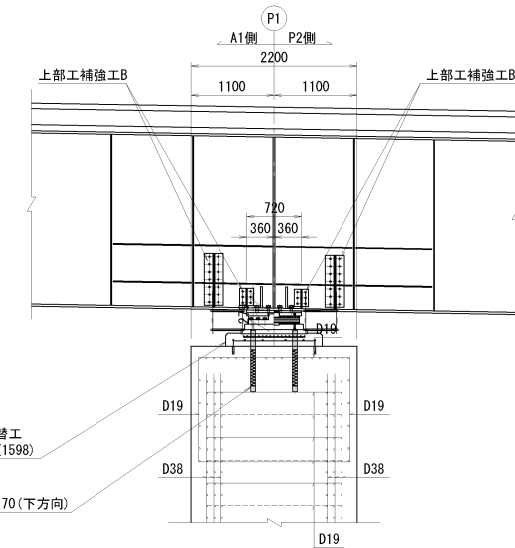
側面図(拡幅部 UG1)



側面図(建設当初 G8)

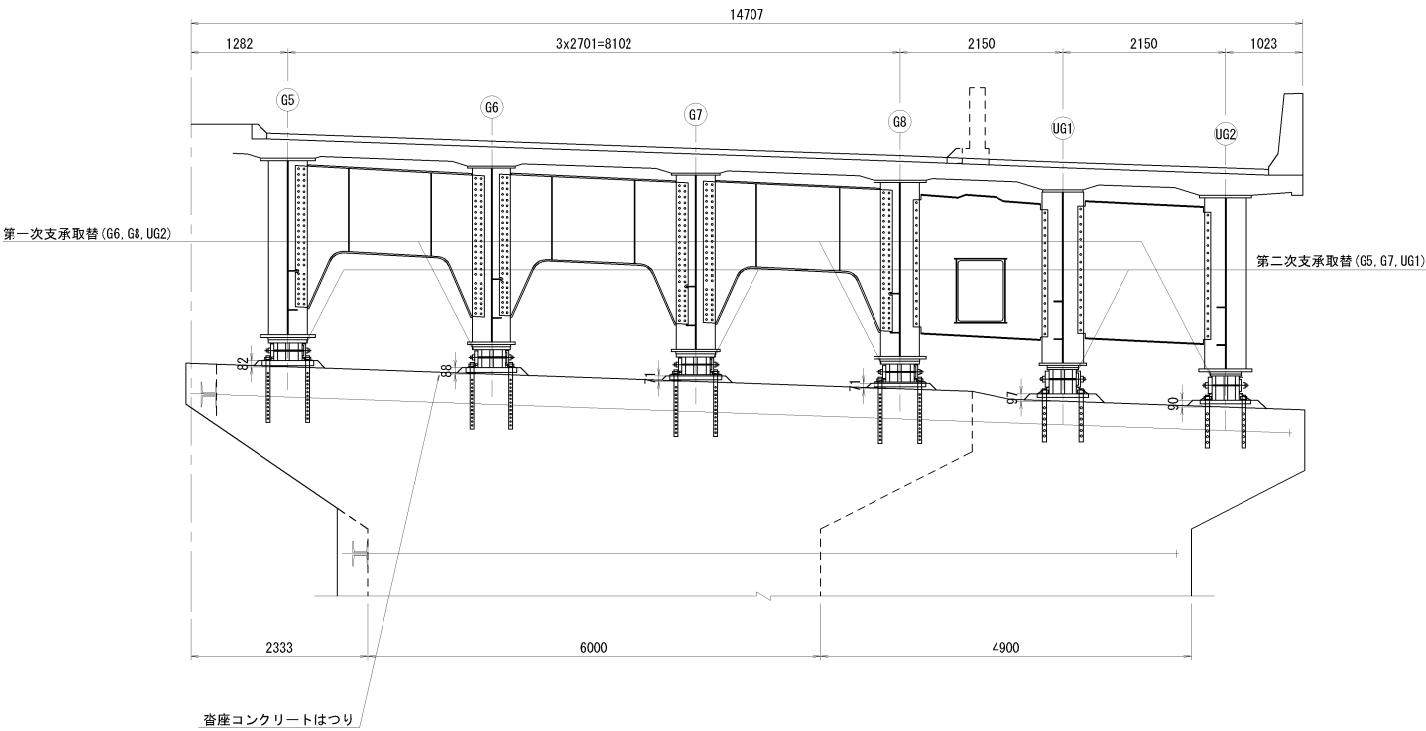


側面図(拡幅部 UG1)

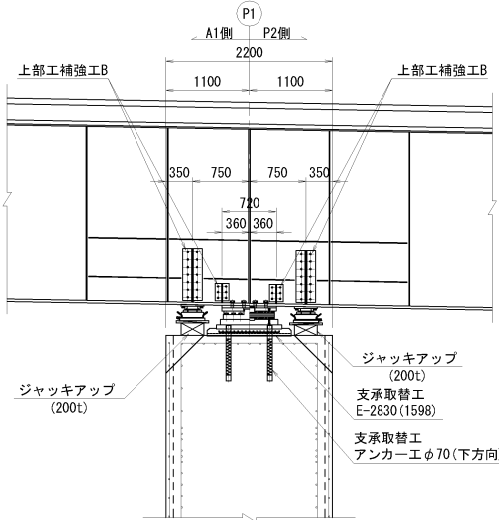


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	40 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

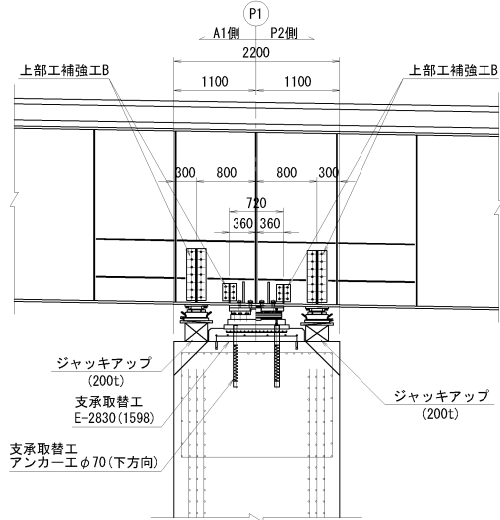
支承取替順序 断面図



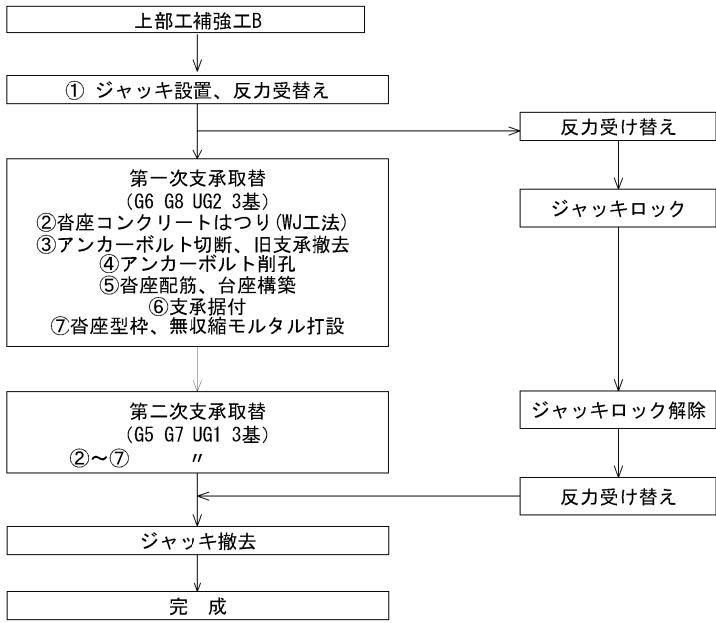
側面図(建設当初 G8)



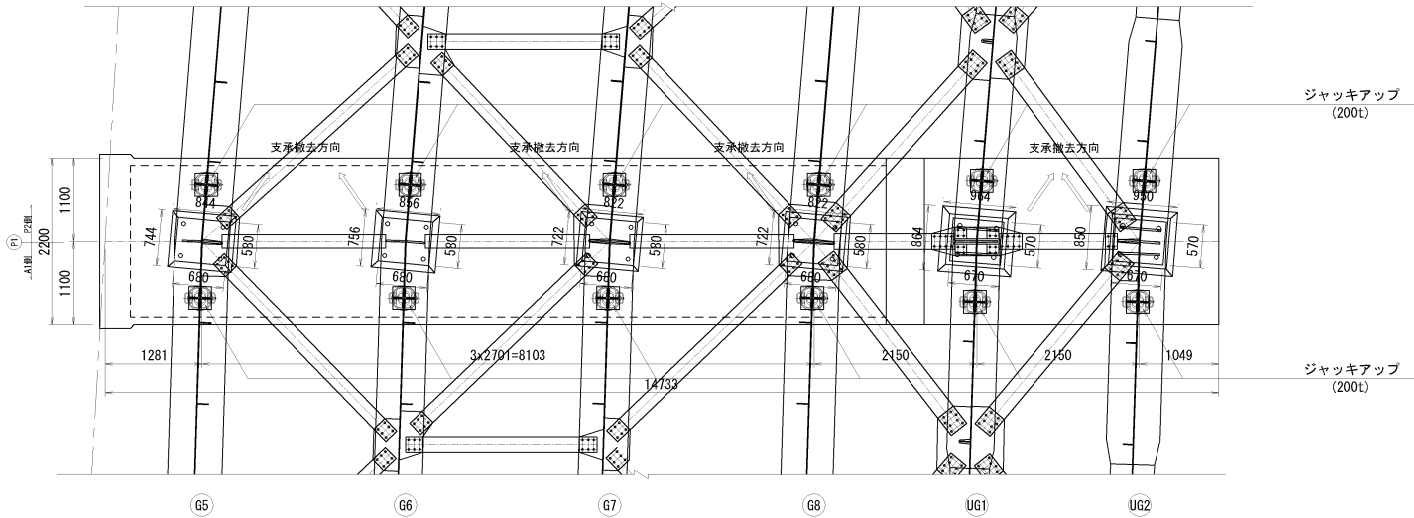
側面図(拡幅部 UG1)



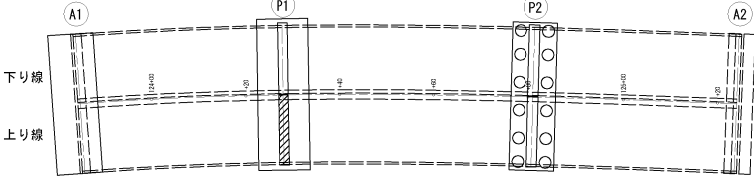
施工順番図(参考)



平面図



位置図

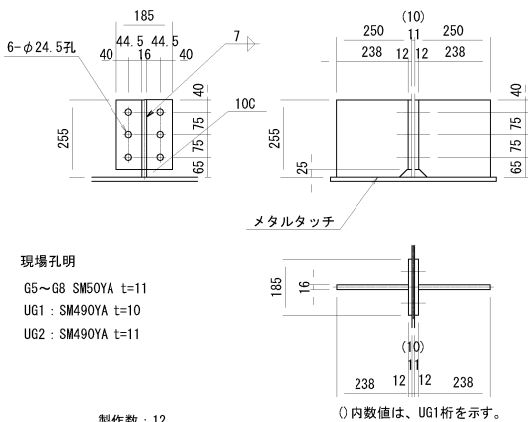


- 注 記
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
 - 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	41 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社			
事務所名	京浜管理事務所			

主桁補強材

支点上部補強材詳細図
(G5~G8, UG1, UG2)



現場孔明

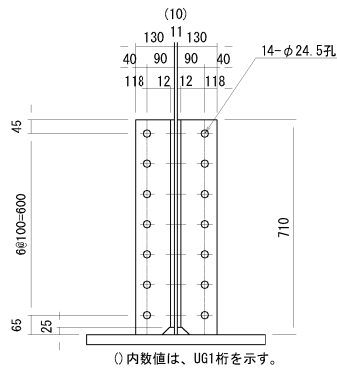
G5~G8 SM50YA t=11
UG1 : SM490YA t=10
UG2 : SM490YA t=11

製作数 : 12

2-Base 185×12×23 (SM400A)
2-リブ 238×16×25 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

上部工補強工B

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

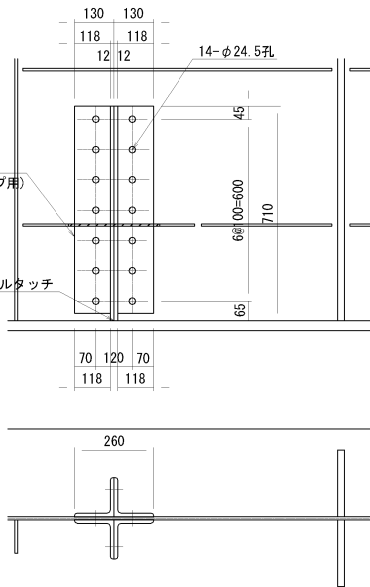


製作数 : 12

4-L 130×130×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

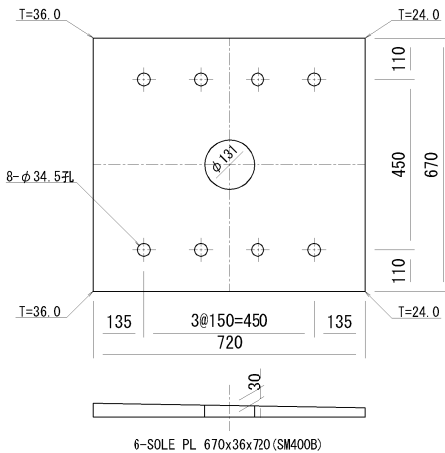
仮受け補剛材
(ジャッキアップ用)

メタルタッチ



支承取替工
E-2830 (1598)

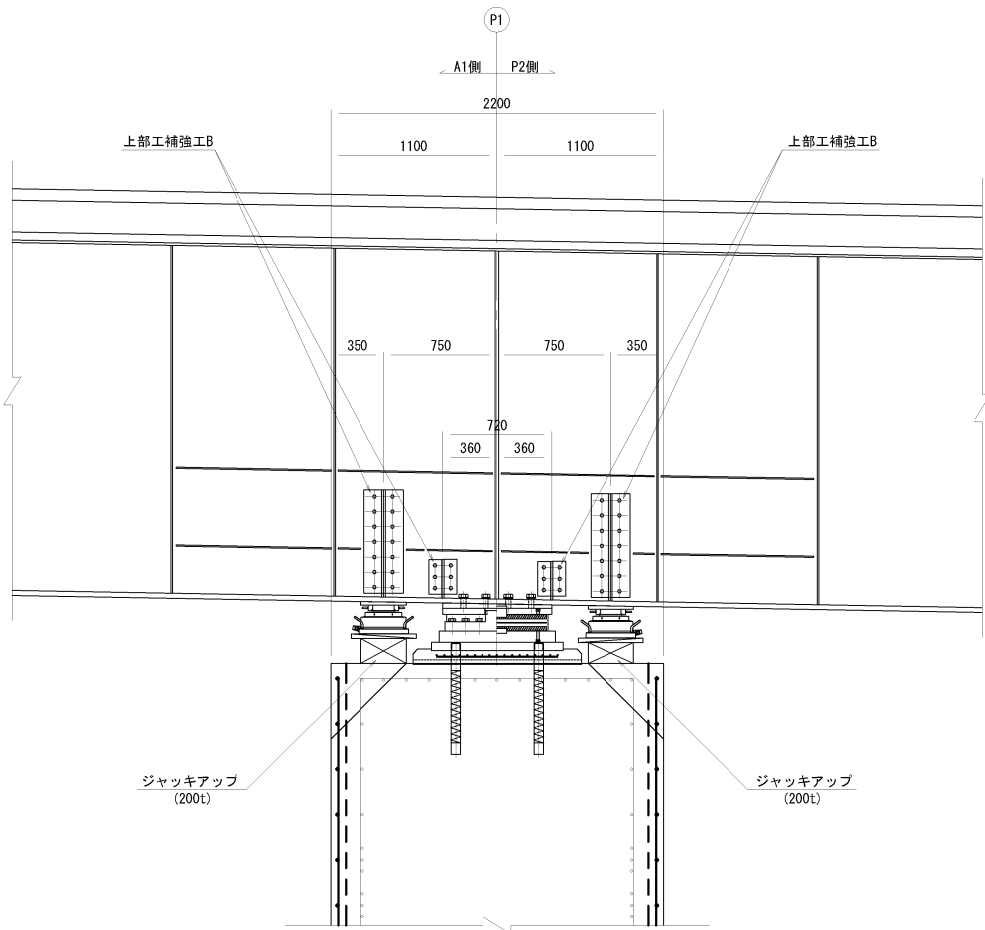
ソールプレート詳細図 縮尺1:20



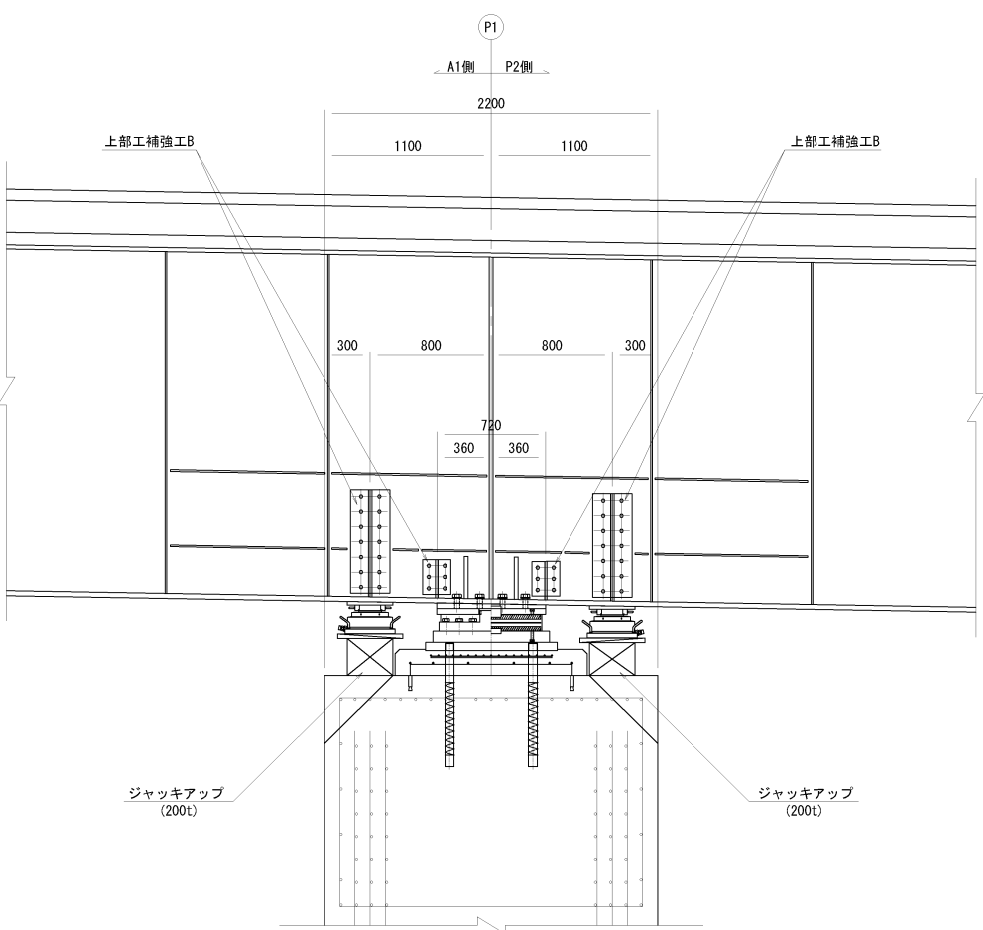
※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 (G8))



側面図(拡幅部 UG1)



注 記

1. 本体補強材は全て塗装仕様とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その4)

支承取替工 E-2830 (1598)

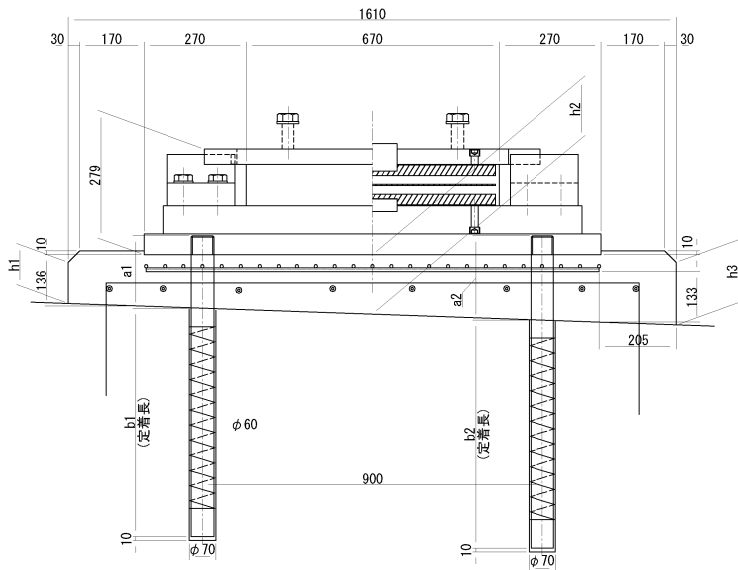
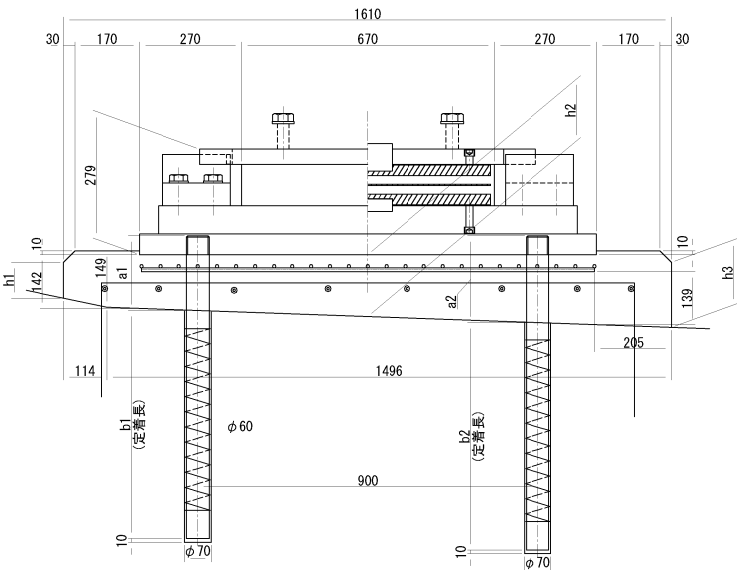
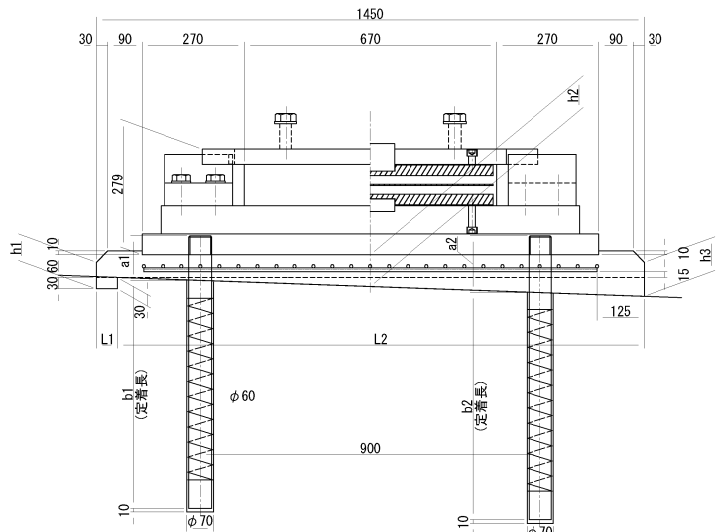
新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

G5 G6 G7 G8

UG1

UG2



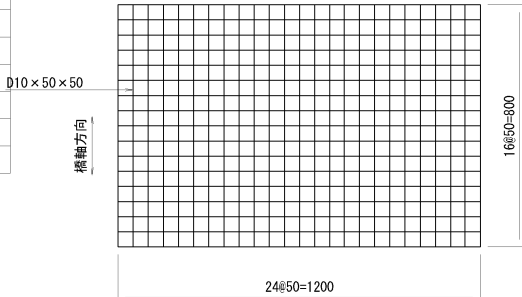
台座配筋図 (UG1)

台座配筋図 (UG2)

支承取替工 アンカー工φ70(下方向)

沓座格子鉄筋

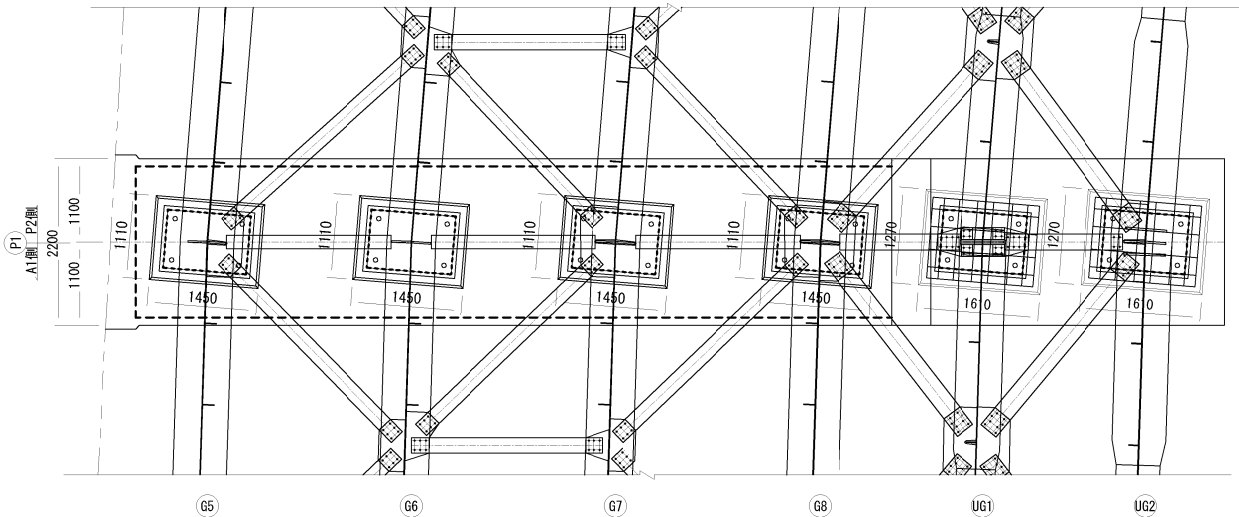
	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)				はつり長	
	h1(mm)	h2(mm)	h3(mm)	a1(mm)	b1(mm)	アンカー長(mm)	削孔長(mm)	a2(mm)	b2(mm)	アンカー長(mm)	削孔長(mm)	L1(mm)	L2(mm)
G5	70	78	84	112	603	715	613	144	601	745	611	224	1226
G6	70	34	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
G7	70	34	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
G8	70	34	90	118	602	720	612	150	600	750	610	55	1395
UG1	95	163	172	197	603	800	613	229	601	830	611	-	-
UG2	109	157	165	191	604	795	614	223	602	825	612	-	-



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345	Kg	22.6	136	136	23.57Kg/m2

台座配置図



注記)

- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
- 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
- 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P1橋脚(上り線) 支承取替工(その4)		
縮尺	図示	図面番号	43 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

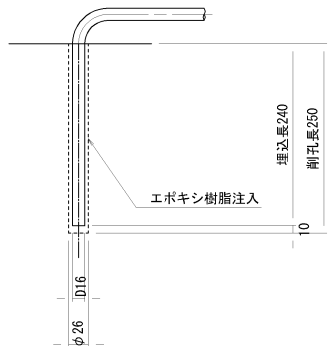
鉄筋加工寸法表

径	主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	θ≤90° R=3.0φ	θ>90° R=5.5φ	θ=45°	θ=60°	θ=90°	θ=135°	θ=45°	θ=60°
D16	48	88	113	119	100	66	75	21

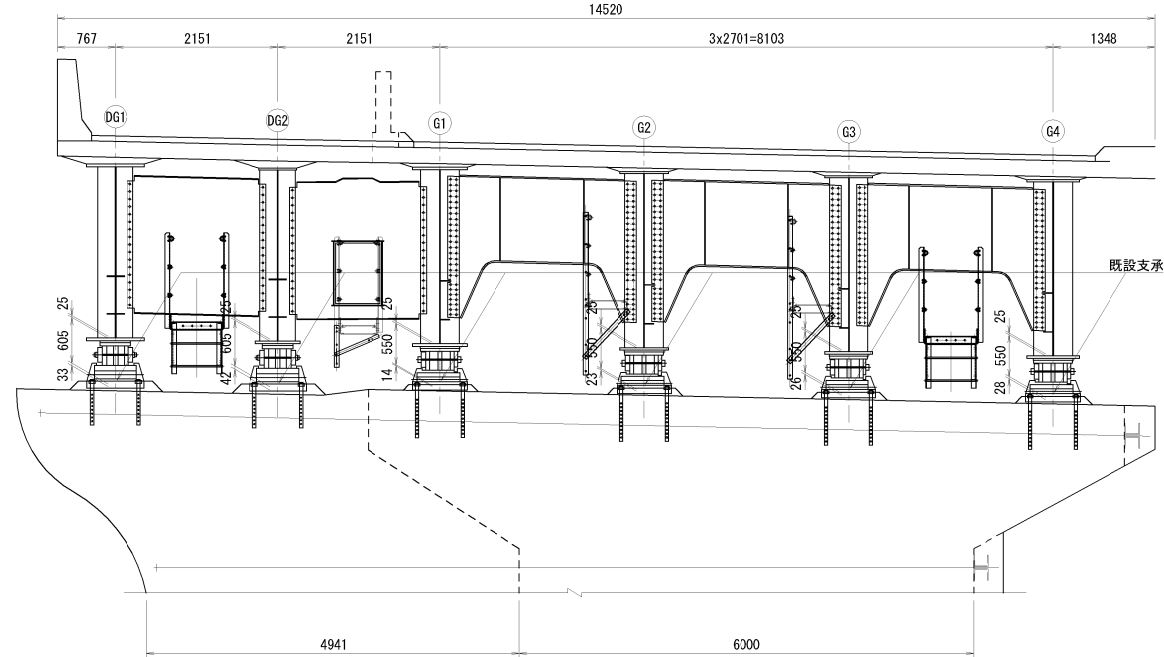
鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	860	24	1.56	1.34	32	差筋AK
S2	D16	860	24	1.56	1.34	32	差筋AK
S3	D16	1070	16	1.56	1.67	27	-
S4	D16	1410	12	1.56	2.20	26	-
							117 kg
D16				64 kg	(差筋アンカー)		
合計 D16				53 kg			
総質量				117 kg			

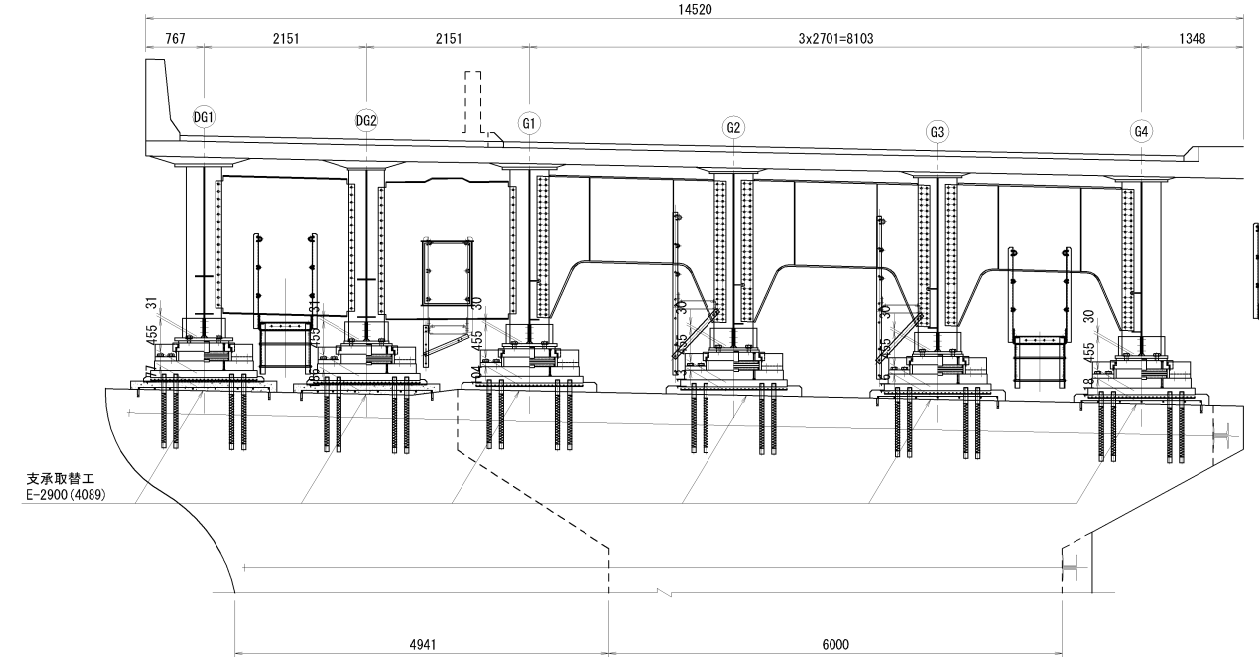
支承取替工 アンカー工φ26(下方向)
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



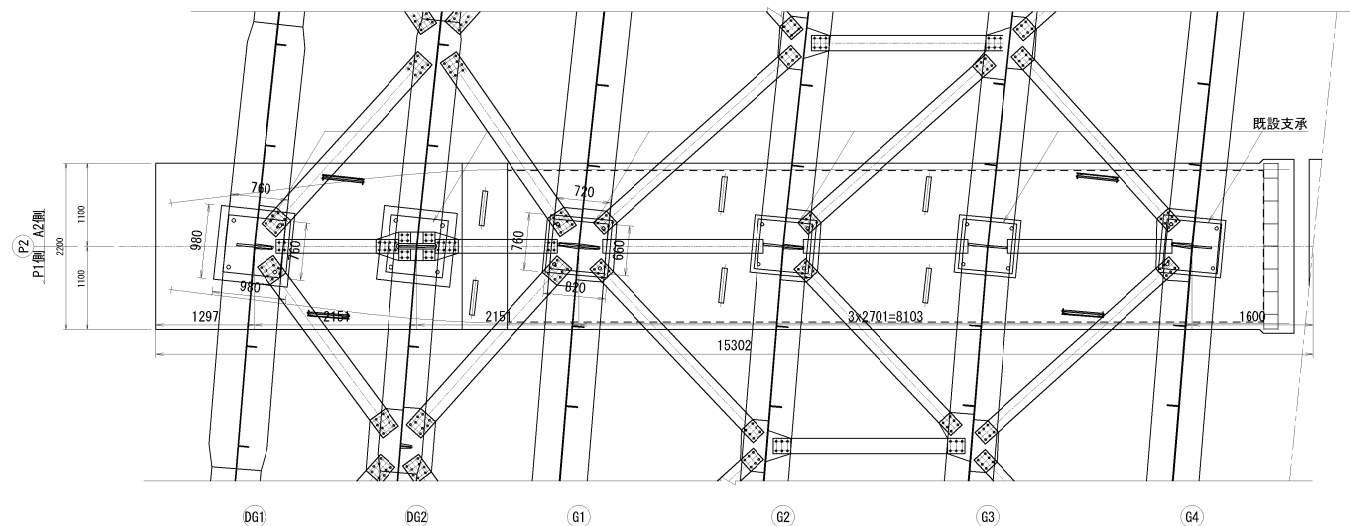
取替前
断面図



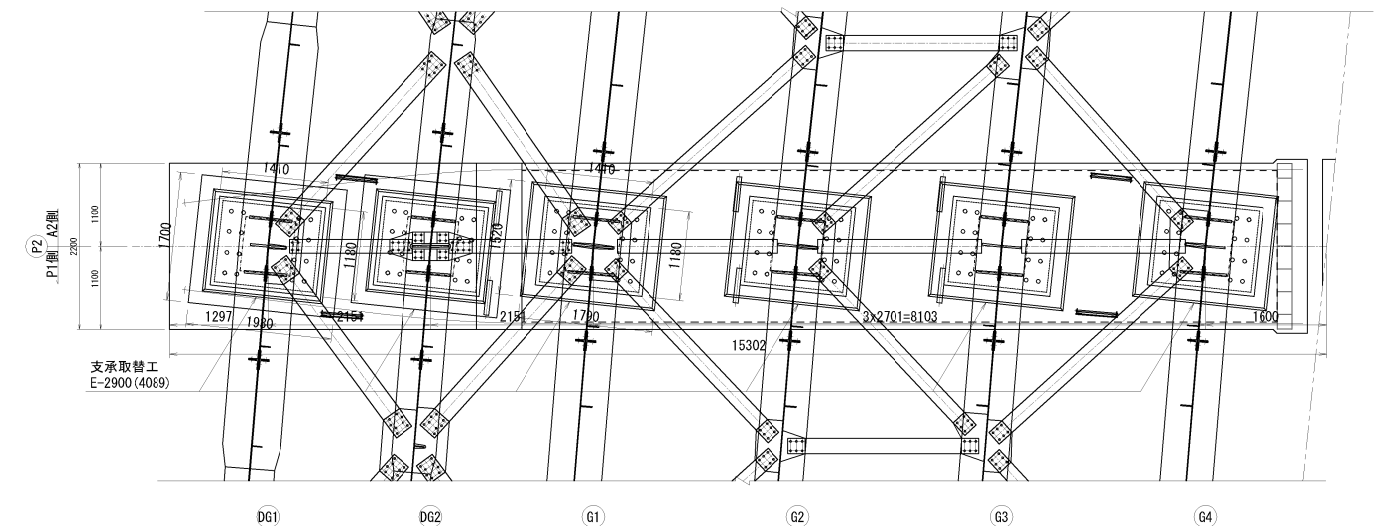
取替後
断面図



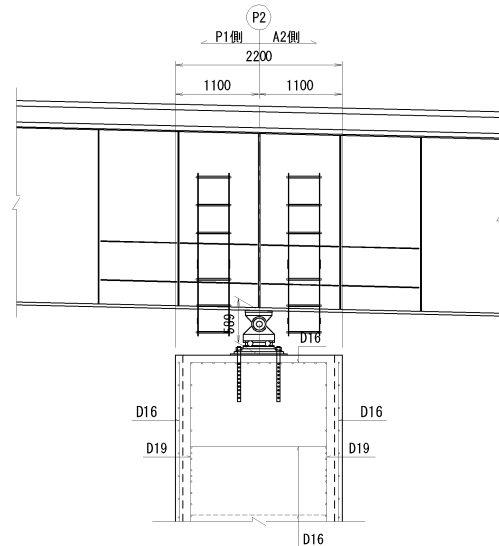
平面図



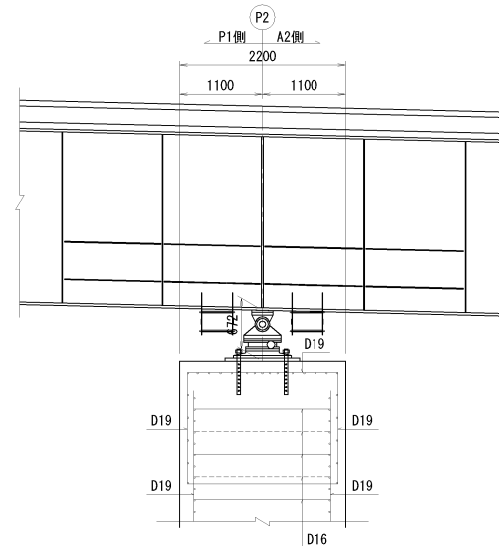
平面図



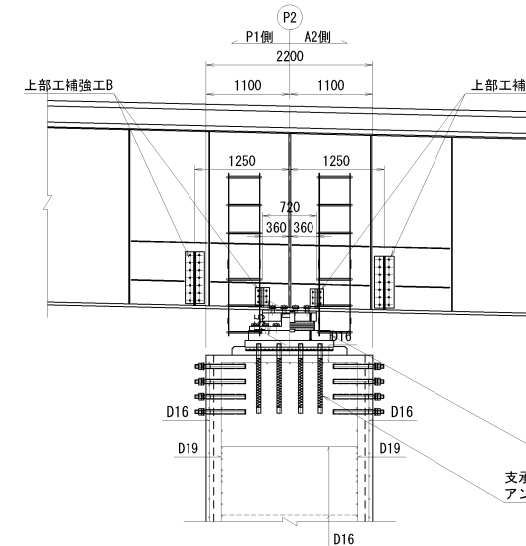
側面図(建設当初 G1)



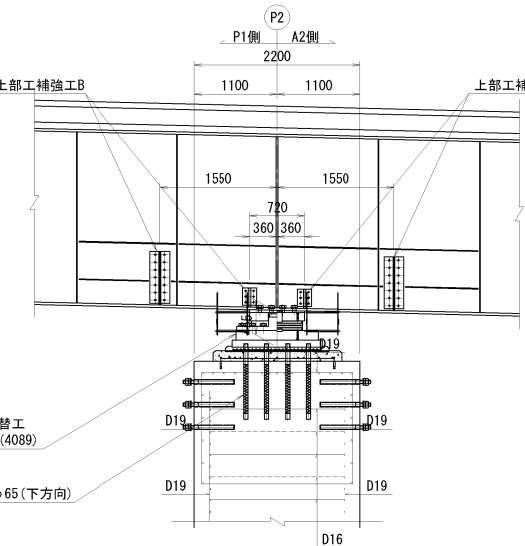
側面図(拡幅部 DG2)



側面図(建設当初 G1)

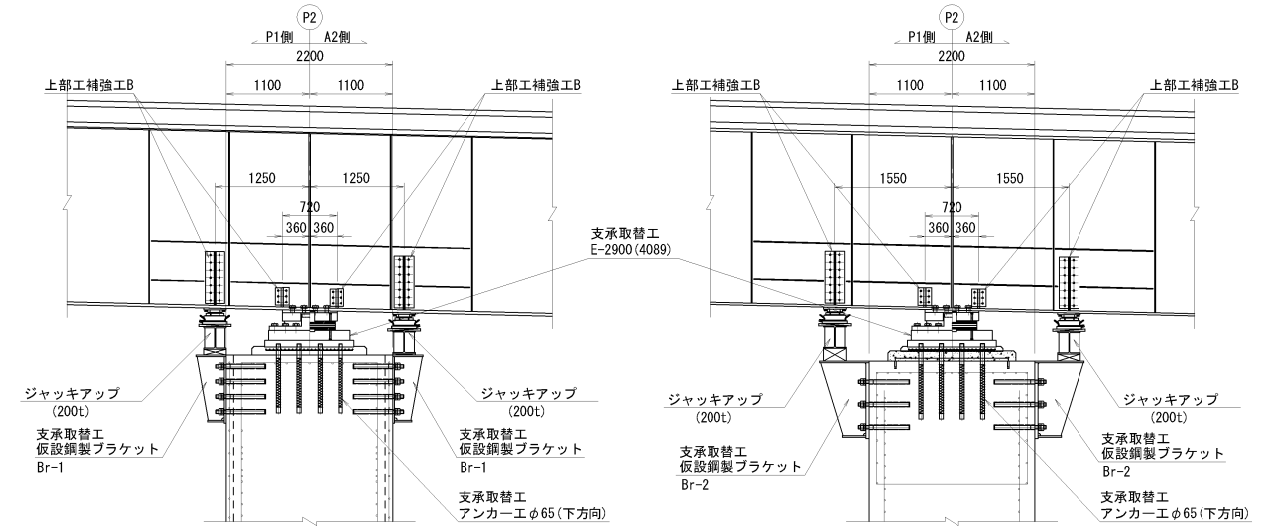


側面図(拡幅部 DG2)



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	44 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

側面図(拡幅部 ⑥G2)



```
graph TD; A[上部工補強工B] --> B[① ジャッキ設置、反力受替え]; B --> C[第一次支承取替  
(DG1 G1 G3 3基)  
② 沓座コンクリートはつり(WJ工法)  
③ アンカーボルト切断、旧支承撤去  
④ アンカーボルト削孔  
⑤ 沓座配筋、台座構築  
⑥ 支承据付  
⑦ 沓座型枠、無収縮モルタル打設]; C --> D[第二次支承取替  
(DG2 G2 G4 3基)  
②～⑦  
"]; D --> E[ジャッキ撤去]; E --> F[完 成]; B --> G[反力受け替え]; G --> H[ジャッキロック]; H --> I[ジャッキロック解除]; I --> J[反力受け替え]; J --> K[仮設鋼製ブラケット撤去]; K --> F;
```

The flowchart illustrates the construction process for the temporary steel bracket and jack removal. It begins with the upper structure reinforcement work (上部工補強工B), which leads to the first step: jack installation and reaction replacement (① ジャッキ設置、反力受替え). This step involves installing temporary steel brackets (仮設鋼製ブラケット設置) and replacing the reaction. The process then moves to the first support replacement (第一次支承取替), which includes removing the old support and installing the new one. This is followed by the second support replacement (第二次支承取替). The final step is jack removal (ジャッキ撤去), which leads to the completion of the work (完 成). The process also includes a step for removing the temporary steel bracket (仮設鋼製ブラケット撤去) after the jack removal.

[illegible]

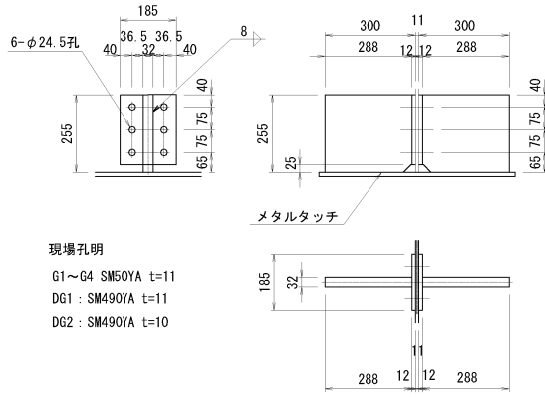
注 記

1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 金利谷第2高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金利谷第2高架橋 P2橋脚(下り線) 支座取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	45 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

主桁補強材

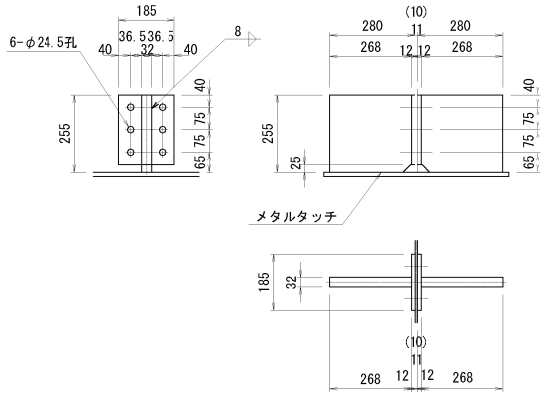
支点上部補強材詳細図
(G1~G4)



現場孔明
G1~G4 SM50YA t=11
DG1: SM490/A t=11
DG2: SM490/A t=10

製作数: 8
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 288×32×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

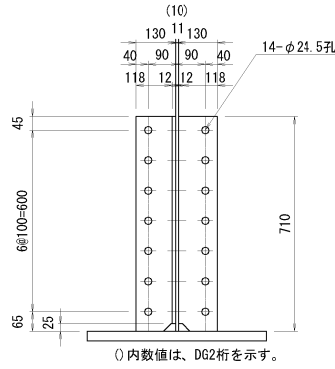
支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



製作数: 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 268×32×255 (SM400A)
6-TCB M21×70 (S10T)

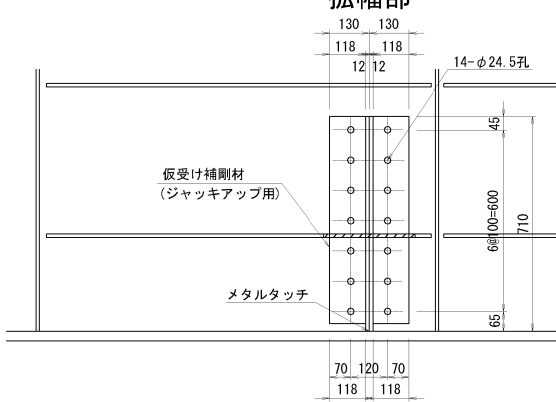
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

建設当初



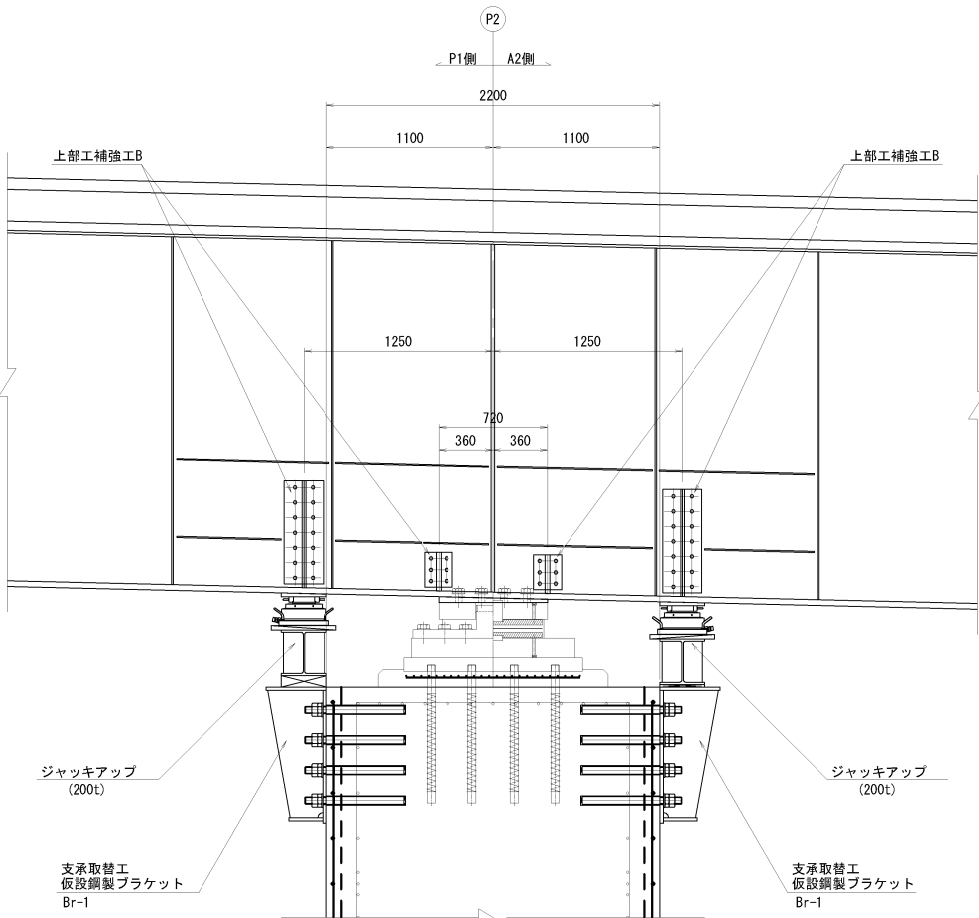
製作数: 12
4-L 130×130×12×710 (SS400)
14-TCB M22×70 (S10T)
14-TCB M22×60 (S10T)

拡幅部

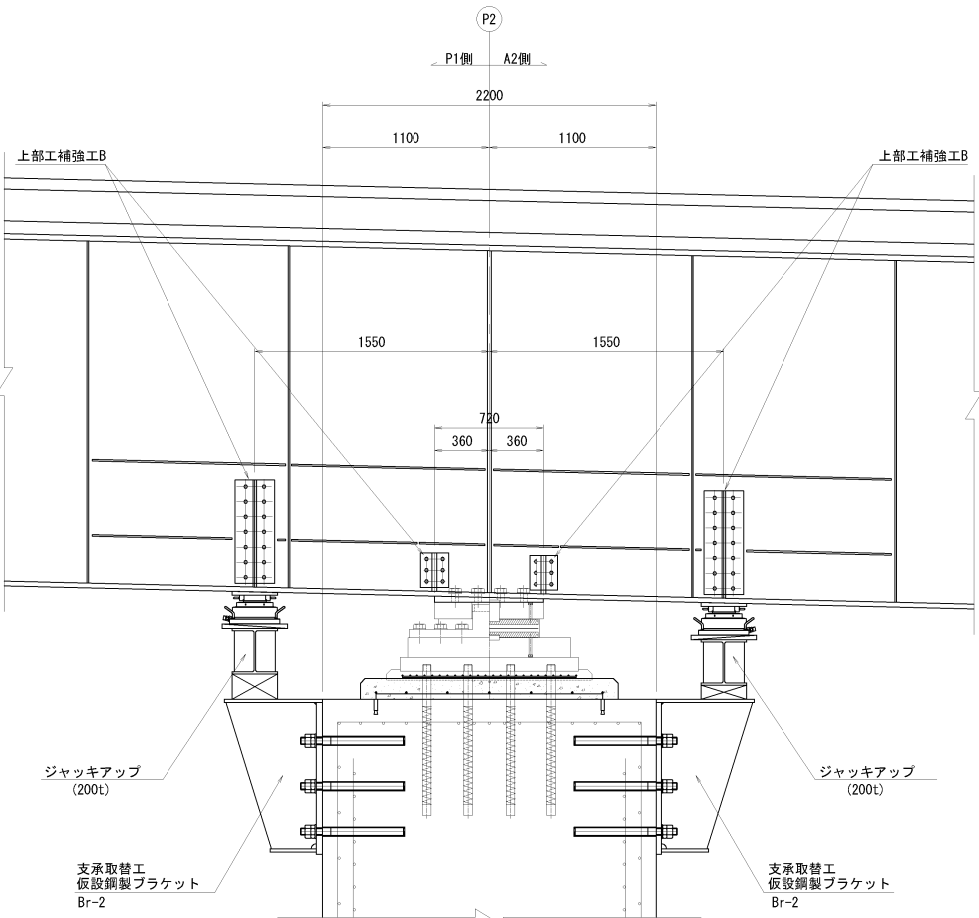


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G1)

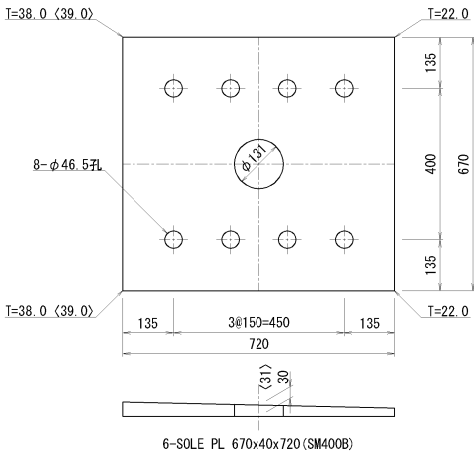


側面図(拡幅部 DG2)



支承取替工
E-2900 (4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)



※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZ77とする。)

注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	46 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

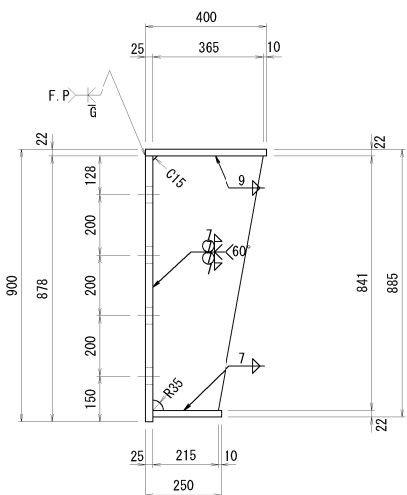
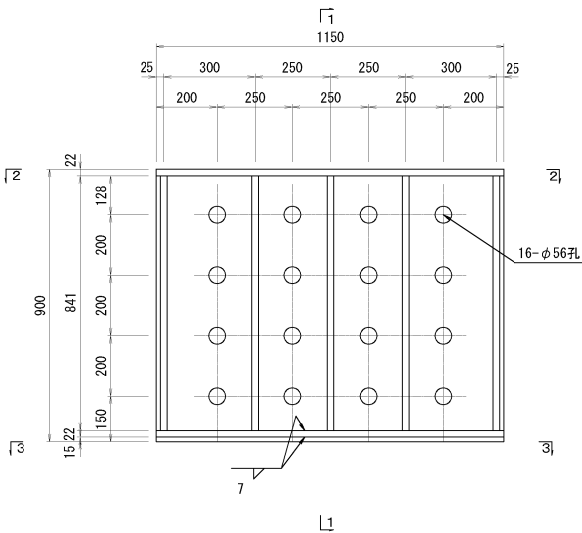
支承取替工 仮設鋼製ブラケット

ブラケット Br-1 詳細図

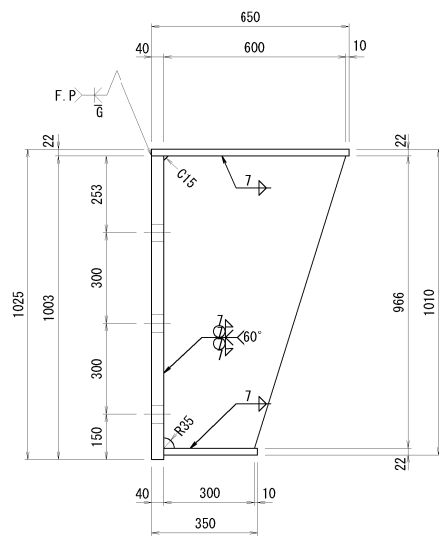
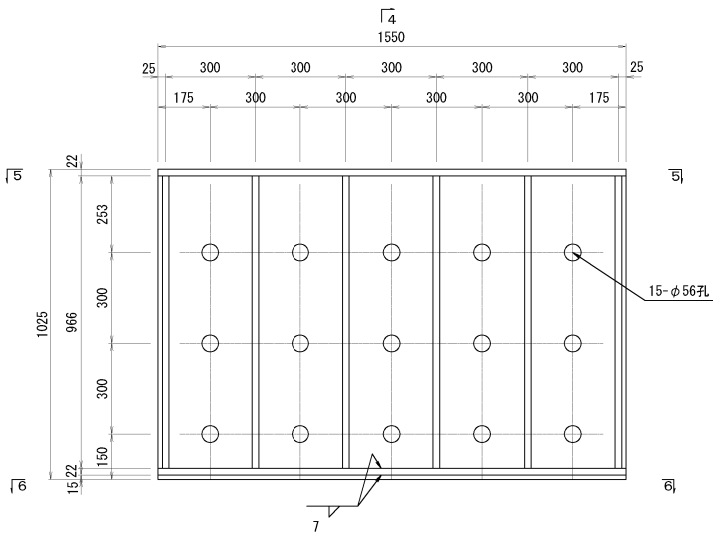
1 - 1

ブラケット Br-2 詳細図

4 - 4

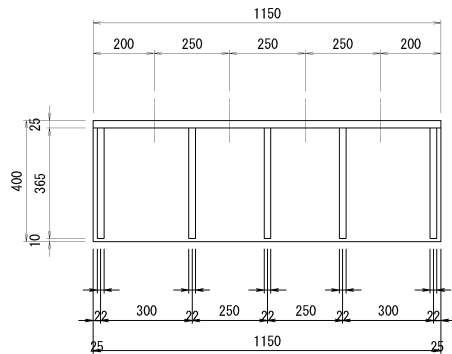


製作数 : 8
※1-Base PL 115(×25× 878 (SM400A)
※1-Flg PL 225×22×1150 (SM400A)
※1-Flg PL 400×22×1150 (SM400A)
※5-Rib PL 365×22× 841 (SM400A)

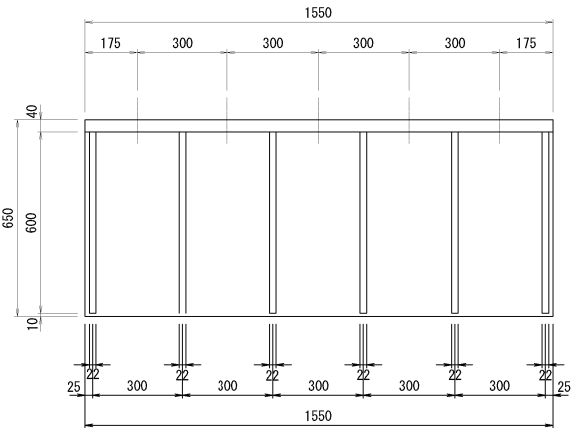
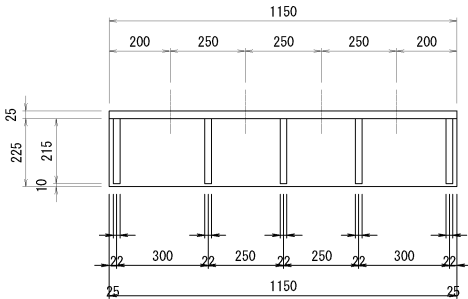


製作数 : 4
※1-Base PL 155(×40×1003 (SM400C)
※1-Flg PL 310×22×1550 (SM400A)
※1-Flg PL 650×22×1550 (SM400A)
※6-Rib PL 600×22×966 (SM400A)

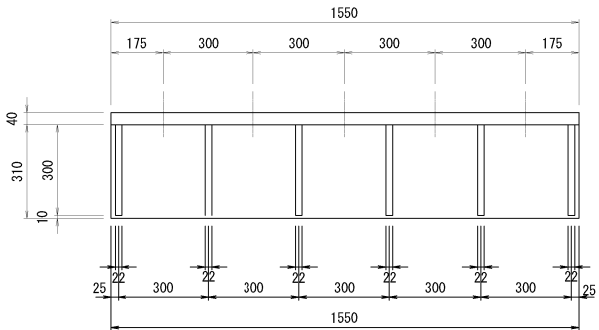
5 - 5



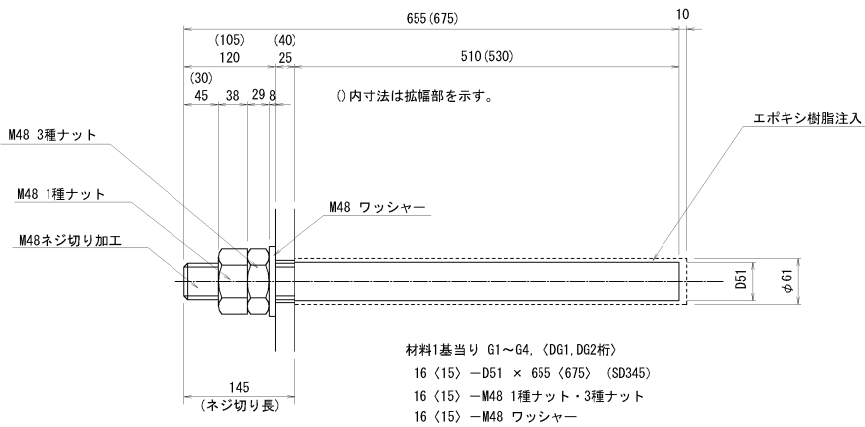
3 - 3



6 - 6



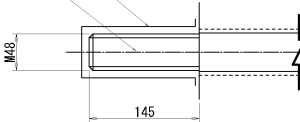
支承取替工
アンカー工φ61（水平方向） 縮尺1:10



ブラケット撤去後

16-防錆ボルトキャップ M48×145
(軟質塩化ビニール)

アンカーボルト D51



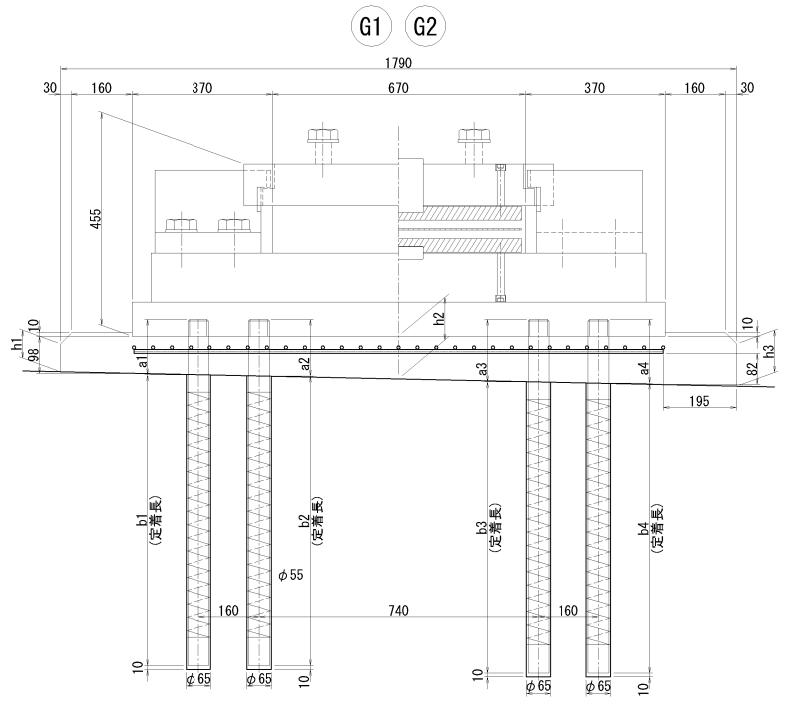
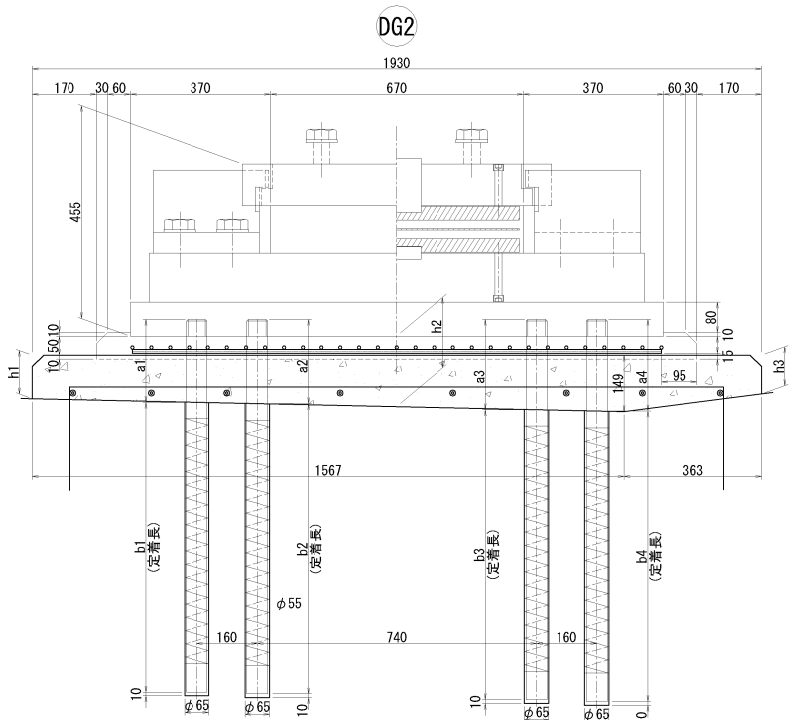
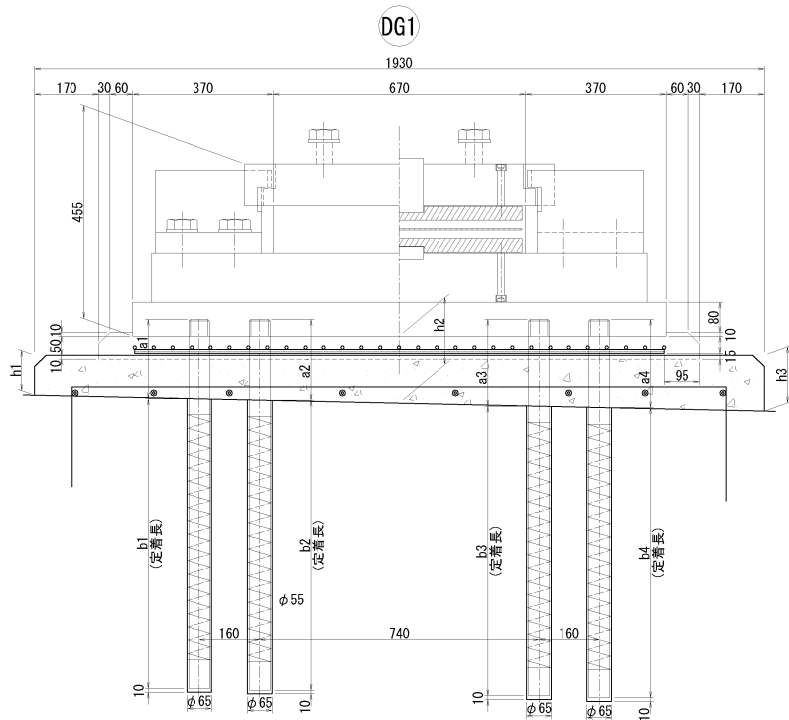
アンカーボルト本体を残置し、
防錆ボルトキャップにより突出部を保護すること。

注 記
1. アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZ49とする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	47 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事 務 所 名	京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-2900(4089)

新支承設置
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

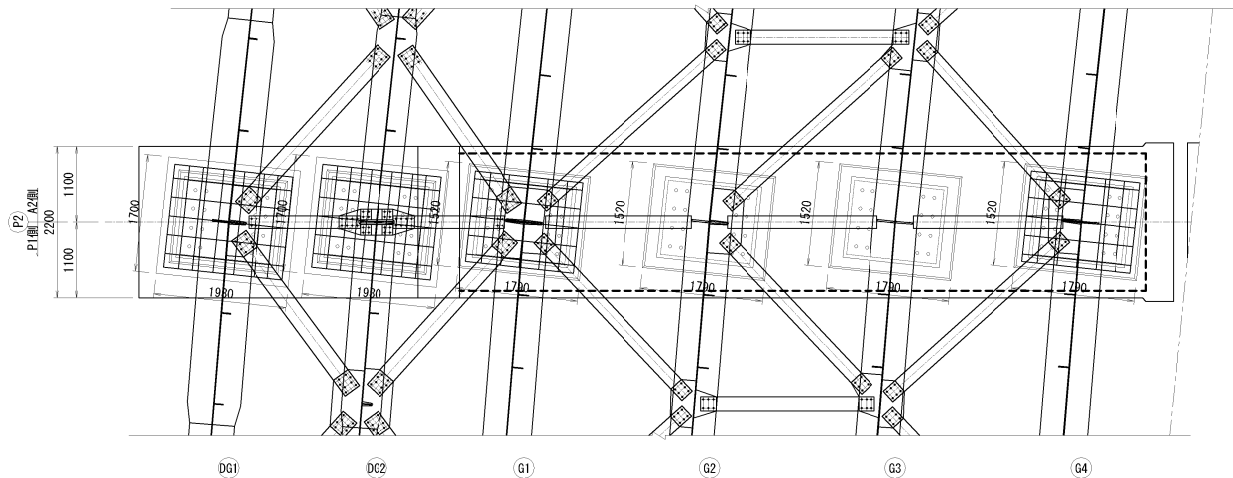


支承取替工 アンカーエφ65(下方向)

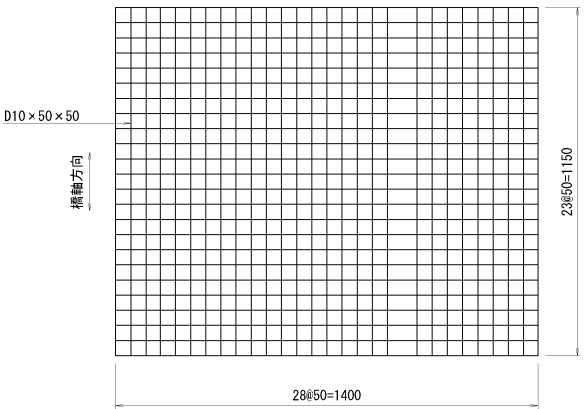
台座高			アンカー長(下り線側)							
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)
DG1	106	177	148	210	765	975	775	214	766	980
DG2	115	186	102	219	766	985	776	223	767	990
G1	74	113	112	138	767	905	777	141	769	910
G2	74	113	112	147	768	915	778	150	765	915
G3	77	116	115	150	765	915	775	153	767	920
G4	77	116	115	152	768	920	778	155	765	920

台座高			アンカー長(上り線側)							
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a3 (mm)	b3 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a4 (mm)	b4 (mm)	アンカー長 (mm)
DG1	106	177	148	230	765	995	775	233	767	1000
DG2	115	186	102	239	766	1005	776	242	768	1010
G1	74	113	112	157	768	925	778	160	765	925
G2	74	113	112	166	769	935	779	169	766	935
G3	77	116	115	169	766	935	776	172	768	940
G4	77	116	115	171	769	940	779	174	766	940

台座配置図



沓座格子鉄筋



格子鉄筋 数量表

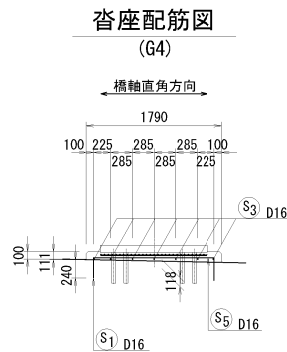
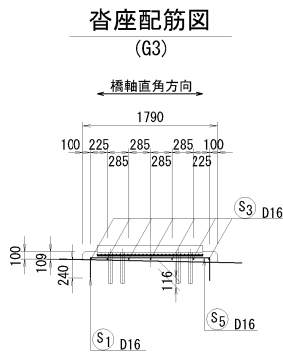
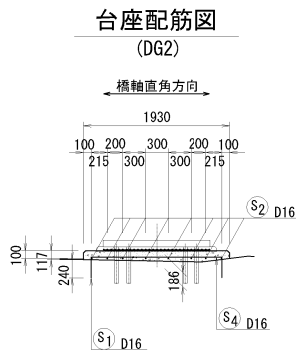
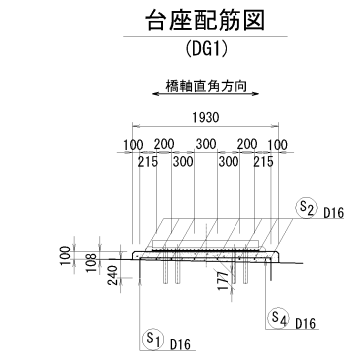
名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345	kg	37.5	225	225	23.29kg/㎡

- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

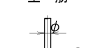
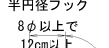
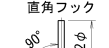

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	48 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

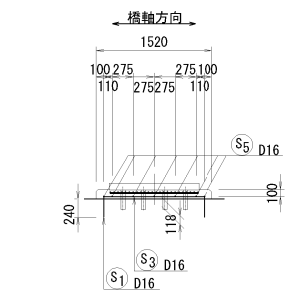
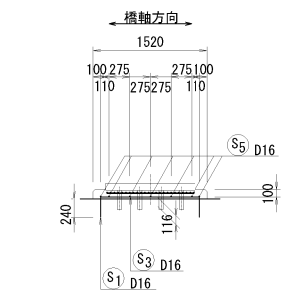
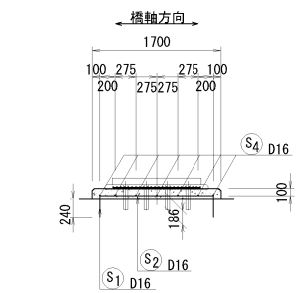
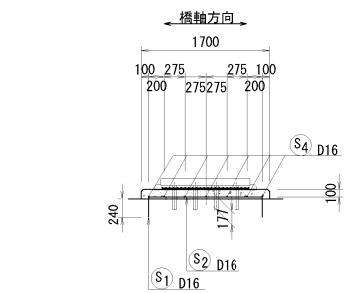
釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その6)
新支承設置

支承取替工 E-2900 (4089)



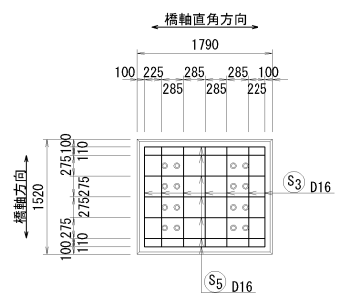
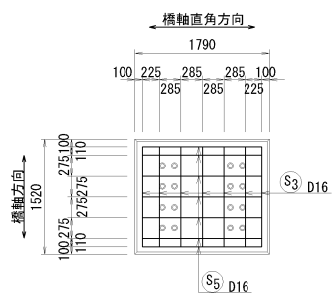
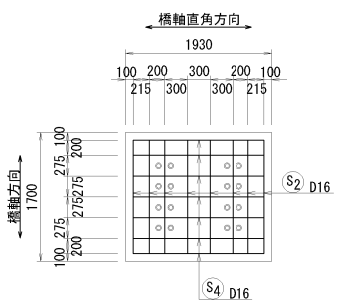
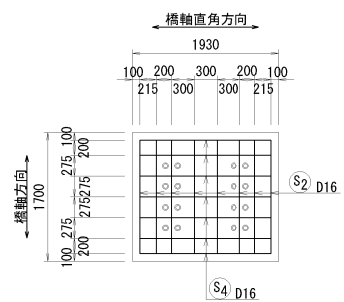
鉄筋加工寸法表

主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック				
										
$\Delta L = 2L - a$										
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ	$\theta = 90^\circ$ R=5.5 ϕ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$	$\theta = 135^\circ$		
			a	$\triangle L$	a	$\triangle L$	a	$\triangle L$	a	$\triangle L$
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4



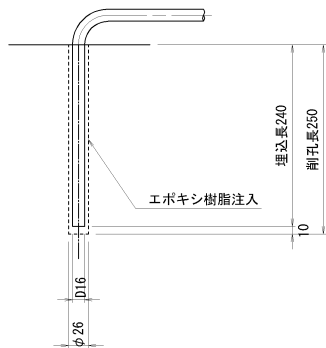
鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	820	100	1.56	1.28	128	差筋AK
S2	D16	1500	16	1.56	2.34	37	—
S3	D16	1320	14	1.56	2.06	29	—
S4	D16	1730	14	1.56	2.70	38	—
S5	D16	1590	14	1.56	2.48	35	—
計							267 kg
鉄筋A (台座) 沓座							
差筋計	D16	128 kg	D16	54 kg	D16	61 kg	(差し筋アンカー)
鉄筋計	D16	139 kg	D16	75 kg	D16	64 kg	
総質量	267 kg		129 kg		125 kg		



支承取替工
アンカーエφ26 (下方向)

台座補強筋アンカー 詳細図 1:20

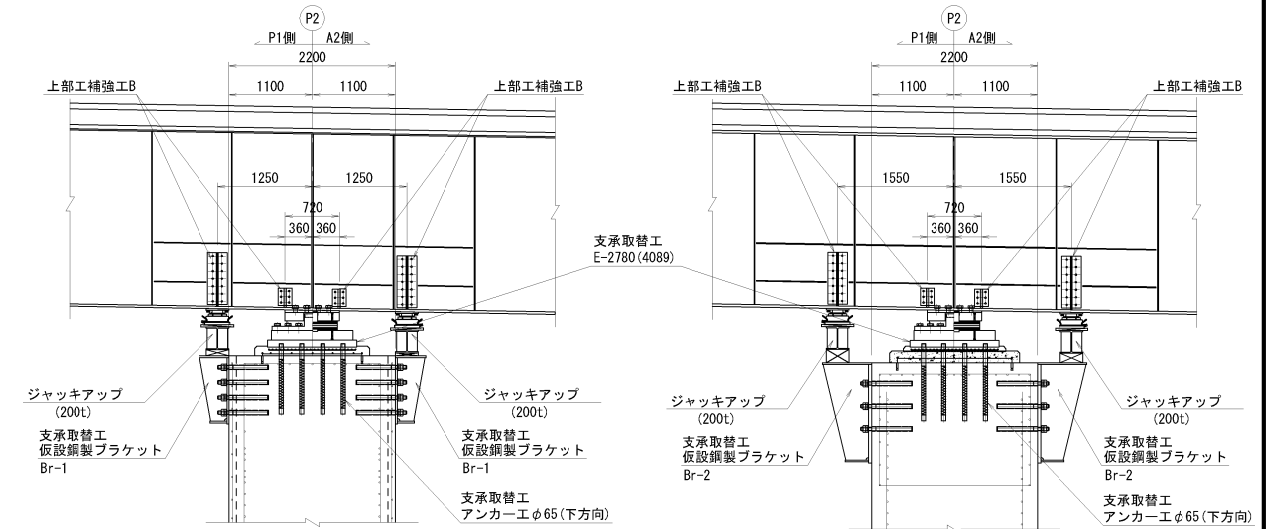


注記)

- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
- 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(下り線) 支承取替工(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	49 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

側 面 図 (拡 幅 部 ④)



```

graph TD
    A[上部工補強工B] --> B[① ジャッキ設置、反力受替え]
    B --> C[第一次支承取替  
(G6 G8 UG2 3基)  
② 沓座コンクリートはつり(WJ工法)  
③ アンカーボルト切断、旧支承撤去  
④ アンカーボルト削孔  
⑤ 沓座配筋、台座構築  
⑥ 支承据付  
⑦ 沓座型枠、無収縮モルタル打設]
    C --> D[第二次支承取替  
(G5 G7 UG1 3基)  
②～⑦  
"]
    D --> E[ジャッキ撤去]
    E --> F[完 成]
    A --> G[仮設鋼製ブラケット設置]
    G --> B
    B --> H[反力受け替え]
    H --> I[ジャッキロック]
    I --> J[ジャッキロック解除]
    J --> K[反力受け替え]
    K --> D
    D --> L[仮設鋼製ブラケット撤去]
    L --> E

```

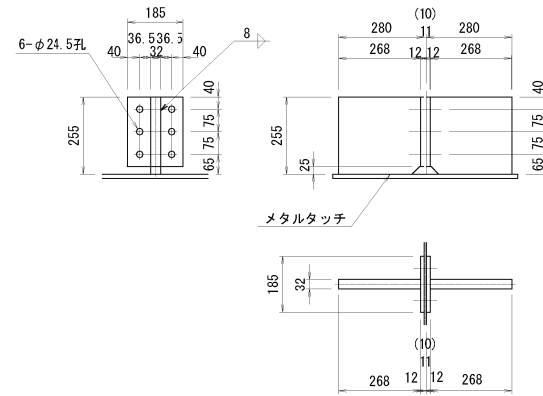
注 記

1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜須賀実道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支取受替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	51 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

支点上部補強材詳細図
〈UG1, UG2〉



現場孔明
G5~G8 SM50YA t=11
UG1 : SS400 t=10
UG2 : SM490YA t=11

製作数：8

2-Base 185×12×230 (SM400A)

2-リブ 288×32×255 (SM400A)

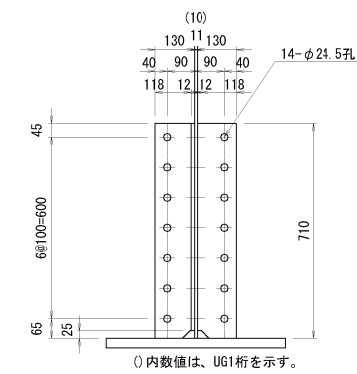
6-TCB M22×70 (S10T)

製作数：4

2-Base 185×12×230 (SM400A)

2-リブ 268×32×255 (SM400A)

6-TCB M22×70 (S10T)



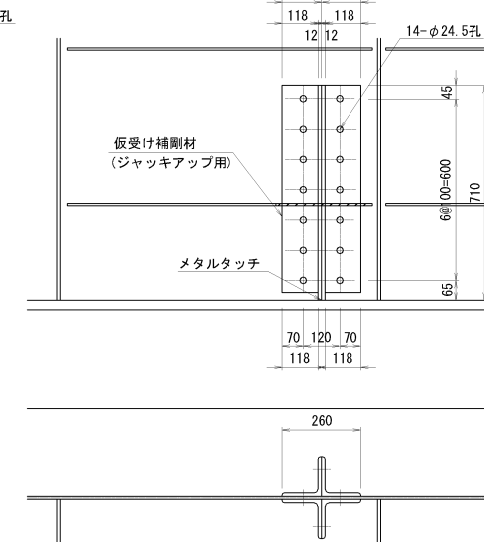
製作数：12

4-L 130×130×12×12×710 (SS400)

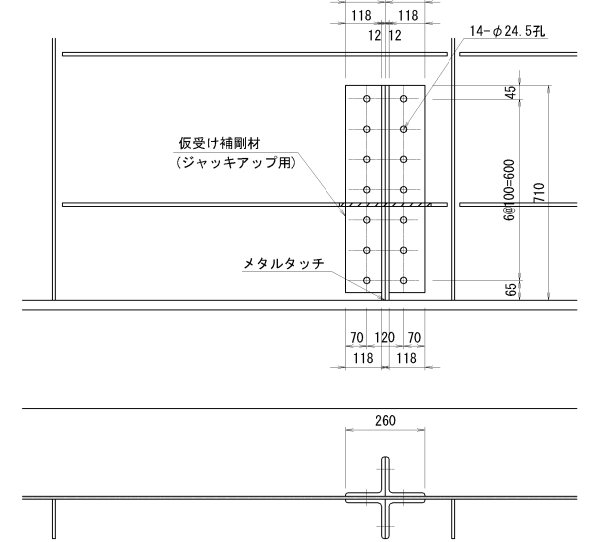
14-TCB M22×70 (S10T)

14-TCB M22×60 (S10T)

建設当初

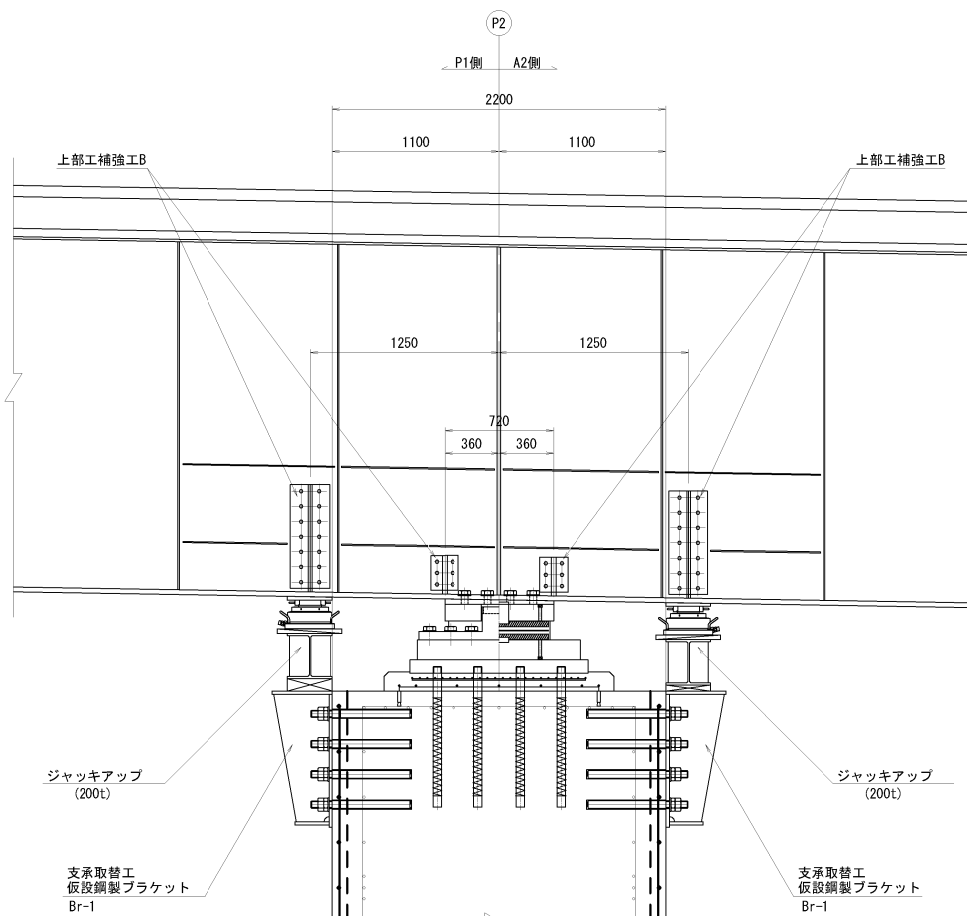


拡幅部

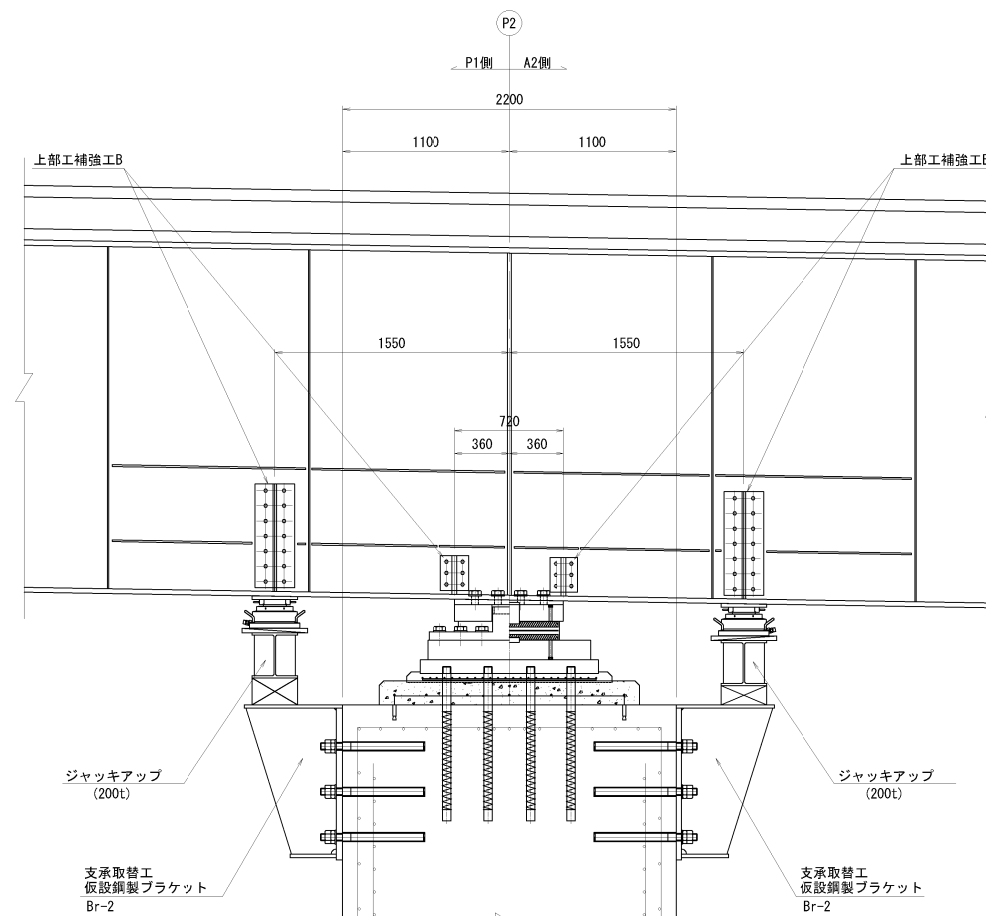


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G8)

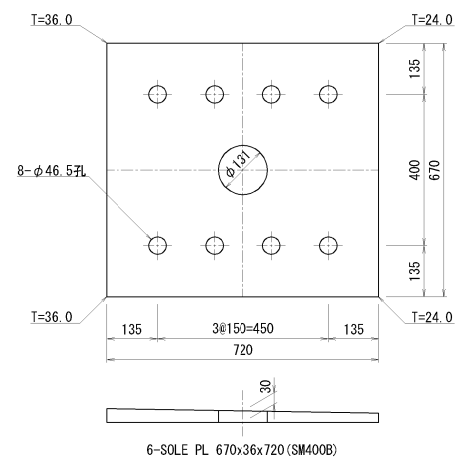


側面図(拡幅部 UG1 〈UG2〉)



支取取替工
E-2780(4089)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20



※溶融亜鉛めっき処理（膜厚は、JIS H8641 HDZ77とする。）

注 記

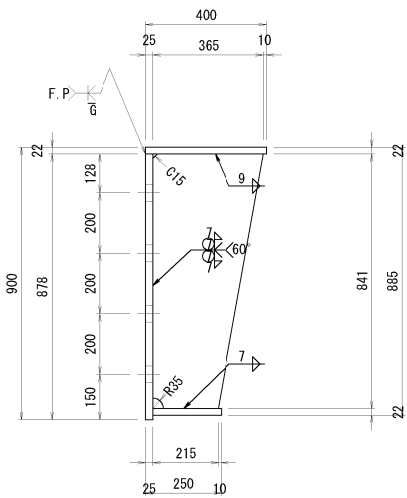
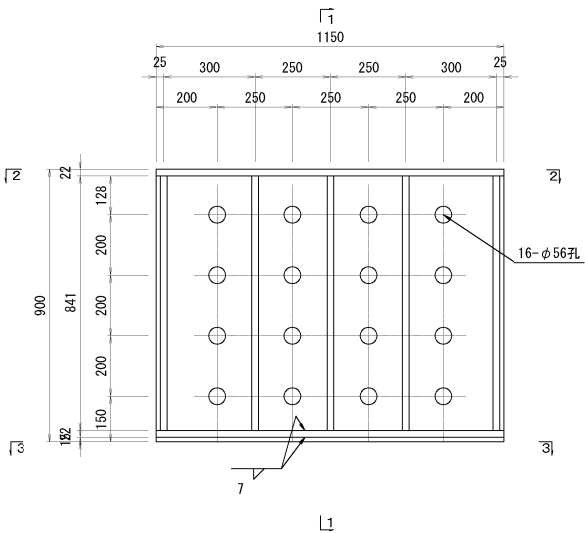
1. 高力ボルトは転用しないこと

横浜橋須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(より線) 支取證書(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	52 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

支承取替工 仮設鋼製ブラケット

ブラケット Br-1 詳細図

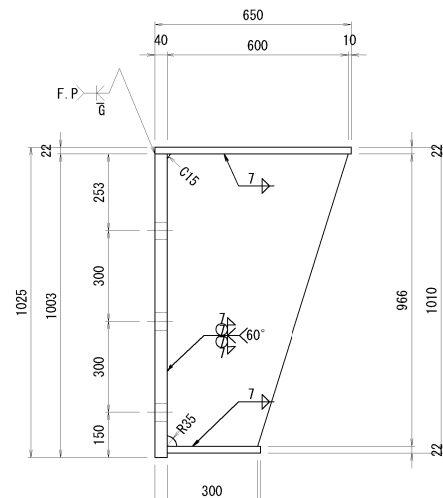
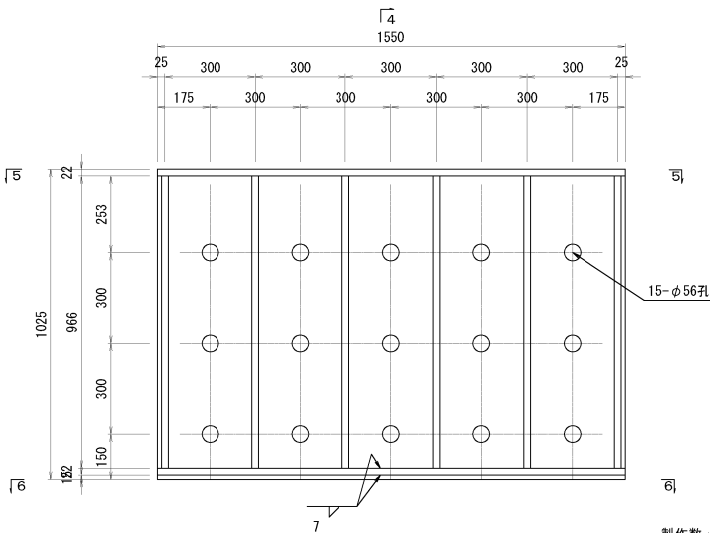
1 - 1



製作数 : 8
※1-Base PL 115(×25× 878 (SM400A)
※1-Flg PL 225×22×1150 (SM400A)
※1-Flg PL 400×22×1150 (SM400A)
※5-Rib PL 365×22× 841 (SM400A)

ブラケット Br-2 詳細図

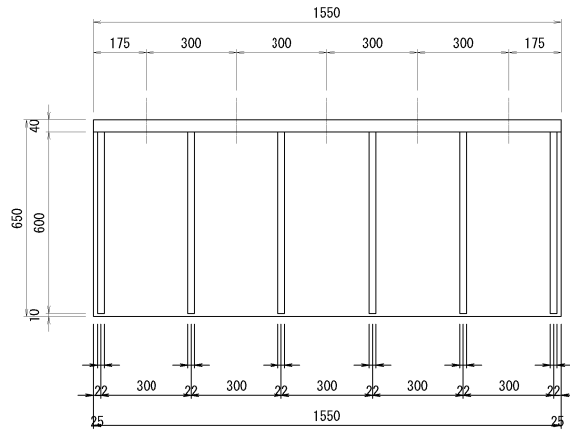
4 - 4



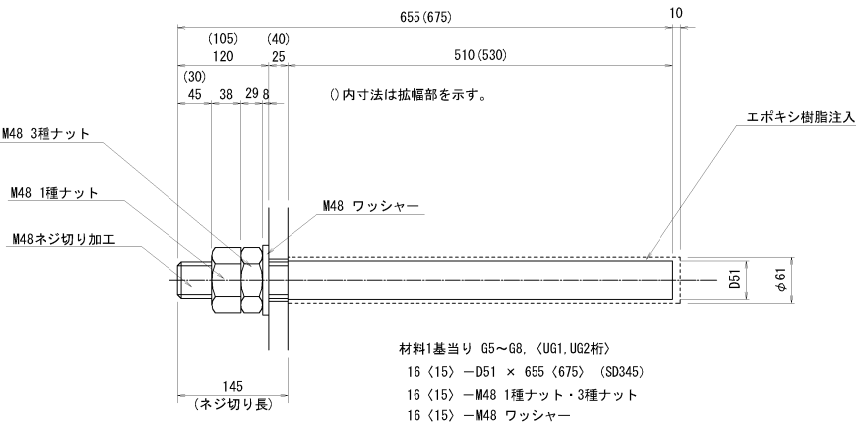
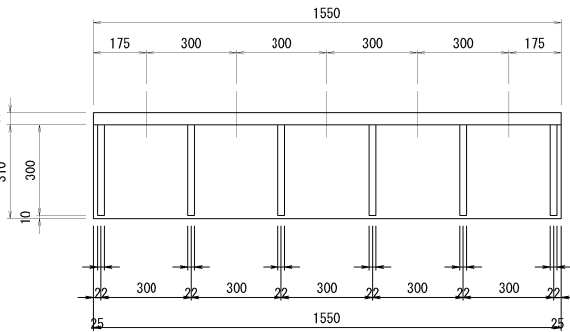
製作数 : 4
※1-Base PL 1550×40×1003 (SM400C)
※1-Flg PL 310×22×1550 (SM400A)
※1-Flg PL 650×22×1550 (SM400A)
※6-Rib PL 600×22×966 (SM400A)

5 - 5

支承取替工
アンカー工φ61（水平方向） 縮尺1:10

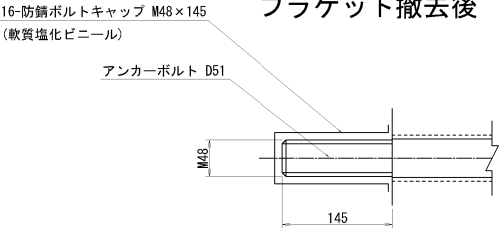


6 - 6



材料1基当り G5~G8, <UG1, UG2桁>
15 <15> -D51 × 655 (675) (SD345)
15 <15> -M48 1種ナット・3種ナット
15 <15> -M48 ワッシャー

ブラケット撤去後



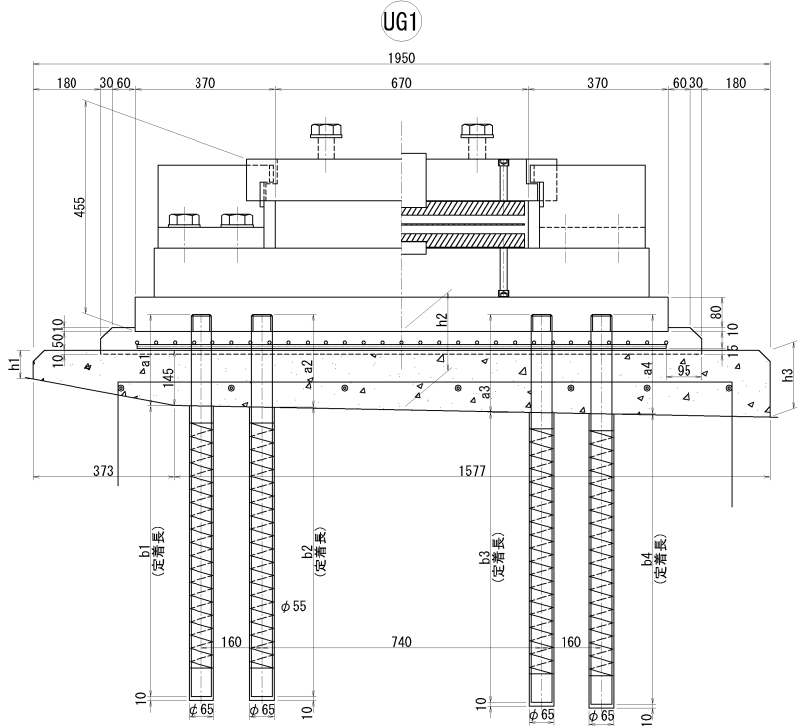
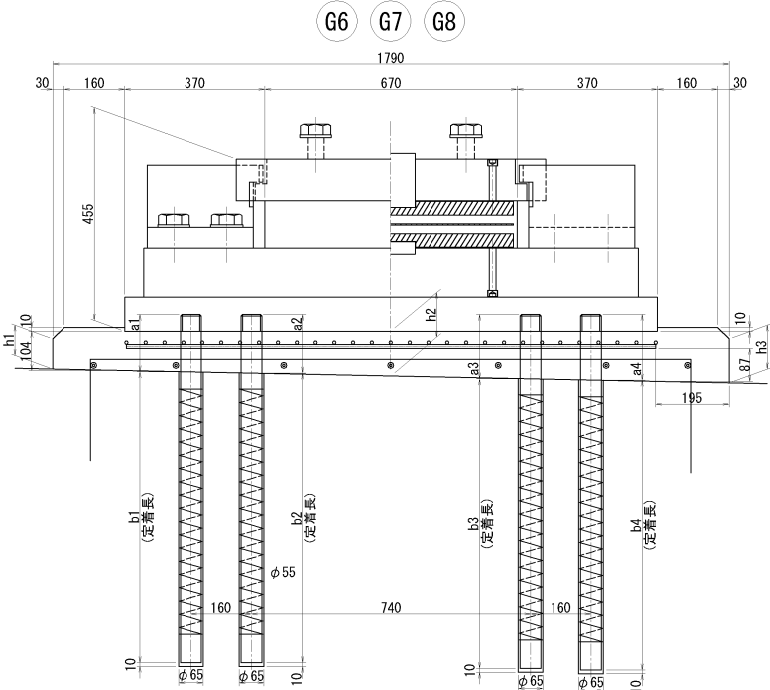
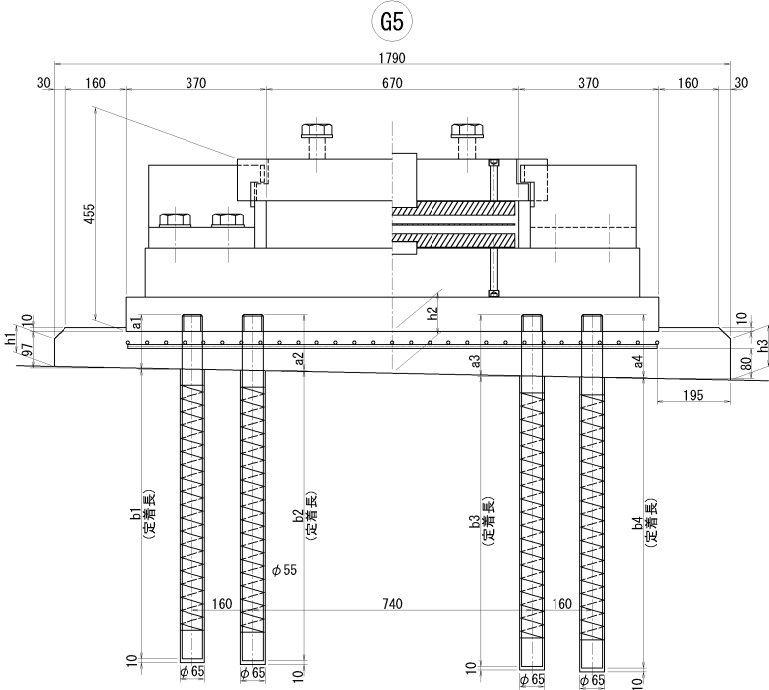
アンカーボルト本体を残置し、
防錆ボルトキャップにより突出部を保護すること。

注 記
1. アンカーボルトはネジ切り部のみ
溶融亜鉛めっきを施すものとする。
亜鉛の付着量は、JIS H 8641のHDZT49とする。
2. 高力ボルトは転用しないこと

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	53 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

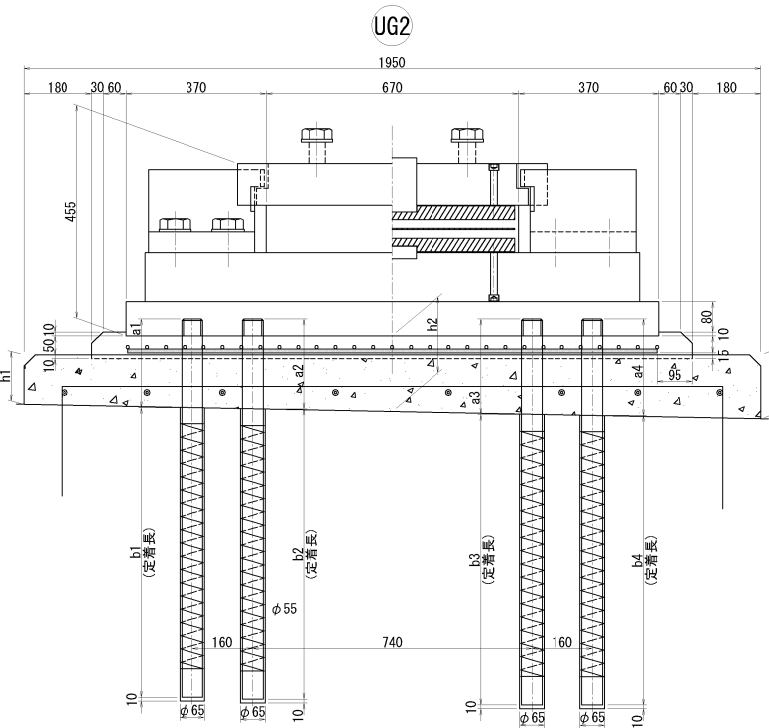
支承取替工 E-2780(4089)

新支承設置
新支承 標準断面図 縮尺 1:20



支承取替工 アンカーエφ65（下方向）

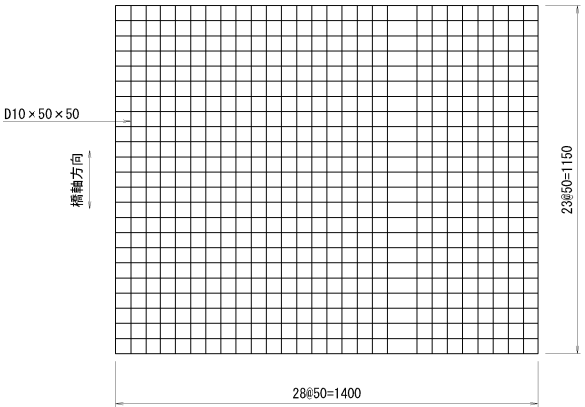
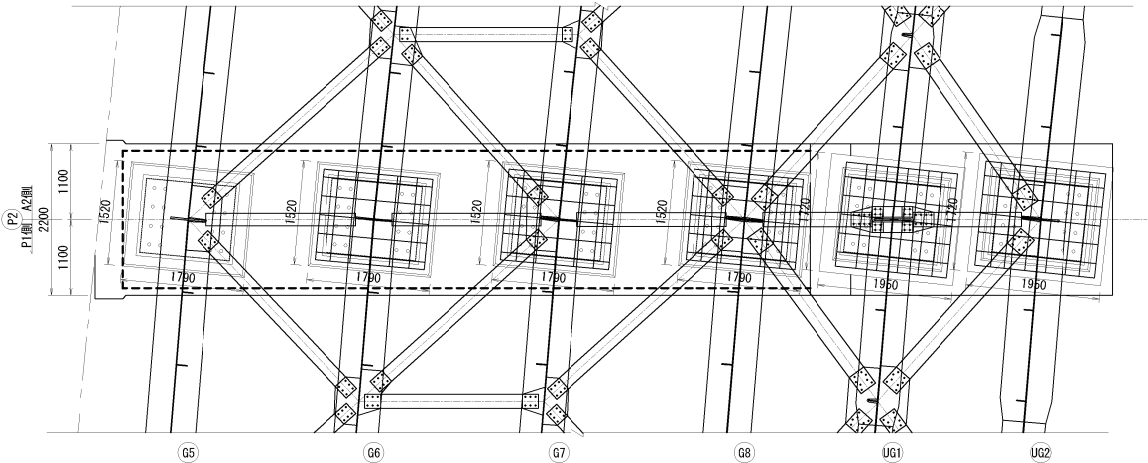
沓座格子鉄筋



台座高			アンカー長(下り線側)							
h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
G5	73	111	109	145	765	910	775	148	767	777
G6	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
G7	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
G8	80	118	116	152	768	920	778	155	765	775
UG1	76	207	176	242	768	1010	778	245	765	775
UG2	131	290	169	235	765	1000	775	238	767	1005

台座高			アンカー長(上り線側)							
h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a3 (mm)	b3 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a4 (mm)	b4 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
G5	73	111	109	163	767	930	777	167	768	778
G6	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
G7	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
G8	80	118	116	170	765	935	775	174	766	776
UG1	76	207	176	259	766	1025	776	263	767	1030
UG2	131	290	169	252	768	1020	778	255	765	1020

台座配置図



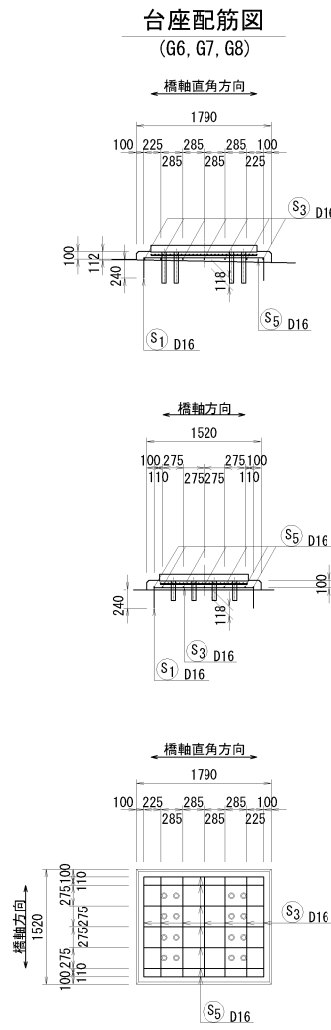
格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10 x 50 x 50	SD345	kg	37.5	225	225	23.29kg/㎡

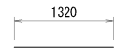
注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	54 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

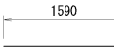
支承取替工 E-2780(4089)



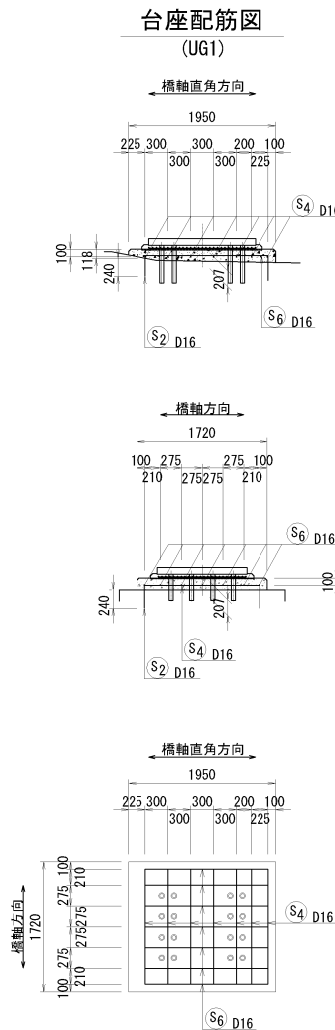
① 24-差し筋アンカー-D16×820



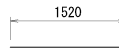
③ 7-D16×1320



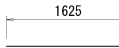
⑤ 7-D16×1590



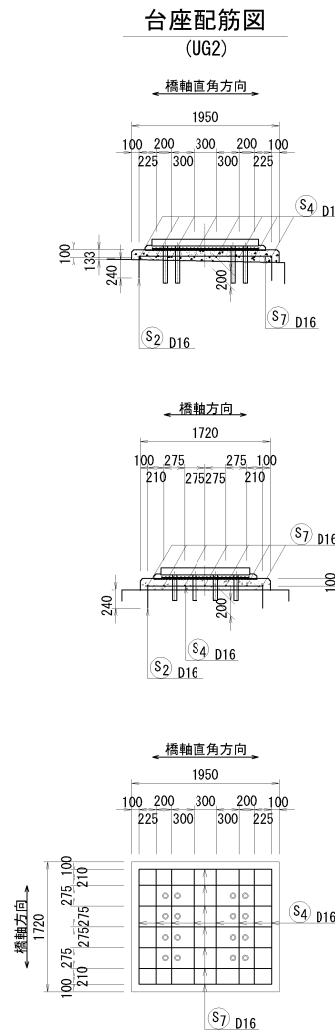
② 24-差し筋アンカー-D16×840



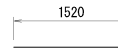
④ 7-D16×1520



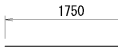
⑥ 7-D16×1630



② 26-差し筋アンカー-D16×840



④ 8-D16×1520



⑦ 7-D16×1750

鉄筋加工寸法表

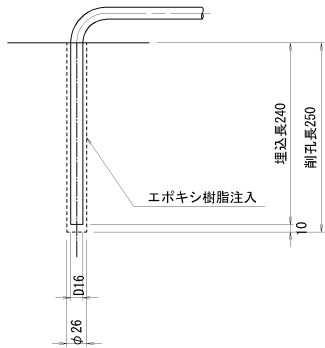
径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0 ϕ		$\theta > 90^\circ$ R=5.5 ϕ		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4		

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	820	72	1.56	1.28	92	差筋AK
S2	D16	840	50	1.56	1.31	66	差筋AK
S3	D16	1320	21	1.56	2.06	43	—
S4	D16	1520	15	1.56	2.37	36	—
S5	D16	1590	21	1.56	2.48	52	—
S6	D16	1630	7	1.56	2.54	18	—
S7	D16	1750	7	1.56	2.73	19	—
計							326 kg
鉄筋A(台座) 差座							(差し筋アンカー)
差筋計	D16	158 kg	D16	66 kg	D16	92 kg	
鉄筋計	D16	168 kg	D16	73 kg	D16	95 kg	
総質量	326 kg	139 kg	187 kg				

支承取替工
アンカーエφ26(下方向)

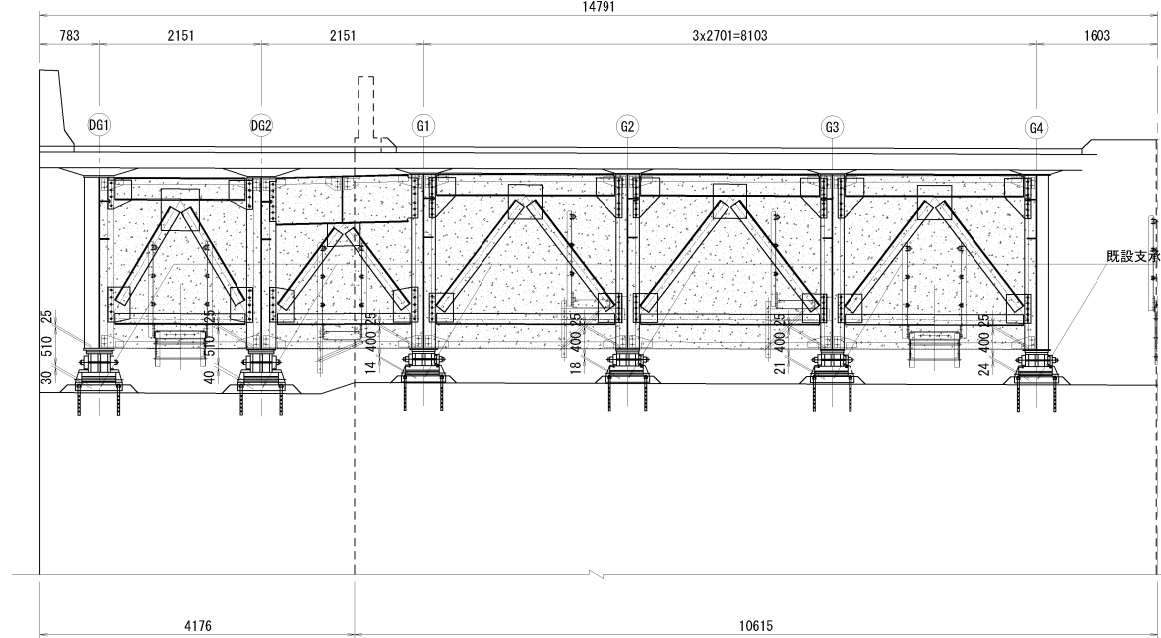
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



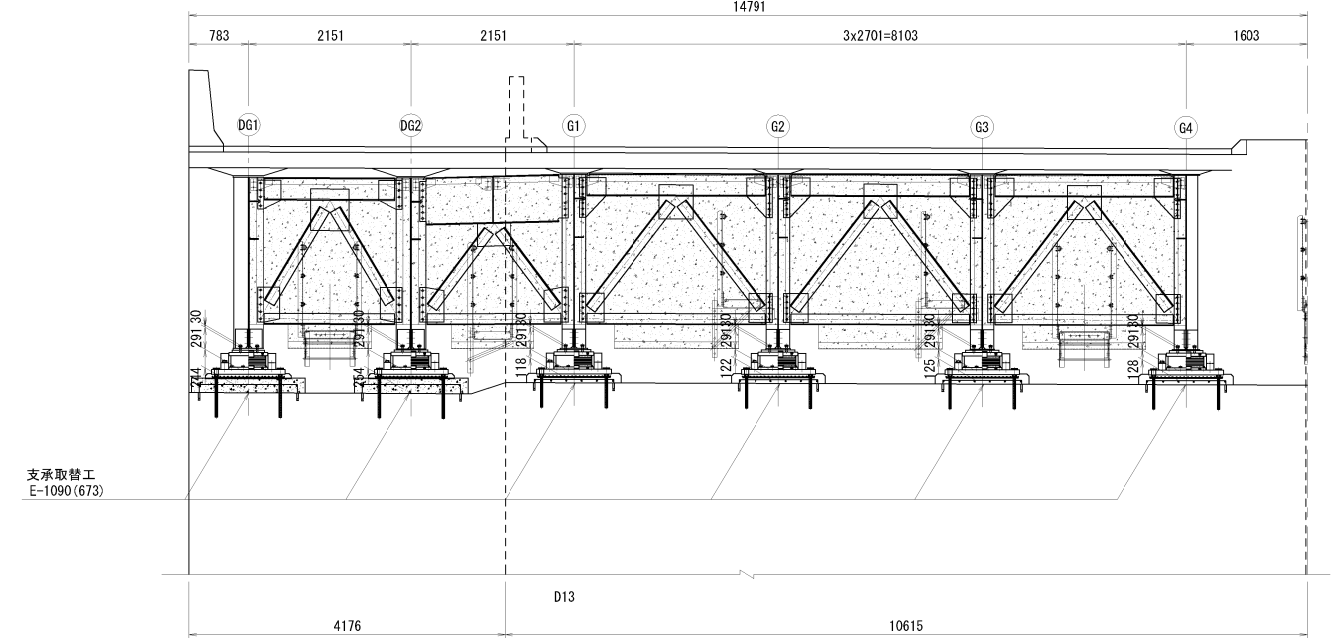
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 P2橋脚(上り線) 支承取替工(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	55 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

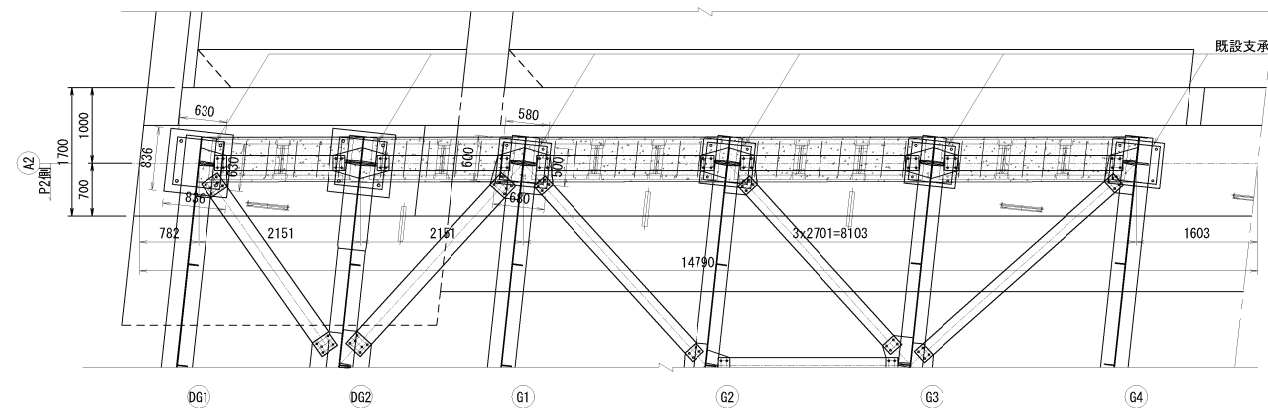
取替前
断面図



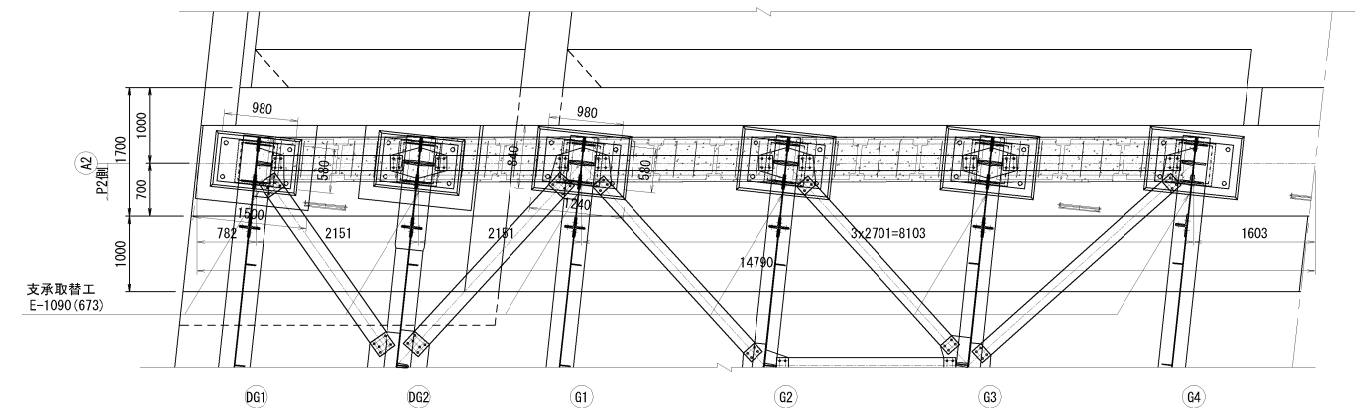
取替後
断面図



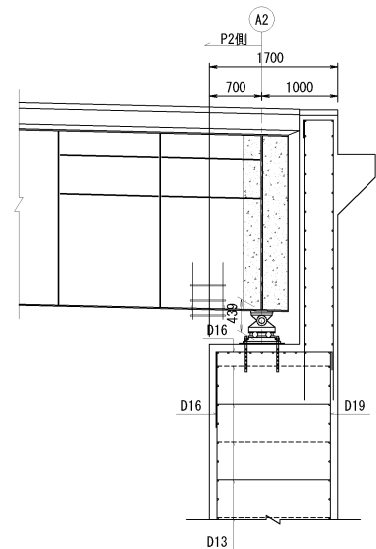
平面図



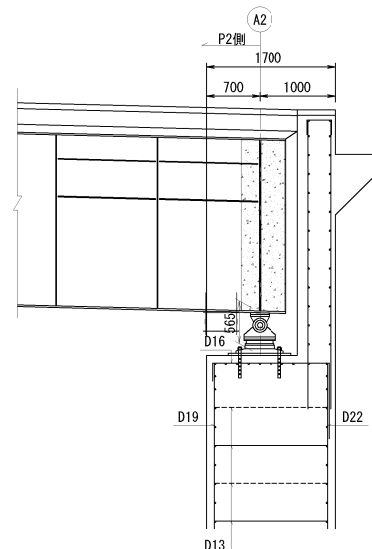
平面図



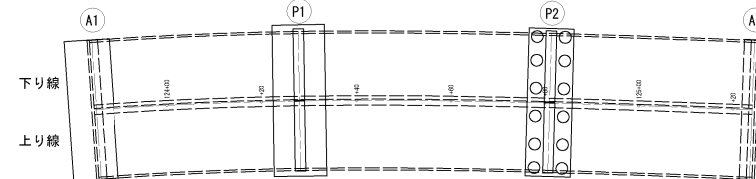
側面図(建設当初 G1)



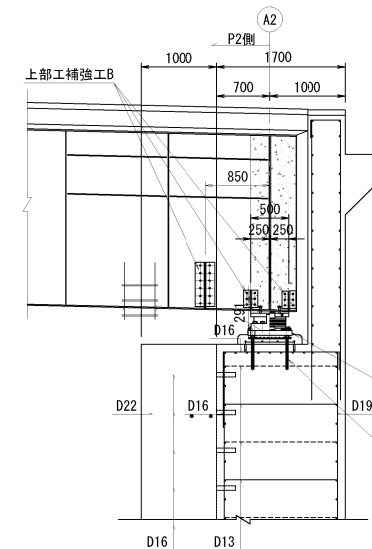
側面図(拡幅部 DG1)



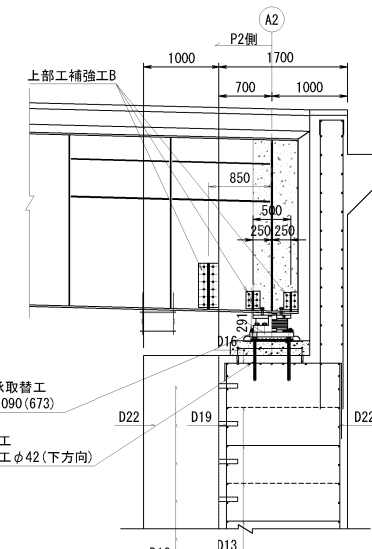
位置図



側面図(建設当初 G1)

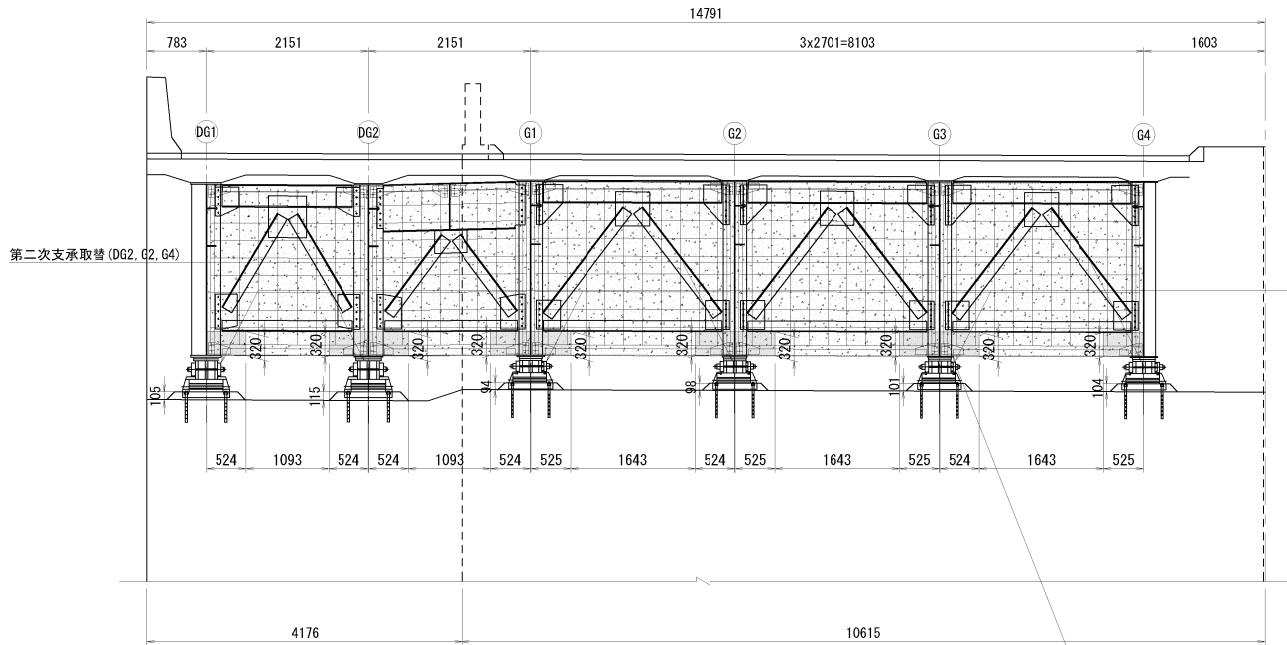


側面図(拡幅部 DG1)

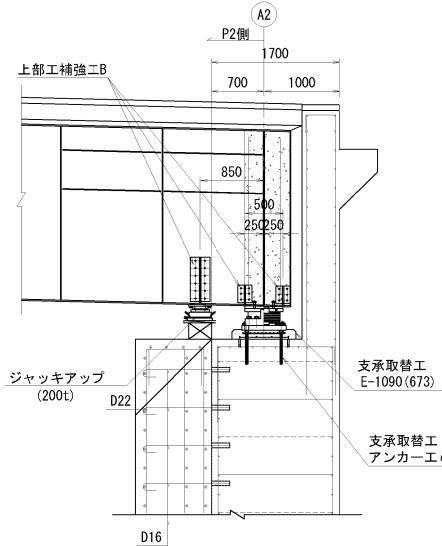


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その1)		
縮尺	図示	図面番号	56 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京浜管理事務所		

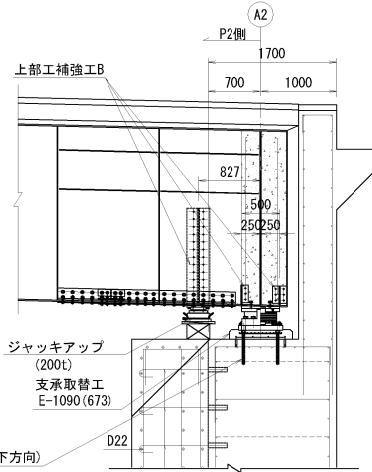
支承取替順序 断面図



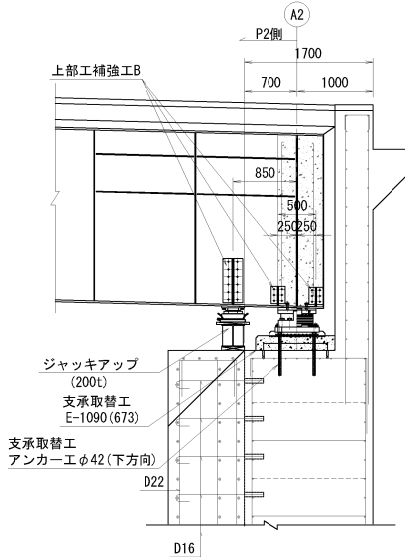
側面図(建設当初 G1)



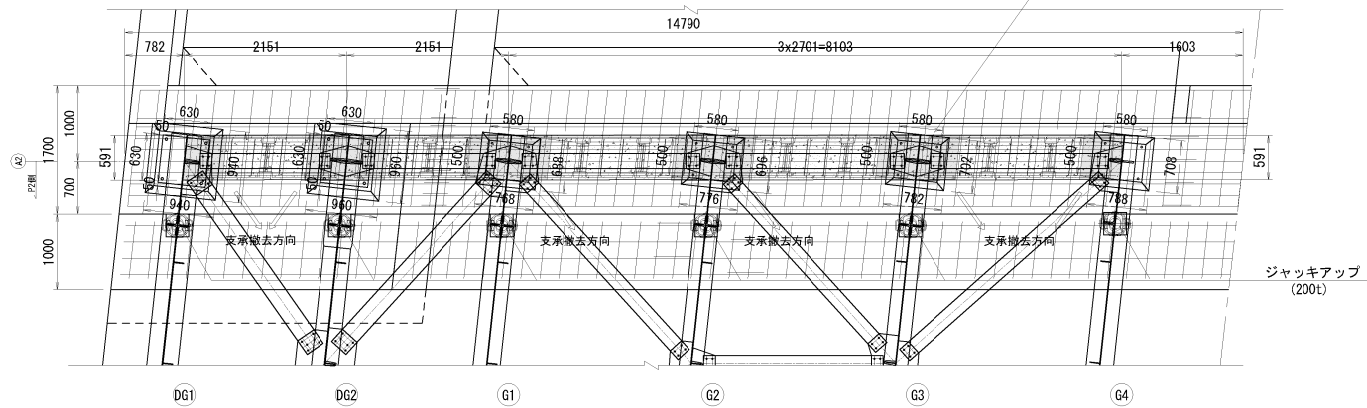
側面図(建設当初 G4)



側面図(拡幅部 D61)

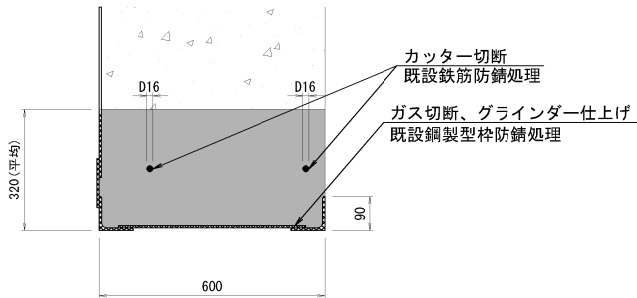


平面図

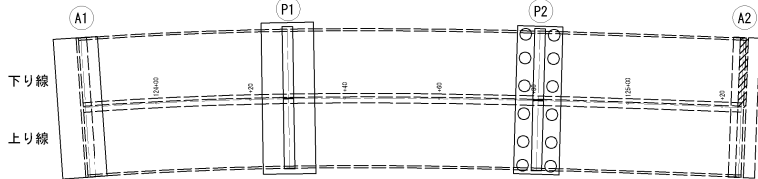


コンクリートはつりエA
防音コンクリート撤去詳細図

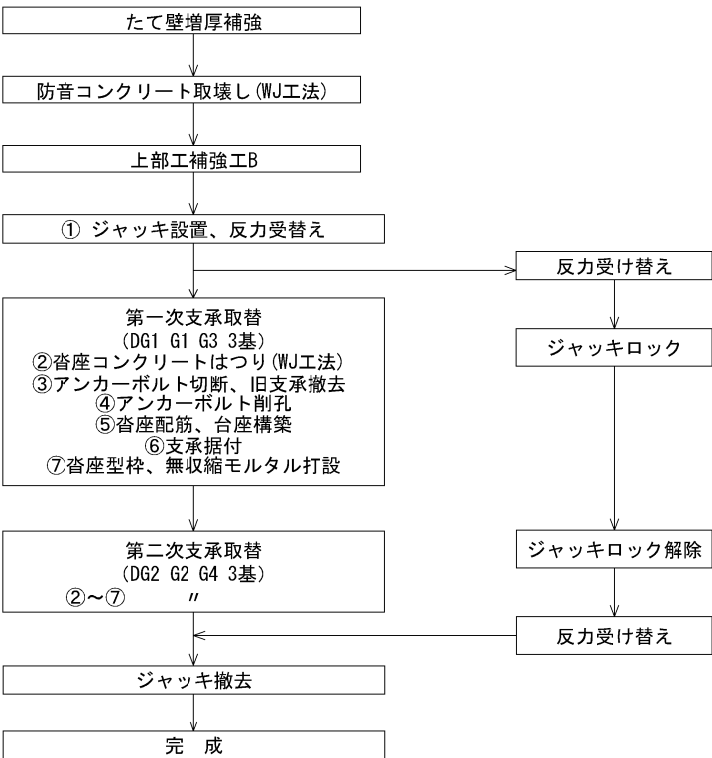
縮尺1:20



位置図



施工順番図(参考)



注 記

1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

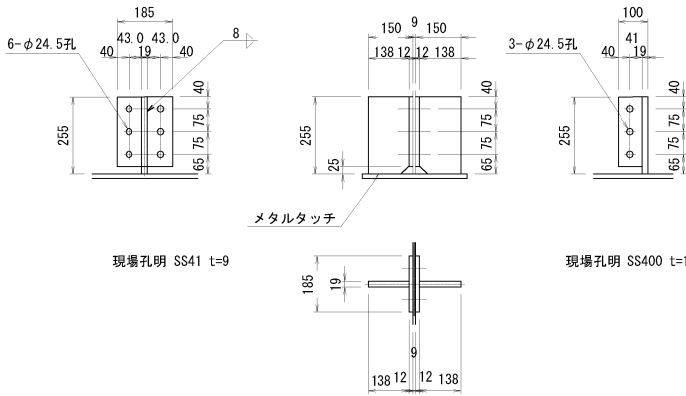
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	57 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

主桁補強材

上部工補強工B

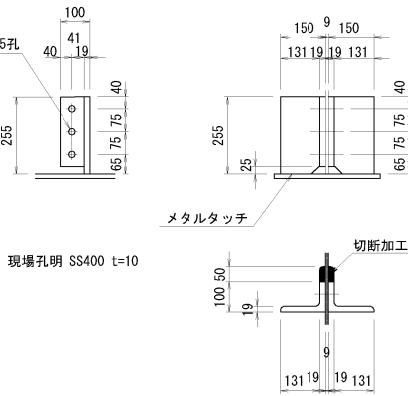
仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

支点上部補強材詳細図
(G1~G3, G4桁端側)



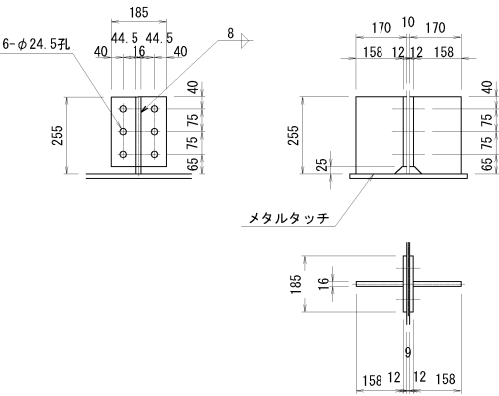
製作数 : 7
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 138×19×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(G4桁P2側)



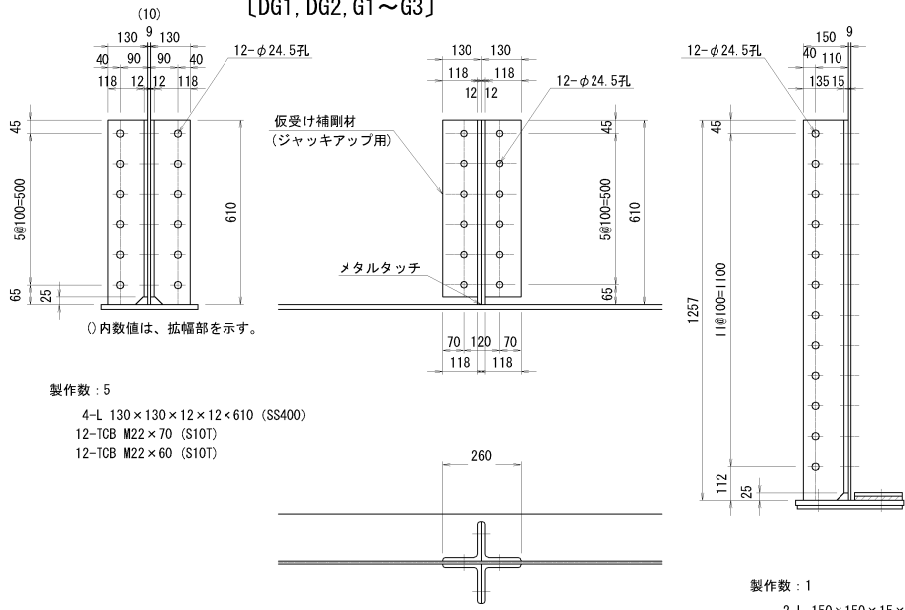
製作数 : 1
2-L 150×150×19×19×255 (SS400)
3-TCB M22×85 (S10T)

支点上部補強材詳細図
(DG1, DG2)



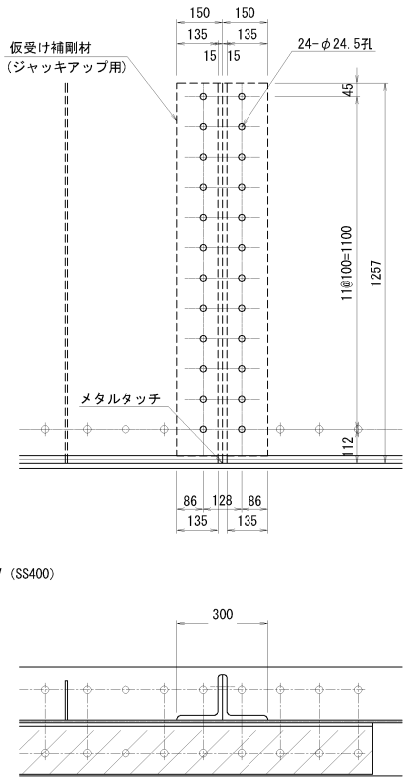
製作数 : 4
2-Base 185×12×230 (SM400A)
2-リブ 158×16×255 (SM400A)
6-TCB M22×70 (S10T)

[DG1, DG2, G1~G3]



製作数 : 5
4-L 130×130×12×12×610 (SS400)
12-TCB M22×70 (S10T)
12-TCB M22×60 (S10T)

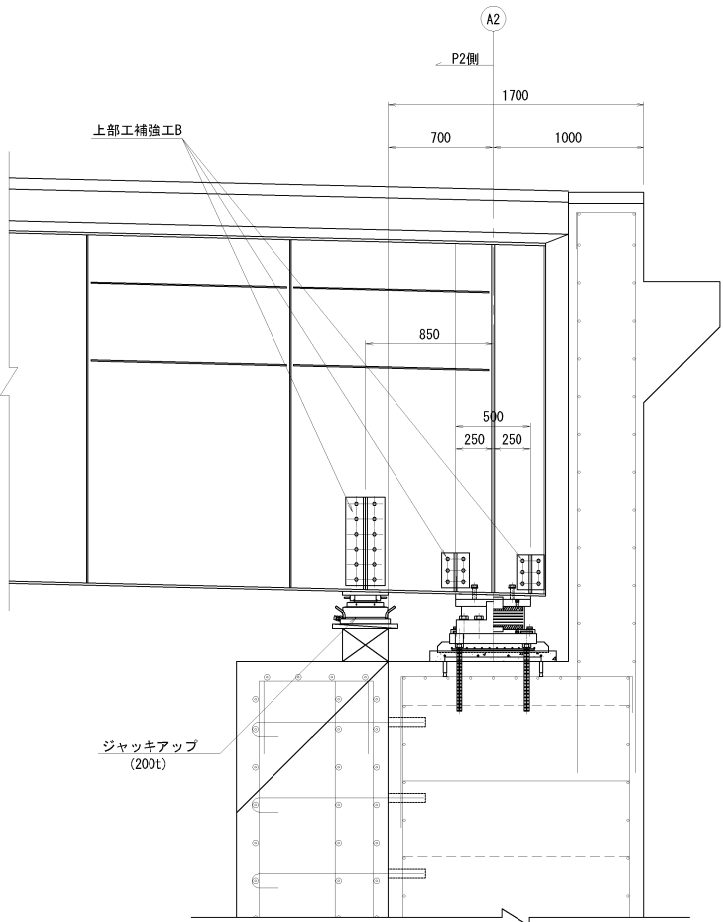
[G4]



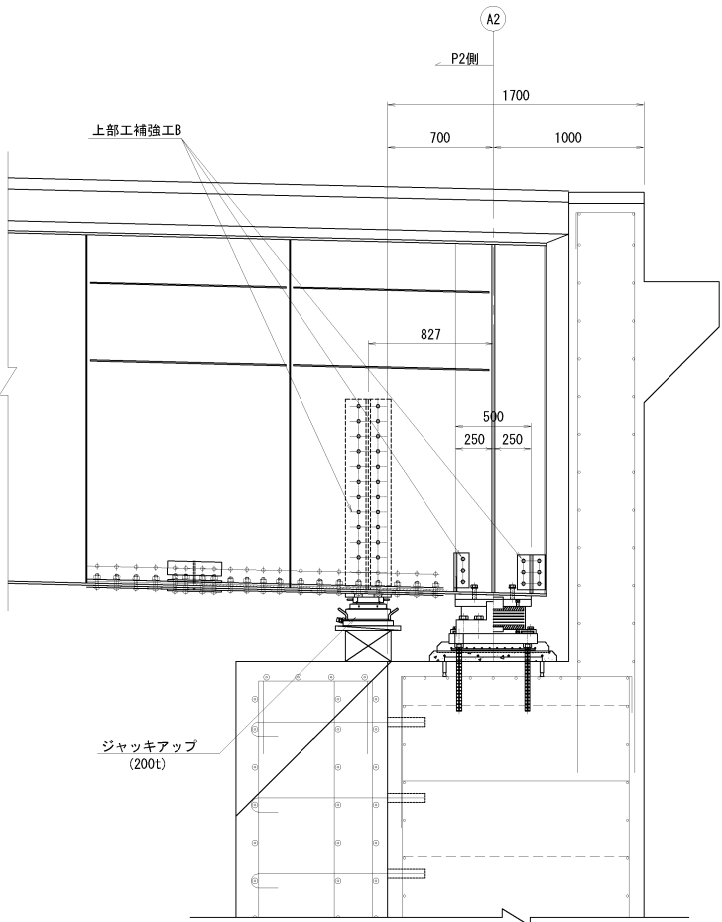
製作数 : 1
2-L 150×150×15×15×1257 (SS400)
12-TCB M22×65 (S10T)
24-TCB M22×60 (S10T)

主桁補強材側面図 縮尺1:50

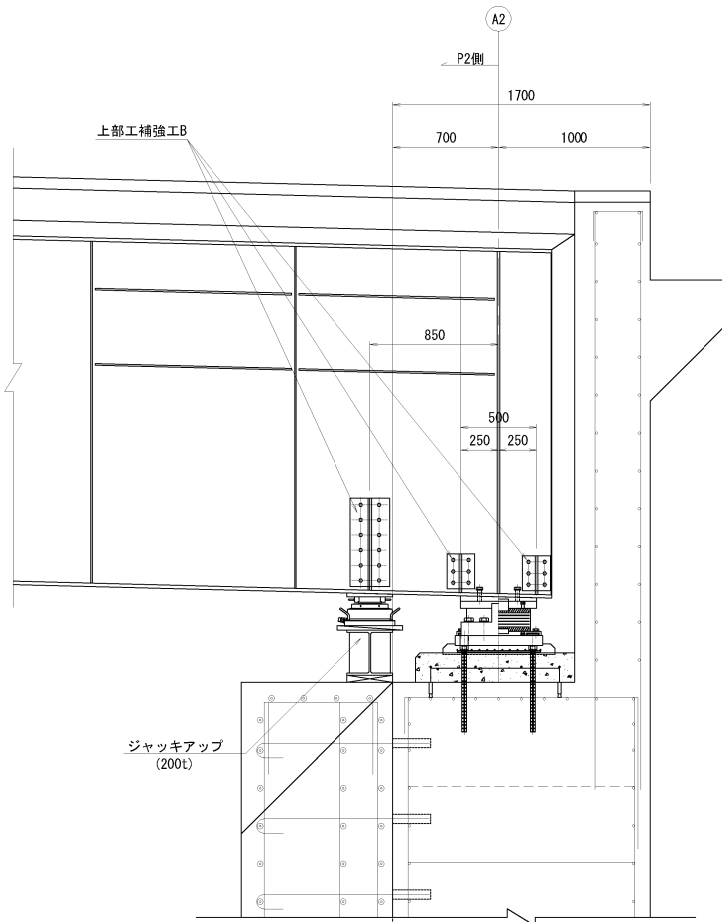
側面図(建設当初 (G1))



側面図(建設当初 (G4))

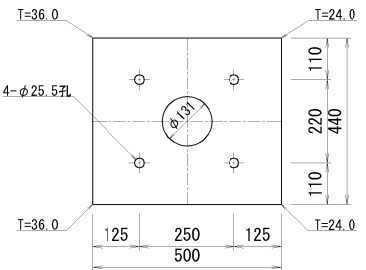


側面図(拡幅部 (DG1))



支承取替工
E-1090 (673)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20



※溶融亜鉛めっき処理 (膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)

注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

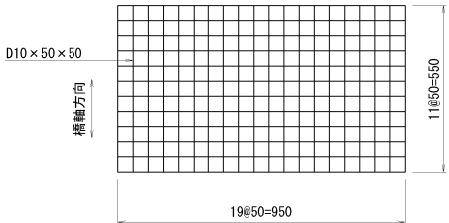
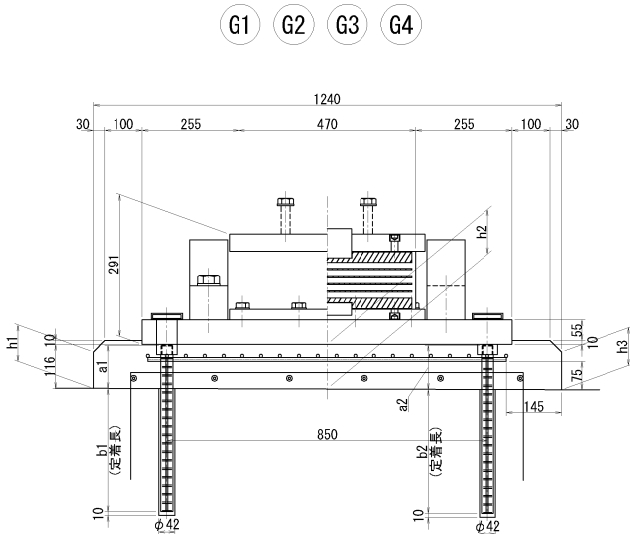
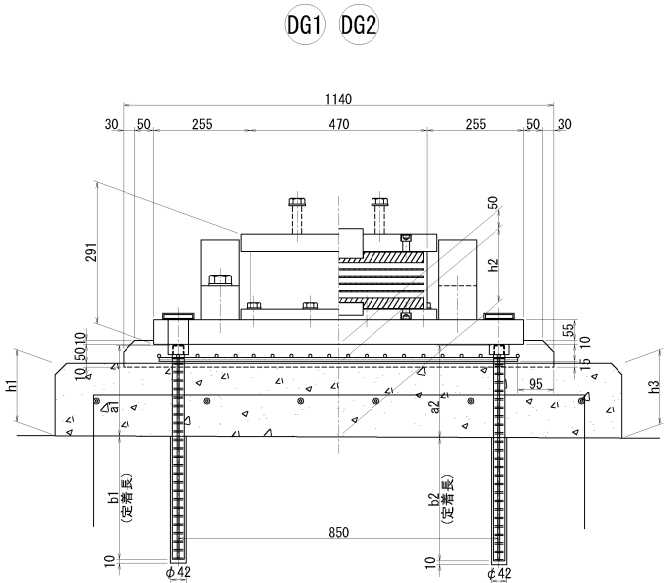
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	58 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-1090(673)

新支承設置

新支承 標準断面図 縮尺 1:20

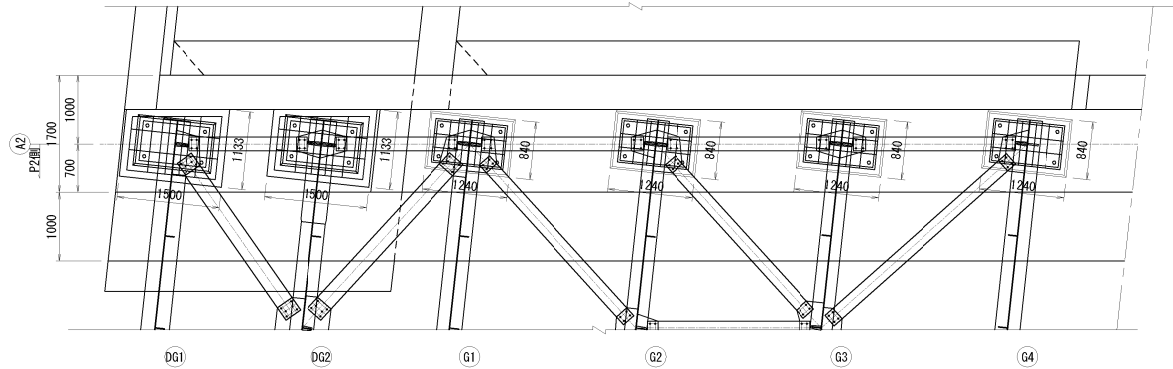
沓座格子鉄筋



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計 (6箇所)		
格子鉄筋	D10 x 50 x 50	SD345	Kg	12.5	75	75	24.01Kg/m ²

台座配置図



支承取替工 アンカー工φ42 (下方向)

	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1 (mm)	h2 (mm)	h3 (mm)	a1 (mm)	b1 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)	a2 (mm)	b2 (mm)	アンカー長 (mm)	削孔長 (mm)
DG1	191	194	197	240	325	565	335	244	326	570	336
DG2	201	204	207	250	325	575	335	254	326	580	336
G1	96	118	100	115	325	440	335	117	328	445	338
G2	100	122	104	119	326	445	336	121	329	450	339
G3	103	125	107	122	328	450	338	124	326	450	336
G4	106	128	110	125	325	450	335	127	328	455	338

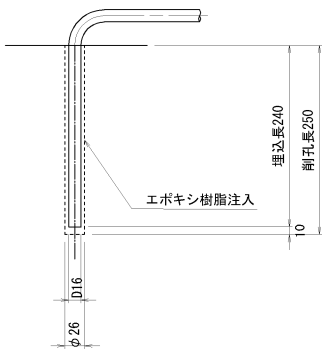
- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	59 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

新支承設置
支承取替工 E-1090(673)



支承取替工 アンカーエφ26（下方向）
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



鉄筋加工寸法表

径	主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 30^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$	$\theta = 60^\circ$	$\theta = 90^\circ$	$\theta = 135^\circ$		
D16	48	88	113	119	100	66	75	21

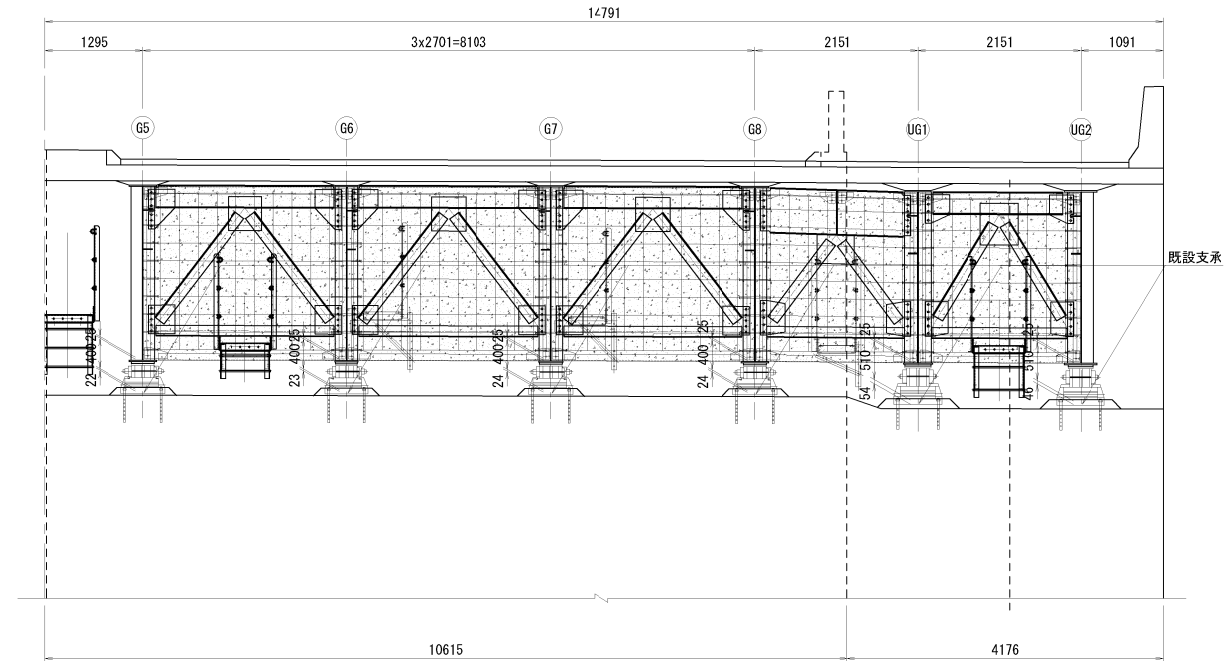
鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	880	16	1.56	1.37	22	差筋AK
S2	D16	890	16	1.56	1.39	22	差筋AK
S3	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S4	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S5	D16	820	16	1.56	1.23	20	差筋AK
S6	D16	830	16	1.56	1.29	21	差筋AK
S7	D16	850	12	1.56	1.33	16	—
S8	D16	640	24	1.56	1.00	24	—
S9	D16	1310	8	1.56	2.04	16	—
S10	D16	1040	16	1.56	1.62	26	—
計							207 kg
鉄筋 A (台座)							
差筋計	D16	125 kg	D16	44 kg	D16	81 kg	
鉄筋計	D16	82 kg	D16	32 kg	D16	50 kg	
総質量	207 kg		76 kg		131 kg		

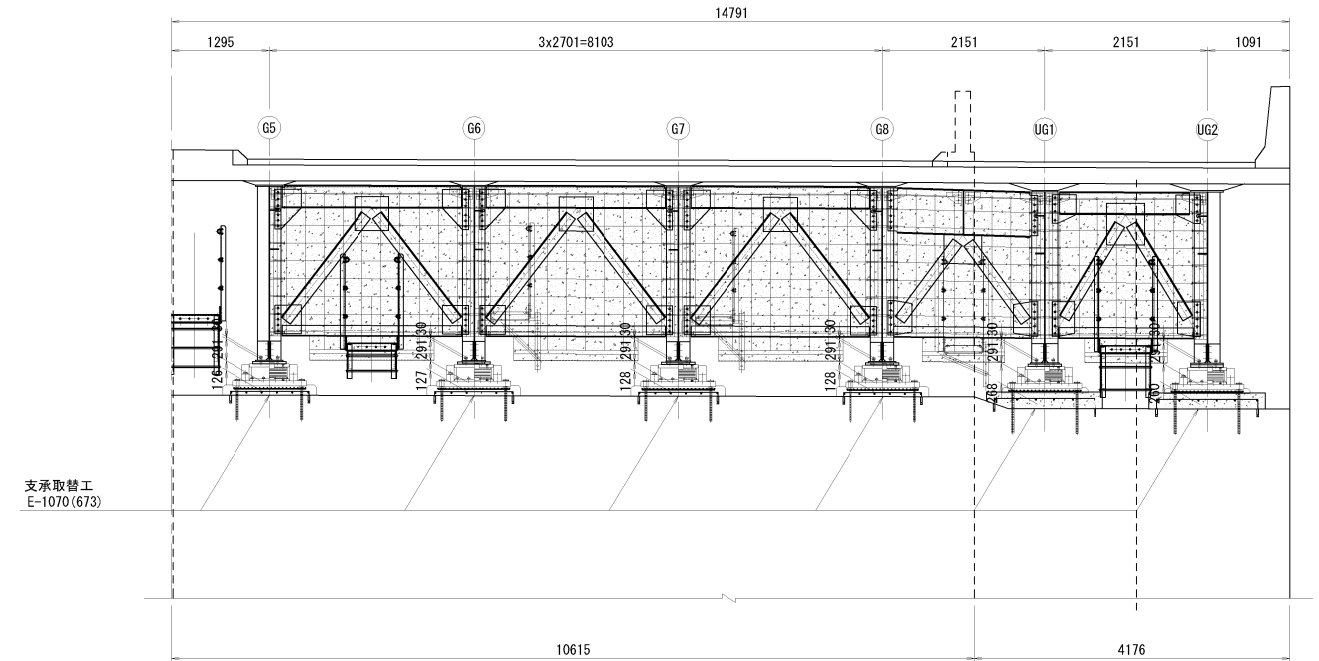
注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路			
釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 支承取替工(その5)		
縮尺	図示	図面番号	60 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

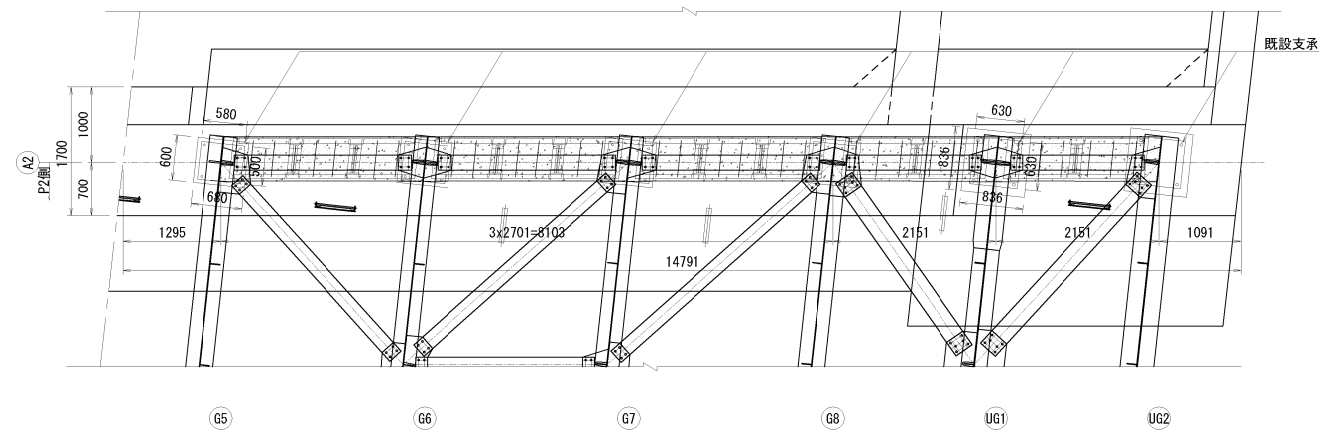
取替前
断面図



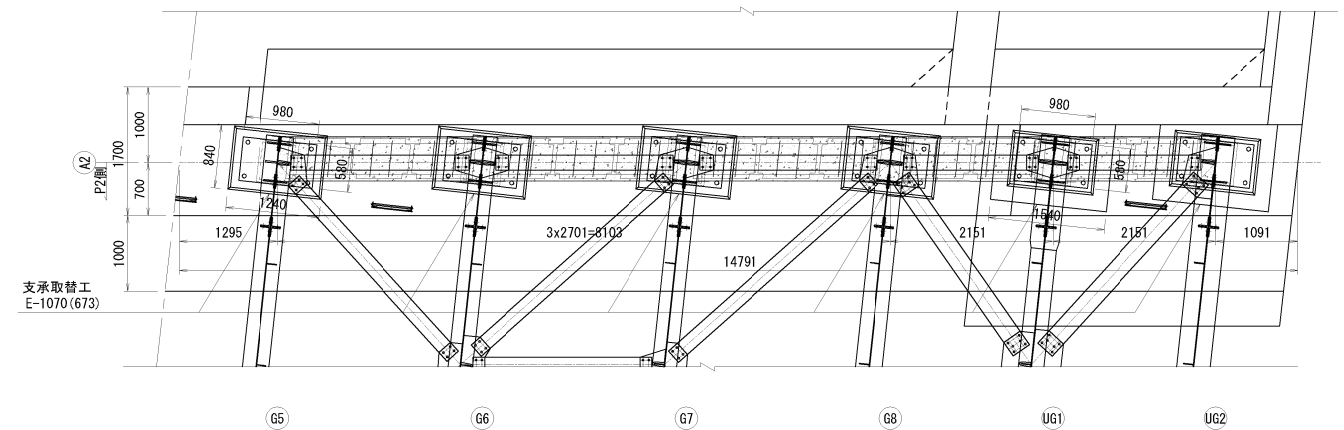
取替後
断面図



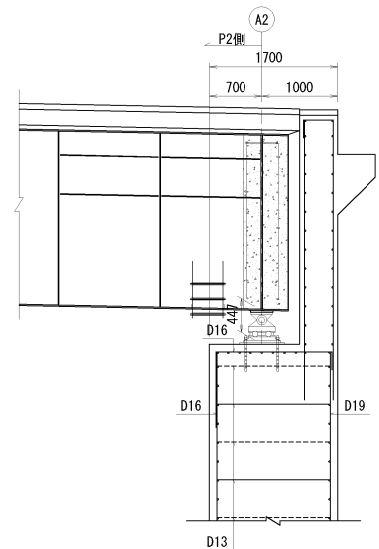
平面図



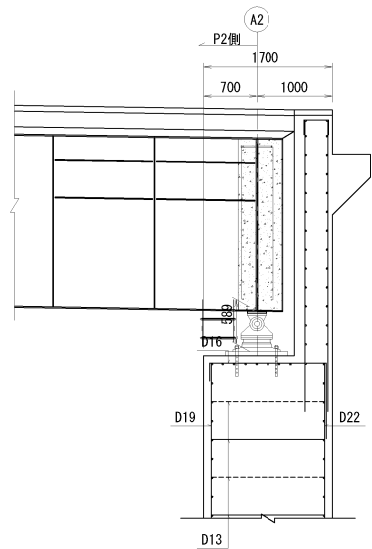
平面図



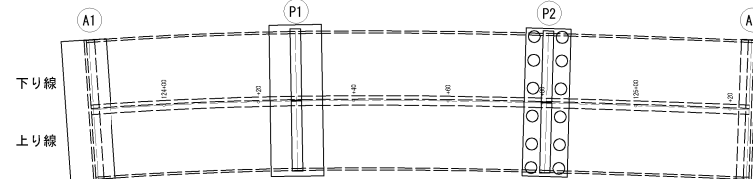
側面図(建設当初 G5)



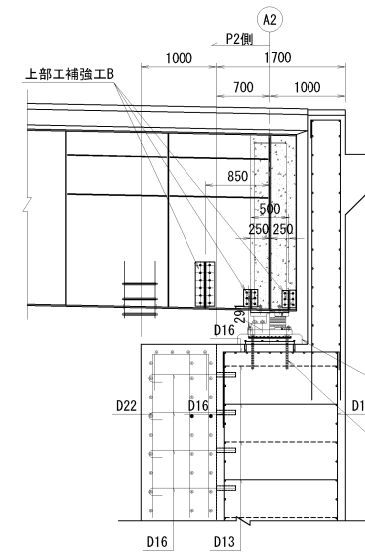
側面図(拡幅部 UG1)



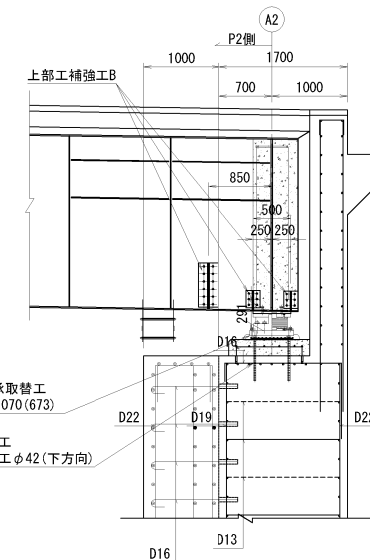
位置図



側面図(建設当初 G5)

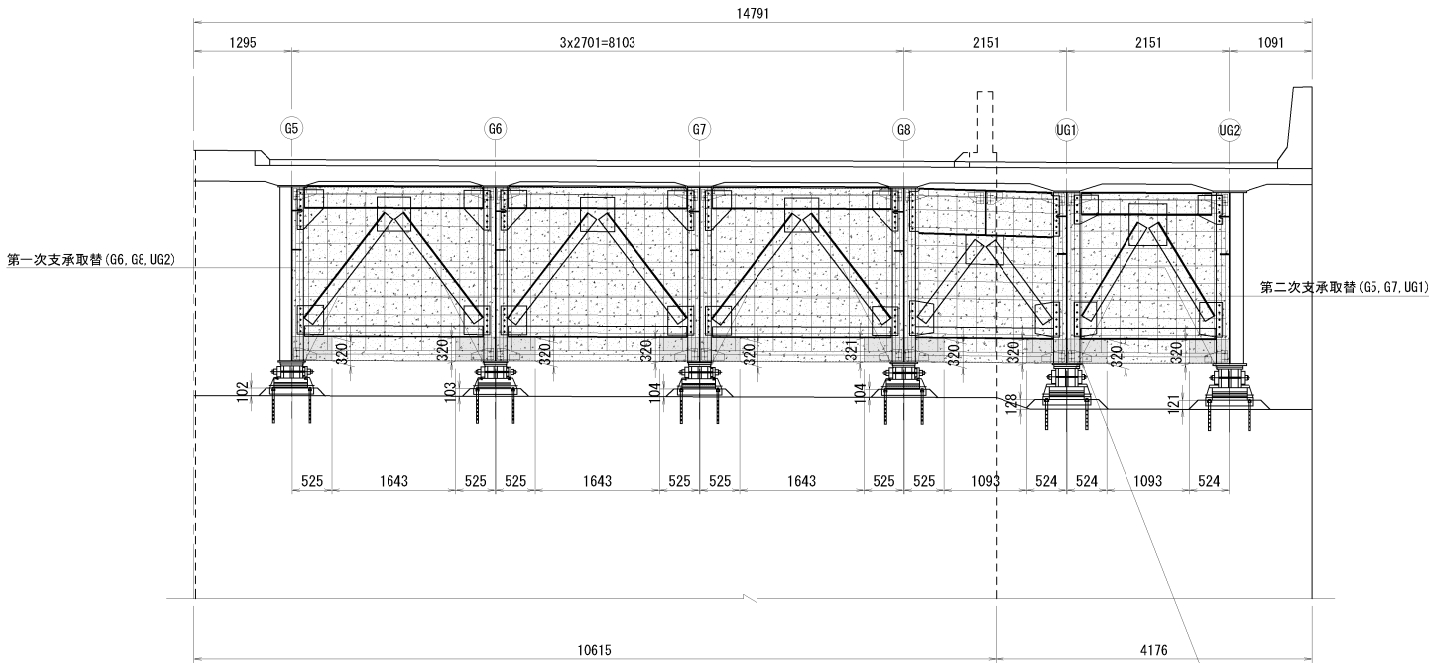


側面図(拡幅部 UG1)

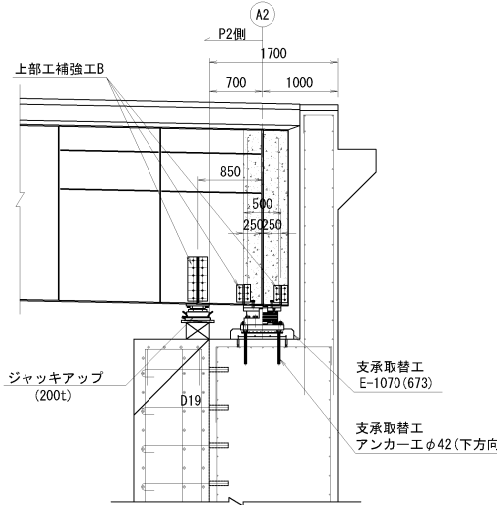


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	61 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

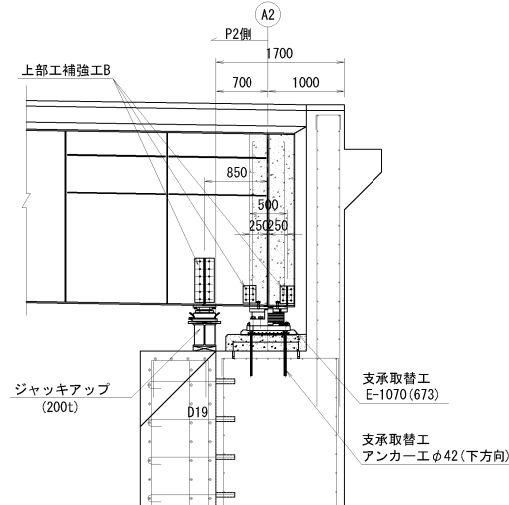
支承取替順序 断面図



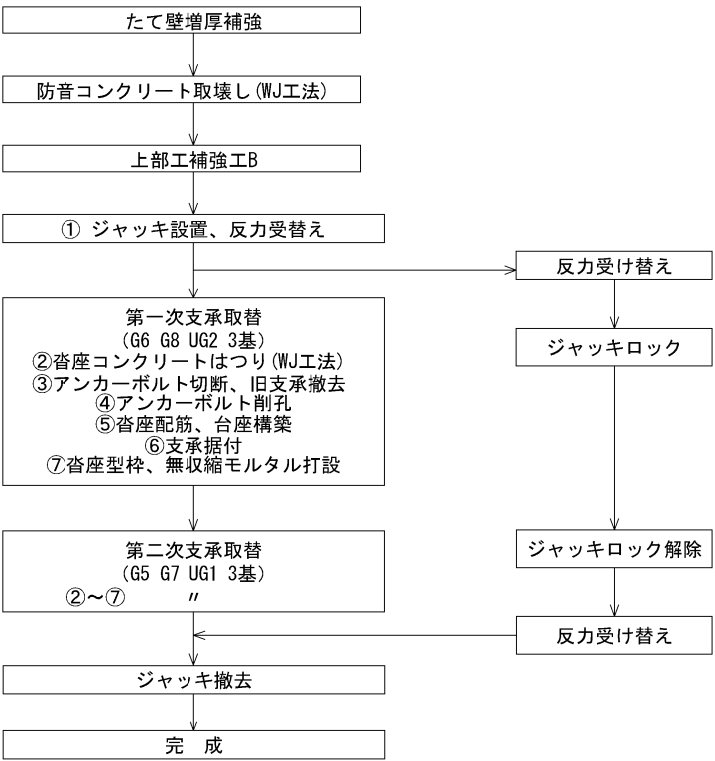
側面図(建設当初 ⑤)



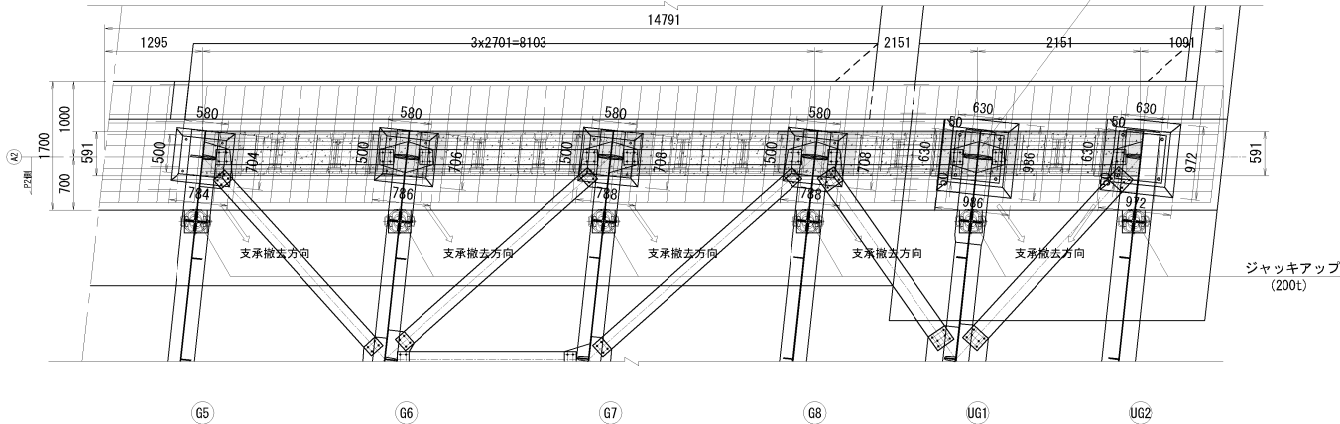
側面図(拡幅部 UG1)



施工順番図(参考)

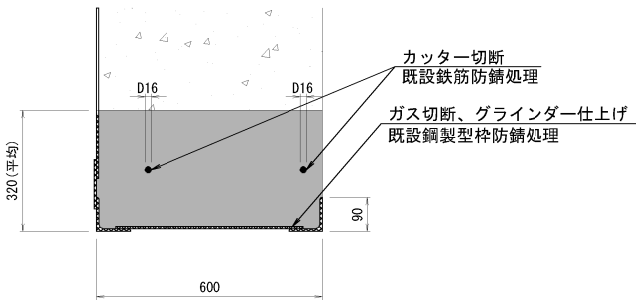


平面図

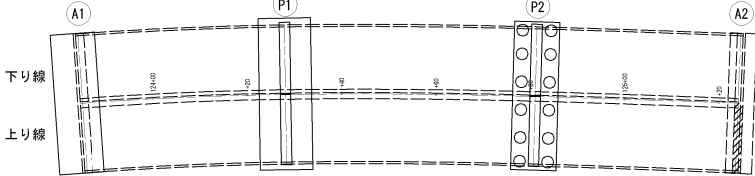


コンクリートはつり工A
防音コンクリート撤去詳細図

縮尺1:20



位置図

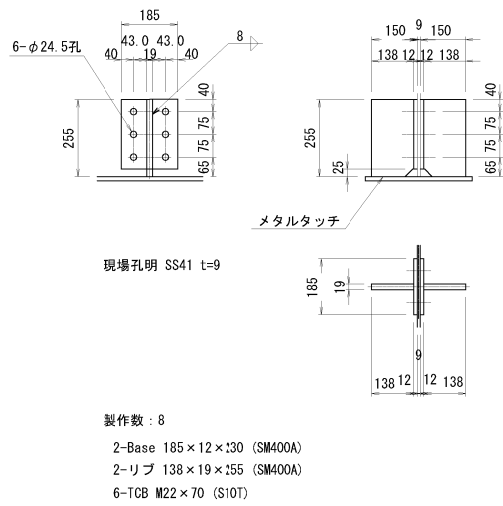


注 記

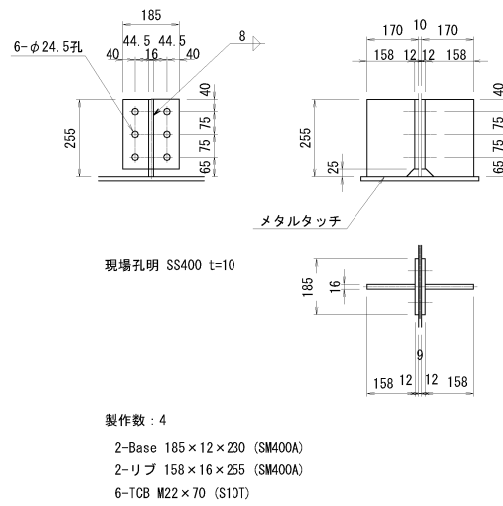
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
3. コンクリート削孔は鉄筋探索を行い、既設鉄筋を切断しない様に留意すること。
4. 支承取替時に干渉する既設鉄筋との取扱いは、監督員と協議の上決定すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	62 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

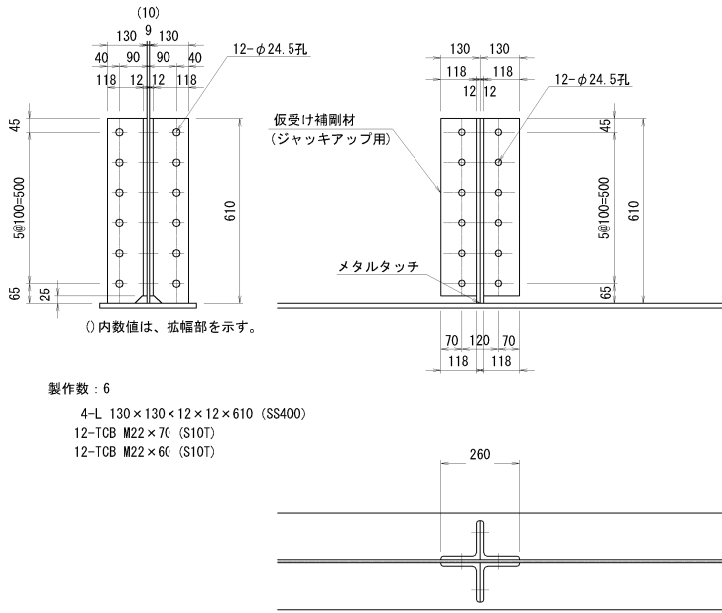
支点上部補強材詳細図
(G5~G8)



支点上部補強材詳細図
(UG1, UG2)

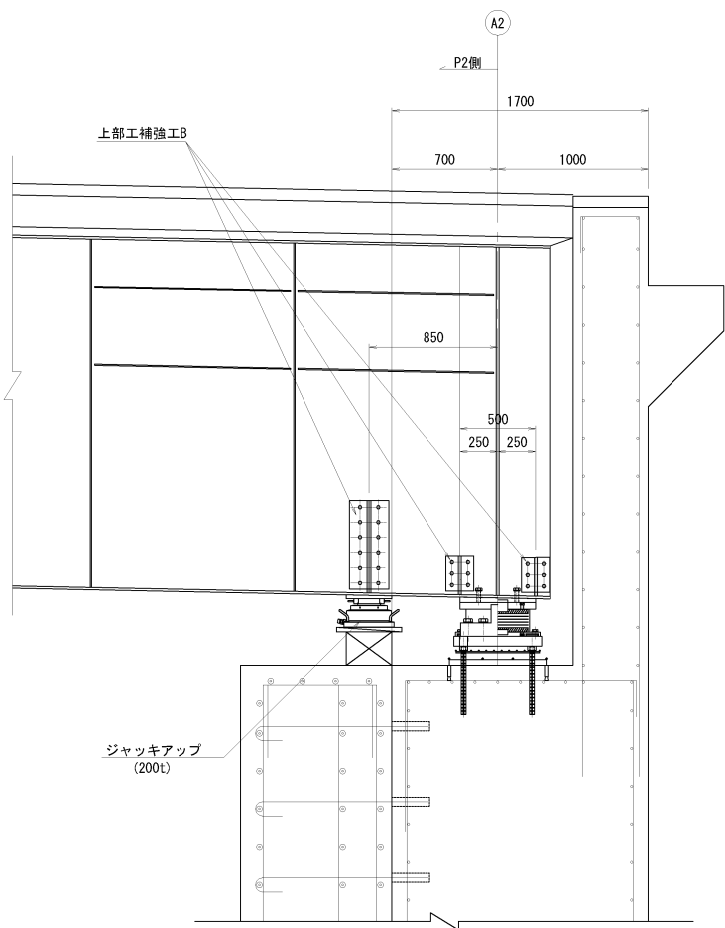


仮受け補剛材(ジャッキアップ用)

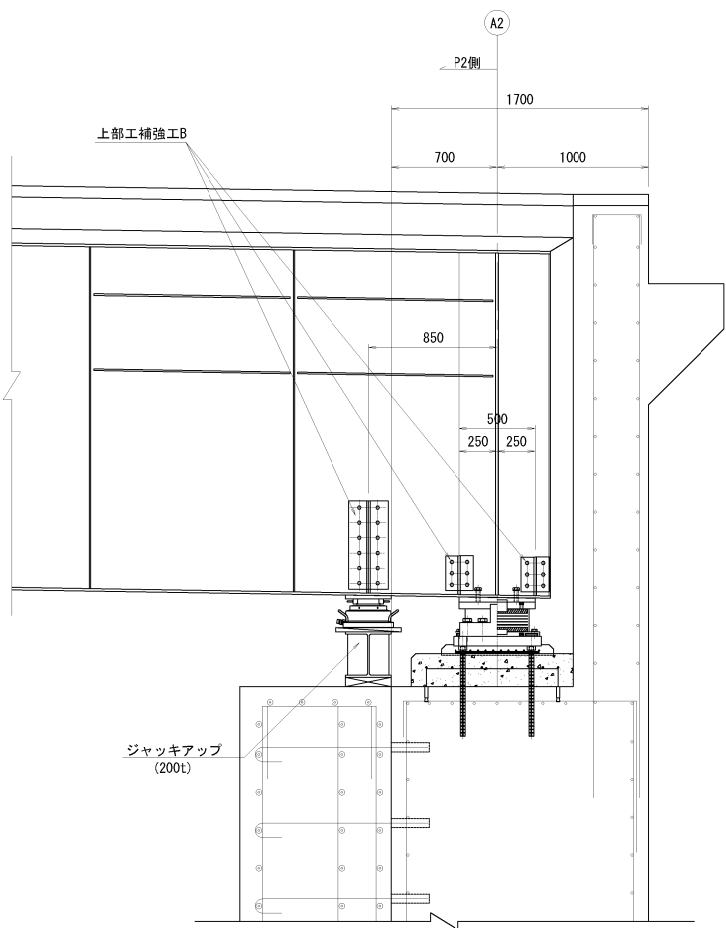


主桁補強材側面図 縮尺1:50

側面図(建設当初 G5)

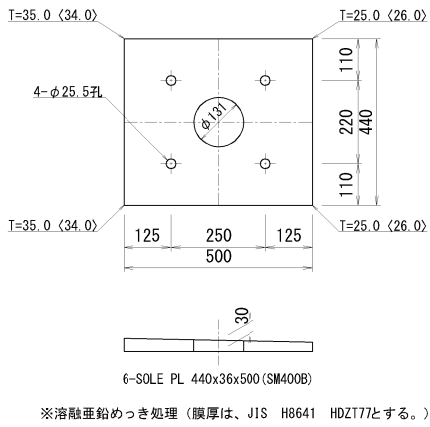


側面図(拡幅部 UG1)



支承取替工
E-1070(673)

ソールプレート詳細図 縮尺1:20
(内数値は、拡幅部を示す。)

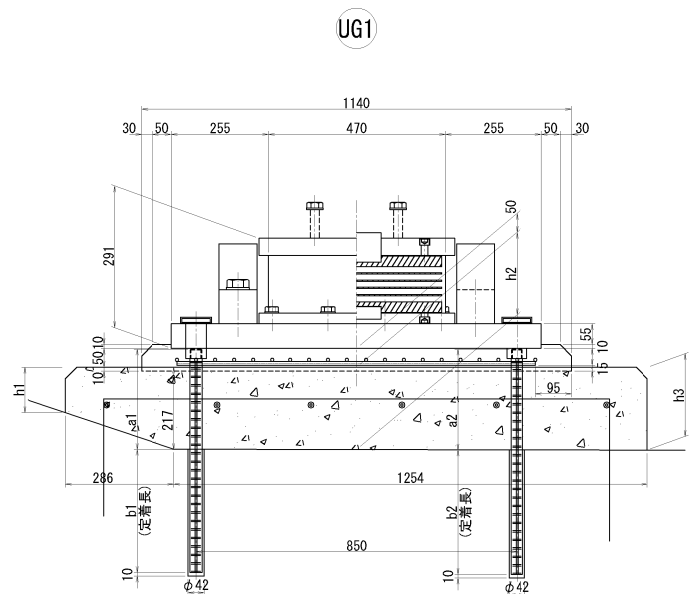
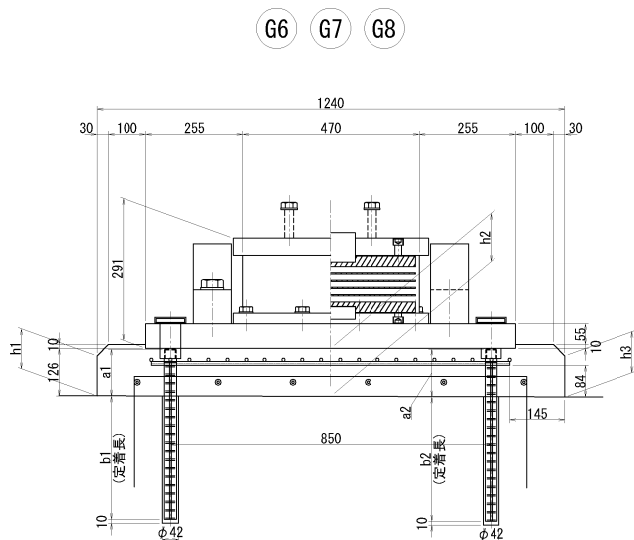
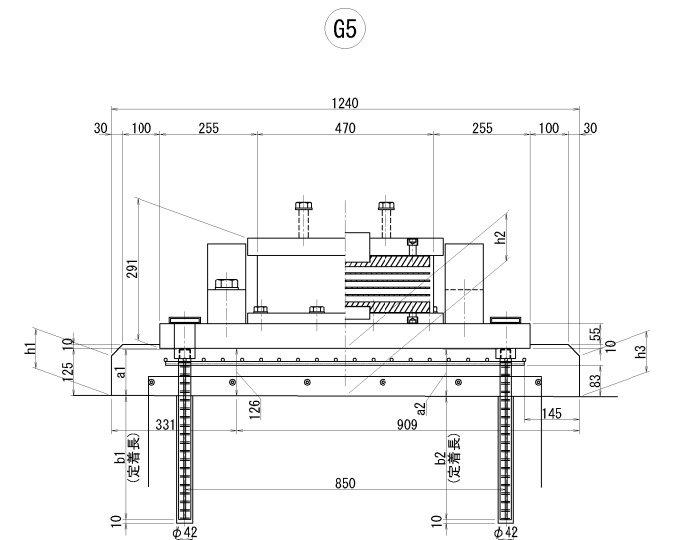


注 記
1. 高力ボルトは転用しないこと

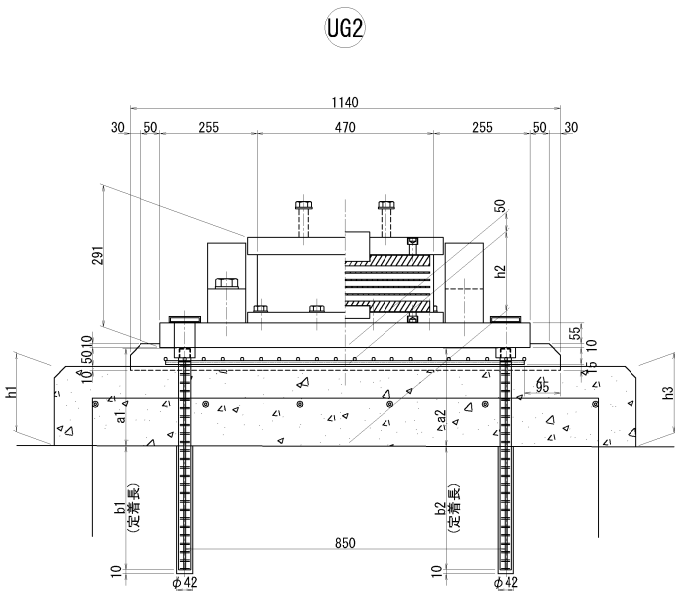
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	63 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

支承取替工 E-1070(673)

新支承設置
新支承 標準断面図 縮尺 1:20

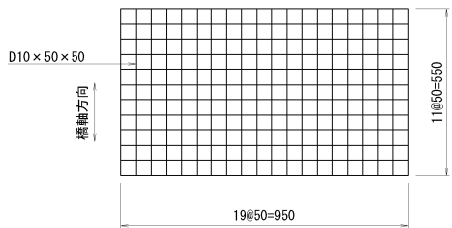


沓座格子鉄筋



支承取替工 アンカーエφ42(下方向)

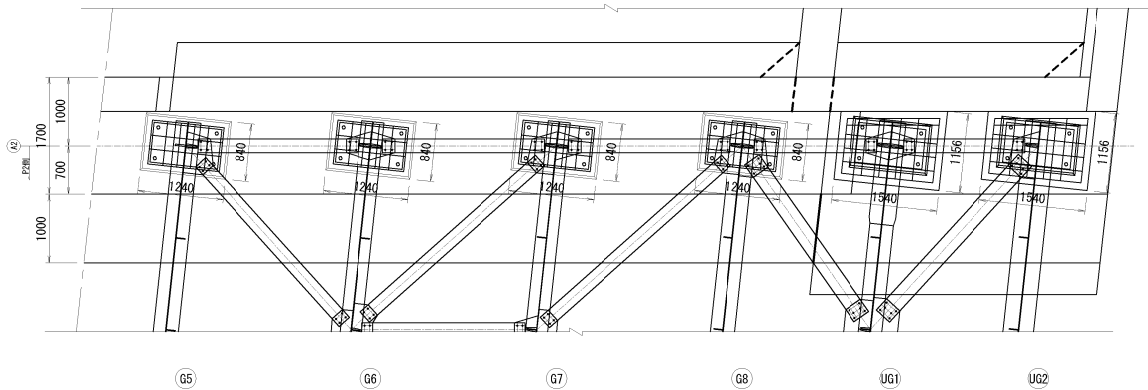
	台座高			アンカー長(下り線側)				アンカー長(上り線側)			
	h1(mm)	h2(mm)	h3(mm)	a1(mm)	b1(mm)	アンカー長(mm)	L(mm)	a2(mm)	b2(mm)	アンカー長(mm)	L(mm)
G5	105	125	108	123	327	450	337	125	325	450	335
G6	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
G7	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
G8	106	127	109	124	326	450	336	126	329	455	339
UG1	120	213	219	265	325	590	335	266	329	595	339
UG2	209	210	212	257	328	585	338	259	326	585	336



格子鉄筋 数量表

名称	寸法	材質	単位	数量		質量 (Kg)	備考
				1箇所	合計(6箇所)		
格子鉄筋	D10×50×50	SD345	Kg	12.5	75	75	24.01Kg/㎡

台座配置図

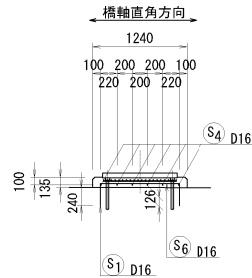


- 注記)
- 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
 - 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。
 - 格子鉄筋と支承アンカーが干渉する場合は、格子鉄筋を適宜現場加工すること。

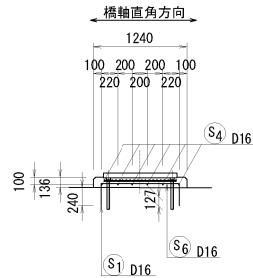
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その4)			
縮 尺	図 示	図面番号	64 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

新支承設置
支承取替工 E-1070 (673)

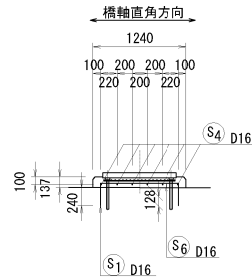
沓座配筋図
(G5)



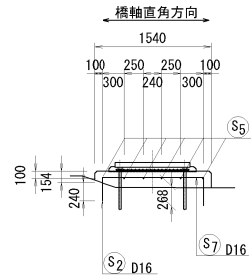
沓座配筋図
(G6)



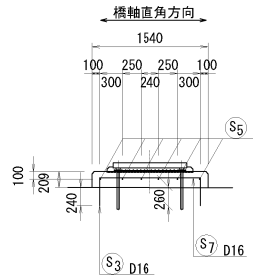
沓座配筋図
(G7, G8)



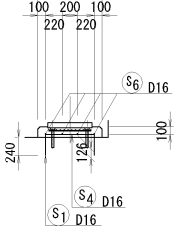
台座配筋図
(UG1)



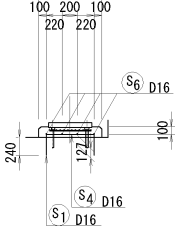
台座配筋図
(UG2)



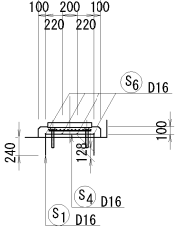
橋軸方向



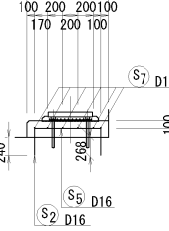
橋軸方向



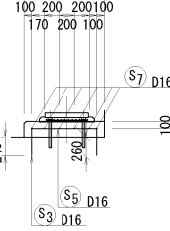
橋軸方向



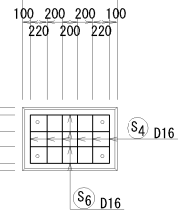
橋軸方向



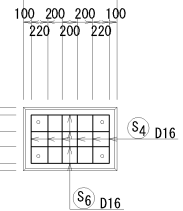
橋軸方向



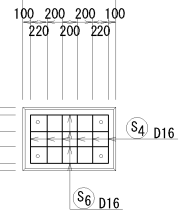
橋軸直角方向



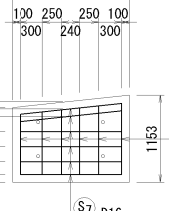
橋軸直角方向



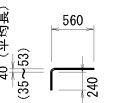
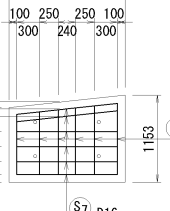
橋軸直角方向



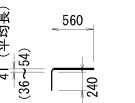
橋軸直角方向



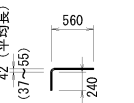
橋軸直角方向



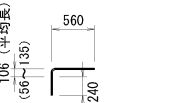
S1 16-差し筋アンカー-D16×820



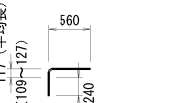
S1 16-差し筋アンカー-D16×820



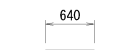
S1 32-差し筋アンカー-D16×830



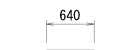
S2 20-差し筋アンカー-D16×890



S3 20-差し筋アンカー-D16×900



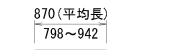
S4 6-D16×640



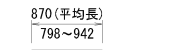
S4 6-D16×640



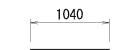
S4 12-D16×640



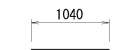
S5 6-D16×870



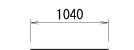
S5 6-D16×870



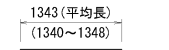
S6 4-D16×1040



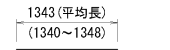
S6 4-D16×1040



S6 8-D16×1040



S7 6-D16×1350



S7 6-D16×1350

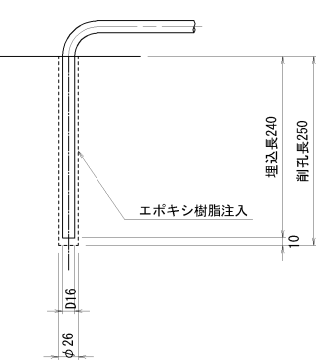
鉄筋加工寸法表

径	主筋		半円径フック		スターラップ		直角フック	
	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$	$\theta = 60^\circ$	$\theta = 90^\circ$	$\theta = 135^\circ$		
D16	48	88	113 119	100 66	75 21	69 4		

鉄筋質量表

記号	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要
S1	D16	820	32	1.56	1.28	41	差筋AK
S1'	D16	830	32	1.56	1.29	41	差筋AK
S2	D16	890	20	1.56	1.39	28	差筋AK
S3	D16	900	20	1.56	1.40	28	差筋AK
S4	D16	640	24	1.56	1.00	24	—
S5	D16	870	12	1.56	1.36	16	—
S6	D16	1040	16	1.56	1.62	26	—
S7	D16	1350	12	1.56	2.11	25	—
計							229 kg
鉄筋A (台座) 沓座							
差筋計	D16	138 kg	D16	56 kg	D16	82 kg	
鉄筋計	D16	91 kg	D16	41 kg	D16	50 kg	
総質量	229 kg			97 kg		132 kg	

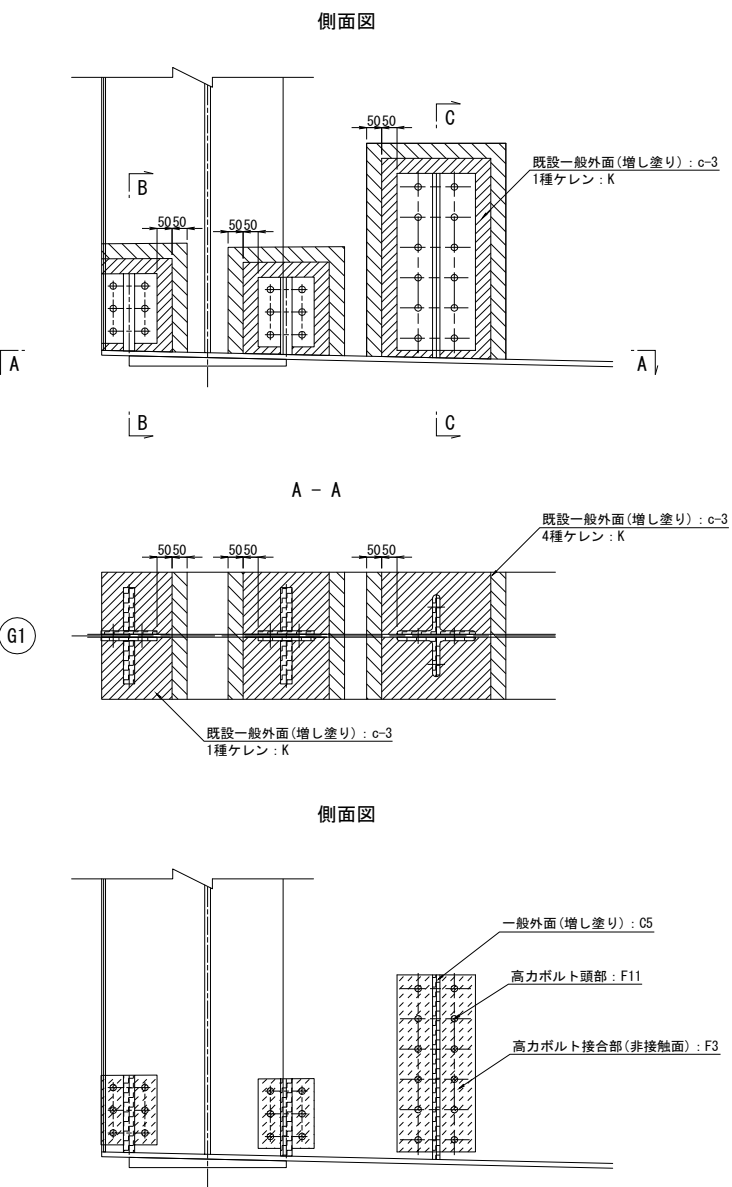
支承取替工 アンカー工φ26 (下方向)
台座補強筋アンカー 詳細図 1:20



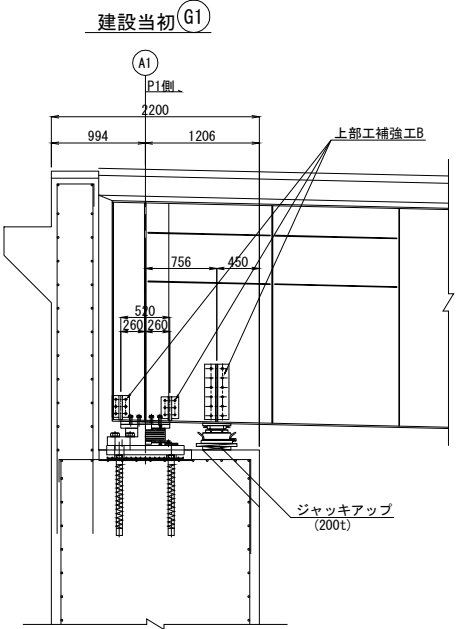
注記)
1. 図面詳細寸法は現地実測の上、決定のこと。
2. 支承本体、アンカーボルト詳細は「支承詳細図」を参照のこと。

横浜横須賀道路				
釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類		釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 支承取替工(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	65 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

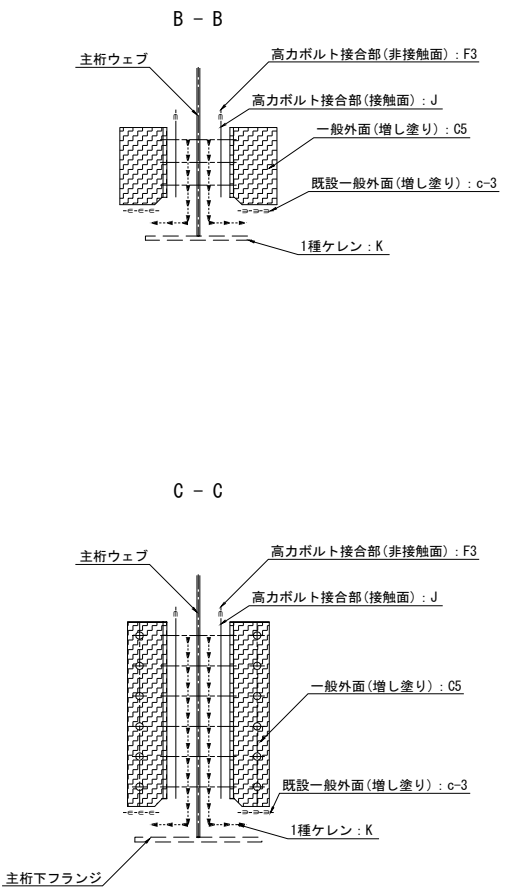
建設当初 G1



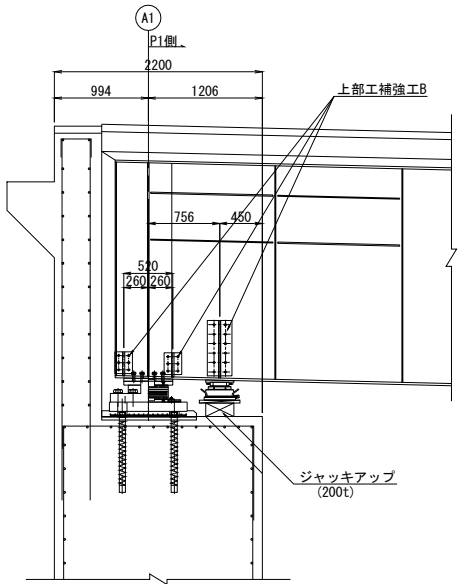
配置図 S=1:80



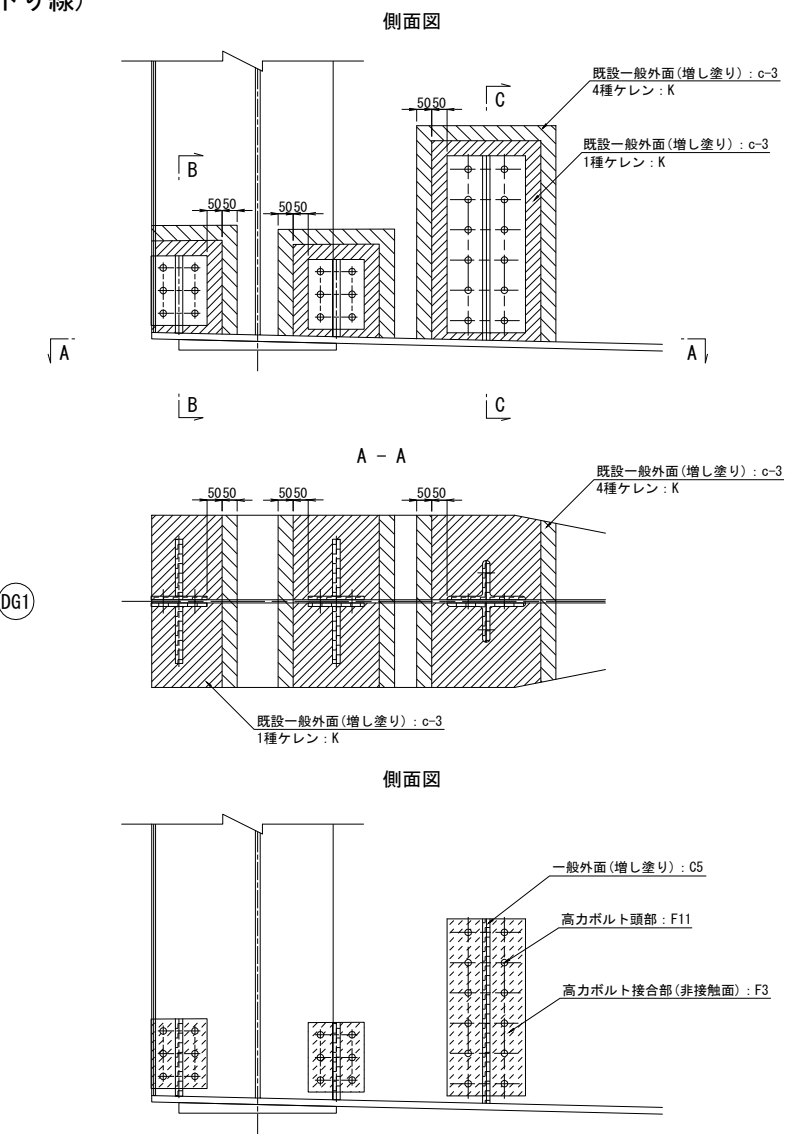
上部工補強工B
A1橋台(下り線)



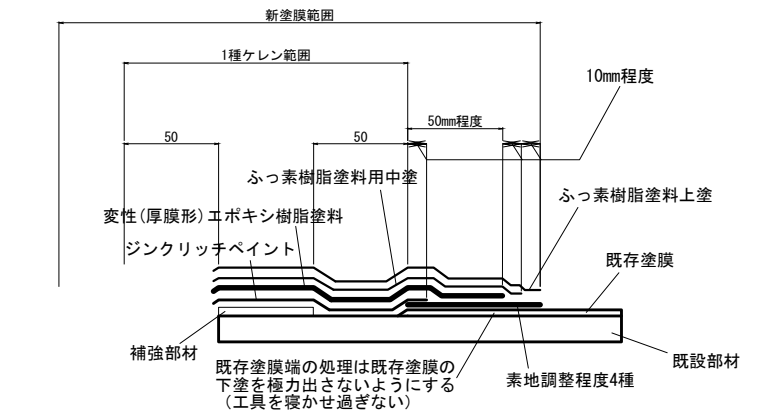
拡幅部 DG1



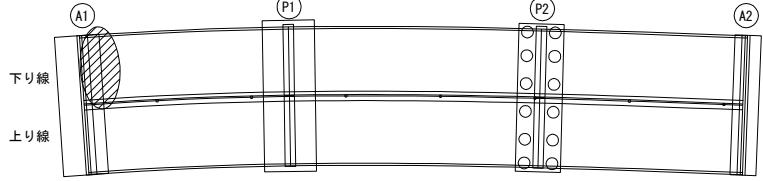
拡幅部 DG1



既設塗膜との境界部の処理 S=1:4



位置図



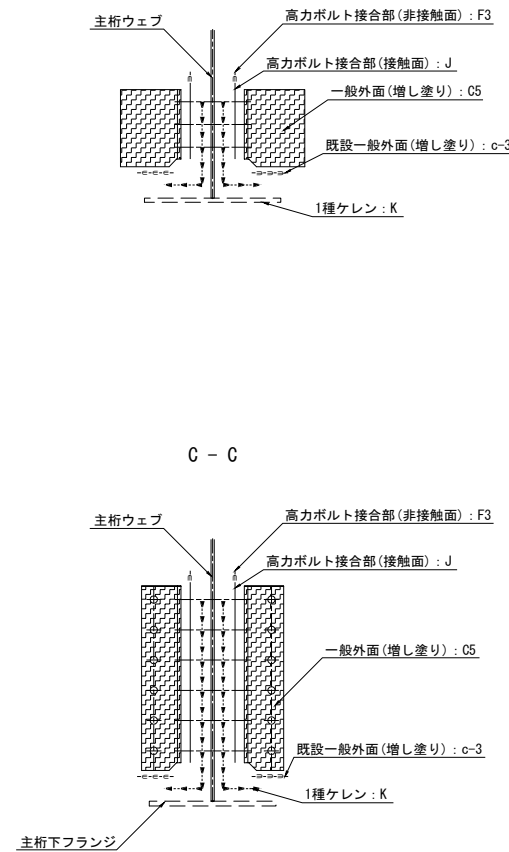
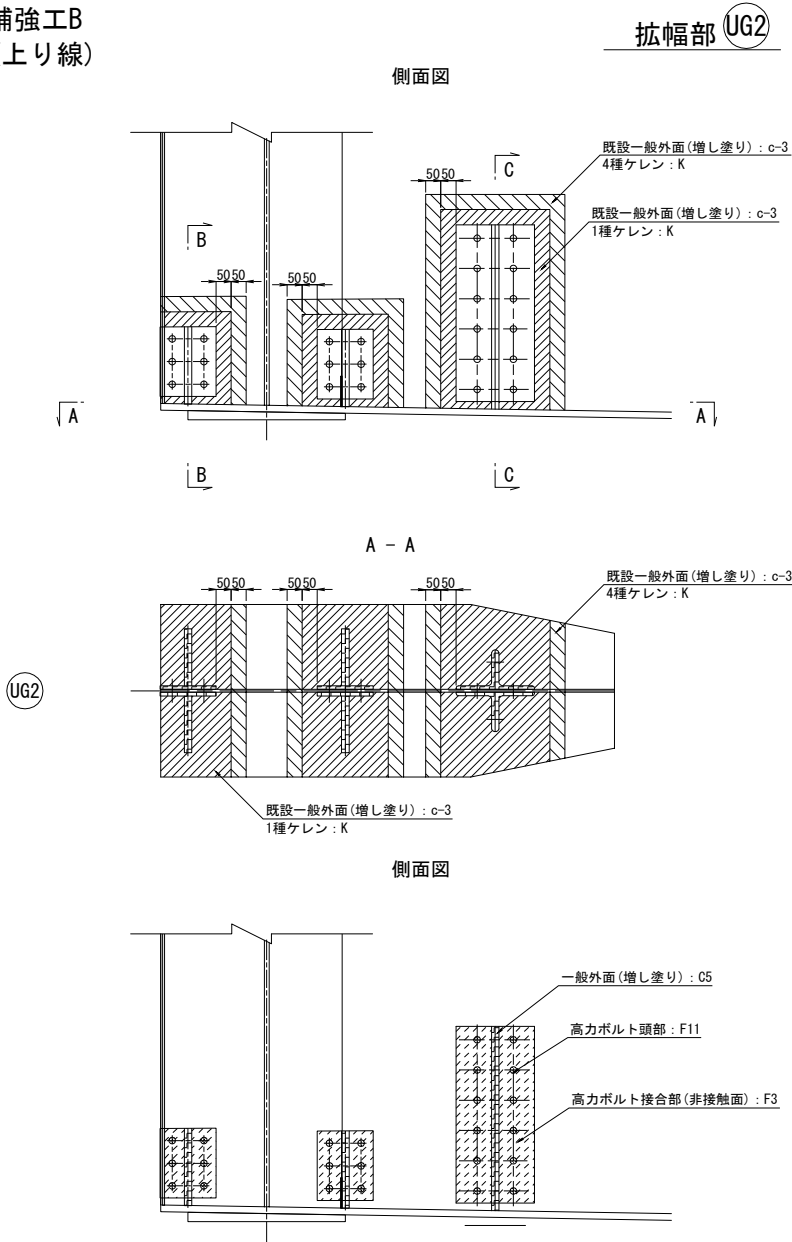
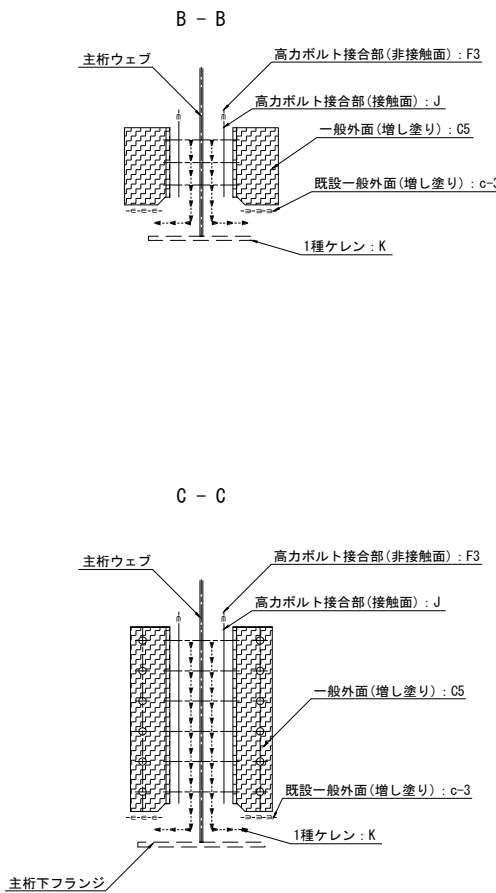
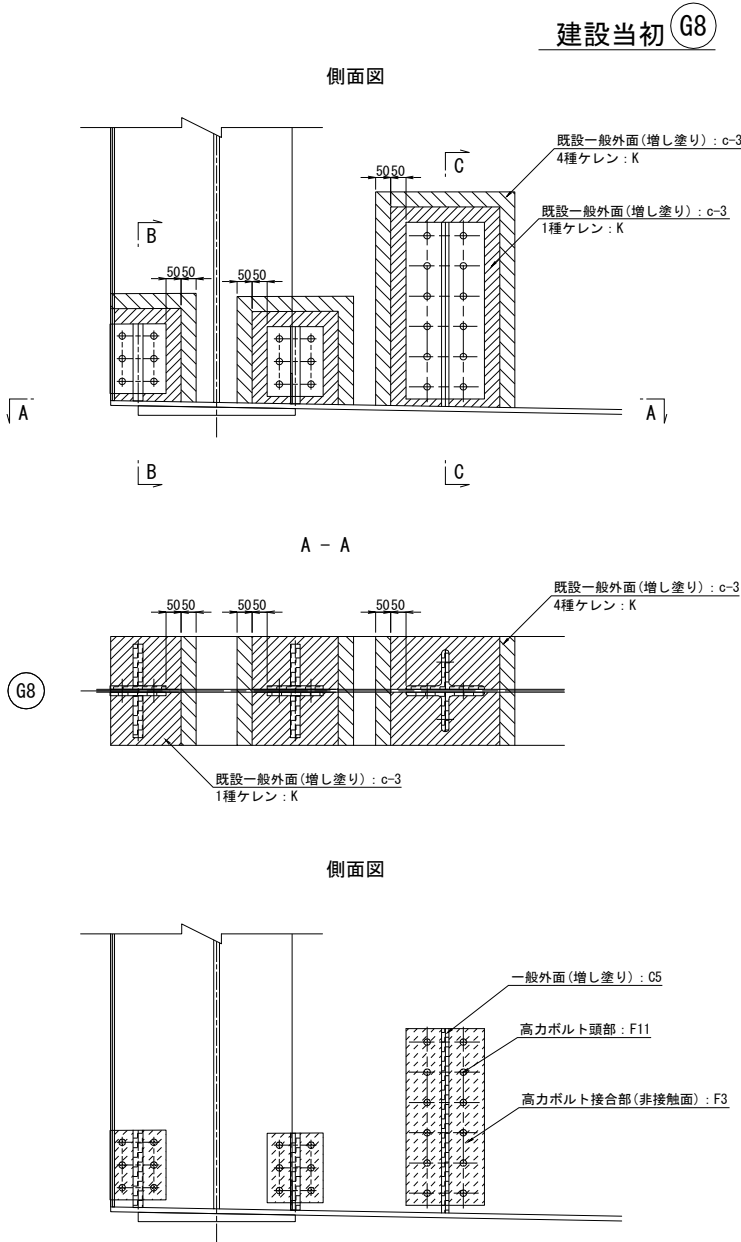
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	
高力ボルト頭部	F11	
高力ボルト接合部(接触面)	J	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	
既設特殊部	g-3	
1種ケレン	K	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	66 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

上部工補強工B
A1橋台(上り線)

拡幅部 UG2

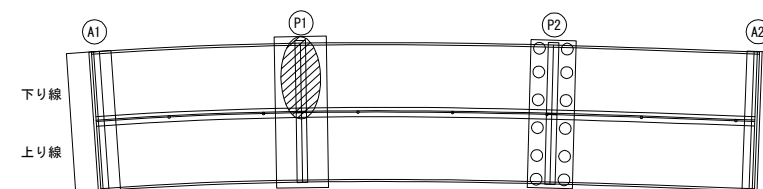


凡例

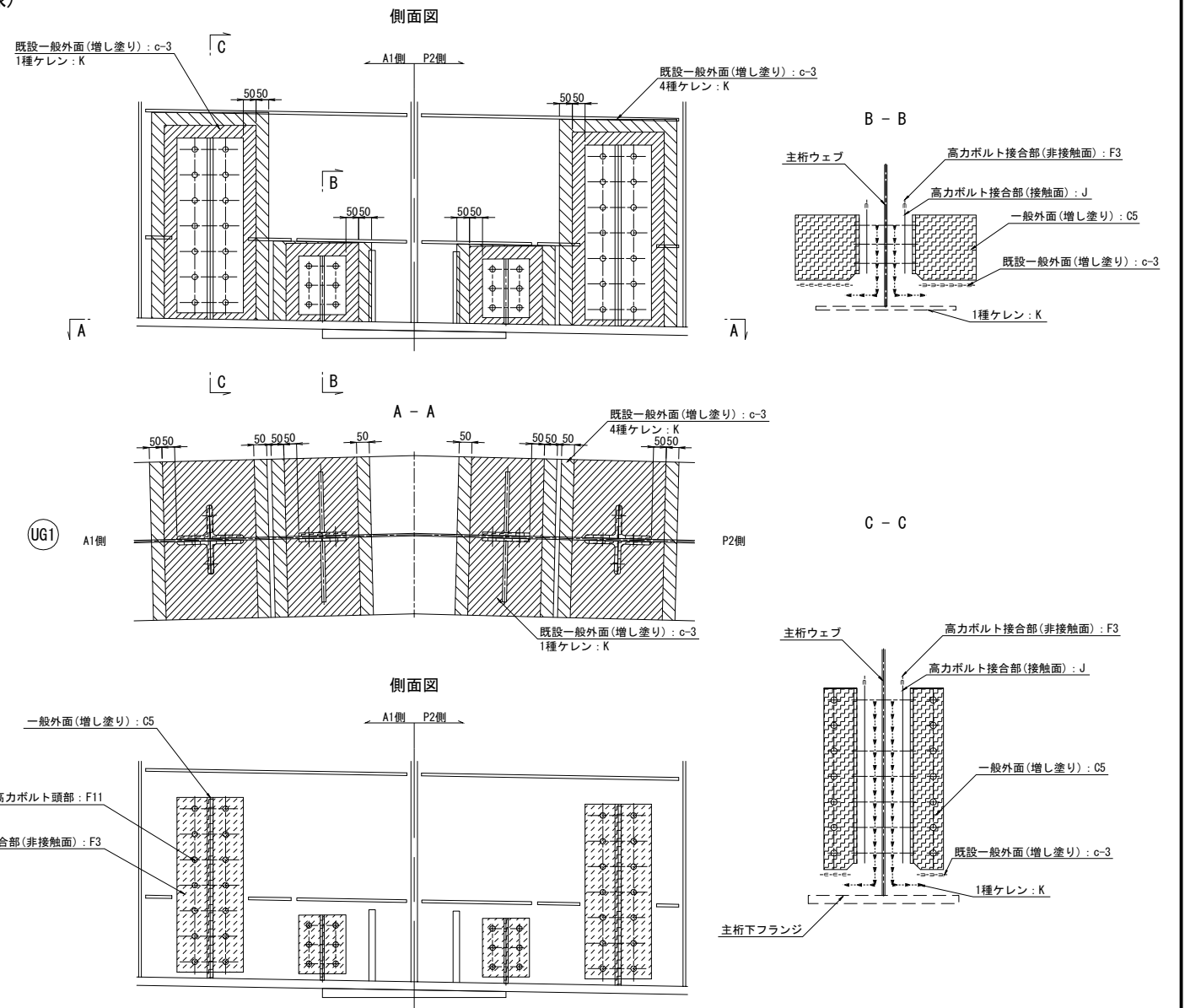
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	67 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

拡幅部 DG2

位置図

<p>横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
<p>図面の種類</p>		<p>釜利谷第二高架橋 支承代替工差分け区分図(その3)</p>	
縮 尺	図 示	図面番号	68 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



Technical drawing of a bridge girder cross-section. The drawing shows a central vertical axis with dimensions: 1100 mm on each side of the centerline, totaling 2200 mm. The top flange has a width of 2200 mm. The web thickness is 300 mm. The bottom flange has a width of 360 mm. The drawing also shows the internal structure of the bridge, including the main girders and the supporting piers. Labels indicate '上部工補強工B' (Upper structure reinforcement work B) and 'ジャッキアップ (200t)' (Jacking up (200t)).

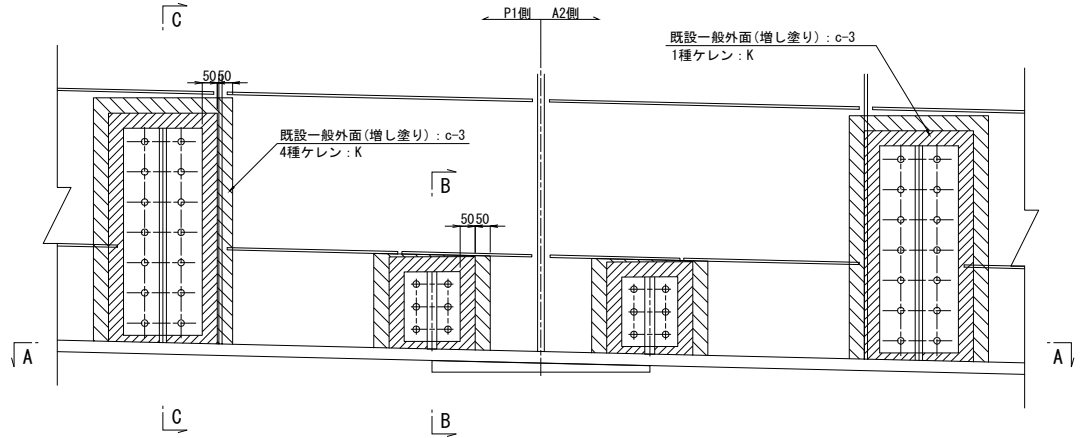
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承替工区分け区分図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	69 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

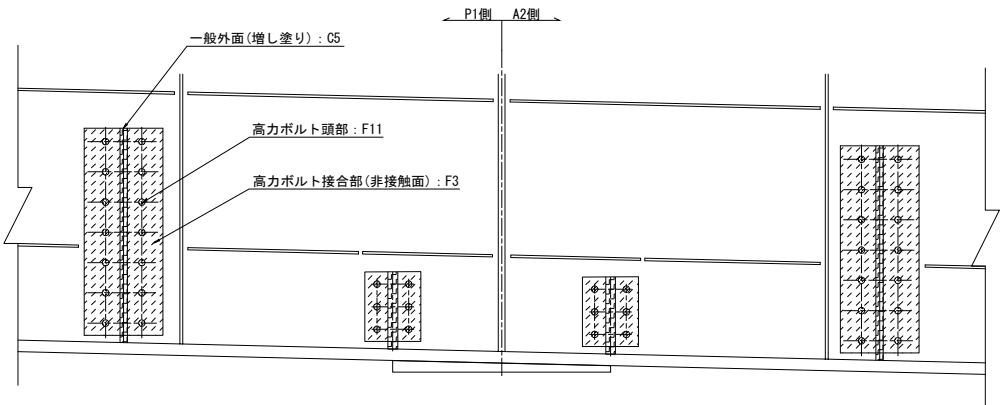
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

建設当初 G1

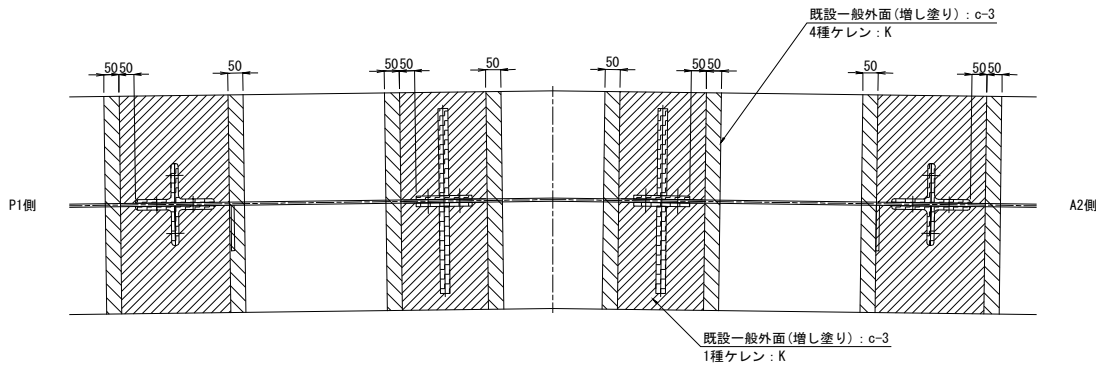
側面図



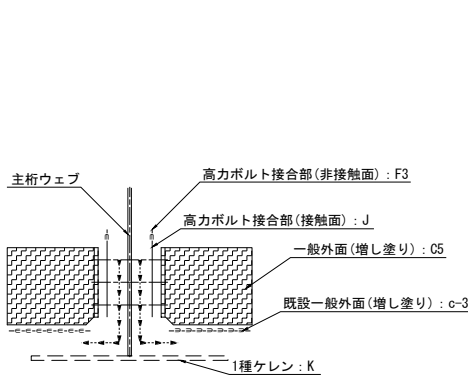
側面図



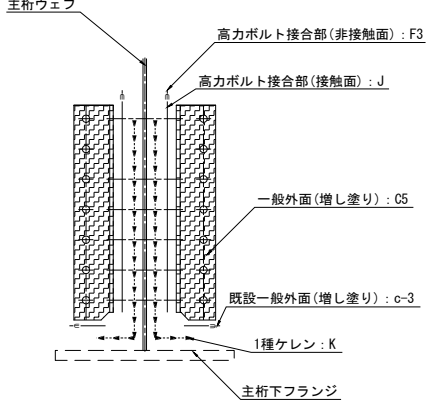
A - A



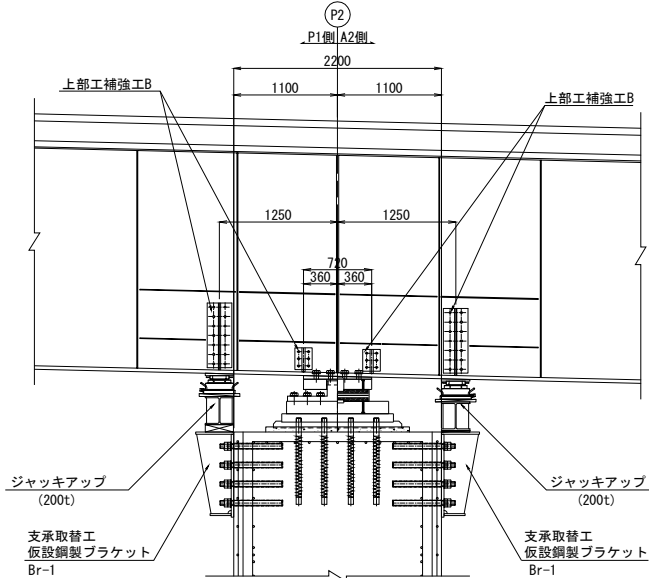
B - B



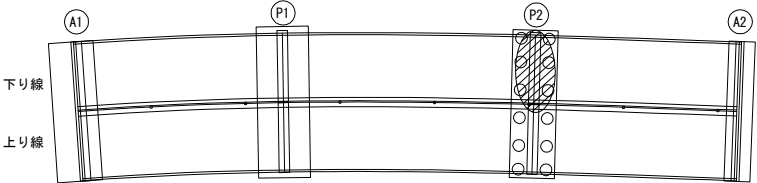
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

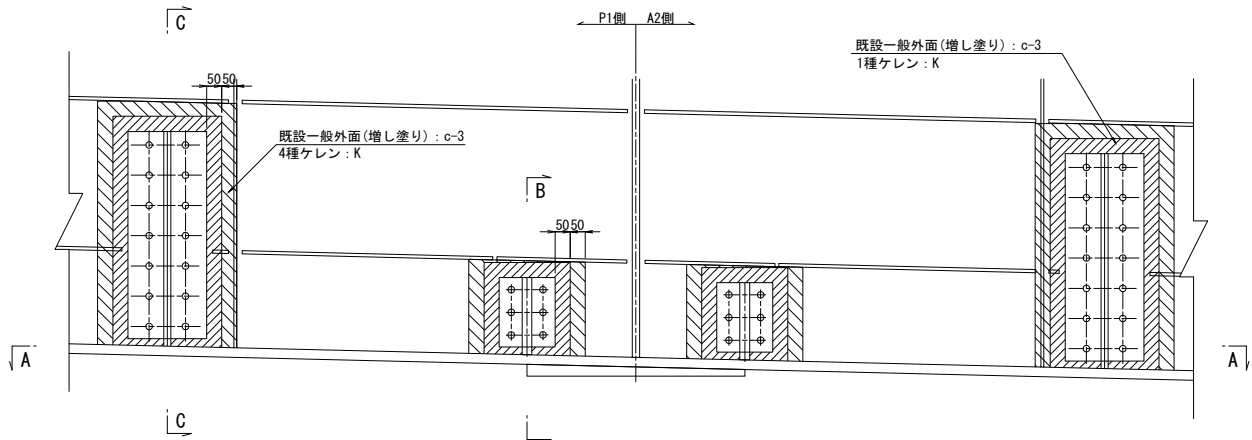
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	70 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

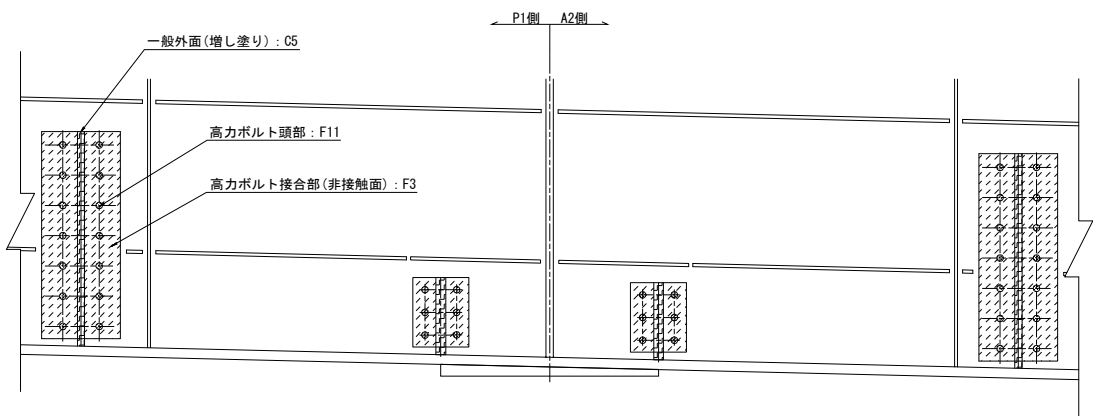
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

拡幅部 DG2

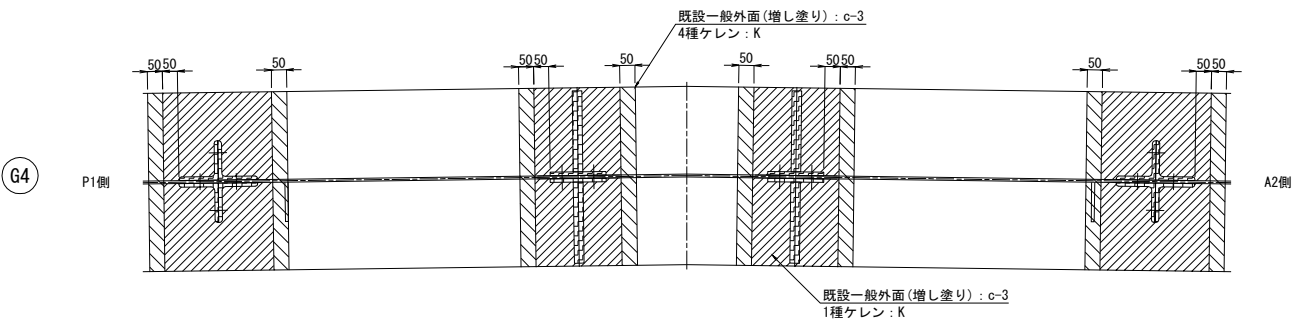
側面図



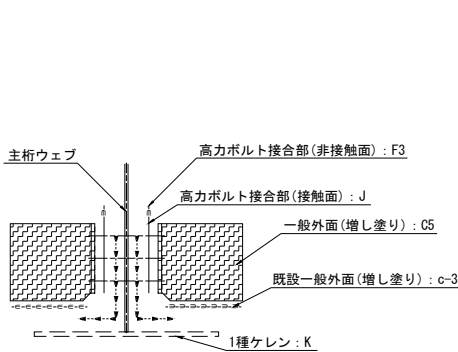
側面図



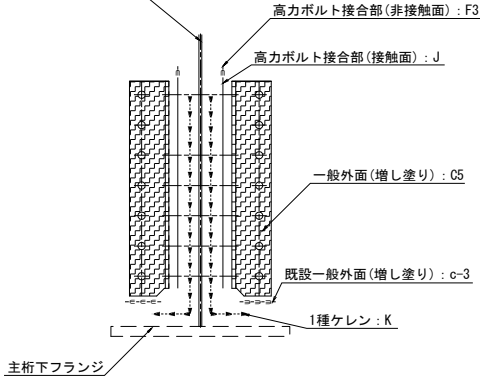
A - A



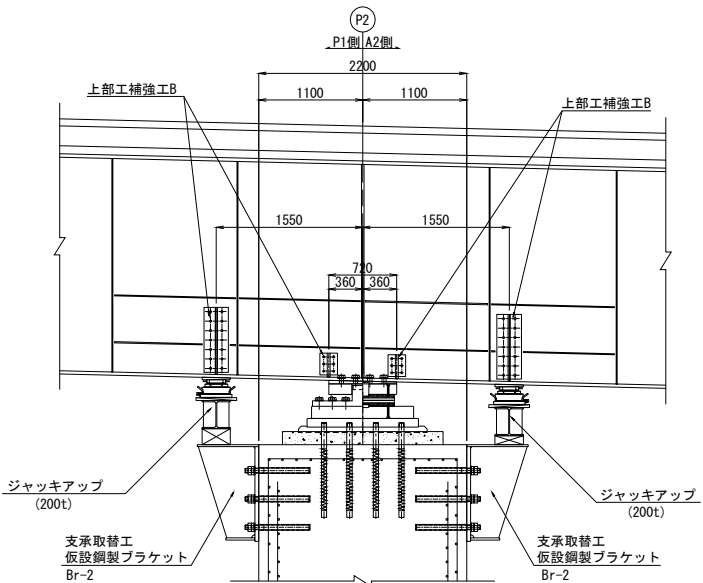
B - B



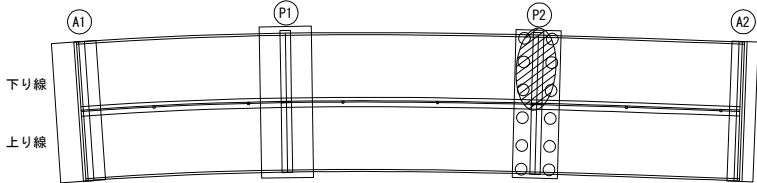
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

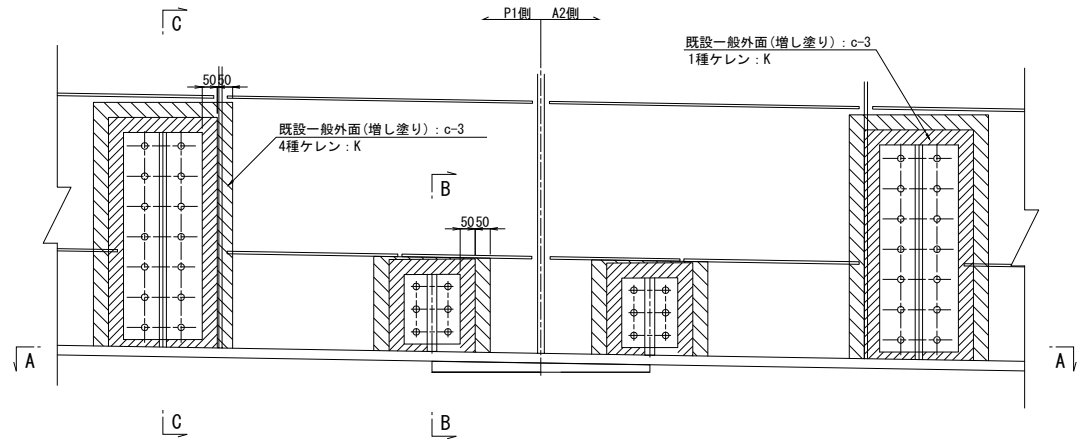
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	71 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

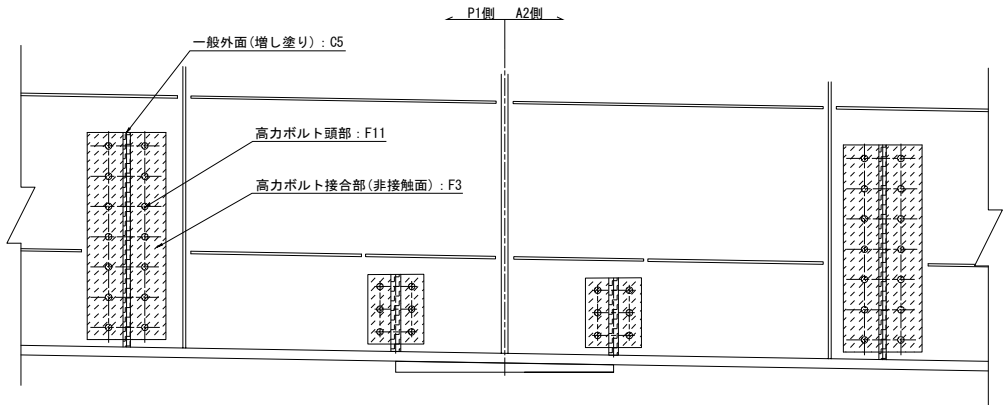
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

建設当初 **G8**

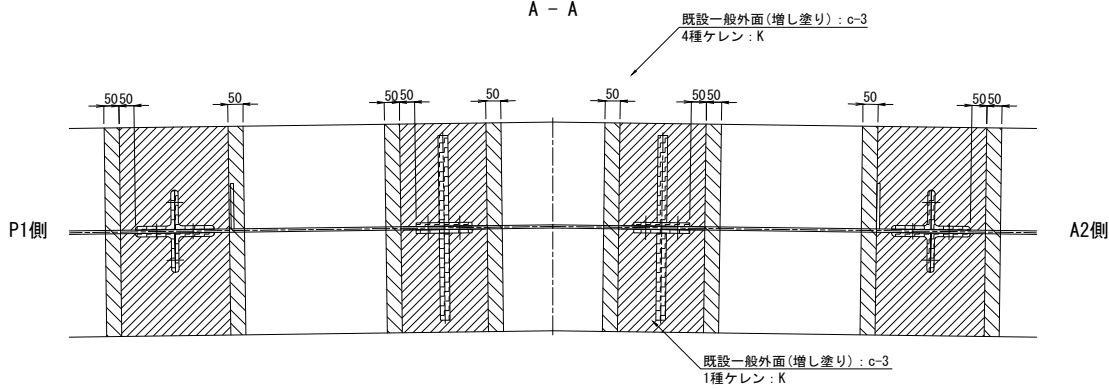
側面図



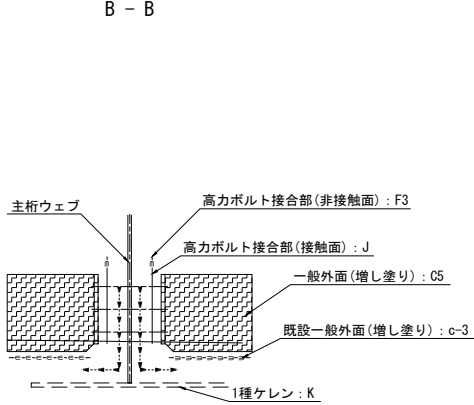
側面図



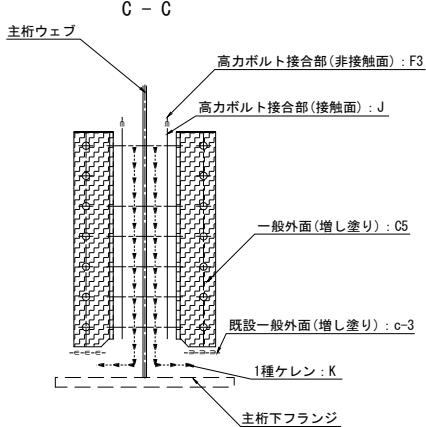
A - A



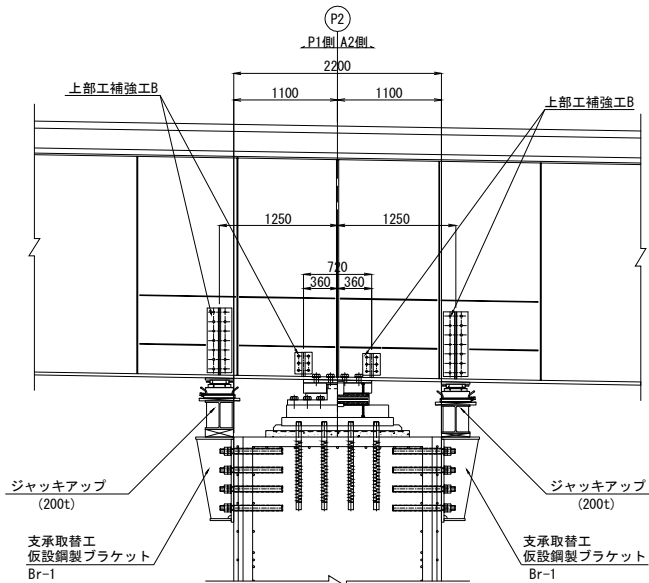
B - B



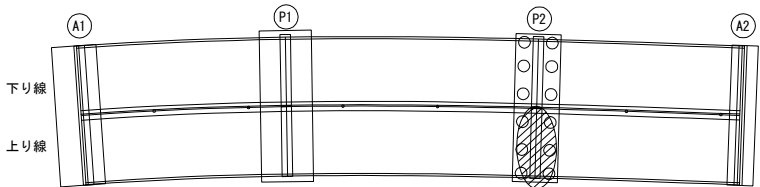
C - C



配置図 S=1:80



位置図



凡例

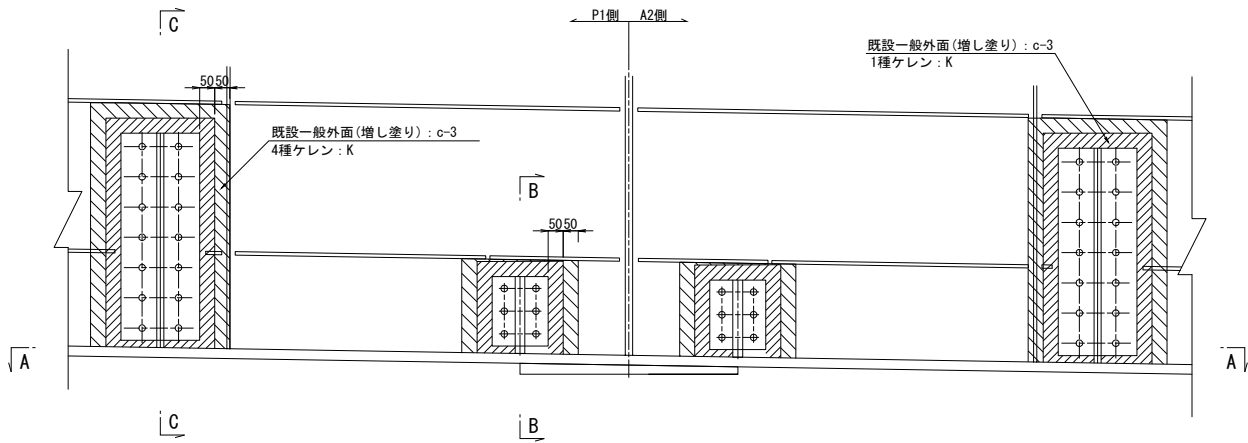
一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その7)		
縮 尺	図 示	図面番号	72 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

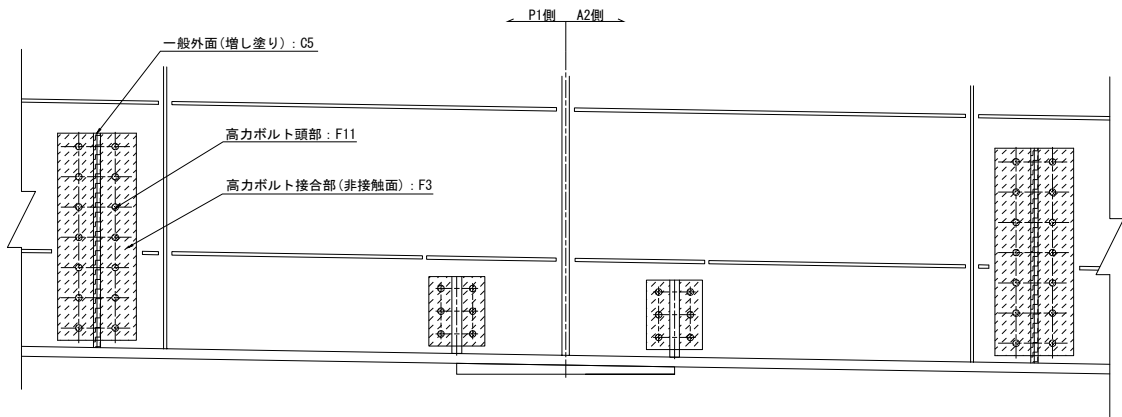
上部工補強工B
P2橋脚(下り線)

拡幅部 UG2

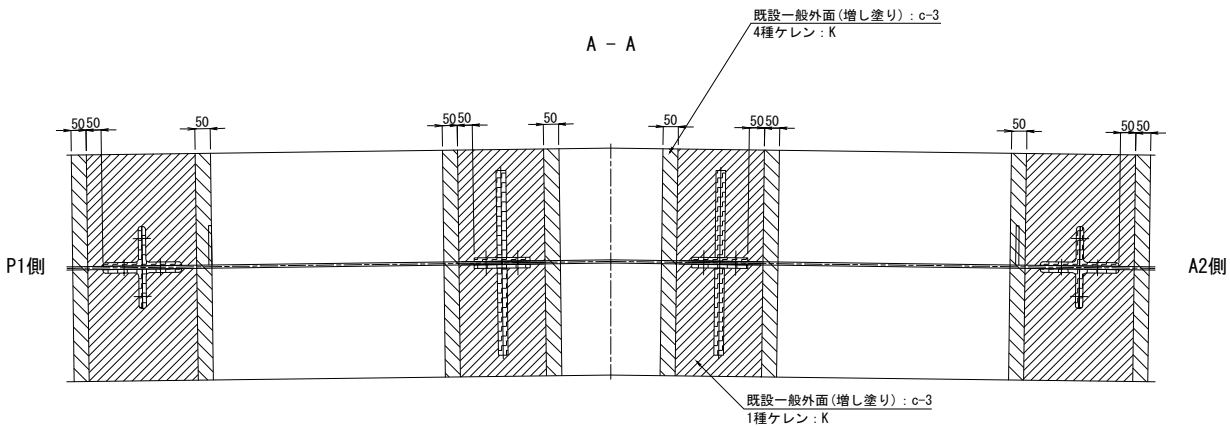
側面図



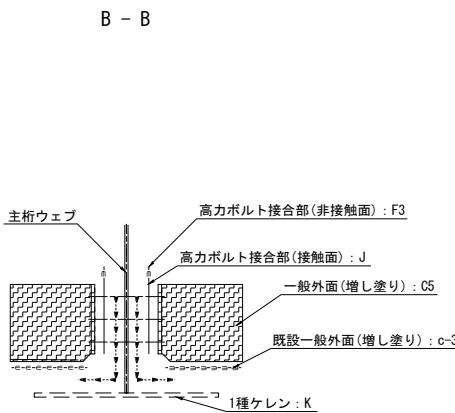
側面図



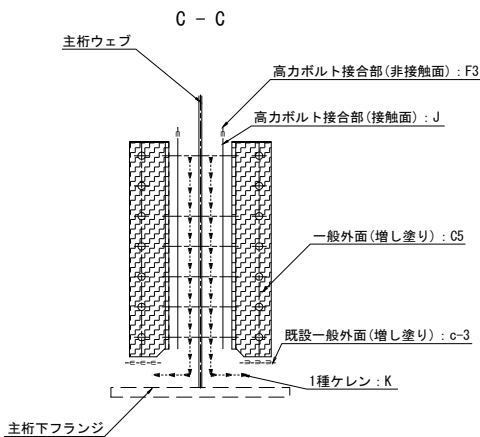
A - A



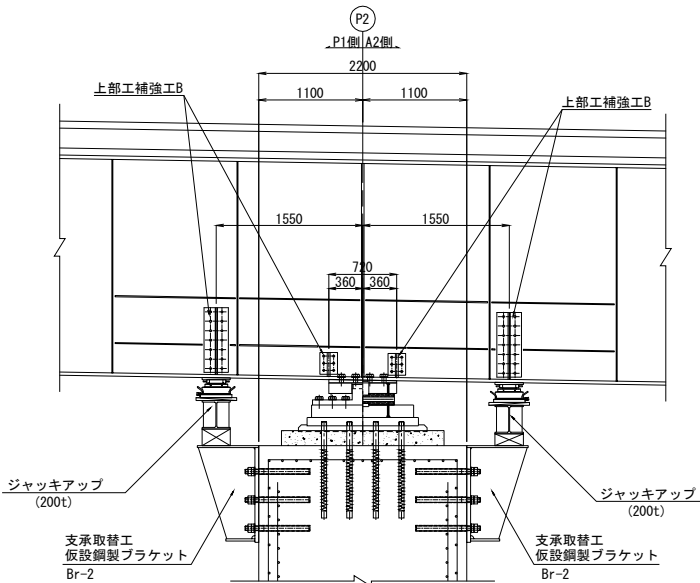
B - B



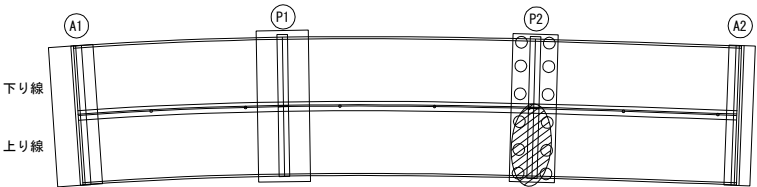
C - C



配置図 S=1:80



位置図



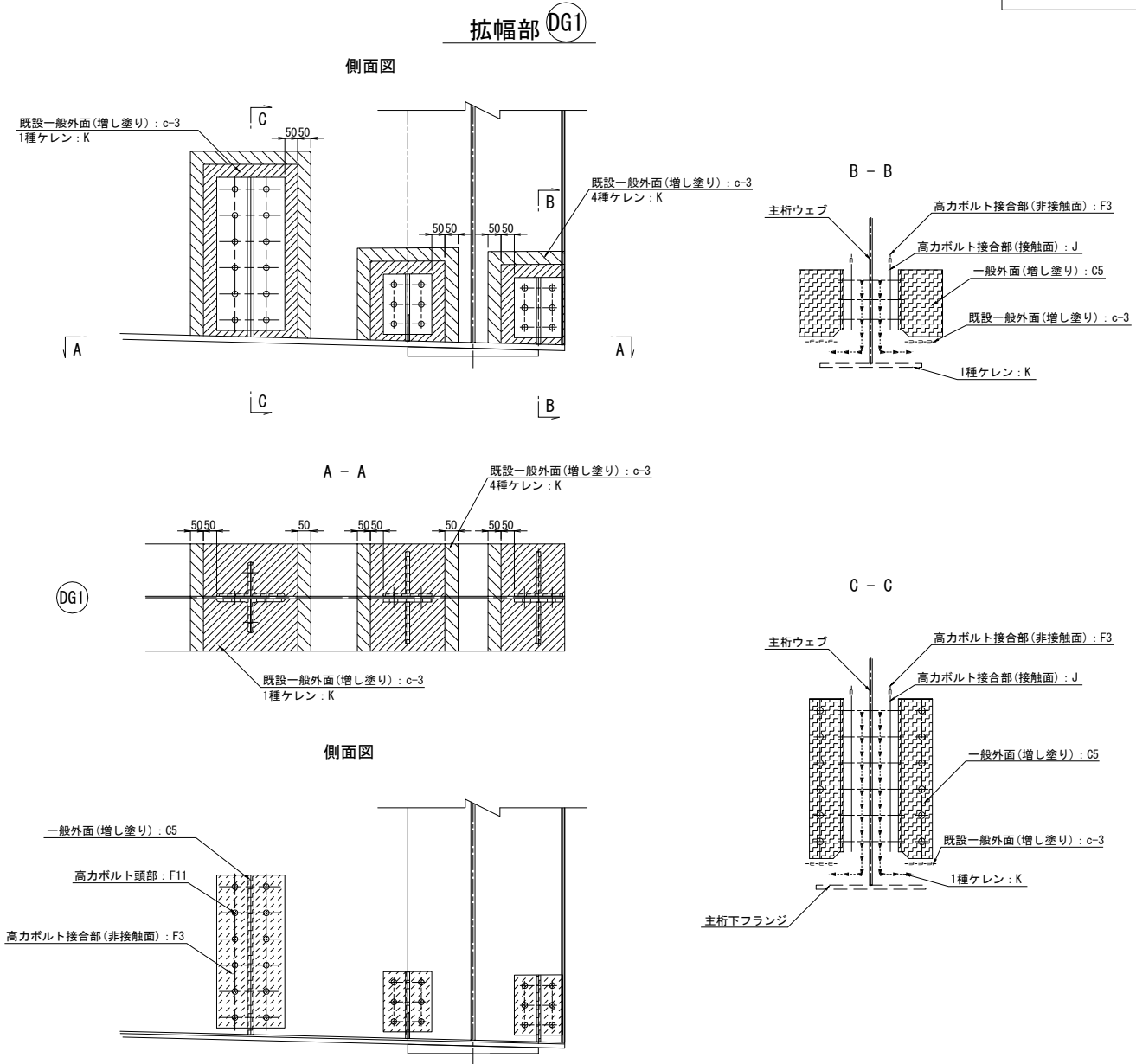
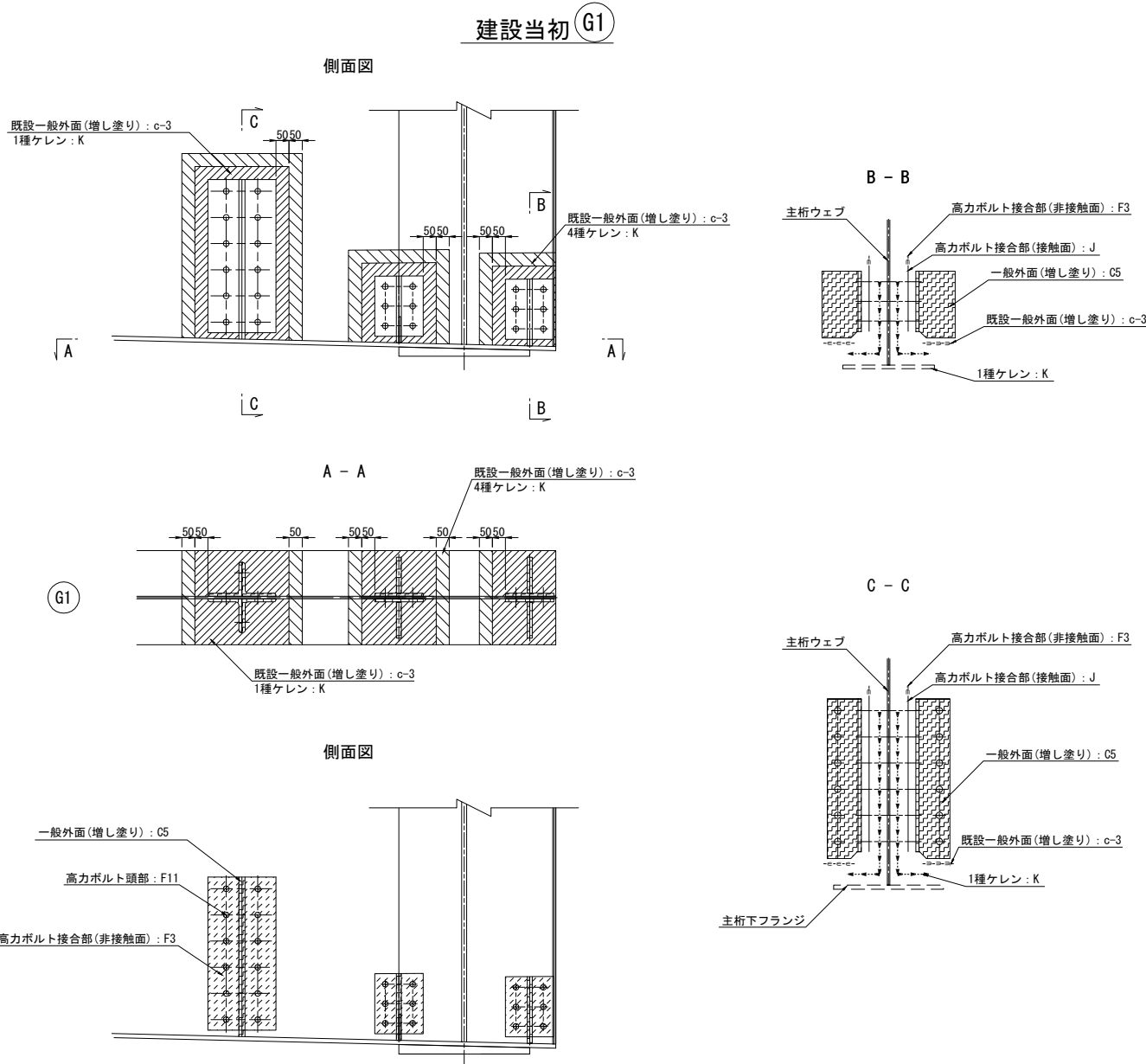
凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

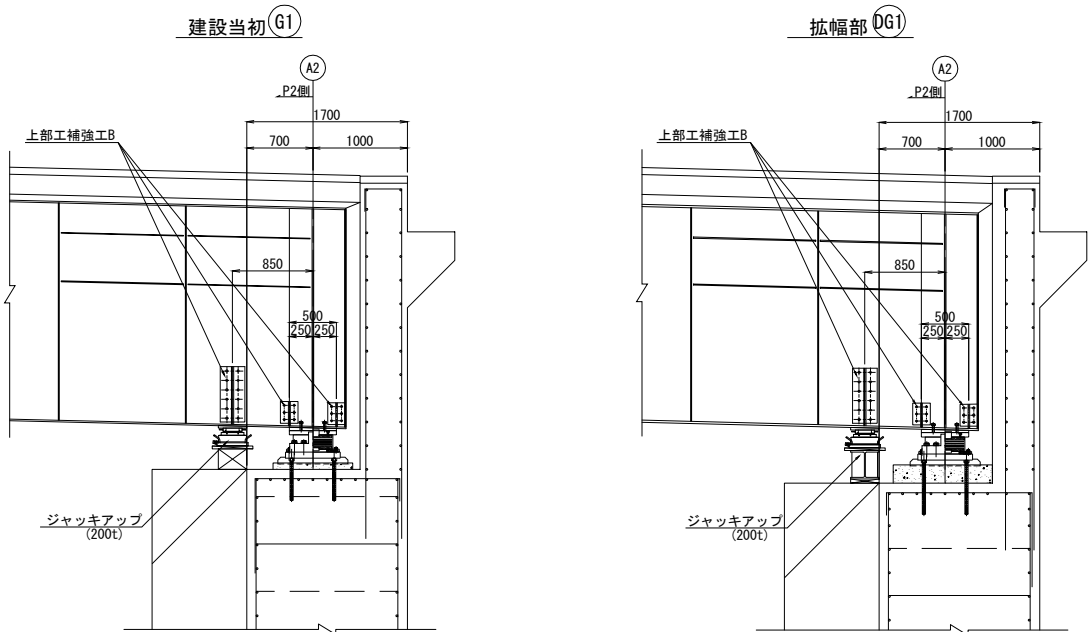
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その8)		
縮 尺	図 示	図面番号	73 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

上部工補強工B
A2橋台(下り線)

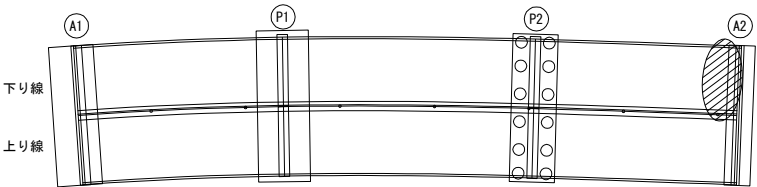
拡幅部 DG1



配置図 S=1:80



位置図

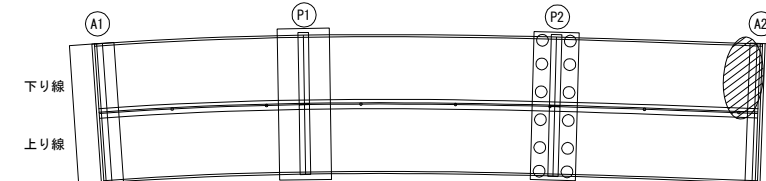
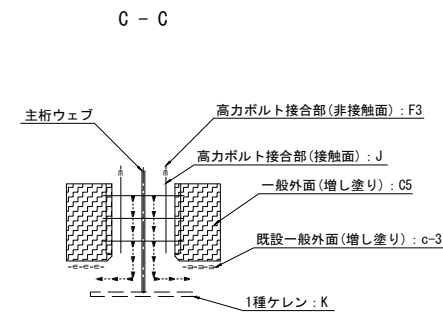


凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その9)		
縮 尺	図 示	図面番号	74 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

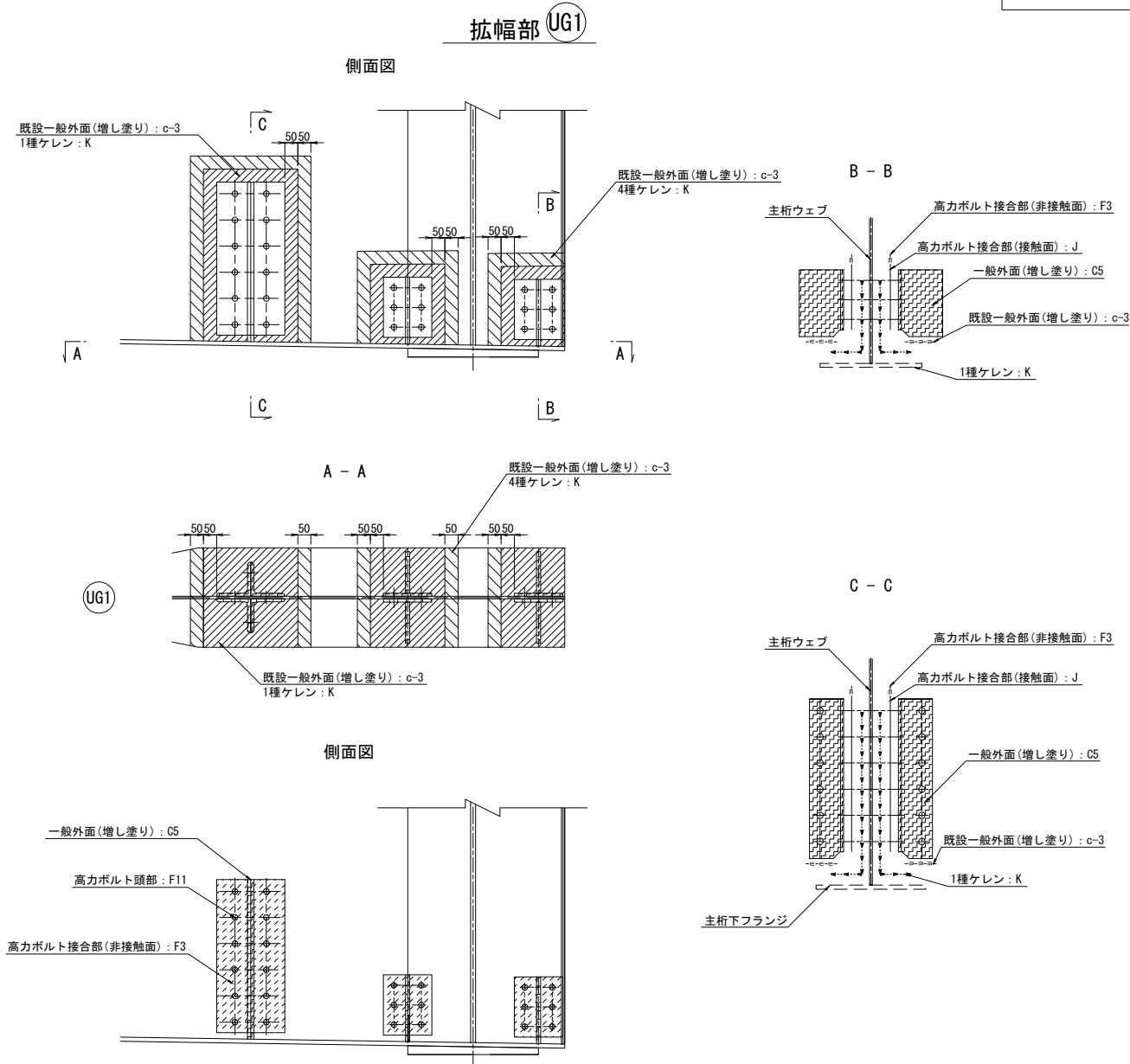
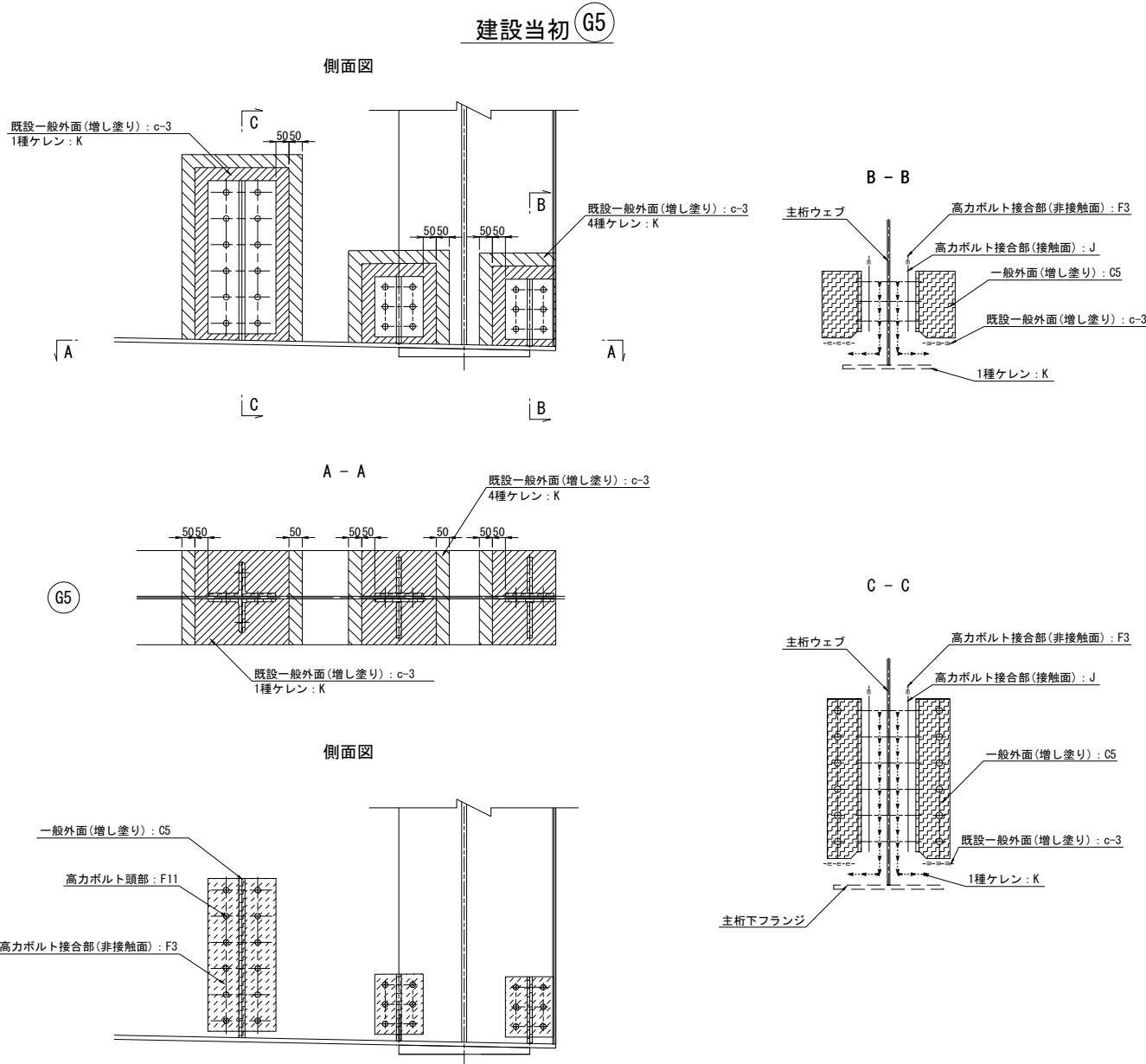
建設当初 (G4)



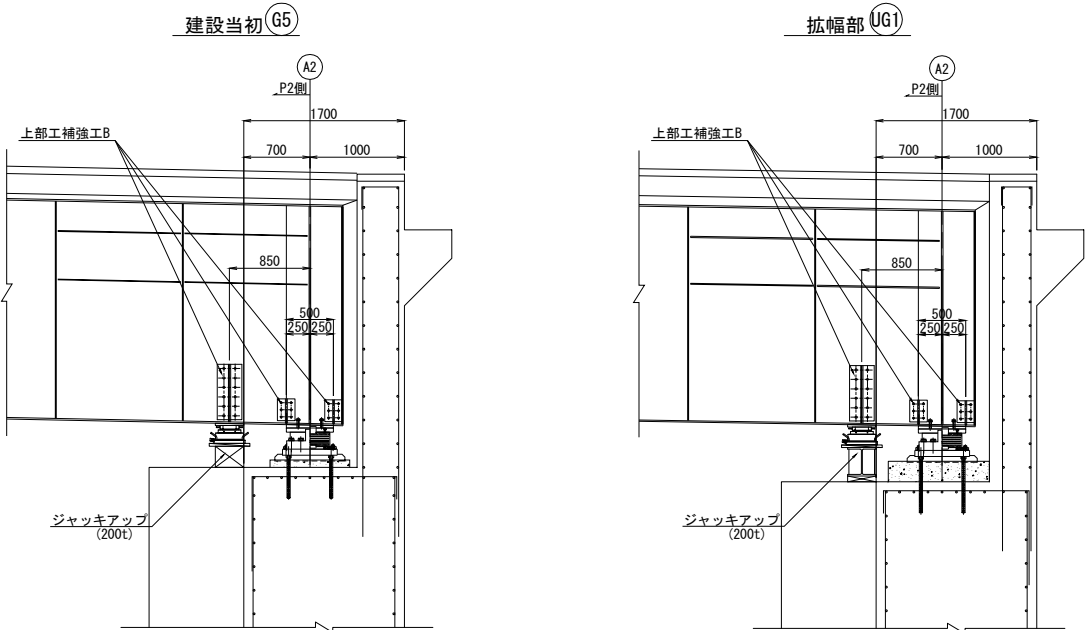
横浜須賀真道路 金沢谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	金沢谷第二高架橋 支承替工差分け区分図(図その10)			
縮 尺	図 示	図面番号	75 / 112	
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所			

上部工補強工B
A2橋台(上り線)

拡幅部 UG1



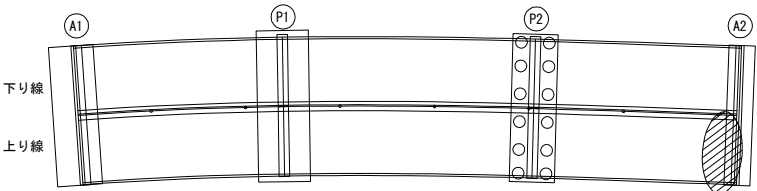
配置図 S=1:80



凡例

一般外面(増し塗り)	C5	:	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	:	
高力ボルト頭部	F11	:	
高力ボルト接合部(接触面)	J	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	:	
既設特殊部	g-3	:	
1種ケレン	K	:	

位置図



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承取替工塗分け区分図(その11)		
縮 尺	図 示	図面番号	76 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

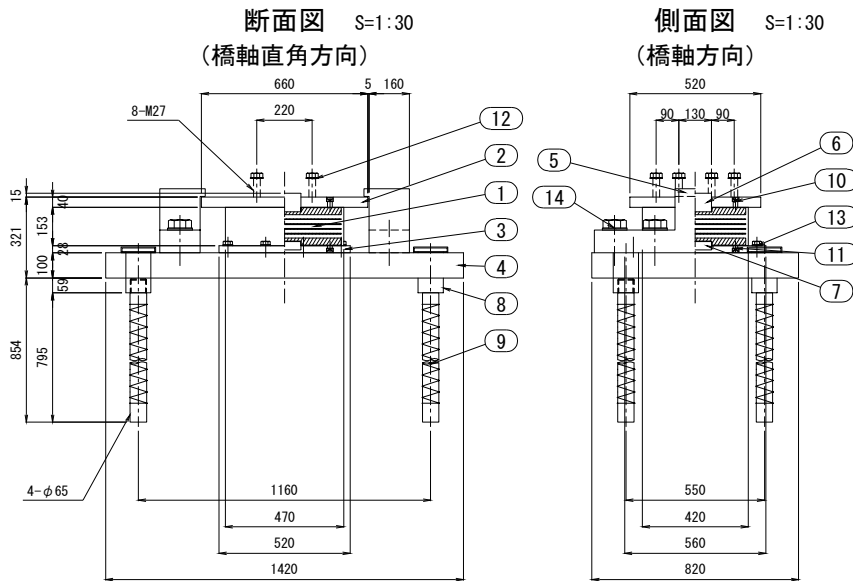
釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その1）

77 / 112

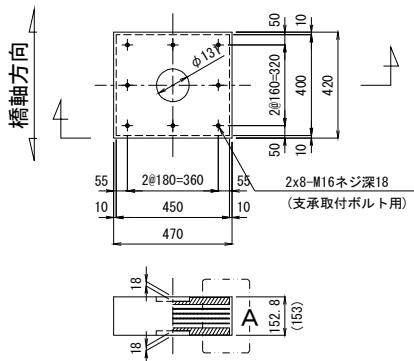
① 地震時水平力分散型ゴム支承

支承取替工 E-1100 (1582)

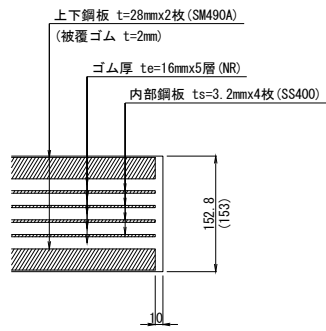
支承取替工 E-1090 (1582)



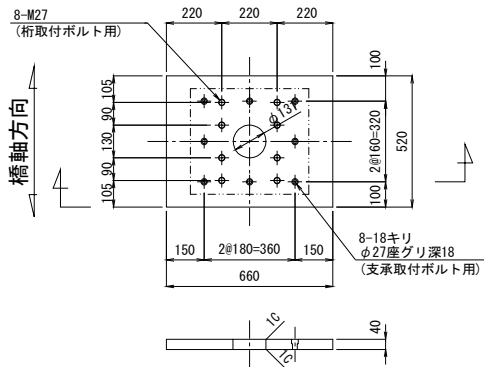
① ゴム支承 S=1:30



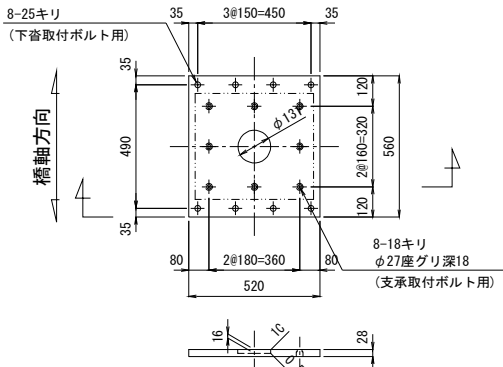
A部詳細図 S=1:10



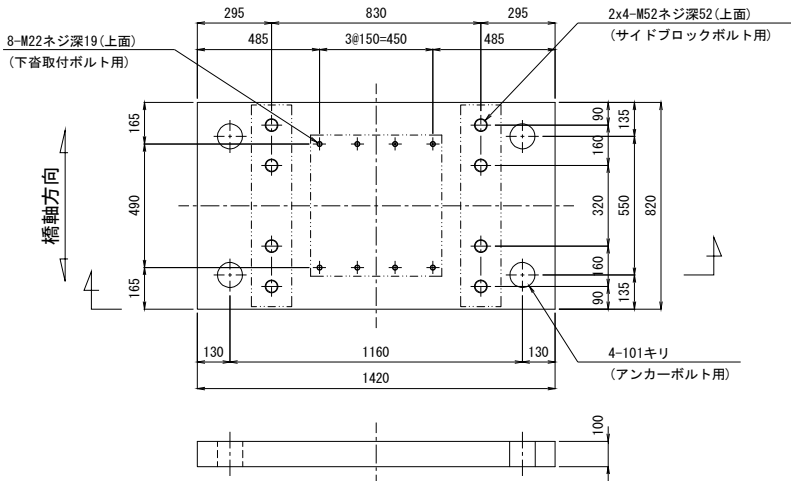
② 上沓 S=1:30



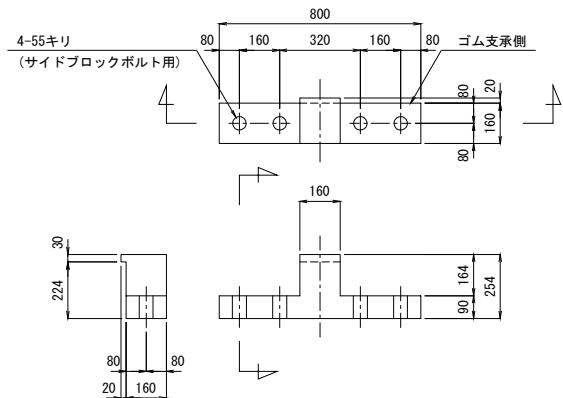
③ 下沓 S=1:30



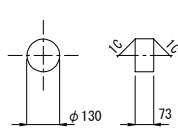
④ ベースプレート S=1:30



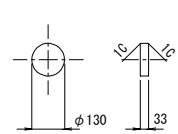
⑤ サイドブロック S=1:30



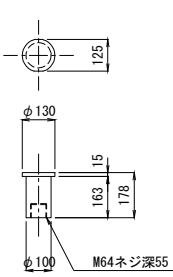
⑥ ボス(上) S=1:30



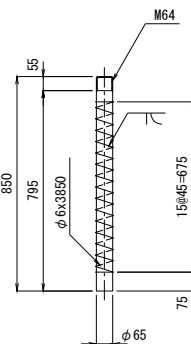
⑦ ボス(下) S=1:30



⑧ カップラー S=1:30



⑨ アンカーボルト S=1:30



- ⑩ 支承取付ボルト M16 x 40 強度区分 12.9
- ⑪ 支承取付ボルト M16 x 30 強度区分 12.9
- ⑫ 桁取付ボルト M27 x L 強度区分 8.8
- ⑬ 下沓取付ボルト M22 x 50 強度区分 8.8
- ⑭ サイドブロックボルト M52 x 150 強度区分 8.8

設計条件

反力 (kN)		下り線A1	上り線A1
最大反力	Rmax	1100	1090
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	850	880
死荷重反力	RD	570	540
照査荷重	R1L	265	275
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	275
	橋軸直角方向	RHeq2	1025
	サイドブロック	RHeq3	1025
上向きの地震力		Ru	-607
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δcL	0.423	0.439
回転変位量	δr	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	ΔL1	52
	地震時・橋軸方向	ΔLe1	99
	地震時・橋軸直角方向	ΔLe2	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G12	NR-G12
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	2.700	2.700
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	175
	変位量 (mm)	UB	140
1次形状係数	S1	6.62	6.62
2次形状係数	S2	5.00	5.00
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	626	626

材料表 (1組当たり)

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	120.0	
②	上沓	SM490A	1	101.8	
③	下沓	SM490A	1	60.6	
④	ベースプレート	SM490A	1	881.5	
⑤	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	234.9	
⑥	ボス(上)	SM490A	1	7.6	
⑦	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
⑧	カップラー	S45CN	4	38.7	
9	アンカーボルト	S35CN, SR235	4	91.8	
⑩	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.7	六角穴付きボルト
⑪	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.6	六角穴付きボルト
⑫	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	5.2	平座金付き
⑬	下沓取付ボルト	強度区分 8.8	8	2.0	平座金付き
⑭	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	8	32.2	平座金付き
15	ゴムキャップ(カップラー用)	EPDM	4	0.5	
合計				1581.5 (kg)	

- ※1 道路橋支承便覧準拠。
- ※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
- ※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
- ※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
- ※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
- ※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
- ※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
- ※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
- ※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
- ※10 アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

位置図

下り線	D61			
	D62			
	G1			
	G2			
	G3			
	G4			
上り線	G5			
	G6			
	G7			
	G8			
	U61			
	U62			
	①A1	①P1	①P2	①A2
	E	F	F	E

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その1)		
縮尺	図示	図面番号	77 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その2）

78 / 112

(P1) 固定ゴム支承
支承取替工 E-3070 (1598)
支承取替工 E-2830 (1598)

設計条件

反 力 (kN)		下り線P1	上り線P1
最大反力	Rmax	3070	2830
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	1940	1830
死荷重反力	RD	1940	1990
照査荷重	R1L	-	-
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	1242
	橋軸直角方向	RHeq2	1183
	サイドブロック	RHeq3	1183
上向きの地震力	Ru	-582	-597
変 位 量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	-	-
回転変位量	δ_r	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	-
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性 能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G8	NR-G8
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	-	-
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γ_S	-
	変位量 (mm)	UB	-
1次形状係数	S1	7.07	7.07
2次形状係数	S2	14.13	14.13
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	1818	1818

材料表 (1組当り)

部番	部 品 名 称	材 質	個数	重量(kg)	備 考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	228.3	NR(天然ゴム)
2	上沓	SM490A	1	185.5	
3	下沓	SM490A	1	496.3	
4	ベースプレート	SM490A	1	449.6	
5	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	140.8	
6	ボス(上)	SM490A	1	7.6	
7	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
8	アンカーボルト	S35GN, SR235	4	60.3	
9	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	1.1	六角穴付きボルト
10	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	1.8	六角穴付きボルト
11	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	8.4	平座金付き
13	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	24	14.6	平座金付き
合計				1597.7	(kg)

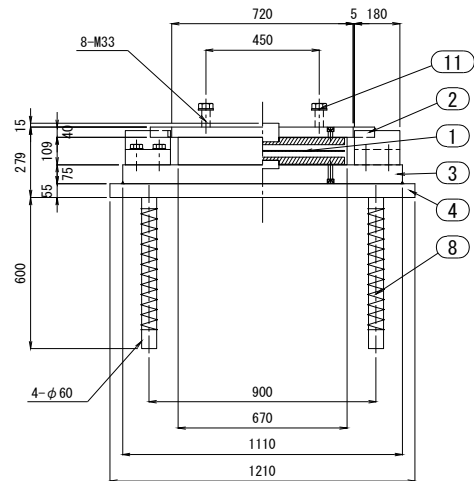
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 現場溶接部は溶接後に常温亜鉛めっき77 μ m以上塗布のこと。
※11 アンカーボルトは無塗装とし、鉄防錆剤を塗布のこと。

位置図

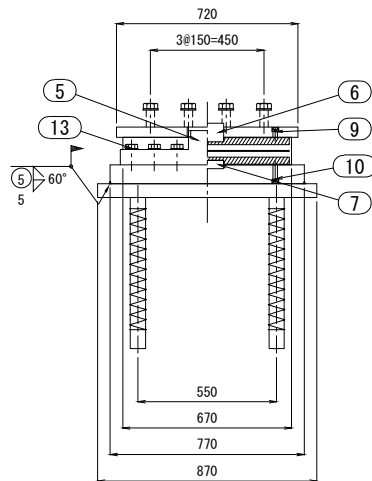
D61			
D62			
G1			
G2			
G3			
G4			
G5			
G6			
G7			
G8			
UG1			
UG2			
A1 E	P1 F	P2 F	A2 E

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	78 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

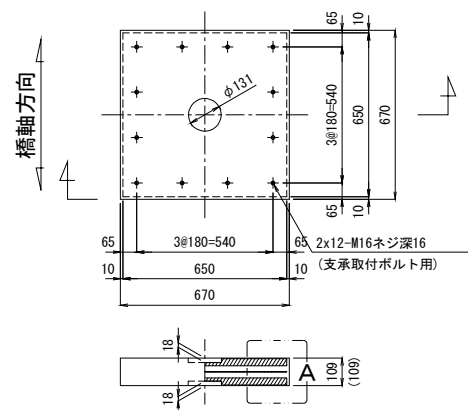
断面図 S=1:30
(橋軸直角方向)



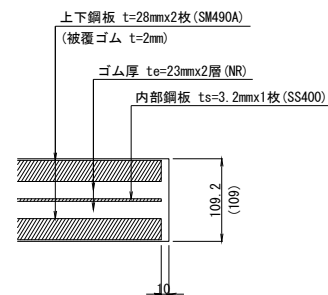
側面図 S=1:30
(橋軸方向)



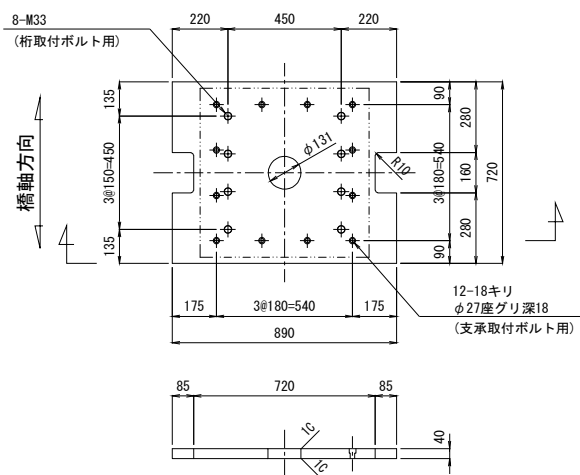
① ゴム支承 S=1:30



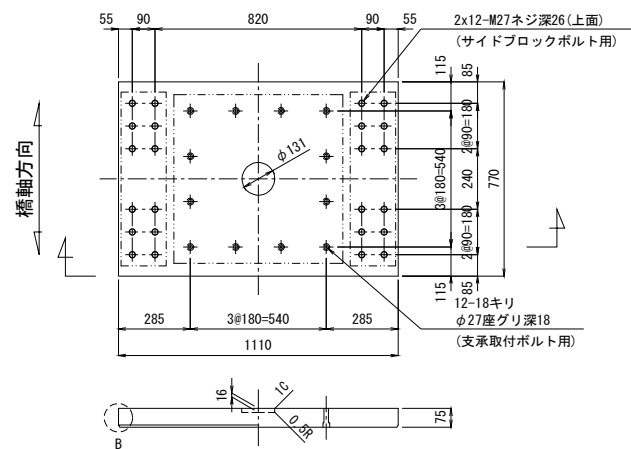
A部詳細図 S=1:10



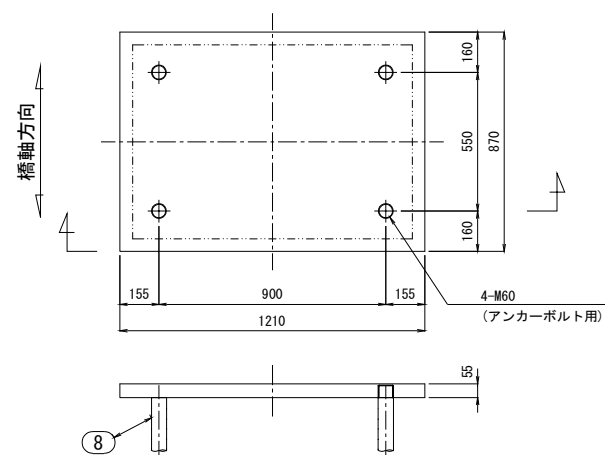
② 上沓 S=1:30



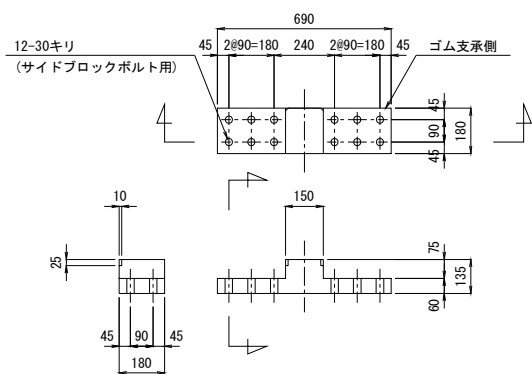
③ 下沓 S=1:30



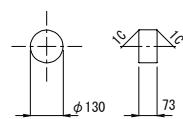
④ ベースプレート S=1:30



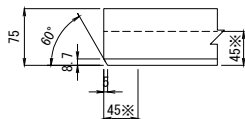
⑤ サイドブロック S=1:30



⑥ ボス(上) S=1:30

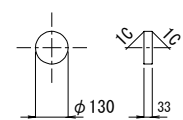


B部詳細図 S=1:5

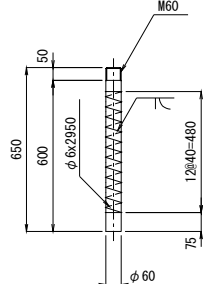


※ 下沓下面及び側面は図の範囲を定めつきとする。
定めつき部には、開先防錆剤塗布のこと。

⑦ ボス(下) S=1:30



⑧ アンカーボルト S=1:30



- ⑨ 支承取付ボルト M16 x 40 強度区分 12.9
⑩ 支承取付ボルト M16 x 75 強度区分 12.9
⑪ 桁取付ボルト M33 x L 強度区分 8.8
⑬ サイドブロックボルト M27 x 90 強度区分 8.8

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その3）

79 / 112

(P2) 固定ゴム支承
 支承取替工 E-2900 (4089)
 支承取替工 E-2780 (4089)

設計条件

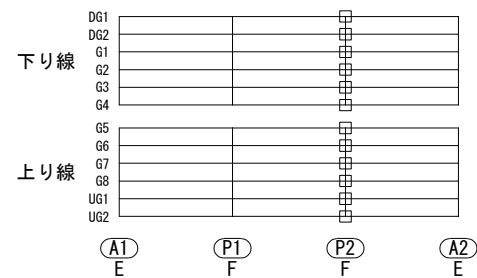
反力 (kN)		下り線P2	上り線P2
最大反力	Rmax	2900	2780
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	1860	1840
死荷重反力	RD	1830	1950
照査荷重	R1L	-	-
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	650
	橋軸直角方向	RHeq2	1917
	サイドブロック	RHeq3	1883
上向きの地震力	Ru	-881	-871
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量	δ_{cL}	-	-
回転変位量	δ_r	-	-
水平変位量	常時・橋軸方向	$\Delta L1$	-
	地震時・橋軸方向	$\Delta Le1$	-
	地震時・橋軸直角方向	$\Delta Le2$	-
性能			
ゴムの種類及び呼び	材料-G	NR-G8	NR-G8
せん断ばね定数 (kN/mm)	KS	-	-
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	-
	変位量 (mm)	UB	-
1次形状係数	S1	7.07	7.07
2次形状係数	S2	14.13	14.13
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値	Kv	1818	1818

材料表 (1組当り)

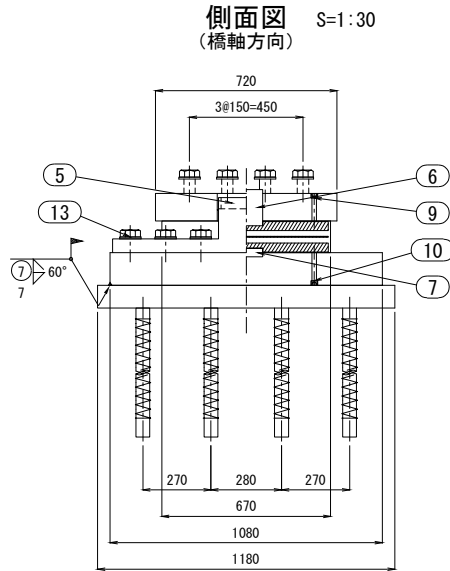
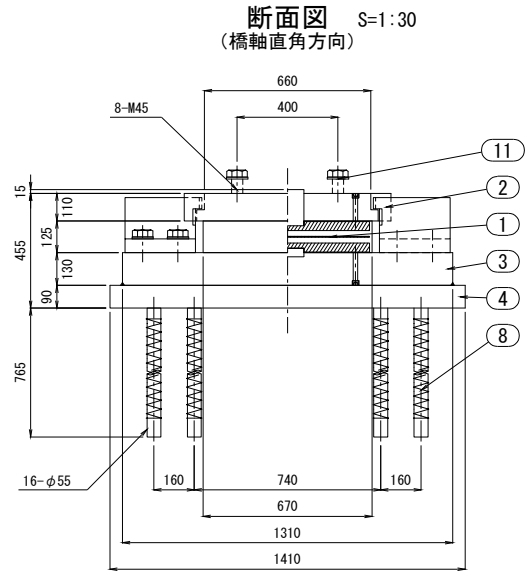
部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	281.6	NR (天然ゴム)
2	上沓	SM490A	1	464.5	
3	下沓	SM490A	1	1427.0	
4	ベースプレート	SM490A	1	1163.5	
5	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	400.0	
6	ボス(上)	SM490A	1	14.9	
7	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
8	アンカーボルト	S35GN, SR235	16	256.6	
9	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	2.6	六角穴付きボルト
10	支承取付ボルト	強度区分 12.9	12	3.0	六角穴付きボルト
11	桁取付ボルト	強度区分 8.8	8	17.9	平座金付き
13	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	24	53.8	平座金付き
合計				4088.8	(kg)

- ※1 道路橋支承便覧準拠。
 ※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
 ※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
 (JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
 ※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
 ※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
 ※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
 ※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
 ※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
 ※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
 ※10 現場溶接部は溶接後に常温亜鉛めっき77 μ m以上塗布のこと。
 ※11 アンカーボルトは無塗装とし、鉄防錆剤を塗布のこと。

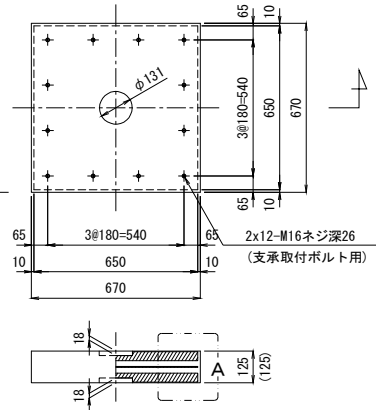
位置図



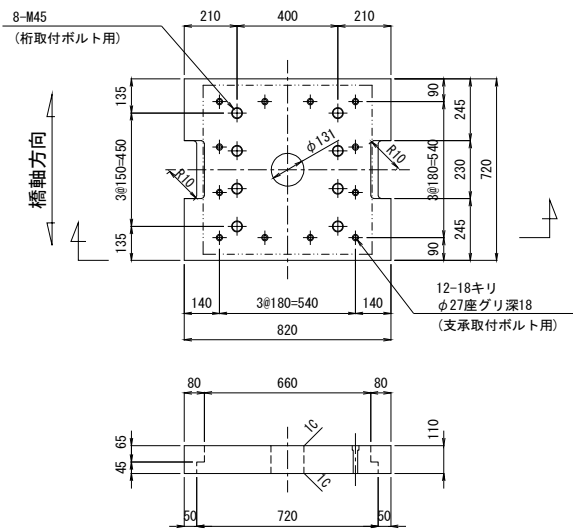
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その3)		
縮尺	図示	図面番号	79 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		



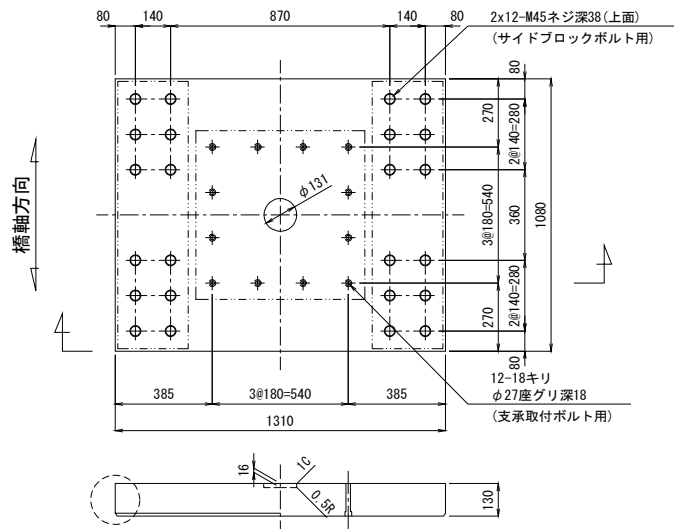
① ゴム支承 S=1:30



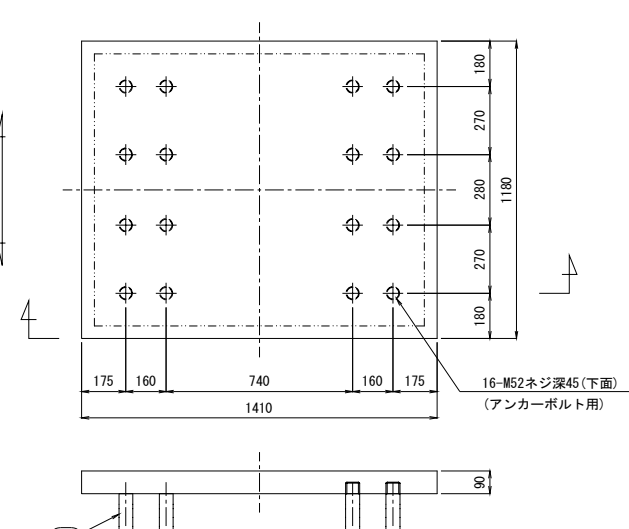
② 上沓 S=1:30



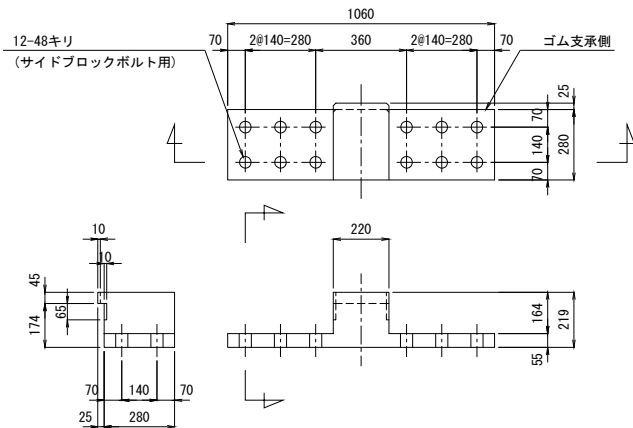
③ 下沓 S=1:30



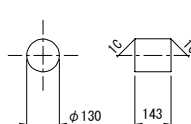
④ ベースプレート S=1:30



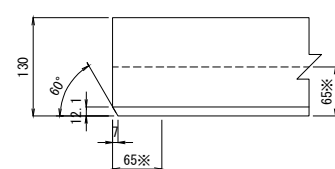
⑤ サイドブロック S=1:30



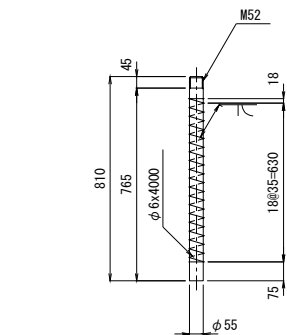
⑥ ボス(上) S=1:30



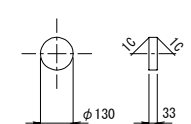
B部詳細図 S=1:5



⑧ アンカーボルト S=1:30



⑦ ボス(下) S=1:30

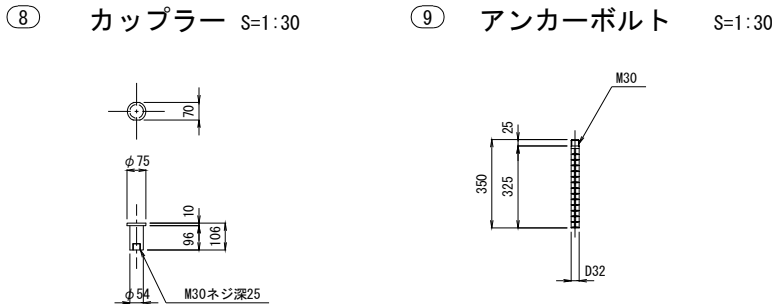
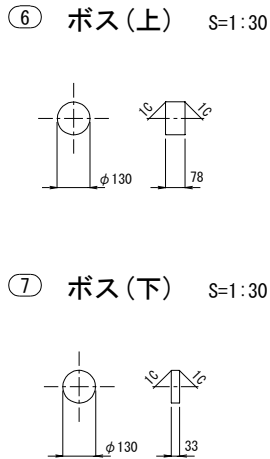
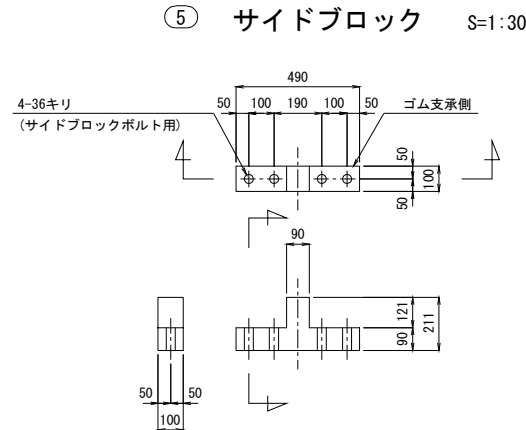
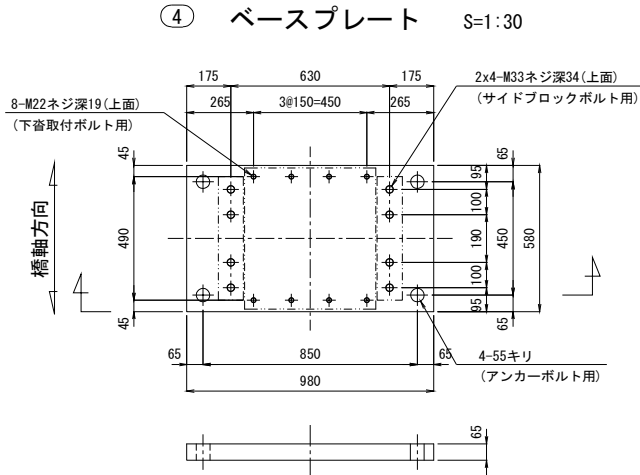
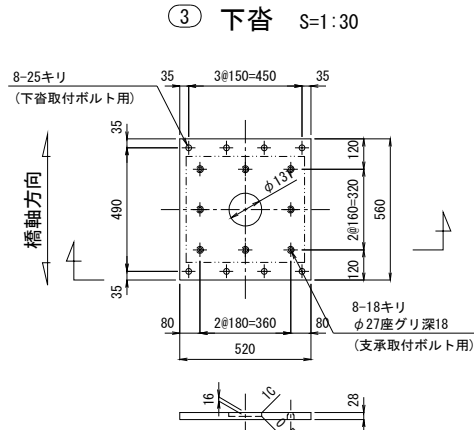
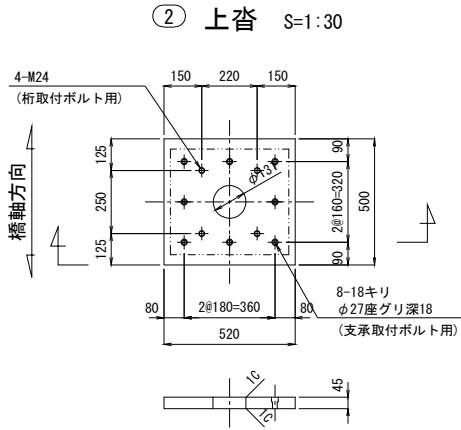
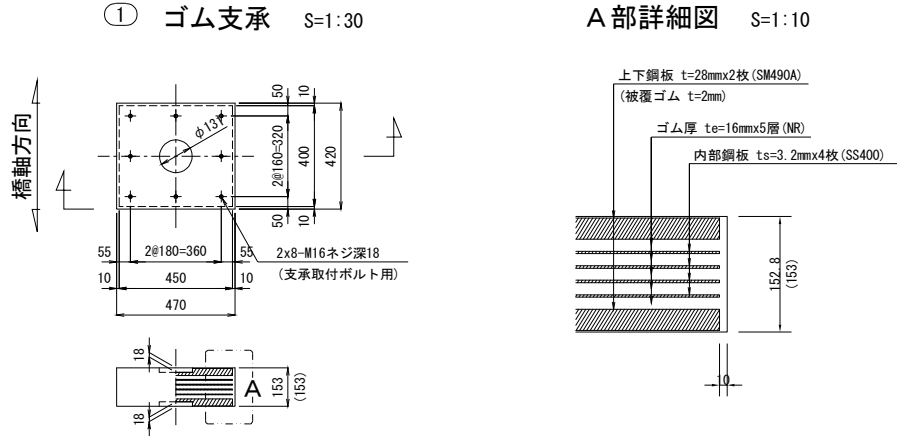
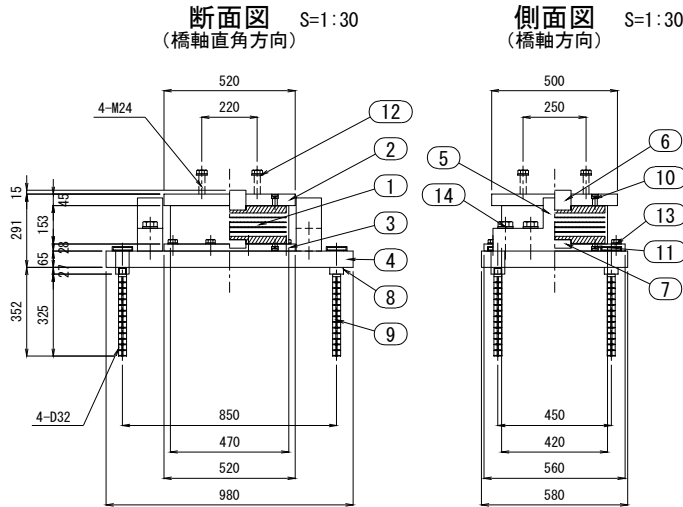


※ 下沓下面及び側面は図の範囲を不めっきとする。
 不めっき部には、開先防錆剤塗布のこと。

- ⑨ 支承取付ボルト M16 x 120 強度区分 12.9
 ⑩ 支承取付ボルト M16 x 140 強度区分 12.9
 ⑪ 桁取付ボルト M45 x L 強度区分 8.8
 ⑬ サイドブロックボルト M45 x 100 強度区分 8.8

釜利谷第二高架橋 支承詳細図（その4）

① A2 地震時水平力分散型ゴム支承
支承取替工 E-1090 (673)
支承取替工 E-1070 (673)



- ⑩ 支承取付ボルト M16 x 45 強度区分 12.9
⑪ 支承取付ボルト M16 x 30 強度区分 12.9
⑫ 桁取付ボルト M24 x L 強度区分 8.8
⑬ 下沓取付ボルト M22 x 50 強度区分 8.8
⑭ サイドブロックボルト M33 x 130 強度区分 8.8

設計条件

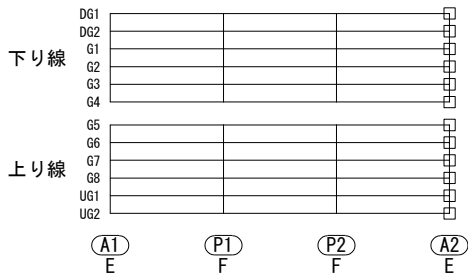
反力 (kN)		下り線A2	上り線A2
最大反力	Rmax	1090	1070
最大反力 (回転照査用)	Rmax2	860	860
死荷重反力	RD	550	580
照査荷重	R1L	270	245
最大水平力	橋軸方向	RHeq1	283
	橋軸直角方向	RHeq2	392
	サイドブロック	RHeq3	392
上向きの地震力		Ru	-165 -174
変位量 (mm)			
照査荷重時の変位量		δcL	0.431 0.391
回転変位量		δr	- -
水平変位量	常時・橋軸方向	ΔL1	52 52
	地震時・橋軸方向	ΔLe1	104 103
	地震時・橋軸直角方向	ΔLe2	- -
性能			
ゴムの種類及び呼び		材料-G	NR-G12 NR-G12
せん断ばね定数 (kN/mm)		KS	2.700 2.700
試験変位量	せん断ひずみ (%)	γS	175 175
	変位量 (mm)	UB	140 140
1次形状係数		S1	6.62 6.62
2次形状係数		S2	5.00 5.00
圧縮ばね定数 (kN/mm) 参考値		Kv	626 626

材料表 (1組当り)

部番	部品名称	材質	個数	重量(kg)	備考
1	ゴム支承	NR, SS400, SM490A	1	120.0	
②	上沓	SM490A	1	85.7	
③	下沓	SM490A	1	60.6	
④	ベースプレート	SM490A	1	282.9	
⑤	サイドブロック	SM490A or SCW480N	2	80.5	
⑥	ボス(上)	SM490A	1	8.1	
⑦	ボス(下)	SM490A	1	3.4	
⑧	カップラー	S45CN	4	7.3	
9	アンカーボルト	SD345	4	8.7	
⑩	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.8	六角穴付きボルト
⑪	支承取付ボルト	強度区分 12.9	8	0.6	六角穴付きボルト
⑫	桁取付ボルト	強度区分 8.8	4	1.9	平座金付き
⑬	下沓取付ボルト	強度区分 8.8	8	2.0	平座金付き
⑭	サイドブロックボルト	強度区分 8.8	8	10.0	平座金付き
15	ゴムキャップ(カップラー用)	EPDM	4	0.2	
合計				672.7 (kg)	

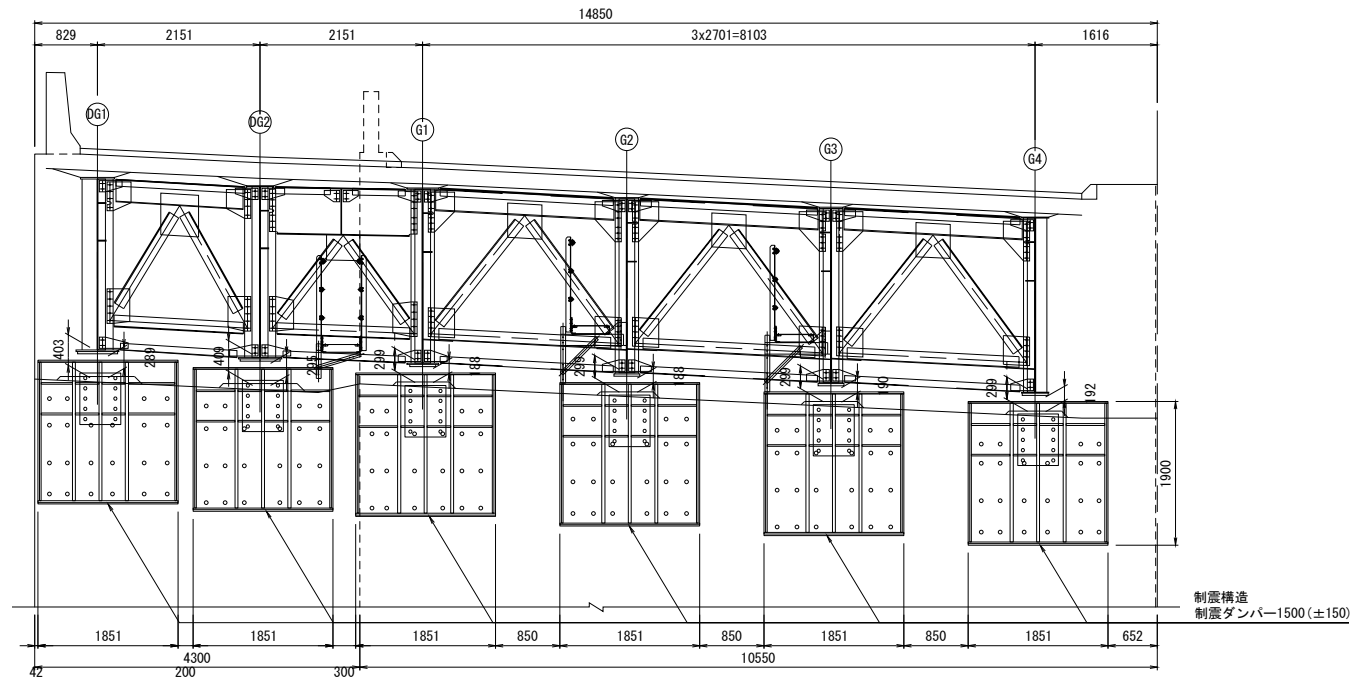
- ※1 道路橋支承便覧準拠。
※2 使用材料は道路橋支承便覧2.9に適合。
※3 材料表の部番を○で囲んだ部品は溶融亜鉛めっきとする。
(JIS H 8641 HDZT77、ボルト類はHDZT49)
※4 材料表の部番を□で囲んだ部品は黒色酸化皮膜処理とする。
※5 ゴム支承の重量は施工上の参考重量を示す。
※6 製作・施工に必要なアイボルト穴は適宜設けること。
※7 必要なアイボルト本数は協議して決定すること。
※8 桁取付ボルト重量はL=100mmとして参考に計上する。
※9 アンカーボルト位置は現地計測後に詳細決定のこと。
※10 アンカーボルトは無塗装とし、鉄筋防錆剤を塗布のこと。

位置図

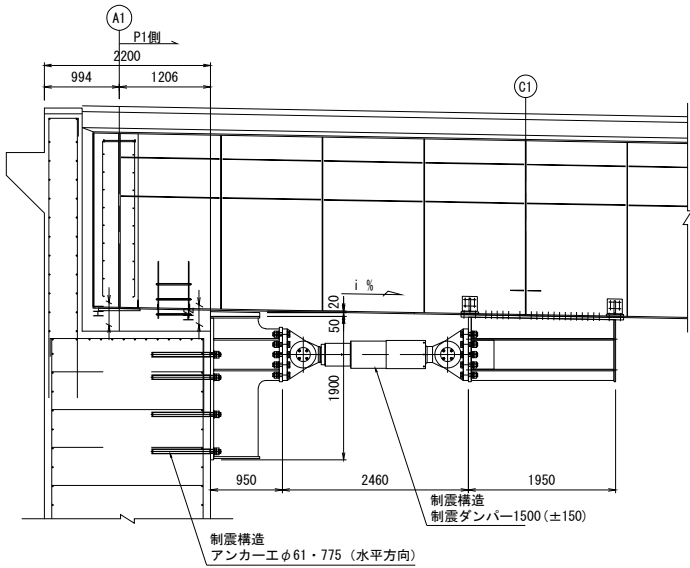


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支承詳細図 (その4)		
縮尺	図示	図面番号	80 / 112
設計会社名	株式会社 近代設計		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

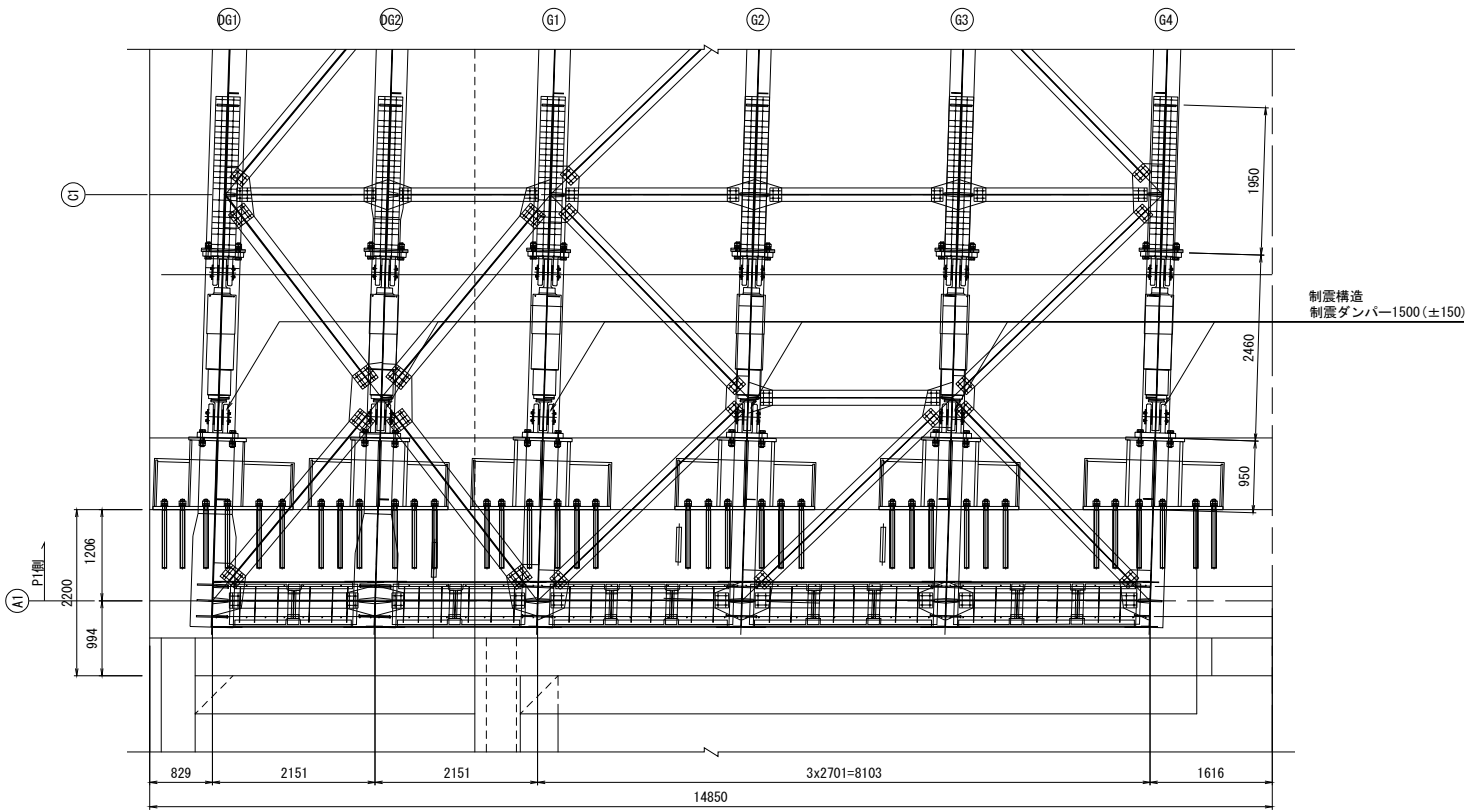
断面図



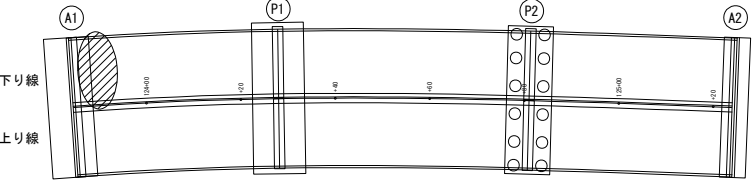
側面図



平面図



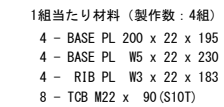
位置図



※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 制震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	81 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

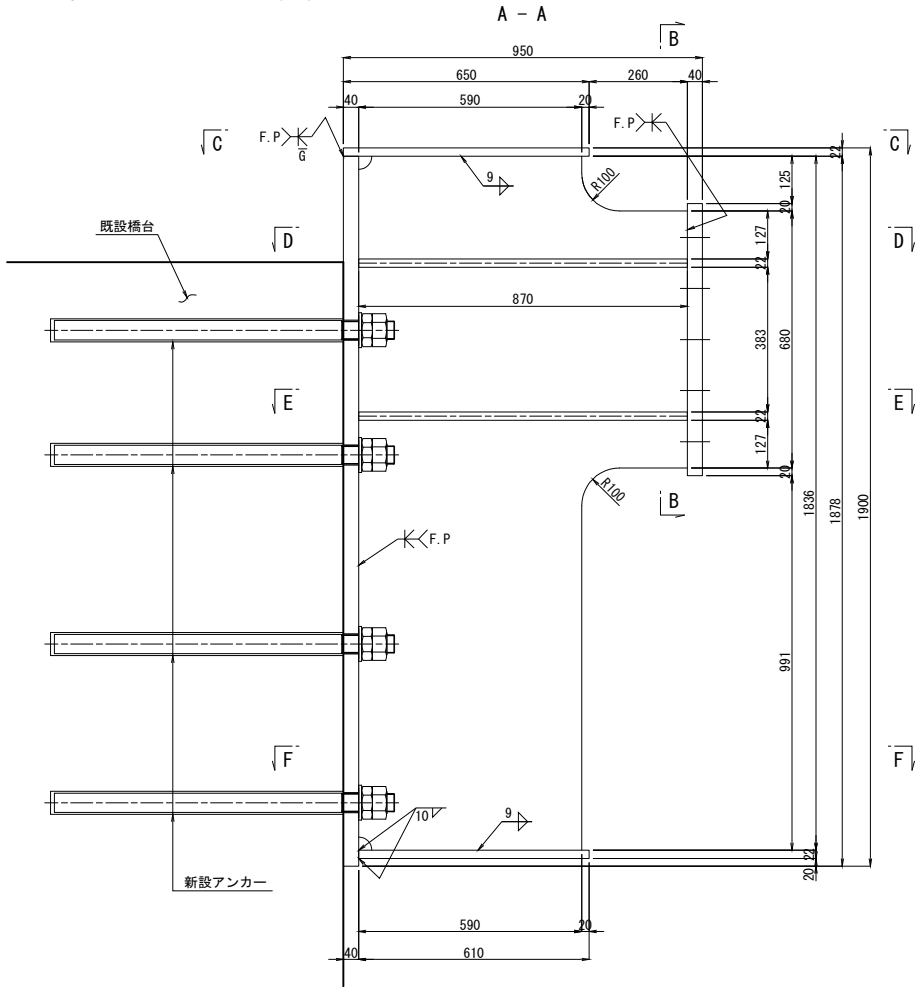
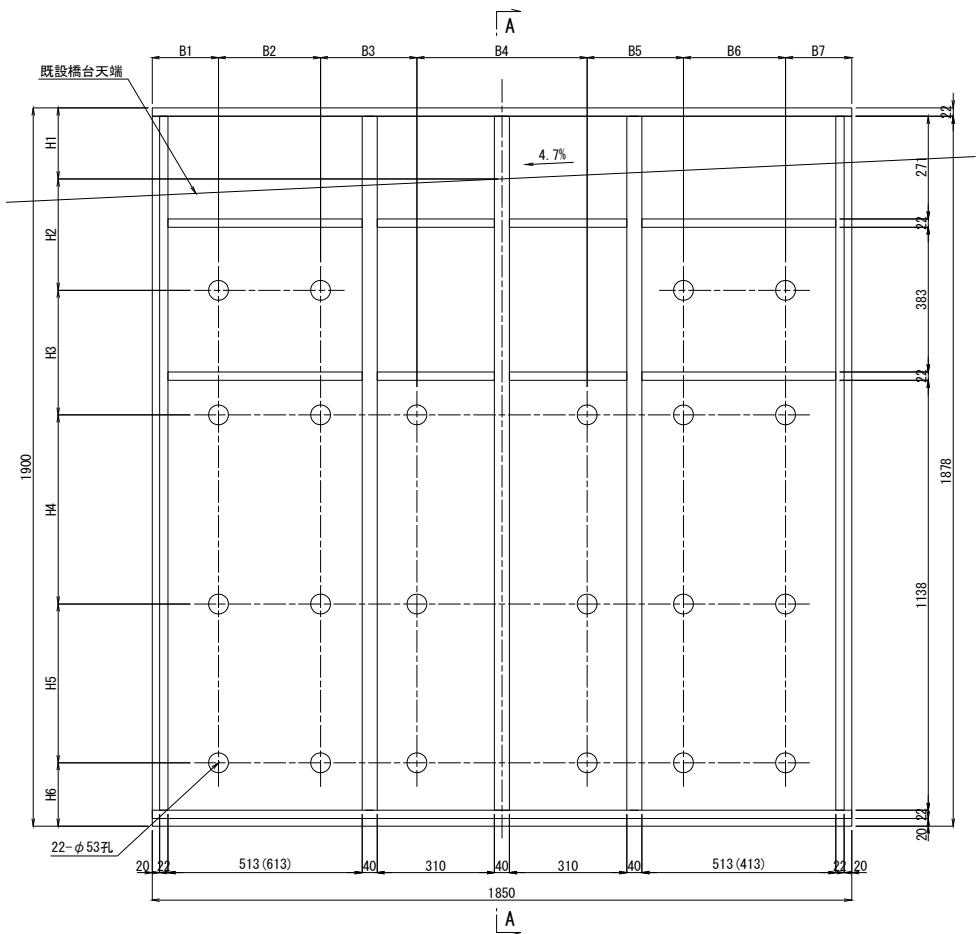
補強材詳細



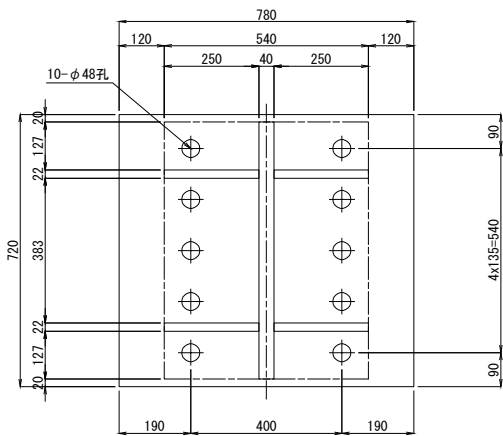
制震構造 制震ダンパー1500(±150)

下部工付けブラケット詳細

正面図



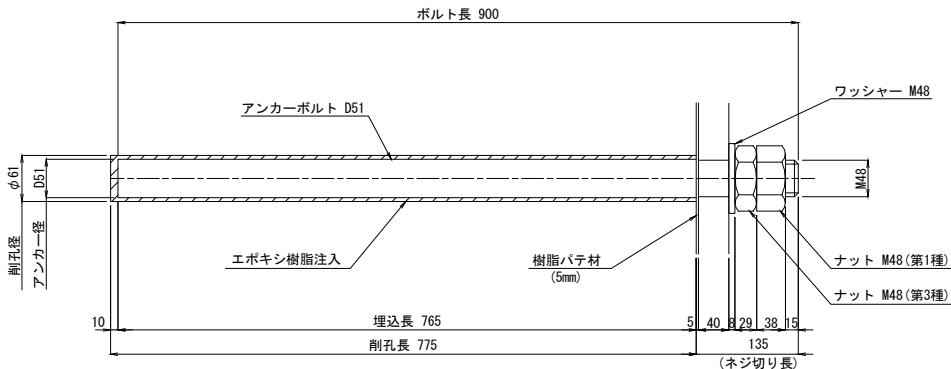
B - B



1組当たり材料 (製作数: 6組)

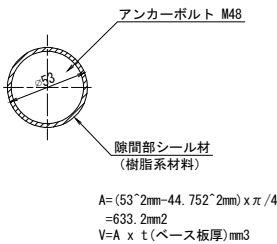
- 1 - BASE PL 1878 x 40 x 1850 (SM490YB)
- 1 - BASE PL 780 x 40 x 720 (SM490YB)
- 1 - FLG PL 679 (676) x 22 x 1850
- 1 - FLG PL 639 (636) x 22 x 1850
- 1 - RIB PL 562 (559) x 22 x 1836
- 1 - RIB PL 859 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 870 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 881 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 618 (615) x 22 x 1836
- 2 - RIB PL 559 x 22 x 513 (613)
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310 (切欠き有)
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310 (切欠き有)
- 2 - RIB PL 597 (594) x 22 x 513 (413)
- 22 - ANCHOR BOLT D51 x 900 (SD345)
- 22 - NUT M48 (第1種) (SS400)
- 22 - NUT M48 (第3種) (SS400)
- 22 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

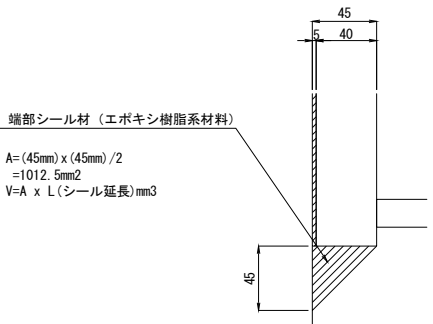


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



縁部シール材詳細図 S=1:5

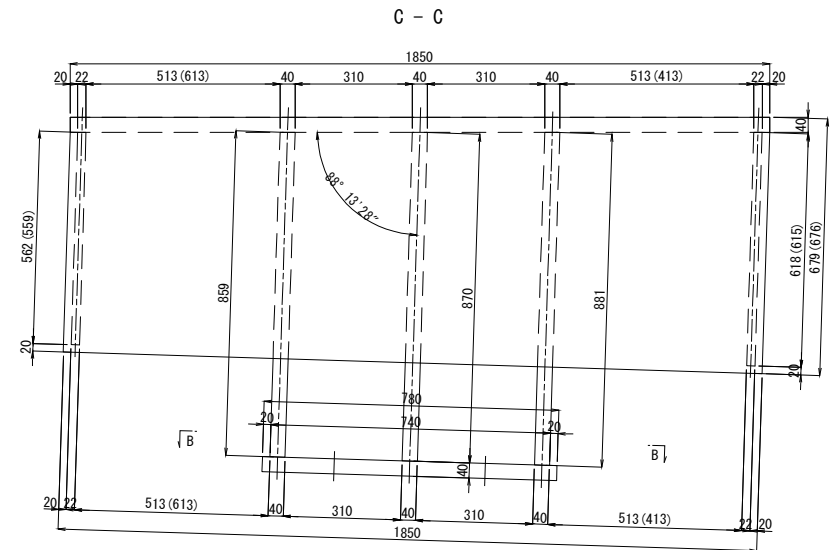


注記

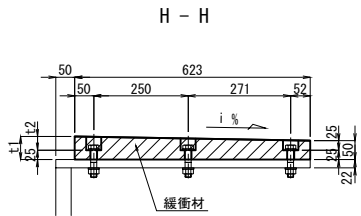
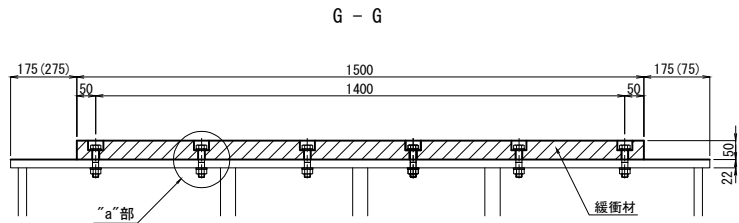
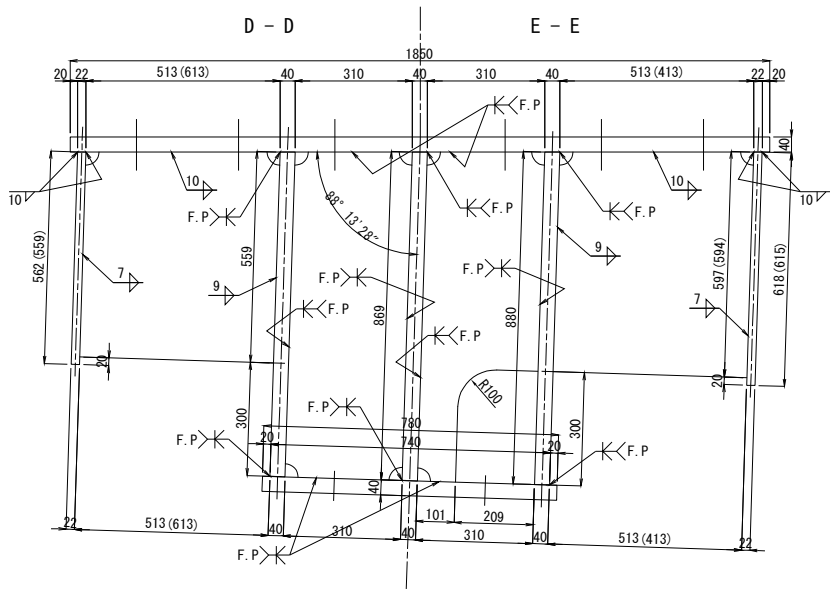
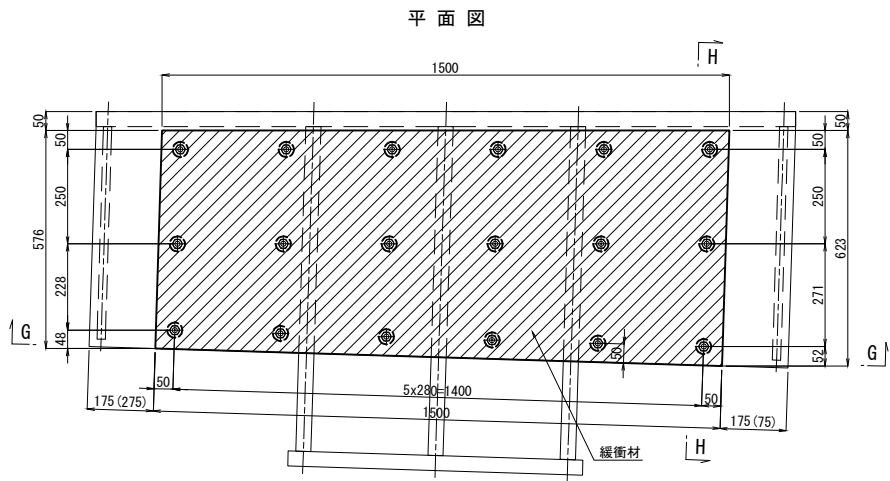
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップはR35とする。
- 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
- 銅材は、全て溶融垂鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
- アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
- () 内は、DG1桁の値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	83 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



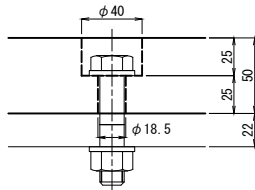
緩衝材取付部詳細



〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数: 6組)
18-BN M16 x85 (2-W) (22+25+35=82→L=85)
1-緩衝材 623 x t1 x1500(クロロプレンゴム 硬度55° ±5°)

	DG1	DG2	G1	G2	G3	G4
t1	64	64	64	64	63	62
t2	39	39	39	39	38	37
i (%)	2.3	2.3	2.2	2.2	2.1	2.0

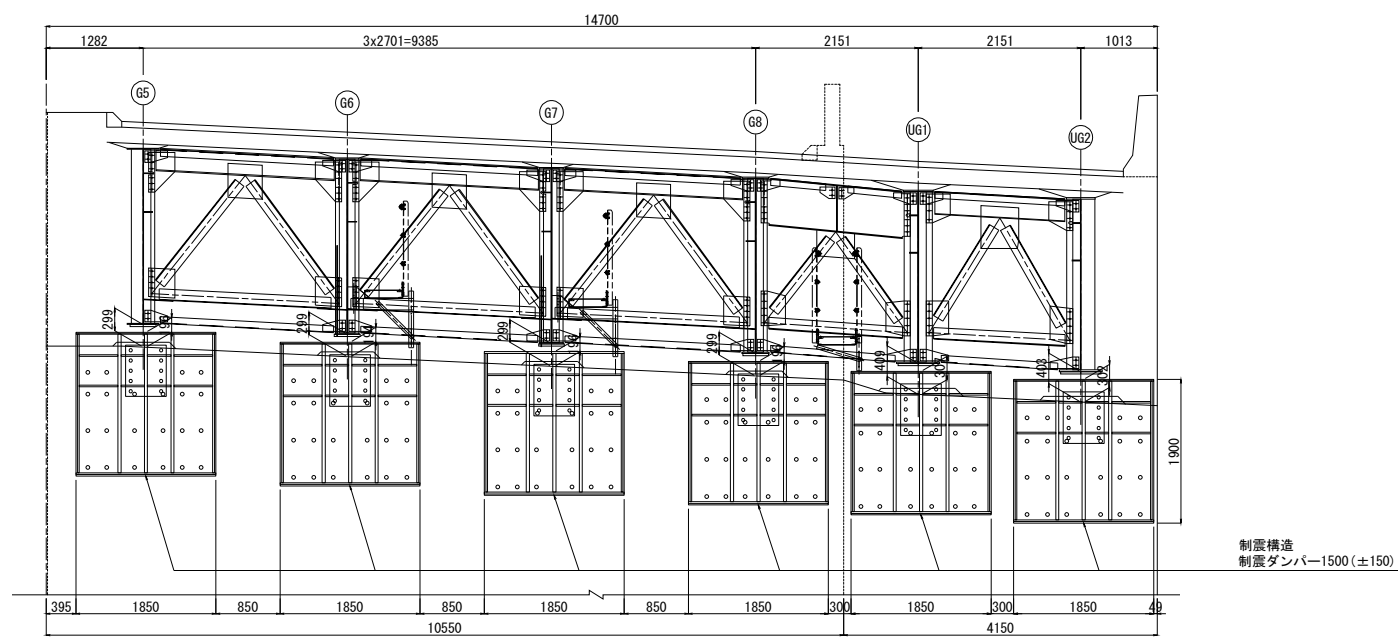
“a”部詳細 S=1:5



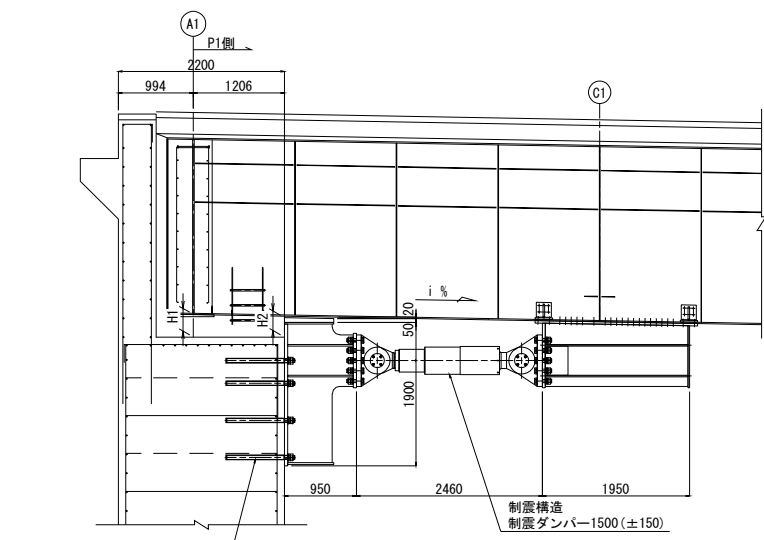
- 注記)
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。)
 - 但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
 - ()内は、DG1桁の値を示す。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	84 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

断面図

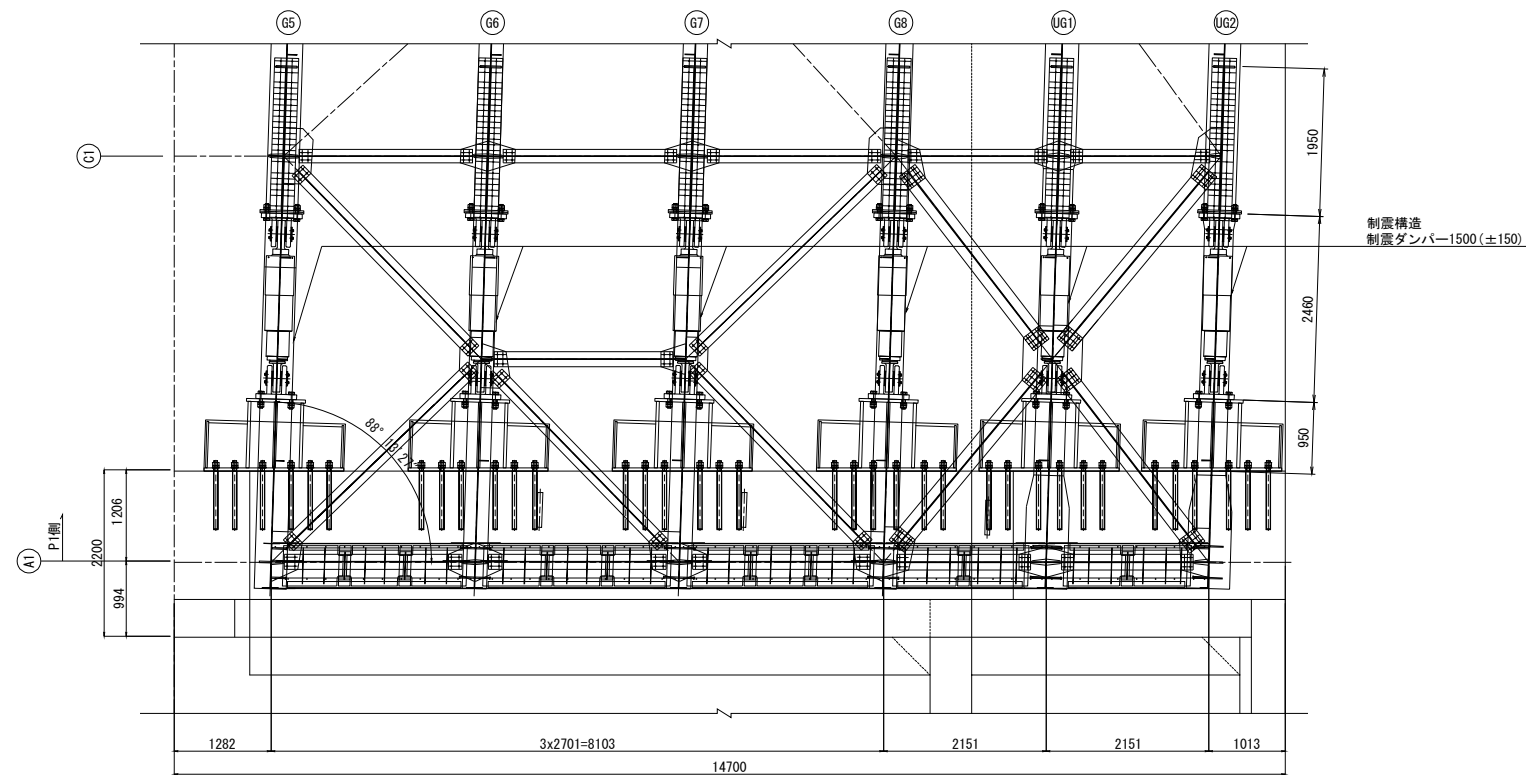


側面図

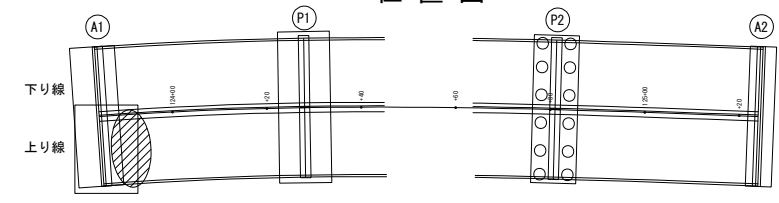


	G5	G6	G7	G8	UG1	UG2
H1	299	299	299	299	409	403
H2	196	194	196	196	307	302
i (%)	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7

平面図



位置図



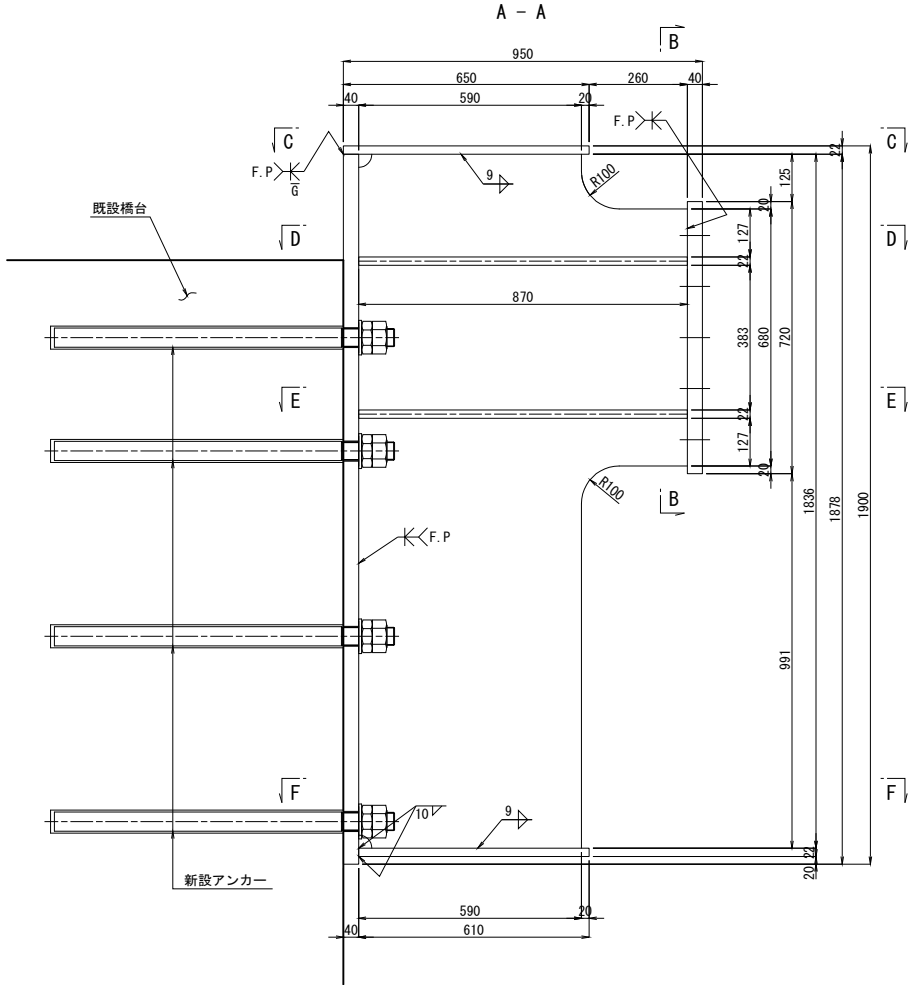
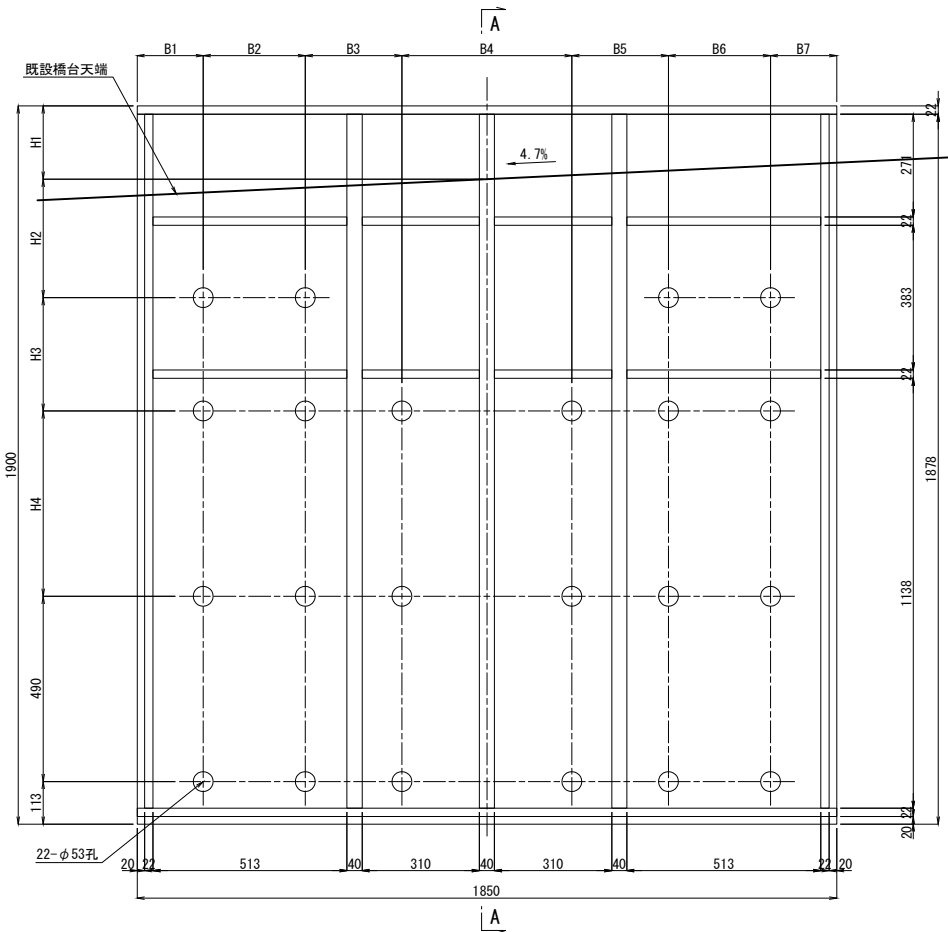
※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 耐震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	85 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 関東支社		
事務所名	京 浜 管 理 事 務 所		

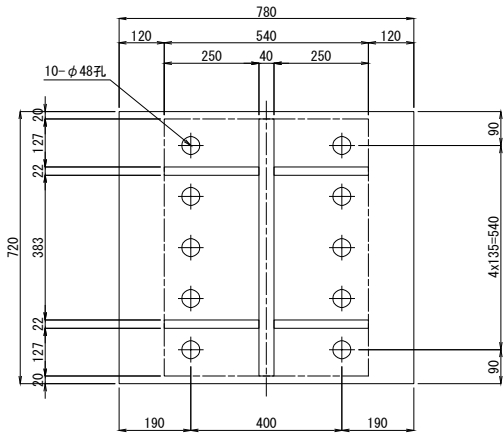
制震構造 制震ダンパー1500(±150)

下部工付けブラケット詳細

正面図



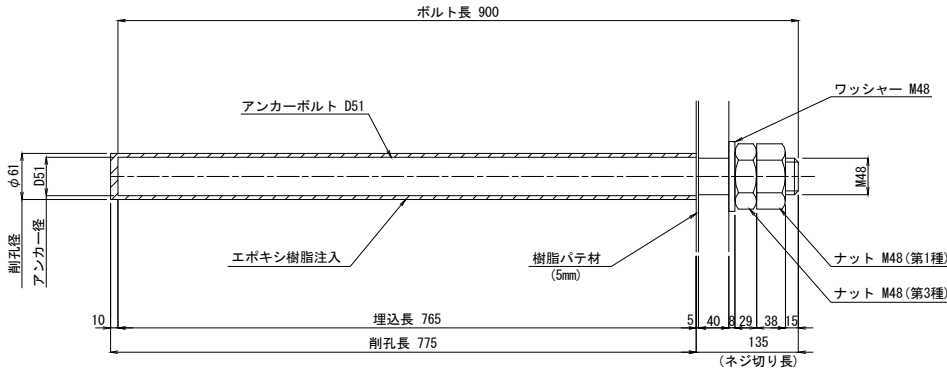
B - B



1組当たり材料 (製作数: 6組)

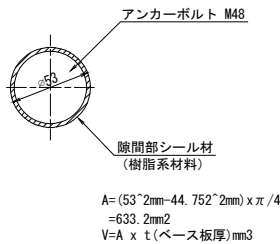
- 1 - BASE PL 1878 x 40 x 1850 (SM490YB)
- 1 - BASE PL 780 x 40 x 720 (SM490YB)
- 1 - FLG PL 679 x 22 x 1850
- 1 - FLG PL 639 x 22 x 1850
- 1 - RIB PL 562 x 22 x 1836
- 1 - RIB PL 859 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 870 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 881 x 40 x 1836 (SM400B)
- 1 - RIB PL 618 x 22 x 1836
- 2 - RIB PL 559 x 22 x 513
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 869 x 22 x 310 (切欠き有)
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310
- 1 - RIB PL 880 x 22 x 310 (切欠き有)
- 2 - RIB PL 597 x 22 x 513
- 22 - ANCHOR BOLT D51 x 900 (SD345)
- 22 - NUT M48 (第1種) (SS400)
- 22 - NUT M48 (第3種) (SS400)
- 22 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカー工φ61・775 (水平方向) S=1:10

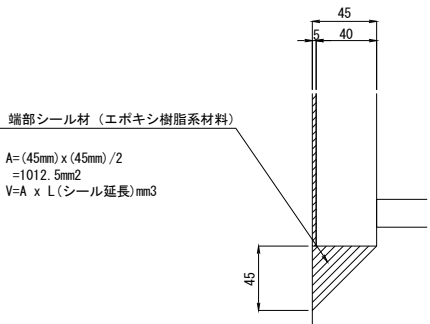


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融垂鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



縁部シール材詳細図 S=1:5

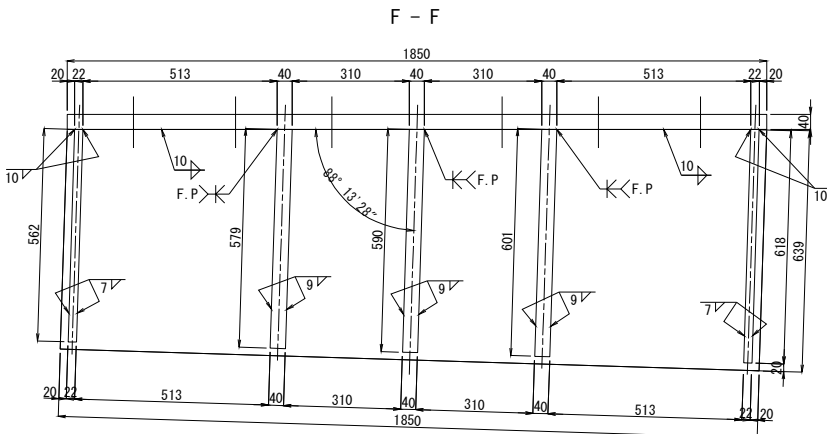
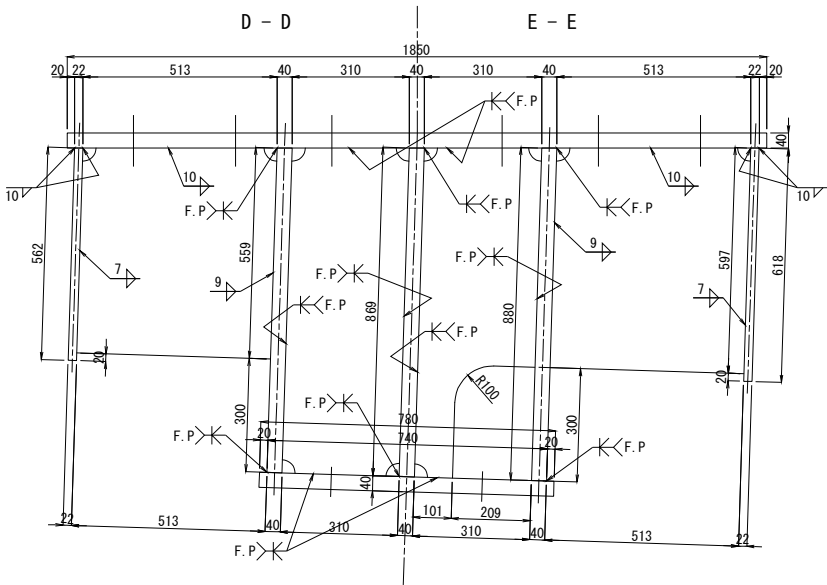
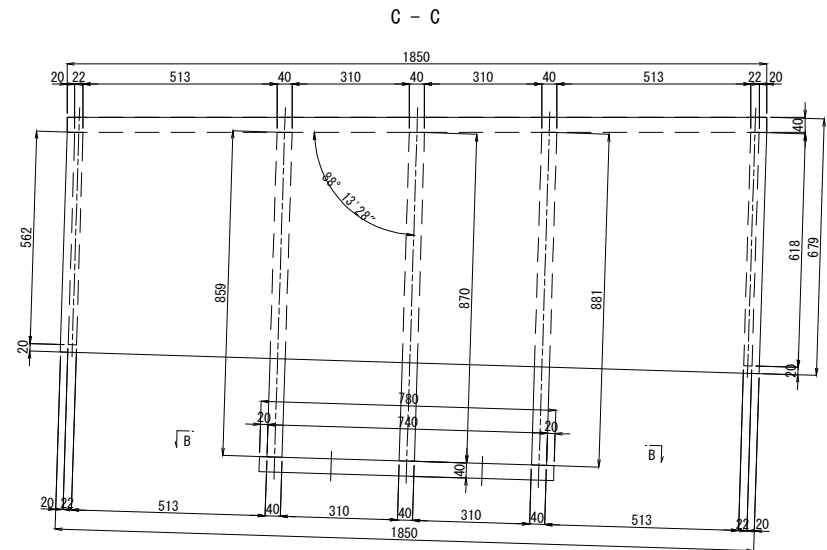


注記

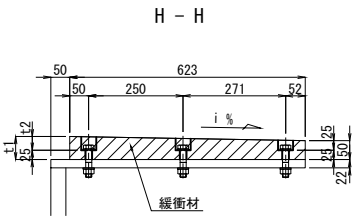
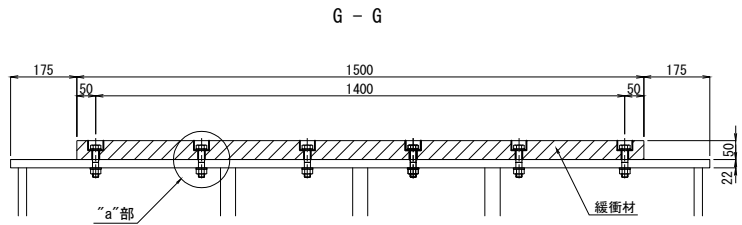
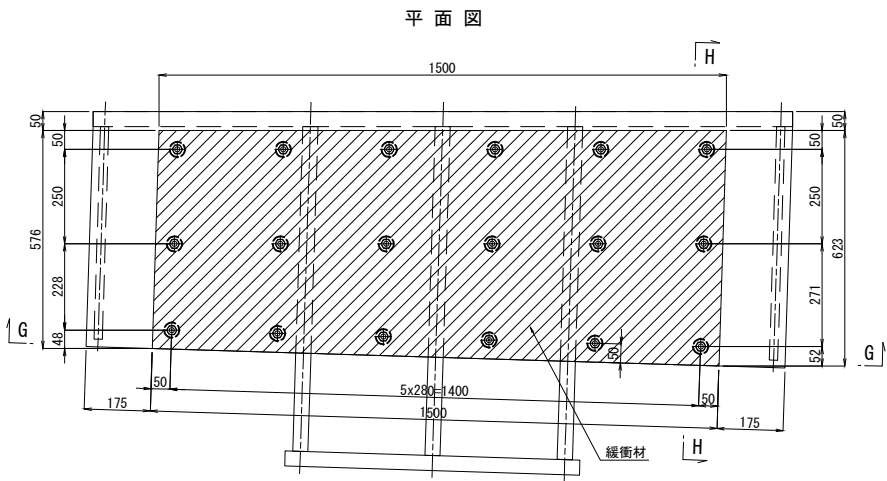
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
- 特記なきスカーラップはR35とする。
- 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
- 鋼材は、全て溶融垂鉛メッキ処理とする。
(鋼厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の鋼厚は、HDZT49とする。)
- アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	87 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



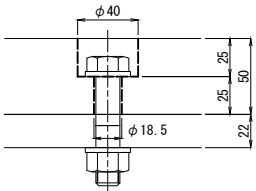
緩衝材取付部詳細



〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数: 6組)
18-BN M16 x85 (2-W)
1-緩衝材 623 x t1 x1500(クロロブレンゴム 硬度55° ±5°)

	G5	G6	G7	G8	UG1	UG2
t1	62	62	61	61	61	61
t2	37	37	36	36	36	36
i (%)	2.0	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7

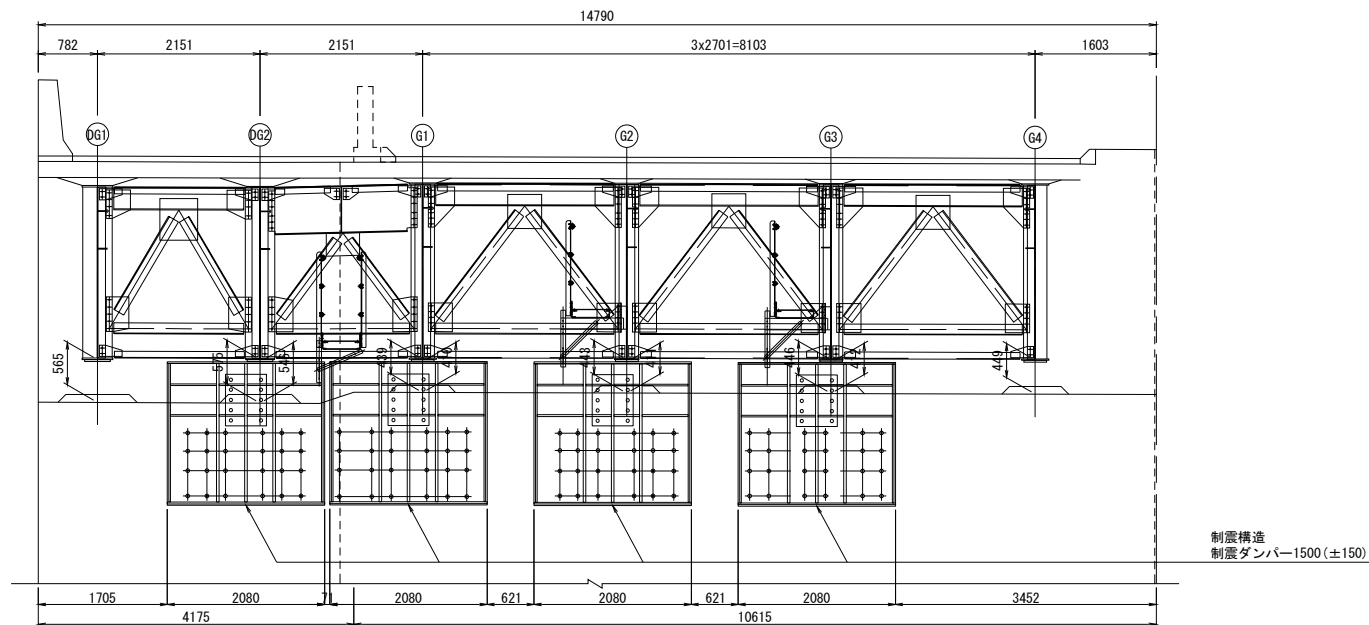
“a”部詳細 S=1:5



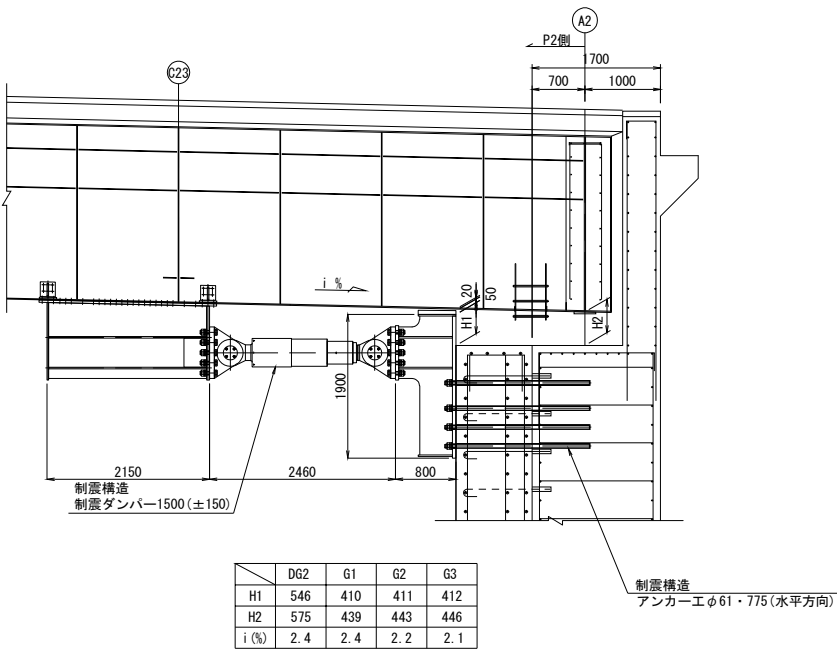
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップはR35とする。
 3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 4. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	88 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

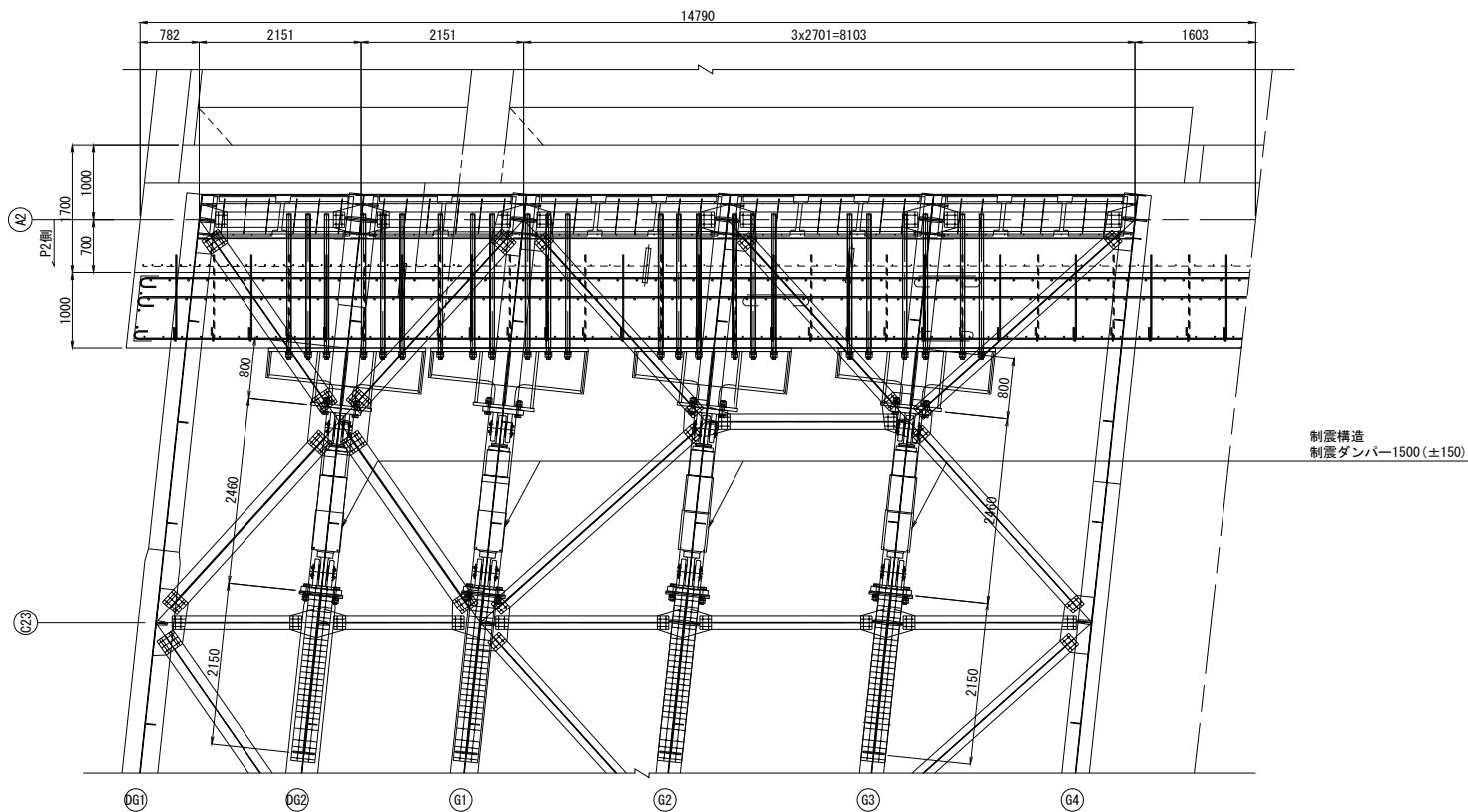
断面図



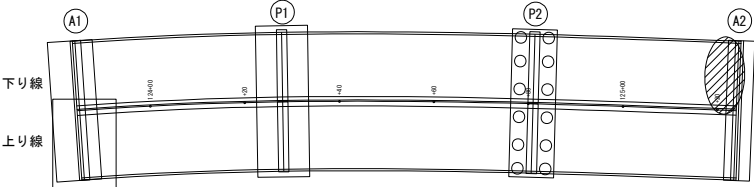
側面図



平面図



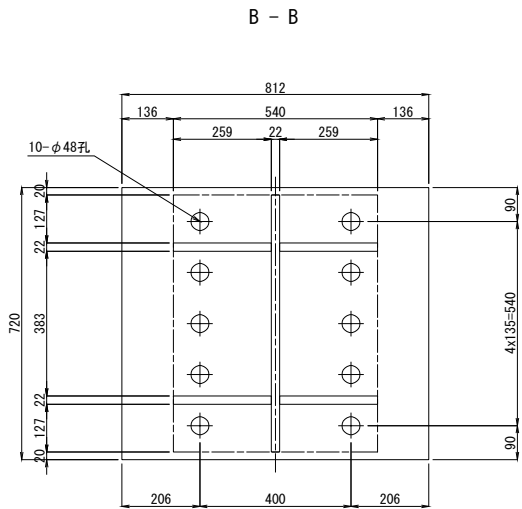
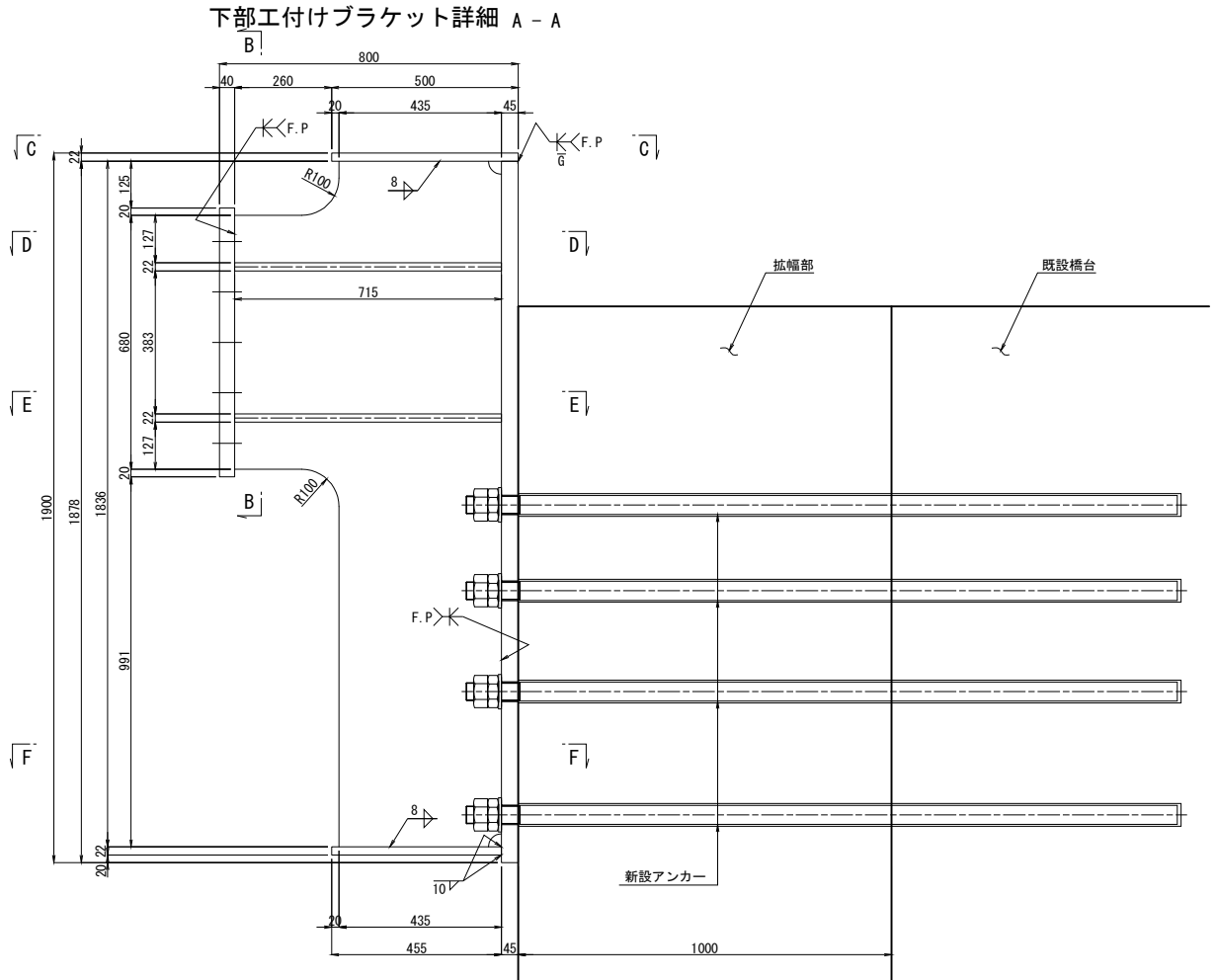
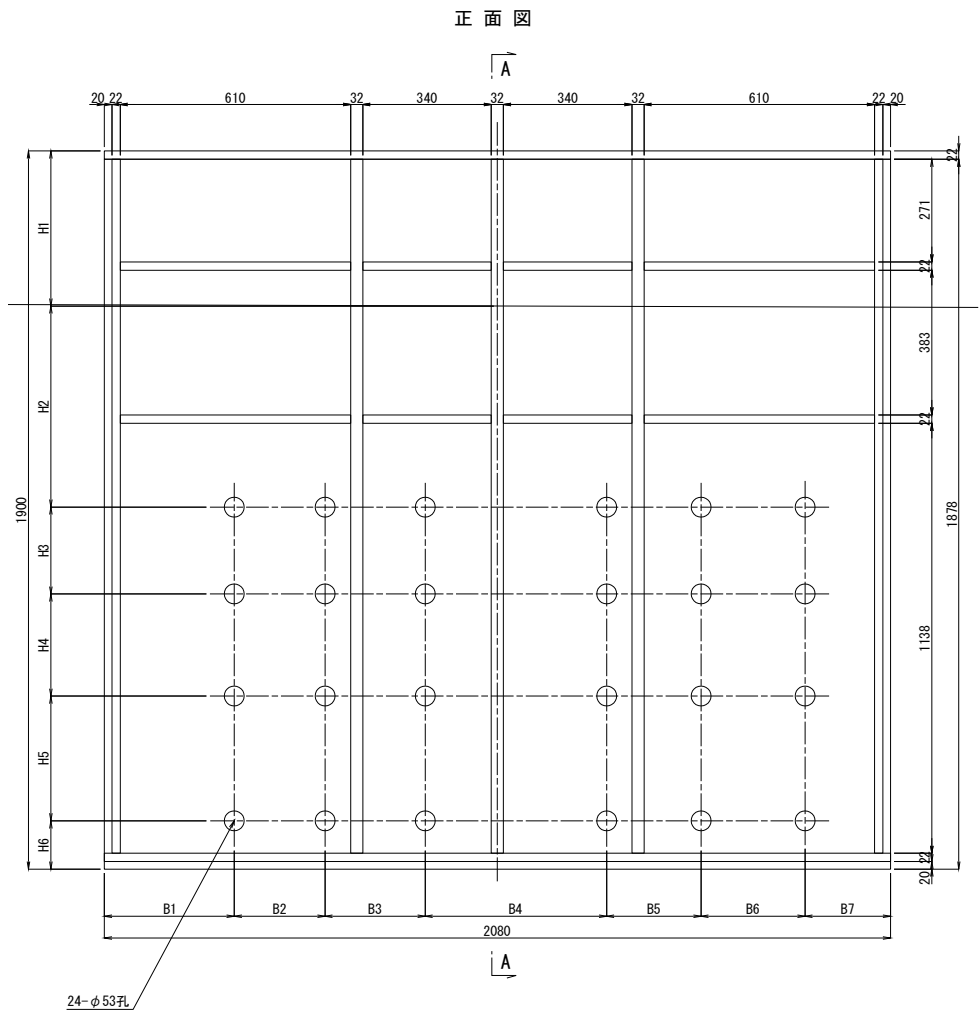
位置図



※制震ダンパーは段差防止構造を兼ねるものとする。

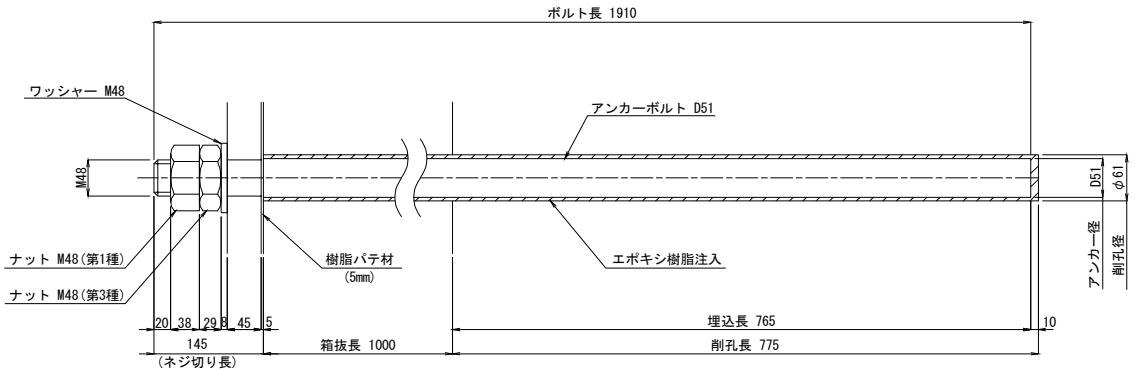
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台 (下り線) 制震ダンパー配置図		
縮 尺	図 示	図面番号	89 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



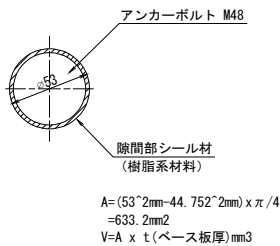
- 1組当たり材料 (製作数: 4組)
- 1 - BASE PL 1878 x 45 x 2080 (SM520C)
 - 1 - BASE PL 720 x 40 x 812 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL 611 x 22 x 2068
 - 1 - FLG PL 566 x 22 x 2068
 - 1 - RIB PL 327 x 22 x 1836
 - 1 - RIB PL 675 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 715 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 755 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 543 x 22 x 1836
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 373
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 521
 - 24 - ANCHOR BOLT D51 x 1910 (SD345)
 - 24 - NUT M48 (第1種) (SS400)
 - 24 - NUT M48 (第3種) (SS400)
 - 24 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

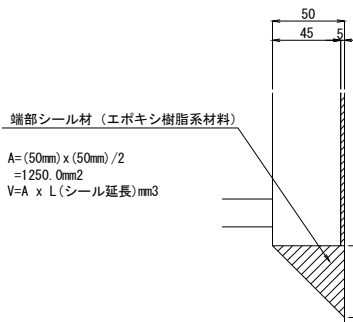


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



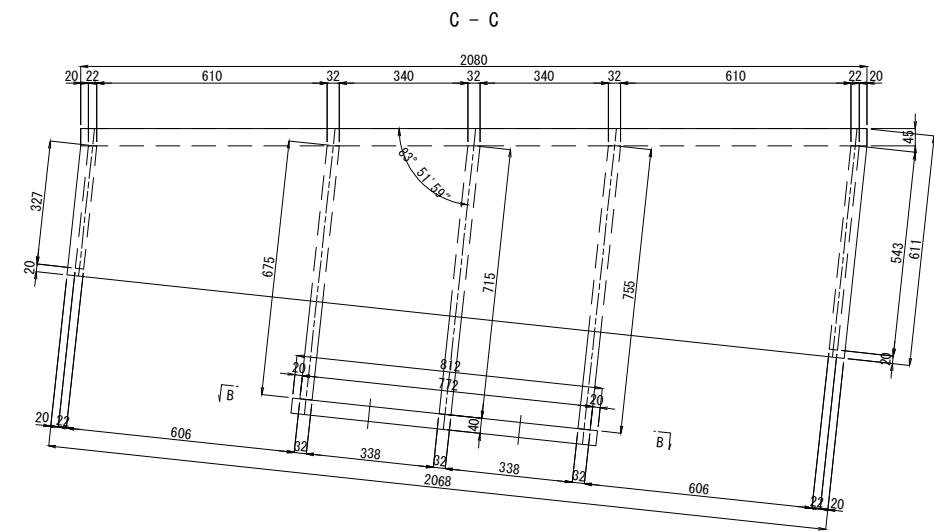
縁部シール材詳細図 S=1:5



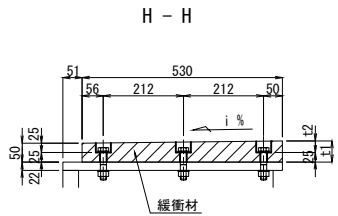
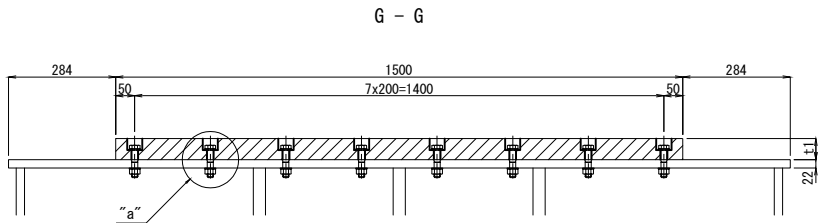
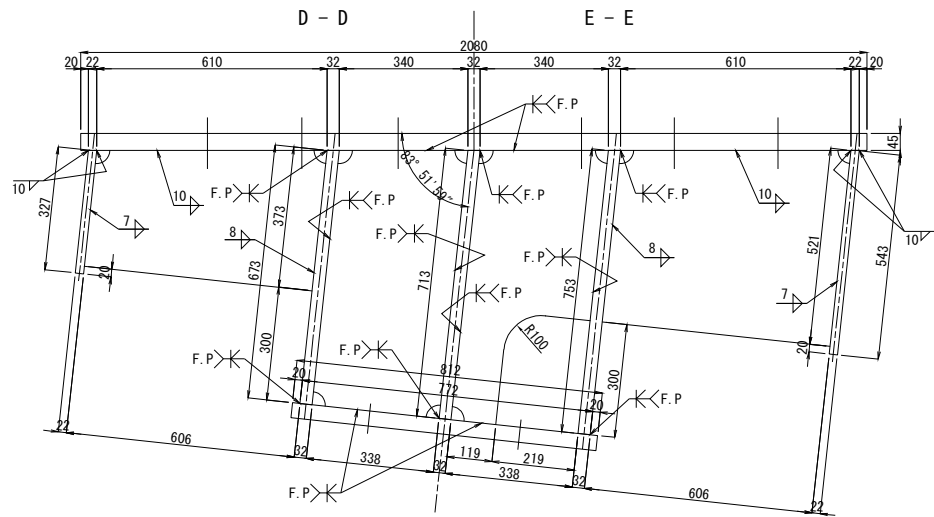
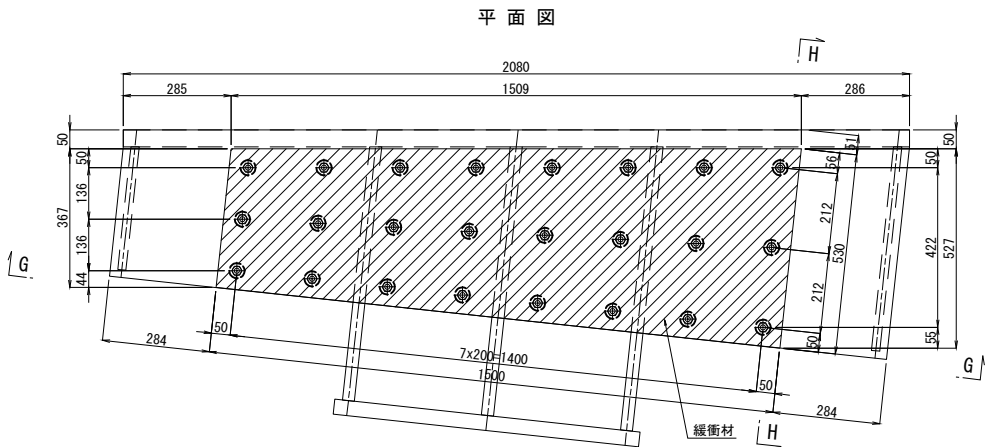
- 注記
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	91 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)



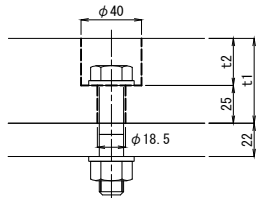
緩衝材取付部詳細



	DG2	G1	G2	G3
t1	63	63	62	61
t2	38	38	37	36
i (%)	2.4	2.4	2.2	2.1

〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数 : 4組)
24-BN M16 x85 (2-W) (22+25+35=82-L=85)
1-緩衝材 527 x t1 x1509(クロロブレンゴム 硬度55° ±5°)

“a”部詳細 S=1:5

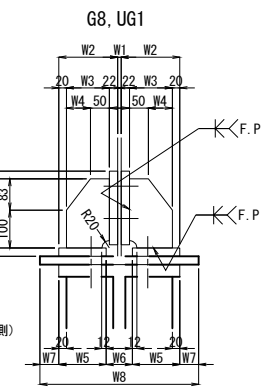
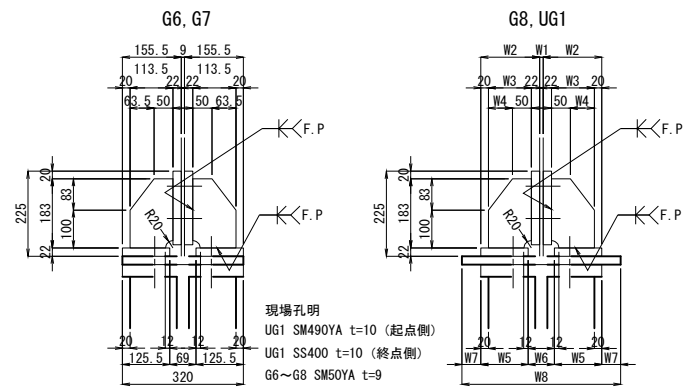
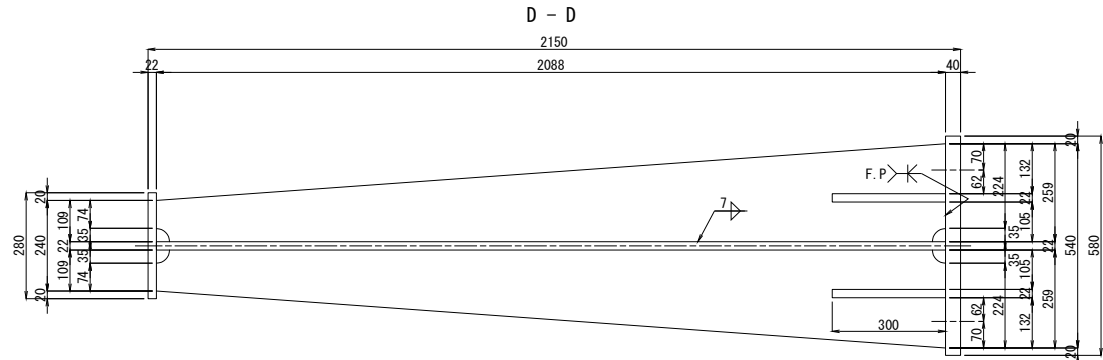
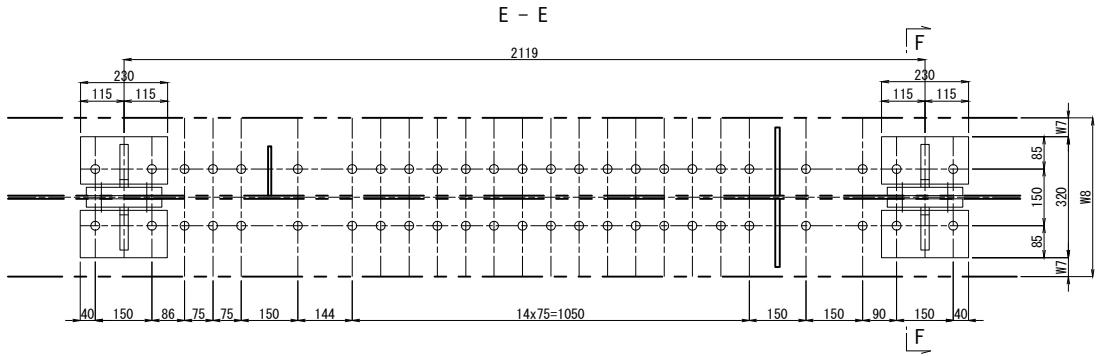
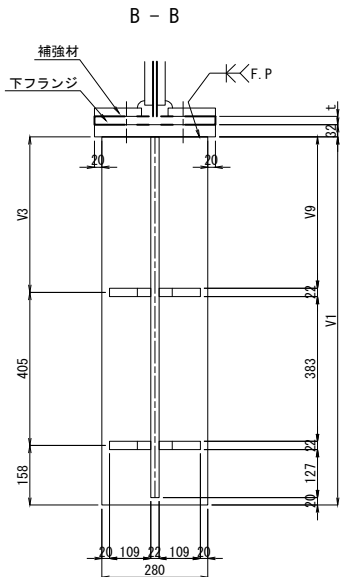
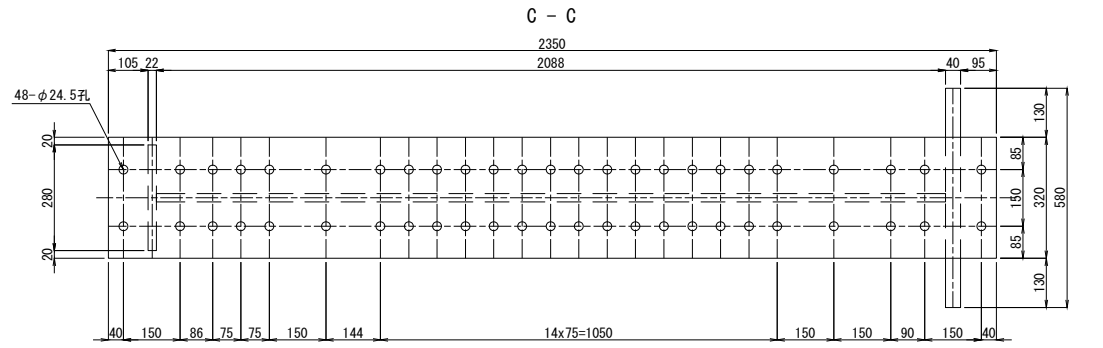
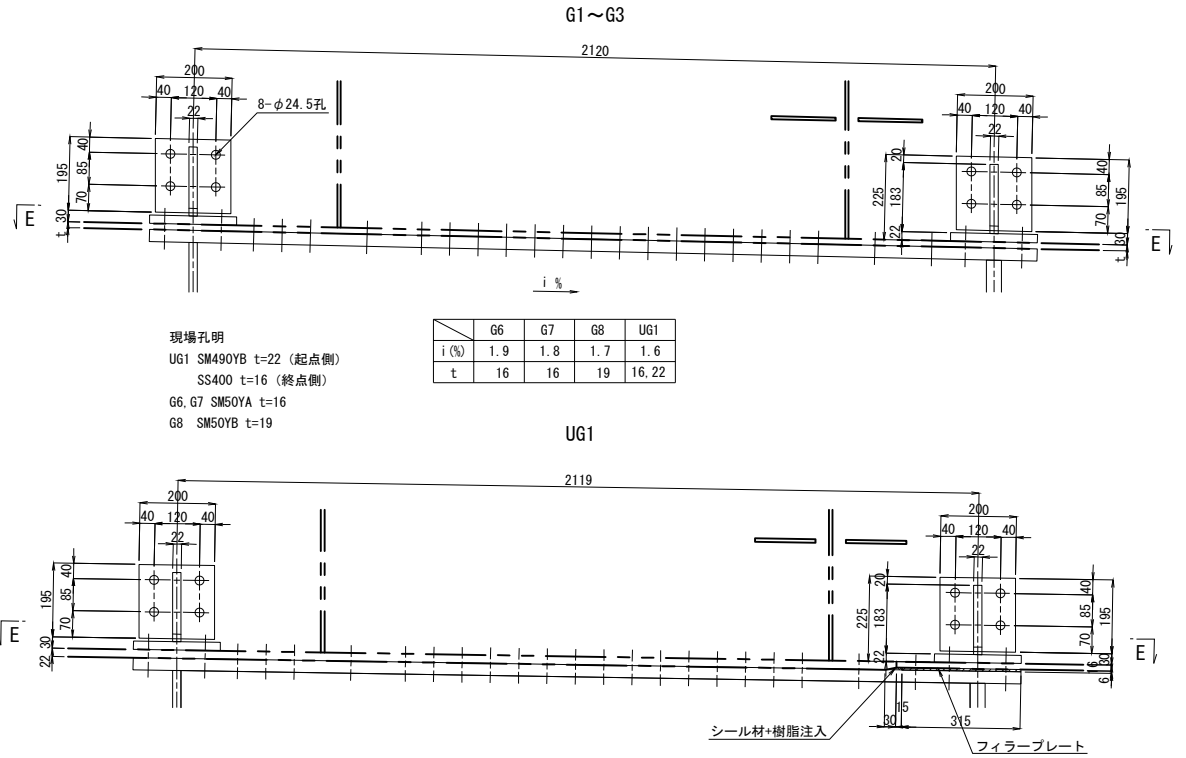
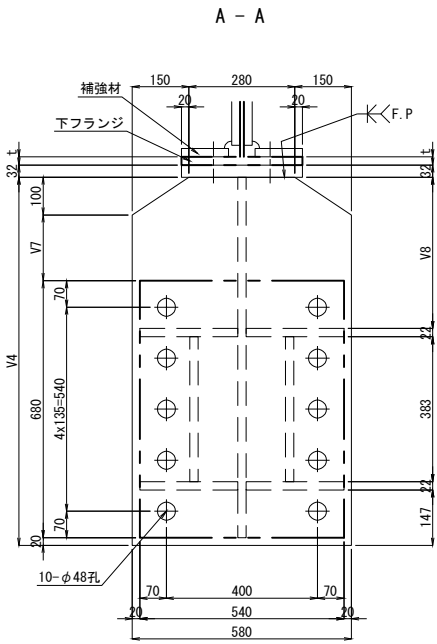
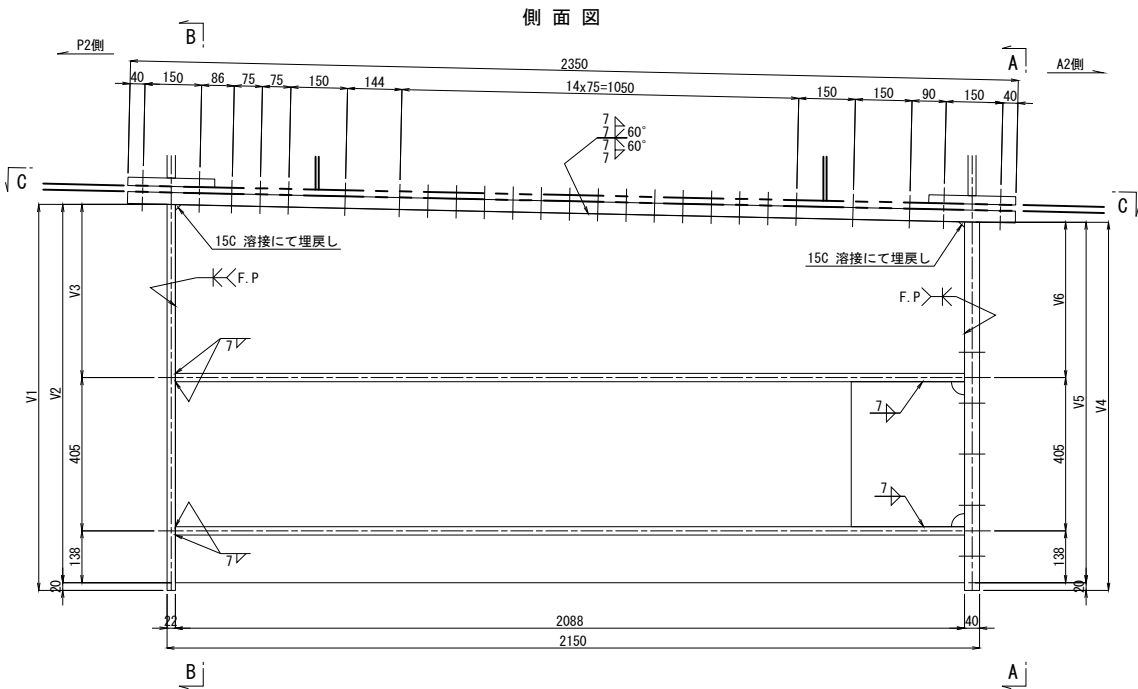


- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップはR35とする。
 3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 4. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	92 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500 (±150)
上部工付けブラケット詳細

上部工補強工 D
補強材詳細



	G8	UG1
W1	9	10
W2	155.5	155
W3	113.5	113
W4	63.5	63
W5	125.5	125
W6	69	70
W7	20	60
W8	360	440

注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカーラップはR35とする。
3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
4. 上部工ブラケット、補強材はC5系塗装とする。

	G6	G7	G8	UG1
V1	1008	1002	994	985
V2	988	982	974	965
V3	445	440	431	423
V4	967	964	958	951
V5	947	944	938	931
V6	405	402	395	389
V7	167	164	158	151
V8	393	390	384	377
V9	434	428	420	411
L1	110	110	115	120
L2	90	90	95	95

1組当たり材料 (製作数: 4組)
1 - BASE PL 320 x 32 x 2350 (SM490YB)
1 - FLG PL V4 x 40 x 580 (SM490YB)
1 - FLG PL 280 x 22 x V1
1 - WEB PL V2 x 22 x 2088
4 - RIB PL 259 x 22 x 2088
2 - RIB PL 383 x 22 x 300
8 - TCB M22 x L1 (S10T) (2-W付)
42 - TCB M22 x L2 (S10T) (2-W付)

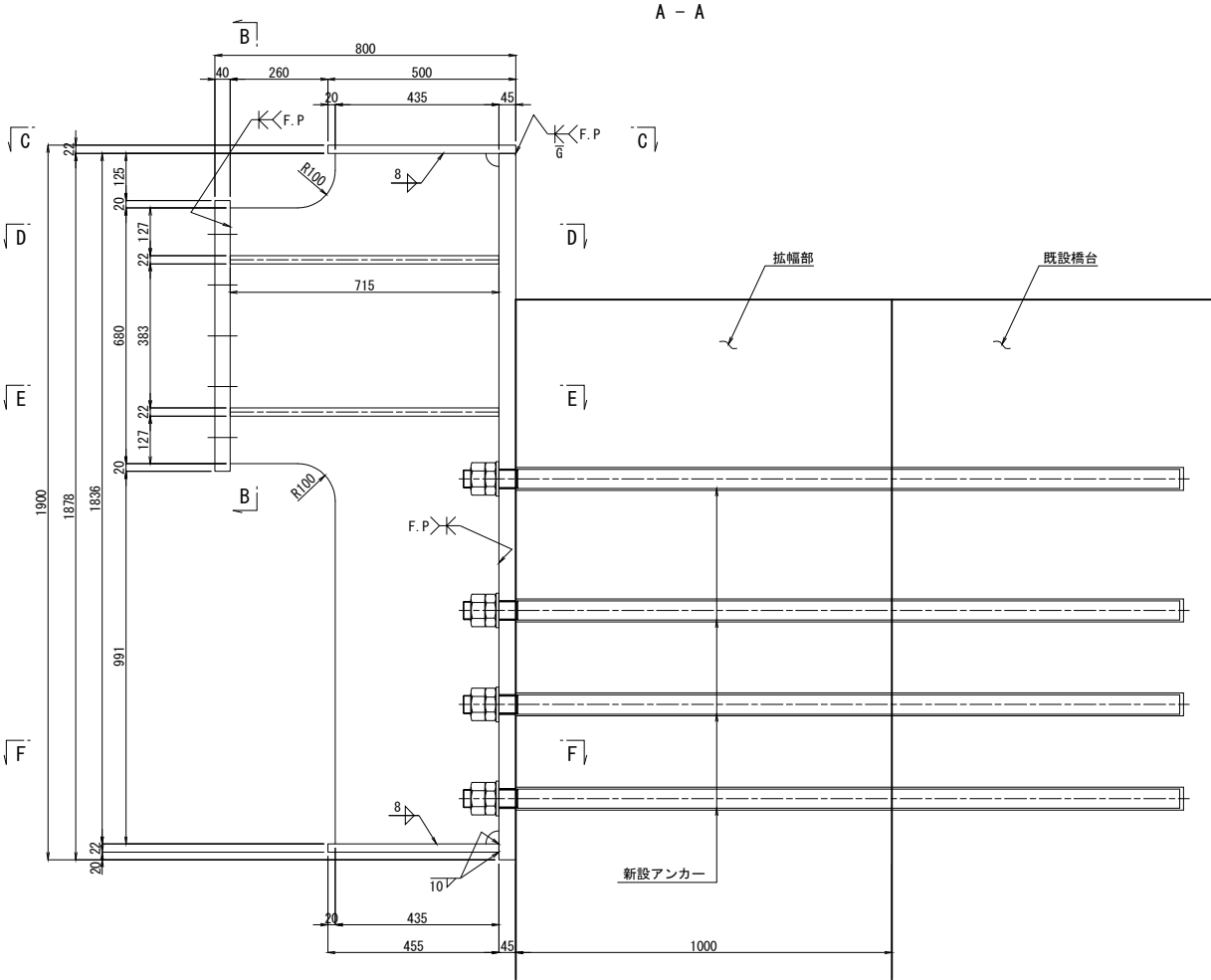
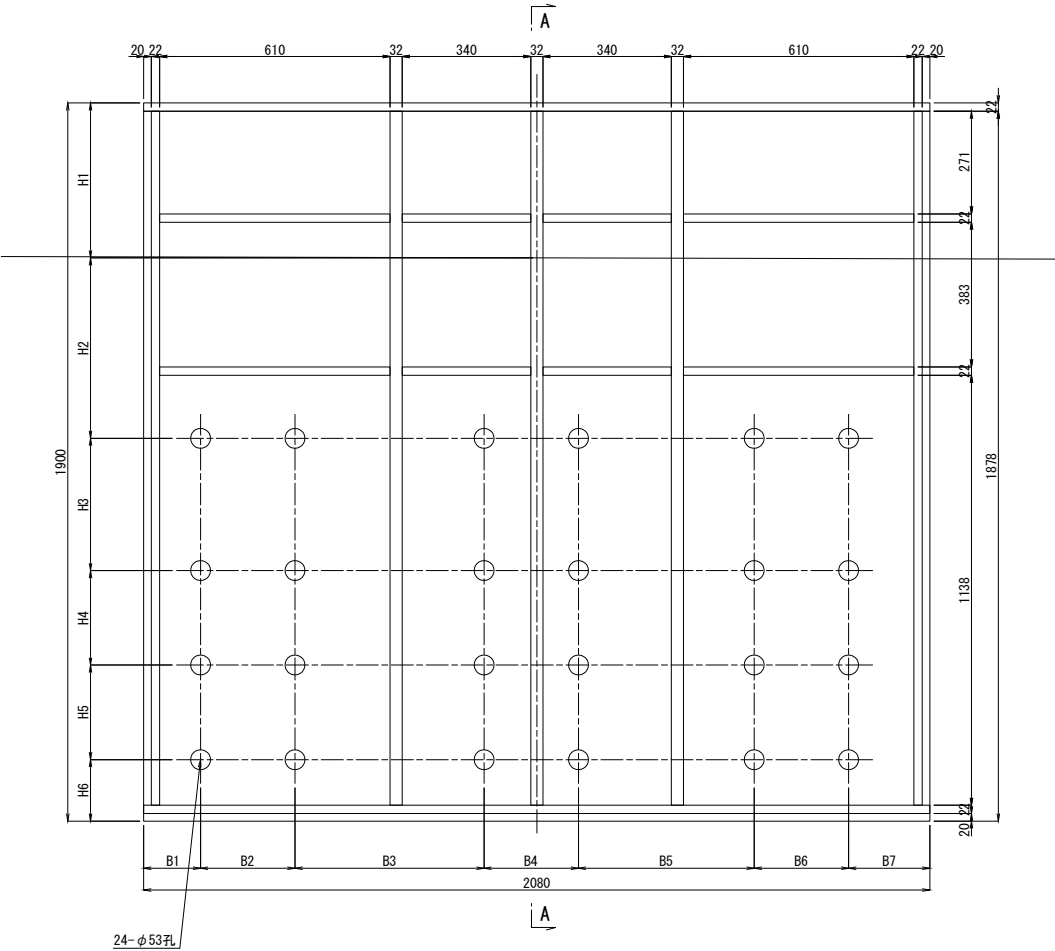
1組当たり材料 (製作数: 2組)
4 - BASE PL 200 x 22 x 195
4 - BASE PL 126 x 22 x 230
4 - RIB PL 114 x 22 x 183
8 - TCB M22 x 90 (S10T)

1組当たり材料 (製作数: 2組)
4 - BASE PL 200 x 22 x 195
4 - BASE PL W5 x 22 x 230
4 - RIB PL W3 x 22 x 183
8 - TCB M22 x 90 (S10T)

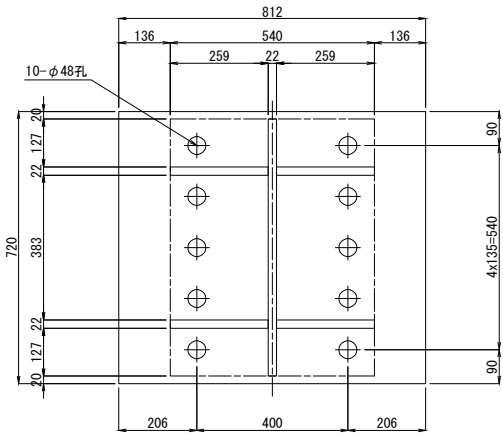
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	94 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)
下部工付けブラケット詳細

正面図

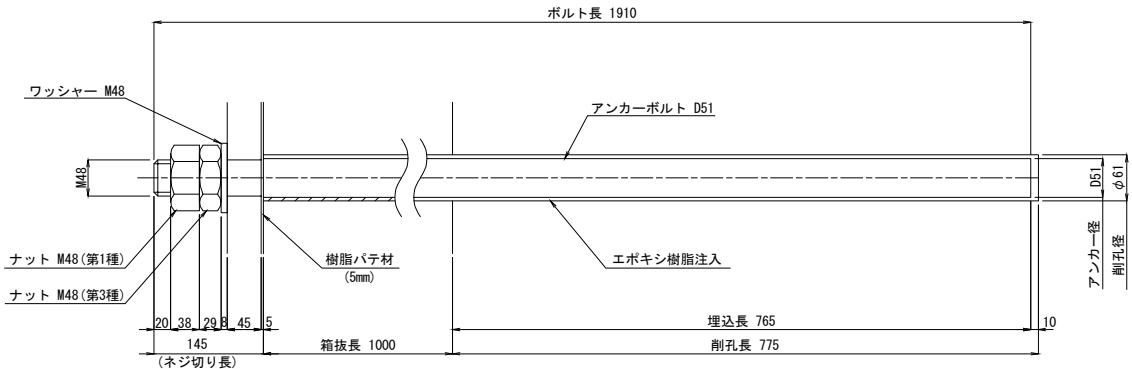


B - B



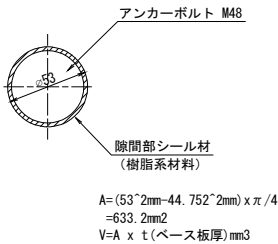
- 1組当たり材料 (製作数: 4組)
- 1 - BASE PL 1878 x 45 x 2080 (SM520C)
 - 1 - BASE PL 720 x 40 x 812 (SM490YB)
 - 1 - FLG PL 611 x 22 x 2068
 - 1 - FLG PL 566 x 22 x 2068
 - 1 - RIB PL 327 x 22 x 1836
 - 1 - RIB PL 675 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 715 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 755 x 32 x 1836
 - 1 - RIB PL 543 x 22 x 1836
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 373
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 713 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338
 - 1 - RIB PL 753 x 22 x 338 (切欠き有)
 - 2 - RIB PL 606 x 22 x 521
 - 24 - ANCHOR BOLT D51 x 1910 (SD345)
 - 24 - NUT M48 (第1種) (SS400)
 - 24 - NUT M48 (第3種) (SS400)
 - 24 - Washer M48 (SS400)

制震構造 アンカーエφ61・775 (水平方向) S=1:10

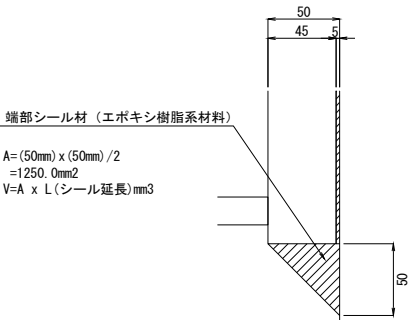


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト孔周り詳細図 S=1:5



縁部シール材詳細図 S=1:5

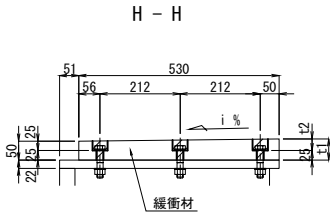
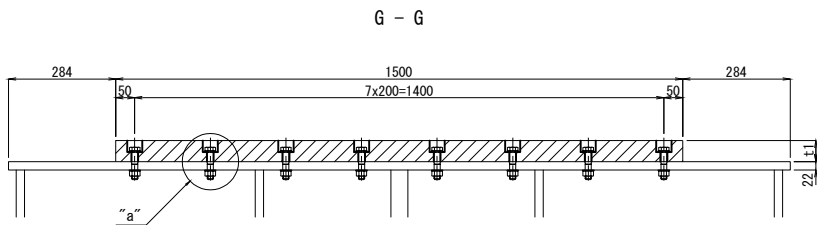
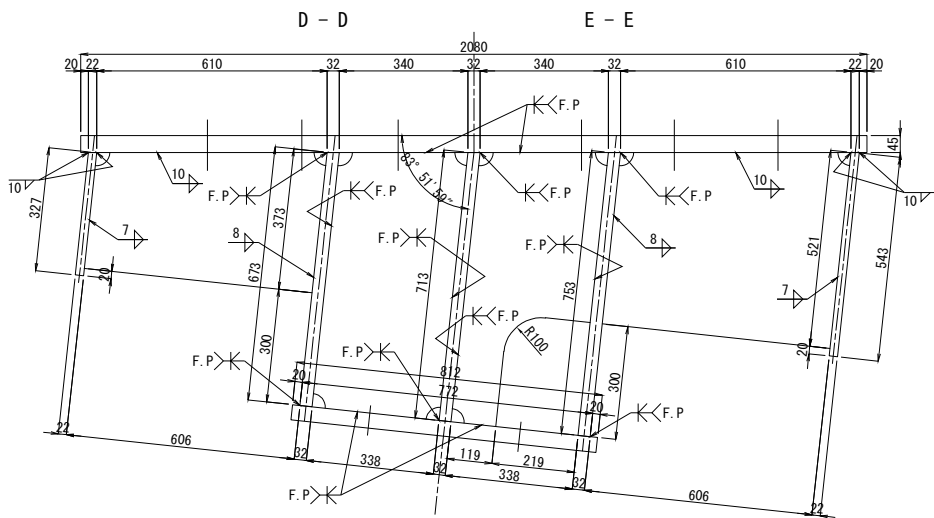
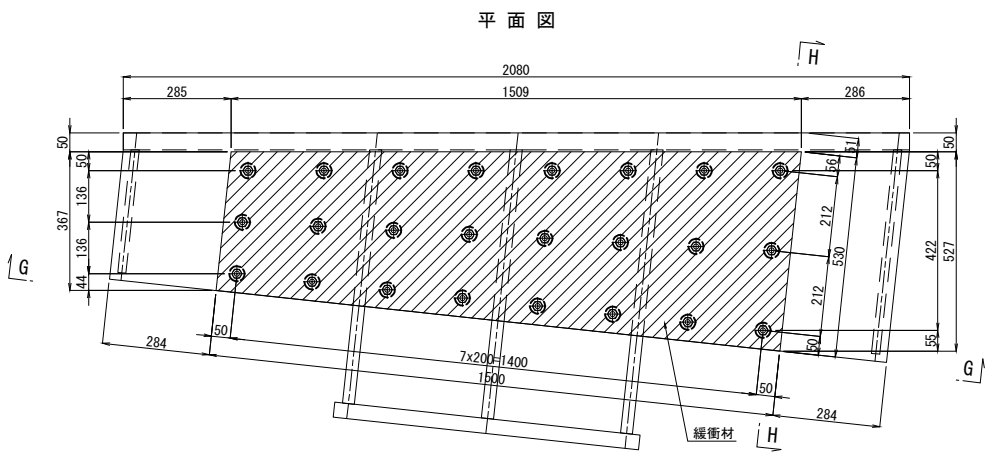
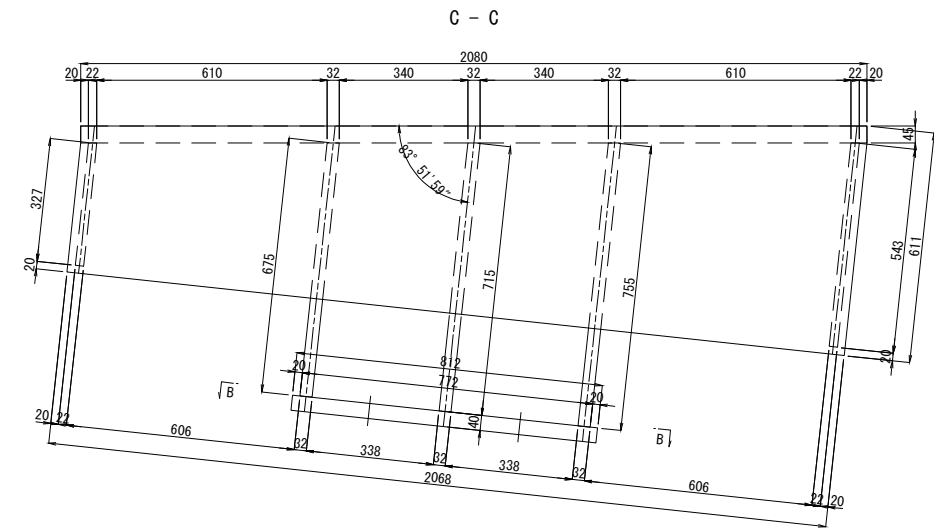


- 注記
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップはR35とする。
 - 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 - 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)
 - アンカーボルトを配置する際には鉄筋検査を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	95 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500(±150)

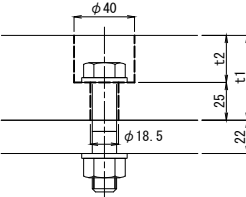
緩衝材取付部詳細



	G6	G7	G8	UG1
t1	60	60	59	58
t2	35	35	34	33
i (%)	1.9	1.8	1.7	1.6

〈新設部材〉
1組当たり材料 (製作数 : 4組)
24-BN M16 x85 (2-W) (22+25+35=82-L=85)
1-緩衝材 527 x t1 x1509(クロロブレンゴム 硬度55° ±5°)

“a”部詳細 S=1:5



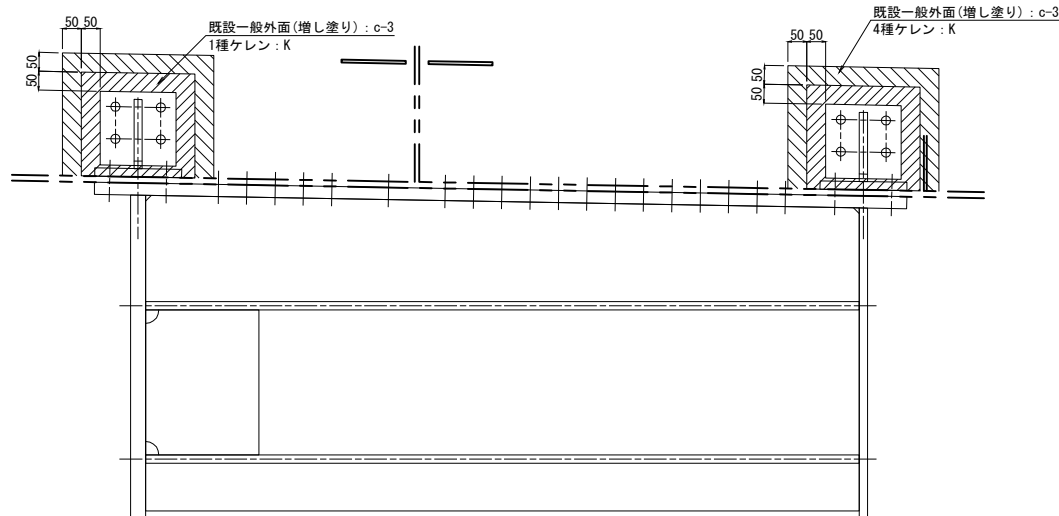
- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップはR35とする。
 3. 詳細寸法は、現地実測の上決定の事。
 4. 鋼材は、全て溶融亜鉛メッキ処理とする。
(膜厚は、JIS H8641 HDZT77とする。
但しボルト・ナット類の膜厚は、HDZT49とする。)

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 制震ダンパー取り付け詳細図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	96 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

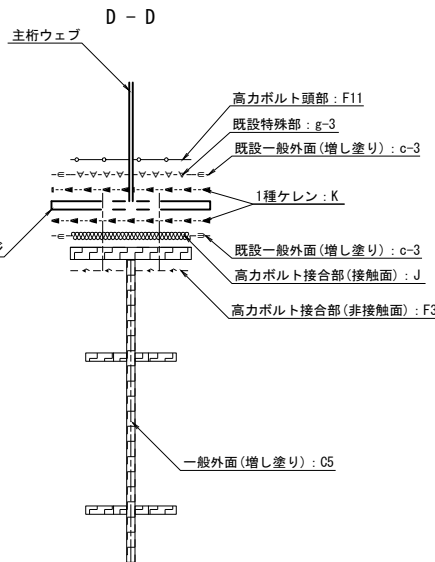
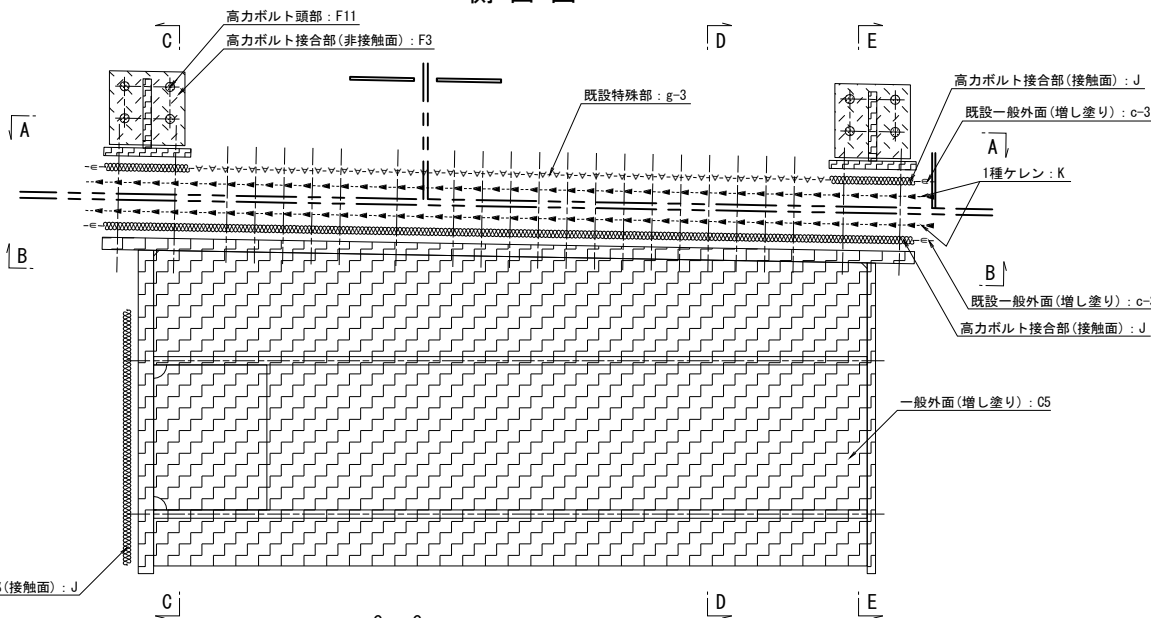
釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図

制震構造 制震ダンパー1500(±150)
上部工付けブラケット

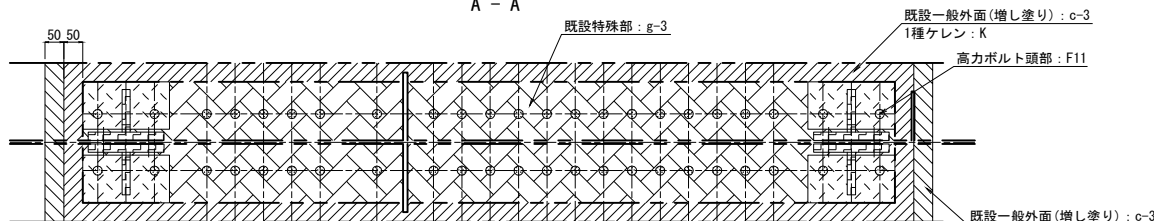
側面図



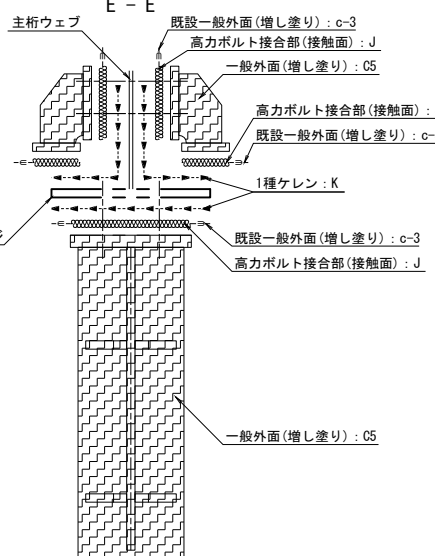
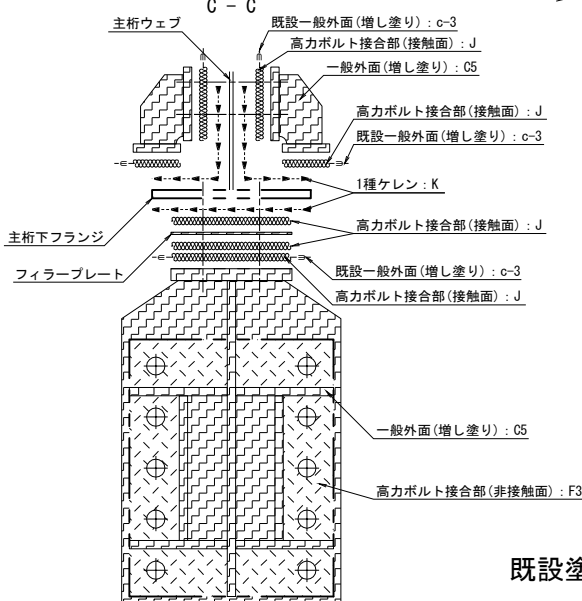
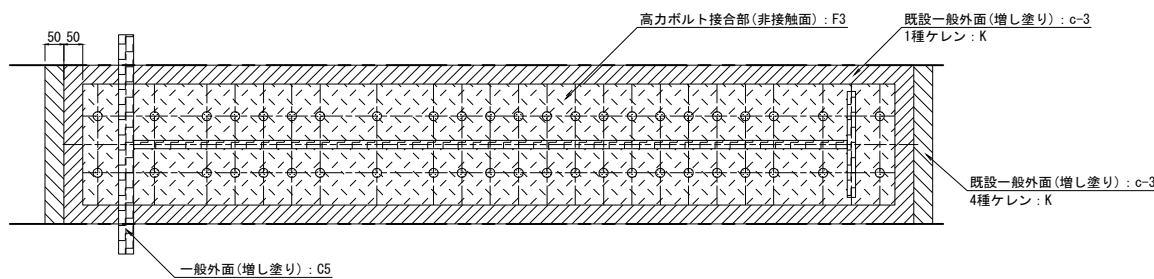
側面図



A - A

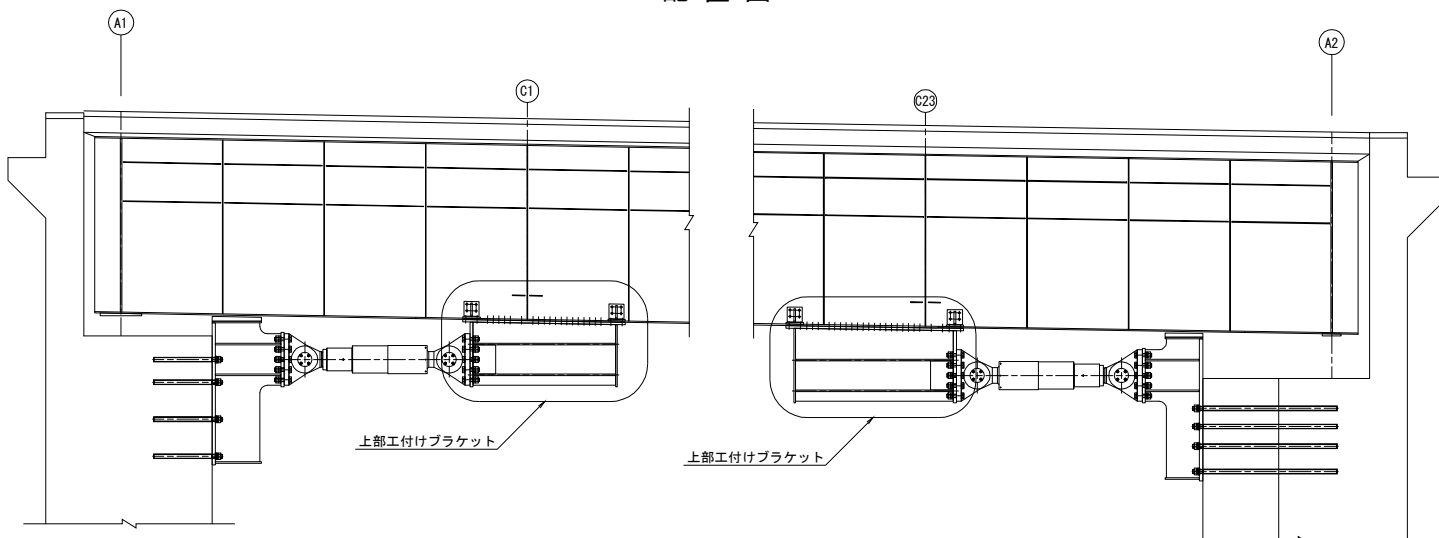


B - B



既設塗膜との境界部の処理 S=1:4

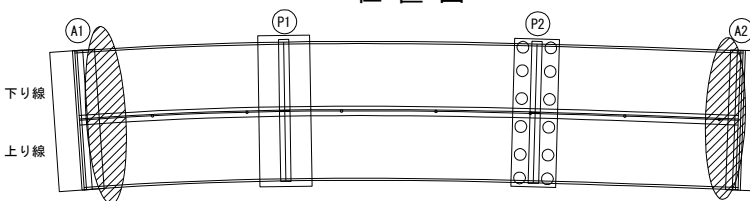
配置図



凡例

一般外面(増し塗り)	C5	: ~~~~~	
高力ボルト接合部(非接触面)	F3	: - - - - -	
高力ボルト頭部	F11	: ○ ○ ○	
高力ボルト接合部(接触面)	J	: ■ ■ ■	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: ▨ ▨ ▨	
既設一般外面(増し塗り)	c-3	: ▩ ▩ ▩	
既設特殊部	g-3	: ▧ ▧ ▧	
1種ケレン	K	: ▤ ▤ ▤	

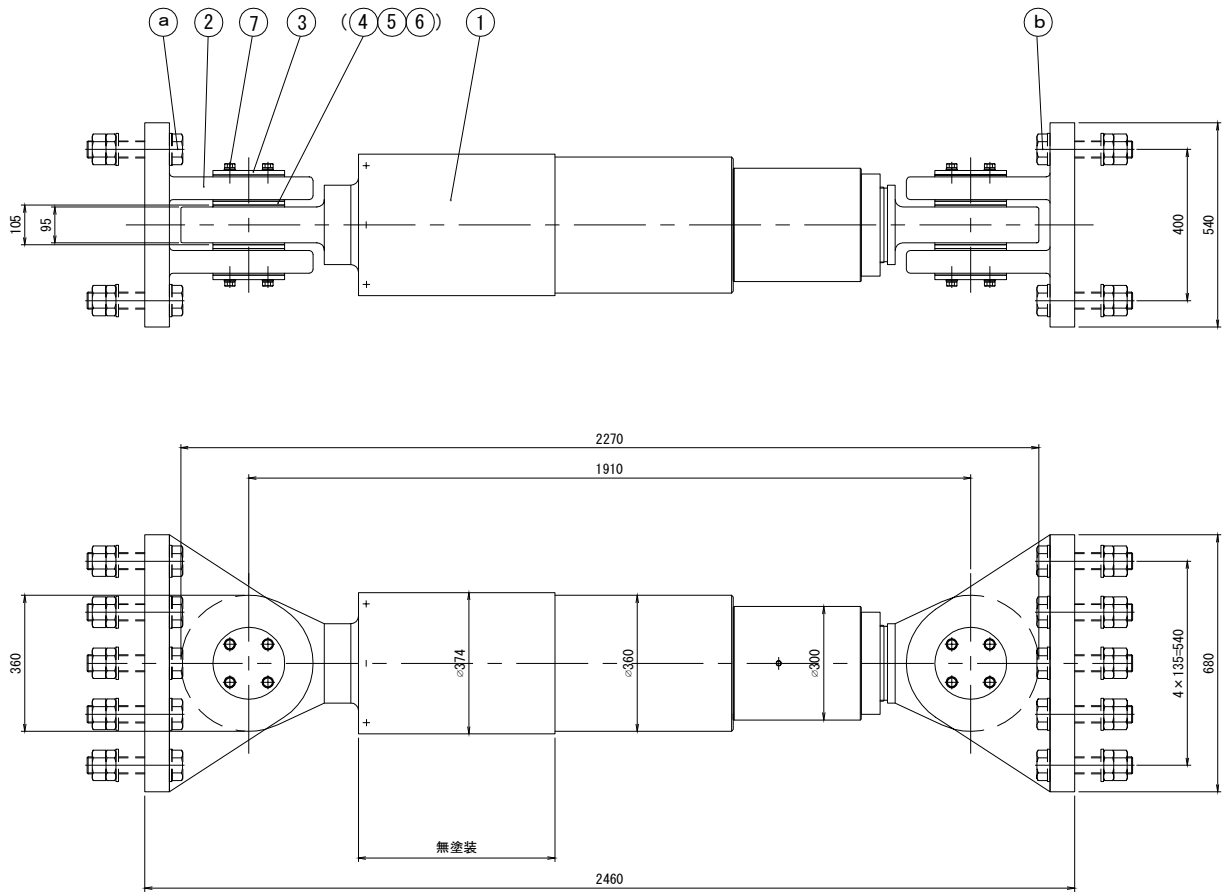
位置図



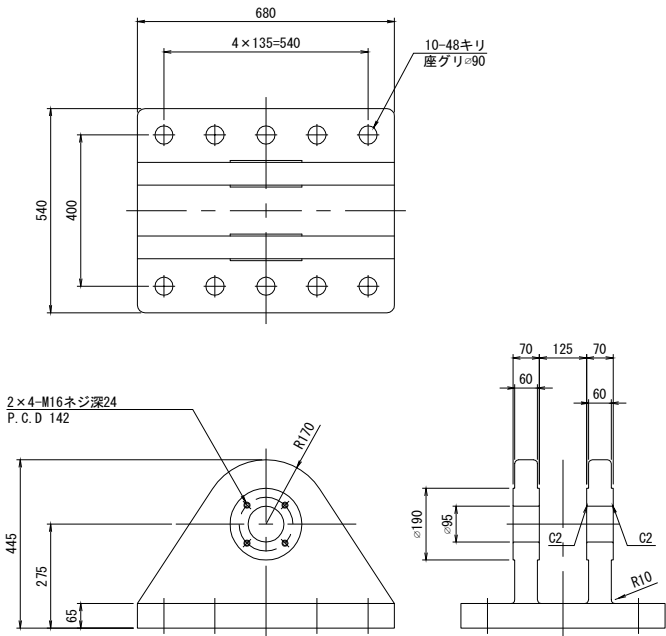
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー取付け部塗分け区分図		
縮 尺	図 示	図面番号	97 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

制震構造 制震ダンパー1500 (±150)
(参考図)

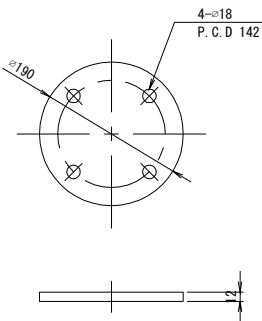
① 制震ダンパー



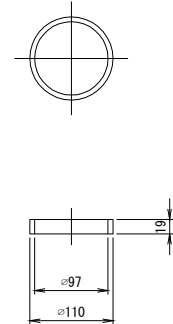
② ニ山クレビス



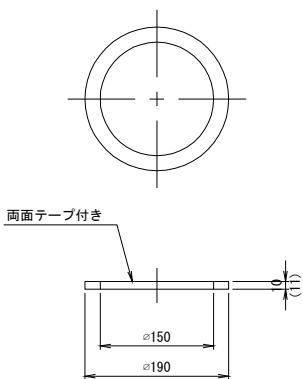
③ カバープレート S=1:10



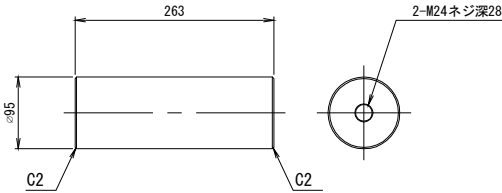
④ カラー S=1:10



⑤ 球面軸受パッキン S=1:10



⑥ ピン S=1:10



⑦ 六角ボルト 中 M16×40
(1-ばね座金, 平座金)

8.8

材料表

部番	部 品 名 称	材 質	個 数	質 量 (kg)	備 考
⑦	六角ボルト・ナット	-	10		JIS B 1180 JIS B 1181 (2-平座金)
⑧	六角ボルト・ナット	-	10		JIS B 1180 JIS B 1181 (2-平座金)

注5) 特に指定なき場合、○印は溶融亜鉛メッキ仕様とする。

- ⑦ 六角ボルト 中 M45× 8.8
六角ナット 中 M45 8 (1種, 3種)
(2-平座金)
⑧ 六角ボルト 中 M45× 8.8
六角ナット 中 M45 8 (1種, 3種)
(2-平座金)

注6) ⑦ ⑧の六角ボルトをねじ込み固定の際は、平座金、ばね座金各1枚使用を推奨。

規格表

ダンパー仕様			
抵抗 力	F	1500 kN	
ストローク	δ	± 150 mm	
鋼製部材設計力	P	1950 kN	
移 動 量			
L2地震時最大変位	δ_e	± 92 mm	
片温度変化移動量	Δt	± 13 mm	
施工誤差吸収量	δ_o	± 15 mm	

注) ストロークは
L2地震時最大移動量+片温度変化移動量+施工誤差吸収量以上を
確保することを基本とする。

材料表

部番	部 品 名 称	材 質	個 数	質 量 (kg)	備 考
①	制震ダンパー	-	1	1002.5	
②	ニ山クレビス	S440N またはS440A	2	655.4	
③	カバープレート	SS400	4	10.3	
④	カラー	SS400	4	1.3	
5	球面軸受パッキン	クロロブレンス ポリシヨム	4	0.1	
6	ピン	SUS630	2	28.8	
⑦	六角ボルト	-	16	1.9	JIS B 1180 (1-ばね座金, 平座金)
				1700.3	(kg)

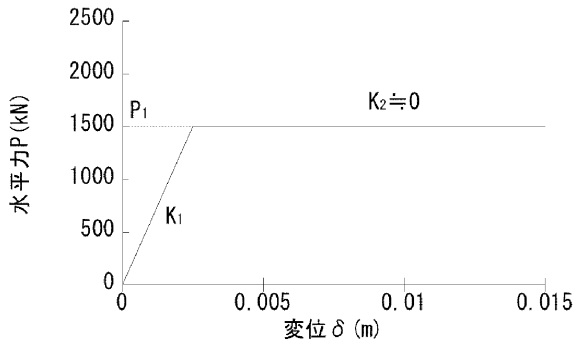
注1) △印は塗装仕様、○印は溶融亜鉛メッキ仕様とする。

注2) 上部工とダンパー本体を結ぶ上部工架台および下部工とダンパー本体を結ぶ下部工架台は、⑦⑧六角ボルト締付け完了後に上下部工架台と上下部工を本固定すること。

注3) ダンパー本体長さ寸法は、ストローク中立位置（伸びる側にも縮む側にも、表記ストローク値だけ伸縮可能なセンター位置）での長さ寸法。

1) 制震ダンパー特性図

・1500kN＜摩擦履歴型＞

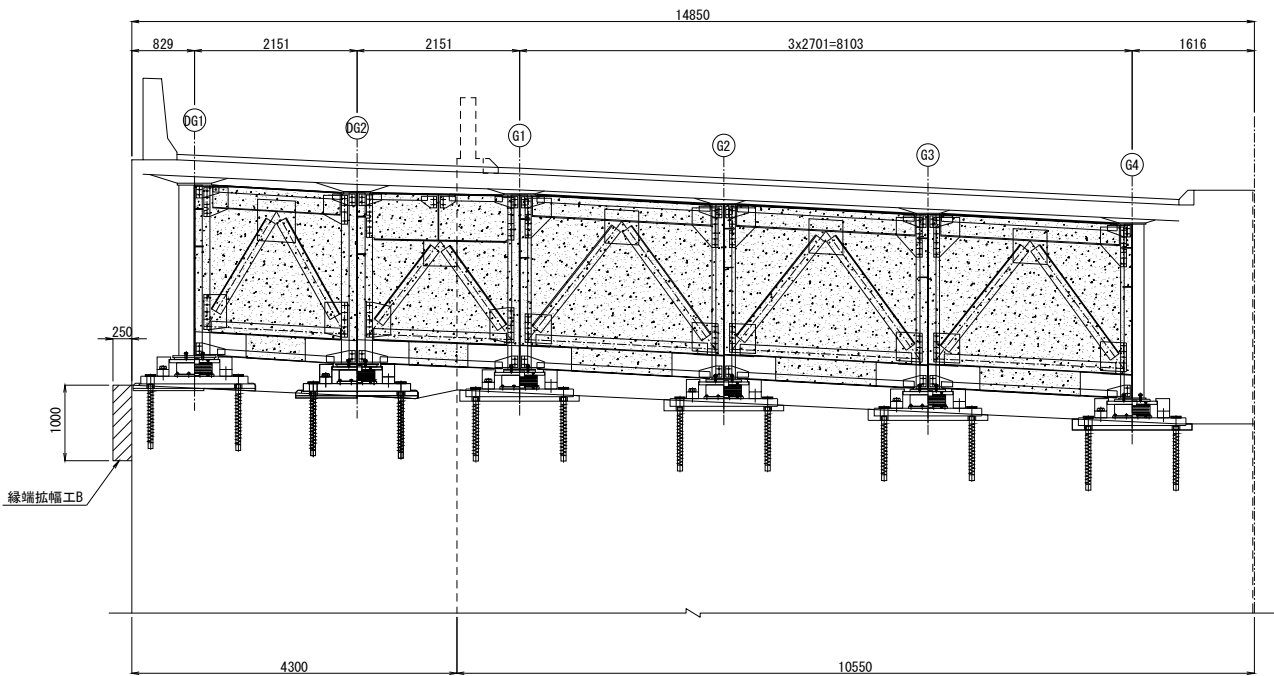


K1 (kN/m)	600000.00
P1 (kN)	1500.00

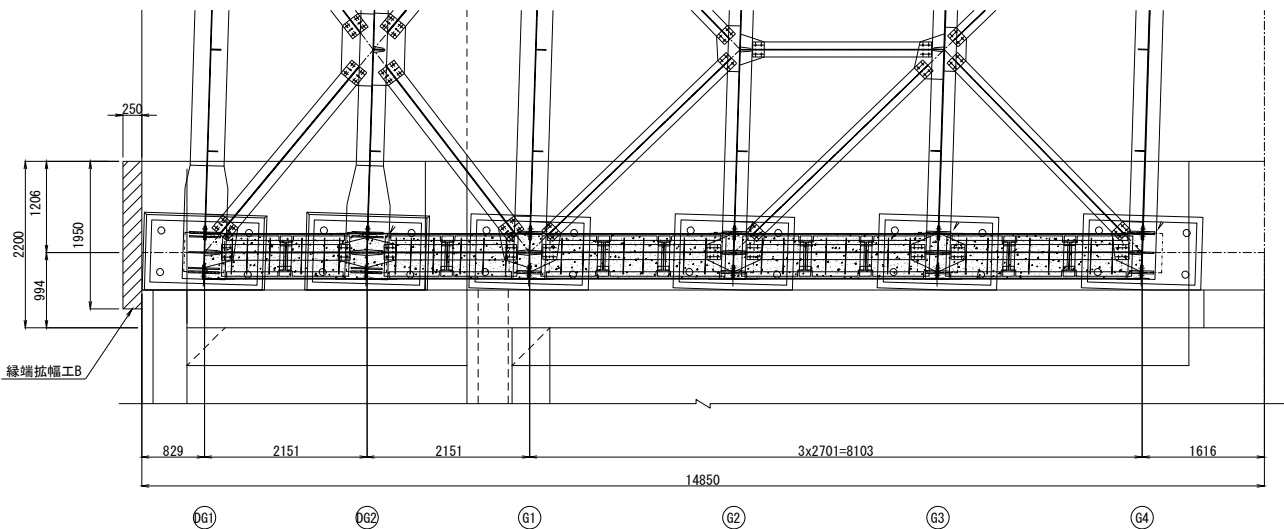
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 制震ダンパー詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	98 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

橋軸直角方向

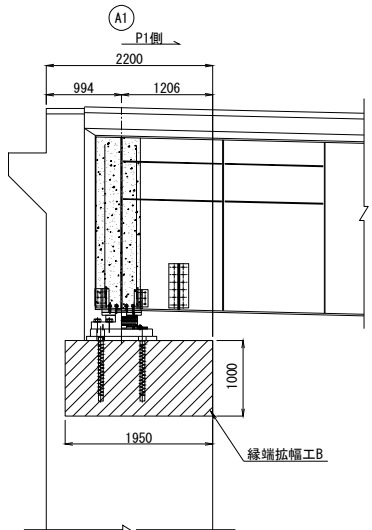
断面図



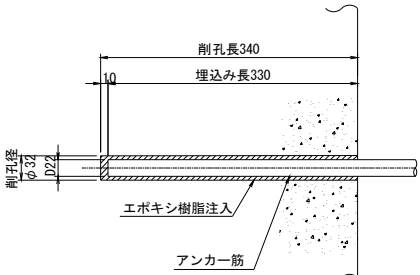
平面図



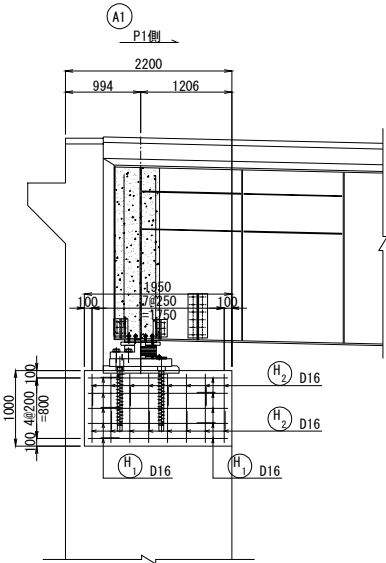
側面図(拡幅部①)



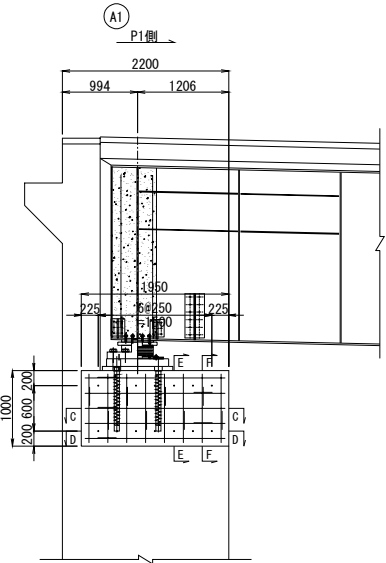
縁端拡幅工B
アンカーエφ32・340(水平方向) 縮尺 1:10



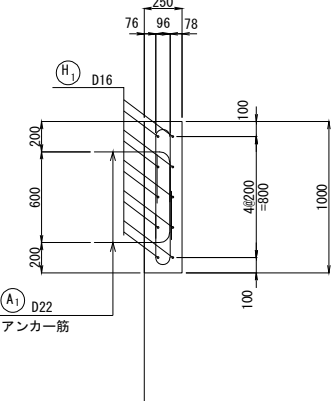
A - A



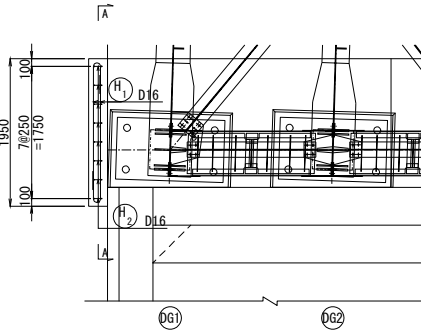
B - B



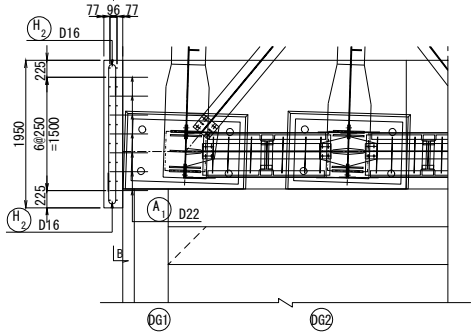
E - E 縮尺 1:50



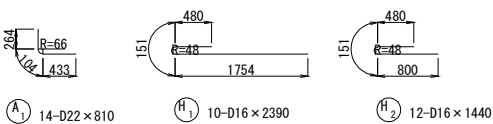
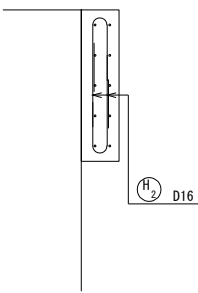
C - C



D - D



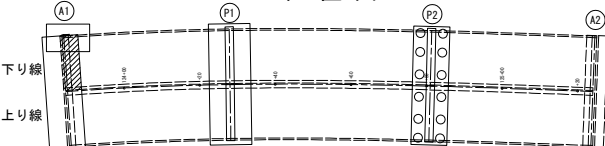
F - F 縮尺 1:50



縁端拡幅工B
鉄筋

鉄筋質量表						
種別	径	長さ(mm)	本数	単位質量(kg/m)	1本当り質量(kg)	質量(kg)
A 1	D22	810	14	3.04	2.46	34
H 1	D16	2390	10	1.56	3.73	37
H 2	D16	1440	12	1.56	2.25	27
小計					98	kg
鉄筋質量合計						
					D22	34 kg
					D16	64 kg
					合計	98 kg

位置図



鉄筋加工寸法表

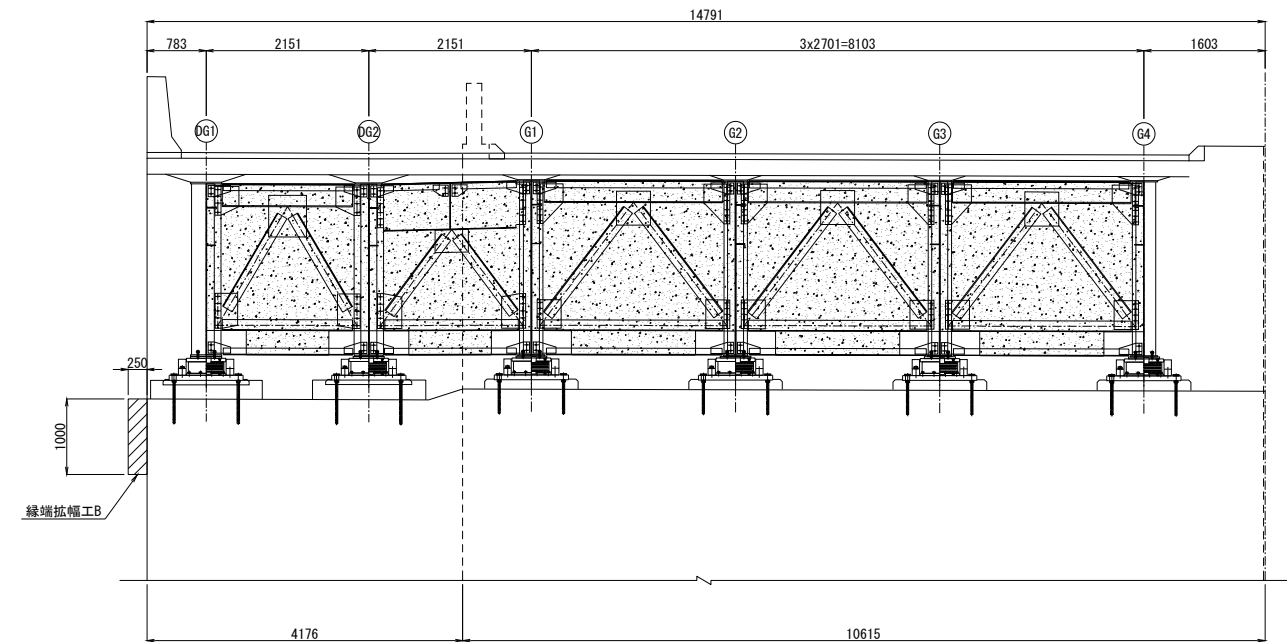
鉄筋加工寸法表							
φ	θ=90°				θ=180°		
	R	a	Δ l	R	a	b	Δ l
D13	39	61	17	39	122	120	242
D16	48	75	21	48	151	128	279
D19	57	89	25	57	179	152	331
D22	66	104	28	66	207	176	383
D25	75	118	32	75	236	200	436
D29	87	137	37	87	273	232	505
D32	96	151	41	96	301	256	557
D35	105	165	45	105	330	280	610
D38	114	179	49	114	358	304	662
D51	153	240	66	153	480	408	888

- 注記)
1. 施工の際には、現場計測を行うこと。
 2. 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、既設鉄筋を切断しないようにすること。
 3. 施工数量は、現場計測後に監督員と協議の上決定すること。
 4. 支保アンカーの位置が変更となった場合は、必要支保縁端距離を確保できるよう寸法の変更を行うこと。
 5. アンカーピッチは7.5d以上かつ300mm以下。

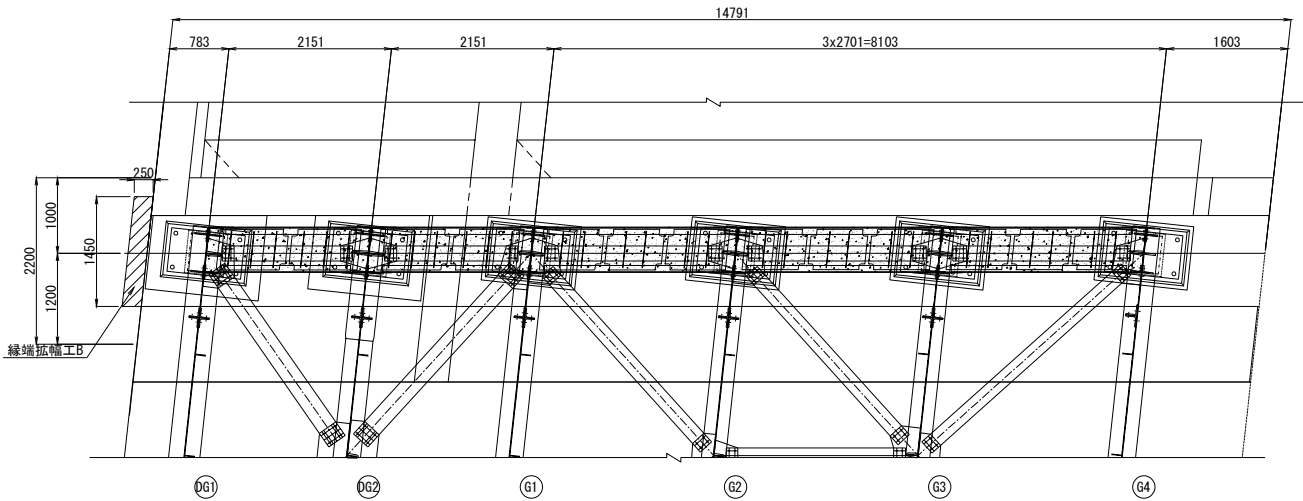
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A1橋台(下り線) 縁端拡幅工B		
縮 尺	図 示	図面番号	99 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

橋軸直角方向

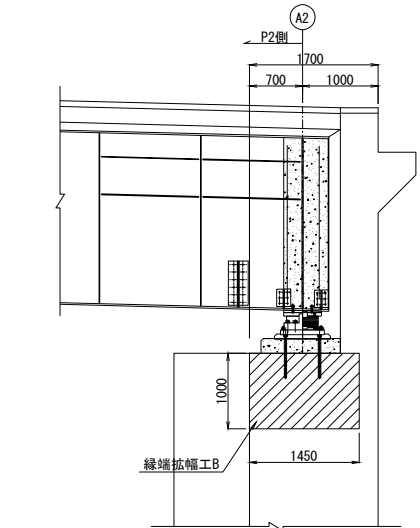
断面図



平面図

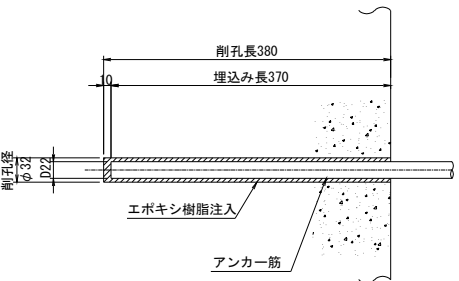


側面図(拡幅部①)

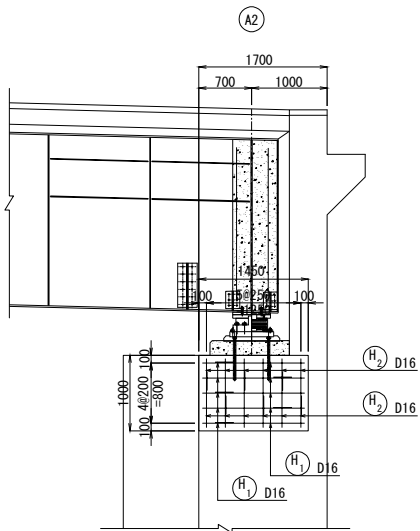


縁端拡幅工B

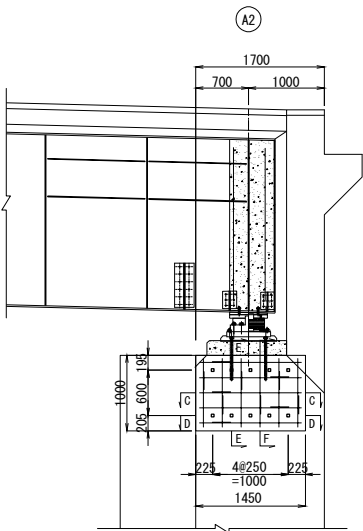
アンカーエφ32・380（水平方向） 縮尺 1:10



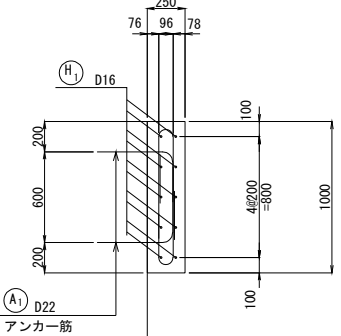
A - A



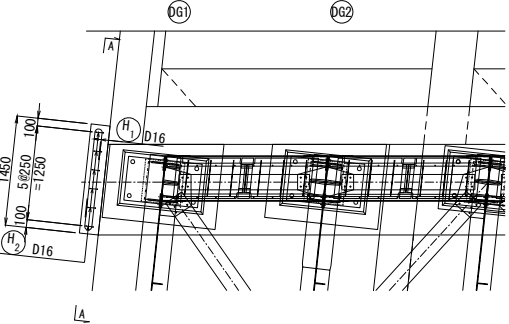
B - B



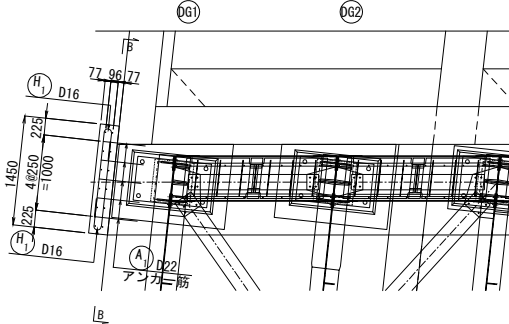
E - E 縮尺 1:50



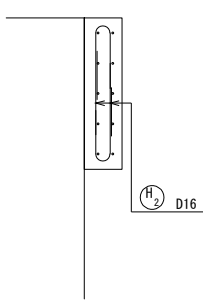
C - C



D - D



F - F 縮尺 1:50

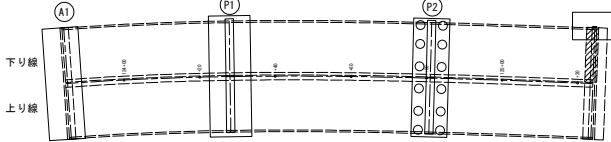


縁端拡幅工B

鉄筋

鉄筋質量表						
種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)
A 1	D22	850	10	3.04	2.58	26
H 1	D16	1890	10	1.56	2.95	30
H 2	D16	1190	12	1.56	2.25	27
小計						83 kg
鉄筋質量合計						
					D22	26 kg
					D16	57 kg
					合計	83 kg

位置図



鉄筋加工寸法表

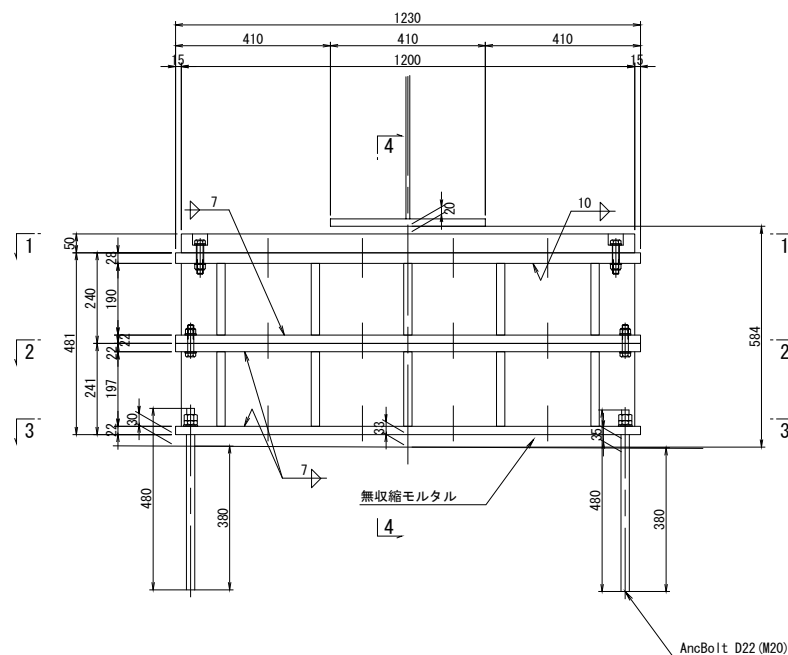
φ	θ=90°			θ=135°		
	R	a	Δ l	R	a	Δ l
	φ	a	Δ l	φ	a	Δ l
D13	39	61	17	71.5	56	3
D16	48	75	21	88	69	4
D19	57	89	25	104.5	82	5
D22	66	104	28	121	95	5
D25	75	118	32	137.5	108	6
D29	87	137	37	159.5	125	7
D32	96	151	41	176	138	8
D35	105	165	45	192.5	151	8
D38	114	179	49	209	164	9
D41	123	193	53	225.5	177	10
D51	153	240	66	280.5	220	12

- 注記)
- 施工の際には、現場計測を行うこと。
 - 施工にあたっては事前に鉄筋探査を行い、既設鉄筋を切断しないようにすること。
 - 施工数量は、現場計測後に監督員と協議の上決定すること。
 - 支保アンカーの位置が変更となった場合は、必要支保縁端距離を確保できるような寸法の変更を行うこと。
 - アンカーピッチは7.5d以上かつ300mm以下。

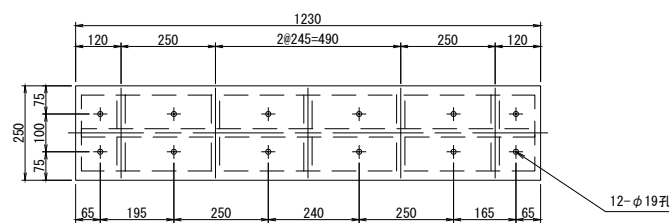
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台（下り線） 縁端拡幅工B		
縮 尺	図 示	図面番号	100 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

正面図

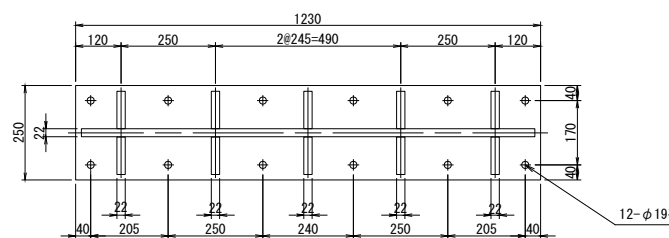
(W=1230mm)



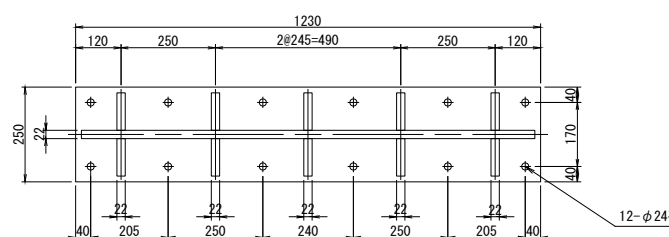
1-1



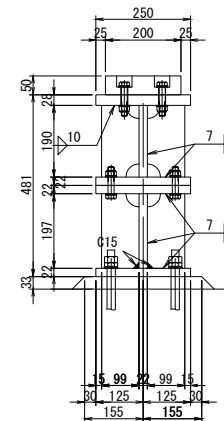
2-2



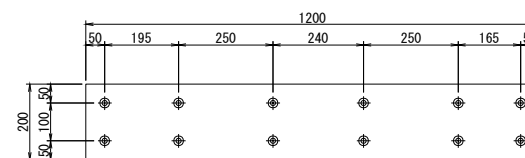
3-3



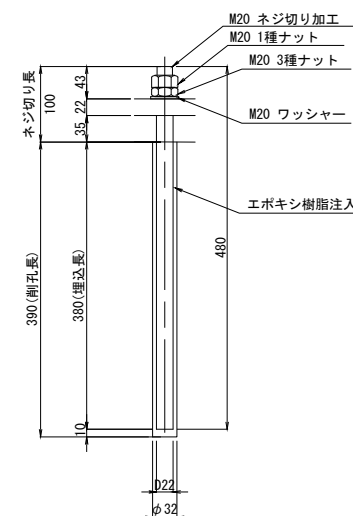
4-4



緩衝ゴム詳細



段差防止構造M
アンカー工 $\phi 32 \cdot 390$ (下方向) S=1:10

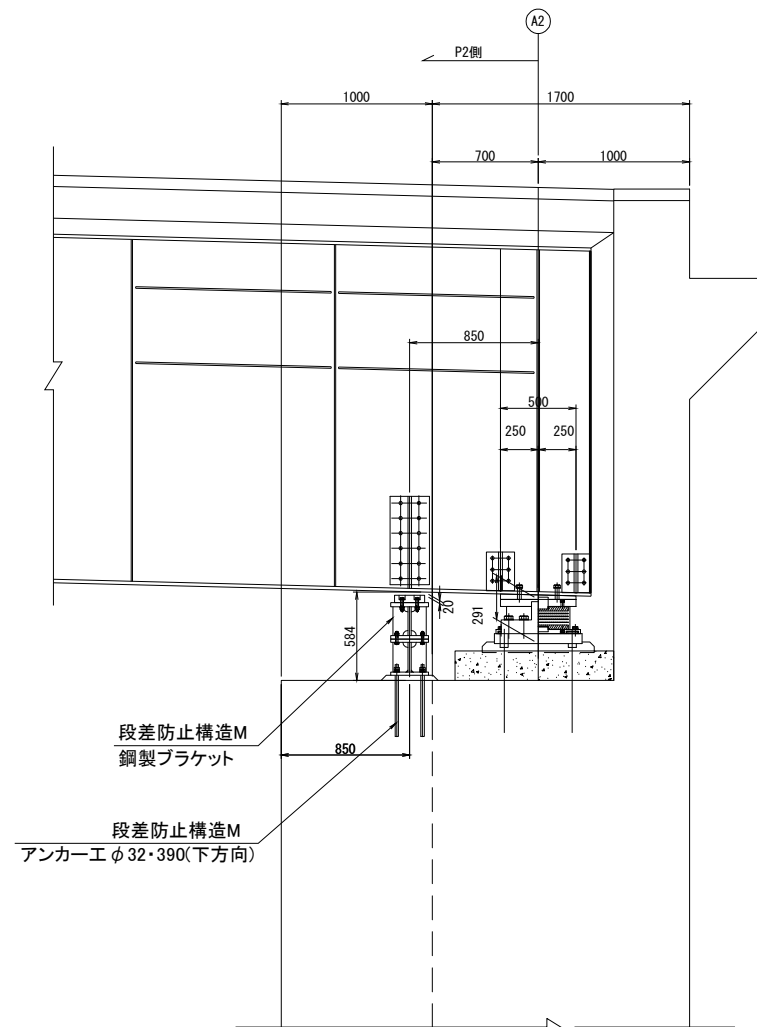


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

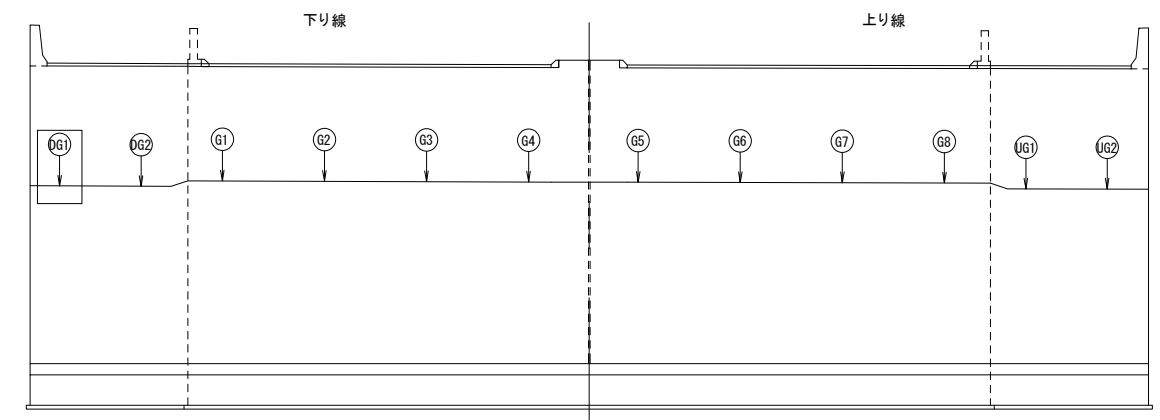
1基当り(製作数: 1)

1-クロブレングム 200x50x1200(硬度55 ±5°)
 12-BN M16x90 (1-Uナット 2-W) (SS400)
 1-Fig PL 250x22x1230 (SM490Y)
 1-Fig PL 250x22x1230
 1-Web PL 190x22x1200
 1-Web PL 197x22x1200
 10-PL 99x22x190
 10-PL 99x22x197
 12-BN M16x85 (1-Uナット 2-W) (SS400)
 12-Bolt B2x48 (SS345)
 12-1種 Nut M20用 (SS400)
 12-2種 Nut M20用 (SS400)
 12-座金 M20用 (SS400)

配置図 側面図(DG1) S=1:50



配置図 S=1:200

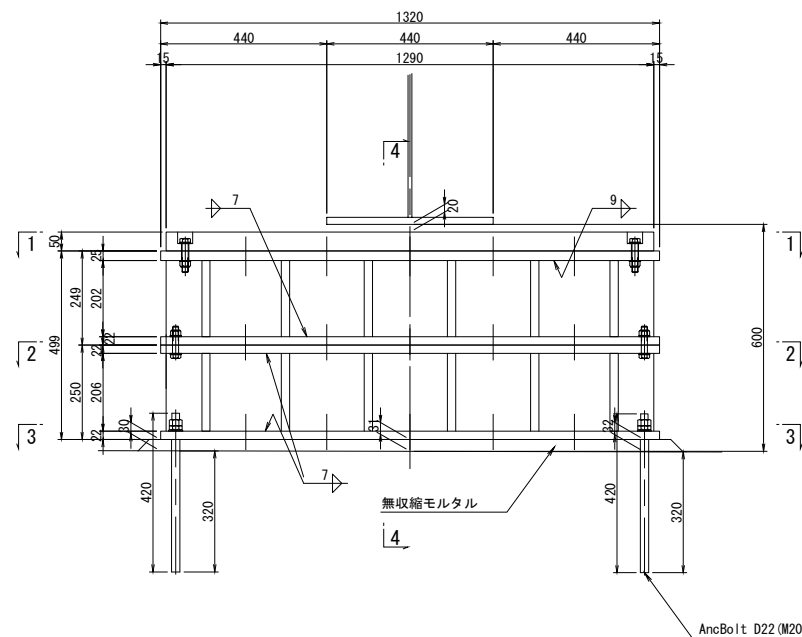


注記)

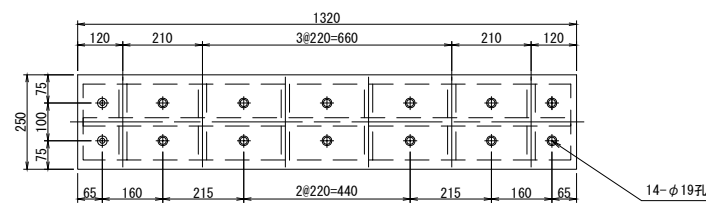
- 注記)
- 1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
 - 2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行うこと。
 - 3. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 - 4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
標準付着量は、鋼材：HDZ777 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類：HDZ749 とする。
 - 5. 特記なきスカラーナットは全て35Rとする。

横浜横須賀道路 金井谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金井谷第二高架橋 A2橋台(下り線) 段差防止構造詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	101 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

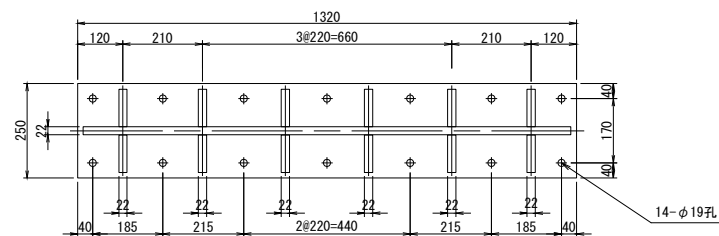
正面図



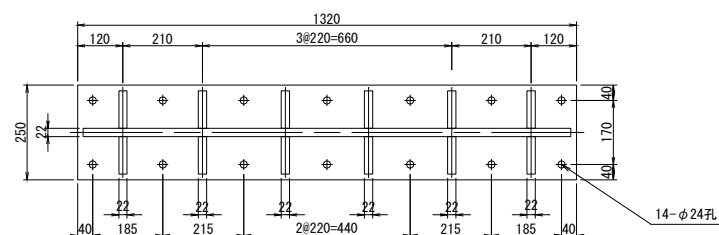
1-1



2-2

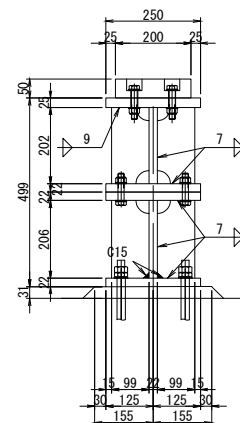


3-3

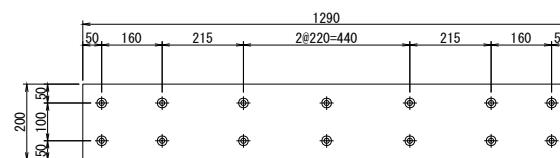


(W=1320mm)

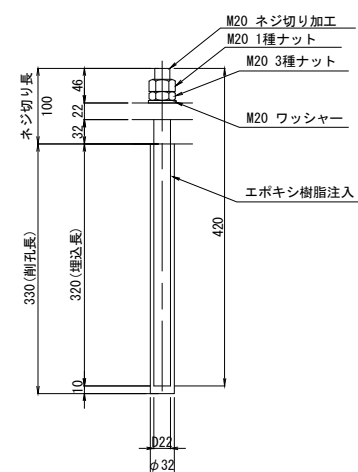
4-4



緩衝ゴム詳細



段差防止構造M
アンカー工 $\phi 32 \cdot 330$ (下方向)



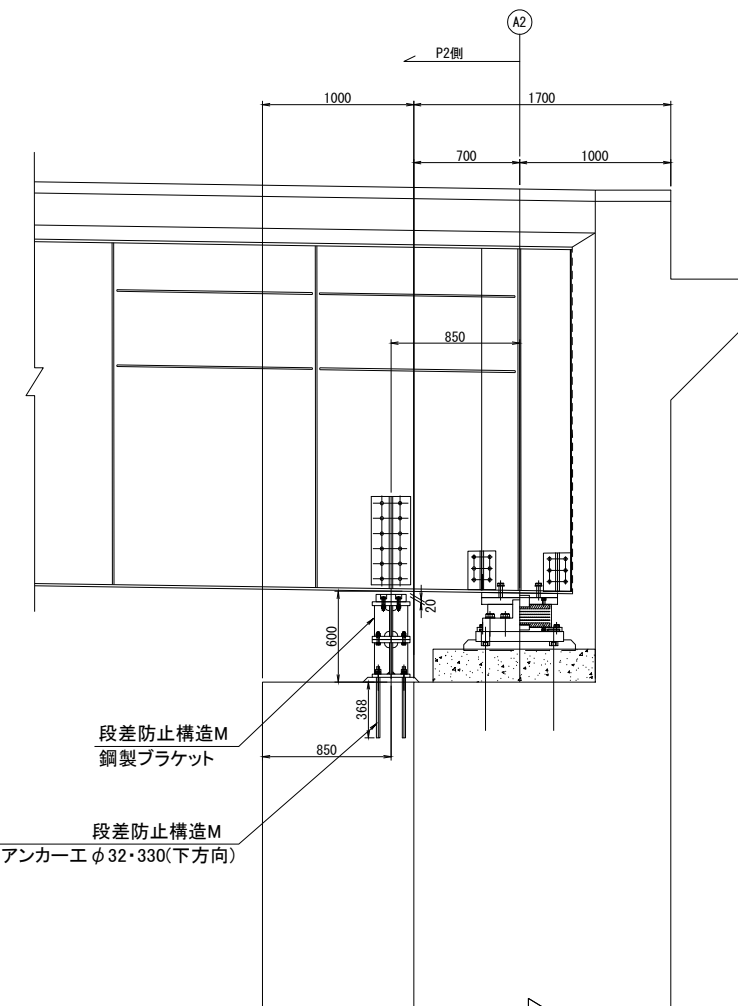
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

1基当り(製作数: 1)

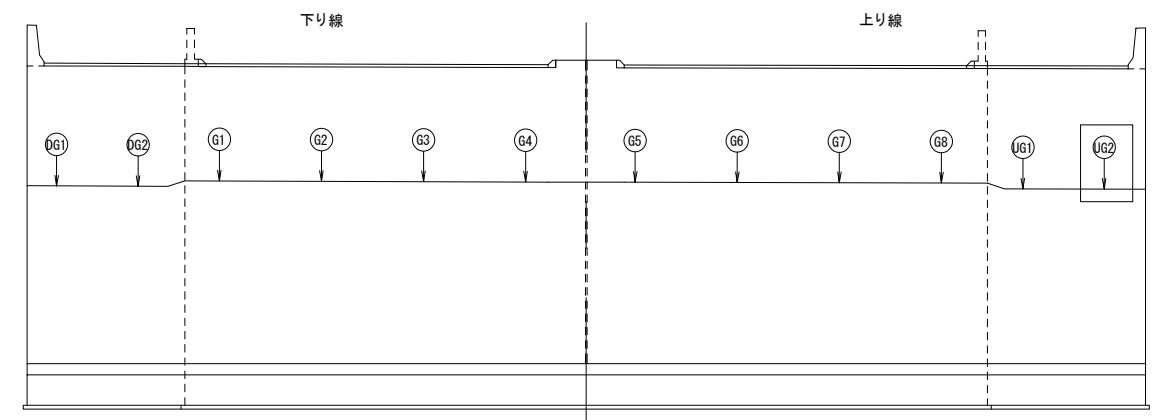
1-クロロブレングム 200x50x1290(硬度55 ±5°)

- 14-BN M16x90 (1-Uナット 2-W) (SS400)
- 1-FI PL 250x25x1320 (SM490F)
- 3-FI PL 250x25x1320
- 1-Web PL 202x22x1290
- 1-Web PL 206x22x1290
- 12-PL 99x22x202
- 12-PL 99x22x206
- 14-BN M16x85 (1-Uナット 2-W) (SS400)
- 14-種 Bolt D22x22x1290 (SS345)
- 14-1種 Nut M20用 (SS400)
- 14-3種 Nut M20用 (SS400)
- 14-座金 M20用 (SS400)

配置図 側面図(UG2) S=1:50



配置図 S=1:200



注記)

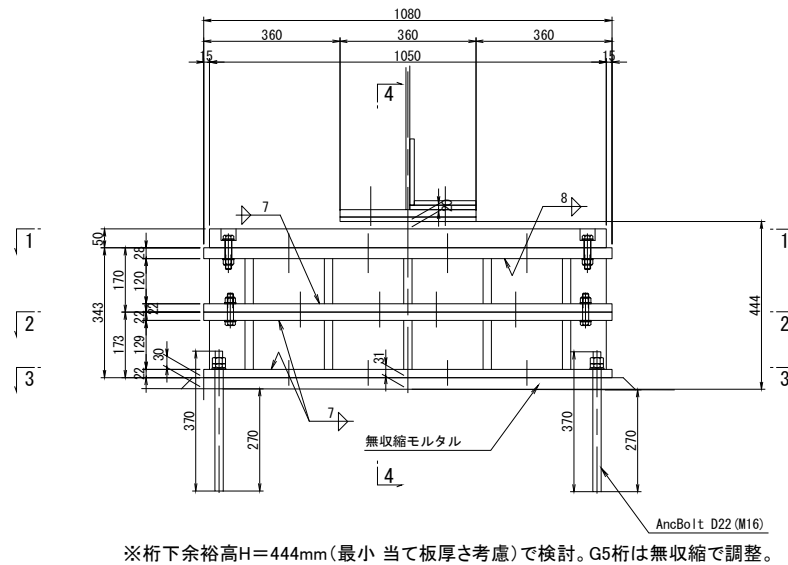
- (注記)
1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
 2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行っている。
 3. 材部加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
 4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
標準付着量は、鋼材：HDZ777 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類：HDZ749とする。
 5. 特記なきスカーフ材は全て3Rとする。

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 A2橋台(上り線) 段差防止構造詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	102 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

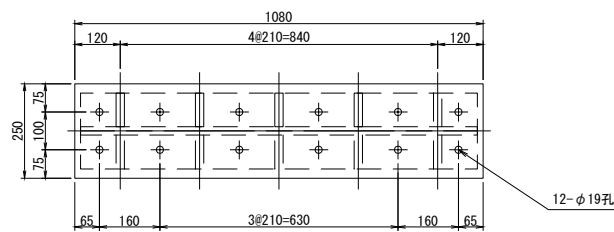
(W=1080mm)

配置図 側面図(G4) S=1:50

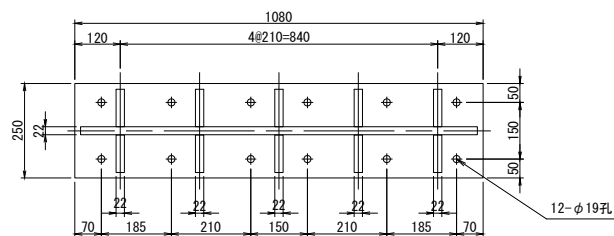
正面図



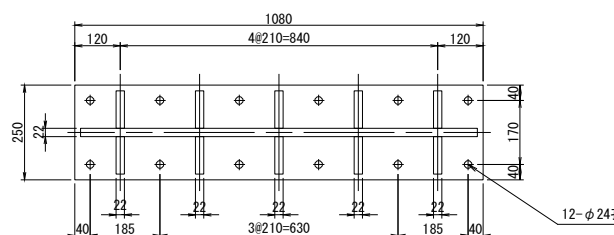
1-1



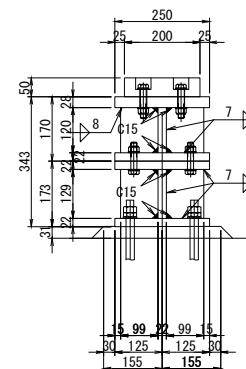
2-2



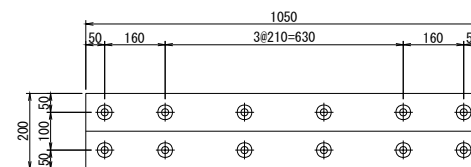
3-3



4-4



緩衝ゴム詳細

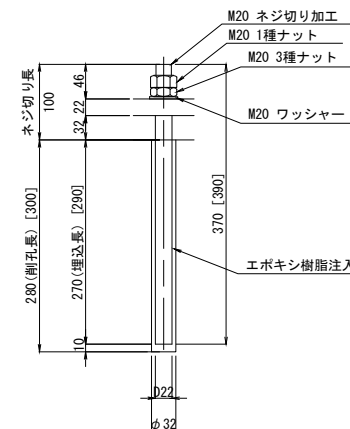


段差防止構造M
アンカー工 $\phi 32 \cdot 280$ (下方向)

段差防止構造M
アンカー工 $\phi 32 \cdot 300$ (下方向)

[]内はG5寸法

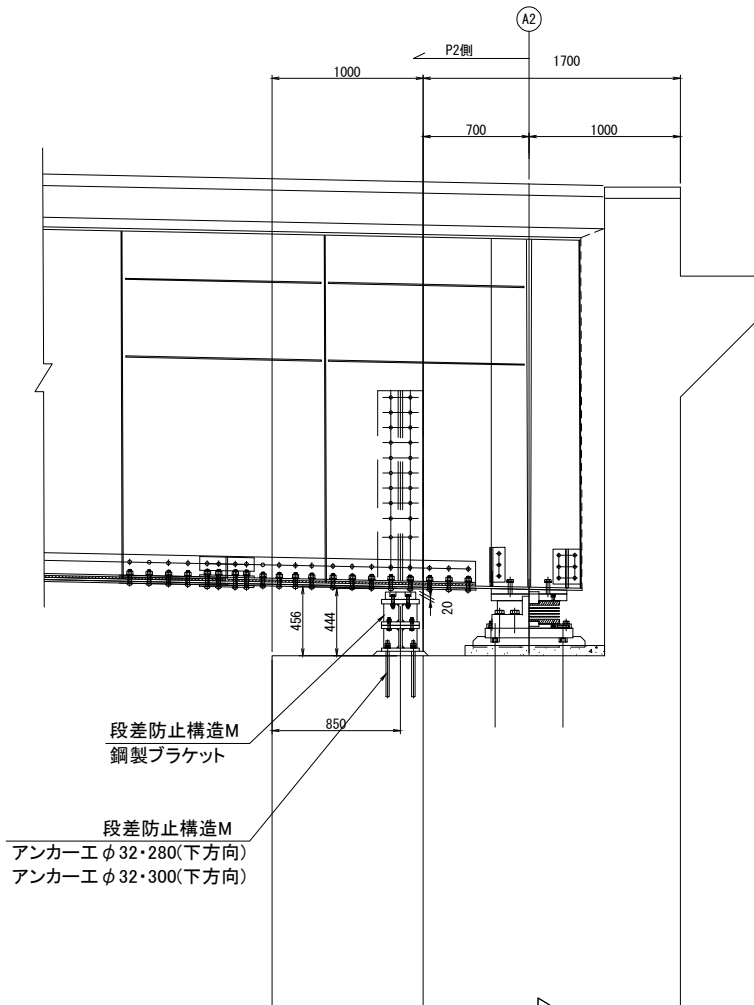
S=1:10



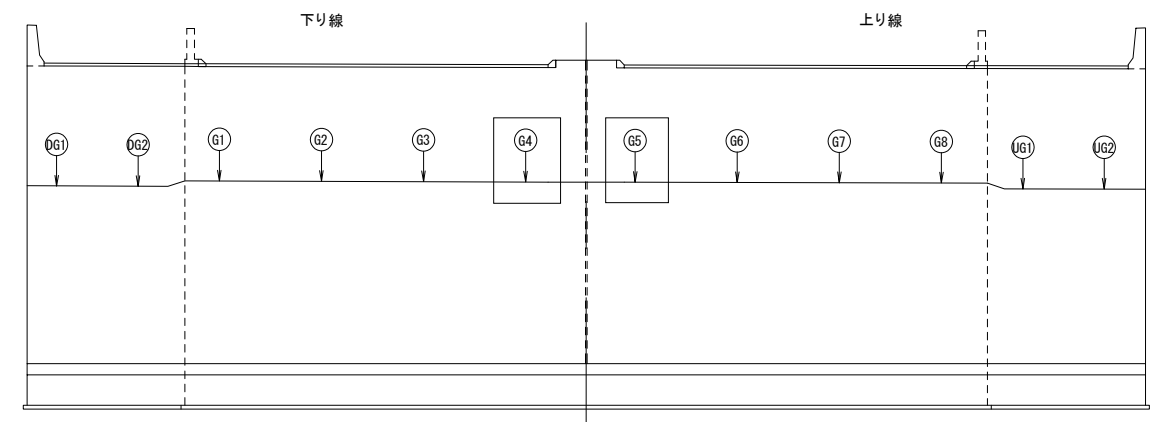
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

1基当り(製作数: 2) []内はG5寸法

1-クロロブレングラム 200x50x1050 (硬度 55 ±5°)
 12-BN M16x90 (1-Uナット 2-W) (SS400)
 1-Fig PL 250x28x1080 (SM947)
 1-Fig PL 250x22x1080
 1-Web PL 120x22x1050
 1-Web PL 129x22x1050
 10-PL 99x22x120
 10-PL 99x22x129
 12-BN M16x85 (1-Uナット 2-W) (SS400)
 12-Bolt D22x30 (D22x390) (SD345)
 12-1種 Nut M20用 (SS400)
 12-2種 Nut M20用 (SS400)
 12-3種 Nut M20用 (SS400)



配置図 S=1:200

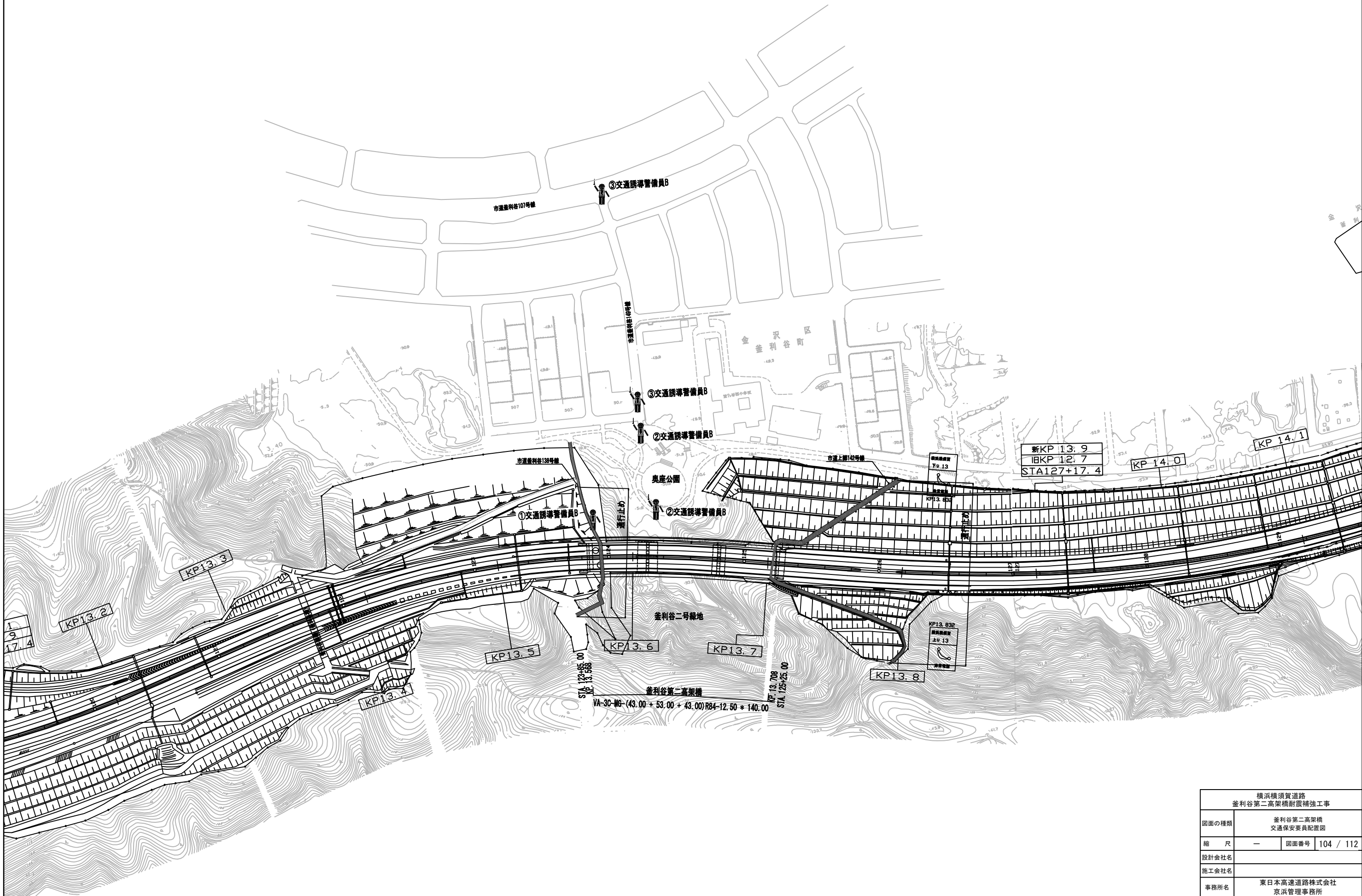


注記)

1. 特記なき材質は全てSM400A とする。
2. 本図の既設構造物の寸法は、完成図を基に作図を行うこと。
3. 部材加工・製作に際しては現地計測を行い、実測結果を反映のこと。
4. 下部工付部材は全て溶融亜鉛メッキを施し、付着量は JIS H8641 による。
標準付着量は、鋼材：HDZT77 ナット、ワッシャーおよびアンカーボルト類：HDZT49 とする。
5. 特記なきスカープ材は全て35Rとする。

<p align="center">横浜横須賀道路 金井谷第二高架橋耐震補強工事</p>			
図面の種類	<p align="center">金井谷第二高架橋 A2橋台(上下線) 段差防止構造詳細図</p>		
縮 尺	図 示	図面番号	103 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

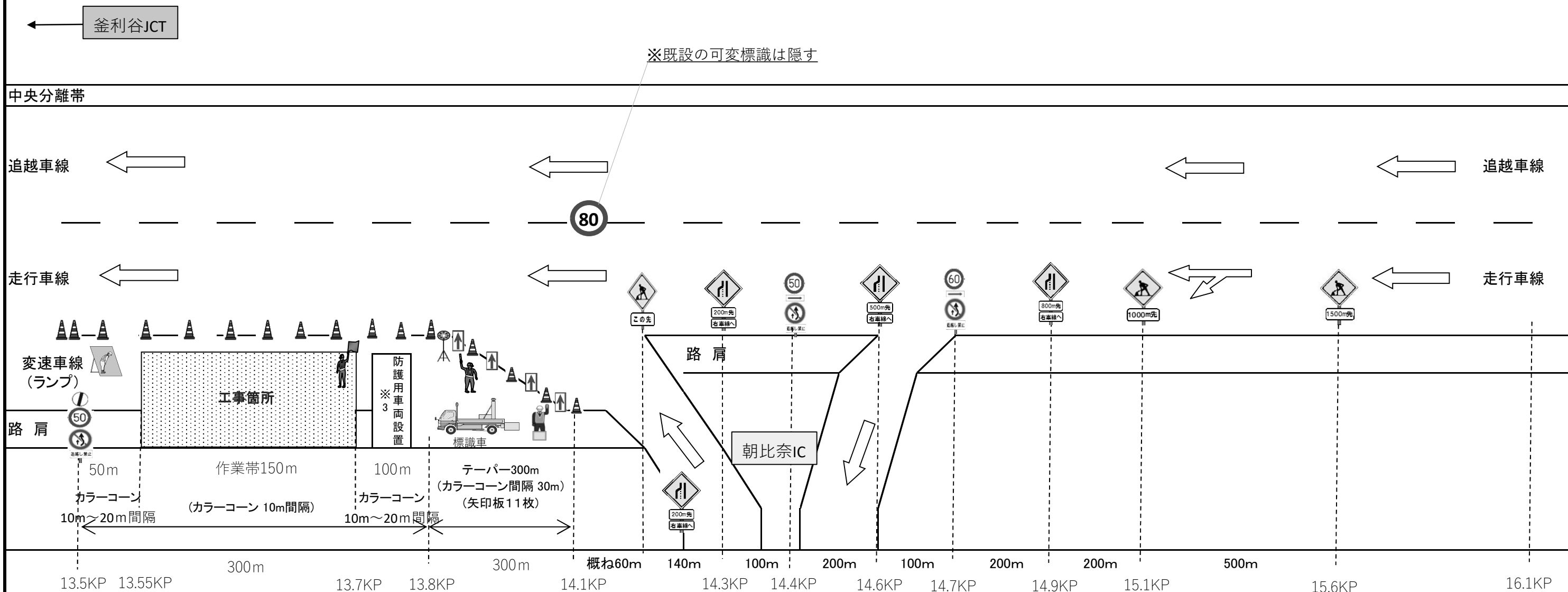
縦比率1/2000



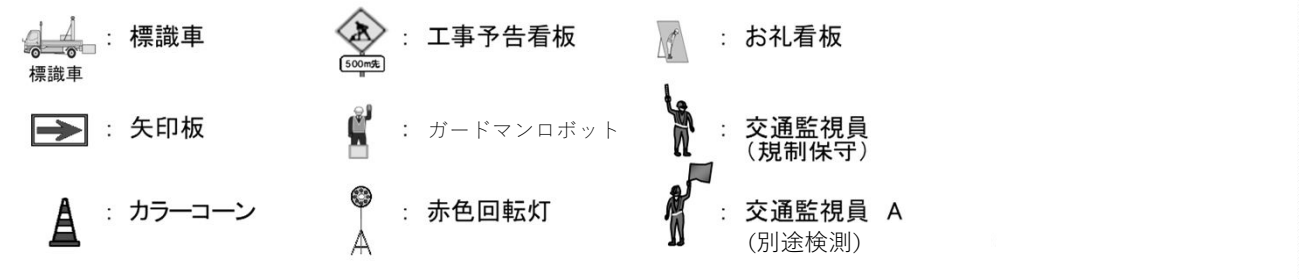
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 交通保安要員配置図		
縮 尺	—	図面番号	104 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京浜管理事務所		

釜利谷第二高架橋 交通規制工

ランプ車線規制 I × 1



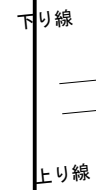
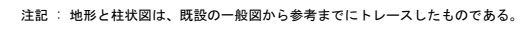
規制材数量		ランプ車線規制 I × 1		1 回当たり
項目	単位	数量	備考	
標識車	台	1	貸与品	
矢印板	枚	11	貸与品	
カラーコーン	本	42	貸与品	
工事予告看板	枚	10	貸与品	
ガードマンロボット	台	1	貸与品	
赤色回転灯	台	1	貸与品	
お礼看板	枚	1	貸与品	
交通監視員	人	1	規制保守(規制費に含む)	
交通監視員 (交替)	人	1	規制保守交替要員(規制費に含む)	
交通監視員 A	人	1	別途検測※ 1	
発炎筒 (15分)	本	6	受注者所有 (テーパー設置撤去時) (規制費に含む)※ 2	



- ※ 1 : 交通監視員 A は、工事箇所に配置する
- ※ 2 : 発炎筒は、設置・撤去各 3 本の使用を基本とする
- ※ 3 : 追突防止対策として防護車両 (資機材運搬車等) を配置する

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事				
図面の種類	釜利谷第二高架橋 交通規制工			
縮 尺	図 示	図面番号	105 / 112	
設計会社名				
施工会社名				
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所			

橋	長	140000 (鋼3径間連続合成1桁橋)
	支間長	53000
		139700



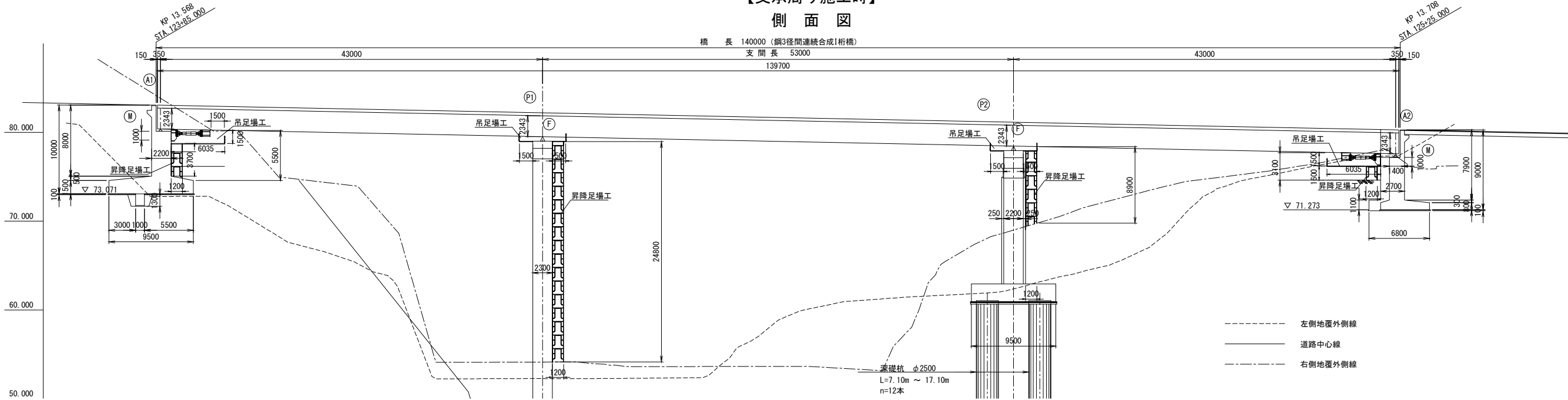
横浜須賀買道路 金谷谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	金谷谷第二高架橋 足場工図（その1）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	106 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

釜利谷第二高架橋 足場工図（その2）（参考図）

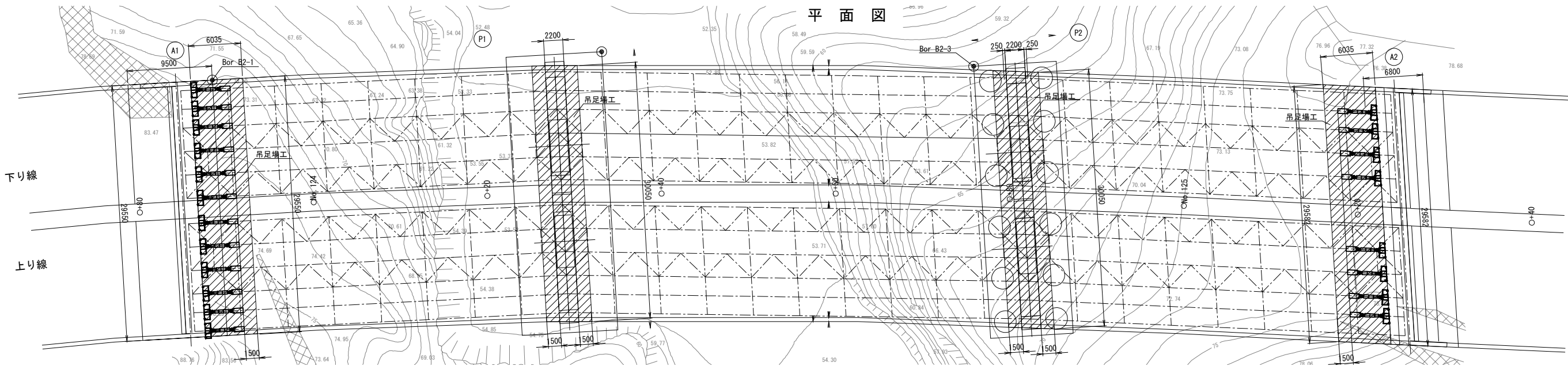
縮尺 1:500

【支承周り施工時】

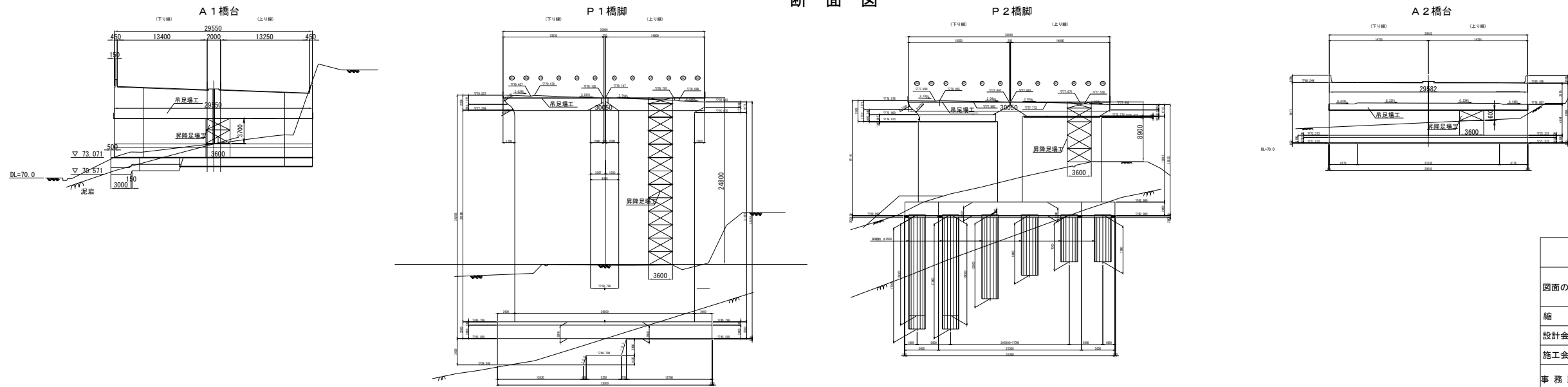
側面図



平面図



断面図

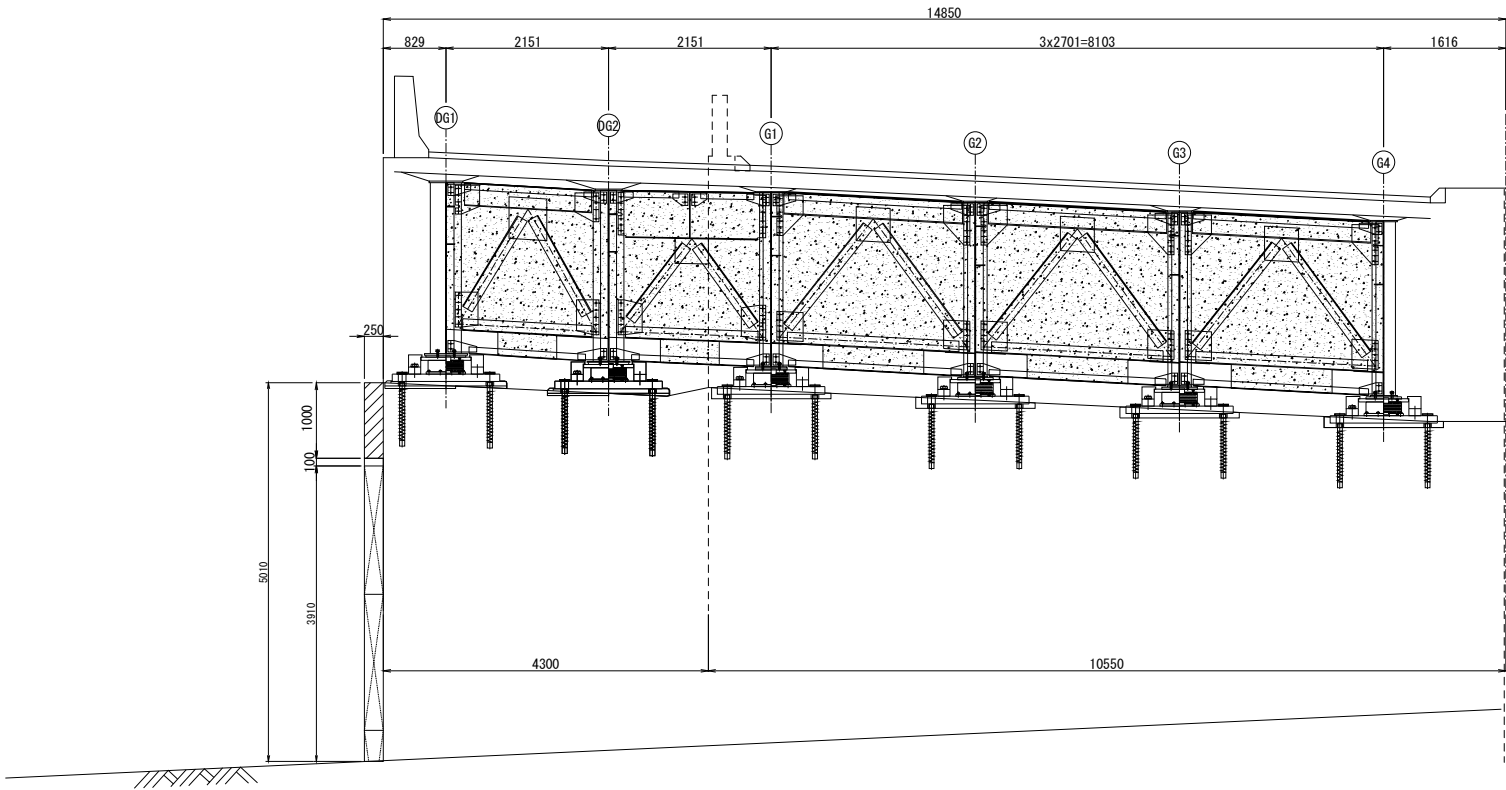


横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 足場工図（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	107 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

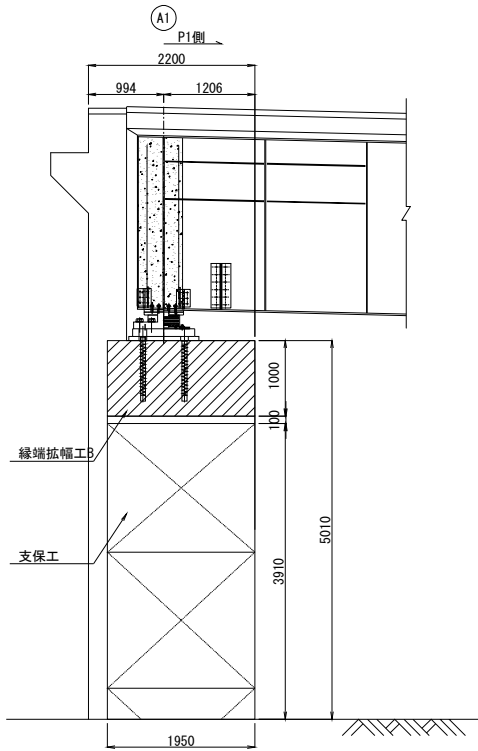
縁端拡幅工B

A1橋台（下り線）

断面図

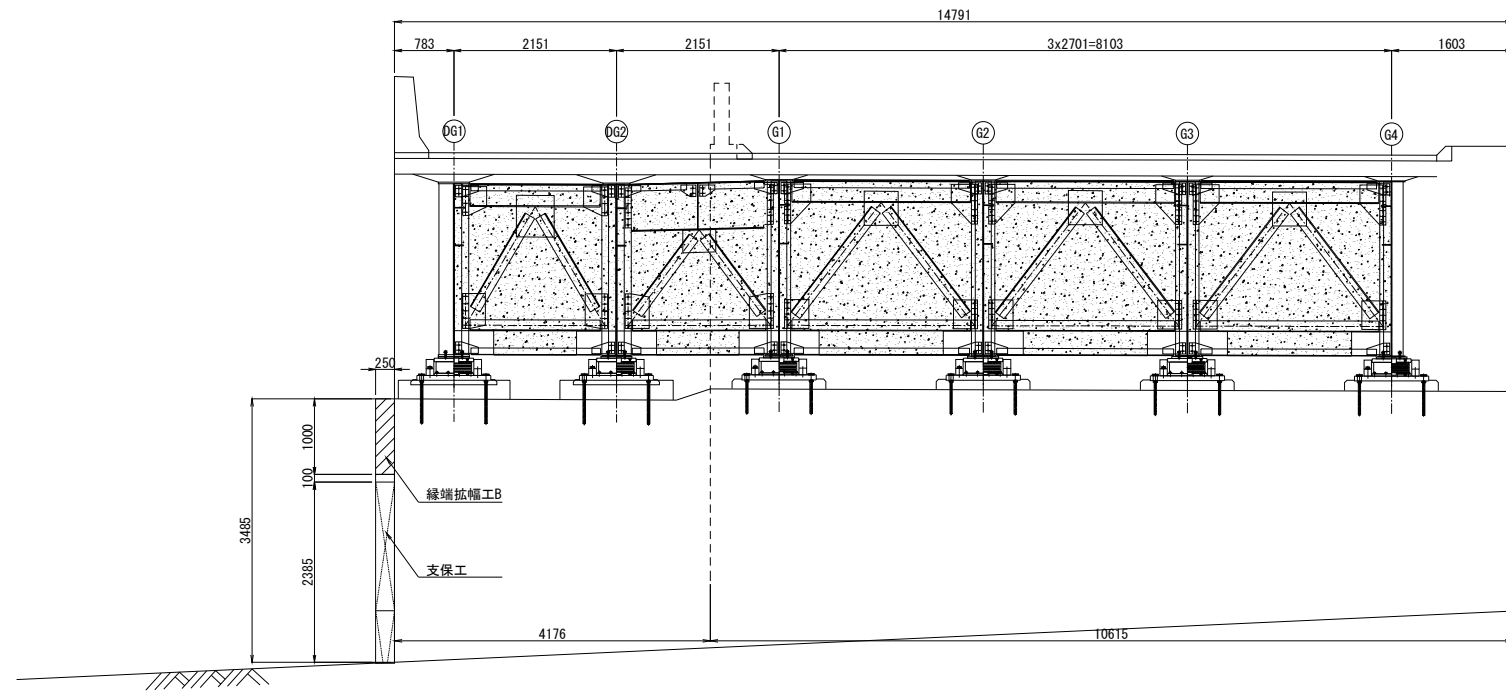


側面図

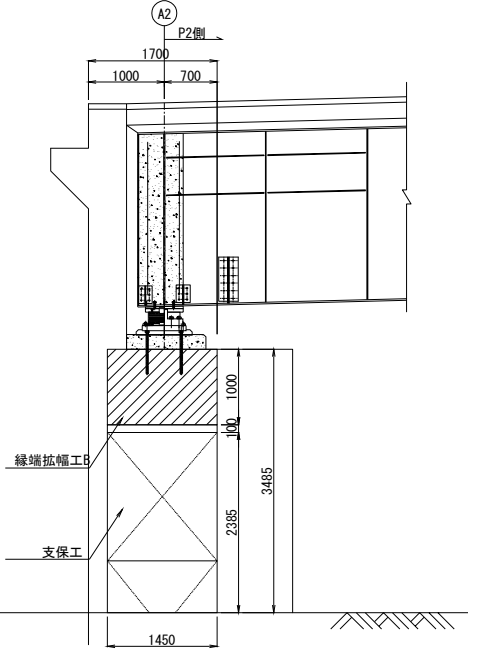


A2橋台（下り線）

断面図



側面図



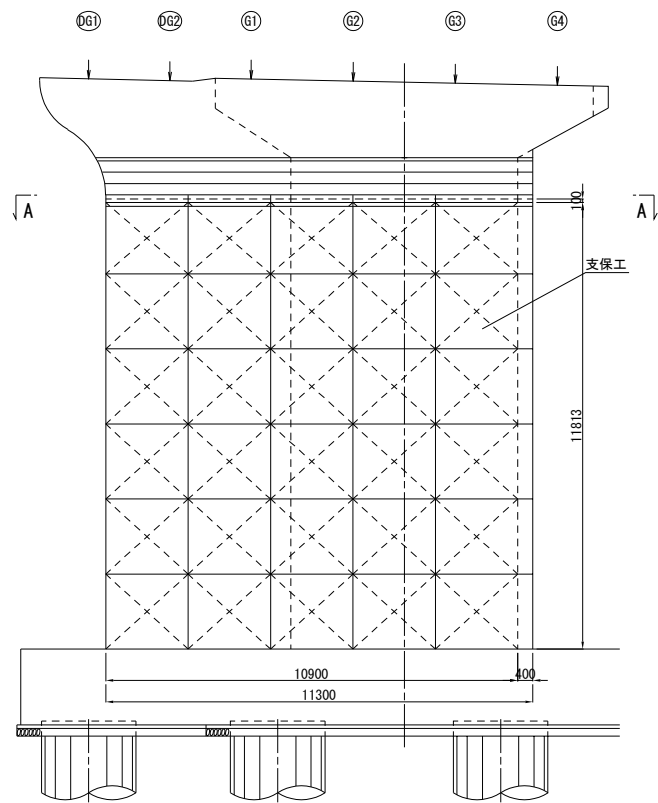
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支保工（その1）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	108 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

下り線

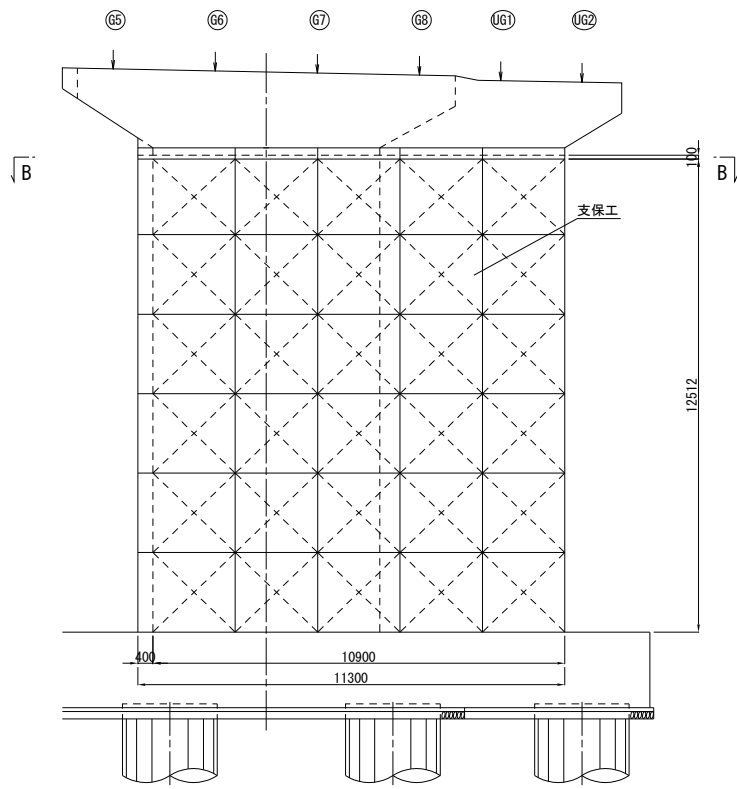
P2橋脚 アラミド繊維巻立工C

上り線

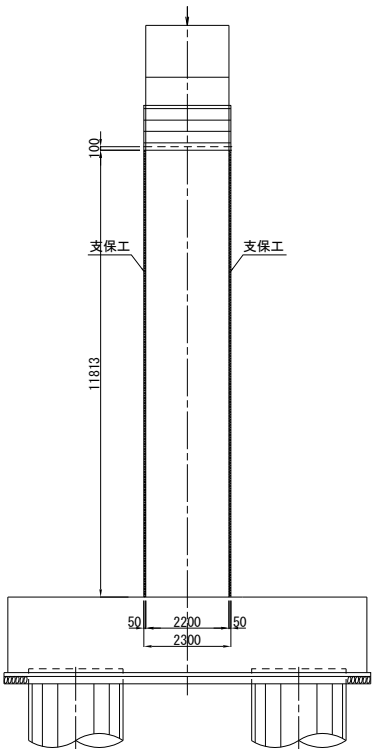
正面図



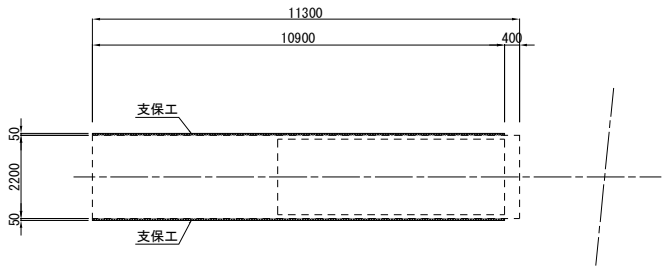
正面図



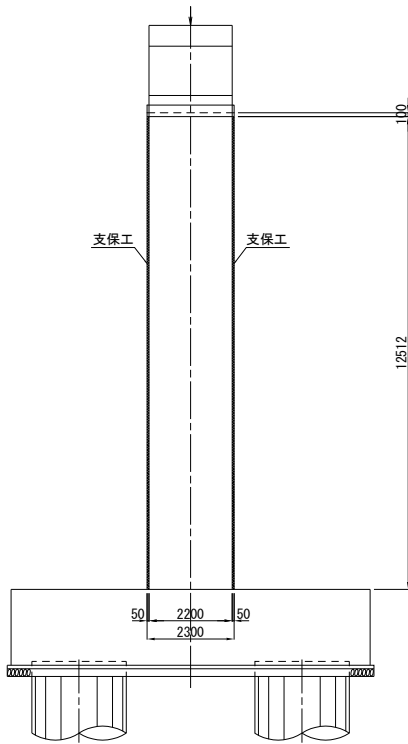
側面図



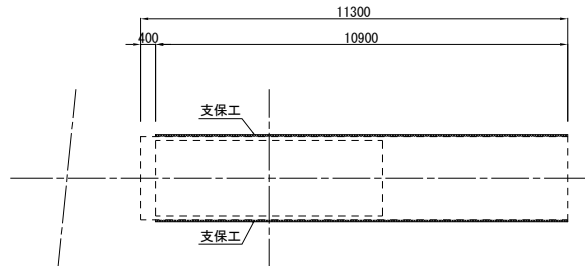
平面図 (A - A)



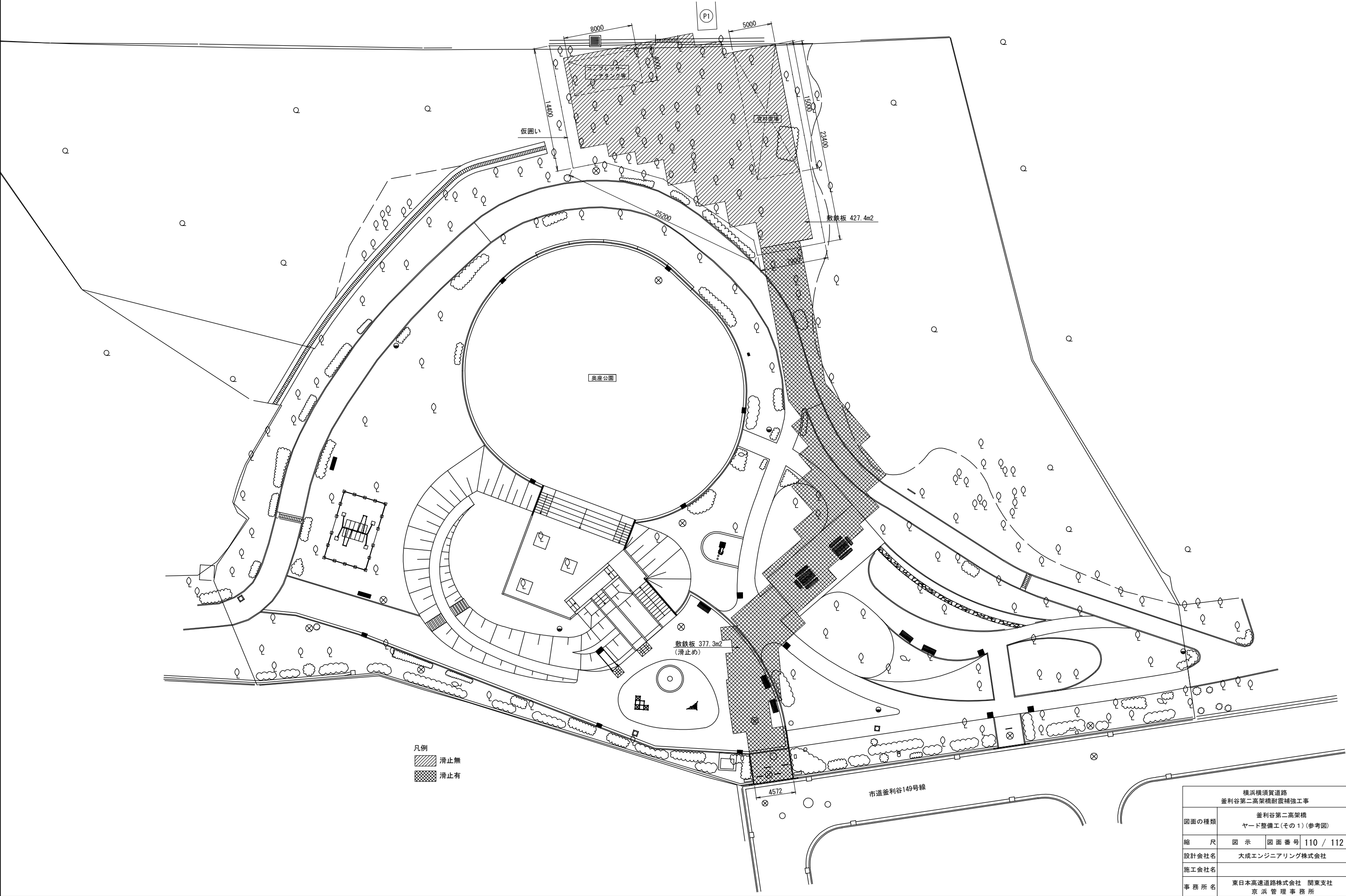
側面図



平面図 (B - B)



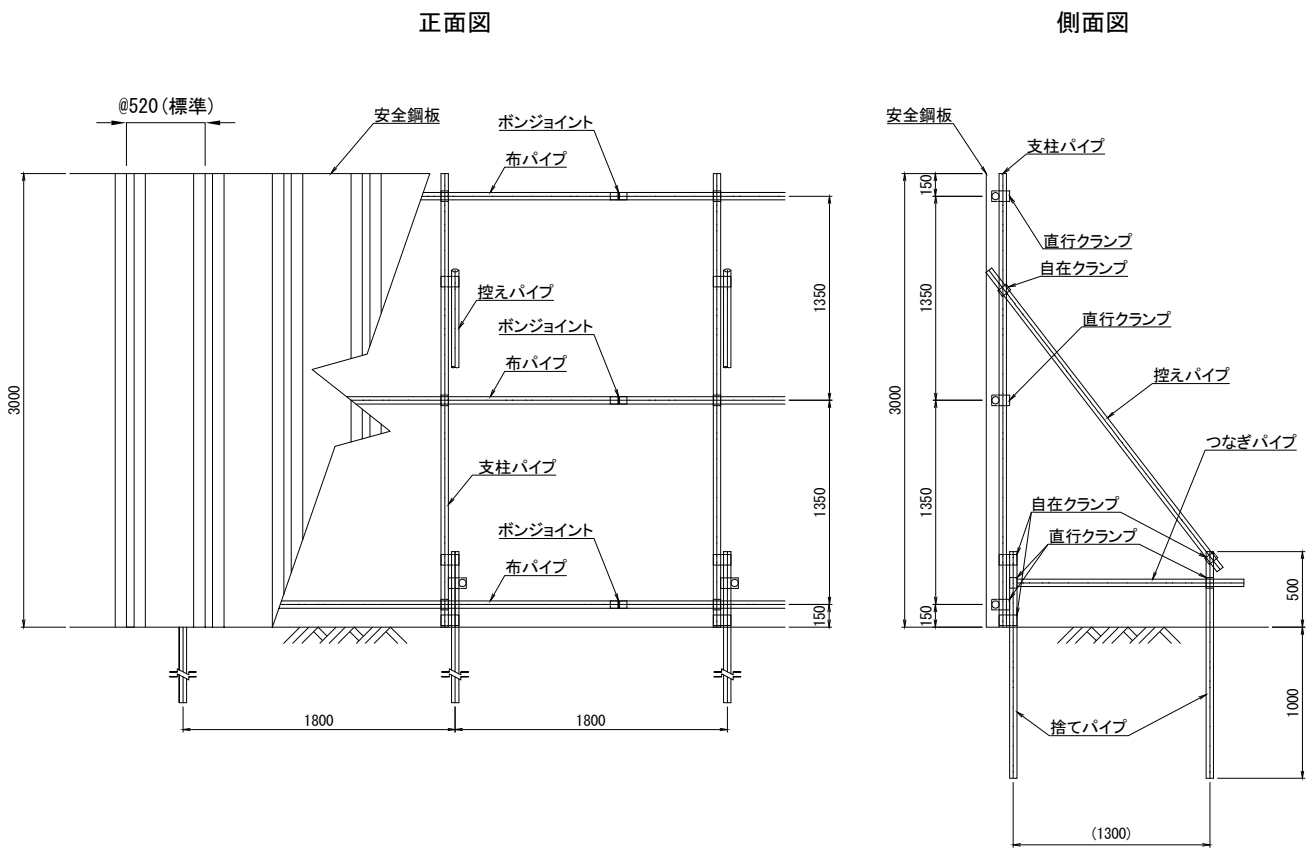
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 支保工（その2）（参考図）		
縮 尺	図 示	図面番号	109 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		



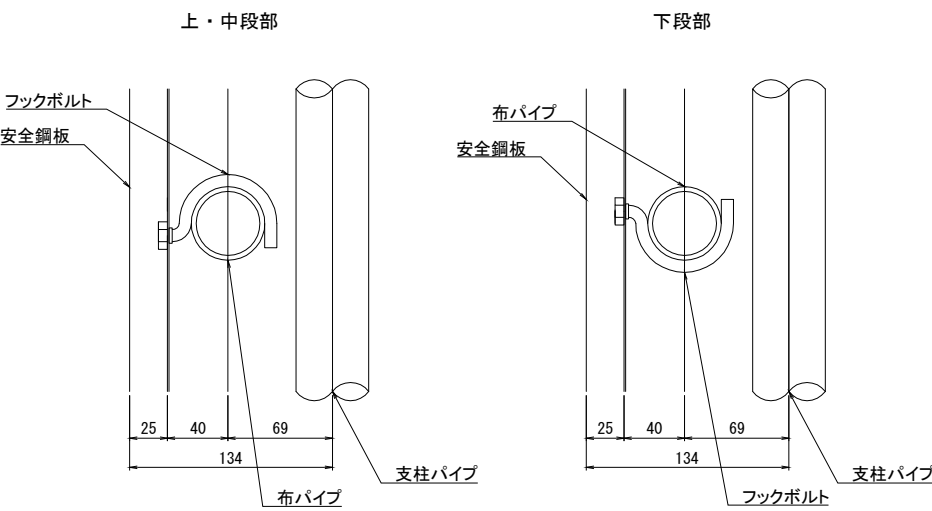
横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その1)(参考図)		
	縮尺	図示	図面番号 110 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京浜管理事務所		

仮 設 工

仮 囲 い 縮尺 1 : 50



固定部詳細 縮尺 1 : 5

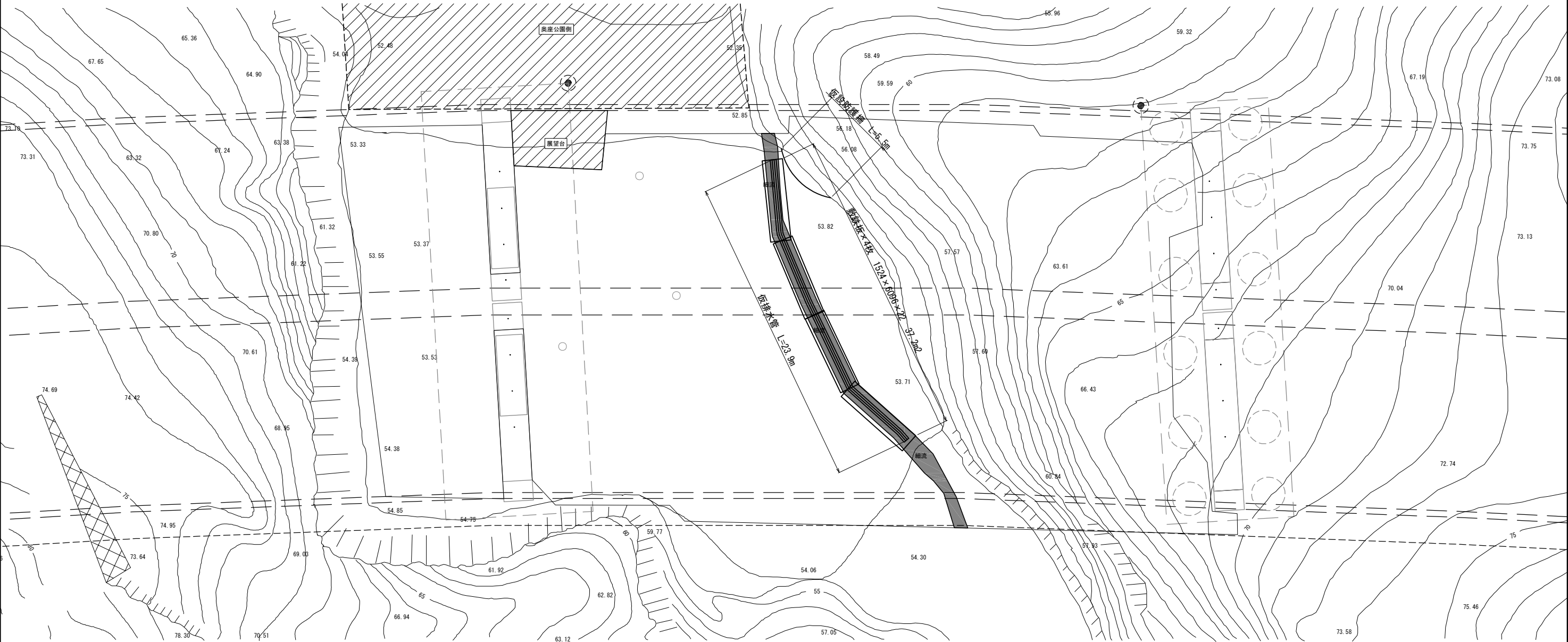


材料表 (10mあたり)

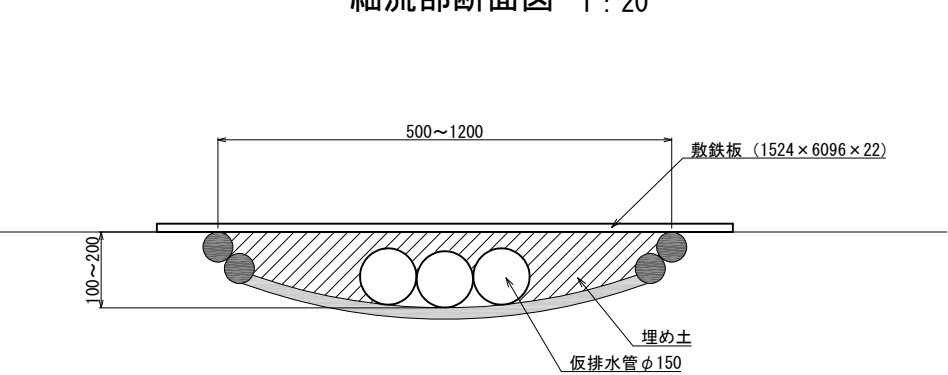
	部材名称 (仕様)	単位	数量
①	安全鋼板 (1.2×540×3000)	枚	19.2
②	フックボルト、ナット付 (1型、2型)	個	115.2
③	布パイプ (φ48.6×2.4×5000)	本	6
④	支柱パイプ (φ48.6×2.4×3000)	本	5.6
⑤	控えパイプ (φ48.6×2.4×2500)	本	5.6
⑥	捨てパイプ (φ48.6×2.4×1500)	本	11.2
⑦	つなぎパイプ (φ48.6×2.4×1500)	本	5.6
⑧	ボンジョイント	本	6
⑨	直行クランプ	個	28
⑩	自在クランプ	個	23

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その2)(参考図)		
	縮 尺	図 示	図面番号 111 / 112
設計会社名	大成エンジニアリング株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		

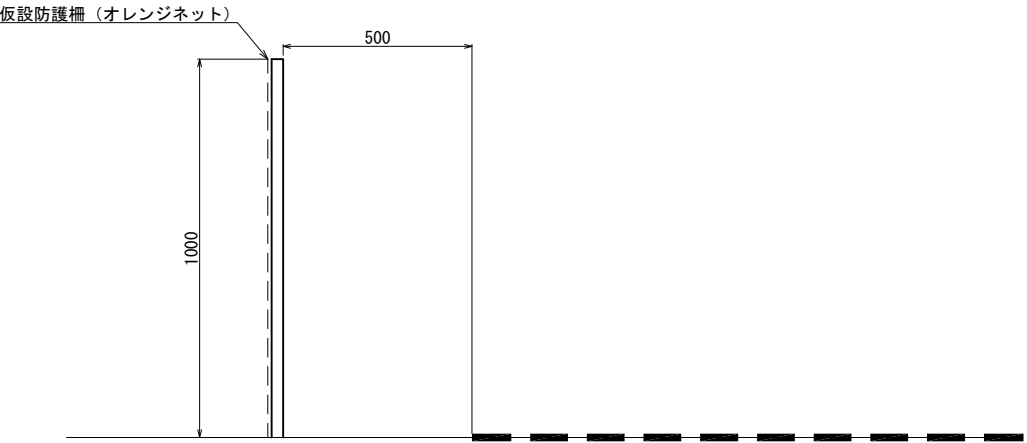
平面図 1 : 300



細流部断面図 1 : 20



養生工参考図 1 : 20



数量表

項 目	種 別	寸法等	単位	数 量
仮設工	敷鉄板	1524×6096×22	m2	37.2
	仮排水管	φ150*3条	m	23.9
	仮設防護欄	H=1000	m	5.5

横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋耐震補強工事			
図面の種類	釜利谷第二高架橋 ヤード整備工(その3) (参考図)		
縮 尺	図 示	図 面 番 号	112 / 112
設計会社名			
施工会社名			
事 務 所 名	東日本高速道路株式会社 関東支社 京 浜 管 理 事 務 所		